

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第622集

しん でん
新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査

2014

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県遠野市綾織町の東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）に関連して平成23・24年度に発掘調査を実施した、新田Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で本遺跡は、縄文時代前期中葉～晩期後半に集落が営まれていたことが明らかとなりました。特に西区の縄文時代前期中葉～晩期後半に埋没した沢跡から得られた情報は、岩手県における低湿地遺跡を考える上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立つのであれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、遠野市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成26年2月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田 克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県遠野市綾織町下綾織 31 地割 147-1 地内ほかに所在する新田Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 今回の調査は、東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～東和間)の施行に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の指導・調整のもとに、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受け、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡コードは MF53-0391 である。
- 4 野外調査及び室内整理期間、遺跡略号、調査担当者は次の通りである。

	年度	略号	期間	面積	担当者
野外調査	H23	SDⅡ-11	2011.10.04～12.07	921㎡	北田 勲・高木 晃
	H24	SDⅡ-12	2012.04.10～08.30	3,225㎡	北田 勲・高木 晃・巴 亜子・野中裕貴
室内整理	H23	SDⅡ-11	2011.11.01～2012.03.31	-	北田 勲
	H24	SDⅡ-12	2012.05.07～2013.03.31	-	北田 勲・高木 晃・巴 亜子・野中裕貴

- 5 本報告書の作成は、北田・高木・巴・野中が本文原稿・構構図化、北田が遺物図化を行い、各々に文責を記した。またⅠ調査に至る経過は国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、Ⅱ-2遺跡周辺の地形・地質を岩手県立大学吉木岳哉氏、Ⅵ自然科学的分析はⅠを株式会社加速器分析研究所、2～4を古代の森研究舎、5をバリノ・サーヴェイ株式会社が行った。全体の編集は北田が行った。
- 6 業務委託は以下の通りである。

	委託先	委託内容
(1)	(株)栄組	表土除去・排土処理等
(2)	(株)イチイ土木コンサルタント	座標原点の測量
(3)	東邦航空(株)	航空写真撮影
(4)	(株)加速器分析研究所	放射性炭素年代測定
(5)	古代の森研究舎	種実・樹種同定、花粉分析
(6)	バリノ・サーヴェイ(株)	昆虫同定
(7)	花崗岩研究会	石器類石材同定
(8)	(株)ラシク	石器・土製品実測・トレース、遺構断面図トレース、等高線図

- 7 本書では以下の地形図・地質図を使用した。
 - ・「1/25,000 地形図 小友」、「1/50,000 地形図 大迫・土淵・人首・遠野」(国土地理院)
 - ・「地形分類図 遠野」「土地分類基本調査 遠野」(岩手県)
- 8 野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関・方々から御指導・ご助言・ご協力をいただいた(敬称略・五十音順)。

荒川隆史(新潟県教育庁)、岡村道雄(奥松島縄文村歴史資料館)、上條信彦(弘前大学)、黒田篤史(遠野市教育委員会)、小林克(秋田県埋蔵文化財センター)、小向裕明(遠野市教育委員会)、齋藤邦雄(岩手県立博物館)、関根達人(弘前大学)、名久井文明(一芦舎)、羽柴直人(岩手県立博物館)、松本建速(東海大学)、三ツ井朋子((財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)
- 9 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 調査成果の一部については、平成 23 年度調査概報(岩理文第 603 集)、平成 24 年度調査概報(第 620 集)、所報わらびて、現地説明会資料等に発表してきたが、本書の記載内容が優先するものである。

凡 例

1 遺構図の用例は次の通りである（凡例図参照）。





















- (1) 遺構実測図の縮尺は堅穴住居跡の平面・断面図 1/60、炉²平面・断面図 1/40、土坑・柱穴状ピット平面・断面図 1/50 で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。
- (2) 推定線は破線で表した。また、遺構同士の切り合いは線種を変えて表現した。
- (3) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土などにアラビア数字を使用した。
- (4) 土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
- (5) 遺構図中の「P」は土器、「S」は礫を表している。

2 遺物実測図の用例は次の通りである（凡例図参照）。

- (1) 遺物実測図の縮尺は土器 1/3、石器・土製品・石製品 2/3 など で表した。
- (2) 土器のうち、須恵器は断面を黒色とした。黒色処理は内外面にスクリーントーンで示した。

3 写真図版の用例は次の通りである。

- (1) 遺構写真図版については、基本的に平面及び断面写真をセットとし掲載した。
- (2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じているが、紙数の制約上やむを得ず変えているものがある。

遺構使用トーン凡例				遺物使用トーン凡例				
	IIa層	K30%		IV層	K50%		敲打痕	
	IIb層	K40%		炭化物層	K80%		節理	
	IIb1層	K40%		焼土層	K20%		付着物	K70%
	IIb2層	K20%		黄褐色ブロック範囲	K10%		磨痕	K30%
	IIb3層	K30%		堅果類範囲	K30%			
	IIb4層	K50%		砂礫層				
	IIb5層	K70%		To-Cu火山灰層				
	III層	K10%		礫				

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地・環境	1
1 遺跡の位置	1
2 遺跡周辺の地形・地質	3
(1) 地質概要	3
(2) 地形	3
(3) 新田II遺跡の地形	6
3 調査区内の堆積状況	7
(1) 調査区の現況と試掘	7
(2) 調査区の基本層序	12
4 歴史的環境・過去の調査	14
III 調査・整理の方法	18
1 野外調査方法	18
(1) 調査方法	18
(2) 野外調査経過	18
2 整理方法	20
(1) 遺構の整理	20
(2) 遺物の整理	20
(3) 遺物写真撮影	20
(4) 整理経過	21
3 広報活動	21
IV 検出遺構	27
1 全体概要	27
2 東区	27
(1) 概要	27
(2) S107 竪穴住居跡	28
(3) SK101 土坑	29
(4) 北西部小ピット群	29
(5) 北西部遺物包含層	30
3 西区	30
(1) 概要	30
(2) NR06 沢跡及び関連遺構	31
(3) NR07 沢跡及び関連遺構	32

(4) NR05 沢跡及び関連遺構	32
(5) NR04 沢跡及び関連遺構	33
(6) NR03 沢跡及び関連遺構	34
(7) NR02 沢跡及び関連遺構	36
(8) NR01 沢跡及び関連遺構	36
(9) SR03 土器集積遺構	37
(10) 溝 跡	37
V 出土遺物	61
1 縄文時代	61
(1) 縄文土器	61
(2) 土製品	68
(3) 石器	69
(4) 石製品	73
(5) 木製品	73
(6) 昆虫	73
(7) 動物遺存体	73
(8) 植物遺存体	73
2 平安時代及び平安時代以降	77
VI 自然科学的分析	245
1 放射性炭素年代測定	245
2 花粉分析	257
3 種実同定	269
4 樹種同定	289
5 昆虫同定	295
VII 調査のまとめ	298
1 西区流路の変遷について	298
2 西区土器集積遺構について	299
3 出土堅果類について	300
4 総括	301
報告書抄録	409

図版目次

凡例図

第 1 図	遺跡位置図	2	第 36 図	西区・剥片出土分布図	80
第 2 図	地形地質図 (1)	8	第 37 図	西区・堅果類出土分布図 (1)	81
第 3 図	地形地質図 (2)	9	第 38 図	西区・堅果類出土分布図 (2)	82
第 4 図	地形地質図 (3)	10	第 39 図	西区・堅果類出土分布図 (3)	83
第 5 図	地形地質図 (4)	11	第 40 図	東区・SI07・遺構外	84
第 6 図	基本層序模式図	12	第 41 図	西区・SR01・SR02・SR03 (1)	85
第 7 図	周辺の遺跡図	15	第 42 図	西区・SR03 (2)	86
第 8 図	調査区全体図	22	第 43 図	西区・SR03 (3)・P101・1D区	87
第 9 図	東区全体図	23	第 44 図	西区・1E区・2A区 (1)	88
第 10 図	西区全体図	24	第 45 図	西区・2A区 (2)・2B区 (1)	89
第 11 図	西区等高線図	25	第 46 図	西区・2B区 (2)	90
第 12 図	西区平安時代以降全体図	26	第 47 図	西区・2B区 (3)	91
第 13 図	東区・SI07 堅穴住居跡 (1)	42	第 48 図	西区・2B区 (4)	92
第 14 図	東区・SI07 堅穴住居跡 (2)	43	第 49 図	西区・2B区 (5)	93
第 15 図	東区・SK101 土坑、37G 区包含層、 北西部ピット	44	第 50 図	西区・2B区 (6)	94
第 16 図	西区・セクション位置図 セクション A	45	第 51 図	西区・2B区 (7)	95
第 17 図	西区・セクション B~D	46	第 52 図	西区・2C区 (1)	96
第 18 図	西区・セクション E (1)	47	第 53 図	西区・2C区 (2)	97
第 19 図	西区・セクション E (2)・F・G	48	第 54 図	西区・2C区 (3)・2D区 (1)	98
第 20 図	西区・セクション H	49	第 55 図	西区・2D区 (2)	99
第 21 図	西区・セクション I・J・K	50	第 56 図	西区・2E区・2F区	100
第 22 図	西区・セクション L・M・N	51	第 57 図	西区・2G区・3A区 (1)	101
第 23 図	西区・セクション O・P	52	第 58 図	西区・3A区 (2)	102
第 24 図	西区・セクション Q・R・S	53	第 59 図	西区・3A区 (3)	103
第 25 図	西区・層位分布図	54	第 60 図	西区・3A区 (4)・3B区 (1)	104
第 26 図	西区・NR06・07・05 沢跡関連遺構	55	第 61 図	西区・3B区 (2)	105
第 27 図	西区・NR04 沢跡関連遺構	56	第 62 図	西区・3B区 (3)	106
第 28 図	西区・NR03 沢跡関連遺構	57	第 63 図	西区・3B区 (4)	107
第 29 図	西区・SR03 土器集積遺構	58	第 64 図	西区・3B区 (5)	108
第 30 図	西区・P101・102 ピット	58	第 65 図	西区・3B区 (6)	109
第 31 図	西区・SD01・03・09・10 溝跡	59	第 66 図	西区・3B区 (7)	110
第 32 図	西区・SD02・04・06~08 溝跡	60	第 67 図	西区・3B区 (8)	111
第 33 図	堅果類の部位名称	74	第 68 図	西区・3B区 (9)	112
第 34 図	西区・土器出土量分布図	78	第 69 図	西区・3B区 (10)	113
第 35 図	西区・土器時期別分布図	79	第 70 図	西区・3B区 (11)	114
			第 71 図	西区・3B区 (12)	115
			第 72 図	西区・3B区 (13)	116

第73図	西区・3B区(14)……………	117	第107図	西区・6C区・6D区(1)……………	151
第74図	西区・3B区(15)……………	118	第108図	西区・6D区(2)……………	152
第75図	西区・3B区(16)……………	119	第109図	西区・6D区(3)・6E区・ 6F区・7C区・7D区……………	153
第76図	西区・3B区(17)……………	120	第110図	ミニチュア土器・底部瓦痕(1)……………	154
第77図	西区・3B区(18)……………	121	第111図	底部瓦痕(2)……………	155
第78図	西区・3B区(19)……………	122	第112図	底部瓦痕(3)……………	156
第79図	西区・3B区(20)……………	123	第113図	底部瓦痕(4)……………	157
第80図	西区・3B区(21)……………	124	第114図	出土土製品(1)……………	158
第81図	西区・3B区(22)……………	125	第115図	出土土製品(2)……………	159
第82図	西区・3B区(23)……………	126	第116図	出土土製品(3)……………	160
第83図	西区・3B区(24)……………	127	第117図	出土土製品(4)……………	161
第84図	西区・3B区(25)・3C区(1)……	128	第118図	出土土製品(5)……………	162
第85図	西区・3C区(2)……………	129	第119図	出土石器(1)……………	163
第86図	西区・3C区(3)……………	130	第120図	出土石器(2)……………	164
第87図	西区・3C区(4)……………	131	第121図	出土石器(3)……………	165
第88図	西区・3C区(5)……………	132	第122図	出土石器(4)……………	166
第89図	西区・3C区(6)・3D区(1)……	133	第123図	出土石器(5)……………	167
第90図	西区・3D区(2)……………	134	第124図	出土石器(6)……………	168
第91図	西区・3D区(3)……………	135	第125図	出土石器(7)……………	169
第92図	西区・3D区(4)・3E区・F区・ 3G区(1)……………	136	第126図	出土石器(8)……………	170
第93図	西区・3G区(2)・ 4A区・4B区(1)……………	137	第127図	出土石器(9)……………	171
第94図	西区・4B区(2)……………	138	第128図	出土石器(10)……………	172
第95図	西区・4B区(3)……………	139	第129図	出土石器(11)……………	173
第96図	西区・4B区(4)・4C区(1)……	140	第130図	出土石器(12)……………	174
第97図	西区・4C区(2)……………	141	第131図	出土石器(13)……………	175
第98図	西区・4C区(3)……………	142	第132図	出土石器(14)……………	176
第99図	西区・4C区(4)……………	143	第133図	出土石器(15)……………	177
第100図	西区・4C区(5)……………	144	第134図	出土石器(16)……………	178
第101図	西区・4C区(6)……………	145	第135図	出土土製品……………	179
第102図	西区・4D区……………	146	第136図	平安時代の土器(1)……………	180
第103図	西区・4E区・4F区・4G区・ 5B区(1)……………	147	第137図	平安時代の土器(2)……………	181
第104図	西区・5B区(2)……………	148	第138図	古新田沢の変遷模式図……………	298
第105図	西区・5B区(3)・5C区(1)……	149			
第106図	西区・5C区(2)・5D-G区……	150			

表 目 次

第 1 表	周辺の遺跡	16-17	第 21 表	楔形石器観察表	225
第 2-1 表	縄文土器観察表	182	第 22 表	接合資料観察表	226
第 2-2 表	縄文土器（ミニチュア）観察表	214	第 23 表	石核観察表	227
第 3 表	土器底部観察表	216	第 24 表	剥片チップ観察表	227
第 4 表	土偶観察表	219	第 25 表	石斧類観察表	227
第 5 表	土製垂飾観察表	219	第 26 表	礫器類観察表	227
第 6 表	土製耳飾観察表	220	第 27 表	敲磨器類観察表	228
第 7 表	土版観察表	220	第 28 表	台石類観察表	228
第 8 表	球状土製品観察表	220	第 29 表	石製品観察表	228
第 9 表	土錘観察表	220	第 30 表	木製品観察表	228
第 10 表	土器片利用円盤状土製品観察表	221	第 31 表	平安時代の土器観察表	229
第 11 表	焼成粘土塊観察表	222	第 32 表	昆虫観察表	231
第 12 表	不明土製品観察表	222	第 33 表	焼骨観察表	231
第 13 表	尖頭器観察表	223	第 34 表	樹木サンプル観察表	231
第 14 表	石鏃観察表	223	第 35 表	オニグルミ観察表	232
第 15 表	石錐観察表	223	第 36 表	クリ観察表	236
第 16 表	石匙観察表	224	第 37 表	トチノキ観察表	238
第 17 表	甕状石器観察表	224	第 38 表	その他種実観察表	242
第 18 表	スクレイパー類観察表	224	第 39 表	植物葉観察表	244
第 19 表	二次加工ある剥片観察表	224	第 40 表	サルノコシカケ観察表	244
第 20 表	微細刻痕ある剥片観察表	225			

写真図版目次

写真図版 1	航空写真・調査区近景	305	写真図版 16	西区・セクション J・K	320
写真図版 2	西区・晩期沢跡堆積状況	306	写真図版 17	西区・セクション L・M・N・O	321
写真図版 3	西区・晩期沢跡堅果類出土状況	307	写真図版 18	西区・セクション P・Q	322
写真図版 4	西区・SR03 土器集積遺構	308	写真図版 19	西区・セクション R・S	323
写真図版 5	東区・SI07 堅穴住居跡	309	写真図版 20	西区・NR06・07・05 沢跡関連遺構（1）	324
写真図版 6	東区・SI07 堅穴住居跡	310	写真図版 21	西区・NR06・07・05 沢跡関連遺構（2）	325
写真図版 7	東区・SK101 土坑・37G 包含層・ 小ピット群	311	写真図版 22	西区・NR05・07・06 沢跡地山面	326
写真図版 8	東区・現道部分状況	312	写真図版 23	西区・NR04 沢跡関連遺構（1）	327
写真図版 9	西区・航空写真・調査区全景	313	写真図版 24	西区・NR04 沢跡関連遺構（2）	328
写真図版 10	西区・セクション A・B	314	写真図版 25	西区・NR04 沢跡関連遺構（3）	329
写真図版 11	西区・セクション B・C	315	写真図版 26	西区・NR04 沢跡関連遺構（4）	330
写真図版 12	西区・セクション D・E	316	写真図版 27	西区・NR03 沢跡関連遺構（1）	331
写真図版 13	西区・セクション E	317	写真図版 28	西区・NR03 沢跡関連遺構（2）	332
写真図版 14	西区・セクション F・G	318	写真図版 29	西区・NR03 沢跡関連遺構（3）	333
写真図版 15	西区・セクション H・I	319			

写真図版 30	西区・NR01・02 沢跡関連遺構(1)……………334	写真図版 69	西区・3D区(1)……………373
写真図版 31	西区・NR01・02 沢跡関連遺構(2)……………335	写真図版 70	西区・3D区(2)・ 3E区・3F区……………374
写真図版 32	西区・SR03 土器集積遺構……………336	写真図版 71	西区・3G区・ 4A区・4B区(1)……………375
写真図版 33	西区・SD01・02 溝跡……………337	写真図版 72	西区・4B区(2)……………376
写真図版 34	西区・SD03・04・10 溝跡……………338	写真図版 73	西区・4B区(3)・4C区(1)……………377
写真図版 35	西区・SD06～09 溝跡……………339	写真図版 74	西区・4C区(2)……………378
写真図版 36	西区・作業風景など……………340	写真図版 75	西区・4C区(3)……………379
写真図版 37	東区・SI07・遺構外出土遺物 西区・SR01・SR02 出土遺物……………341	写真図版 76	西区・4C区(4)……………380
写真図版 38	西区・SR03(1)……………342	写真図版 77	西区・4C区(5)・ 4D～F区・5B区(1)……………381
写真図版 39	西区・SR03(2)・PI01・ 1D区・1E区・2A区(1)……………343	写真図版 78	西区・5B区(2)……………382
写真図版 40	西区・2A区(2)・2B区(1)……………344	写真図版 79	西区・5B区(3)・5C区(1)……………383
写真図版 41	西区・2B区(2)……………345	写真図版 80	西区・5C区(2)・ 5D～G区・6C区(1)……………384
写真図版 42	西区・2B区(3)……………346	写真図版 81	西区・6C区(2)・6D区(1)……………385
写真図版 43	西区・2B区(4)……………347	写真図版 82	西区・6D区(2)・6E区・6F区・ 7C区・7D区……………386
写真図版 44	西区・2B区(5)……………348	写真図版 83	西区・ミニチュア土器、 出土土製品(1)……………387
写真図版 45	西区・2B区(6)・2C区(1)……………349	写真図版 84	出土土製品(2)……………388
写真図版 46	西区・2C区(2)・2D区(1)……………350	写真図版 85	出土土製品(3)……………389
写真図版 47	西区・2D区(2)……………351	写真図版 86	出土石器(1)……………390
写真図版 48	西区・2E～G区・3A区(1)……………352	写真図版 87	出土石器(2)……………391
写真図版 49	西区・3A区(2)……………353	写真図版 88	出土石器(3)……………392
写真図版 50	西区・3A区(3)……………354	写真図版 89	出土石器(4)……………393
写真図版 51	西区・3A区(4)・3B区(1)……………355	写真図版 90	出土石器(5)……………394
写真図版 52	西区・3B区(2)……………356	写真図版 91	出土石器(6)……………395
写真図版 53	西区・3B区(3)……………357	写真図版 92	出土石器(7)……………396
写真図版 54	西区・3B区(4)……………358	写真図版 93	出土石器(8)……………397
写真図版 55	西区・3B区(5)……………359	写真図版 94	出土石器(9)……………398
写真図版 56	西区・3B区(6)……………360	写真図版 95	出土石器(10)・ 出土土製品・出土木製品……………399
写真図版 57	西区・3B区(7)……………361	写真図版 96	平安時代の土器……………400
写真図版 58	西区・3B区(8)……………362	写真図版 97	昆虫試料・焼骨試料(1)……………401
写真図版 59	西区・3B区(9)……………363	写真図版 98	焼骨試料(2)・樹木試料(1)……………402
写真図版 60	西区・3B区(10)……………364	写真図版 99	樹木試料(2)・堅果類(1)……………403
写真図版 61	西区・3B区(11)……………365	写真図版 100	堅果類(2)……………404
写真図版 62	西区・3B区(12)……………366	写真図版 101	堅果類(3)……………405
写真図版 63	西区・3B区(13)……………367	写真図版 102	堅果類(4)……………406
写真図版 64	西区・3B区(14)……………368	写真図版 103	堅果類(5)・植物葉(1)……………407
写真図版 65	西区・3B区(15)・3C区(1)……………369	写真図版 104	植物葉(2)・菌類……………408
写真図版 66	西区・3C区(2)……………370		
写真図版 67	西区・3C区(3)……………371		
写真図版 68	西区・3C区(4)……………372		

I 調査に至る経過

「新田Ⅱ遺跡」は、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

東北横断自動車道は、釜石市を起点として、遠野市、奥州市を経由し、花巻市にて東北縦貫自動車道に合流し、さらに北上市にて分岐し、西和賀町、横手市、大仙市を経由して秋田市に至る総延長211kmの高規格幹線道路である。

本路線は、釜石港、大船渡港といった重要港湾や観光資源豊富な陸中海岸国立公園を有する三陸地方拠点都市地域と、先端技術産業の集積が著しい北上中部地方拠点都市地域等の岩手県内と秋田県を結び、周辺地域のみならず岩手・秋田両県全域の産業・経済発展を担うこと並びに緊急時における代替・迂回路等のネットワーク機能の強化を目的に平成10年度に遠野～宮守間で整備計画、宮守～東和間では施行命令が、平成15年度には直轄で整備することが決定し、平成24年11月には宮守～東和（23.7km）が供用している。

当事業の施行に係わる埋蔵文化財の取扱いについては、岩手河川国道事務所から平成22年11月1日付け国東整岩二工第77号「道路事業における埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成22年11月11日から12日にかけて試掘調査を実施し、工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成22年11月24日付け教生第1015号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答してきた。

その結果を踏まえて国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所は、岩手県教育委員会の調整を受けて、平成24年4月9日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）

II 遺跡の立地・環境

1 遺跡の位置

新田Ⅱ遺跡は岩手県遠野市綾織町下綾織31地割147-1地内ほかに所在し、国土地理院発行50,000分の1地形図NJ-54-14-9（一関9号）「人首」の図幅に含まれ、北緯39度19分03秒、東経141度27分56秒付近に位置する。

本遺跡は、JR釜石線岩手二町駅から南東約1.3kmに位置し、猿ヶ石川左岸の河岸段丘上及び新田沢によって開削された谷底平野に立地している。現況は道路・水田で、標高は242～262m前後である。

遺跡の所在する遠野市は、北上高地の中南部に位置し、北は宮古市川井、南は奥州市江刺区・住田町、東は上閉伊郡大槌町・釜石市、西は花巻市東和町の4市2町と接した東西、南北ともに約38km、総面積は825.6km²である。標高1,917mの早池峰山を最高峰に、標高300～700mの高原群が周囲を取り囲んでいる。市域の中央に遠野盆地があり、中心市街地が形成されている。また、北上川の支流である猿ヶ石川は、早瀬川、小友川、宮守川、達首部川など大小多くの河川を合流しながら西流しており、これらの河川沿いを中心に耕地と集落が営まれている。土地利用は山林が51.2%と最も多く、田畑8.6%が次いでいる。

主な産業は農林業で、米を中心に、野菜、ホップや葉たばこなどの高原作物、畜産が複合経営されており、日本一の乗用馬生産地として知られている。

遠野市は、「平成の大合併」により、平成17年10月1日に宮守村と合併している。

人口は29,875人(平成24年3月1日現在)で、岩手県全体の23%を占めている(2011 遠野市勢要覧・遠野市HPから引用転載)。

2 遺跡周辺の地形・地質

(1) 地質概要

新田Ⅱ遺跡は、遠野市街地から西へ約4km、遠野市綾織町下綾織の新田集落に位置する。新田集落は猿ヶ石川の左岸(南岸)に形成された河成段丘面および山麓緩斜面に立地し、それらの地形面を開析して流れる新田沢の谷底低地から新田Ⅱ遺跡が見出された。

新田沢流域の地質は白亜紀の花崗岩類からなる(第2-1図)。これらの花崗岩類は著しく風化しており、道路法面や溪岸の露頭では、岩石全体が完全に風化したマサ、あるいは、マサの中にコアストーンが浮いている状態で観察される。猿ヶ石川から見て新田集落よりも下流側(西側)に位置する二郷山の斜面には、主に泥岩からなるペルム系の堆積岩類が分布する。この斜面下方から伸びる緩斜面が新田Ⅱ遺跡周辺の段丘面・緩斜面に地形的に連続しているように見えるが、猿ヶ石川の流下方向や緩斜面の広がり具合から見て、二郷山の斜面に由来するペルム系の礫が新田Ⅱ遺跡に流入することは考えにくい(第2-2図)。また、宮守周辺などの北上山地南西縁部の小起伏地には、花崗岩などの基盤岩を覆って鮮新統の砂礫層が分布することが知られている(阿子島・宮城1976)。しかし、新田沢流域のなかで最も鮮新統が分布する可能性が高そうな土室峠においても花崗岩(マサ)以外の地質は確認されず、付近の溪床でも花崗岩以外の礫が見つからないことから、新田沢流域に鮮新統は分布していないと考えられる。

このような流域地質のため、新田沢の上～中流域の谷底堆積物はすべて花崗岩由来の砂礫層によって構成されている。一方、新田沢の下流域は猿ヶ石川の河成段丘を開析している。猿ヶ石川の流域には、花崗岩類の他に、泥岩・砂岩・礫岩・石灰岩などからなる中生界の堆積岩が分布する。そのため、猿ヶ石川の現河床や河成段丘礫層は多くの岩種の礫からなる。このような地質・地形状況を反映して、新田沢下流域の谷底堆積物は段丘礫層に由来する各種岩質の円～亜円礫によって構成されるのに対して、上～中流域の谷底は花崗岩礫のみによって構成され、礫種構成・礫径に明らかな差異がある。

(2) 地形

新田集落周辺の地形分類図を第2-2図に示す。この地域の地形は、【山地斜面】、【山麓緩斜面】、【河成面】の大きく3つに分けられる。山麓緩斜面はさらに2面に分けられ、河成面は2面の【河成段丘面】と【沖積面】に分類される。以下では、<1>で各地形面の形態的特徴を記述し、<2>で形成時期を考察する。

<1> 地形区分

【山地斜面】

第2-2図の等高線にも表れているように、花崗岩分布域と二郷山周辺のペルム系堆積岩分布域では、山地斜面の傾斜や形状が異なる。

花崗岩分布域の場合、山地斜面の傾斜は20～40°程度で、頻繁に流水に洗われる渓岸を除くと全体的に滑らかな形態を呈する。土室峠などの分水界近くの緩傾斜地では、花崗岩は完全にマサ化し、コアストーンも稀である。これに対して、傾斜30°以上の山地斜面中腹部では、風化した花崗岩から洗い出されたコアストーンやトアが点在し、山地斜面下部では上方の斜面から移動してきたコアストーン起源の花崗岩巨礫が累重している。遠野の観光名所の一つである五百羅漢は、このような斜面中腹～下部のトアやコアストーンに像を刻んだものである。

【山麓緩斜面】

山地斜面の下方に、山地斜面から漸移するように山麓緩斜面が広がる。谷型の山地斜面の下方では扇状地状を呈することもある。山麓緩斜面（扇状地状の緩斜面の場合もある）と山地斜面が形態的に滑らかに連続することから、山麓緩斜面を形成したプロセスは土石流のような激しい物質移動ではなく、山地斜面を滑らかにした地形形成プロセスと同じであった可能性が高い。

山麓緩斜面は、周囲の地形面との比高から、少なくとも【高位緩斜面】と【低位緩斜面】の2面に細分できる。2面の山麓緩斜面は、後述する2面の河成段丘面と密接な関係を持つ。高位緩斜面は河成段丘のL1面と形態的に連続し、低位緩斜面は河成段丘のL2面群と形態的に連続する。L1面構成層と高位緩斜面構成層、L2面群構成層と低位緩斜面構成層の堆積時期の前後関係を示す露頭は確認できていないが、地形的連続性から見て、それぞれ同時期の堆積物と考えられる。

【河成段丘面】

河成段丘面は、高位の【L1面】と低位の【L2面群】に区分できる。L1面は高位緩斜面と形態的に連続しており、両地形面の境界は特定できない。第2図2では、比較的平坦なものをL1面に、傾斜のあるものを高位緩斜面に分類している。L2面群は一見すると緩斜面に見えることが多いが、そのような場合でも猿ヶ石川が運搬した円・亜円礫が観察されることから、小さな段差で区切られた多数の段丘面の集合体と考えられる。

新田集落付近では、L1面は標高260m前後に分布する。新田Ⅱ遺跡付近の新田沢両岸にはL1面が広く残されており、新田沢右岸の綾織新田遺跡の立地する平坦地もL1面に分類される。新田Ⅱ遺跡の脇、新田沢左岸の崖に現れたL1面構成層を第3-1図に示す。L1面構成層は、円・亜円礫を主とする厚さ約1mの砂礫層と、その上位の厚さ約1mの砂質層からなり、それらを覆って厚さ約1mの土壌が堆積する。ここでのL1面構成層の最大礫径は約50cmで、径10～20cmの礫が目立つ。L1面構成層を大規模な露頭で観察できていないが、第3-1図の露頭で観察された礫は現在の猿ヶ石川の河床礫よりも径が大きいように見える。

L2面群は、新田集落付近では標高約250mから約235mにかけて、猿ヶ石川側に傾斜緩斜面のように分布する。L2面群は新田沢に沿っても形成されている。新田沢沿いのLoc.1では、谷底とL2面との間に約6m、L2面と高位緩斜面との間に約10mの比高がある（第3-2図）。したがって、高位緩斜面形成後（L1面形成後）からL2面形成期までの間に、この場所では新田沢が10m以上下刻したことが分かる。

【沖積面】

猿ヶ石川沿いに広がる平坦な水田や、岩手二日町駅周辺の集落が乗る面である。本報告では、L2面よりも新しい河成面はすべて沖積面に分類した。新田集落付近では標高約240mで、L2面群の最低位の面との比高は10mもない。猿ヶ石川の両岸のL2面の傾斜からみて、沖積面が埋谷によって形成されたとは考えにくく、侵食性の河成面と考えられる。

< 2 > 地形編年

遠野地域の河成段丘面・山麓緩斜面に関する先行研究として、菅原・高橋 (1974) がある。本報告の L2 面群が菅原・高橋 (1974) の遠野段丘 II に対比されるが、緩斜面の地形区分は本報告と大きく異なるため対比できない。菅原・高橋 (1974) では地形面の形成時期に関して具体的な資料が示されていないことから、以下の考察では菅原・高橋 (1974) に言及しない。

北海道から九州に至るまで、河川の中～上流域に最終氷期の河成段丘面が見られる場合には、段丘面は大きく 2 群に区分されることが一般的であり、上位の段丘面はほぼ 1 段、下位は複数の段丘面によって構成されることが多い。これは本地域の段丘区分、L1 面と L2 面群にも当てはまる。他地域では、上位の段丘面の形成時期が最終氷期前半の亜氷期、下位の段丘面群の形成時期が最終氷期後半の亜氷期であることが確認されている。これを新田集落付近の河成段丘に当てはめると、L1 面が最終氷期前半の亜氷期に形成されて約 6 万年前に離水した段丘面であり、L2 面群は最終氷期後半の亜氷期に形成されて (最低位の面が) 約 1.2 万年前に離水した段丘面ということになる。

山麓緩斜面についても、高位緩斜面が L1 面形成期すなわち最終氷期前半の亜氷期に、低位緩斜面が L2 面群形成期すなわち最終氷期後半の亜氷期にそれぞれ形成されたと考えられる。いずれも寒冷な気候の時期であり、激しい凍結融解作用を伴う周水河性物質移動によって、斜面からゆっくりと岩礫が移動・堆積することで形成された。花崗岩分布域ではマサ化によって表層物質が移動しやすかったため、他の地質分布域よりも平滑な斜面面が作られたと考えられる。

高位緩斜面と低位緩斜面の形成時期の違いは、礫の間を充填するマトリクスや表層土壌の厚さの違いに表れている。Loc. 1 右岸の L2 面構成層は礫間が充填されておらず、すぐ上流側の低位緩斜面では地表に巨礫が点在し、巨礫による凹凸を土表が埋めきれていない (第 4-1 図)。これに対して、Loc. 1 左岸の高位緩斜面では地表から頭を出している礫は少なく、高位緩斜面と L1 面との漸移帯にあたる Loc. 2 では、巨礫を覆って最大 1.5 m の厚さの褐色ローム層が観察される。

また、高位緩斜面堆積物を切る Loc. 3 の露頭では、完全に風化した基盤のマサを覆って高位緩斜面を構成する花崗岩の巨礫が堆積している (第 4-1 図)。高位緩斜面の花崗岩巨礫は芯まで風化し、ショベルカーによってきれいに切断できる。この高位緩斜面の下方には L2 面群があり、両地形面の間には段丘崖があるが、この段差は低位緩斜面の堆積物によって埋められている。低位緩斜面を構成する巨礫は風化が十分に進んでいないため、ショベルカーで削ってもきれいな切断面にはならない (第 4-2 図)。

清掃センター南側の L1 面構成層については、杉山 (2008) による報告がある。杉山 (2008) はこの面を新田段丘と呼び、段丘構成層の一部について花粉分析を行った結果から、新田段丘構成層の堆積時期を最終間氷期から最終氷期にかけてと結論づけた。この研究は遠野高校のクラブ活動として行われたものであり、提示データを見たところでは分析精度は低いと推測されるが、推定時期については本報告と同じである。

杉山 (2008) は、猿ヶ石川の対岸の上級織の山谷川沿いにみられる地形面を松崎段丘と呼び、新田段丘よりも下位に位置づけた。そして、山谷川沿いに露出した泥炭層から採取された木片について、以下の 3 点の 14 C 年代を報告している。

Gak - 19759 : 31,710 ± 980 yr BP

Gak - 19760 : > 38,400 yr BP

Gak - 19761 : 39,050 ± 2,610 yr BP^{*1}

*1 元の報告書では「Gek - 19759, 19760, 19761」となっているが、「Gak -」の誤植とみられるので、ここでは「Gak -」として表記する。

試料採取地点の位置や柱状図が示されていないため詳細は不明であるが、露頭写真を見た感じでは、本報告のL2面群または低位緩斜面の構成層の下部に対比されると推測される。約4～3万年前に泥炭層が堆積する湿地的環境であったことになるので、松崎段丘の最終的な離水は約3万年前よりも後であった可能性が高い。これは、L2面群の形成時期を最終氷期後半の亜氷期とした本報告の推定に矛盾しない。

また、杉山(2008)は二日町集落の立地する平坦面を綾織段丘と呼び、猿ヶ石川河川敷の河成面と区別した。そして、綾織段丘構成層から1,710 ± 80 yr BP (Gak - 19536) の14 C年代を報告し、綾織段丘の形成時期を約3,000～2,000年前と推測した。二日町集落の立地する面が地形学的に離水していると言えるのかは微妙なところであるが、少なくともL2面とは完全に異なる時期の地形面である。

(3) 新田II遺跡の地形

第5-1図に新田沢に沿う地形縦断面、第5-2図に新田II遺跡を横断する新田沢の地形横断面を示す。

縦断面をみると、新田沢の上流域の河床縦断面はL1面(橙色)の縦断面に滑らかに連続しており、L1面形成期の河床縦断面の名残をとどめていることが分かる。したがって、上流域の地形は約6万年前にはほぼ完成しており、その後の亜氷期(酸素同位体ステージ3)に気候が温暖湿潤化した際には、新田沢の下流域のみで下刻が進んだ。最終氷期後半の亜氷期になって気候が再び寒冷乾燥化すると、新田沢は一時的に下刻をやめ、侵食基準面となる猿ヶ石川の河床低下にあわせながらL2面(黄緑色)を形成した。後氷期(酸素同位体ステージ1; 約1.2万年前以降)になって気候が温暖湿潤化すると、新田沢は再び下刻を開始し、現在の河床縦断面が完成した。

横断面は、図の右側が新田沢右岸、左側が新田沢左岸である。新田II遺跡の両岸ともにL1面(橙色)である。両岸でL1面の高さが違うように見えるが、形成時期が古いこと、背後から山麓緩斜面の影響を受けていること、地形断面が必ずしもL1面形成当時の地形的に同等な位置を通過していないこと、左岸側のL1面はL1面の先端部を切る断面であること等が原因であり、同一地形面の標高の差に大きな問題はない。

新田II遺跡付近でのL1面構成層は、花崗岩の他に泥岩・礫岩・石灰岩などを含む円・亜円礫からなり、かつての猿ヶ石川が運んだ礫に由来する。このような円・亜円礫は、第2図2と第5図6の★より下流側の谷底で見つけることができる。第2-2図のL1面では、★の北側にだけ猿ヶ石川起源の礫が分布している可能性が高い。それより南側のL1面は、支流である新田沢が形成したL1面であろう。L1面構成層は、新田II遺跡西側(新田沢左岸)では最大でも2m程度の厚さであり、その下位には完全に風化したマサが露出する。現在の谷底堆積物の下位も、岩盤ではなくマサであることが新田II遺跡で確認されている。

Loc.1やLoc.3でも、著しく風化したマサの上を、風化程度の弱い花崗岩礫が覆っている。したがって、これらの礫層が堆積する以前から、花崗岩はすでにマサ化し、軟らかな状態であったことになる。三河高原においてマサ形成に必要な時間を検討した木宮(1981)はマサの形成時期を鮮新世初期から更新世中期と推定し、阿武隈山地における遠藤・木宮(1987)は中期中新世から前期更新世にかけてと推定した。本地域における花崗岩の風化状況、斜面上部から山麓緩斜面に至る風化花崗岩の露出状況等はこれらの研究の報告通りであることから、新田沢の谷底にみられるマサも百万年スケールの時間をかけて形成されたものと考えられる。

マサのような侵食抵抗性ゼロの地質の上を硬い礫が覆う状況では、河川の流路は谷底平野の縁を流れる傾向がある。すなわち、新田沢がL1面を下刻すると、新田沢の谷底には軟らかい基盤（マサ）の上に侵食抵抗性の強い礫層が覆うことになる。すると、流水が最も侵食しやすい場所はマサが露出する谷底平野の縁になるため、流路は側方へ側方へと移動していく。局地的な侵食基準面である猿ヶ石川の河床高度が安定すると支流である新田沢も下刻を停止するが、新田沢はその河床縦断形を変化させることなく、軟らかい側壁を削りながら流路位置を側方へと移動させ続ける。結果的に、第5図7のように、新田II遺跡付近の新田沢は東側（右岸）の谷壁斜面が形成時期が古くて緩やかであるのに対して、侵食を受けて頻繁に崩壊している西側（左岸）は急斜面をなす。そして、谷底には新田沢が運べないL1面由来の大きな円・亜円礫が点在することになる。

新田II遺跡から掘り出された多くの礫には、新田沢上流から運ばれてきた硬くて大きな花崗岩礫は見られない。第2-2図、第5-1図の★のすぐ上流側の谷底には、大きな径の礫はほとんど見られない。これらの事実は、現在の新田沢には大径礫を運搬する能力がないことを示唆しており、新田II遺跡周辺の谷底を覆う大きな円・亜円礫はL1面が開析された際にその場に残積された礫であることを示唆する。それらの円・亜円礫を覆っている、マサ起源の鉱物粒子を多く含む細粒堆積物が、新田沢が運んだ堆積物である。

（岩手県立大学 吉木岳哉）

阿子島 功・宮城豊彦（1976）：北上山地南西縁盆地群の侵蝕小起伏面。東北地理。vol.28。pp.48-56。

菅原啓・高橋節子（1974）：遠野盆地の緩斜面と段丘の成因について。東北地理。vol.26。pp.11-21。

杉山了三（2008）：遠野盆地の研究を指導して。平成20年度岩手県教育研究発表会資料。25p。

3 調査区内の堆積状況

（1）調査区の現況と試掘

調査区の現況は道路、水田である。東区と西区で、地形に違いがあるため、分けて記載する。

東区の現況は、市道向新田線の舗装道路である。市道は南北に走っており、周囲より1m程盛土して作られている。隣接する東側は平成21年度に当センターが調査を行った箇所、調査時点では埋め戻されて更地となっている。西側は近年に土取りもしくは牧草地造成のために広範囲に及ぶ削平を受けており、本来は北東向きの緩斜面地形であると見られるが、現況はほぼ平坦になっている。調査区は、現在の路盤以前にも現在より道幅の狭い未舗装の道路が存在した形跡があり、二度の道路工事とそれに伴う上水道やU字排水溝、電柱工事などで著しく攪乱されている。

西区の現況は水田・道路で、現新田沢沿いの平坦地に作られている。この箇所は、新田II遺跡範囲の西端で、西側に隣接する深沢野I遺跡の東端に位置しており、松沢山（標高820m）と新田山（標高661.2m）の地形裾部に挟まれた谷底平野である。現新田沢上流の南側には、深沢野II遺跡が所在する。平成12年度に遠野市教育委員会によって試掘調査が行われた際の報告によれば、「現況は休耕田。新田沢の氾濫原で山側（長さ10m程）に層厚20cmほど黒褐色砂質土の堆積が認められ、下層境界付近には局部的に十和田a火山灰が確認されたが、トレンチ川側では流失しており黒褐色砂質土層は存在しない。他所は灰色～灰白色砂質土が攪乱状態で層厚70～80cm程堆積し、以下は花崗岩風化砂層および土砂利層となっている。遺物はコンテナで2箱出土しているが、殆どが摩滅した縄文土器小細片で、黒褐色～灰色砂質土層から混在した状態で出土したものである。文様などから時期の確認できる遺物は縄文時代中期末、平安時代の土器若干量である。」としている。

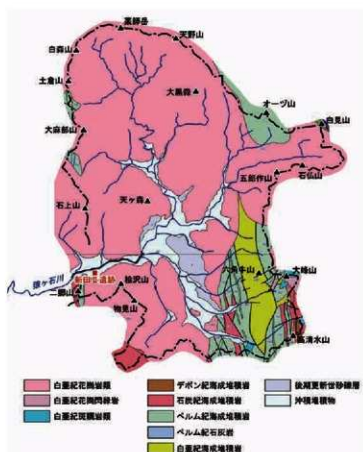


図2-1 猿ヶ石川流域の地質
産業技術総合研究所地質調査総合センターのシェームレス地質図に加筆し作成した。一点鎖線は新田Ⅱ遺跡付近での猿ヶ石川の流域界を示す。

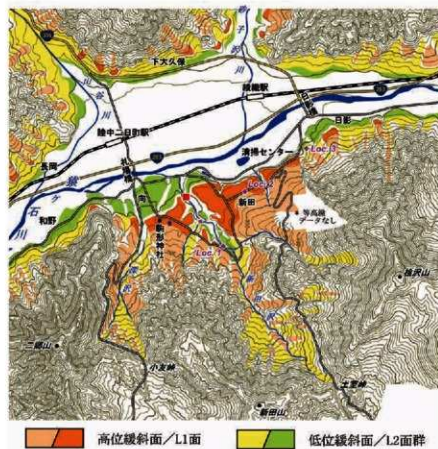


図2-2 新田Ⅱ遺跡周辺の地形分類図
■は新田Ⅱ遺跡の位置を示す。
◆は地点番号、★は新田沢谷底で確認された円礫の分布上限を示す。
地形分類は空中写真判読にもとづく。山地斜面と沖積面は示していない。
等高線の等高線間隔は10m。岩手県統合型地理情報システム（通称「いわてデジタルマップ」）の森林基本図の等高線をトレースして作成した。

第2図 地形地質図(1)



図3-1 L1面構成層を示す露頭（新田II遺跡の脇）

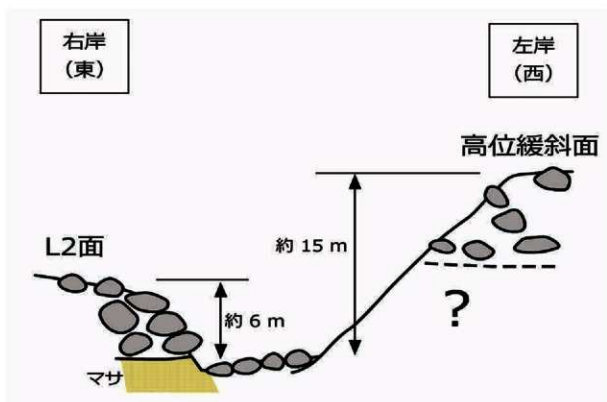


図3-2 新田沢のL2面と高位緩斜面堆積物 (Loc. 1)
周辺の谷底と露頭で観察された結果を統合して、模式的に表現した。



【図4-1】 高位緩斜面堆積物の露頭。

花崗岩礫は完全に風化して軟らかくなっているため、マトリクスのローム層とともに真っ平らに切断されている。堆積物下位の基盤（花崗岩）は完全に風化したマサになっている。



【図4-2】 高位緩斜面堆積物を切る斜面（高位緩斜面/L2面間の段丘崖）を覆う、低位緩斜面堆積物の露頭。写真右の露頭面に現れた花崗岩礫は芯まで風化しておらず、礫の切断面が凸凹している。

Loc. 3で観察された花崗岩礫の風化程度の比較

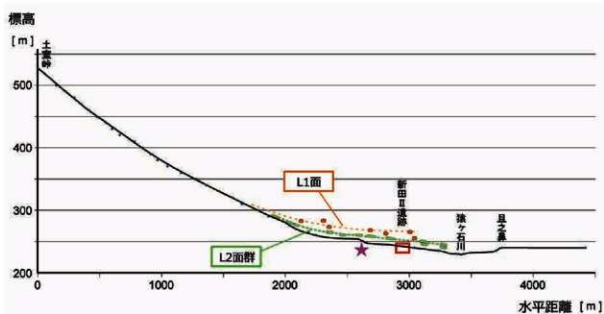


図5-1 新田沢に沿う地形縦断面形

森林基本図の等高線に基づいて作成した。測線は、土室峠～新田沢～新田II遺跡の地形縦断面形をそのまま北方向へ延長し、猿ヶ石川を横断するように設定した。★は、谷底に門礫が観察された上流端の位置を示す。

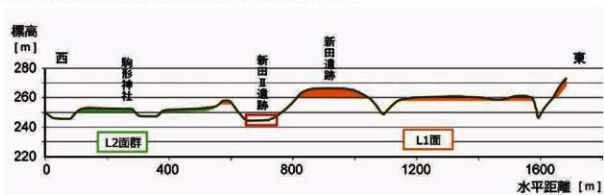


図5-2 新田II遺跡を通る新田沢の地形横断面形

森林基本図の等高線に基づいて作成した。

第5図 地形地質図(4)

(2) 調査区の基本層序

本遺跡の基本層序は以下の通りである。西区と東区では前述したように、堆積状況が異なるため、各々の基本層序を示した（第6図参照）。

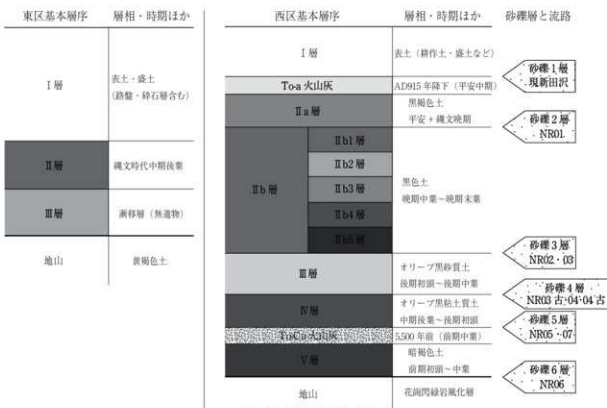
<西区>

I層 表土（耕作土・盛土）	60～80cm
II a層 黒褐色土	0～20cm（縄文時代晩期後半～平安時代）
II b層 黒色土	0～100cm（縄文時代晩期後半包含層）
III層 オリーブ黒砂質土	0～50cm（縄文時代後期中葉～晩期前半包含層）
IV層 オリーブ黒粘土質土	0～30cm（縄文時代中期後葉～後期初頭包含層）
V層 暗褐色土	0～20cm（縄文時代前期初頭～中葉包含層）
VI層 砂礫層	30～80cm（各流路の河川堆積層）
VII層 花崗閃緑岩風化層	層厚不明（地山）

<東区>

I層 表土・盛土（路盤・碎石層含む）	約100cm
II層 黒色土	0～20cm（縄文時代中期後葉包含層）
III層 暗褐色土	0～20cm（漸移層）
IV層 黄褐色土	層厚不明（地山）

西区I層は現代の水田耕作土、水田造成時の盛土を主体としており、西区南水田では水田耕作土が層厚20cm、南水田北側ではその下位に水田盛土が層厚40cm程度認められる。西区北水田には盛土は確認されず、現代の水田耕作土が層厚20cmあるが、その下位に旧水田と考えられる耕作土層が層厚20cm堆積している。この層位は現水田区画となる以前に耕作されていた水田と考えられ、中世～近世の可能性がある。



第6図 基本層序模式図

西区II層は黒褐色～黒色土を主体とする層位で、II a層とII b層の2細分される。II a層は黒褐色土で構成され、層厚10～15cmで2～4 B・2～4 C・3～4 D区の約800mに拡がる。本層位中からは縄文時代の遺物のほかに、平安時代の須恵器や土師器片も出土していることから、平安時代以降に攪拌された耕作土層の可能性がある。これは元来、縄文時代に堆積したII b層が後世の耕作により攪乱されたものと考えられる。また、2 E区付近では十和田火山灰(T o - a テフラ)が認められ、約915年前の平安時代中期には埋没していたことが分かる。II b層は黒色土で構成され、層厚20～40cmで部分的にII b1～II b5層に5細分される。II b層は2～5 B・2～5 C・2～4 D区の約800mに拡がる。細分が可能なのは2～3 B区に確認された縄文時代晩期後半埋没沢のNR02・03沢跡である。

西区III層はオリブ黒砂質土を主体とする層位で、層厚10～30cmで西区中央から東半を中心に拡がる。縄文時代後期中葉～晩期前半の遺物包含層である。主にNR03～04沢跡期に堆積した層位で、沢跡右岸までに堆積することが確認され、該期沢跡に落ち込む。

西区IV層はオリブ黒粘土質土を主体とする層位で、層厚30cmで西区東半を中心に拡がる。縄文中期後葉～後期初頭の遺物包含層である。西区中央に至ると河川堆積層の下部となり、地下水位が高いことから、泥炭質となる場合が多い。5 C～D・6 D区では検出面が高く、表土直下で確認される。主にNR07～05沢跡期に堆積した層位で、NR04沢跡下部にも一部確認される。

西区V層は暗褐色土を主体とする層位で、層厚20cm程度、西区東端の一部にのみ堆積する。本層位上部には、十和田中振火山灰(T o - c u テフラ)が堆積しており、テフラ降下時期の縄文時代前期(約5,500年前)と本層出土遺物から比定される。

西区VI層は花崗閃緑岩を起源とする砂礫層で、河床付近に堆積している。径10～50cm大の亜角礫や亜円礫を多量に含んでおり、段丘礫層が開析された際にその場に残留して形成された河川堆積層と考えられる。堆積した時期により、縄文時代の各時期の摩滅した土器片やその他の遺物を包含している。

西区VII層は花崗閃緑岩風化層の地山で、層厚は不明である。西区全域で確認され、この層位以下には遺物は含まれない。

東区は西区よりも20 m程度標高が高く、猿ヶ石川によって形成された河岸段丘である。西区とは様相を異にし、全体にシルト質土を呈する。今回の調査区は現道部ということもあり、旧地形がほぼ失われているが、隣接する東区西側の旧地形残存部(小山)や平成21年度調査区では元来の堆積層が確認できる。

東区I層は表土・盛土である。旧地形を覆う表土は小山部分に残存しており、層厚30cm程度の黒色土で構成される。現道部と平成21年度調査区の大部分は、近現代の造成や道路工事により削平されており、盛土や砕石層の直下にIV層地山が検出された。現道部はさらに60cm厚の砕石層などで高く作られている。

東区II層は黒色土主体で構成される。層厚は20cm程度で、縄文時代中期後葉の土器片が出土している。東区西側の旧地形残存部ではプライマリーな状態で認められるが、現道部及び平成21年度調査区付近は削平されている。今回の調査中に調査区外の現道東側において、水道管移設工事が行われたが、この際にはII層黒色土が確認されており、縄文時代中期後葉の遺物を多く包含していた。元地形が残存している東側などでは、遺物包含層が良好に保たれていると考えられる。

東区III層は暗褐色土を主体とする漸移層である。層厚は、西側残存部で10～15cm程度あり、平成21年度調査区の北端でも確認されている。無遺物層であり、遺構も確認されなかった。平成21年度調査から、本層位上面が遺構検出面と考えられる。

東区IV層は黄褐色土を主体とし、地山層と捉えられる。III層同様に本層位以下では遺構・遺物ともに確認されない。最終遺構検出面である。

4 歴史的環境・過去の調査

岩手県遺跡台帳（平成23年3月31日）によると、遠野市には486箇所（遺跡）が登録されている。このうち、計85箇所を第7図に掲載した。

遠野市内には多数の遺跡が存在しており、特に河川沿いの地域に多く集中していることが確認されている。遺跡の種類では、散布地がその多くを占める。猿ヶ石川によって開析された流域部分は、段丘面と沖積地の2つの地形に大きく分けられており、この地形の違いによって遺跡の時代も異なる。猿ヶ石川ならびにその支流によって形成された丘陵地や扇状地の段丘、微高地には縄文時代の遺跡の大半が立地するのに対し、猿ヶ石川流域の沖積地には古代の遺跡が立地している。本節では、新田Ⅱ遺跡に関する近年の調査経緯や周辺遺跡の歴史的環境について述べていくこととする。

新田Ⅱ遺跡に関する近年の調査では、遠野市教育委員会が平成10年～12年に発掘調査を行った際に、遺跡東側の標高が最も高い部分から縄文時代前期前葉～中葉に属する住居跡18棟、中期に属する住居跡2棟、古代に属する住居跡1棟を検出している。縄文時代前期前葉の大形堅穴住居からなる拠点集落跡では国内最古級であるということ、また、全国でも出土例の少ない大木3式土器がまとまって出土しているということで注目を集め、平成14年12月19日に国史跡に指定され、綾織新田遺跡として世間に広く知れ渡った。綾織新田遺跡も元は同じ新田Ⅱ遺跡という登録名称で登録がなされていたのである。

また、平成21年には、当センターが調査を行った際に、遺跡東側中段から堅穴住居や掘立柱建物に伴う縄文時代中期中葉～後葉に属する環状集落を検出している。集落の規模は比較的大きく、当時の集落形態を知る上では欠かせない重要な手がかりとなっている。

今回の調査では、遺跡の西側谷底部分の調査を行い、新田沢の前期初頭～現代に至るまでの大きく分けて7時期に亘る流路変遷と縄文人の暮らしとの関わりについて迫る資料を得ることができた。

今回の調査で見つかった遺物や遺構は、縄文時代後期～晩期が主体である。遠野市内に所在する縄文時代の遺跡は、早期から晩期まで幅広く見られるが、本遺跡と同時期の後・晩期に属する遺跡が比較的多い。また、古代の遺跡と複合になっているケースも多く見受けられる。近年、遠野市内で発掘調査された遺跡で、縄文時代後期に該当する代表的な遺跡には、平成9年に発掘調査の行われた甲子遺跡（近世遺構も検出）が挙げられる。堅穴住居や掘立柱建物などが検出されている。縄文時代晩期に該当する代表的な遺跡には、平成15～16年に発掘調査の行われた橋洞遺跡（近世遺構も検出）が挙げられる。堅穴住居跡や炉跡などが検出されている。縄文時代以外では、数は少ないながらも旧石器時代や弥生時代、猿ヶ石川流域の沖積地に多く見られる古代、城館跡などが含まれる中世の遺跡が存在している。

その他に発掘調査がなされた近隣の遺跡には、寒風遺跡（縄文・古代・近世、昭和56年）、高瀬Ⅰ遺跡（縄文・古代・近世、昭和63年）、逢田遺跡（古代、昭和63年）、高瀬Ⅱ遺跡（古代、平成元年）、本宿遺跡（古代、平成3～4年）、寒風Ⅰ遺跡（縄文、平成8年）、権現前遺跡（縄文、平成12年）、篠館跡（中世、平成10～11年）、橋洞Ⅱ遺跡（縄文、平成14年）、平倉観音遺跡（縄文、平成14年）、九重沢遺跡（縄文、平成14年）、中土淵遺跡（縄文、平成14年）、夫婦石袖高野遺跡（縄文、平成15年）などが挙げられる。

（野中）



第7図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	遺跡No.	種別	時代	所在地	備考
1	新田Ⅱ	MF53-0391	散布地	縄文・平安	綾織町下綾織字新田	H14 国史跡「綾織新田遺跡」・ 121・23～24 本調査
2	新田	MF53-1305	散布地	縄文	綾織町下綾織字新田	
3	胡四王元屋敷	MF53-0289	散布地	縄文	綾織町下綾織字新田	
4	深沢野Ⅰ	MF53-0276	集落跡	縄文	綾織町下綾織字深沢野古館	
5	深沢野Ⅱ	MF53-1355	散布地		綾織町下綾織字深沢野	
6	深沢野Ⅲ	MF53-1219	散布地		綾織町下綾織字深沢野	
7	向	MF53-0196	散布地	縄文	綾織町下綾織字四王	
8	向Ⅱ	MF53-1303	散布地		綾織町下綾織字胡四王	
9	向Ⅲ	MF53-1206	散布地		綾織町下綾織字向	
10	熊野沢	MF44-0012	散布地		綾織町新里字熊野沢	
11	日影	MF44-2049	散布地		綾織町新里字日影	
12	西風船	MF54-0121	城船跡	中世	綾織町新里字日影	
13	新里岡木野	MF54-0213	散布地	縄文・古代	綾織町新里字岡木野 30 地割、 字上宮ノ目	
14	新里新滝	MF54-0225	散布地	縄文	綾織町新里字岡木野 31 地割	
15	新里愛宕裏	MF54-0227	集落跡	縄文	綾織町新里字岡木野 31 地割	
16	新里五郎浅場	MF54-0206	散布地	縄文	綾織町新里字岡木野 30 地割	
17	宮野目Ⅰ	MF44-2200	散布地	縄文	綾織町新里字宮野目	
18	宮野目Ⅱ	MF44-2139	散布地	縄文	綾織町新里字宮野目	
19	寒風Ⅰ	MF44-2146	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
20	寒風Ⅱ	MF44-2121	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
21	寒風Ⅲ	MF44-2124	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
22	寒風Ⅳ	MF44-2116	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
23	寒風Ⅴ	MF44-2137	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
24	栄道前Ⅰ	MF44-2021	散布地	古代	綾織町新里字栄道前	
25	栄道前Ⅱ	MF44-2023	散布地	古代	綾織町新里字栄道前	
26	栄道前Ⅲ	MF44-2020	散布地	古代	綾織町新里字栄道前	
27	栄道前Ⅳ	MF44-2032	散布地	古代	綾織町新里字栄道前	
28	西門船(ミサザキ船)	MF43-2319	城船跡	中世	綾織町ミサザキ	
29	ミサザキ巖夷岩	MF44-1036	洞穴	縄文	綾織町ミサザキ字型	
30	砂子沢Ⅰ	MF43-1335	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字砂子沢古堂	
31	砂子沢Ⅱ	MF43-1358	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字砂子沢ドウメ	
32	型	MF44-1030	散布地・城船跡	中世	綾織町ミサザキ字型	
33	横内Ⅰ	MF43-1393	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字横内	
34	横内Ⅱ	MF43-1382	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字横内	
35	大久保	MF43-2310	散布地	縄文・平安	綾織町ミサザキ字大久保 11 地割	
36	大久保Ⅱ	MF43-2217	散布地	古代	綾織町上大久保	H 4 新規
37	大久保Ⅲ	MF43-2232	散布地	古代	綾織町上大久保	H 4 新規
38	田中	MF43-2127	散布地	縄文	綾織町上綾織字田中	範囲拡大
39	上綾織碓石	MF43-1173	碓石跡		綾織町上綾織字碓石	
40	原子塚	MF53-0236	散布地	縄文	綾織町下綾織字二日町	
41	谷地(上野)館	MF53-0139	城船跡	中世	綾織町下綾織字館川原	
42	麴沢館	MF53-0113	散布地・城船跡		綾織町上綾織字長岡	
43	長岡	MF53-0059	散布地		綾織町上綾織字長岡	
44	山谷川	MF42-0342	散布地		綾織町上綾織字小崎	

No	遺跡名	遺跡No	種別	時代	所在地	備考
45	十王堂	MF53-1110	散布地		綾織町下級織字和野	
46	埴田	MF53-0083	散布地	縄文	宮守町上勝沢14地割	H19分布調査・範囲修正 S59城館調査、
47	勝沢館(上町館)	MF53-1001	城館跡	中世	宮守町上勝沢15地割13番地	H19分布調査・場所修正 H19分布調査
48	和山	MF52-0386	散布地	縄文・平安	宮守町上勝沢16地割	H19分布調査・範囲修正
49	福長峰	MF52-1318	散布地	縄文	宮守町上勝沢	H19分布調査・範囲修正
50	荒谷館	MF52-1347	城館跡	中世	宮守町上勝沢18地割	S59城館調査、 H19分布調査
51	山手	MF53-1032	散布地	縄文	宮守町上勝沢12地割、13地割	H19分布調査・新規
52	荒谷前	MF52-1348	散布地	縄文	宮守町上勝沢18地割	H19分布調査・場所修正
53	荒谷前Ⅱ	MF52-2321	散布地	縄文	宮守町上勝沢23地割	H19分布調査・新規
54	下町	MF53-1041	散布地	縄文	宮守町上勝沢20地割	H19新規、 H19分布調査・範囲修正
55	下町Ⅱ	MF53-1054	散布地	縄文	宮守町上勝沢11地割	H19分布調査・新規
56	下町Ⅲ	MF53-1071	散布地	縄文	宮守町上勝沢21地割	H19分布調査・新規
57	下町Ⅳ	MF53-1080	散布地	縄文	宮守町上勝沢21地割	H19分布調査・新規
58	鳴沢	MF53-2031	散布地	縄文	宮守町上勝沢9地割	H19分布調査・新規
59	鳴沢Ⅱ	MF53-2020	散布地	縄文	宮守町上勝沢9地割	H19分布調査・新規
60	鳴沢Ⅲ	MF53-1095	散布地	平安	宮守町上勝沢10地割	H19分布調査・新規
61	鳴沢館	MF53-2047	城館跡	中世	宮守町上勝沢9地割51番地	S59城館調査、 H19分布調査・場所修正
62	船渡	MF52-2353	散布地	縄文	宮守町上勝沢5地割、 6地割、7地割	H19分布調査・新規
63	船渡Ⅱ	MF52-2342	散布地	縄文	宮守町上勝沢5字割	H19分布調査・新規
64	小友土室Ⅰ	MF64-0094	散布地	縄文	小友町字土室	
65	小友土室Ⅱ	MF64-0093	散布地		小友町字土室	
66	小友土室Ⅲ	MF64-0087	散布地	縄文	小友町字土室	
67	小友榮橋蝦夷穴	MF63-0194	散布地		小友町字榮橋第41地割	
68	小友鳴沢Ⅰ	MF63-1116	散布地		小友町字榮橋第41地割	
69	小友鳴沢Ⅱ	MF63-1136	散布地		小友町字榮橋第41地割	
70	小友鳴沢蝦夷穴	MF63-0199	散布地		小友町字榮橋第41地割	
71	イノガシラ蝦夷塚	MF63-0240	散布地		小友町字十三坊第43地割	
72	小友十三坊Ⅰ	MF63-0283	散布地		小友町字十三坊第43地割	
73	小友十三坊Ⅱ	MF63-0271	祭祀跡		小友町字十三坊第43地割	
74	鷹島屋館	MF63-0269	城館跡	中世	小友町字鷹島屋	
75	小友西塔	MF63-0291	散布地		小友町字十三坊第13地割	
76	小友三枚楯	MF63-0267	散布地		小友町字十三坊第43地割	
77	高館	MF63-0251	城館跡	中世	小友町字十三坊	
78	小友鷹島屋	MF63-0259	散布地	縄文	小友町字鷹島屋	
79	小友桑畑	MF63-1096	散布地		小友町字桑畑第39地割	
80	藤倉館(藤倉館)	MF63-2076	城館跡	中世	小友町字山谷	
81	奥友館(小友館)	MF72-0326	城館跡	中世	小友町字小友	
82	及川館	MF72-0313	城館跡		小友町字小友	壊滅
83	小友館内	MF62-2287	城館跡		小友町字太田第16地割	
84	小友南館	MF62-2359	散布地・城館跡	中世	小友町字太田第34地割	
85	磯館	MF62-2308	城館跡	中世	小友町字太田	

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査方法

(1) 調査方法

調査方法については二分法で行い、堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。西区の流路については、可能な限りグリッドラインに沿ってトレンチ掘削を行い、土層を確認しながら大グリッド・層位ごとに精査を行った。

この際、土層の堆積状況、遺物の出土状況、遺構や流路の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。実測は、平面図はCUBIC社製遺構実測ソフト「遺構くん」を用いて光波トランシットによる測量を行い、微細図・断面図は手取りで図化した。

遺跡・遺構・現場出土遺物の写真撮影については、キャノンEOS 5D（デジタルカメラ・1,200万画素）と中判マミヤ6×4.5cm（モノクローム）を使用した。また、平成24年8月22日には調査区域全体の航空写真撮影を実施した。

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、堅穴住居跡炉や焼土・微細図は1/10、その他の遺構や土層断面なども種類や規模により1/50,1/100などの縮尺を用いて遺構実測図（第一原因）を作成した。なお調査の進行上、土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみに留めた遺構もある。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位を記した。包含層など遺構外遺物は、出土地点・基本層位（または近接するセクション層位）を記入して取り上げた。

(2) 野外調査経過

<平成23年度>

調査の進行上、新田沢側を西区、平成21年度調査区隣接地（現道部分）を東区として設定した。

10月4日から調査を開始した。調査区開始前の立会では、西区より東区を優先して調査を進める工程で、10月中旬以降に現道切替工事を行い、11月から調査着手の予定であった。しかし、現道切替工事が11月後半にずれ込んだため、当初予定を変更し、西区を先行することで作業を進めた。

10月4～12日（延べ5日間）で、人力による西区試掘を実施した。2×2mのトレンチ17箇所を設定し掘削した結果、新田沢側のトレンチでは現代～中世と思われる水田耕作土40～50cmの下に、十和田aテフラ（以下、To-a）と炭化物を混入する黒褐色砂質シルトが確認され、下位層に褐灰粘土層と砂層が交互にラミナ堆積していることが分かった。また、地下水位が深さ80～100cmの位置にあるため、砂層主体となる最下位層は確認できなかった。新田沢下流のトレンチに至ると、最近の水田耕作土が40cm、中世～近世と思われる水田耕作土が20cm、砂質シルト及び細砂層40cmを挟んでTo-a・炭化物を含む黒褐色砂質シルト20cmで、これより下層はラミナ堆積となる。この時点で、ラミナ層中の地表140cmから縄文晩期中葉の土器片が出土した。調査区中央のトレンチでは、地表から120cmの箇所より縄文後期初頭の土器片とともに多量の堅果類が出土した。これにより、縄文後期及び晩期の沢跡が広範囲に拡がっていることが確認され、大部分が攪乱されずに層位的な堆積状況を保っていることが分かった。10月14日には当初積算以上の遺物量と、水面下の包含層調査となることが予想されることから、県生涯学習文化課と当センターによる現地協議を行った。10月6～17日、20～24日（延べ10日間）に重機による西区表土除去を実施。表土除去と並行しながら、10月13～19・25～27日にかけて、西区トレンチ掘削を実施した（延べ8日間）。10月20～31日（延べ7日間）に西区メインベルト南側（3D・4D区）の包含層精査。10月31日～11月11日まで2B・3B区

Ⅱ a～b層精査、10月31日～11月16日まで2B区Ⅱ a～b層精査、10月31日～11月22日まで3B区Ⅱ a～b層精査、11月9～14日まで4B区Ⅱ a～b層精査、11月21～29日まで5A・B区Ⅱ a～b層精査を行った。

東区の現道切替工事及び水道管移設が11月22日に終了し、11月24～28日に重機による表土除去を行った。11月29～30日に検出、12月1～7日に遺構精査を行った。また、隣接する37G区の事業用地内に元地形が一部残存しており、並行してこの箇所を調査を行っている。

11月29日は西区東側事業用地内の拡張を重機により行い、11月30日は借地していた西区排土場の水田の復旧作業を実施している。

12月2日、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、県生涯学習文化課、当センターの三者による終了確認を行った。

本調査と並行して、県生涯学習文化課の依頼で、綾織新田遺跡隣接地について試掘調査を実施した。11月1日に重機による表土除去、11月1～2日に検出、11月21日に検出遺構精査を行った。加えて、現道切替工事に伴う水道管移設の立会を11月21・22日に実施している。

12月7日に器材を撤出し平成23年度の調査を終了、撤収した。

作業日数は42日間。湧水のほか、後半は降雪に悩まされたが、荒天による現場閉鎖は2日間のみであった。

<平成24年度>

4月10日から調査を開始した。4月10～13日に前年度養生の撤去と崩落したトレンチ等の復旧作業を行った。4月16日以降、大グリッドごとに西側から各沢跡の精査を進めた。これは多量の排土や巨礫を効率良く排出するためと、常時多量の湧水があるため作業範囲を限定することで排水範囲を狭めるためである。大グリッド境の断面は、必要に応じて断面実測を行い、流路の堆積と新旧関係を把握するように努めた。流路は概ね東から西に向かって移動しながら堆積しているため、新→旧と作業を進めたことになる。5月17日に古代の森研究舎吉川昌伸氏による花粉分析サンプルの直接採取（1回目）を実施。5月23日に現地協議を行い、新田沢沿いの市道部分に沢跡が延び、遺物が出土することから、300mを追加した。これに伴い、7月31日までの調査期間を8月10日まで延長し、市道の切り直し道路を作るため調査区西半を6月末に引き渡すこととした。各時期の沢底には砂礫層が50cm以上堆積しており、この中にも遺物を混在することから、本来の河底を露出させるのに苦戦する。6月11日、野外作業員を増員し45名体制。6月19日、遠野テレビ取材。6月24日13時半から現地説明会を行い、一般の方124名に参加して頂いた。6月28日に部分終了確認を行い、調査区西半1,115mの引き渡しを7月6日に完了した。また、包含層が市道部分南側にも延びることが分かり、さらに160mを追加した。これにより、調査期間を8月末に延長することに決まった。市道部分にも包含層が延びることが分かったため、現新田沢西側の深沢野Ⅰ遺跡範囲について、県生涯学習文化課が斜面部の試掘調査を行い、7月9～12日に調査が行われた。7月最終週、西区東側に晩期末葉の一括廃棄土器を確認。7月31日に古代の森研究舎吉川氏による花粉分析サンプルの直接採取（2回目）を実施。8月1～3日、市道部分の表土除去。8月10日、西区東半の調査の目処が付き、市道部分の調査に着手。8月22日航空写真撮影を実施。8月27～30日に埋め戻し・排土場としていた借地箇所の復旧作業を行った。8月29日、終了確認。8月30日に器材を撤収し、平成24年度の調査を終了、撤収した。作業日数は87日間。荒天による現場閉鎖は4日間と、梅雨時期を挟んだが天候に恵まれた。

2 整理方法

(1) 遺構の整理

遺構実測ソフトで図化してきた遺構図データを元に、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が平面図を作成した。断面図は、担当調査員が第二原因図を作成し、株式会社ラングにトレース図化を業務委託した。平面図及び断面図のレイアウトなどは調査員が行った。

遺構図版はまず区域ごとに分け、東区は遺構順、西区は遺構→流路関連順で掲載した。遺構名は現場段階で命名しており、登録抹消となった場合は欠番としている。なお、東区については、平成21年度調査と調査区が隣接しているため、可能な限り遺構名もこれに倣っている。

(2) 遺物の整理

遺物は種類ごとに大別し、掲載遺物・要観察遺物を選別した上で登録番号を付けた。

本報告書掲載にあたっては、これらに掲載番号を付し、図版番号・写真図版番号も合わせて記載している。観察表の()内数値は残存値、< >内数値は推定値である。

土器は水洗乾燥後、収納袋ごとに破片数及び重量計測を行った。次に註記、遺構及び地点・層位ごとに仕分けを行い、接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録、写真撮影、実測、拓影、トレース、版組の手順で行った。土器は大形の深鉢形土器が大半で、全形を復元できたものは限られる。破片資料は、特徴的な文様があるものを中心に抽出し、各時期を代表するものを優先して掲載した。形状が想定できるものについては観察表に残存率を示した(完形を100%とし、5%刻みで表したもの)。土器底部資料は、編組圧痕が確認できるものについて種別に分類し、拓本のみを掲載した。

石器は、水洗・註記を行った後、担当調査員が全点を観察し、各器種の代表的な形状を抽出した。実測にあたっては整理期間が限られるため、株式会社ラングに業務委託し、レーザー計測によるPEAKIT図を作成し、図化した。これにより整理作業を圧縮したため、より多くの資料を掲載できた。

土製品・石製品は出土量が限られるため、出土資料の大半を掲載した。実測にあたっては石器と同様に株式会社ラングに業務委託した。

木製品は、確認できた資料が1点のみであったが、調査時からかなり脆弱な状態であったため、保存処理を優先した。しかし、保存処理で形状が大きく変わったため、実測はせずに写真撮影のみ行って、掲載した。

動物遺存体は水洗後に選別を行い、全点を掲載したが、担当調査員の観察から同定に耐えられない細片が大半だったため、同定は行わず、写真掲載に留めた。

植物遺存体は、堅果類・葉・樹木に分けられる。堅果類・葉は、現場で土壌ごと取り上げてきたものが小コンテナ62箱以上(土のう30袋程度)あったため、まず土壌洗浄を行い、1ミリと5ミリメッシュのふるいを使用して分けた。その後、堅果類をトチノキ・クリ・オニグルミ・それ以外で抽出し、選別を行った。葉は形状が保たれているものについて抽出した。樹木は洗浄後に、加工の有無などを確認し、樹種同定サンプルを抽出した。堅果類などの詳細な選別法については小項目を参照されたい。なお、選別後は詳細な観察・同定のため、古代の森研究舎に業務委託している。

(3) 遺物写真撮影

遺物写真は、当センター写場にて写真技師が撮影を行った。撮影にはデジタルカメラ（EOS 1 ds）を使用した。

(4) 整理経過

平成23年11月1日～平成24年3月31日（3～5名体制）、平成24年5月7日～平成25年3月31日（4～10名体制）で室内整理作業を行った。このうち、平成24年5～8月までの4ヵ月間は現場作業と並行して行い（調査員は現場のため不在）、主に遺物水洗・計量・注記などを行った。土器接合作業は年度ごとに行い、前年度に選抜した資料についてのみ、翌年度に再度照らし合わせた。その上で、登録する資料を選択し、実測・トレース等を行った。木質遺物・堅果類は、水洗後に種類別に仕分けを行い、計量や破損部分の確認などを行った。主要な堅果類以外は、分析を外部委託している。

3 広報活動

- ・調査概報「平成23年度発掘調査報告書」岩埋文第603集 2012年3月発行
- ・調査概報「平成24年度発掘調査報告書」岩埋文第620集 2013年3月発行
- ・岩手県立埋蔵文化財センター所報「わらびて」127号 2013年2月28日発行
- ・第15回遺跡報告会 報告・資料 2013年2月16日
- ・平成24年度現地説明会資料 2012年6月23日

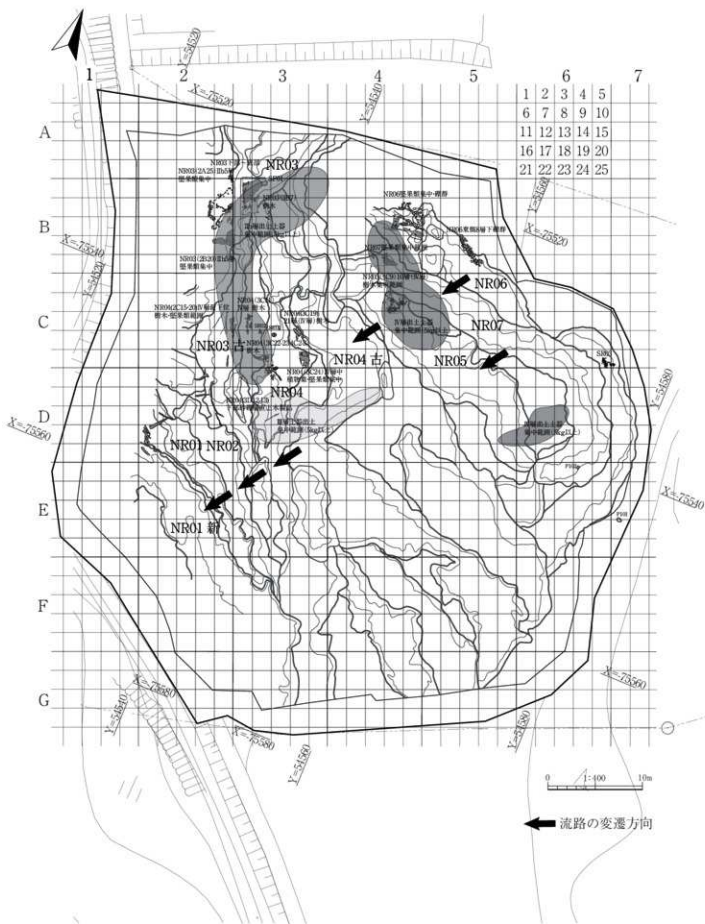


調査区	X座標	Y座標	標高	調査区	X座標	Y座標	標高
25c-1	75556.052	54908.018	296.116	調3	75526.8	54526.96	282.35
25c-2	75568.169	54827.442	283.618	調4	75535.699	54562.823	283.042
25c-3	75496.316	54823.289	285.586	調5	75563.709	54544.379	282.27
25c-4	75449.522	54851.671	281.226	調6	75558.699	54565.586	281.7
調1	75357.545	54555.124	283.606	調7	75531.054	54665.813	291.832
調2	75319.661	54847.144	282.726	調8	75460.539	54873.525	292.556

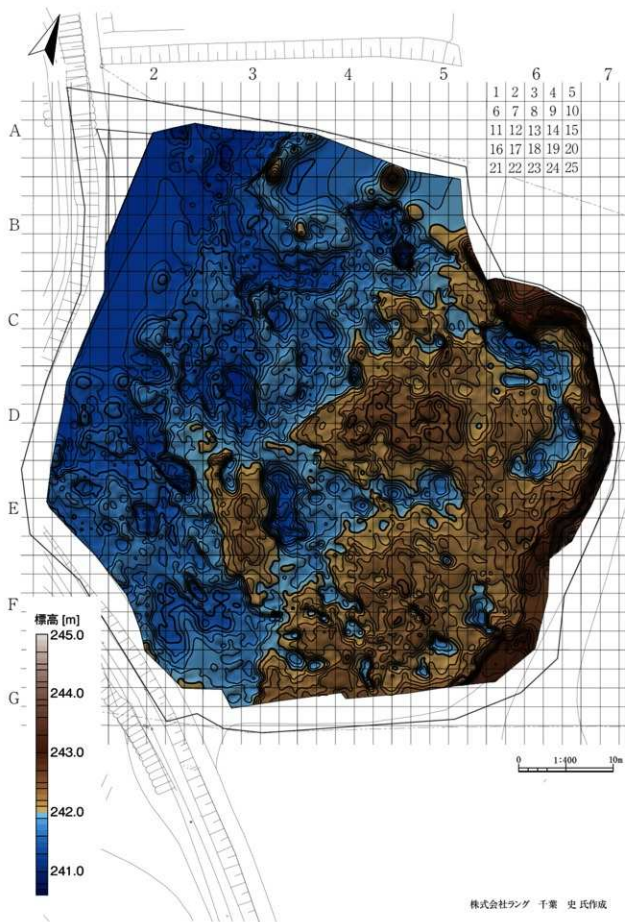
第8図 調査区全体図



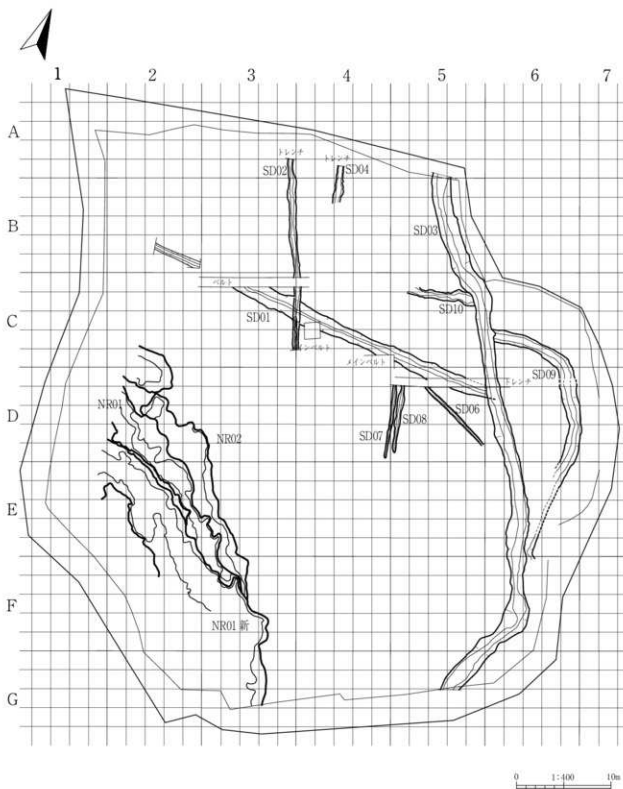
第9図 東区全体図



第10図 西区全体図



第11図 西区・等高線図



第 12 図 西区・平安時代以降全体図

IV 検出遺構

1 全体概要

今回の調査区は、平成21年度調査区の西側に隣接する市道向新田線路線内921㎡と現新田沢沿いの平坦部3,225㎡が対象範囲である。これらの調査区について、前者を「東区」、後者を「西区」と呼称することとした。各々の調査区は直線距離で約300m離れており、同一遺跡内であるが東区は縄文時代中期中葉～後葉主体、西区は縄文時代後期初頭～晩期末葉主体と基本層序・検出遺構・出土遺物が異なる。

検出した遺構は、東区が堅穴住居跡1棟・土坑1基・ピット11個、西区が沢跡7期・土器設置遺構2基・土器集積遺構1基・堅果類集中範囲多数・礫群2基・焼土遺構1基・ピット2個・溝跡9条である。

各々の遺構ごと、沢跡とそれに関連する遺構ごとに記載する。

2 東 区

(1) 概 要

東区は、平成21年度に当センターが発掘調査を実施した区域の西側に隣接する市道向新田線線敷範囲内が対象である。前回の調査(岩埋文2011)で縄文中期後葉に比定される堅穴住居跡1棟(SI07住居跡)が現道部分まで延びていることが確認されたことにより、今回の本調査範囲に組み込まれた。南北約70m、東西約10mの細長い調査範囲となる。なお現道の北西側、現況牧草地については、平成22年度に実施された試掘調査の結果から一帯が大きく削平を受けていることが確認され本調査の必要なしと判断されているが、1箇所のみ樹木の切株部分が削平を受けず旧地表面以下が残存している部分があり、これも今回の本調査範囲に含めている(第15図37G区包含層)。

南西側に隣接する市道向新田線の北側については今回の調査期間内に同時並行で県教育委員会による試掘調査が行われ、時代不明の溝1条、攪乱の可能性もある土坑1基が検出された。出土遺物はない。

現道部分では舗装面下位の盛土砕石が最大130cm程の厚さで残っており、これを重機で除去し地山粘土層を露出させたところ、想定される縄文時代遺物包含層レベルより数十cm程度下位まで道路敷設に伴う削平が及んでいることが判明し、辛うじて残存している遺構の検出、精査を行った。なお調査範囲西側は道路側溝のU字溝埋設に伴う削平が更に深く及んでいることから実際の掘削は行っていない。また調査区内にある電話電柱2本については調査着手前の移転が完了していなかったため、アンカー部分も含めて掘削範囲から除外した。上述のように削平が深く及んでいたため、現道部分において精査対象とした遺構は平成21年度調査区にまたがるSI07住居跡の西半、SK101土坑1基のみである。

北西部37G区包含層(小山地点)は切株の周囲が削平を受けず塚状に高まりとして残っていた東西約6m、南北5m程の楕円形の範囲について表土下位の縄文土器片をやや多く含む黒色土を2層として掘り下げ、出土遺物は小グリッド単位で取り上げた。2層下位は3層漸移層を経て4層地山褐色粘土層となるが、この4層上面で小径のピットを11基検出し記録している。以下、個別の遺構毎に記載する。

(2) S107 竪穴住居跡

遺構 (第13・14図、写真図版5・6)

調査区北東部の北西に下がる緩斜面に位置する長楕円形の竪穴住居跡である。平成21年度調査において精査を行ったS107住居跡の西半部分であることは確実であるため、今回もS107の遺構名を用いる。

東半との境界にはコンクリート製のU字溝が埋設され、更に西半の中央付近は水道管理設溝が横断する。合わせて西半全体が道路敷設の削平を受けており、本住居跡の北側は床面が残存せず深めの柱穴のみ検出した。ただし、規則的な炉や柱穴の配置から竪穴輪郭線の概略位置を推定することは可能で、第13図に外周の破線で示した。北東端近くではSK47土坑と重複するが、前回調査では本住居跡が新しいとの所見が記されている。

形状は南北壁が概ね平行する長楕円形ないし長方形で、中軸線方位はN-73°-E付近である。東半部分も含め全体として見た時の規模は長軸方向で東端から西端まで128m、南北方向の横幅は中央部の最も広くなると考えられる部分で42m、開口部の面積は約45㎡程になると予想される。西半部分の南壁立ち上がりは最大で7cm程度の残存に過ぎず、埋土も断片的にしか確認できないため土層断面記録は省略している。褐色粘土層に設けられた床面は比較的堅く締まり、多少の凹凸がある。

住居中軸線上に炉が直列する。東半で炉F1・炉F2（以下炉1・炉2とする）が検出されていたが、今回は更に炉3・炉4を確認し、合計4基の炉がほぼ1直線上に並ぶ状態である。

このうち西半を精査した炉2は角礫・亜角礫を楕円形に組んだ石囲炉で、中央が浅く凹み比較的強い焼成面が形成される。南側には焼成面外周に沿って15cm程の楕円形のピットがあり、設置した炉石が移動した痕跡とみられる。また焼成面上に黄褐色粘土のブロックが見られたが、これは一切焼成を受けていない粘土であり炉の機能停止後に移動したものと考えられる。

炉3は炉2から約2m離れた地床炉である。周囲が削平されているため北東側は焼成部分の正確な範囲や付属ピット等が確認できなかったおそれがある。中央部の焼成は強く、その周囲には焦土化した範囲が認められる。南側では楕円形のピットが複数並び一部は溝状を呈しており、本来は石囲炉であった可能性がある。

炉4は更に2m離れた位置にある地床炉で楕円形の浅い凹み底面に強い焼成面が形成される。ここでは炉石を設置したような痕跡はなく本来の地床炉と判断される。焼成面直上の1層には炭化物が含まれるが、細片、脆弱につきサンプリングは行っていない。

柱穴は西半において10基、また前回調査時に一部が精査されていた2基を含め12基を検出した。現場で登録した柱穴名はP1～P12である。なお、東半では前回調査時にP1～P43が登録されているが、このうち7基については平面図に記録がなく所在不明である。また断面図と平面図とで柱穴名称の食い違い等も見られるため、36基について登録し直し新たに西半、東半合わせてP1～P46、合計46基の柱穴を整理した。今回調査のP1～12については半截して断面の観察を行っているが柱痕跡等は不明瞭であったため断面実測記録を省略した。

柱穴の規模は開口部径が最大で50cm台、深さは60cm以下であり飛び抜けて大きな柱穴は見られないが、他より一回り大きく深いものが複数存在する。第14図左下は深さ40cm以上、同じく30cm以上40cm未満を抜き出したもので、住居中軸線を挟み壁際に直線的に配列している状況である。これらを結び柱間2m～2.5m程度を目安とした配列の推定ライン（A・B案）を図示した。西半では攪乱を受けて柱穴位置が不確実な部分を含むものの、主柱穴配置が新旧の2段階に分離できる可能性が高い。

A案ではP7-X-P3-P14、P11-P10-X-P41の8基を使用した。柱間は平均2.5m

である。P 14・41 以東に P 13・16 をあてることもできるが両者は深さ 11～18cm と浅いためこの案では使用していない。ここでは炉 2・3・4 がいずれも 4 本の主柱穴に囲まれた空間の中央に位置するため、これら 3 基の炉が A 案柱穴配置と関連する可能性が高いと見られる。また住居中軸線上に並ぶ炉の中間地点に深さのある P 5・20 がある。P 5 は P 10 と南側の X を結ぶ梁の中間、P 20 は P 14 と P 41 を結ぶ梁の中間にあたり、これらも A 案の配置を構成する柱穴の一部ではないかと考えられる。

B 案では P 2 - P 1 - P 9 - P 15 - P 28、X - P 4 - P 43 - P 39 - X の 10 基を使用した。柱間は 2.1～2.8 m とややばらつきがある。柱間平均値は 2.4 m 程度。各柱穴を結ぶラインは A 案よりもわずかに南にずれる位置にある。堅穴全体に対する配置はバランスが良いものの想定される梁の直下に炉 3・4 が位置しており炉 2～4 は B 案柱穴配置と関連しないと思われる。一方、炉 1 については P 15・P 28・P 39 に囲まれる範囲の中央部にあり、B 案との関連がうかがわれる。

東半では堅穴外部に複数の柱穴が散在する (P 17・19・25～27・29・32・46)。外周から離れている P 26・46 では約 1 m 程度離れている位置にあるが、本住居跡の周囲では他に単独で検出された柱穴状ピットが分布しない。本住居跡に伴う垂木尻等の痕跡として捉えておく。

遺物 (第 40 図、写真図版 37)

今回の調査範囲にあたる住居跡西半では、埋土、柱穴内堆積土中等から少量の縄文土器片、石器類が出土している。土器は概ね大木 8 b 式相当に比定されるものである。

S I O 7 住居跡は 2 回にわたる調査の結果、大木 8 b 式段階の長方形 (長楕円形) 大形住居跡であることが判明した。主柱穴配置から 2 時期の建て替えが想定される。4 基の炉は中軸線上に配列されいずれも強い熱変色が見られる。ただし炉 1 と炉 2～4 では柱穴との位置関係から時期差を持つ可能性がある。

(3) SK101 土坑

遺構 (第 15 図、写真図版 7)

現道部分調査区のほぼ中央で検出された円形の土坑である。地山粘土層が相当程度削平された検出面であるため本来の深さは捉えられていない。形状は上面観円形で南西部は水道管理設溝に切られるがほぼ全体の状況が判明する。

埋土の最上部 1 層は締まりのやや弱い暗褐色土で構成されるが下部の 2・3 層では外観は地山粘土層と顕著な差はなく、締まりがやや弱いという程度である。しかし精査過程では、壁面・底面に接する部分において非常に堅く締まった地山粘土層から埋土 3 層が「肌分かれ」する状況が顕著であり、検出した壁面・底面は正確である。壁面は凹凸をもって直立気味に立ち上がるが上方はやや外に開く。底面は緩く傾斜し中央に円形の副穴を伴う。土坑全体の規模は長径が 1.55 m、深さは 65cm。副穴は径 20cm、深さ 32cm で下に向かってすぼまる断面形状である。

本土坑からの出土遺物は皆無で遺構の年代も不明であるが、隣接する調査区には縄文中期後葉の集落が広がっておりその外縁に近い位置から見ると本土坑も縄文中期後葉の可能性はある。

(4) 北西部小ピット群

遺構 (第 15 図、写真図版 7)

既述の北西部飛び地・37G 区 (小山地点) において、塚状の高まりとして残っていた遺物包含層下位で検出した全 11 基の小径のピット群である。P 1～P 11 の名称で登録した。検出面は地山褐色粘

土質シルト層上面であり、ピット埋土は黒色土～黒褐色土を主体とする。締まりが弱いものが多く何らかの掘り込み痕跡であることは間違いないが、必ずしも全てが人為的なピットとは言いきれない。中には木根や小動物の巣穴などの自然現象に伴うものが含まれているおそれがある。

形状は円形や楕円形で開口部径が40cm～15cm程度、深さは10～15cm程のものが多く最大でも20cmである。位置関係を見るとP1～4がほぼ1直線上に並ぶため、何らかの関連があって建物を構成していた可能性も考えられるが確証を得ない。時期については上位がプライマリーな縄文中期後葉の遺物包含層によって覆われているため、これらのピット群も縄文中期以前と想定されるが特定することは困難である。

(5) 西北部遺物包含層

遺構 (第15図、写真図版7)

前述の西北部飛び地に残存していた面積30㎡弱の縄文時代中期後葉遺物包含層である。遺物はほぼ全てが計2層に包含される。1層は黒色土主体の表土、2層は黒色土主体の遺物包含層である。分布は37G18グリッド北西隅を中心としてほぼ満遍ないが、総量は少量に留まる。

遺物 (第40図、写真図版37)

土器は16～26の11点を掲載した。いずれも深鉢で、縄文時代中期中葉～後葉の大木8b式相当に比定される。

なお、この地点から北東側の調査区外において工事前仮設道路建設に伴い地表面を一部掘り下げた場所があり、掘削に立会したところ非常に多量の縄文中期後葉土器片が包含される黒色土が確認された。本地点の2層黒色土とはほぼ同相の黒色土であり、遺物包含層の主体が今回の調査区より北側で良好に残存しているものと思われる。

(高木、一部北田加筆)

3 西 区

(1) 概 要

西区は、現新田沢東側に広がる平坦地で、水田部分と市道向橋新田ダム線として利用されていた範囲が対象である。平成12年度に遠野市教育委員会が行った試掘調査によって、縄文時代中期末や平安時代の遺物が確認された地点である。現新田沢の西側は丘陵地となり、深沢野I遺跡が位置している。

西区は近年まで、水田耕作以外の土地利用はされていなかったため、表土層より下層は擾乱の影響などを受けずに良好な状態で残存していた。ただし、II a層より上層は平安時代以降の水田耕作の影響を多分に受けている。平安時代の水田については、設定したセクションなどの断面では確認できたが、後世の耕作により平面で捉えることは出来なかった。T o - aテフラを上部に堆積するNR02沢跡が3E～F区で確認していることから、これよりも東側3～5グリッドライン周辺に作られていたのではないかと考えられる。これら、耕作に関係すると考えられる溝跡も9条見つまっている。

縄文時代前期中葉～現代までの沢跡が確認され、大きく7時期に変遷していることが分かった。流路は主に、東斜面裾部から西側の現新田沢の位置まで東から西に移行しているのが確認された。人間活動は縄文時代前期中葉～晩期末葉に頻繁となり、NR07～03沢跡までの5時期の沢岸が作業場・捨て場として利用されており、特に晩期後半のNR03沢跡では多量の土器・石器の他に、堅果類の集中域が認められた。また、東斜面裾部の6C25～7C21からは晩期末葉の大洞A1式相当の土器群が集積して出土しており、出土状況から何らかの儀礼的行為が想定される。

今回の調査で、縄文時代の遺物包含層が現新田沢まで続いていることが確認されたことから、県生涯学習文化課による対岸の深沢野 I 遺跡東斜面部分の試掘が行われたところ、晩期後半の遺構・遺物が出土した。これを受けて、今回の調査期間中に本調査が行われ、NR03 沢跡と同時期の大洞 C 2 式期の竪穴住居跡 1 棟が認められた。以下、流路ごとに関連する遺構を記載する。

(2) NR06 沢跡及び関連遺構

遺構 (第 10・11・26 図、写真図版 18～22)

西区東端部分の 4B・5B～C・6C～F・7C～E グリッドに位置する。東斜面裾部に沿うように東西に曲がっている約 52 m に亘って確認された流路跡である。深度は II a 層上面から -1.15 m、II b 層上面から -90 cm、底面標高は各セクションの最深部がセクション Q で 241.95 m、セクション R で 242.22 m、セクション S で 241.97 m と、南から北に向かって徐々に下がる。

堆積土は、セクション Q が計 8 層、セクション R が計 13 層、セクション S が計 12 層で構成される。セクション Q は、7・8 層が沢存続時期の初期堆積土 (河底砂礫層)、6 層が IV 層起源のオリブ黒色粘土、5 層が III 層起源のぶい黄褐色砂、3・4 層が II b 層起源の黒褐色砂質土、1・2 層が II a 層起源の黒褐色土である。1 層と 2 層の境界には T o - a テフラが認められ、1 層の攪拌や巻き上げ状況から水田耕作が行われていたと見られる。堆積土中には平安時代中期の遺物が含まれることから、この時期の耕作痕跡と考えられる。セクション R は、13 層が沢存続時期の初期堆積土 (河底砂礫層)、12 層が 9 層以前の斜面崩落土、8～11 層が IV 層起源の黒褐色粘土質土主体、5～7 層が III 層起源のぶい黄褐色砂主体、2～4 層が II b 層起源の黒色砂質土主体、1 層が II a 層起源の黒褐色砂質土である。全体に水成堆積土と斜面崩落土で構成され、東斜面から離れるに従って水平堆積となる。セクション S は、12 層が沢存続時期の初期堆積土 (河底砂礫層)、9～11 層が T o - C u テフラ降下以前の斜面崩落土、8 層が T o - C u テフラ二次堆積層、5～7 層が IV 層起源の黒褐色土主体で粘土質と砂質の互層、4 層が III 層起源のぶい黄褐色砂、2・3 層が II b 層起源の黒色土主体、1 層が II a 層起源の黒褐色砂質土である。今回の調査区で唯一 T o - C u テフラの堆積が確認され、本流路が縄文時代前期に比定されることが確認された。

4B10 付近と 5B13・23 付近の 2 箇所から、礫群が確認された。当初は、岸辺に流入した礫が自然堤防上に自然堆積したものと考えたが、礫の集中状況や大きさが周辺の礫と異なるため遺構として精査を行った。これらはセクション G を設定したベルト (5B 区 N S 断面) を挟んで検出しており、本来は一連の遺構と考えられる。セクション G からは 11 層上面に形成されており、NR06 沢の流れが NR07・05 沢に移行し始めた頃の NR06 沢右岸に構築されたと考えられる。規模は、長さ約 13 m、幅は 0.6～1 m の範囲である。4B10 付近では、コの字状に 10～40 cm 大の垂角礫を並べているが、5B13・23 付近では 10～40 cm 大の垂角礫を重ねるように直線的に並べてある。4B15 付近は、右岸から崩れた礫が沢底部分に入り込んでいる。

4B14・15 からは、NR06 沢底に堅果類が集中して確認された。検出した礫群からは南に 1 m の箇所があり、近接している。集中範囲は 3 箇所あり、1.1 m × 0.7 m、1.8 m × 0.5 m、2.25 m × 0.6 m の不整形の範囲である。この範囲から、オニグルミ・トチノキの殻が多量に確認されている。NR06 沢の流路が NR07・05 沢に移行し始め、流れが停滞した時期に形成されたと考えられる。

7E16 と 6E4 からそれぞれ、P101 ピットと P102 ピットが確認された。規模・形状は、P101 が 58 × 40 cm の楕円形で深さ 20 cm、P102 が 36 × 30 cm の方形で深さ 21 cm である。いずれも同質の黒褐色土が堆積している。P101 堆積土から、胎土に植物質繊維を多量に含む土器片が出土しており、T o - C

u テフラ降下以前の縄文前期初頭～前葉に位置付けられる。

沢跡の存続時期は、T o - C u テフラ堆積後からIV層起土が堆積してNR07 沢跡に流路が移行する前期初頭～中期後葉までと捉えられる。

(3) NR07 沢跡及び関連遺構

遺構 (第10・11・26図、写真図版18～22)

西区東端付近の4B～C・5C・6C～Eグリッドに位置する。NR06 沢跡の東側に沿うように位置しており、東斜面の張り出しに沿うように東西にカーブする約50mに亘って確認された流路跡である。深度は、II a層上面から-1.6m、II b層上面から-1.5m、II c層上面から-1.3m、II d層上面から-1.15m、底面標高は各セクションの最深部がセクションEで241.27m、セクションGで242.05m、セクションJで241.85m、セクションQで241.95mとなり、セクションGでやや高いものの概ね南から北に向かって下がる。

堆積土は、セクションEが計12層、セクションGが計3層、セクションJが計22層、セクションQが計8層で構成される。セクションEは、(11)層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、(6)～(12)層がIV層起土の黒色土と細砂・砂質土の互層、(4)・(5)・(13)層がIII層起土の黒褐色土、(2)・(3)層がII b層起土の黒色土、(1)層がII a層起土の黒褐色土である。(6')層には多量の炭化物粒とともに後期初頭遺物が混入する。セクションGは、14・15層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、7層がIV層起土の黒褐色土である。沢存続時期は短く、NR05 沢とはほぼ同時存在した状況が断面観察から分かる。セクションJは、22層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、18～21層がIV層起土のオリブ黒色砂質土主体、14～17層がIII層起土のオリブ黒色土主体、8～13層がII b層起土の黒褐色砂質土主体、7層がII a層起土の黒色土、6層が覆乱土、1～5層がSD09 溝跡堆積土である。堆積は、NR06 沢跡とはほぼ同一箇所にあり連続する時期であるため、NR06 から07への移行が各断面に観察される。

4B23～24・IV層下部で、河底砂礫層上部に堅果類が集中して廃棄されている範囲を確認した。35×30cmと1.5×1.2mの不整形の範囲で、20～30cm大の垂角礫が並べられている。流れを堰き止めるように置かれていることから、作業のために人為的に設置された可能性がある。種類はトチノキが大半であり、668.5g出土した。細片が多く、人為的な皮剥き作業の残渣と考えられる。

沢跡の存続時期は、NR06 沢跡埋没後からIII層起土が本流路を覆う中期後葉～後期初頭までと捉えられる。

(4) NR05 沢跡及び関連遺構

遺構 (第10・11・26図、写真図版12～15・20～22)

西区東側の3B～C・4B～C・5C～Dグリッドに位置する。NR07 沢跡の西隣、NR04 沢跡の東隣に位置し、南東から北西方向に走る約32mに亘って確認された流路跡である。深度は、II a層上面から-95cm、II b層上面から-90cm、III層上面から-80cm、IV層上面から-60cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションEで241.87m、セクションGで241.68m、セクションIで242.1mとなり、セクションEでやや高いものの概ね南東から北西に向かって下がる。

堆積土は、セクションEが計11層、セクションGが計10層、セクションIが計8層で構成される。セクションEは、(11)層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、(6)～(9)層がIV層起土の黒色土主体、(4)・(5)層がIII層起土の黒褐色土主体、(2)・(3)層がII b層起土の黒色土、(1)

層がII a層起源の黒褐色土である。下位層は水成堆積層、(5)層以上は各時期の開けた沢岸であったと見られる。セクションGは、9・10層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、7・8層がIV層起源の黒褐色土主体、3～6層がIII層起源の灰黄褐色砂質土主体、2層がII b層起源の黒色土、1層がII a層起源の黒色土である。7・8層には多量の植物遺体が含まれており、水流が弱まった淀みに人為的廃棄が行われたと見られる。セクションIは、12・13層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、9～11層がIV層起源の黒色～暗オリーブ灰色主体、8層がIII層起源の黒褐色土、6・7層がII a層起源の黒色土主体である。1～5層はSD03溝跡堆積土。12・13層の河底砂礫層が5D3～6D1グリッド付近で厚く堆積しているため、検出面ですでにIV層起源土が露出している。

4C9・10層(IV層下部)から、沢内部に自然に形成された凹みに堅果類及び樹木が淀んで堆積している箇所を確認した。堅果類は、2.25cm×1.65cmの不整形の範囲に集中して出土した。種類は、トチノキ殻が254.3g、オニグルミ殻が177.8g認められる。これらを取り除いた下部には、オニグルミやケンボナシ属の枝が集中して見つかった。伐採痕など人為的痕跡を確認したが認められなかったため、凹みに自然堆積したものと判断した。水流が停滞した時期に形成されたものと考えられる。

沢跡の存続時期は、NR07沢跡埋没後からIII層起源土が流路を覆う中期後葉～後期初頭までと捉えられる。

(5) NR04沢跡及び関連遺構

遺構(第10・11・27図、写真図版12・13・15・17・23～26)

西区中央の3A～G・4A～G・5D～Gグリッドに位置する。NR05沢跡の西隣、NR03沢跡の東隣に位置し、南東から北西方向に調査区中央を縦断する約60mに亘って確認された流路跡である。NR04沢跡は流域が大きく蛇行した時期であり、東側がNR04古、西側がNR04と捉えられる。深度はII a層上面から-1.8m、II b層上面から-1.7m、III層上面から-1.35m、IV層上面から-90cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションEで241.05m、セクションHで241.08m、セクションLで241.95mとなり、セクションEで南東から北西に向かって大きく下がる。

堆積土は、セクションEが計18層、セクションHが計15層、セクションLが計15層で構成される。セクションEは、32～35層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、19～26層がIV層起源のオリーブ黒色土主体、15・16・18層がIII層起源のオリーブ黒色～灰色土主体、9・17層がII b層起源の黒色土主体、8層がII a層起源の黒褐色土である。IV層中の22層及び19層に縄文時代後期初頭の岸辺が認められ、多量の炭化物が覆っていることから何らかの人間活動が行われていることを示している。セクションHは、35層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、33・34層がIV層起源の黒色土主体、26～29層がIII層起源のオリーブ黒色砂質土主体、19～25層がII b層起源の黒色土主体、4層がII a層起源の黒褐色土である。29層が堆積する直前にNR04古沢跡の沢岸が認められる。セクションLは、20層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、16～19層が砂礫堆積層、15層がIV層起源の黒色土、10～14層は砂堆積層、7～9層がIII層起源のオリーブ黒色土主体、6層がII b層起源の黒褐色土である。著しい流路の変化により、前時期に堆積した沢岸を破壊しているため複雑な堆積状況となっている。

本沢跡は、流路の蛇行により沢跡の線形を大きく変化させており、沢岸や淀みには流木が多く確認された(第27図)。また、3C24・IV層中からは堅果類や植物葉の集中範囲も認められる。このうち、3D12・13河底砂礫層上面から木製品1点を確認した(第27図右上)。長さは1.8mで、先が二又に分かれる形状をしており、先端には炭化した痕跡が確認できる。当初は漁具や櫂を想定していたが、取

り上げ後の検討の結果、建築部材の一部ではないかとの結論を得た。詳細は出土遺物の項目で記載する。

3C17及び3C18からは隣り合った箇所にて2基の土器設置遺構を確認した(第27図左上)。SR01は倒立して設置した土器がほぼ完形で出土した(27)。堆積の状況から、土器埋設遺構のように土坑を掘削した上で埋設しているのではなく、沢岸の柔らかい砂地に差し込んで固定したものと考えられる。内部の土壌については、設置後に水流などの影響で斜めになり、土壌が入り込んだものと考えられる。SR02も同様の設置方法だったと考えられるが、深鉢が破損して崩れたものと考えられる(28)。2個体はほぼ同一の器形で、縄文時代後期前～中葉に比定される。いずれも、内容物を確認したが何も認められなかった。

沢跡の存続時期は、NR05沢跡埋没後からⅢ層起源土が流路を覆うまでの後期初頭～後期中葉までと捉えられる。

(6) NR03沢跡及び関連遺構

遺構(第10・11・16～18・20・28図、写真図版10～12・15・27～29)

西区西側の2A～D・3A～Eグリッドに位置する。NR04沢跡の西隣、NR02沢跡の東隣に位置し、南南東から北北西方向に走る約46mに亘って確認された流路跡である。NR03沢跡は、ほぼ直線的な形状の東側NR03古と3A～Bグリッドで南南東から北方向に流路を変化させる西側NR03の2区分される。深度はⅡa層上面から-1.1m、Ⅱb層上面から-97cm、Ⅲ層上面から-55cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションAで241.07m、セクションEで241.35m、セクションHで241.25mとなり、概ね南東から北西に向かって下がる。

堆積土は、セクションAが計8層、セクションB～Cが計45層、セクションDが計10層、セクションEが計11層、セクションHが計13層で構成される。セクションAは、22層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、20・21層がⅢ層起源の灰黄褐色砂質土主体、16～19層がⅡb層起源の黒色土主体、10層が暗褐色のⅡa層起源の暗褐色土である。10層中には、T o - a テフラを含んでおり、該期の耕作土層と考えられる。セクションB～Cは、44層が砂礫4層で沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、45層が砂礫5層でこれも沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、43層がNR04沢跡堆積土、39～42層が沢底堆積層でセクションC東側のみ堆積、38層がⅡb5層でⅡb層最下部の暗褐色砂質土、36・37層が黄褐色砂質土のラミナ堆積層、33～35層が炭化物集中層、32層が廃棄焼土層、31層がⅡb4層で晩期遺物・炭化物を多量に含む層、30層は灰黄褐色砂質土の均質層(人為の可能性あり)、24～29層は細砂～粗砂の河川堆積層、23層は木片を含む黒褐色泥炭質層、21・22層は細砂の河川堆積層、20層はⅡb5層でⅡb層最下部の黒褐色泥炭質層、19層は20層の上部にある泥炭質と砂の互層、18層は堅果類・木片を含む黒褐色泥炭質層、17層が木片を含むオリーブ黒色細砂層、16層が炭化物を含む灰黄褐色砂質土、13～15層は晩期遺物を多量に含むⅡb4層、12層はⅡb4層上面が焼土化しているにぶい赤褐色砂質土、9～11層はⅡb3層で堅果類・木片を多量に含む、8・8'層は晩期遺物・炭化物を多量に含むⅡb2層、3～7層が晩期遺物を多量に含むⅡb1層、1・2層がⅡa層で後世の耕作によるⅡb1層攪拌層である。Ⅱb層は、上層から1～5層が確認され、河川によるラミナ堆積を積みながら短期間に形成されている。セクションBはNR03沢跡を流路方向に縦断した断面である。セクションDは、その南側に位置する断面で、セクションBの南に続くセクションである。10層は砂礫4層でNR04沢跡の河底砂礫層、4～9層はNR03沢跡のⅢ層堆積層、3層はセクションB・13層に続くⅡb4層で晩期遺物を多量に含む層、1・2層はその後に堆積したⅡb1層相当である。NR03

沢跡の流路はセクションDの西側に存在するため、沢岸の堆積が確認できた。セクションEは、28～31層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、13・14層がⅢ層起源のオリブ黒色土、9～12層がⅡb層起源の黒色土主体である。11層は炭化物層の中に晩期遺物が多量に含まれ、人為的廃棄層である。セクションHは、砂礫3層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、9～19層がⅡb層起源のオリブ黒色土主体、4層がⅡa層起源の黒褐色土である。流路の変化により、前時期に堆積した沢岸を破壊しているため、下部は遺物の混在が著しく複雑な堆積状況となっている。

本沢跡からは、多量の晩期遺物とともに炭化物の広がりや広範囲に広がる焼土、沢岸に並べられた礫群、堅果類の集中廃棄範囲が確認された（第28図）。NR03沢跡が利用され始めたのは、Ⅱb5層が堆積し始めた頃と考えられる。

礫群は、2B5・2B10を中心に検出しており、NR03沢跡の左岸に構築されたと考えられる。規模は、4.2×2.5mの長方形で、南から1.5mで間仕切りされており、「日」形を呈する。NR03沢跡の流路方向が南から北に向かっており、これに沿うように作られている。礫は10～40cm大の垂角礫を使用しており、細砂～粗砂が堆積した沢岸に直接設置されている。どのような機能を果たしていたかは不明である。

粘土焼土ブロックは、3B6～7を中心に検出しており、NR03沢跡の右岸に形成された遺構である。規模は、約3×1.2mの長い不整形で、南半はセクションBベルト内部まで広がっている。NR03沢跡の流路方向に沿うように作られており、礫群とは沢跡を挟んで対岸になる。セクションB・12層に確認された断面から、周囲に存在しない粘土層の上面がにぶい赤褐色に弱変成している。12層は、Ⅱb4層の上面に形成されており、Ⅱb3層の9～11層より下層で、Ⅱb4層の13～15層と同一もしくは上層に確認されている。粘土焼土ブロックは、ちょうど沢岸から流路へと下がる斜面部に確認されており、人為的に貼り付けられた粘土の上面で燃焼させた形跡がある。沢岸での作業のためか不明であるが、周囲にない粘土を貼り付けた上で燃焼行為を行っていることから、祭祀的な意味があるかもしれない。

また、3B2からはSF01焼土遺構を確認した。SF01はⅡb2層上面に形成されており、規模は1.36以上×1.0mの不整形を呈している。燃焼面は赤褐色に強変成しており、検出時は焼土の上面を炭化物が覆っていたことから、現地性焼土と考えられる。

NR03沢跡右岸を中心に、晩期遺物を多量に確認した。種類は、土器・土製品・石器・石製品である。なかでも、土器は最も多量に出土しており、大半が大洞C2式相当の深鉢形土器である。主に煮炊きに使用されたと考えられる深鉢が多量に出土したことは、堅果類のあく抜き作業や皮剥き作業に直接関わる遺物であり、生活に直結するものと考えられる。分布状況については、V（1）縄文土器を参照されたい。

石器製作時に産出したチップの集積を、NR03沢跡左岸の2B15・Ⅱb2層で確認した。集積は、30cm四方の範囲にまとまっており、厚さ5～10cm以内に密集している。出土したチップの総数は8,188点（202.8g）である。内訳は、1241珪質頁岩が336点（8.9g）、1238頁岩が1,231点（16.6g）、1239頁岩が1,439点（30.7g）、1240頁岩が834点（27.1g）、1242頁岩が554点（19.8g）、1243頁岩が127点（1.1g）、1244頁岩が3,677点（98.6g）と珪質頁岩1種類と頁岩6種類の計7種類の石材が用いられている。付近からは、トチノキ集中域やクルマ集中域が確認されており、これらと同様に人為的に廃棄されたと考えられる。チップはまとまって出土していることから、袋状の入れ物に入っていた可能性もある。

堅果類の集中廃棄範囲は、NR03沢跡に多数確認された。第28図に示したトチノキやクルマの集中

範囲はいずれも沢跡下部～底部のⅡ b5層分布状況である。2B15～20の間にはトチノキ集中域とクルミ集中域がそれぞれ分かれて確認されており、殻剥き作業によって産出された各堅果類を時間差を持って廃棄したものと理解される。図はⅡ b5層堆積時の状況であるがⅡ b3・Ⅱ b4層からも多数確認されており、土器や石器のみならず、堅果類などを廃棄する場所（モノ送りの場）であったと考えられる。

沢跡の存続時期は、NR04 沢跡埋没後から NR02 沢跡に流路が移行するまでの後期中葉以降から晩期後半までと捉えられる。

(7) NR02 沢跡及び関連遺構

遺構（第10・11・16・18・22図、写真図版10・12・17・30・31）

西区西側の2A～B・2D～E・3D～Eグリッドに位置する。NR03 沢跡の西隣、NR01 沢跡の東隣に位置し、南東から北西方向に走り、1C～Dで南から北方向に変わる約26mに亘って確認された流路跡である。深度はⅡ a層上面から-50cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションAで240.62m、セクションEで241.50m、セクションHで241.40mとなり、セクションEからAに向かって急に下がる。

堆積土は、セクションAが計6層、セクションEが計5層、セクションMが計4層、セクションNが計3層で構成される。セクションAは、15層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、11～14層が河川堆積層、10層がⅡ a層起源の暗褐色土である。10層中にはT o - aテフラを含んでおり、該期の耕作土層と考えられる。セクションEは、27層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、7層がⅡ b層起源の黒色砂質土、4～6層がNR02 沢跡河川堆積層である。NR03からNR02に流路が移行した際に、河底にはすでにⅡ b層が流入し堆積しており、そこに河川堆積したものである。セクションMは、7層が初期堆積土（河底砂礫層）、4・5層が河川堆積層、3層がⅡ a層起源の黒色土である。5層には植物質が多数含まれる。セクションNは、3層が初期堆積土（河底砂礫層）、2層が流木を多量に含む粗砂層、1層がⅡ a層起源の黒色砂質土である。

本流路内には、多量の流木が確認された。特に、2D区や3F区など流路方向が変わる地点には密集して出土している。3F区からは10mを超えるトネリコ属の原木が横たわって認められた。これらは、いずれもT o - aテフラを上部に堆積していることから、平安時代中期以前の堆積と見られる。

3F区検出面では、河川堆積層上面にT o - aテフラが筋状に堆積しているのを確認している（写真図版30）。

沢跡の存続時期は、NR03 沢跡埋没後から NR01 沢跡に流路が移行するまでの晩期後半以降からT o - aテフラが降下するまでの平安時代中期までと捉えられる。

(8) NR01 沢跡及び関連遺構

遺構（第10・11・16・18・22図、写真図版10・12・17・30・31）

西区西側の2A～F・3E～Gグリッドに位置する。NR02 沢跡の西隣、現新田沢の東隣に位置し、南東から北西方向に走り、1C～Dで南から北方向に変わる約30m以上に亘って確認された流路跡である。北側は現新田沢とはほぼ同じ流路を辿るため、底面形状からは判別出来ない。南側に確認された底面形状からは、東側のNR01と現新田沢の1時期前にあたるNR01新に区分できる。深度は南端で表土から-1.85m、中央で、底面標高は各セクションの最深部がセクションOで241.40m、セクションPで241.90mとなり、セクションPからOに向かって下がる。

堆積土は、セクションOが計11層、セクションPが計18層で構成される。セクションOは、11層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、セクションPは、18層が砂礫2層で沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、4～14層が河川堆積層、3層が黒色砂質土で近代～近世の水田畦畔盛土層、2層が黒褐色土で木製樋が設置されており、畦畔外側に作られた近代～近世の水路跡、1層は黒褐色土で現代の耕作土である。大半が河川による細砂～粗砂の水成堆積層と捉えられる。

沢跡の存続時期は、NR02沢跡埋没後から現新田沢に流路が移行するまでの平安時代中期から近世・近代までと捉えられる。

(9) SR03土器集積遺構

遺構（第29図、写真図版32）

西区東端の6C25～7C21グリッド・II b層上面に位置する。セクションQ・3層上面黒褐色土及びセクションJ・8層上面黒褐色土に確認された一括出土土器群である。当初は、土坑墓に伴う遺物の広がりをも想定していたが、下部に遺構プランが確認されなかった。その場で割れた土器が大半で、すべて原位置を留めていると考えられる。集積された段階では破損しておらず、完形土器を並べたと考えられる。集積は1.5×1.2mの範囲にあり、不整形を呈する。約10°西に傾斜しており、その影響で下方にやや流れている。

遺物（第41～43図、写真図版38・39）

計20点出土した。29～30深鉢、31～39鉢、40台付浅鉢、41～48壺と様々な器種が認められる。48壺と鉢が入れ子状態で確認されるなど出土状況にも特徴がある。

晩期後葉の大洞A1式相当の土器群である。周囲に同時期の遺物が確認されていないことから、何らかの理由で集積された土器群と考えられる。精製土器の出土割合が高く、小形に規格の斉一性を有した壺・鉢で構成され、儀礼的な行為の痕跡の可能性はある。

(10) 溝跡（SD05は欠番）

SD01溝跡

遺構（第31図、写真図版33）

西区北側部分のX=-75533～-75538、Y=54527～54563付近、2B・3B～C・4C・5C～D・6Dグリッドに位置する。I層表土を除去したII a層上面で、東西方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。

平面形は東西方向に延び、ほぼ直線的である。西側は調査区外に延び、東側はSD03溝跡に接し途切れている。SD03溝跡とは、SD03の壁面観察から本遺構が新时期となると見られる。規模は、長さ38.5m以上、開口部幅2.0m、底部幅0.5mである。断面形はU～V字形で、中央部は大きく開く形状となる。走向はN87°Wである。深さは、セクションBで46cm、底面レベルは西端で242.232m、中央で242.354m、東端で242.632mとなり、西に向かって徐々に下がる。

堆積土は、セクションA・Bから単一層で構成される。黒褐色土主体で、細砂を計5枚挟むラミナ堆積が認められる。

遺物（第136図、写真図版96）

遺構内3C区部分の堆積土から、土器器坏の底部1点が出土した。1272坏は、ロクロ成形の内面黒色であり、底面にはヘラケズリ調整が認められる。その他に、縄文土器が多く出土しているが、包含層を掘り込んでいるための堆積時の混入であろう。

堆積土中から平安時代の遺物が出土していることから、該期またはそれ以降と捉えられる。水田耕作に伴う水路跡と考えられる。

SD02溝跡

遺構（第32図、写真図版33）

西区北側中央部分のX = -75522 ~ -75539、Y = 54536 ~ 54546 付近、3A ~ C・4B ~ Cグリッドに位置する。I層表土を除去したII層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。本遺構の東側4mの位置にあり、同じく北西から南東方向に延びるSD04溝跡とは並列している。

平面形は北西から南東方向に延び、ほぼ直線的である。北西側は調査区外に延び、南東側はメインベルトを挟んで確認できなくなる。南側でSD01溝跡と重複するが、本遺構が新期である。規模は、長さ21m以上、開口部幅8cm、底部幅42cmである。断面形はU字 ~ 皿形、南東側は底面がやや狭く、ほぼ垂直に立ち上がるが、全体に見ると緩やかに外傾する。走向はN25°Wである。深さはセクションEから23cm、底面レベルは北西端で242.310m、中央で242.436m、南東端で242.564mと、北西に向かって徐々に下がる。

堆積土は、セクションEから黒色土の単一層で構成される。

遺物は、包含層を掘り込んでいるため縄文時代の遺物が出土しているが、その他の時期を特定できる遺物は認められない。SD04溝跡とは約4m離れてほぼ並行に並んでおり、形状・規模から同時存在と見られる。何らかの耕作に使用する水路の可能性がある。

SD03溝跡

遺構（第31図、写真図版34）

西区東側のX = -75517 ~ -75566、Y = 54551 ~ 54579 付近、5A ~ B・5F ~ G・6C ~ Gグリッドに位置する。I層表土を除去したII層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。SD01・SD09・SD10の各溝跡と重複しており、同時存在もしくは本遺構が新期の可能性がある。

平面形は北西から南東方向に延び、ほぼ直線的で6Fグリッドから南は地形に応じて南方向に曲がる。規模は、長さ58m以上（調査区外へ延びる）、開口部幅2.0m、底部幅1.45mである。断面形は箱形または逆台形を呈し、底面は平坦に作られている。走向はN34°Wである。深さは北西端で95cm、またセクションIから85cm、底面レベルは北西端で242.044m、セクションIで242.22m、南東端で242.806mと、北西に向かって徐々に下がる。

溝の側壁の一部に、石組みが作られているのを確認した。石組みが確認されたのは、5B区の両側壁5.5m、6D区の西側壁4.7m、6E区の西側壁2mである。いずれも30 ~ 70cm大の巨礫を使用しており、2 ~ 3段重ねている箇所も認められる。側壁の崩落防止に築いた土留めを目的としたものと考えられる。

堆積土は北西端断面から黒褐色土主体の10層、セクションIから黒褐色土主体の4層で構成される。北西端断面は、10層が溝構築時の初期堆積層、4 ~ 9層が使用後の水成堆積層、1 ~ 3層が斜面からの崩落などによる最終堆積層である。水成堆積層のうち、5層及び7層にはT₀-aテフラに類似する火山灰と見られる堆積が認められる。また、溝跡の堆積土ではないが11層は耕作などによる攪乱層（II層）、12 ~ 18層はNR06沢跡の河川堆積層である。セクションIは2 ~ 5層がSD03堆

積土である。5層は使用時からの水成堆積層、4層は9層起源の流入層、3層は褐色粗砂主体の崩落土層、2層は最終堆積層となる。使用後の5層より上位に10～20cm大の大礫が混入しており、土留めに使用していた側壁石組みが崩落して流入したものと考えられる。

遺物 (第136図、写真図版96)

堆積土中から、多量の縄文時代の遺物とともに平安時代の遺物が少量出土した。1273～1275の3点は6C区や6E～F区から出土した土師器である。1273と1274はロクロ成形の坏で、1273は体部下半にヘラケズリ調整、1274は底面にヘラケズリ調整が認められる。1275は長胴甕の口縁部破片で、同時期と見られる。

遺物から得られる下限年代は平安時代中期だが、北西端断面及びセクションIでは土師器を含むII a層を切っていることから、これよりも新しい平安時代以降と幅広く捉えられる。

SD04溝跡

遺構 (第32図、写真図版34)

西区北側中央部分のX = -75520～-75523、Y = 54541～54544付近、4A～Bグリッドに位置する。I層表土を除去したII a層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の黒褐色ブランとして検出した。前述したが、本遺構の西側4mにあるSD02溝跡は並列関係にある。遺構南半については、遺物包含層精査を先行して行ったため、破壊してしまった。

平面形は北西から南東方向に延び、ほぼ直線的であったと考えられる。北西側は調査区外に延び、南西側は少なくともSD02溝跡と同じ位は延長していたと思われる。規模は、長さ3.6m以上、開口部幅61～97cm、底部幅35～56cmである。断面形は皿形で、外傾しながら緩やかに立ち上がる。走向はN19°Wである。深さはセクションAから16cm、底面レベルは北西端で242.528m、南東端で242.520mとほぼ平坦であるが、南半が残存していれば、北西に向かって下ると思われる。

堆積土はセクションAから黒褐色主体の単一層で構成される。SD02堆積土とはほぼ同一と考えられる。

遺物はSD02と同様に、時期を特定できるものは出土していない。SD02溝跡と同じく耕作に使用する水路の可能性が指摘される。

SD06溝跡

遺構 (第32図、写真図版35)

西区中央東側部分のX = -75538～-75541、Y = 54559～54566付近、5Dグリッドに位置する。I層表土を除去後のIV層上面で、西北西から東南東方向に延びる溝状の黒褐色ブランとして検出した。西北西側はメインレンチによって消失、東南東はレベルが低くなり、確認できなくなる。

平面形は、西北西から東南東方向に延び、ほぼ直線的であると考えられる。規模は、長さ8.2m以上、開口部幅25～45cm、底部幅13～24cmである。断面形はU字形で、底面から緩やかに立ち上がる。走向はN68°Wである。深さはセクションAから22cm、底面レベルは西北西端で242.856m、中央で242.888m、東南東端で242.964mと東南東に向かってやや下がる。

堆積土はセクションAから黒褐色主体の単一層で構成される。部分的に細砂を混入しているが、自然堆積である。

遺物は時期を特定できるものは出土していないが、隣接するSD07・08溝跡と同時存在の耕作に使用する水路の可能性がある。

SD07・08溝跡

遺構 (第32図、写真図版35)

西区中央東側部分のX = -75539 ~ -75546、Y = 54555 ~ 54559 付近、4・5 Dグリッドに位置する。I層表土を除去後のV層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の2本の黒褐色ブランとして検出した。北西側はメインレンチによって消失、南東は浅くなり、確認できなくなる。

平面形は、北西から南東方向に延び、いずれもほぼ直線的である。規模は、SD07は長さ7.7m以上、開口部幅22~46cm、底部幅9~18cmである。断面形はU字形で、底面から急に立ち上がる。走向はN15°Wである。深さはセクションAから27cm、底面レベルは北西端で242.728m、中央で242.768m、南東端で242.720mである。SD08は長さ7.1m以上、開口部幅28~70cm、底部幅10~25cmである。断面形はU字~皿形で、外傾しながら緩やかに立ち上がる。走向は、SD07と並列し、N15°Wである。深さはセクションAから23cm、底面レベルは北西端で242.674m、中央で242.738m、南東端で242.818mである。SD07はほぼ平坦であるが、SD08は南東に向かってやや下がる。

堆積土はセクションAから、いずれも黒褐色の単一層で構成される。両遺構とも同時に埋没した可能性が高い。

遺物は時期を特定できるものは出土していないが、隣接するSD06溝跡と同時存在の耕作に使用水路の可能性はある。

SD09溝跡

遺構 (第32図、写真図版35)

西区東端のX = -75528 ~ -75543、Y = 54563 ~ 54576 付近、6C~Eグリッドに位置する。I層表土を除去後のII a層上面で、西から南方向に山裾を曲がる溝状の2本の黒色ブランとして検出した。両端は、すでに精査済みのSD03溝跡に接しており、これによって区切られている。また、セクションQでは平安時代の遺物を含む1層黒褐色土を切っている。

平面形は、西から南方向に延び、6B区山裾が張り出しているのに合わせて、東端をなぞるようにカーブしている。規模は、長さ28.8m、開口部幅12m、底部幅60cmである。断面形はU字形で、底面から緩やかに立ち上がる。走向はN29°W~N90°Wである。深さは断面Aで18cm、断面Bで44cm、断面Cで54cm、底面レベルは断面Aで242.2m、断面Bで242.7m、断面Cで242.45mである。カーブ付近がやや高いが、概ね南から西に向かって下がる。

堆積土は断面Aで3層、断面Bで4層、断面Cで3層の黒色土主体で構成される。断面Aは、1・3層が使用による水成堆積層、2層は斜面流入層。断面Bは、3・4層が水成堆積層、2層と3層の一部が斜面流入層、1層がII b層起源土流入層。断面Cは、3層が水成堆積層、1・2層がII a層起源土流入層である。

遺物 (第136図、写真図版96)

堆積土中から、多量の縄文時代の遺物とともに平安時代の遺物が少量出土した。1276~1280の5点は6C・D区から出土した土師器と須恵器である。1276はロクロ成形の土師器長胴甕で、体部下半から底にかけてヘラケズリ調整が見られる。1277~1280は須恵器大甕で同一個体の可能性がある。

遺物から得られる下限年代は平安時代中期だが、セクションJで土師器を含むII a層を切っていることから、平安時代もしくはそれ以降と幅広く捉えられる。耕作に関連する水路跡であろう。

SD10溝跡

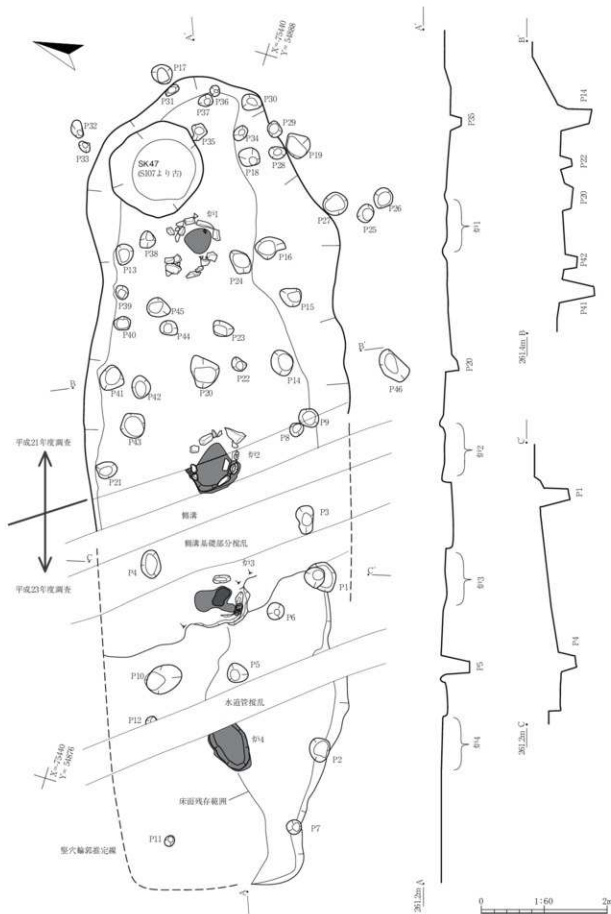
遺構（第32図、写真図版35）

西区東側部分の $X = -75527 \sim -75529$ 、 $Y = 54553 \sim 54560$ 、5Cグリッドに位置する。I層表土を除去後のIIa層上面で、西から東方向に延びる溝状の黒色プランとして検出した。東側はSD03溝跡によって区切られているが、その先は延びないため同時存在の可能性はある。

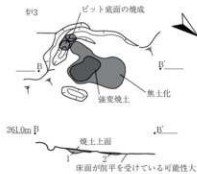
平面形は西から東方向に延び、ほぼ直線である。規模は、SD07は長さ7.2m、開口部幅75cm、底部幅30cmである。断面形はU字形で、底面から緩やかに立ち上がる。走向は $W 13^{\circ} S$ である。深さは18cm、底面レベルは西端242.658m、東端242.622mとほぼ平坦だが西方向に向かってやや下がる。

堆積土は、黒色の単一層で構成される。下部に粘土層が薄く認められ、使用時の水成堆積層と見られる。

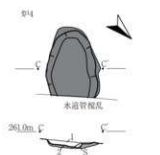
遺物は時期を特定できるものは出土していないが、近接するSD09溝跡との関連が考えられ、耕作に使用する水路の可能性はある。



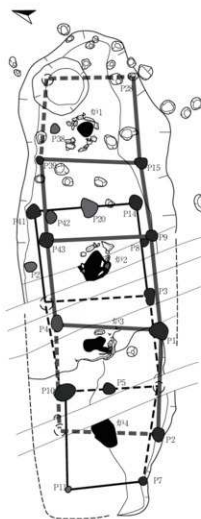
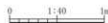
第13図 東区・SI07 竪穴住居跡(1)



S07#3
1 5YR4/6赤褐色 強変焼土
2 7.5YR4/6褐色 弱変焼土



S07#4
1 7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱
層より弱 炭化物多い
2 5YR4/6赤褐色 強変焼土



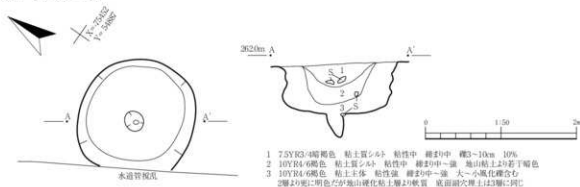
主柱穴配置推定図(S=1/100)

柱穴一覧表

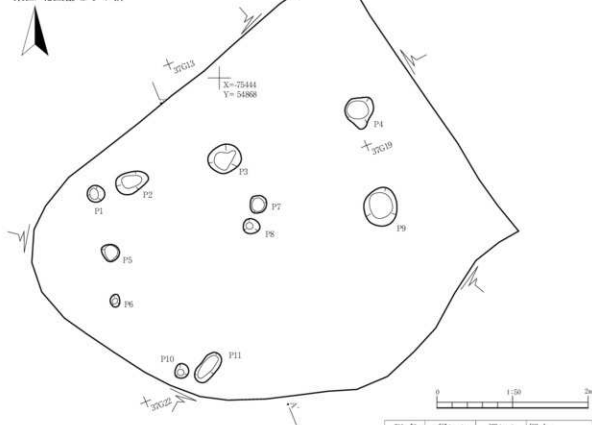
Pin	直径	深	特徴	埋蔵内Pin名	Pin名	直径	深	埋蔵内Pin名
P1	48	60	円筒形 炭化物・礫含む		P13	32	18	P1
P2	38	50	円筒形 焼土中位から焼石出土		P14	43	53	P4
P3	45	47	楕円形 炭化物・礫含む		P15	35	58	P5
P4	46	31	楕円形 炭化物・焼土結合		P16	47	11	P6
P5	34	51	炭化物多い 底面に焼土プロットあり		P17	33	15	P8
P6	25	15	浅い 断面形線跡形		P18	32	19	P9
P7	22	33	土層記録なし		P19	42	16	P10
P8	24	51	E23年度調査	P12	P20	57	25	P39
P9	33	44	東平社21年度調査	P11	P21	34	27	P38
P10	58	54	30kg程の礫が直立して残っている		P22	25	20	P13
P11	17	29	土層記録なし		P23	34	17	P15
P12	30	35	西平水道管埋込に穿られる		P24	44	18	P16
					P25	38	16	P17
					P26	33	13	P18
					P27	40	14	P19
					P28	26	28	P20
					P29	25	6	P21
					P30	32	14	P22
					P31	24	11	P24
					P32	29	12	P26
					P33	22	19	P27
					P34	25	9	P28
					P35	28	24	P29
					P36	18	13	P30
					P37	22	6	P31
					P38	27	29	P32
					P39	22	48	P33
					P40	28	11	P34
					P41	42	57	P35
					P42	37	31	P36
					P43	42	51	P37
					P44	30	16	P40
					P45	28	5	P41
					P46	55	27	P43

第14図 東区・S107 竪穴住居跡(2)

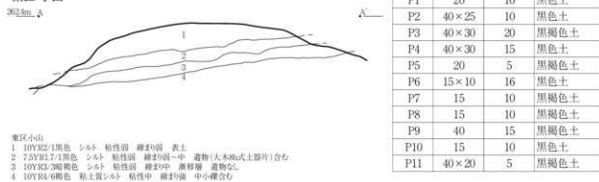
東区 SK101 土坑



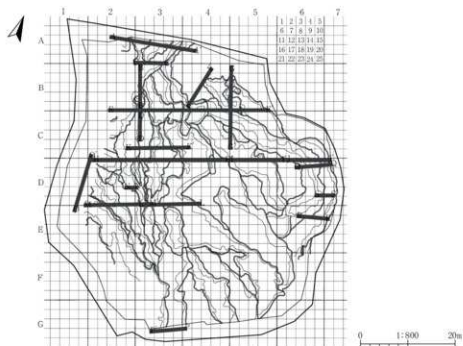
東区 西北部ピット群



東区 小山

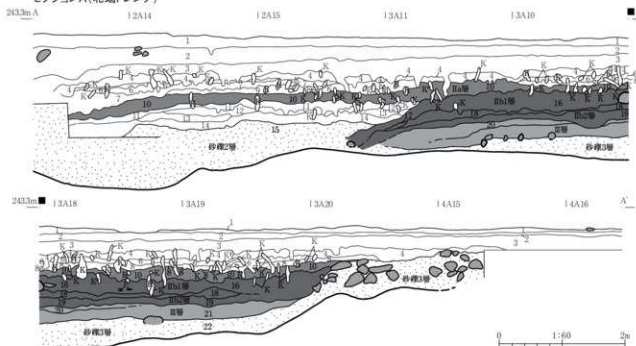


第15図 東区・SK101土坑、37G区包含層、西北部ピット群



セクションA(北端トレンチ)

セクション位置図

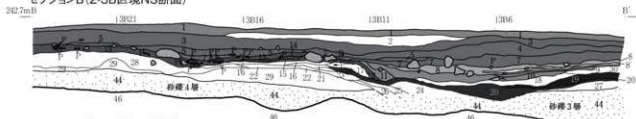


セクションA(北端トレンチ)

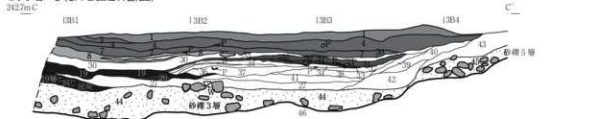
- 1 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 現代耕作土 1a層
- 2 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱～中 現代の前の耕作土 下面が平坦 1・3層より幅色
- 3 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 締まり弱～中 近畿乱田(7)の耕作土 2層より砂混入少なし 均等
- 4 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 これら恐らく耕作土 3層より幅色
- 5 7.5YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 炭化物含
- 6 2.5Y6/1黄灰色 細砂 粘性無し 締まり弱～中 ライナ状水成堆積
- 7 10YR3/2黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 炭化物の構造見える
- 8 7.5YR5/2黒色 シルト 粘性弱 締まり弱 細砂含 Ⅱb層に類似する
- 9 10YR4/2黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱
- 10 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 均質 Ⅱa層 この中にT₀-O₀ブロック含
- 11 10YR3/2黄褐色 砂質シルト 粘性無し 締まり弱 ライナ構造見える
- 12 10YR2/3黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 ライナ
- 13 2.5Y6/1黄灰色 細砂～粗砂 粘性無し 締まり弱 石層砂等に類似
- 14 10YR3/2黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 均質
- 15 10YR4/2黄褐色 粗砂～細砂 粘性無し 締まり弱 水成堆積 砂礫2層
- 16 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり弱～中 細砂含 下部に炭化物含 遺物多 未確定ではⅡb2層(19層)と区別困難 Ⅱb1層
- 17 7.5YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり弱 やや炭質質
- 18 10YR3/2黄褐色 粗砂～粘質シルト 粘性弱 締まり弱 遺物少 Ⅱb1(17層)とⅡb2(19層)を分離する砂層
- 19 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり弱～中 下部はライナ状 炭化物含 遺物は16層より少ない Ⅱb2層
- 20 10YR4/2黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 ライナ状水成堆積 Ⅱ層
- 21 2.5Y3/2黒褐色粘土質シルトと細砂、粗砂互層状 粘性無し～弱 締まり弱 遺物少ない 水成堆積 Ⅱ層
- 22 15層とはほぼ同一 砂礫3層
- 11～19層はN1002に堆積した砂礫、砂質シルト層

第16図 セクション位置図・西区セクションA

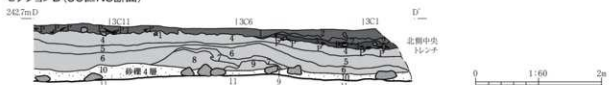
セクションB(2-3B区境NS断面)



セクションC(3A-B区EW断面)



セクションD(3C区NS断面)



セクションB(2-3B区境NS断面)・セクションC(3A-B区EW断面)

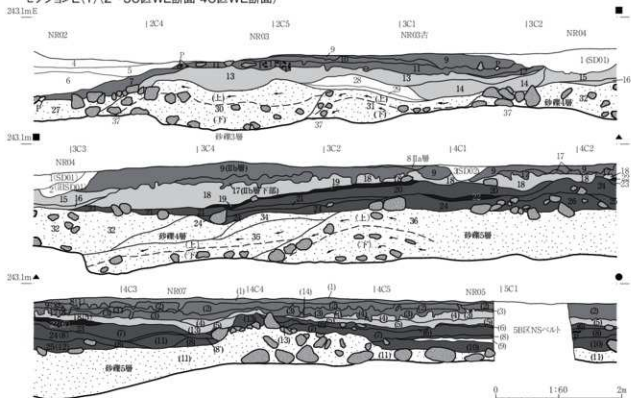
- 1 75YR3-1黒褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 IIa層相当
- 2 10YR4-1黒褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 IIa層下部砂層
- 3 75YR2-2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 IIb1層上部
- 4 75YR3-1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 IIb1層下部
- 5 10YR4-2赤黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 部分的にクニナ状 炭化物含 IIb1層下部
- 6 10YR4-2赤黄褐色 細砂 5層の混入
- 7 10YR2-2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 IIb1層下部
- 8 75YR2-1黒色 粘上質シルト 粘性弱 締まり中 遺物集中 礫含 炭化物含 IIb2層
- 9 10YR4-3(赤)黄褐色 粗砂-細砂 5層中に薄く分佈
- 10 10YR4-2赤黄褐色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 IIb3層上部
- 11 5YR2-2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 均質 泥炭質気味 IIb3層 木片、炭素屑含
- 12 75YR17-1黒色 砂質シルト 粘性中 粘上 礫土 炭化物含 IIb3層の一部
- 13 5YR4-4(赤)黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 下部は炭化見えない 褐色 IIb4層上部(4層分布の北西面)
- 14 75YR2-2黒褐色 75YR2-1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 遺物集中 1m四方で13片目10枚 IIb4層
- 15 10YR4-6褐色・10YR5-6黄褐色 砂質シルト 粘性弱-中 締まり中 炭化は受けていない IIb4層の一部
- 16 75YR2-2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 13層とはほぼ同一 IIb4層
- 17 10YR4-2赤黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 部分的にクニナ状 炭化物含
- 18 5Y3-2オリーブ黒色 細砂 粘性無し 締まり中 木片含
- 19 75YR2-2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 細砂クニナブロック含 木片含 炭素屑含
- 20 75YR2-2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 細砂クニナブロック含 木片含 IIb5層
- 21 10YR2-2黒褐色 細砂 粘性無し 締まり中 下部に炭化物含 クニナ状
- 22 10YR4-2赤黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 クニナ状 底面に薄く腐植土
- 23 10YR2-2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 細砂クニナブロック含 木片含 20層と同組
- 24 10YR4-2赤黄褐色 粗砂-細砂クニナブロック 粘性無し 締まり中 径1~10mm
- 25 25Y3-2黒褐色 粗砂 クニナブロック
- 26 10YR2-2黒褐色 粗砂 クニナブロック
- 27 10YR4-3(赤)黄褐色 粗砂-細砂 クニナブロック 泥炭質層存在
- 28 10YR4-1黒褐色 粗砂-細砂 クニナブロック
- 29 10YR4-4褐色 粗砂-細砂 クニナブロックの基盤 部分的に炭化して褐色
- 30 10YR4-2赤黄褐色 シルト 粘性弱 締まり中 均質 礫土と同
- 31 75YR2-1-17.1黒色 シルト 粘性弱 締まり弱 炭化物多 遺物集中 下面に薄く褐色砂質シルト層が存在して32・33層と層界となる IIb4層
- 32 5YR4-6赤褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 比較均質 礫土ブロック層
- 33 75YR2-2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 均質 炭化受けず 14層と同組
- 34 75YR2-1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 部分的にクニナ状ブロックあり
- 35 10YR4-2赤黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中
- 36 75YR2-1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物集中 33層と同組
- 37 10YR4-2赤黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 クニナ状
- 38 75YR3-3暗褐色 砂質シルトと細砂-泥炭質クニナブロック 粘性弱 締まり中 木質残存 IIb5層
- 39 10YR5-3(赤)黄褐色 シルト 粘性弱 締まり中 均質 炭化受けず 14層と同組
- 40 75YR2-2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 40層上はすべて晩期 IV層 (NR05)の可能性あり 40層上面がNR03の河床ではない
- 41 10YR5-3(赤)黄褐色 粗砂-細砂 粘性無し 締まり中 水成炭屑
- 42 75YR2-1黒色 礫層(中)の砂質シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含
- 43 10YR2-1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 NR04土層上
- 44 巨礫と粗砂の混成層
- 45 巨礫集中
- 46 堆石(底面間隙埋め充塞)
- 47 35層 IIb4層

セクションD(3C区NS断面)

- 1 10YR2-1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 IIb層
- 2 10YR2-1黒色 シルトと10YR6-2赤黄褐色細砂の混入 粘性やや弱 IIb層下部
- 3 10YR17-1黒色 シルト 粘性やや弱-中 締まりやや弱 炭化物粒(5~10mm)5%混入 5~10cm大の準角礫多量 晩期多量2次沈積地層
- 4 10YR3-1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 炭化物粒(5mm)1~2%混入
- 5 10YR2-1黒色粘上質シルトと10YR3-1黒褐色細砂の互層(4枚くらい) 粘性やや弱 締まりやや弱 下部は粘質が少なく、10YR17-1黒色粘上質となる。上部に炭化物粒(5mm)1%混入
- 6 10YR2-1黒褐色砂質シルトと10YR5-1黒褐色細砂の互層(5枚くらい) 粘性弱 締まりやや弱 炭化物粒(5mm)1%混入。下部は砂質多量
- 7 10YR4-1褐色 粗砂-細砂 粘性無し 締まり中
- 8 10YR6-3暗褐色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 9 5Y2-1黒色シルトと10YR6-1褐色粘砂の互層 粘性中 締まりやや弱 河川下部の溜まり
- 10 10YR6-4(赤)黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 締まり中 10~30cm大の準角礫多量 NR03河川階層
- 11 堆石(底面間隙埋め充塞)
- 1~3層 NR02が自然流成の際に堆積に形成された捨て場(3層)とその後に堆積した包含層(1・2層)
- 4~10層 NR03が自然流成の際の堆積層

第17図 西区セクションB~D

セクションE(1) (2~3C区WE断面・4C区WE断面)



セクションE (2~3C区WE断面)

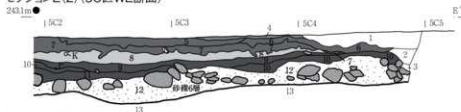
- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 SD01
- 2 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 17SD01堆積層
- 3 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物粒 (5mm) 少量 SD02
- 4 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 5 10Y3/1オリーブ灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 6 10Y3/2オリーブ灰色 細砂 粘性無し 締まりやや弱
- 7 10Y2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 8 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 IIa層 (平安以降の耕作土層) もとは9層だった。
- 9 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まりやや弱 IIb層
- 10 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 炭化物粒 (5mm) 少量
- 11 10YR1/2/1黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まり中 炭化物層とも見えるくらい多量 晩期遺物多量包含 捨て層
- 12 10Y3/1オリーブ灰色 シルト 粘性やや弱~中 締まりやや弱 炭化物粒 (5mm) 少量
- 13 10Y3/2オリーブ灰色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 14 10Y3/1オリーブ灰色砂質シルトと10Y3/1R褐色の互層
- 15 7.5Y3/2オリーブ灰色 砂質シルト 粘性弱 締まり中
- 16 2.5Y3/1暗オリーブ灰色 シルト 粘性中 締まりやや弱
- 17 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 IIb層下部 (Ia層の上に堆積したIIb層が混じっている。)
- 18 7.5Y4/2灰オリーブ 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 19 7.5Y3/1オリーブ灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中炭化物粒 (5mm) 多量
- 20 7.5Y4/2灰オリーブ 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 下部は粗砂となる。
- 21 7.5Y3/1オリーブ灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 22 炭化物層 炭に細砂を挟んで2cm厚が2層ある。
- 23 7.5Y3/2オリーブ灰色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 24 7.5Y5/2灰オリーブ 粗砂 粘性無し 締まりやや弱
- 25 10Y4/1灰 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 26 7.5Y4/3暗オリーブ 粗砂 粘性無し 締まり中 NR07堆積層
- 27 7.5Y7/1R白色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱~中 下部に約20cm大の車角礫多量 NR02河川堆積層
- 28 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性無し 締まり中 NR35 (03と04の間の流路) の河川堆積層上部
- 29 10YR3/1黒褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 同上
- 30 10YR4/6褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱~中 20cm大の車角礫上部に多く、下部は砂分多い NR35 (03と04の間の流路) の河川堆積層下部
- 31 10Y5/8赤褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 20cm大の車角礫中心に多量、たまに30cm大もあり
- 32 10YR3/2黒褐色 細砂 (下部は粗砂) 粘性無し 締まりやや弱~中 10~20cm大の車角礫中心に多量混入 下部に140cm大あり。 NR04下部河川堆積層 NR04は、水流が強く、大半が砂礫層で埋積した。
- 33 10YR3/6褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 32と同層の厚層 NR04河川堆積層
- 34 10YR2/1黒褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱 NR04河川堆積層上部
- 35 10YR4/6褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~20cm大の車角礫多量 NR04河川堆積層下部
- 36 10YR4/6褐色 粗砂と細砂の互層 粘性無し 締まりやや弱 上部は10cm大の車角礫と粗砂中心だが、下部は、10cm~20cm大の車角礫が堆積 (たまに30cm大もあり) NR03もしくは04河川堆積層

セクションE (4C区WE断面) (番号) 次表示

- (1) 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 IIa層
- (2) 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIb層上部
- (3) 10YR2/1黒色 シルト+10YR7/2灰~黒褐色粗砂の混合で泥が多い。3層に似る。
- (4) 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 炭化物多量 互層上部
- (5) 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 炭化物多量 互層下部
- (6) 7.5Y2/1黒色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 炭化物中量 互層上部 後期須賀遺物遺
- (7) 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 炭化物中量 互層
- (8) 7.5Y4/1灰 粗砂 粘性無し 締まりやや弱 互層上部
- (9) 2.5Y3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 互層中位 後期須賀遺物遺
- (10) 7.5Y4/1灰色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 互層中位
- (11) 7.5Y2/1オリーブ灰色 粗砂 粘性無し 締まり中 炭化物多量 炭化物中量 互層下部 河川堆積層下部層 後期須賀遺物遺
- (12) 2.5G7/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 締まり中 炭化物多量 互層下部
- (13) 10YR6/8暗褐色 粗砂 粘性無し 締まり弱 クラニ層
- (14) 2.5G7/3オリーブ灰色 粗砂 粘性無し 締まり弱 クラニ層
- (15) 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 5層と類似互層とIIb層の混合
- (16) (I)~(II)層 河川堆積層下部 (互層多量) 20~30cm大の車角礫

第18図 西区セクションE(1)

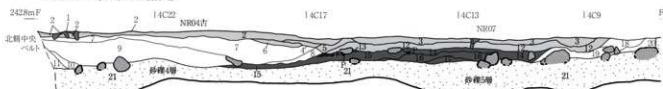
セクションE (2) (5C区WE断面)



セクションE (2) (5C区WE断面)

- 1 10Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性中 締まり中 下部に粗砂(径5mm以下)を層厚3cm程度堆積 掘浅層
- 2 10YR4.6黄褐色~10YR5.6黄褐色 粗砂(径5mm以下)水成堆積4枚 SD03堆積土
- 3 10YR17/1黒色 シルト 粘性強 締まり中 水成堆積 4層厚粘土 SD03堆積土
- 4 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 IIa層
- 5 10YR2.2黒褐色シルト+10YR2.3黒褐色シルトの混合 ほぼ4層と同じIIb層上部
- 6 10YR2.2黒褐色シルト 粘性中 締まり中 IIb層上部 SD03との境界で層位逆転→崩落のためか
- 7 25YR3.1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性中 締まり中 IIb層下部
- 8 10Y4/2オリーブ灰色 砂質シルト 粘性中 締まり中 II層
- 9 10Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり中 IV層上部
- 10 75Y4/1灰色 細砂 粘性弱 締まり中 IV層
- 11 75Y2/1黒色 粘土質シルトに細砂を混合 粘性中 締まり中 炭化物(径5mm)2% 互層下部
- 12 75Y5/1灰色4.7.5Y3.2赤オリーブ色などの粗砂層 大~巨礫多数 地山崩れや河川堆積による河底層 砂礫6層
- 13 10YR8.2灰白色+10YR7/8黄褐色 粘土 花崗閃緑岩起源の地山層

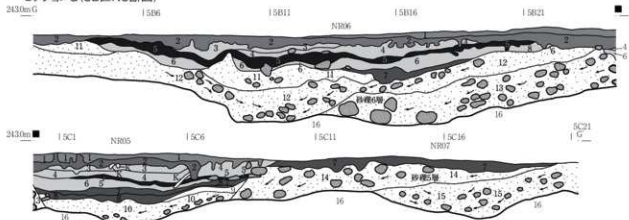
セクションF (4B区NS断面)



セクションF (4B区NS断面)

- 1 75Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIb層下部
- 2 75Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 互層
- 3 75Y4/3暗オリーブ色 細砂 粘性やや弱 締まり中 互層
- 4 10YR3/4黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 互層<すれ
- 5 10YR3/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 互層<すれ
- 6 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 互層<すれ
- 7 10YR5/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 水成堆積6枚くらい
- 8 河川堆積層
- 9 10YR5/8黄褐色 粘土 粘性やや強 締まり中 花崗閃緑岩起源(地山)の粘土層
- 10 やす砂質含む
- 11 10YR5/1黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 河川堆積層 炭化物径1mm1~2%
- 12 10YR4/1黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 炭化物径1mm2%
- 13 10YR4/2.5黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 砂礫層か
- 14 10YR5/6黄褐色~10YR5/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 互層
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱 炭化物径3mm2%
- 16 10YR4/1黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 IV層
- 17 10YR5/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 互層
- 18 10YR3/1黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 互層下部→NR06初期堆積層
- 19 25Y3/1黒褐色 砂質シルト 粘性無し~やや弱 締まり中
- 20 25Y5/6黄褐色 粗砂+粘土 粘性中 締まり中
- 21 花崗閃緑岩起源(地山)くずれ
- 22 25Y5/3黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり弱 20~50cm大の重角礫多数 河川堆積層

セクションG (5B区NS断面)

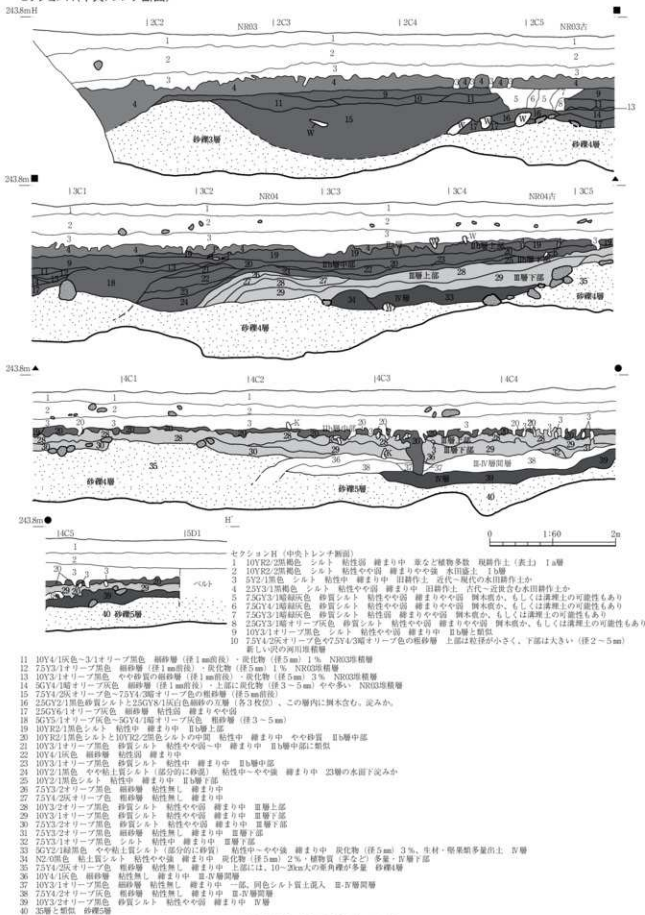


セクションG (5B区NS断面)

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIa層
- 2 10YR17/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱~中 IIb層
- 3 10YR4/2.5黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 炭分多く、酸化深い 互層
- 4 10YR4/1黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱~中 炭化物粒(φ5mm)1~2%を 互層
- 5 10YR2/1黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 炭化物粒(φ5mm)多数 炭化物層
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 互層
- 7 10YR2/1黄褐色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 上部にあり、下部はクミン土層で、10YR6/2.5黄褐色 粗砂が堆積
- 8 層中には、植物遺体(樹木枝、トナリ、クミなど)炭素量が大量に含まれる IV層
- 9 10YR17/1黒色 粘土質シルト(泥炭層) 粘性中 締まりやや弱 炭素量と植物遺体多数 互層下部
- 10 10YR5/2.5黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~30cm大の重角礫が南から北に向かって堆積 NR06河底層
- 11 10YR4/2.5黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 下部に10cm大の重角礫が散在
- 12 10YR1/2.5黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~30cm大の重角礫が南から北に向かって流入し、堆積 北から南に堆積する層は20~30cm大やや大きい
- 13 10YR2/2.2黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 重角礫の多い部分は、10~20cm大の重角礫 初期流入の北側下部には、30~40cm下の巨礫が南から北に向かって堆積 NR06の初期堆積層(河底層)
- 14 10YR4/2.5黄褐色 粗~中砂 粘性無し 締まりやや弱~中 20~30cm大の重角礫が南から北に向かって流入し、堆積
- 15 10YR4/4褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10cm大の重角礫が南から北に向かって流入し、堆積 NR07初期堆積層(河底層)
- 16 花崗閃緑岩炭化物(マサキ) 地山

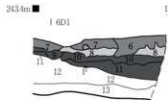
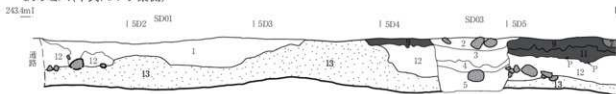
第19図 西区セクションE(2)・F・G

セクションH(中央トレンチ断面)



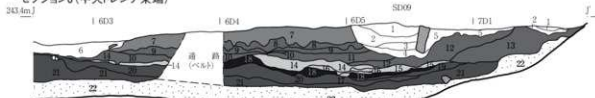
第20図 西区セクションH

セクションI(中央トレンチ東側)



- セクションI (中央トレンチ東側)
- 10YR2/2黒褐色 シルト やや砂質 粘性中 締まり中 SD01堆積土
 - 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 締まり中や弱 SD03堆積土
 - 10YR3/3暗褐色 粗砂 (径5mm以下) 粘性弱 締まり中 SD03堆積土
 - 10YR1/7黒色 シルト 粘性中-やや強 締まり中 9層と堆積土が SD03堆積土
 - 10YR6/3灰黄褐色粘土質シルトと粗砂の互層 水成堆積 SD03堆積土
 - 25GY2/1黒色 シルト 粘性中-やや強 締まり中 土師部も流入 東部P砂層上層 IIa層
 - 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中や弱 IIa層
 - 10YR3/2暗褐色 砂質シルト 粘性中 締まり中 互層
 - 10YR1/7黒色 シルト 粘性中 締まり中 互層
 - 25GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性中 締まり中 互層
 - 25GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 炭化物 (径1-2mm) 1-2% IV層下部
 - 10YR3/4暗褐色 細砂 (径1mm) 上部砂層
 - 7.5Y3/1灰色や7.5Y5/2灰オリーブ色などの粗砂層 大-巨礫多量 堆山礫れや河川堆積による河底礫砂層

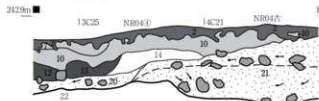
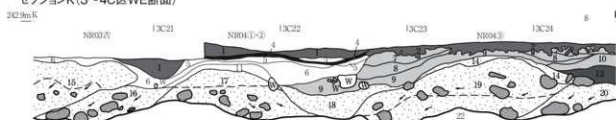
セクションJ(中央トレンチ東側)



セクションJ (中央トレンチ東側)

- 10YR3/4暗褐色-10YR5/6黄褐色 細砂 粘性無し 締まり無し 水成堆積
- 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中
- 10YR2/3黒褐色 細砂 粘性無し 締まり中
- 10YR2/3黒褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 溝底面堆積土 礫は上土め石
- 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中 礫樹上
- 10YR2/2黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルト 粘性中 締まり中や弱 腐葉土
- 10YR2/1黒色 シルト 粘性中-やや強 締まり中や弱 上部酸化土 IIa層
- 10YR1/7黒色 シルト 粘性中 締まり中 土師部も流入 IIa層
- 10YR3/2暗褐色 粗砂 粘性中-やや強 締まり中 IIb層
- 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中-やや強 締まり中 IIb層
- 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 互層
- 9層との境界が10YR1/7黒色シルトで1-2cm厚層 IIb層
- 25GM2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 IIb層
- 7.5Y3/1オリーブ灰色 やや砂質 粘性中-やや強 締まり中 IIb層
- 10Y3/1オリーブ灰色 シルト 粘性中 締まり中 中や砂質 互層
- 10YR2/1黒色 シルト やや砂質 粘性中 締まり中 互層
- 10Y3/1オリーブ灰色 砂質 粘性中-やや強 締まり中 互層
- 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 互層
- 10YR1/3灰色 シルト 粘性中 締まり中 炭化物層
- 10Y3/1オリーブ灰色 砂質 粘性中-やや強 締まり中 上部酸化炭化土 互層
- 5Y3/2オリーブ灰色 砂質 粘性中-やや強 締まり中 炭化物層
- 5Y4/3暗オリーブ色 粗砂 粘性無し 締まり無し 20-50cm大の巨礫多量 砂層5-6層 1-5層 SD08堆積土

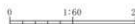
セクションK(3~4C区WE断面)



- 7.5Y4/3暗オリーブ色 粗砂 粘性無し 締まり中 20-50cm大の巨礫多量 上部はやや水平に堆積、下部は砂が多量10cm以下の礫が西向きに堆積 NR02・砂礫層
- 20-30cm大の礫が西向きに堆積した後、10cm大の礫を礫が西向きに堆積 NR03・砂礫層
- 上部は砂が水平に堆積、下部は20cm 大の礫が東向きに堆積 NR03古とNR04古境界
- 堆積中心に堆積 NR04古砂礫層
- 上部は細砂が水平に堆積、下部は10cm以下の礫層前後、20-30cm大の礫が西向きに堆積 NR04古砂礫層
- 10cm以上の礫層前後、40-50cm大の礫が西向きに堆積 NR04古砂礫層
- 上部は20cm大の礫が水平に堆積後、下部は10cm大の礫を中心と西及び東から堆積 NR04古・砂礫層
- 花崗閃緑岩風化層(地山)
- 1-2層 IIb層
- 3-6層 11層 NR04古・2層堆積
- 7-9層 14層 NR04古堆積層
- 10-12・13・14層 NR04古堆積層
- 15層 NR04古・2層堆積層
- 16層 NR04古・2層堆積層
- 17層 NR04古・2層堆積層
- 18層 NR04古・2層堆積層
- 19層 NR04古・2層堆積層
- 20層 NR04古・2層堆積層
- 21層 NR04古・2層堆積層
- 22層 NR04古・2層堆積層

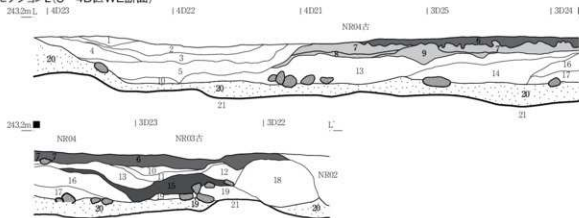
セクションK (3~4C[WE断面])

- 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 IIb層水成土
- 10YR2/1黒色 シルト 粘性中-やや強 締まり中 IIb層
- 10YR2/3黒褐色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 25GM2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 炭化物粒(5mm) 中量 炭化物層
- 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性中-やや弱 締まり中や弱 下部には粗砂がブロックで堆積
- 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中や弱 炭化物粒(5mm) 少量 中量に粗砂がブロックで堆積
- 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 締まり中や弱 互層
- 10Y3/1オリーブ灰色 粗砂 シルト 粘性中-やや強 締まり中や弱 粗砂が散在堆積 III層
- 10Y3/1オリーブ灰色 粗砂 粘性無し 締まり中や弱-中 互層
- 10Y4/4暗褐色 粗砂 粘性無し 締まり中や弱-中 互層
- 10Y3/1オリーブ灰色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 10YR1/7黒色 シルト 粘性中 締まり中 土・ケルミ多量 植物多量 IV層
- 10Y3/1オリーブ灰色 砂質シルト 粘性弱 締まり中や弱 互層
- 10Y4/15灰 粗砂 粘性無し 締まり中



第21図 西区セクションI・J・K

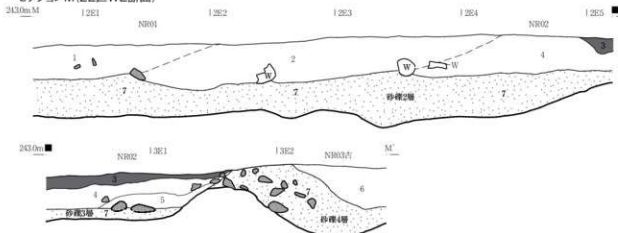
セクションL(3~4D区WE断面)



セクションL(3~4D区WE断面)

- 1 10YR2.1黒色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 稜角上
- 2 10YR3.1茶褐色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 Ⅱ層に類似
- 3 2.5Y3.1黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 Ⅱ層に類似
- 4 5Y2.1黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり中 Ⅳ層上部に類似
- 5 層より植物質少ない
- 6 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 Ⅱ層上部
- 7 10Y3.1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 8 2.5Y3.1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性中 締まりやや弱
- 9 10YR3.2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 部分的に粗砂層となる
- 10 5YR4.6赤褐色 中砂 粘性無し 締まり弱
- 11 10YR2.1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中
- 12 10YR2.2黒褐色 砂質シルト 粘性 締まりやや弱
- 13 10YR6.2/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 4枚程度に粗砂・粗砂の互層 (各層5cm厚)
- 14 10YR6.4/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 5~10cm大の垂角礫が下部に水平堆積 (3層程度) 上部は粗砂主体
- 15 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 Ⅳ層
- 16 10YR4.1褐色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 17 10YR2.2黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 炭化物少量
- 18 10YR4.4褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱 10~30cm大の垂角礫多量 NR03古堆積層
- 19 10YR6.1褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~20cm大の垂角礫多量 NR03古堆積層
- 20 10YR6.2/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 20~30cm大の垂角礫多量
- 21 花崗閃緑岩風化層 (地山)

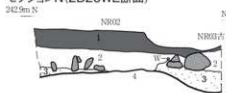
セクションM(2E区WE断面)



セクションM(2E区WE断面)

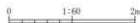
- 1 7.5Y3.1オリーブ黒色 シルト 粘性やや弱 粗砂との互層 中層に30cm大の垂角礫混入
 - 2 10YR6.2/6黄褐色粗砂と10YR2.1黒褐色シルトの互層 (4枚程度) 下部に径20cmの自然水を抽出 流水とみられる
 - 3 10YR2.1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 Ⅱ層に類似
 - 4 10YR7.2/1黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり弱
 - 5 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性やや弱 Ⅱ層に径25cmの自然水を抽出 植物質多量 流水とみられる
 - 6 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性やや弱 Ⅱ層に径10~15cmあり NR04母堆
 - 7 10YR6.9明黄褐色 粗砂 10~30cm大の垂角礫多量 河川堆積による下部砂礫層
 - 8 10YR7.2/1黄褐色 花崗閃緑岩風化層 地山
- 層位検討したところ、現場時点と1~4層の層位方向に違いがある

セクションN(2D20WE断面)

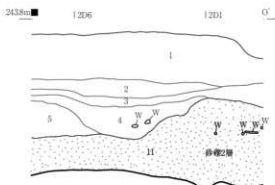
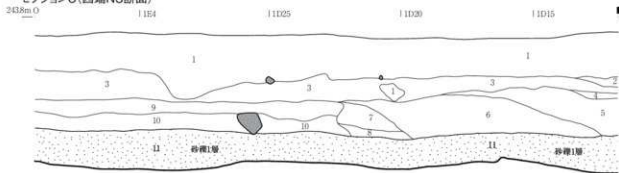


セクションN(2D20WE断面)

- 1 10YR2.1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 Ⅱ層
- 2 10YR6.4/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~30cm大の礫多量 NR02母堆層 流水多量出土 下部に大礫2式遺物部分的に包含
- 3 大・巨礫を含む粗砂層 砂礫2層
- 4 花崗閃緑岩風化層 (地山)



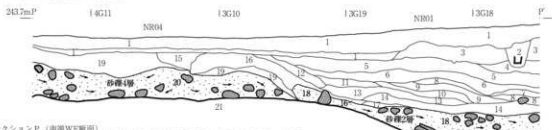
セクションO(西端NS断面)



セクションO(西端NS断面)

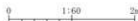
- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性や中弱 粗砂ブロック中量混入
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性や中弱 細砂ブロック少量混入 露土 1b層
- 3 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性や中弱 細砂中 田表土(平定-中流の耕作層でもあるが)
- 4 10YR2/1黒色 シルト 粘性や中弱-中 細まりや中弱 下部に流木多量 泥質化 N801堆積層
- 5 10Y2/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性や中弱 細まりや中弱
- 6 7.5Y3/2オリーブ黒色シルトと2.5Y7/1灰白色の細砂のラミナ層 粘性や中弱 細まりや中弱 N801堆積層
- 7 2.5Y3/1黒褐色 細砂 粘性無し 細まりや中弱 N802堆積層
- 8 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 細まりや中弱 泥質化 流木多量 N801堆積層
- 9 7.5Y2/1黒色 シルト 粘性中 細まりや中弱 N801堆積層
- 10 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 細まりや中弱 植物質多量 N801堆積層
- 11 10YR4/6暗褐色 粗砂 粘性無し 細まり中 N801砂礫層→上部はN802砂礫層から変化
- 1層→表土(耕作土・露土) 1a層
- 2層→露土(初期) 1b層
- 3層→田表土
- 4-10層-N801堆積土

セクションP(南端WE断面)



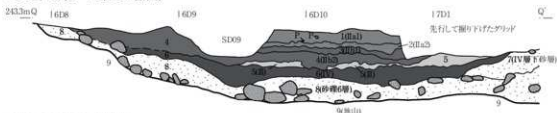
セクションP(南端WE断面)

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 細まり弱 植物根多 近現代の耕作土 1a層
- 1 近代-近世?の水田耕作土
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 細まり弱 10YR6/2灰黄褐色 細砂 礫状に混入 下部には根を使用して堆が入れられている。近代-近世の水田にかかわる水路
- 3 10YR2/1黒色 やや砂質のシルト 粘性弱 細まりや中弱-中 炭化物粒(径1cm) 1-2%混在 近代-近世の水田耕作層か
- 4 10YR2/1黒褐色 やや砂質シルト 粘性弱 細まりや中弱 上部が10YR6/2灰黄褐色 細砂 以下、河川堆積層となる
- 5 10YR2/1黒褐色 砂質シルトと10YR6/2灰黄褐色 細砂のラミナ堆積 粘性無し-弱 細まりや中弱
- 6 10YR2/1黒褐色 砂質シルト 粘性無し 細まりや中弱
- 7 10YR4/1暗灰色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱 下部に木質片 ラミナ堆積
- 8 10YR5/1暗灰色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱
- 9 10YR2/1黒褐色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱
- 10 10YR6/4明黄褐色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱 8層とほぼ同一
- 11 10YR5/1暗灰色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱 9層とほぼ同一
- 12 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 細まりや中弱
- 13 10YR4/1暗灰色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱 下部境界はややシルト質
- 14 10YR5/1暗灰色 粗砂 粘性無し 細まりや中弱 8層とほぼ同一
- 15 10YR2/1黒色 シルト 粘性や中弱 細まりや中弱 流路か
- 16 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 細まりや中弱 植物根多
- 17 10YR6/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 細まり弱 ラミナ堆積
- 18 10YR5/4黄褐色 粗砂 粘性無し 細まり中 10-20cm大の車角礫多量混入 N803川流層(砂礫2層)
- 19 10YR4/2黄褐色 粗砂 粘性無し 細まり中
- 20 10YR4/1暗灰色 粗砂 粘性無し 細まり中 20-30cm大の車角礫多量混入 砂礫4層
- 21 花崗閃緑岩風化層(地山)
- 1層 近現代の水田堆積層
- 2-3層 近代-近世?の水田堆積層
- 4-18層 N801堆積層
- 19-20層 N804堆積層



第23図 西区セクションO・P

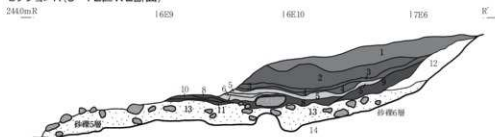
セクションQ (6~7D区EW断面)



セクションQ (6~7D区EW断面)

- 1 10YR2.2黄褐色 シルト 粘性弱 締まり中 小礫含 下部水中の埋存物 巻き上げ痕発達 2層との層界にToa灰山成層 乾燥して褐色に変化
- 2 存在不明 古化遺物含む IIa層
- 3 10YR4.2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 上部1層に接する部分に砂ブロック集中 水成堆積の状態 IIa層
- 4 7.5YR2.2黄褐色 シルトをベースに灰黄褐色 (10YR4.2) 細砂がバンド状に存在 (部分的2枚あり) →NIR3 (2 B R)と同様 粘性弱 締まり弱 炭化黒粉粒含→炭化物は自然炭化生成 II b 1層
- 4 7.5YR3.1黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 細砂ブロック状に含 自然炭化物多し 3~5% II b2層
- 5 10YR3.3にぶい黄褐色 砂 粘性無し 締まり中 均質 炭灰含 5層
- 6 10Y3.1ナナツ黒色 粘土 をベースに細砂ブロック含 ワミナ状 粘性中 締まり弱 有機質残存 泥炭質 5層
- 7 10YR3.4にぶい黄褐色 砂 粘性無し 締まり中 均質 炭灰含 5層中礫 5層
- 8 10YR4.3黄褐色 礫 粘性無し 締まり弱 大~中礫含 色調は炭化部分、グライ化部分があり 砂礫6層
- 9 花崗閃緑岩風化層 (地山)

セクションR (6~7E区WE断面)



セクションR (6~7E区WE断面)

- 1 7.5YR2.2黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 乾燥しやすい 2層との層界に砂・小礫層集ブロックあり II a層
- 2 7.5YR2.1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 小礫含 西側(斜面下部)には砂ワミナ散見 水平堆積 II b層
- 3 10YR3.4にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 炭灰散見 II b層
- 4 7.5YR2.2黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 炭灰の目玉層下部と同様に本層がうろくバンド状に存在する II b層
- 5 10YR3.4にぶい黄褐色 砂-粗砂 粘性無し 締まり中 粒径大小のばらつきあり ワミナ状 5層
- 6 10YR1.4褐色 細砂 粘性無し 締まり中 5層と7層のワミナ状間層 5層
- 7 10YR3.4にぶい黄褐色 砂 粘性弱 締まり中 下部に泥炭ワミナブロック含 5層
- 8 10YR3.1黒褐色 粘土質シルト 粘性弱~中 締まり中 泥炭質 細砂 ワミナ状ブロック含 炭化物含 中~小礫含 斜面側(東側はシルト、中~小礫多) 有機質残存 5層
- 9 7.5YR2.2黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 5層
- 10 10YR3.4にぶい黄褐色 細砂-砂質シルト 粘性弱~中 締まり中 5層
- 11 10YR4.2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 締まり弱 やや泥炭質 5層
- 12 10YR3.2黄褐色 シルト 粘性弱 締まり中 炭砂層
- 13 7.5YR2.3黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中を主体として中~小礫、巨礫多量 東は砂礫6層→西は砂礫5層に変化
- 14 花崗閃緑岩風化層 (地山)

1層 II a層

2~4層 II b層

5~7層 5層

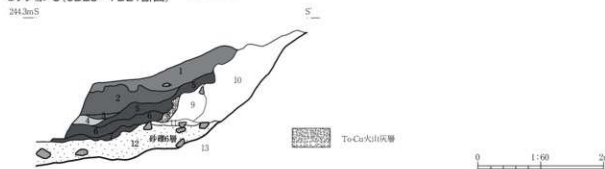
8~11層 5層

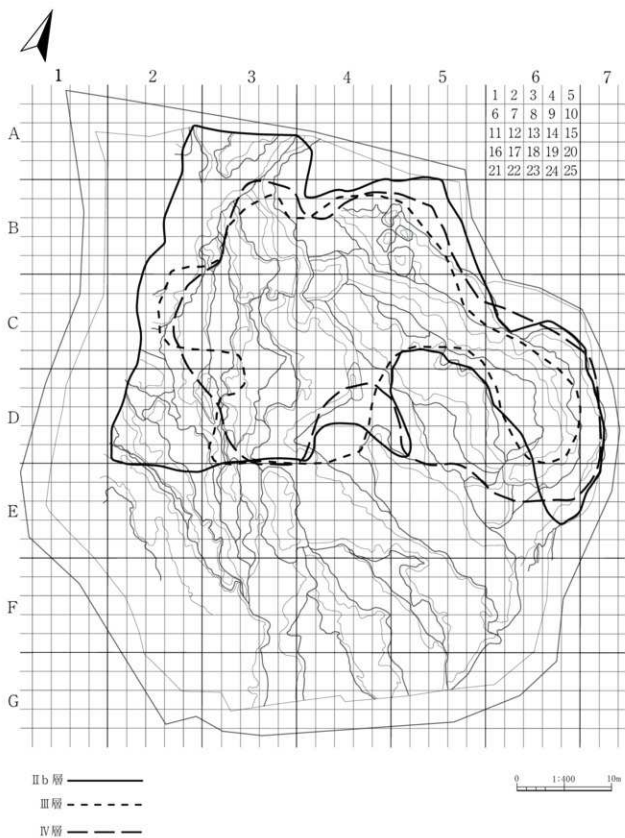
12層 砂礫層

セクションS (6D25~7D21断面)

- 1 7.5YR2.2黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 乾燥しやすい 2層との成に砂ブロック II a層
- 2 7.5YR2.1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 比較的均質 小礫含3~5% II b層
- 3 7.5YR1.7黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり中 水成堆積の泥炭部分 II b層
- 4 10YR3.4にぶい黄褐色 砂-粗砂 粘性無し 締まり中 ワミナ状 下部は炭化色 5層
- 5 10YR3.1黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 5層中で流水の影響を受けていない部分 5層
- 6 10YR3.1黒褐色 粘土質シルト 粘性弱~中 泥炭質 7層との層界に砂ワミナブロック含 炭化物含 5層
- 7 10YR2.1黒色 粘土 粘性中 締まり中 泥炭質 有機質残存 5層
- 8 10YR7.4にぶい黄褐色~5にぶい黄褐色 Toa灰山成層2枚厚積ブロック 斜面に沿って斜めに堆積 締まり強 灰白色部分とピンク色の部分が現状に重なるように見える
- 9 10YR4.2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 中~小礫含
- 10 10YR4.6褐色 シルト→砂質シルト 粘性弱 締まり中 基盤側の崩落ブロック含
- 11 10YR3.1黒褐色 粘土質シルト 粘性中 締まり中
- 12 7.5YR2.3黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 大~小礫多量 砂礫6層
- 13 花崗閃緑岩風化層 (地山)
- 1層 II a層
- 2~3層 II b層
- 4層 5層
- 5~7層 5層
- 8~11層 Toa灰山以下のNR06堆積土
- 12層 砂礫層

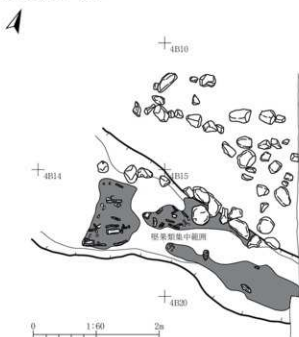
セクションS (6D25~7D21断面)



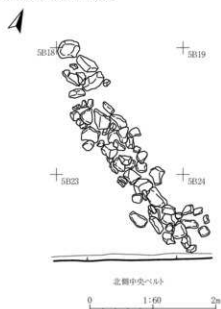


第25图 西区·层位分布图

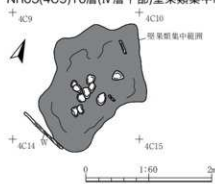
NR06堅果類集中・破群



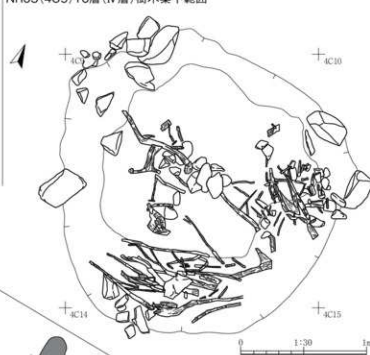
NR06東側8層下破群



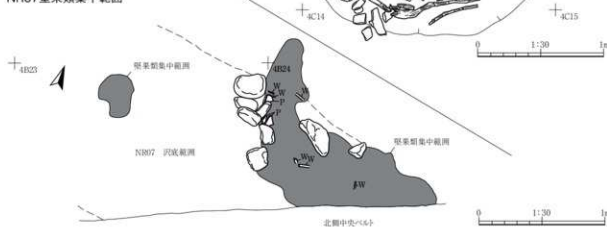
NR05(4C9)10層(IV層下部)堅果類集中範圍



NR05(4C9)10層(IV層)樹木集中範圍

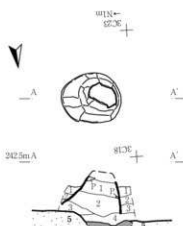


NR07堅果類集中範圍



第 26 圖 NR06・07・05 沢跡関連遺構

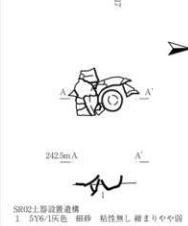
SR01土器設置遺構



SR01土器設置遺構

- 1 5Y6-1灰色 粗砂 粘性無し 締まりや中弱
- 2 5Y3-1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱 締まりや中弱 炭化物粒少量
- 3 5Y3-1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性や中弱 締まりや中弱 粗砂少し
- 4 5Y5-1灰色 粗砂 粘性無し 締まりや中弱 下部少し砂層
- 5 10Y7-4L.25+黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中

SR02土器設置遺構



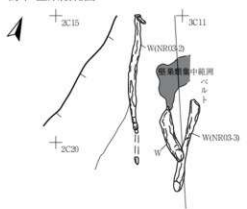
SR02土器設置遺構

- 1 5Y6-1灰色 粗砂 粘性無し 締まりや中弱

NR04(3D12-13)下部砂礫層直上木製品出土状況



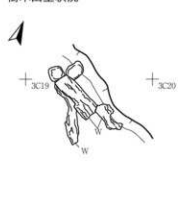
NR04(2C15・20)IV層最下位樹木・堅果類範囲



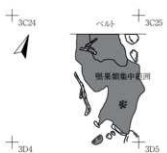
NR04(3C11)IV層樹木出土状況



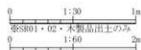
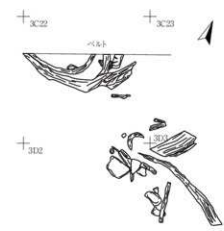
NR04(3C19) 21層(IV層)樹木出土状況



NR04(3C24)IV層中植物葉・堅果類集中

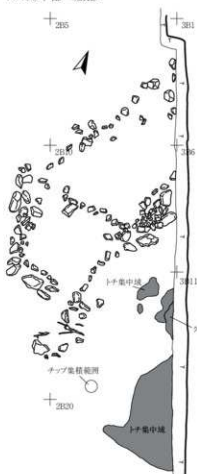


NR04(3C22-23,4C2-3)樹木出土状況

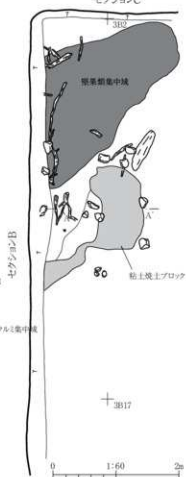


第 27 図 NR04 沢跡関連遺構

NR03下部～底部



セクションC



NR03内粘土焼土ブロック

342.2m A



NR03内粘土焼土ブロック

- 5YR4/4L: 濃い赤褐色 砂質シルト 焼土層 上面が壊れている。粘性弱 締まり中
- 5YR2/2: オリーブ灰色 細砂 粘性無し 締まり中
- 10YR4/1: 暗灰色 細砂 粘性無し 締まり中
- 10YR2/2: 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 IIb層

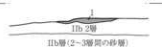
0 1:60 2m

SF01

ベクトル



342.3m A



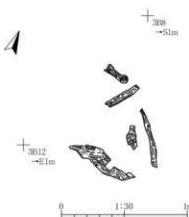
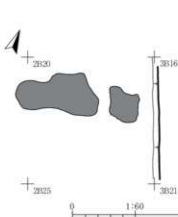
IIb層 (2-3層間の砂層)

SF01

- 5YR4/6: 赤褐色 IIb層上面の現地性焼土。焼土の上を炭化物が覆う。

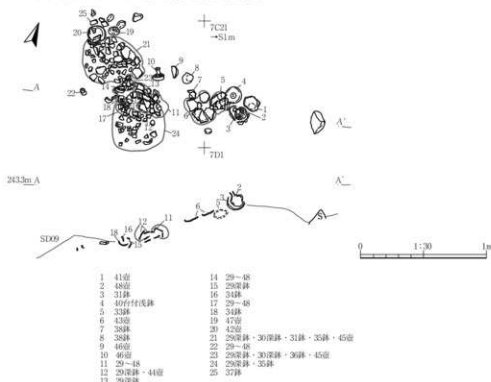
0 1:30 1m

NR03(3B7)樹木出土状況

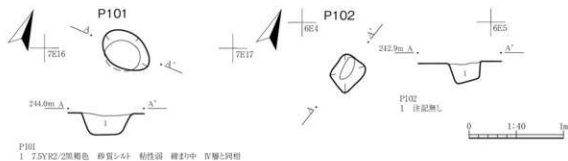
NR03(2B20) IIb層
堅果類集中NR03(2A25) IIb層
堅果類集中

第28図 NR03 沢跡関連遺構

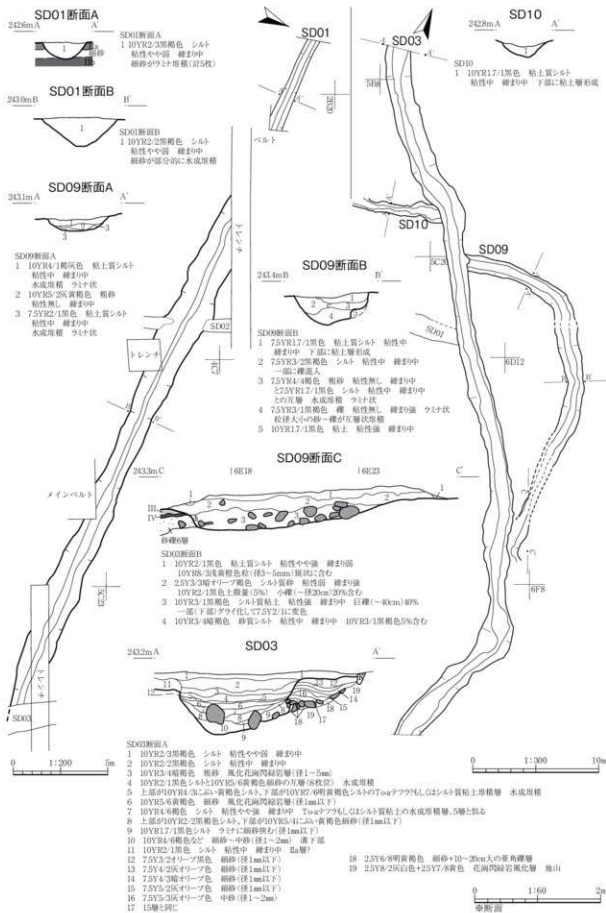
SR03(6C25~7C21)Ⅱb層中遺物出土状況



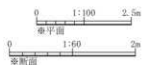
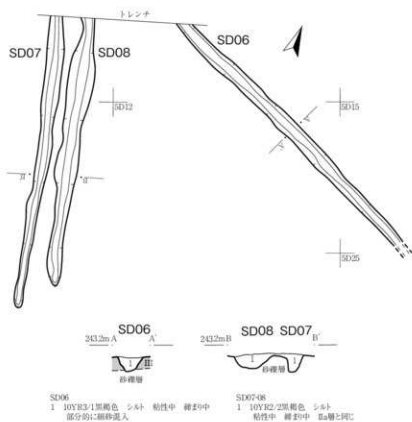
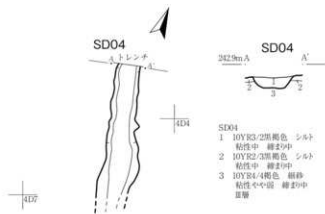
第29図 SR03 土器集積遺構



第30図 P101・P102 ピット



第31図 SD01・03・09・10溝跡



V 出土遺物

1 縄文時代

今回出土した遺物は、縄文土器・土製品・石器・石製品・木製品・昆虫・動物遺存体・植物遺存体・平安時代の土器・陶磁器・鉄製品である。各種遺物について、分類別に記載する。

(1) 縄文土器 (第 40～109 図、写真図版 37～82)

今回の調査で出土した縄文土器は、大コンテナで 145 箱 (2,336.5kg) である。時期別に出土量を見ると、晩期後半の土器が約 5 割、後期初頭の土器が約 2～3 割、後期中葉の土器が約 2 割を占め、その他の土器は 1 割弱である。器種を見ると、深鉢の割合が非常に高く、その他の器種は 1～2 割程度に留まる。特に晩期に比定される土器群では粗製深鉢が出土量の大半を占める。ここでは、出土土器を既存の土器型式から第 I～IX 群に分類し、内容を記載する。また、第 X 群を土器底部資料、第 XI 群にはミニチュア土器とした。

(a) 各群土器

第 I 群 早期末葉～前期初頭

西区東側の NR05・06・07 沢跡 (5C・5D・6C・6D・6E)・V 層や砂礫層、P101 ビット埋土から出土した土器を主体としており、早期末葉～前期初頭に比定される土器群を一括した。出土量は、全体量の 5%にも満たない少量である。器種は、すべて深鉢である。482 は尖底土器の底部資料、それ以外は胎土に多量の植物質繊維を含む土器で縄文のみ施文されている破片資料が大半を占める。82 は口縁部に L R 原体圧痕、胴部は L R・L R 羽状縄文 (結東第 1 種) が施文される。482 は早期末葉～前期初頭、それ以外は前期初頭に位置づけられる。

第 II 群 中期中葉

東区 SI07 竪穴住居跡や 37G 区包含層、西区 NR04・05・07 沢跡・IV 層や砂礫 4・5 層から出土した土器を主体としており、中期中葉に比定される土器群を一括した。出土量は、全体の 1 割程度と少ない。器種は、深鉢・壺がある。平成 21 年度に調査を行った東区東隣接地からは、まとまった数量の出土が認められている。

該期の土器編年から、2 分類される。A 類は大木 8 a 式に相当する土器である。すべて破片で、全形を類推できる資料はない。沈線表現を主体とするものと隆線表現を主体とするものがあり、文様は口縁部に集中する。B 類は大木 8 b 式に相当する土器である。これもすべて破片であり、全形を類推できる資料はない。隆沈線で文様を構成するものと沈線で文様を構成するものがある。いずれも破片資料のみだが、平成 21 年調査 (岩埋文 2011) において復元できる土器が出土していることから、これを目安に分類した。ただし、小破片が多いため捉え間違いの可能性もある。

II A 類は、大木 8 a 式に相当する土器で、器種は深鉢と壺がある。器形は深鉢が口縁部が内湾するキャリパー形のもの (53・171・215・647・690・721)、頸部から口縁にかけて開くもの (820) が認められる。口縁部文様は隆線で描出するものが主体で、53・171・215・498・647・711・733・721・777 などがある。また、沈線で描かれる 729 や口縁部を肥厚させた上で描く 216・690 がある。664 は隆線間に刺突を充填するもので該期土器か不明の資料である。712 は壺で、沈線によって U 字状の文様が描かれる。

ⅡB類は、大木8b式に相当する土器で、主に東区を中心に出土した資料である。器種は、深鉢と壺がある。器形を類推できるものは少ないが、頸部でやや括れ口縁部が開くもの(172・484・523・626など)や口縁部が緩やかに内湾するもの(19・148など)、キャリバー形を呈するもの(6)がある。胴部文様は隆沈線で蕨手文に小渦巻文を合わせて描出するもの(1・16・19・20・22・23・626・786・787など)、沈線で描くもの(523)がある。796は突帯状の隆線に橋状突起を有する。800は壺で、頸部に平行する横位隆線、胴部には隆線で文様を描いている。

今回出土した土器を該期編年に当てはめれば、ⅡA類は主に大木8a式新段階に相当し、ⅡB類は大木8b式中～新段階に相当すると考えられる(中野2008)。

第Ⅲ群 中期後葉～末葉

東区SI07 聖穴住居跡や37G区包含層、西区NR06・07 沢跡・Ⅳ層や砂礫4～6層から出土した土器を主体としており、中期後葉～末葉に比定される土器群を一括した。出土量は極少量で、全体の1割にも満たない。器種は、深鉢・壺がある。第Ⅱ群同様、平成21年度に調査を行った際にはまとまった数量の出土が認められている。

該期編年から、2分類される。A類は大木9式に相当する土器である。すべて破片で、全形を類推できる資料はない。隆沈線表現を主体とするものと沈線表現を主体とするものがある。B類は大木10式に相当する土器である。器形を復元できたのは3点で(765・821・835)、その他は破片である。沈線で文様表現するものが多いが、隆線を施すものもある。第Ⅱ群同様、小破片が多いため捉え間違いの可能性もある。

ⅢA類は、大木9式に相当する土器で、器種は深鉢と壺がある。深鉢の器形は、頸部でやや窄まり口縁部が開くもの(26・217・500・603)、最大径が胴部上半にあり口縁部が緩く内傾するもの(238)がある。238は隆沈線で縦位の楕円形文を描くもので、小渦巻文を施文する。これはⅡB類の可能性もある。603は方形気味となる。691は小形の深鉢で縦位に垂下する隆沈線が、底部付近まで施文される。沈線で文様表現する資料は26・217・500などで、逆U字状文が垂下する。727は壺で破片資料である。隆沈線で表現されており、赤彩されている。

ⅢB類は、大木10式に相当する土器で、器種は深鉢と壺がある。器形は頸部で緩く窄まり口縁部が外傾するもの(149・692・725・765・830)、胴上半に最大径を持ち口縁部が内傾するもの(7・17・25)、外傾しながら緩やかに立ち上がるもの(524・821・835)がある。沈線表現するものは、S字状文(765)、J字状文(692・693)がある。17・25は折り返し口縁で、17は竹管による刺突列を施す。821・835は縄文のみを施文する土器で、上半部のみであるがやや大形の深鉢である。734・620は壺で、620は隆線表現、734はU字状文が描かれる。

第Ⅳ群 後期初頭(門前式相当)

西区NR04・05・07 沢跡・Ⅳ層や砂礫4・5層から出土した土器を主体としており、縄文時代後期初頭に比定される土器群を一括した。出土量は、第Ⅷ・Ⅸ群に次いで多く、全体の約2～3割を占める。器種は、大半が深鉢であり、浅鉢・壺形土器が僅かに認められる。

深鉢は、施文手法により5分類した。

深鉢Ⅰ類は隆線と沈線を用いて施文する深鉢で、施文手法によりさらに3細分される。Ⅰa類は隆線上に施される列点文によって頸部を区画し、胴部は地文のみとなる土器で、631・669・684・694・744・749・766などが該当する。器形は同上半部の反りが強く表現される朝顔形器形を呈するものが多く(稲村2008)、669・674・704などは胴上半部から把手が外反する。また、外反した器形から、

頸部付近で直立もしくは内傾気味となり、胴上半に最大径を持つものもある(694・749など)。区画に用いられた頸部に施された隆線上の列点文は、突起や把手部分で立ち上がる。隆帯上には、しばしば3個一對の刻目文が認められる(704・724)。隆線上の列点文は、鎖状隆帯(浮線文)へと変化していくと考えられる。1b類は中空の橋状把手を有するもので、205・695・696などがある。695は把手下に横流れS字状文を配し、ここから縦位に垂下する磨消が底部まで伸びる構成をしており、隆線によって描出されている。隆線には連鎖状隆線が施され、把手間の波底部にボタン状貼付文と共に縦位にも付される。696は隆線による横流れS字状文から垂下する縦位磨消と695と同様の手法がとられているが、中空把手部分には沈線による渦巻文と連鎖状隆線は3個一對で控えめに施される。これから、696は695よりもやや後継段階の資料かもしれない。稲村氏の分類に当てはめれば、第2段階に相当すると思われる。1c類は方形区画を有するもので、597・724が該当する。全形は不明だが隆線により胴部との区画がなされ、接点にはボタン状貼付文が付される。1d類は口縁の1箇所隆線による文様がワンポイント描かれるもので、506・703・747・767がある。文様はノ字状・三日月状を呈する。文様上部がやや盛り上がり、突起状を呈する。

深鉢2類は主に沈線を用いて施文する深鉢で、磨消縄文で文様構成するものが多い。器形は、破片資料が多く、全形を類推できる資料が少ないが、胴上半に最大径を持ち、口縁がそのまま内傾するものと外反するものを主体としている。文様は、磨消が施された帯状の縄文でU字状を施文するもの(150・661など)、S字状を施文するもの(817など)、J字状を施文するもの(740)などがあり、150・740・817のように文様同士が接する箇所刺突点を施すものがある。刺突は578や628のように、突起下に施文される。また、ボタン状貼付文が消失した箇所には盲孔が施される(571・656など)。656は突起下の盲孔から蕨手文が垂下し、突起間には縦位の帯状磨消が施される。これは、縄文時代後期前葉の東北地方南部地域に分布する綱取Ⅱ式の影響が考えられる(本間2008)。

深鉢3類は爪状工具による刺突文を施文する深鉢で、706が1点のみ出土している。刺突文は5段横位に施文されており、重層して認められる。新潟県域の後期初頭～前葉の三十稲場式に施文手法が共通しており、影響を受けていると思われる。

深鉢4類は隆線や沈線で頸部区画された深鉢で、施文手法により4細分される。4a類は隆線で頸部区画されたもので、口縁部は無文、胴部は縄文が施される。突起がある場合は、隆線が立ち上がるものが多く、568・772・746・810などが該当するが、846のように立ち上がらないものもある。699は平縁で、隆線も平行して施される。4b類は沈線で頸部区画されたもので、480・627・700・748がある。沈線より上位は無文、胴部は縄文のみ施文される。4c類は折り返し口縁を有するもので、320・525・565・658・710がある。320・658は折り返し部分にも縄文が施文されるが、その他は無文を呈している。

深鉢5類は縄文のみを施文する深鉢で、施文手法により2細分される。5a類は口縁に無文帯を有する資料で、5b類は縄文のみを施文するもので、器形は、頸部に無文帯を有する5a類には頸部で括れ、口縁で外反する器形が多い(590・683・687など)。また、548や806のように内湾気味になる土器や670・671、822のように外傾しながら立ち上がる器形がある。縄文の大半はLRやRLの斜縄文であるが、単軸絡条体第1類(505・687・769・794・806・833など)や単軸絡条体第5類(474・513・515・660・683など)を施文するものがある。

壺は数量が少なく、708などである。708は胴部中央に最大径を持ち、口縁部を欠いているものの509cm以上の器高がある大型土器である。胴部下半とは波状沈線により区画されており、波頂部には渦文が配される。頸部から垂下するS字状連鎖沈線は1箇所のみ描かれており、磨消間の窓に施文される。文様は口縁部を欠いているが、突起頂部を起点とした倒卵形の文様を描出したと思われる。

浅鉢も数量が少なく、555がある。縄文のみが施文されており、突起部分には2個一対の貫通孔が施される。全形がなく不明だが、傾きから浅鉢とした。

第V群 後期前葉（十腰内I式（新相））

西区NR03・04沢跡・砂礫4層から出土した土器を主体としており、縄文時代後期前葉に比定される土器群を一括した。出土量は、極少量で全体の1割にも満たない。器種は大半が深鉢で、壺を1点確認している。全形を想定できる資料はないが、深鉢は口縁が外反するものや直立するものがある。609・634は竹管状の刺突を充填、576・632・791は多重沈線を施文、485はクランク文を施文、790は段差がある口端に原体圧痕を施文されるものが認められる。737は壺で、多重沈線で斜線文を施文するものである。

第VI群 後期中葉（宝ヶ峯式相当）

西区Ⅲ層やSR01・02土器埋設遺構、NR02～04沢跡砂礫層出土土器を主体としており、縄文時代後期中葉に比定される土器群を一括した。出土量は、第IV群に次いで多く、全体量の2割程度である。器種は、深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口・単孔がある。なお、深鉢や鉢は破片資料が多く、特に鉢は数量が少なく器種を捉え難いものがあるためまとめて扱う。

深鉢（鉢）は、器形により5分類した。1類は波状口縁の波頂部に立体的な突起を有するもので、54・188・233・234・239・269・610・792などの突起部のみ認められる場合が多い。口縁部や頸部文様帯には、平行沈線文、段違いの弧線文、沈線に沿う刺突列などが施文される。738は底部資料で、台付きとなる。2類は平縁を呈し、沈線で文様を施文するもので、2細分される。2a類は、胴部に磨消縄文による文様が展開するもので、296は曲線帯状文、322はS字状入組文が施文されるもの、323はクランク文が施されるものなどがある。2b類は段違いの弧線文が反転展開するもので、584や612がある。3類は平縁を呈し、口縁部直下に刻み目や沈線を施すもので、151・173・211・235・251・268がある。151・235・268は、頸部で屈曲して口縁がやや外傾する器形である。4類は平縁を呈し、縄文のみを施文するもので、2細分できる。4a類は最大径が口縁端部にあり、底部から口縁部にかけて大きく開く器形で、27・28・472・478がある。28・472には、補修孔も確認できる。4b類は最大径が胴上部にあり、口縁部が内湾する器形で、206・230・600などがある。4c類は外傾しながら、緩やかに立ち上がる器形で、272・617・758などがあるが、すべて破片資料である。5類は平縁を呈し、無文のもので、479のみ掲載した。底部から口縁部にかけて、大きく開く器形で、全面ナデ成形されている。

その他の器種を一括する。浅鉢と思われるのは155である。平縁を呈し、胴上部に最大径があり、口縁が内湾する器形で、最大径の部分に列点が施される。壺は、556と645がある。556は赤漆と黒漆が塗布されており、沈線部分に黒影、平面に赤影が施される。645は小振りの器形で、弧線文が施文される。注口（558）は斜線文が施され、赤黒影塗布される。単孔土器は95の1点のみ認められた。胴部破片で、沈線文に0段多糸が充填される。胴部下半には径1.3cmの貫通孔が穿たれる。

第VII群 後期後葉（楯付土器相当）

西区NR03沢跡・Ⅲ層を主体としており、縄文時代後期後葉に比定される土器群を一括した。出土量は極少量で、全体の1割にも満たない。器種は、深鉢・注口がある。全形を想定できる資料はないが、598はⅡa文様帯とⅡ文様帯の間に屈曲部を有する器形となる。207や599は口端部に二又状突起、208や598・793は台形突起を有する。207は平行沈線間に刻み目（短沈線）を充填する。589は平縁を呈し、入組帯状文を施すもので、601・636も同様と思われる。65は注口で、沈線間に瘤状小突起が付される。

小林の一連の論考によれば（小林1999・2008）、貼瘤手法がほぼ見られなくなる瘤付土器第IV段階、宮戸編年の宮戸Ⅲb式、田柄貝塚第VII群などに相当し、縄文時代後期最終末に位置づけられる。

第Ⅷ群 晩期前半

西区 NR02・03 沢跡・Ⅱ b 層や砂礫 2・3 層から出土した土器を主体としており、晩期前半の大洞 B 2 式段階～B C 式段階に相当する土器群を一括した。出土量は全体の 1 割弱と少量に留まる。

該期編年から、2 分類される。A 類は大洞 B 2 式段階に相当する土器である。器形を復元できる資料は少数に限られ、大半が破片である。器種は深鉢・鉢・浅鉢・注口があるが、小破片のため捉え間違いの可能性もある。文様は入組三叉文や魚眼状三叉文を特徴としている。B 類は大洞 B C 式段階に相当する土器である。器形を復元できるものはなく、すべて破片である。器種は、深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口があるが、A 類同様に小破片のため捉え間違いがあるかもしれない。文様は羊歯状文や胴部の雲形文を特徴としている。

Ⅷ A 類は大洞 B 2 式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢・浅鉢・注口がある。

深鉢は、外傾しながら緩やかに立ち上がる器形 (527・592・722) と最大径が胴部上半にあり、頸部がやや括れて口縁部が外傾する器形 (60) がある。文様帯は幅の狭い口縁部文様帯に弧線を伴う小波状縁を施すもの (592・722)、縄文のみを施すもの (60・527) がある。

鉢は破片のみであるが、器形は外傾しながら緩やかに立ち上がるもの (59・199・156・218・226・237・798 など)、頸部で緩く窄まり口縁部が開くもの (55・236・256・622 など) がある。後者の頸部に屈折もしくは反外気味に開く鉢は、口部裝飾帯が発達した裝飾鉢と考えられ、口端部には B 突起、55・236 は点列帯を挟んで口頸部と体部に重畳する入組三叉文が施文される。59・199・759 は魚眼状三叉文が施文されている。218・226 は、弧線文を伴う小波状縁を施し、沈線を重層させている。

浅鉢は、488 の 1 点のみ認められており、口端部に B 突起、口縁部には入組三叉文、胴部はミガキ調整で仕上げられている。

注口は、198・219・246・528・720・723 の 6 点が認められる。完形はないが、528・720 は器形が類推できる。528 は口縁部が内傾する器形で、胴部は扁平化しており、全体にミガキ調整が施される。720・723 も同様だが、723 は口縁部が屈曲した器形と思われる。198 は屈曲した口縁部破片で、巴状文様が施される。246 は体部に入組帯状文が施されている。磨消縄文が施される 219 は、その他よりもやや古い段階の可能性もある。

Ⅷ B 類は大洞 B C 式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口がある。

深鉢と鉢は、小破片のみであるため分別できない。器形は、緩やかに立ち上がるもの (158) と頸部で屈折するもの (73・176・261・262・240・266・487 など) がある。後者にはいずれも羊歯状文が施されており、口端部には B 突起を有するものが多い。266 は頸部沈線を挟んで、口頸部に魚眼状三叉文、胴部に羊歯状文を配する裝飾性の高い鉢と思われる。240 は頸部点列帯の上に羊歯状文を施文する。158 は口端部に三山状突起を有する。146 は鉢もしくは台付鉢で、胴部には雲形文が施される。

252 は浅鉢もしくは皿で、胴部に雲形文が施文される。297 も同様かもしれない。72 は注口と思われ、口端部に B 突起、口頸部に羊歯状文を配する。頸部が屈曲し、胴部へと続く器形と見られる。

第Ⅸ群 晩期後半

西区 NR02・03 沢跡・Ⅱ b 層や砂礫 2・3 層、NR03 土器集積遺構から出土した土器を主体としており、晩期後半の大洞 C 2 式段階、大洞 A 1 式段階、大洞 A' 式段階に相当する土器群を一括した。出土量は、今回調査で認められた土器群で最も多く全体量の 5 割以上を占める。

該期編年から、3 分類される。A 類は大洞 C 2 式段階に相当する土器である。全体の中でも最も多量に出土しており、中でも深鉢の割合が非常に高い。器種は、深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口がある。深鉢以外の器種には小破片が多いため、捉え間違いの可能性がある。B 類は大洞 A 1

式段階に相当する土器である。B類はNR03土器集積遺構からまとまって認められており、一括性が非常に高い。器種は深鉢・鉢・台付鉢・鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口があり、精製土器の割合が高い。C類は大洞A'式段階に相当する土器である。数量は非常に少なく、器種は鉢・浅鉢・壺に限られる。

IXA類は大洞C2式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口がある。

深鉢は、器形から計3類に分けられる。1類は底部から口縁にかけて緩やかに立ち上がる器形で、125・139・329・347・368などが該当する。2類は胴部上半に最大径を持ち、口縁が内傾する器形を呈するもので、全面に縄文が施される。108・184・241・279・403・404・407などがある。3類は頸部に括れを持つ器形を呈し、胴部上半に最大径を持つ器形を呈するもので、本類深鉢の中で最も多く出土した器形である。施文手法から4細分される。3a類は頸部に横沈線を持たず、無文帯を有するもので、202・273・276・375・379・386・387・388・390・391・395・397・410・492・535・536・593・651などが該当する。口端部には指で摘まんだような刻み目や漣状を施すものが多い。大半は平縁であるが、409のように波状縁を呈するものもある。無文帯と縄文を施す間の頸部に突起を付けるものもある(183・265)。3b類は口縁端部直下や頸部に横位沈線などで区画を行うもので、90・109・277・345・335・349・351・353・356などがある。沈線は上下各1条、上2・下1条、上下各2条引くパターンがある。中には、区画線に原体圧痕を施すもの(541)や列点文を施すもの(61)がある。口端部の小波状縁が斜位に刻まれるものもある(61・338・353)。3a類同様、大半が平縁だが、波状縁(494)や山形突起を持つもの(335)がある。3c類は頸部に数条の横位沈線が施されるもので、藤村氏の「九年橋型深鉢」に類似する器形である(藤村1987)。97・191・303・334・336・346・350・352・362・365・366・594などが該当する。重層する沈線は最少4条、最多14条と幅がある。沈線上に、縦に並ぶ突起を付すもの(299・334・741)、横に並ぶ突起を付すもの(594)がある。前者は沈線施文以前に貼り付けられている。また、大半が刻み目や漣状の平縁だが、2個一対・4単位のB突起を持つもの(334・594)や山形突起を持つもの(334)がある。3d類は縄文のみ施文されるもので、102・180・373・532がある。いずれも平縁で、漣状の刻み目(摘まみ)を施す。

鉢は、器形から計3分類される。1類は緩やかに立ち上がる器形で、口縁が内湾するものである。170・247・418・427・429・439がある。口端部に刻み目を施すものが多く、口頭部には横位沈線が施される。2類は口縁部に最大径を持ち、口縁が直立する器形を呈するもので、2細分される。2a類は急に立ち上がり、底部から口縁部にかけて直立する器形で、142がある。やや波状縁気味で縄文のみ施される。2b類は緩やかに立ち上がり、口縁部が直立する器形で、114・168・260・430・431・436などが該当する。大半が口端部刻み目、口頭部横位沈線であるが、431は波紋状の雲形文を施文する。3類は胴部上半に最大径があり、頸部で一旦窄まり、口縁部にかけて直立もしくは外反するもので、74・112・128・281・282・283・422・424・428・433・438・595などがある。口端部に刻み目、口頭部に横位沈線・沈線上の列点を施すものが多く、口縁形状は平縁で、A・B突起を持つものがある。128・141・253は渦文やC字文などの雲形文を胴部に描出している。

その他の器種を一括する。台付鉢は極少量で、98・243・446・447・637などがある。平縁で、口端部に刻み目やA・B突起が施される。浅鉢も少量で、127・231・311・449・451・653などがある。全面にミガキ調整を施すもの(231・449)、縄文を施すもの(127・311・451他)がある。台付浅鉢は285の1点のみ。壺は287・452・543・544が縄文、312・440・453・596がミガキ調整される。注口は221のみである。

IXB類は大洞A1式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢(台付鉢)・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口がある。

深鉢は、29・30の2点がある。29は頸部で窄まり、口縁部が外傾する器形、30は緩やかに立ち上がり、口縁部が直立する器形である。いずれも重層する沈線を施文している。

鉢(台付鉢)は、小破片で器種の区分ができないものを含む。外傾しながら緩やかに立ち上がるもの(31・32・40)や頸部に最大径を持ち口縁部が内湾するもの(120・455・461)、頸部で窄まり口縁部が開くもの(33・34・308)、頸部から口縁部にかけて屈曲するもの(35・36・58・92・187・456・460・739)がある。器形がシンプルなものには粗製土器となる。口頸部の狭い文様帯に工字文や匹字文、沈線文・列点文が施され、口端部にはB突起・刻み目を持つものが多い。124・760は台付鉢である。

その他の器種を一括する。浅鉢は、外傾するもの(62・289・317・464)、頸部から口縁部にかけて直立するもの(122・123・130・144・145・293・818)がある。頸部で屈曲する場合は、文様帯が頸部で取まる。台付浅鉢は、38・291・292・463があり、291・292は胴部まで工字文が施文される。壺は、粗製(37・41・42・47・803・804・844)と精製(44・46・48・64・129・466・762・805他)に分けられる。粗製は胴部ミガキ調整や縄文、精製は胴部上半に工字文や沈線文が施文される。注口(89)は口縁部のみで、本類以外の可能性もある。

IX C類は大洞A'式段階に相当する土器で、鉢(467)・浅鉢(294・732)・壺(193・468)が認められ、変形工字文や沈線文、2個一対の粘土粒貼付などで施文される。

第X群 縄文土器底部(第110～113図)

869～1045は、土器底部に確認された編組圧痕資料である。底部のみ残存のため、詳細な時期推定は困難であるが、ごご目組み・飛びごご目組み・二本飛び網代組み・2本寄せの二本飛び網代組み・麻の葉崩し組みの計5種類の編組技術が確認された。晩期は、底部まで器面調整が施されるため、残存資料自体が少ないが、ごご目組みが多い傾向にある。

第XI群 ミニチュア土器(第40・110図、写真図版37・83)

計23点出土した。既存の土器編年から、12は中期後葉、847～851は後期中葉、852・853は後期、854～867は晩期後半、868は晩期と考えられる。

(b) 土器分布状況(第34・35図)

出土土器の分布状況を確認するために、土器出土量分布図と時期別の分布図を作成した。

第34図は層別別に土器重量を計測したもので、流路別・層別別に集中域を確認する目的がある。II b層ではNR02・03沢跡に集中域が存在し、晩期の主要な捨て場であったことが分かる。特に2B15・20・25、3B1～3・6～8・11・12・16・21は10kg以上の出土量がある。中でも、3B7は2×2m範囲で53.56kg、3B16は35.83kg、3B21は30.19kg、2B20は29.75kgと濃密な出土状況を示している。III層は集中域は形成されないが、NR03・04沢跡に分布域がある。IV層は10kgを超える集中域が、4B19・24、4C3・9・10・17、5C16に形成され、中でも4B24が19.34kg、4C9が17.17kgと集中する。砂礫層は、各流路の下部に必ず堆積し、流路底を形成しているため、前時期の包含層遺物が混在する。

第35図は出土土器を取納したビニール袋の中で、主要な時期の遺物を確認したもので、遺物から見る層位の広がりを示した。II b層ではNR02・03沢跡に近いほど晩期土器となり、III層では後期中～後葉土器がNR03古沢跡、後期初頭土器がNR04沢跡の沢岸に広がる。IV層は後期初頭土器がNR05・07沢跡沿いに広がり、砂礫層では流路の変遷に従い、西に向かって新しくなる傾向が捉えられた。

(2) 土製品 (第 114～118 図、写真図版 83～85)

今回の調査で、土偶・土製垂飾・土製耳飾・土版・球状土製品・土錘・土器片利用円盤状土製品と焼成粘土塊・不明土製品が出土している。出土量は、土器量に対して少量に留まる。以下、項目ごとに記述する。

(a) 土偶 (1046～1071)

計 26 点出土した。形状や文様表現から、以下の 5 群に分類した。分類については、川目 A 遺跡第 5 次を参考にした (岩埋文 2012)。

第 1 群 後期前葉 (1046～1051)

計 6 点が該当する。1046・1047 は頭部のみ残存した資料で、1046 は目・口を円形の刺突で表現している。1047 は顔面表現が剥落している。頸部破断面に補修のアスファルト痕跡が残っている。1048 は胴部上半のみで、上半身の幅が広く逆三角形に近くなる。1049 は同一形状の左肩で、上腕が水平に伸びて怒り肩の形状となり、肘が鋭角に曲がっている。1050・1051 は無文の資料で、1051 は頭部表現を持たない。全体に扁平な板状を呈し、脚部がやや正面に出る。

第 2 群 後期中葉 (1052～1057)

計 6 点が該当する。1053 は頭部のみ残存した資料で、頭頂部は鉢巻き状の結髪表現が施され、これから続く鼻表現は T 字状を呈する。鼻の先端は欠損しているが、高く表現される。首周辺には刺突文が施される。1052・1054 は腕で、肩から肘にかけてはやや丸みを帯びる形状となる。いずれも左腕と見られ、1052 には掌部分が表現されている。1055 は胴部下半で腹部の膨らみが強調され、全体に刺突文が施される。1056 も胴部下半の資料だが、正面は剥落している。横位の沈線によって区画された上部には鋸歯文が施され、縄文が充填されている。1057 は右脚で、やや外側に湾曲する。

第 3 群 晩期後半 (大洞 C 2 式期) (1058～1067)

計 10 点が該当する。このうち、1058～1063 が中実、1064～1067 が中空の作りとなる。

1058・1059 は X 字形土偶である。1058 は正面に沈線による X 字表現、背面には C 字状の入組文が施文される。目・口は短沈線、鼻は刺突される。1059 も同様だが、掌は T 字状沈線で表現される。1060 は腹部が強調され刺突充填、背面には C 字状の入組文が施される。1061 は左腕、1062 は右脚である。1063 は扁平な板状であるが、肩の張りが弱くこの時期に入れた。

1064 は左肩で入組文を施文、1065 は右肩で円形の沈線を施し縄文を充填している。1066・1067 は遮光器土偶の脚部で丸みを帯びており、足首は締まる。

第 4 群 晩期後半 (大洞 C 2～A 1 式期) (1068・1069)

計 2 点が該当する。1068 は頭部～胴部上半の資料で、胴部の正面及び背面には正中線、横位の刺突列が施文される。顔面表現は刺突による目、貼付と刺突による鼻表現は認められるが、口は表現されない。1069 は胴部上半資料で、肩パッド状の突起が施される。中実の作りは、粘土で作った芯棒に肉付けをして製作している。

第 5 群 その他 (1070・1071)

1070 は屈折像土偶で、腰と膝を折り曲げ腕組みをした形状を呈する。左脚と見られ、膝頭部分には肘が置かれていると思われる。屈折した脚部分のサイズから、全形は 30cm 程度の大形と見られ、後期中葉と考えられる。

1071 は土偶の可能性のある資料である。円筒形の中空土偶の胴部と思われるが、詳細は不明である。胴

部には隆帯貼付があり、胴上半には縄文が施文される。福島県三貫地貝塚に類例があるが、不明土製品とした上で「一応土製品としたが香炉型土器、もしくは特殊な土器の一部かもしれない」と報告している（1988 福島県立博物館）。所属時期は不明である。

(b) 土製垂飾 (1072)

計1点出土。NR03 沢跡 (3E24) の河底上に堆積した砂層から見つかった。方形で、四隅には円珠状の突起があり、沈線で仕切られている。このうち、対向する2箇所は穿孔が施され、紐通しを作出している。晩期後半（大洞C2式期）と考えられる。

(c) 土製耳飾 (1073～1075)

計3点出土している。1073は円盤状の中央に穿孔のある滑車形で、縁を全周する刺突文と中央の穿孔から等間隔に両面5方向に刺突文が施される。背面の1箇所にはやや深い楕円形の凹みが作られている。後期初頭に比定される。1073は無文で環状になる器形で、晩期。1074は耳栓で、凹みのある縁には全周する刻みが施される。晩期と思われる。

(d) 土版 (1076・1077)

計2点出土。いずれも破片資料で、板状を呈する。渦巻状の沈線が施される。晩期後半（大洞C2式期）と考えられる。

(e) 球状土製品 (1078)

計1点出土。無文の球体で、成形痕のみ認められる。NR04 沢跡 (4C6)・IV層から出土し、後期中葉と考えられる。

(f) 土鍾 (1079)

計1点出土。楕円形を呈し、長軸に貫通孔を持つ。同方向の器面には、一周する沈線で溝が付けられている。有溝土鍾。NR03 沢跡 (3C11)・IV層下部から出土し、後期中葉と考えられる。

(g) 土器片利用円盤状土製品 (1080～1128)

計49点出土している。素材となった土器片から、1080～1097が「中期末葉～後期初頭」、1098・1099が後期初頭、1100～1105が後期中葉、1106～1114が後期と思われるもの、1115～1123が晩期後半、1124～1128が晩期と思われる資料である。形状は、多角形・楕円形・円形・隅丸方形と様々で、測線は全周または一部を摩滅させ平滑にしたものと、単に打ち欠いて成形したものがある。

(h) 焼成粘土塊 (1129～1137)

計9点出土している。意図的な成形痕跡が認められなく、不整形の資料を一括した。握ったり捏ねた痕跡や、工具のような痕跡が見受けられるものがある。

(i) 不明土製品 (1138～1140)

計3点出土。焼成粘土塊と同様であるが、細長い不整形の資料で、余剰粘土を紐状・棒状に捏ねたものと思われる。出土層位から、1138が中期末葉～後期初頭、1139・1140が晩期中葉と考えられる。

(3) 石器 (第119～134図、写真図版86～95)

今回の調査で出土した石器総数は4,985点である。このうち、剥片・チップが4,688点、製品が297点である。器種は、尖頭器・石鎌・石錐・石匙・笥状石器・スクレイパー類・二次加工ある剥片・微細剥離痕ある剥片・楔形石器・接合資料・石核・剥片・チップ・石斧類・礫器類・敲磨器類・砥石・台石類である。

(a) 尖頭器

1点出土し、図示した(1141)。1141は、1D19・砂礫1層から出土しており、時期不明だが伴出土器から晩期中葉の可能性がある。基部に抉りを有し、長さは14cmを超える。端部は平行する擦痕があり、ドリル使用した痕跡がある。石匙の可能性もあるが、本器種と捉えた。

(b) 石鏃

26点出土し、13点を図示した(13・1142～53)。基部形態からI類・有茎5点、II類・無茎20点、不明1点に分けられる。II類はさらに、A類・凹基形13点、B類・平基形7点に2細分できる。出土地点・層位から、I類・有茎は晩期後半のみ確認され、II A類は中期後葉～後期初頭中心、II B類は後期初頭～中葉に多い傾向がある。素材は、1148の瑪瑙以外はほぼ頁岩製である。また、不掲載だが2B20・II b2層チップ集中箇所から、未製品が1点出土している。基部は未加工で、礫面が残る。

(c) 石錐

13点出土し、6点を図示した(1154～59)。二次加工の頻度によって、I類・丁寧な二次加工が済み部までの広範囲に見られるものが2点、II類・尖基形の直線的な形態を持つものが7点、III類・粗雑な二次加工が錐部だけに集中して見られるものが4点である。素材は、頁岩・赤色頁岩・珪質頁岩が用いられている。類別による時期的な傾向はなく、いずれの形態も後期初頭～晩期後半まで確認される。

(d) 石匙

15点出土し、9点を図示した(1160～68)。摘み部の軸を垂直に位置させた場合、形状が縦長の形になるものをI類、斜めに長くなるものをII類、横長になるものをIII類とした。I類が8点、II類が4点、III類が3点である。素材は、ほぼ頁岩製に限られる。類別による時期的な傾向はなく、いずれの形態も前期中葉～晩期後半まで確認される。

(e) 篋状石器

7点出土し、2点を図示した(1169・1170)。少量のため細別しないが、いずれも撥形を呈する。素材は頁岩に限られる。出土地点・層位から、後期初頭～中葉に集中する。

(f) スクレイパー類

32点出土し、8点を図示した(14・1171～77)。素材である剥片の形状から2形態に分けられる。I類・縦長の剥片を素材とするものが21点、II類・横長の剥片を素材とするものが11点である。石材はほぼ頁岩で、赤色頁岩(I類)1点、珪質頁岩(II類)1点が認められる。東区・S107堅穴住居跡から出土した2点(14ほか1点)は、いずれもII類で、中期後葉と考えられる。その他は、類別による時期的な傾向はなく、前期中葉～晩期後半まで確認される。

(g) 二次加工ある剥片

24点出土し、3点を図示した(1178～80)。素材である剥片の形状から2形態に分けられる。I類・縦長の剥片を素材とするものが13点、II類・横長の剥片を素材とするものが11点である。石材はほぼ頁岩で、赤色頁岩(I類)1点、珪質頁岩(II類)1点が認められる。類別による時期的な傾向はなく、中期後葉～晩期後半まで確認される。

(h) 微細剥離痕ある剥片

15点出土し、2点を図示した(1181・1182)。素材である剥片の形状から2形態に分けられる。I類・縦長の剥片を素材とするものが12点、II類・横長の剥片を素材とするものが3点である。石材は珪質

頁岩（Ⅱ類）1点を除き、他は頁岩である。類別による時期的な傾向はなく、後期初頭～晩期後半に確認される。

（i）楔形石器

3点出土し、2点を図示した（1183・1184）。いずれも2個一対の剥離痕を持つもので、両端に刃部が作出されている。石材はすべて頁岩製で、晩期後半に所属するものである。

（j）接合資料

48点11資料出土し、35点7資料は図示（接合資料1～7）、その他（接合資料8～11）は写真掲載とした。接合資料1は、1185～1199の15点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $\langle 1191 \rightarrow 1198 \rangle \cdot \langle 1197 \rightarrow 1196 \rangle \rightarrow (1188 + 1190) \rightarrow (1192 \rightarrow 1195 \rightarrow 1194 \rightarrow 1193 \rightarrow 1199) \rightarrow 1189 \rightarrow (1187 \rightarrow 1186 \rightarrow 1185)$ で、打面である礫面から $\langle 1191 \rightarrow 1198 \rangle \cdot \langle 1197 \rightarrow 1196 \rangle$ の打撃を加えた後、(1188 + 1190)を剥離し、(1192 → 1195 → 1194 → 1193 → 1199)の大形剥片を連続的に剥離。残核から1189を剥離した後に、(1187 → 1186 → 1185)の大形剥片剥離を行っている。それぞれの剥片はさらに小割りされる。

接合資料2は、1200～1202の3点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1200 \rightarrow 1202 \rightarrow 1201$ で、同一方向からの剥離である。打面は平坦な砥理面を利用しており、同一面から連続的に剥離している。

接合資料3は、1203・1204の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1203 \rightarrow 1204$ で、1203を剥離後に180度打面転位して1204を剥離している。

接合資料4は、1205～1209の5点の剥片と、1232の石核1点からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $\langle 1205 \rightarrow 1208 \rightarrow 1206 \rightarrow 1207 \rangle \cdot \langle 1209 \rangle \rightarrow 1232$ で、 $\langle \rangle$ 同士の前後関係は不明である。

接合資料5は、1210～1214の5点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1212 \rightarrow 1214 \rightarrow 1210 \rightarrow 1213 \rightarrow 1211$ で、石核は伴わない。1212・1210・1211は、いずれも礫面を打面としており、同一方向から剥離している。1214・1213は、それぞれの作業面高が減じた間にあり、連続的に剥離されている。

接合資料6は、1215・1216の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1215 \rightarrow 1216$ で、石核を伴わない。いずれも礫面を打面としているが、1215を剥離後に、90度打面転位を行い、1216を剥離している。

接合資料7は、1217・1218の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1217 \rightarrow 1218$ で、石核を伴わない。いずれも礫面を打面としており、同一方向から連続的に剥離している。

接合資料8は、1219～1222の4点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1219 \rightarrow (1220+1221+1222)$ で、石核を伴わない。1219は石核から剥離前の剥離、1220～1222は折れと考えられる。

接合資料9は、1223～1226の4点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1223 \rightarrow (1224+1225+1226)$ で、石核を伴わない。1223は礫面を打面とし、横長の剥片を剥離、その後180度打面転位し1224～1226を剥離したと考えられる。

接合資料10は、1227～1229の3点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1227 \rightarrow 1228 \rightarrow 1229$ で、石核を伴わない。1227は礫面を打面とし剥離、その後1228の横長剥片を剥離、最後に1229の縦長剥片を剥離している。

接合資料11は、1230・1231の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $1230 \rightarrow 1231$ で、石核を伴わない。1230は上部剥片と同一だが、折れている。1230を剥離後、90度左に打面転位し、1231を剥離している。

(k) 石核

38点出土しており、6点を図示した(1232～1237)。1232は、接合資料4で説明したので除く。出土した石核の大半は礫面を残す粗割り段階の資料(I類)で、礫面を残さない剥離作業段階の資料(II類)は3点のみである。

石核の剥片剥離作業について、新潟県清水上遺跡(新潟県教委1990)、新潟県アチャ平遺跡上段(新潟県・朝日村教委2002)を参考に分類を試みた。

剥離作業の手順から7分類した。A類は、同一打面から同一作業面に同方向の剥離を行うもので、3点出土。B類は、同一作業面に別々の打面から剥離するもので、6点出土。このうち、全周するものが3点、180度転位するものが1点。C類は、同一打面から別々の作業面に同方向の剥離を行うもので、4点出土。D類は、稜線上の交互剥離が全周しないもので、7点出土。E類は、稜線上の交互剥離がほぼ全周するもので、4点出土。F類は、別々の打面・作業面に約90度ずれる剥離が5点、古い作業面を打面とする剥離が3点、別々の打面・作業面に約180度ずれる剥離が2点の計10点出土。G類は、両極打法による剥離で、3点出土。

(l) 剥片・チップ

剥片(概ね1cm以上)が973点(30989.7g)、チップ(概ね1cm以下)が3715点(116.3g)出土した。剥片のうち、接合資料として47点を図示した(1185～1231)。剥片の大半は、在地頁岩と捉えられ、その他の石材は極端に少ない。東区・S I O 7 窪穴住居跡床面から、黒曜石製の剥片1点が出土しており、特筆される。産地は肉眼観察から北上川流域(花泉周辺か)と考えられるが、産地同定は未実施である。チップ(1238～1244)としているものは、2B20 II b2層のチップ集積から出土したもので、晩期後半(大洞C2式)に比定される。1241は珪質頁岩、それ以外は頁岩と見られる。第36図に層位ごとの剥片出土分布図を示した。II b層ではNR03沢跡右岸の3B2・7に濃密な集中域が確認され、剥片剥離作業もしくは集中した廃棄行為が想定される。それ以外の分布はやや散逸的であるが、III層ではNR03古沢跡、IV層ではNR05・07沢跡岸辺が利用されたことが認められる。

(m) 石斧類

器面全体または一部を研磨・敲打、剥離などで成形した刃部を有する斧形の石器を石斧類として一括した。この中には土掘り具とされるものも含まれている。16点出土しており、7点を図示した(1245～1251)。加工から2形態に分けられ、I類磨製石斧が6点(1245～47)、II類打製石斧が10点である。II類は形状により、A類撥形が9点(1248～50)、B類分銅形が1点(1251)に細分される。大半は晩期後半の層位から出土しているが、II A類の1250は後期初頭～中葉と考えられる。

(n) 礫器類

10点出土しており、4点を図示した(1252～55)。素材礫と加工の頻度から、2形態に分けた。I類が、円形や楕円形などの礫を素材とし、全周する剥離を行うもので6点出土(1252・1253)。II類が、扁平な礫を素材とし、一部に加工を行い、刃部を成形したもので4点出土(1254・1255)である。I類はすべて晩期後半の層位から出土しており、II類は後期初頭～中葉も混在する。素材はすべて頁岩である。

(o) 敲磨器類

37点出土しており、10点を図示した(15・1256～1264)。使用痕跡(敲打痕・磨痕・凹痕)の組み合わせから5分類できる。I類は敲打痕だけを有するもので、10点出土。II類は磨痕だけが認められるもので、9点出土。III類は凹痕だけが認められるもので、13点出土。IV類は磨痕と敲痕が複合して

認められるもので、3点出土。V類は敲打痕と凹痕が複合して認められるもので、2点出土である。今回の調査では多量の堅果類が出土していることから、トチなどの「皮剥き石」としての機能が想定されるが(栗島 2008)、明確に指摘できる資料は不明である。ただし、堅果類出土地点の周辺から確認された敲磨器類も複数あるため、その可能性は十分考えられる。

(p) 砥石

1点出土している。今回、図示しなかったが、凝灰岩製の扁平礫の端部付近に擦り痕が観察される。東区黒色土中から出土しており、中期後葉に属すると思われる。

(q) 台石類

14点出土しており、3点を図示した(1265～1267)。いずれも正面に敲打痕や擦痕、凹痕が確認される。石材は、溶結凝灰岩や凝灰岩、斑岩、石英斑岩、砂岩、花崗閃緑岩があり、現在も新田沢沿いに散見される石材である。敲磨器類とのセット関係が指摘できる。

(4) 石製品 (第135図、写真図版95)

(a) 石棒類

4点出土しており、2点を図示した(1268・1269)。1268は有頭石棒で断面形が楕円形を呈する。1269は端部・基端部が欠損しており不明だが、断面形が円形を呈すると考えられる資料である。その他に、基端部が蛤形を呈する資料と、扁平礫の片側にグリップ状の溝彫が施される資料がある。掲載資料はいずれも晩期または晩期後半と考えられる。

(b) 不明石製品

1点出土しており、図示した(1270)。楕円形の礫端部に台形状の突起を作出し、これに対向する側縁部に帯状の凹みを作出している。形状から、紐掛けが想定されるが不明である。晩期後半(大洞C2)期の資料と考えられる。

(5) 木製品 (写真図版95)

1点出土しており、図示した(1271)。3D12・13砂礫4層直上から出土した。端部が二又に分かれており、長さが176.5cm、先端部に焦げ痕が認められる。当初、櫛状木製品を想定していたが、断面形状が円形から楕円形を呈することから異なる用途が考えられ、部材が想定された。後期初頭～中葉に所属すると見られる。樹種はサクラ属。

(6) 昆虫 (写真図版97)

NR02・03沢跡・II b3・II b5層とNR04・05沢跡・IV層の泥炭層中から採取した土壌サンプルをセバレーションしたところ、自然堆積した昆虫遺体13試料を確認した。詳細はVI-5に記載したが、出土昆虫から比較的湿度の高い雑木林と草地環境が推定されている。

(7) 動物遺存体(焼骨) (写真図版97・98)

縄文時代晩期後半に所属するNR02・03沢跡を主体に、沢岸部分から焼骨22.0gが出土した。いずれも細片で、種類を特定するには至らなかった。その他に、縄文時代中期後葉～後期初頭のNR05沢跡岸辺からも種類不明の細片0.2gが確認されている。

(8) 植物遺存体(堅果類・植物葉・樹木)(写真図版98～104)

今回の調査区の大半が水漬け状態であり、腐食を免れた有機質遺物がまとまって出土した。特に現在の新田沢に近い位置にある縄文時代晩期に所属するNR02・03沢跡からは、良好な状態の堅果類殻、植物の葉、樹木が多量に確認されている。

本項では、出土した堅果類のうち、特に出土量の多いオニグルミ、トチノキ、クリについて、各々の出土状況と出土量、分布、破損について述べる。なお、分析方法については、新潟県野地遺跡(新潟県埋文2009)を参考とし、古代の森研究会吉川純子氏、岩手大学非常勤講師名久井文明氏のご教示を得た。

(a) オニグルミ

クルミには、オニグルミやヒメグルミなどの種類があるが、今回の調査で確認できたのはすべてオニグルミである。合計4,539g出土した。重量はいずれも湿潤重量である(g)。

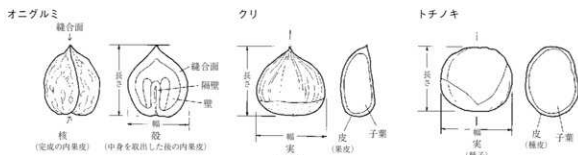
出土したオニグルミについて、残存する形状を4分類した。「完形」はまったく破損のない個体65個651.1g、「半分」は縫合面で半裁しているが破損のない個体214個860.3g、「1/4以上残存の破損」は何らかの破損箇所を持つ個体317個960.7g、「分類×」はいずれにも当てはまらない個体829.7gである。また、この他にリスやネズミなどの動物食痕が確認できる個体もある。このうち、「完形」、「半分」、また「動物食痕」の個体はいずれも新田沢沿いに落下した実が自然に堆積したものと考えられる。「半分」については、縫合面から全く欠損させずに人為的に割がしたとも考えられるが、明確な痕跡は確認できないため、今回は除外する。

この中で、「1/4以上残存の破損」と「分類×」が人為的な行為によって産出された殻と考えられる。「分類×」には、人為的な行為によって割られた殻の細片(1/4未満)が多量に含まれるが、個数を確認するまでには至らなかったため、重量のみを掲載している(第35表)。

「1/4以上残存の破損」した個体は、その破損位置から「頂部+底部」、「頂部のみ」、「底部のみ」、「それ以外」の4つに分類される。最も多いのは、「それ以外」欠損で170個434.5g、次いで「頂部のみ」欠損で102個369.5g、「底部のみ」欠損で30個114.5g、「頂部+底部」欠損で15個42.2gである。これから、クルミ頂部付近を日掛けて打撃を加えていると考えられる。また、大半の個体については壁や隔壁が破損しており、これからも人為的な力が加わっているとことが裏付けられる。

出土した個体の中に、炭化したクルミを17個確認した。層別別に見ると、Ⅱb層15個、Ⅳ層2個である。特に2B15グリッドⅡb2層からは、7個まとまって出土した。クルミは熱を受けることによって、縫合面が剥離しやすくなることがあり、子葉を取り出しやすくなる。作業の軽減のために、熱を加えた可能性がある。

クルミのサイズについて、計196個を計測した。平均値は、長さ3.29cm×幅2.61cmである。長さの最大値は4.6cm、最小値は2.3cm、幅の最大値は3.3cm、最小値は1.9cmである。これらを出土層位ごとに平均値をみると、Ⅱb層は3.33cm×2.63cm(59個)、Ⅲ層は3.40cm×2.73cm(6個)、Ⅳ層は3.29cm×



第33図 堅果類の部位名称

新潟県埋文2009「野地遺跡」から転載使用

258cm (96 個)、各砂礫層ほかは 3.23cm×2.65cm (37 個) となる。新潟県野地遺跡では、現生オニグルミの計測を行っており、平均値で長さ 3.17cm×幅 2.43cm (502 個) という結果を得ている (新潟県埋文 2009)。これと比較すると、本遺跡出土オニグルミはいずれの時期もこの数値を上回っている。野地遺跡出土オニグルミの平均値は、本遺跡とほぼ同等であることから、両遺跡とも現生と比べて、サイズの大きな個体を獲得していたことが分かる。

最後に、層位ごとの出土状況について、第 37 図に分布図を示した。出土量が最も多い II b 層では、NR02・03 沢跡右岸の 2B15・20、3B1・6・11・16 付近がいずれも 70g を超えており、縄文晩期のこの箇所に入為的に集中廃棄されたことが分かる。特に、2B15・II b2 層からは 569.0g、3B11・II b3 層からは 609.1g とまとまって確認されている。また、縄文後期中葉の III 層では、NR03 沢跡右岸の 3C19 付近のみと小範囲、縄文中期後葉～後期初頭の IV 層では、NR05・07 沢跡右岸の 4B23・25、4C9 付近がそれぞれ集中箇所となり、各時期に入為的に廃棄が行われていたことを示している。

(b) トチノキ

トチノキは、出土堅果類の中で最も多量に認められ、湿潤重量で合計 21,475g 出土した。この他に外皮 (果皮) 付きや外皮のみが 1,922 g 出土しているが、これらは自然堆積物とみなして分類しなかった。

トチノキの残存する形状を、「完形」、「カケ (一部欠損)」、「1/2 以上残存」、「1/2 未満残存」に分類した。完形・カケ・1/2 以上については、それ自体で 1 個体とカウントされるため、個体数も計測した。また、これ以外に出土トチノキについて、発芽孔の計測も行った。発芽孔は、1 個体につき 1 箇所についているため、細片でも個体数を把握するのに有効であることを名久井氏からご教示頂いた (名久井 2006)。

1/2 未満としたものは、大半が 1×1cm 未満の細片である。これは、子葉を取り出す際に粉々に破砕するなど形状を大きく変化させているためと見られる。ただし、トチノキの種皮は非常に脆弱であるため、出土してから整理に至る段階でも壊れて小さくなっている可能性がある。このため、破損個体のサイズ比較は行わず、自然堆積物であるが完形個体が出土した場合の個体に限り比較対象として計測を行った。

形状別に見ると、「完形」は 64 個 587.5g、「カケ (一部欠損)」は 196 個 712.0g、「1/2 以上残存」は 374 個 836.9g、「1/2 未満残存」は 19,963.9g に分けられる。このうち、「完形」及び「カケ (一部欠損)」は沢に落下した実が自然堆積したものと考えられる。残りの「1/2 以上残存」「1/2 未満残存」は、大半は人為的な破砕によるものの可能性が高い。残存個体の形状の違いは、大きく割って大きな状態の中身を取り出すものと、細かく割って砕かれた中身を取り出すものの作業工程の違いによるものと見られる。これは、作業後の利用の仕方の違いによるものと考えられる。本遺跡では、後者の作業方法が主体的に用いられていたことを示している。

トチノキのサイズについて、計 143 個を計測した。平均値は、長さ 2.43cm×幅 2.95cm である。長さの最大値は 3.3cm、最小値は 1.2cm、幅の最大値は 4.2cm、最小値は 1.3cm である。出土層位ごとに平均値を見ると、II b 層は 2.57cm×3.10cm (20 個)、III 層は 2.58cm×3.15cm (6 個)、IV 層は 2.38cm×3.00cm (49 個)、各砂礫層ほかは 2.42cm×2.85cm (68 個) となり、クルミと同様に縄文晩期後半の II b 層や縄文後期中葉の III 層の時期には個体サイズが大きくなる傾向にある。前述の通り、出土したトチノキの大半は 1/2 未満の細片で、サイズ計測できたものは各層に含まれる自然堆積物であるが、同一層位から出土した個体もほぼ同等サイズであったと考えられる。サイズの違いから、縄文後期初頭と後期中葉の間には、気候変化が有り堅果類の生育に差が生じたのかもしれない。

最後に、層位ごとの出土状況について、第 38 図に分布図を示した。出土量が最も多い II b 層では、NR02・03 沢跡右岸の 2B15・20、3B1・2・6・11・16 付近がいずれも 100g を超えており、クルミと同様に縄文晩期のこの箇所に入為的に集中廃棄されたことが分かる。特に、2B20・II b3 層からは 5,369.8g、

3B11・II b5層からは50488g出土しており、細片主体で構成されている。また、縄文後期中葉のⅢ層では、NR03 沢跡右岸の3C19付近のみと小範囲、縄文中期後葉～後期初頭のⅣ層では、NR05・07 沢跡右岸の4B14・24、5C1 付近が集中箇所となり、各時期に人為的廃棄が行われていたことを示している。

(c) クリ

クリは、堅果類の中では最も少なく、湿潤重量で合計17835g出土した。今回出土したクリの大半は剥かれた果皮であるが、一部、完形や炭化した子葉、総苞破片(種)も確認している。

クリの残存する形状を、「完形」、「カケ(一部欠損)」、「1/2以上残存」、「1/2未満残存」に分類した。完形・カケ・1/2以上については、それぞれで1個体とカウントされるため、個体数も計測した。

1/2未満としたものは、大半が1×1cm未満の細片である。これは、子葉を取り出す際に果皮を細かく剥くなど形状を大きく変化させているためと見られる。吉川純子氏の観察によれば、作業方法の違いにより縦半分剥痕跡、片面のみ残剥痕跡、完形果皮剥痕跡があるものに分けられる。詳細はVI-3種実同定を参照されたい。

形状別に見ると、「完形」は4個77g、「カケ(一部欠損)」は60個1294g、「1/2以上残存」は173個2577g、「1/2未満残存」は13887gに分けられる。このうち、「完形」及び「カケ(一部欠損)」は沢に落下した果実が自然堆積したものと考えられる。残りの「1/2以上残存」「1/2未満残存」は、集中廃棄されている出土状況からも大半は人為的な剥離作業によるものの可能性が高い。

クリのサイズについて、計14個を計測した。平均値は、長さ241cm×幅254cmである。長さの最大値は35cm、最小値は16cm、幅の最大値は39cm、最小値は16cmである。出土層位ごとに平均値を見ると、II b層は270cm×270cm(3個)、Ⅲ層は260cm×280cm(2個)、Ⅳ層は238cm×262cm(6個)、各砂礫層ほかは203cm×203cm(3個)となり、クルミ・トチノキと同様に縄文晩期後半のII b層や縄文後期中葉のⅢ層の時期には個体サイズが大きくなる傾向にある。

最後に、層位ごとの出土状況について、第39図に分布図を示した。出土量が最も多いのは、縄文中期後葉～後期初頭のⅣ層で特にNR04 沢跡の3C24が1356.3g、4C24が1188gに集中廃棄されている。また、縄文後期中葉のNR03 右岸の3C19から1775g出土している。II b層からも出土しているが、他層位と比べると極端に低い。Ⅲ～Ⅳ層期に旧新田沢沿いに多く生育していたためか、多く獲得・廃棄が行われている。

(d) 植物葉

今回の調査では、種実以外の有機質遺物も確認されている。植物の葉は、落葉で低湿地に自然堆積したものが腐食を免れて確認されたものである。16地点から資料を採取し、古代の森研究舎吉川純子氏に同定を依頼した。

4地点から採取した資料の種類を特定して頂いた。1413は縄文晩期大洞C2式期の2A25・II b5層から出土したケヤキ、1415は縄文晩期後半の2F20・砂礫2層から出土したブナ・コナラ・クリ・ケヤキ・イタヤカエデ・カバノキ属・サクラ属・ケヤマハンノキ・ヤマフジ・アサダ?・ハウチワカエデまたはオオモミジ・ケンボナシ属、1422は縄文後期初頭～中葉の3C24・Ⅳ層から出土したフジ属の果皮、1423は3D17・砂礫4層から出土したケヤキである。出土した葉は、非常に脆弱であり、また腐食により全形を留めているものは少なく、資料の大半は種類を特定することが困難であった。

(e) 樹木

旧新田沢の周辺環境を推定する目的から、流路の河底に堆積した自然木をサンプル採取した。48点を採取し、樹種同定を古代の森研究舎吉川純子氏に依頼した。詳細はVI-4樹種同定を参照されたい。

縄文時代中期後葉～後期初頭の NR05 沢跡からはクリ属、縄文時代後期初頭～中葉に推定される NR04 沢跡からはケンボナシ属・ケンボナシ属（根材）・コナラ節・ヤナギ属・オニグルミ・クマシデ節・ナシ亜科・ニレ属・カエデ属・ミズキ、縄文時代晩期後半の NR02・03 沢跡からはトネリコ属（根材）・トネリコ属・クマシデ節・コナラ節・ナシ亜科・トチノキ・カエデ属・カツラ・ニレ属、主に平安時代と考えられる NR01 沢跡からはトネリコ属・ヤナギ属・アサダ・カエデ属・カツラが認められた。これらは、各流路で出土した種実や葉の種類とも合致しており、旧新田沢の各時期に沢付近に自生していたと考えられる。

各流路は、土壌の堆積状況と有機質遺物の出土状況から、水流の停滞時期があったことが想定され、その時期の河底からは有機質遺物が集中して出土している。落葉広葉樹林が沢近くまで生育し、トネリコ属（ヤチダモ）などが生育する湿地環境が存在したことが分かる。

2 平安時代及び平安時代以降

(1) 須恵器・土師器（第 136・137 図、写真図版 96）

平安時代の遺物は中コンテナで 1 箱分出土しており、このうち器形が推定できる 22 点を掲載した。

土師器は坏・高台付坏・甕の 3 器種を確認した。内面黒色処理されたものと、非黒色処理の坏が認められる。

坏類の底径の大きさは推定復元も含めて 4.2～7.2cm であり、6.0cm 前後が多い。その中で底径 7.2cm の 1286 は内面にかすかにミガキの痕跡が確認できることから黒色処理が施されているとしたが、2 次被熱で黒色処理が見えなくなったと推定した。また器形も碗形のものが多く、体部の丸みが下半に寄る傾向にある。これ以外に直線的に開く器形で逆台形状になるものがある（1284・1286）。体部下半（底部）付近にケズリが確認できるのは 1282・1283・1284 である。土師器甕は、内面黒色処理が施された小形甕が出土した（1296）。また、1299 も口縁がほぼ垂直もしくは弱めに外反する。

非黒色処理の土師器は、4 点を掲載した。非黒色の土師器坏は 2 点である。1292 は先端が細くなる。土師器甕は内黒 1 点非内黒を 1 点掲載した。

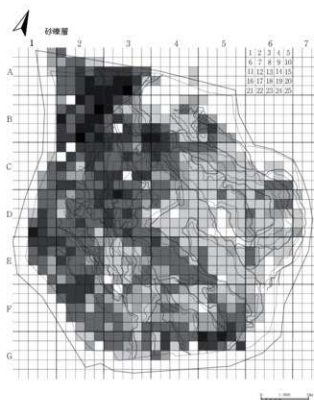
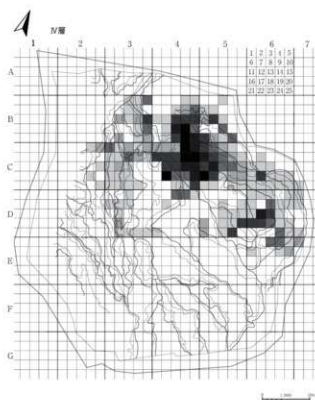
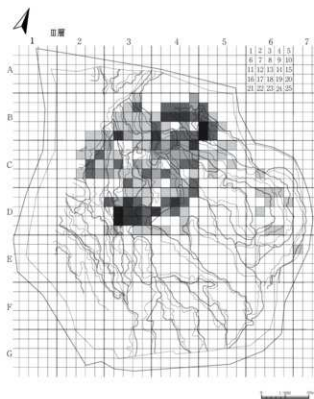
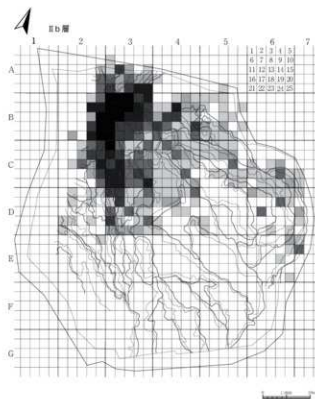
出土した須恵器は、すべて大甕の破片であり、6 点を掲載した。断面を観察すると、焼け膨らみを確認できるものが多い。成形時に粘土の空気抜きを十分行っていなかった可能性と、成形時に不足した粘土を付加した際にタタキが不足していた可能性がある。

1290 は様相を異にする。器厚があり、口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がること、口端部が丸くなるという部分で本遺跡出土の他土師器とは異なり、近世以降の可能性もある。類例として奥州市水沢区（旧水沢市）に位置する白井坂 I・II 遺跡から出土したかわらけがあげられ、口径が大きく、立ち上がりもやや直線的であることが共通する。

今回出土した土師器坏の碗形を呈する器形を含む器種組成から、9 世紀後半～10 世紀初頭と考えられる。（巴）

(2) その他の遺物

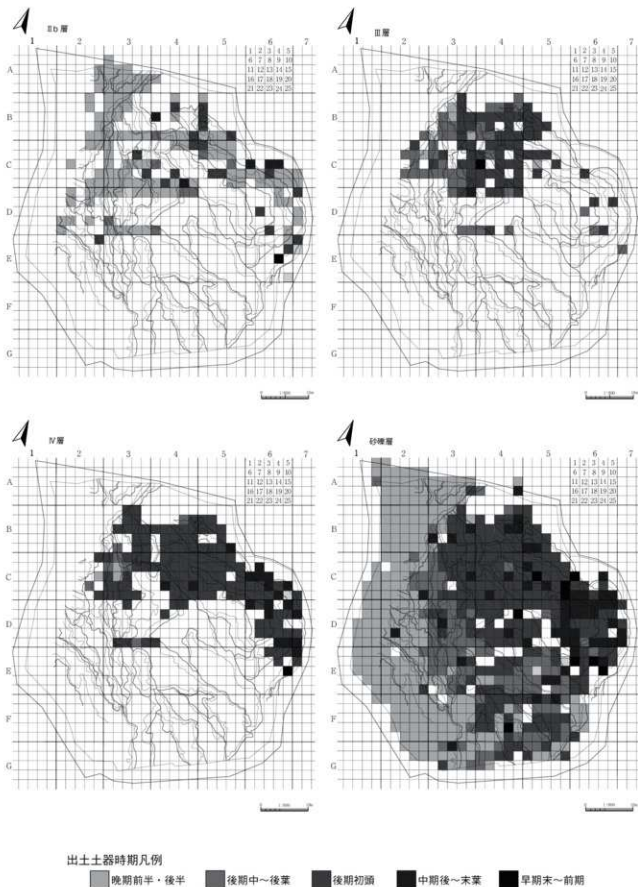
上述した各時期の遺物のほかに、陶磁器ビニール 1 袋と蹄鉄 2 点や釘 4 点などの鉄製品が出土した。表土を中心に出土しており、近現代に属すると考えられる。



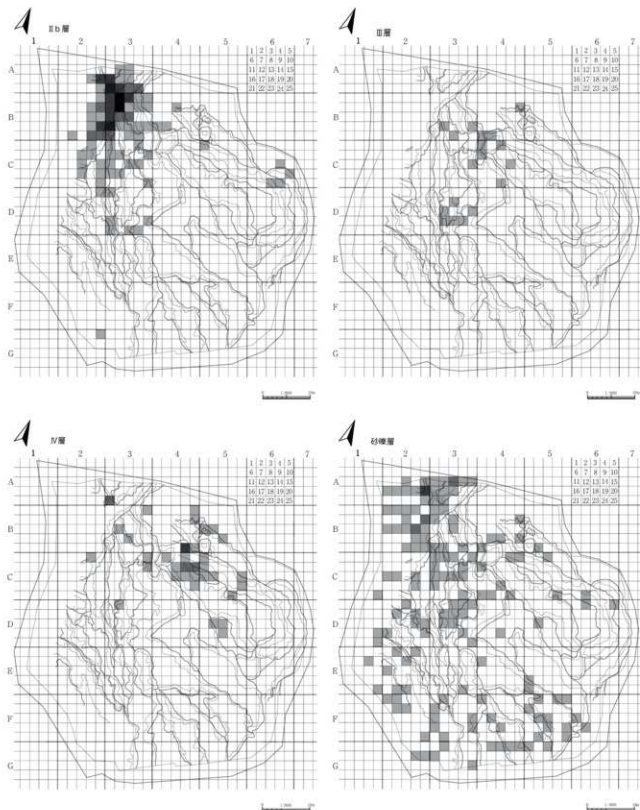
土器出土量凡例



第 34 图 西区·土器出土量分布图



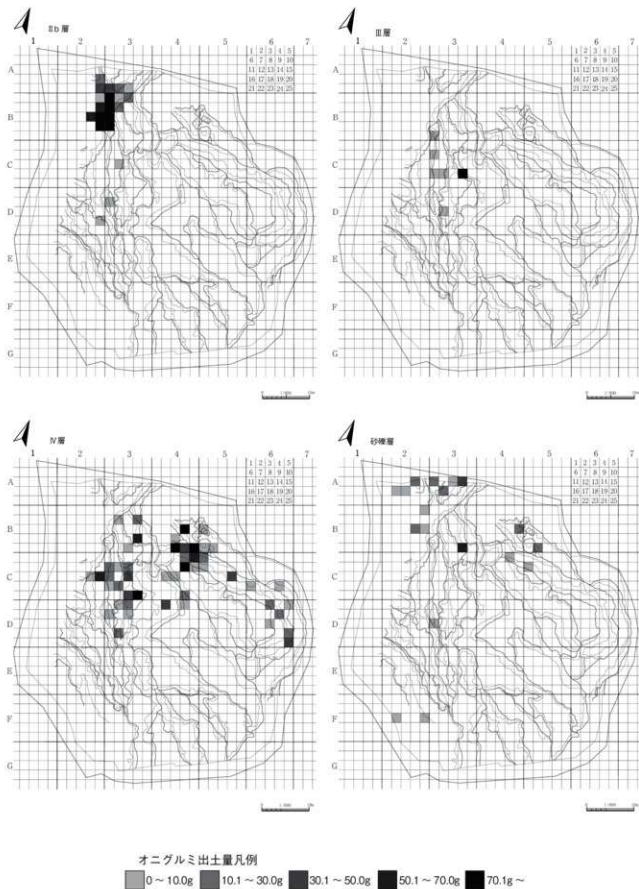
第35圖 西区・土器時期別分布図



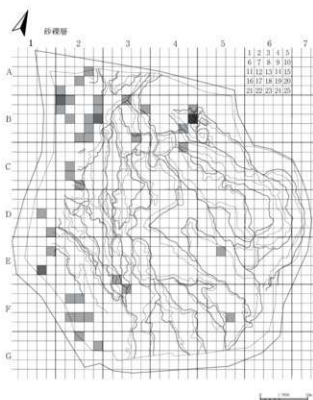
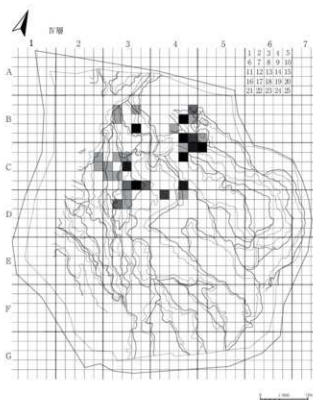
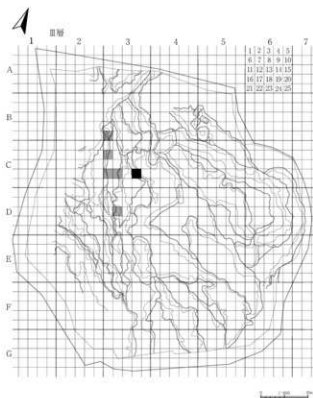
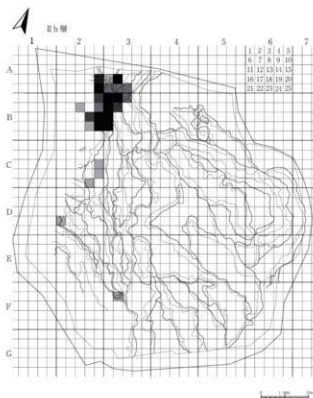
剥片出土点数凡例

■ 1~5点 ■ 6~10点 ■ 11~20点 ■ 21~30点 ■ 31以上

第36图 西区·剥片出土分布图



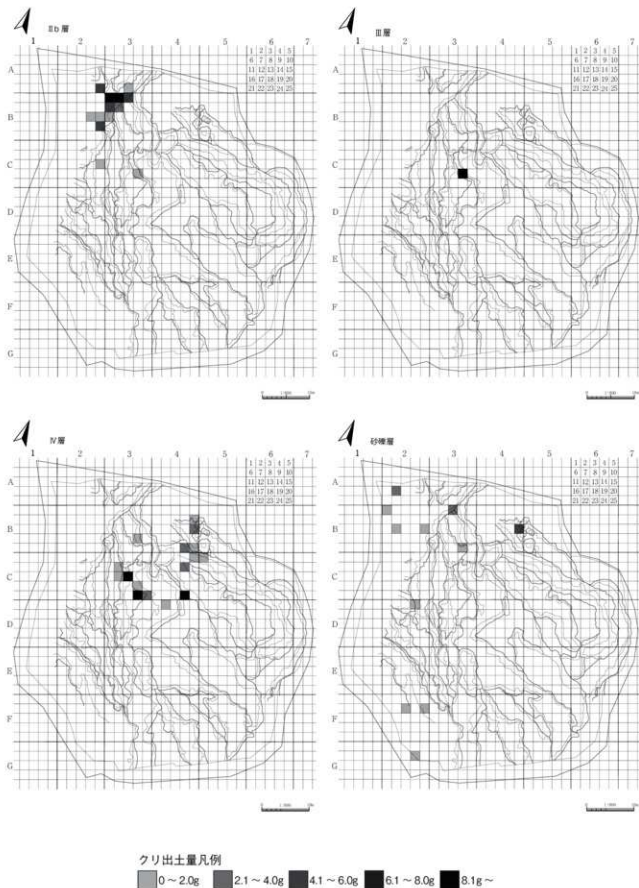
第 37 図 西区・堅果類出土分布図 (1) オニグルミ



トチノキ出土量凡例

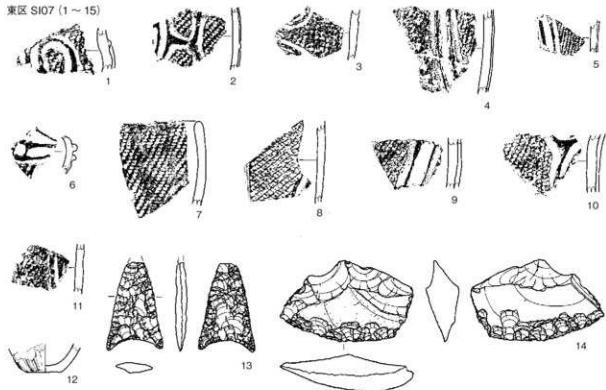
0 ~ 25.0g
 25.1g ~ 50.0g
 50.1 ~ 75.0g
 75.1 ~ 100.0g
 100.1g ~

第 38 図 西区・堅果類出土分布図(2) トチノキ

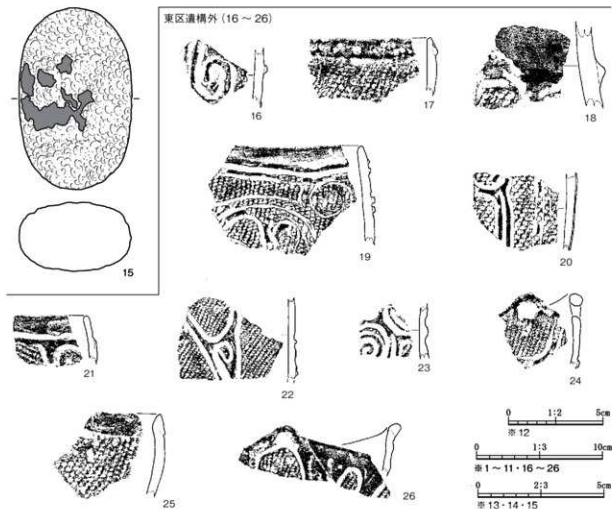


第39図 西区・堅果類出土分布図(3) クリ

東区 SI07 (1 ~ 15)



東区遺構外 (16 ~ 26)

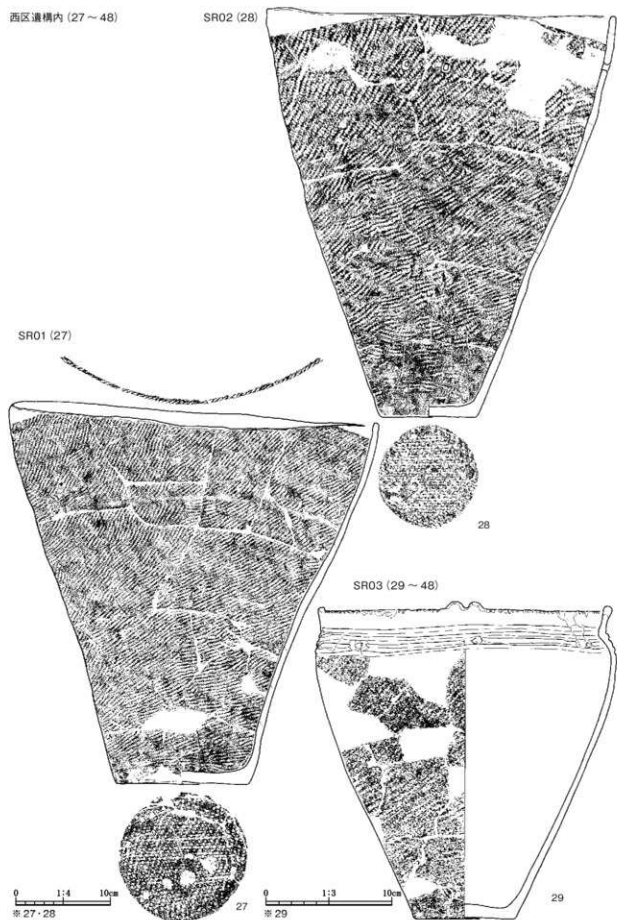


第 40 図 東区・SI07・遺構外

西区遺構内 (27~48)

SR02 (28)

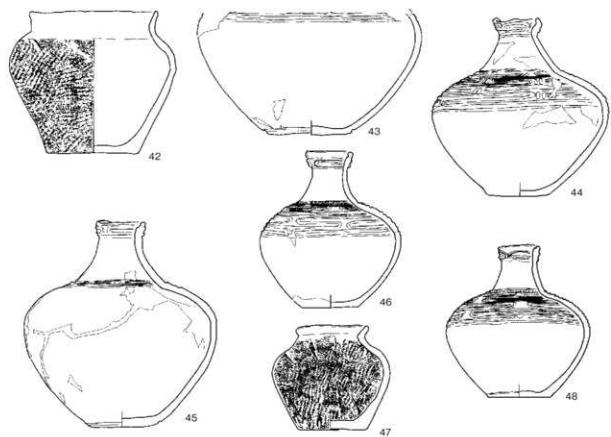
SR01 (27)



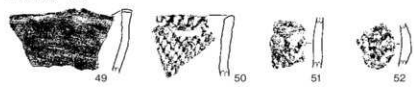
第41図 西区・SR01・SR02・SR03 (1)



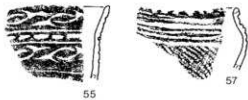
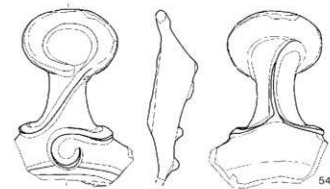
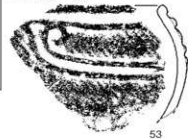
第 42 图 西区·SR03 (2)



P101 (49 ~ 52)

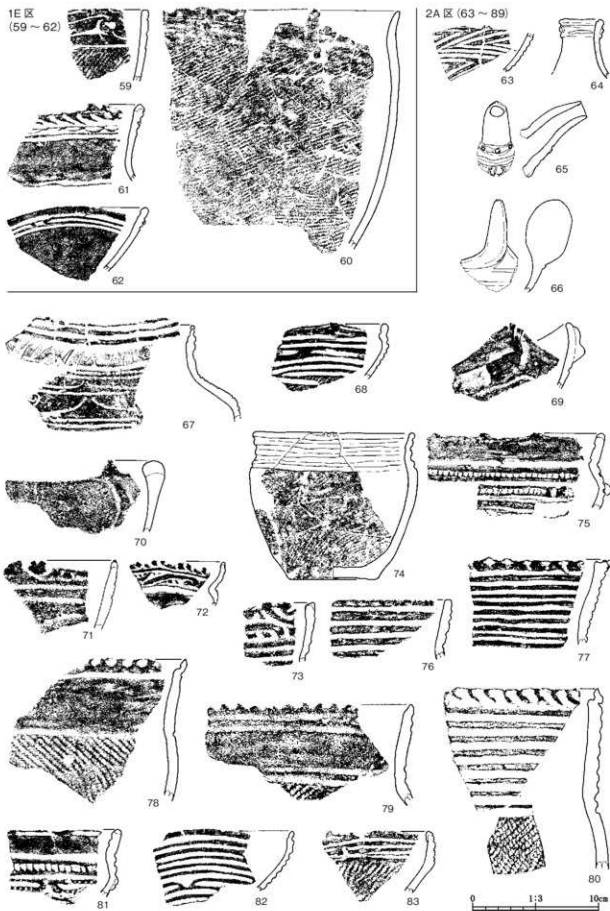


1D区 (53 ~ 58)

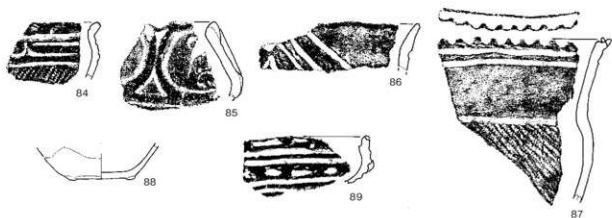


0 1:3 10ca

第43图 西区·SR03(3)·P101·1D区



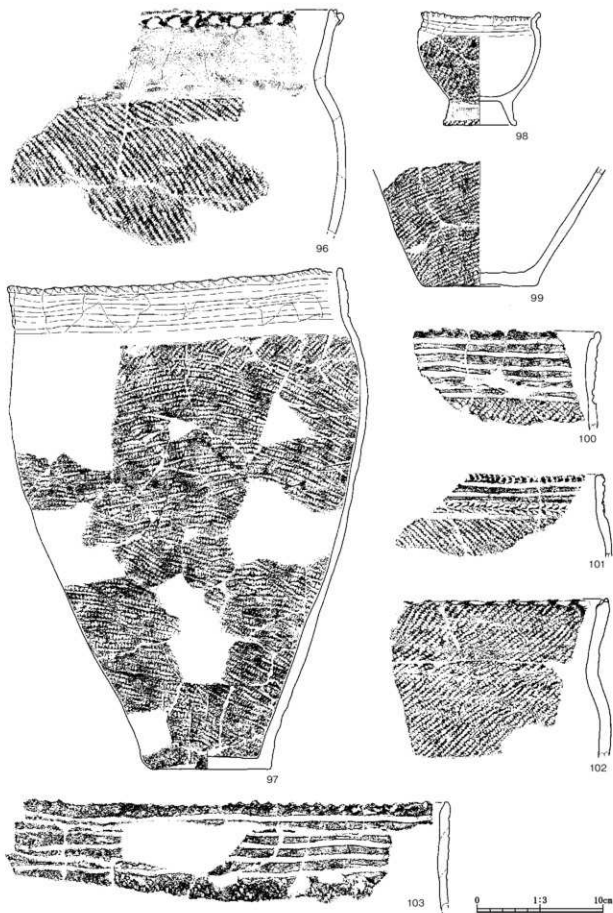
第44图 西区·1E区·2A区(1)



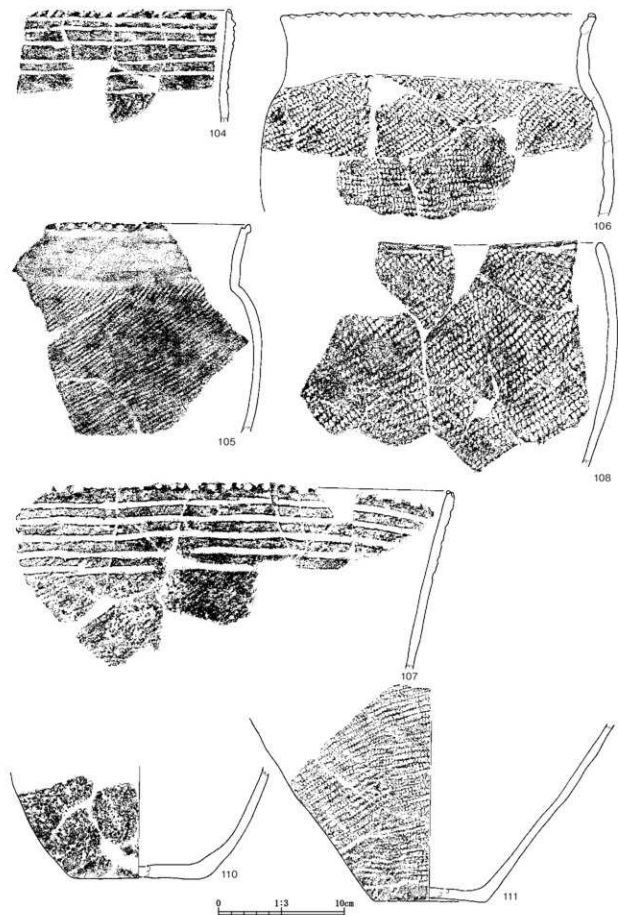
2B区(90~187)



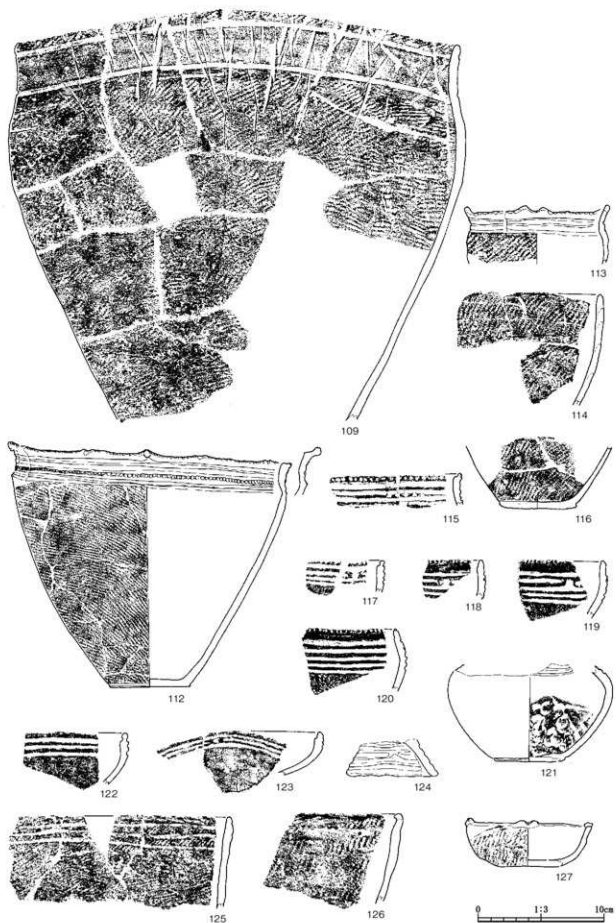
第45図 西区・2A区(2)・2B区(1)



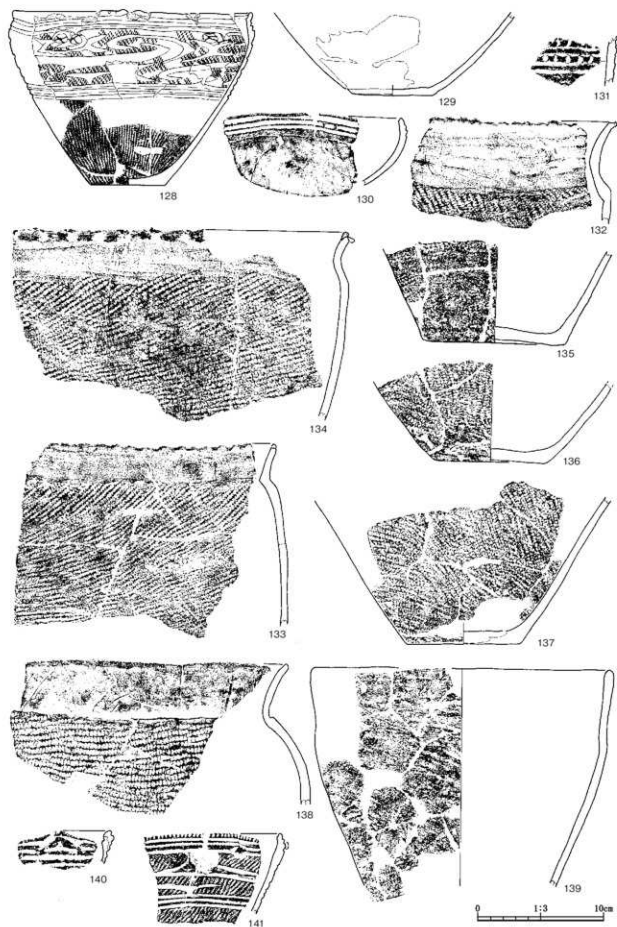
第 46 图 西区·2B 区(2)



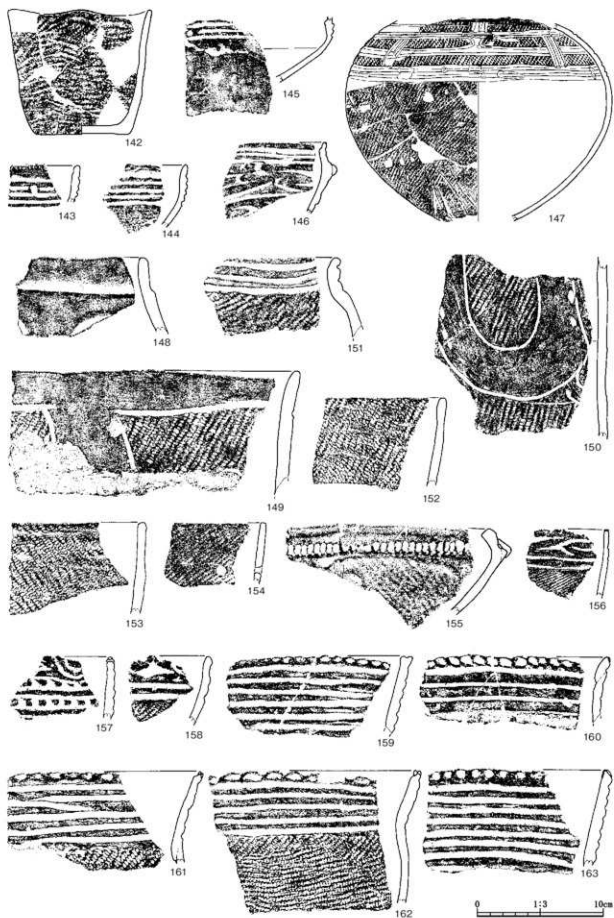
第47图 西区·2B区(3)



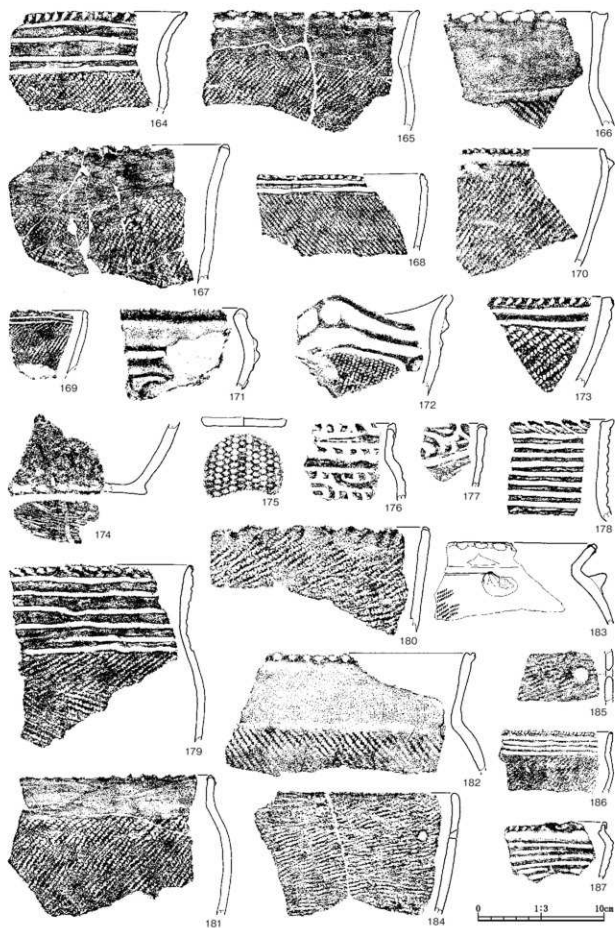
第48图 西区·2B区(4)



第49图 西区·2B区(5)



第50图 西区·2B区(6)

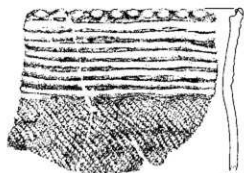


第 51 图 西区·2B 区 (7)

2C区 (188 ~ 224)



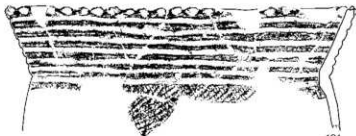
188



190



189



191



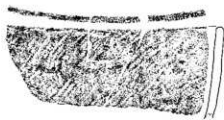
192



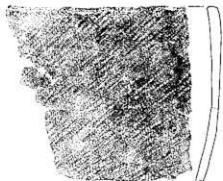
193



194



197



195



196



199



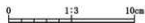
198



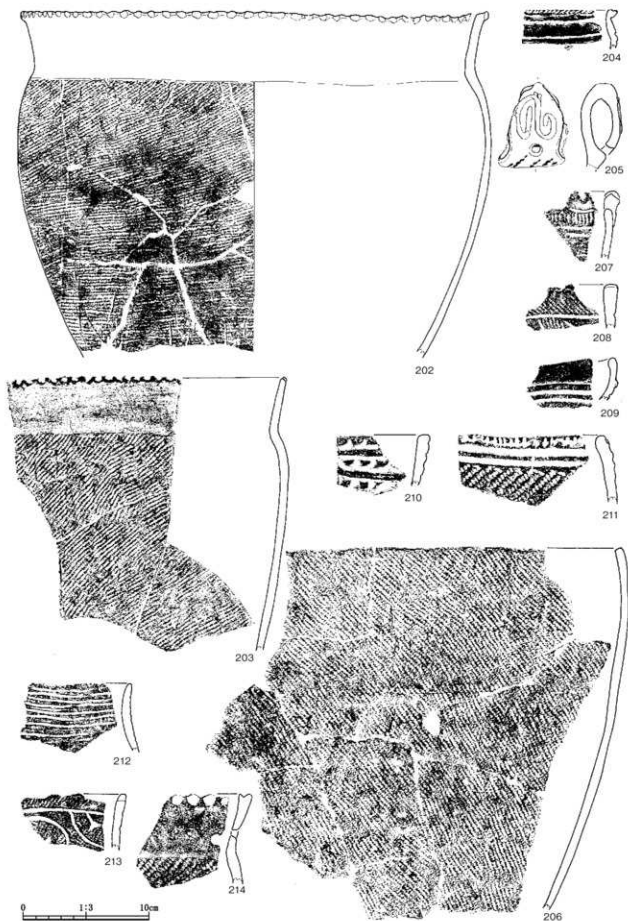
200



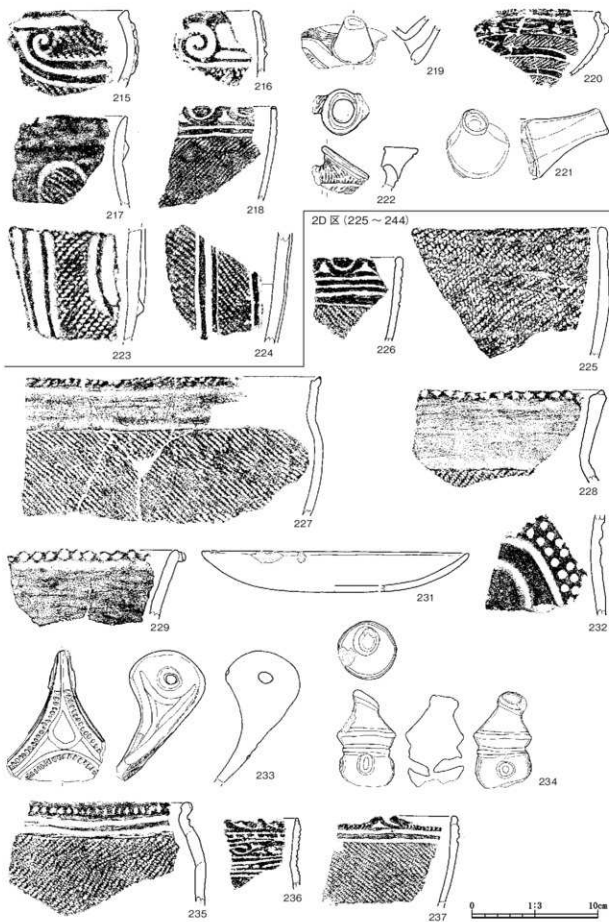
201



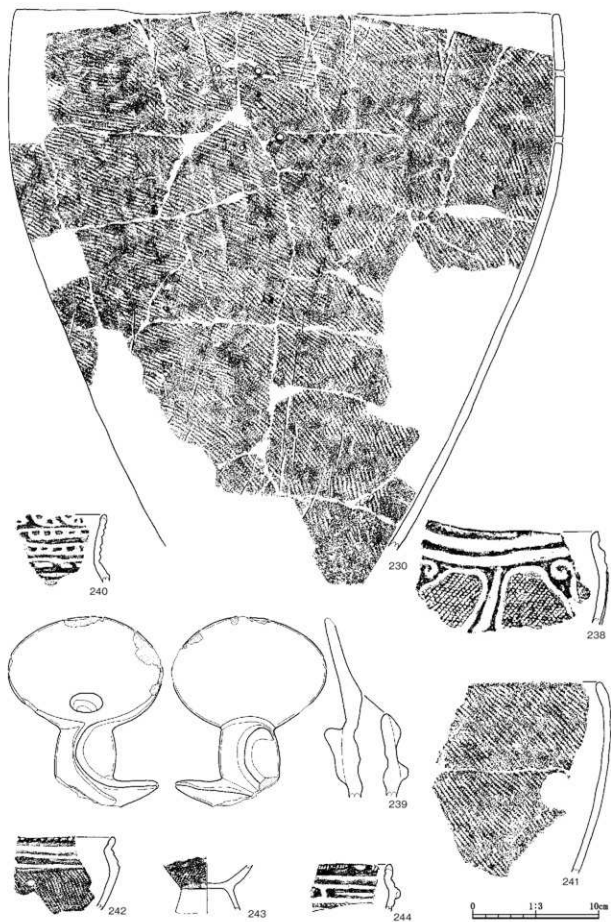
第52图 西区·2C区(1)



第53图 西区·2C区(2)

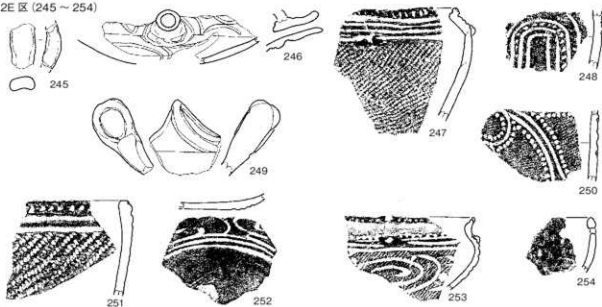


第54图 西区·2C区(3)·2D区(1)

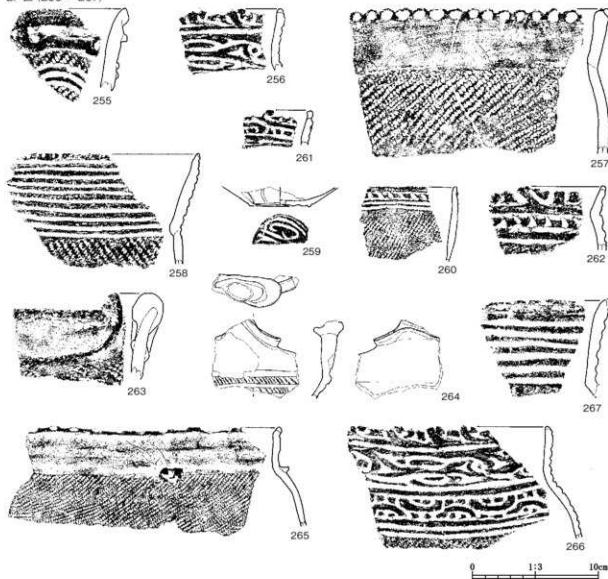


第55图 西区·2D区(2)

2E区 (245 ~ 254)

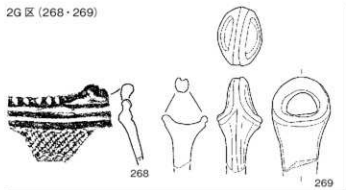


2F区 (255 ~ 267)



第56图 西区·2E区·2F区

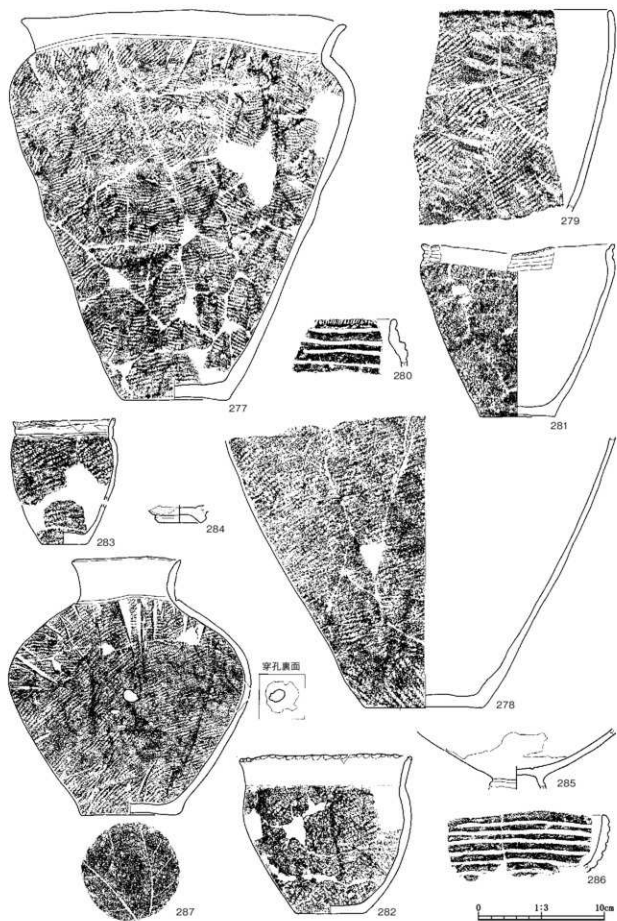
2G区 (268・269)



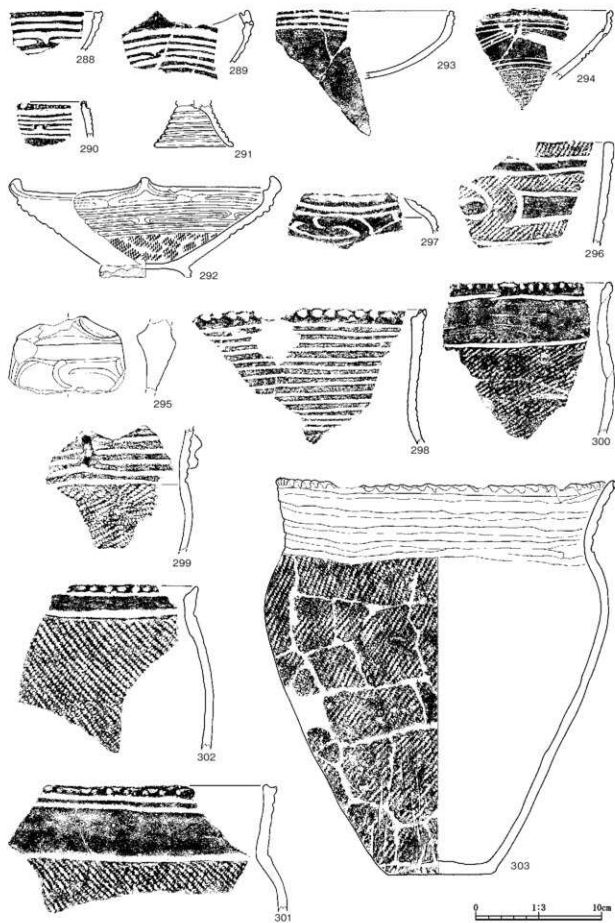
3A区 (270~318)



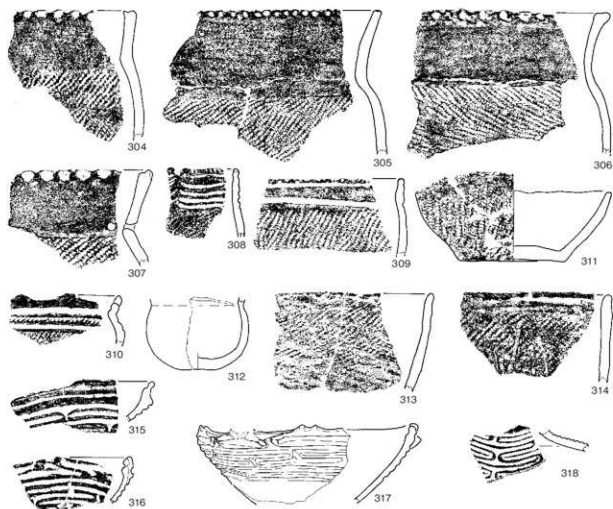
第57図 西区・2G区・3A区(1)



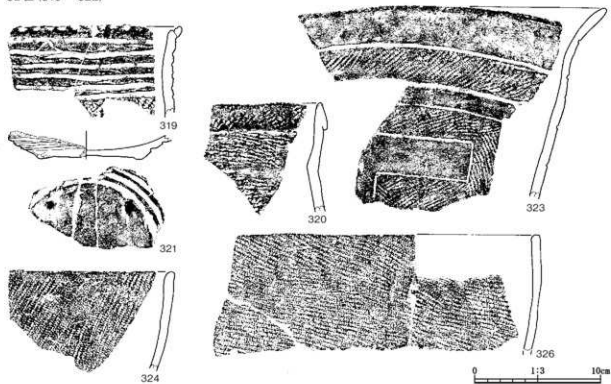
第58图 西区·3A区(2)



第 59 图 西区·3A 区 (3)



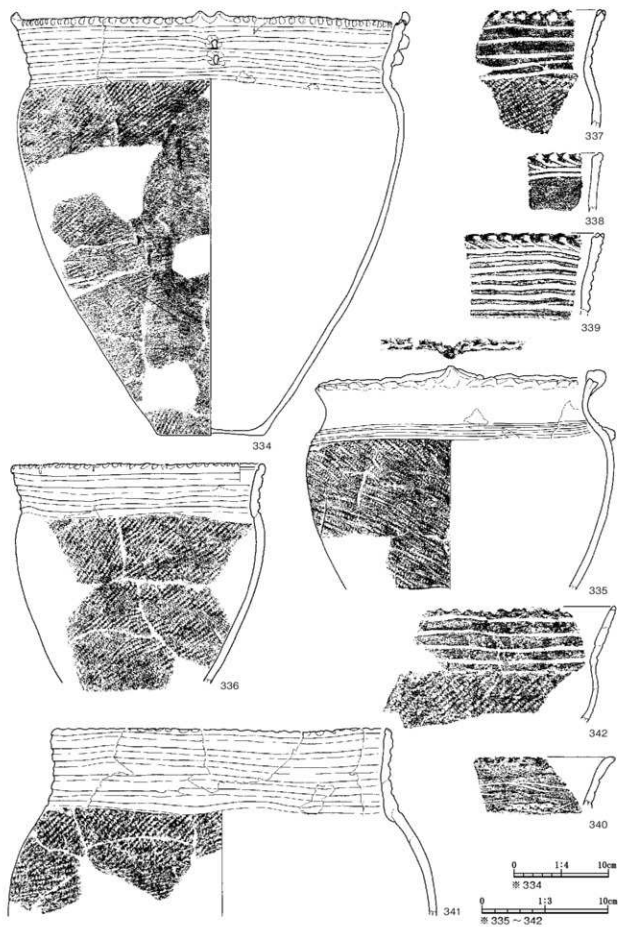
3B区(319~522)



第60图 西区·3A区(4)·3B区(1)



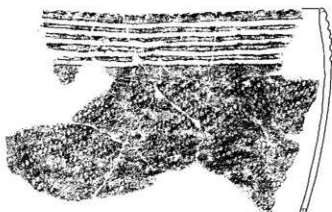
第61图 西区·3B区(2)



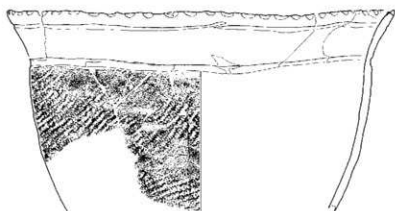
第62图 西区·3B区(3)



343



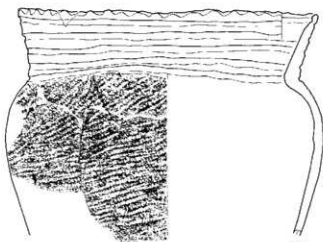
344



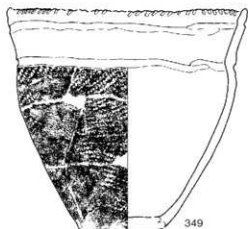
345



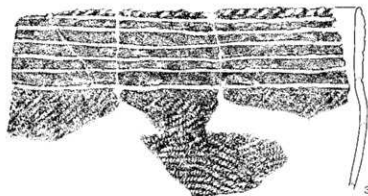
347



346



349



348



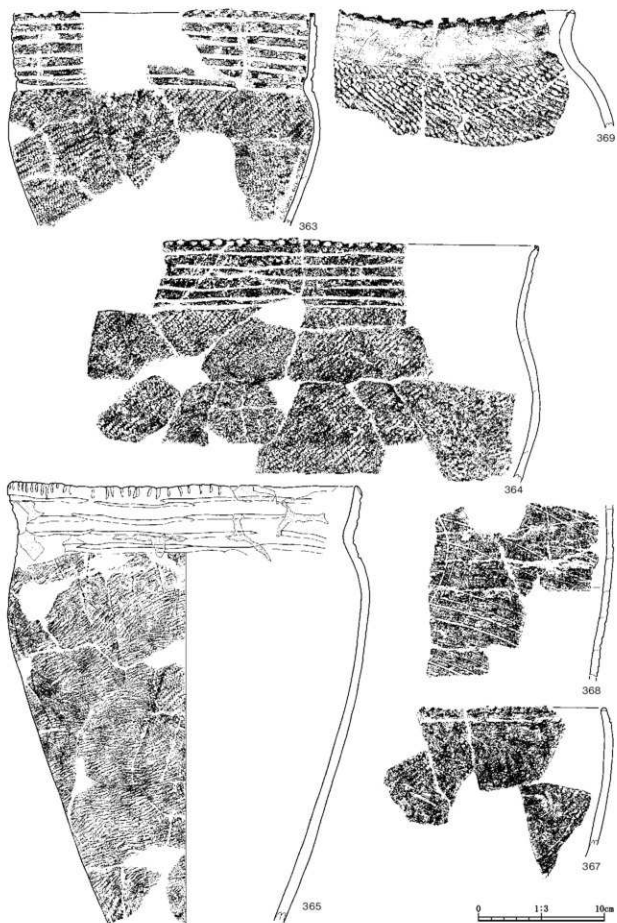
第63図 西区・3B区(4)



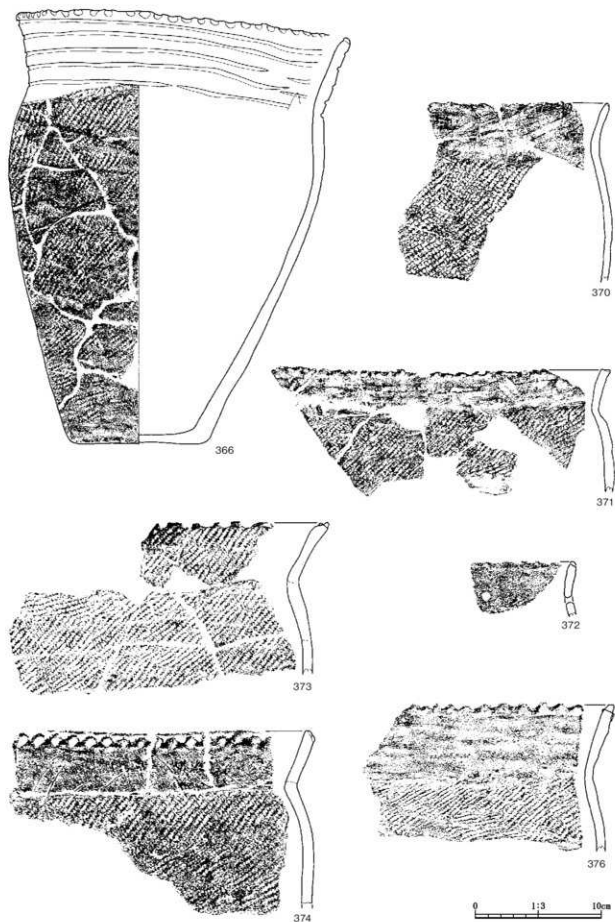
第 64 图 西区·3B 区 (5)



第 65 図 西区・3B 区 (6)



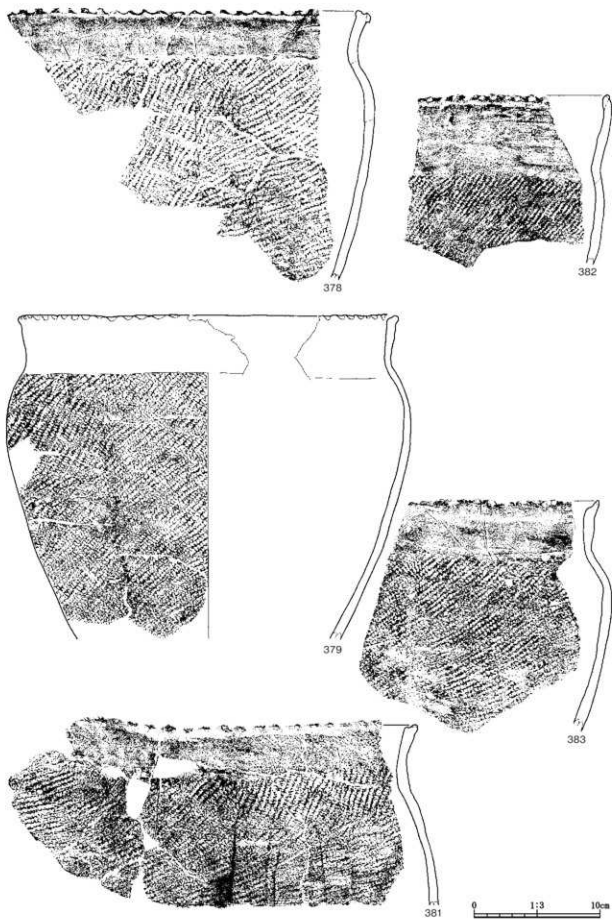
第66图 西区·3B区(7)



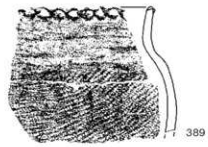
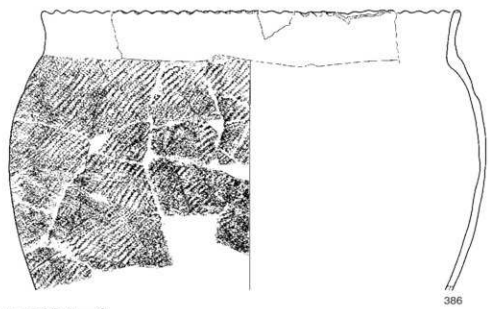
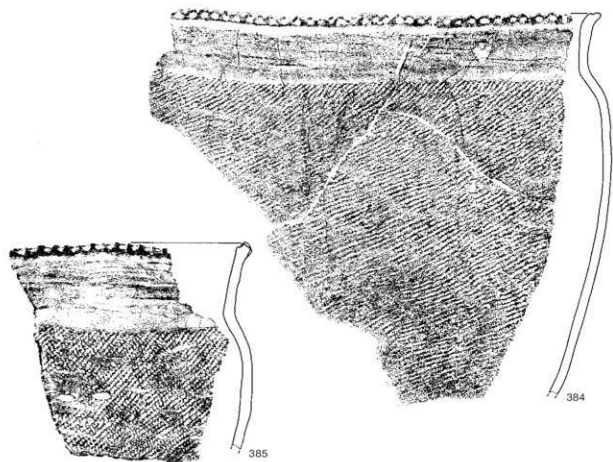
第 67 图 西区·3B 区 (8)



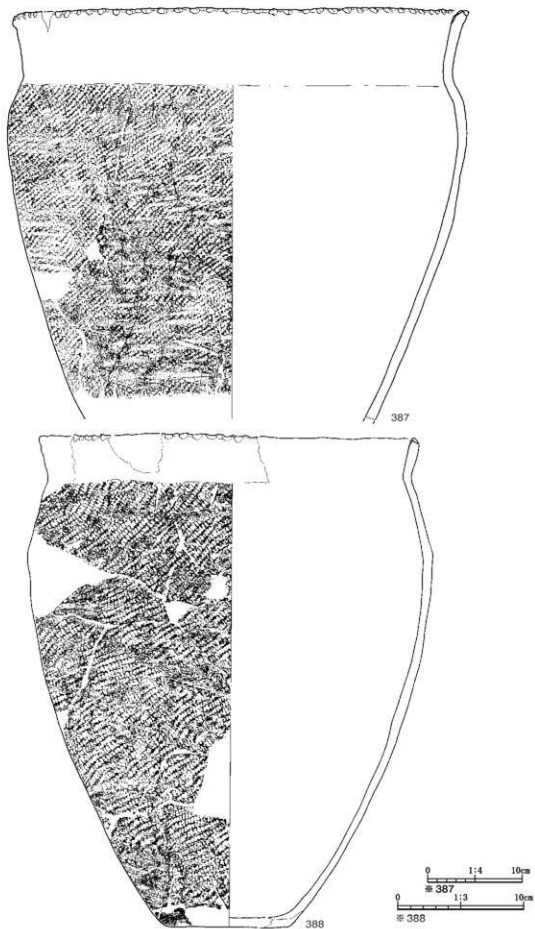
第 68 图 西区·3B 区 (9)



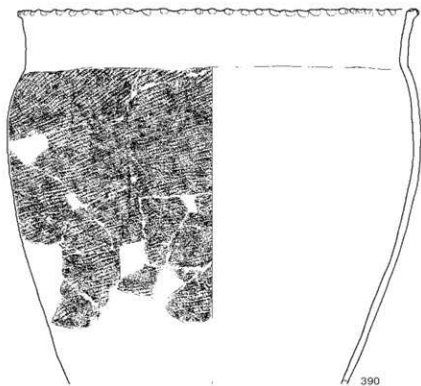
第69図 西区・3B区(10)



第70图 西区·3B区(11)



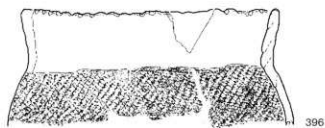
第71図 西区・3B区(12)



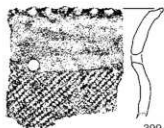
第72图 西区·3B区(13)



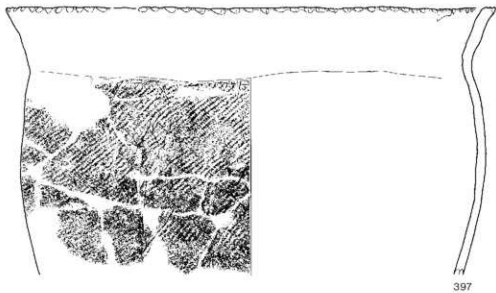
第73图 西区·3B区(14)



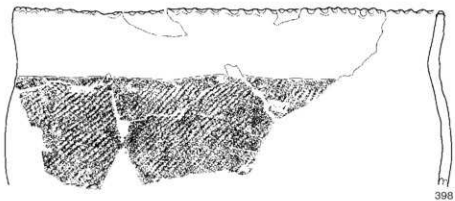
396



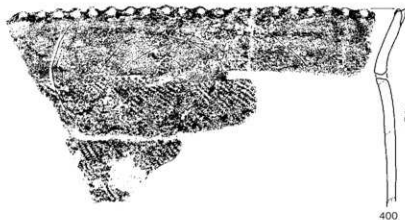
399



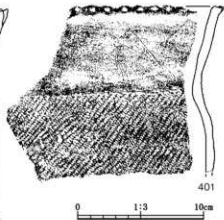
397



398



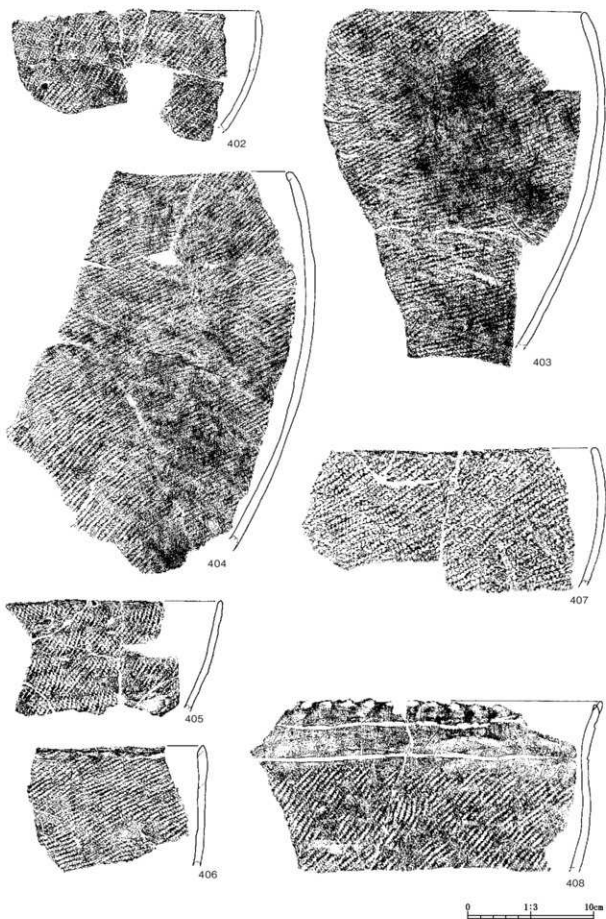
400



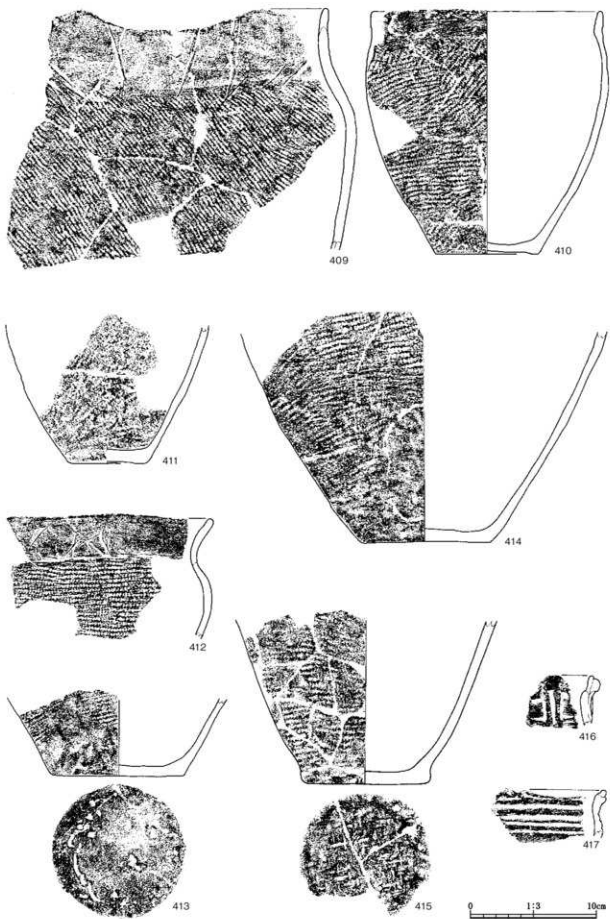
401



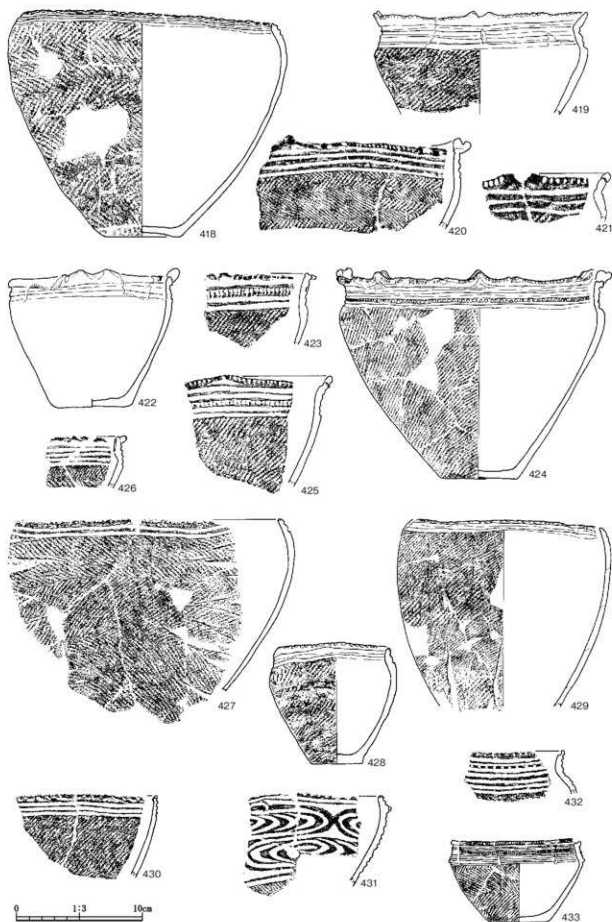
第74图 西区·3B区(15)



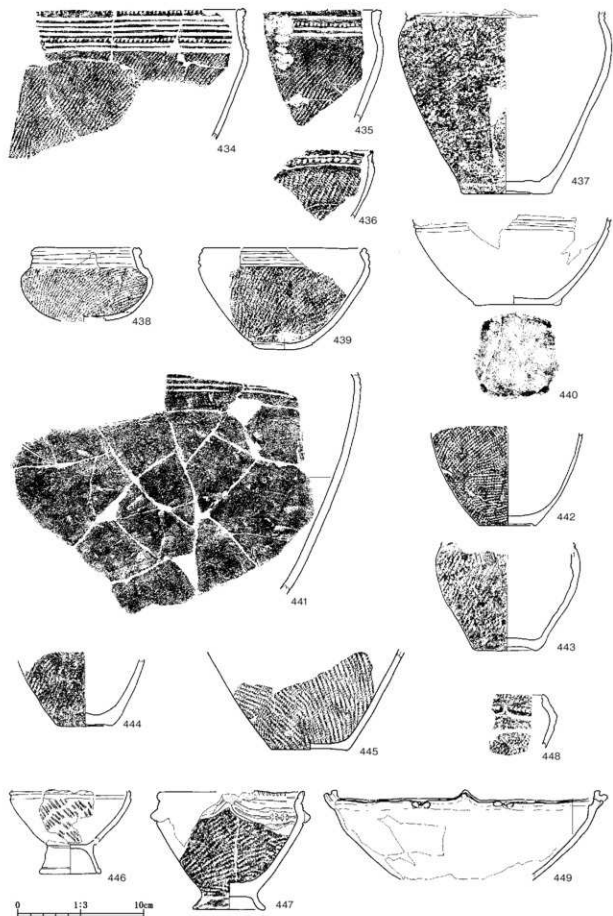
第75図 西区・3B区(16)



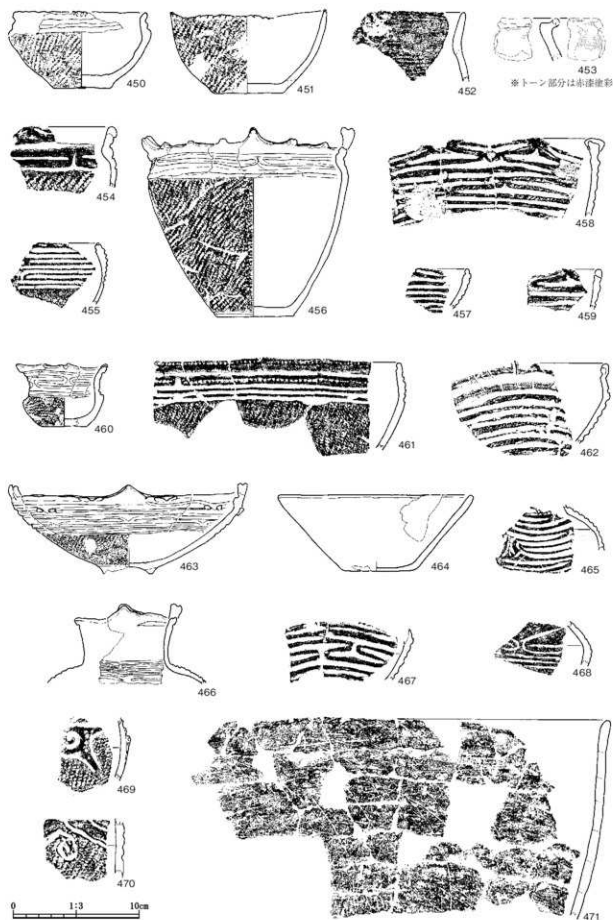
第76图 西区·3B区(17)



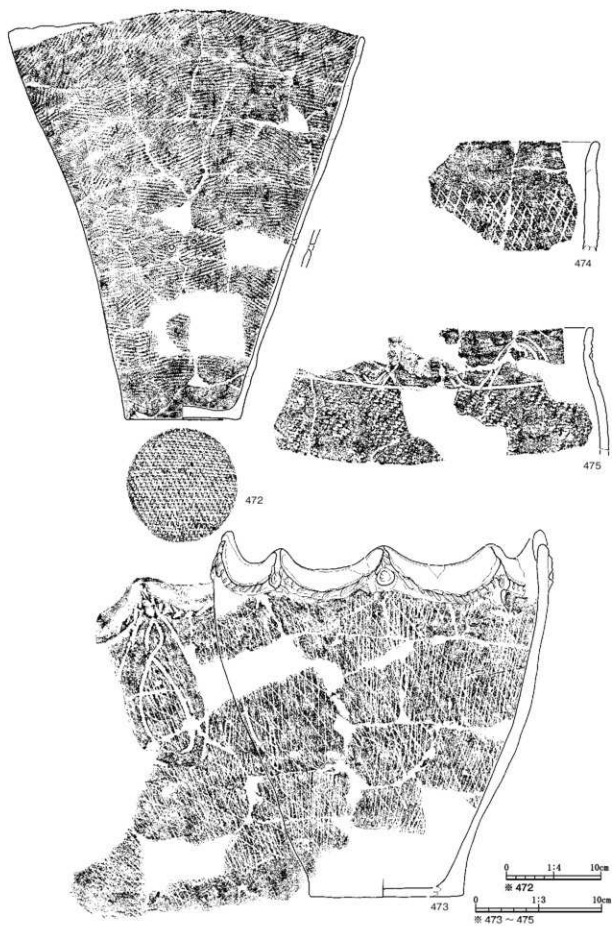
第77图 西区·3B区(18)



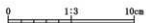
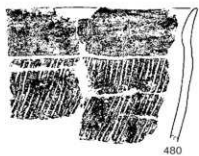
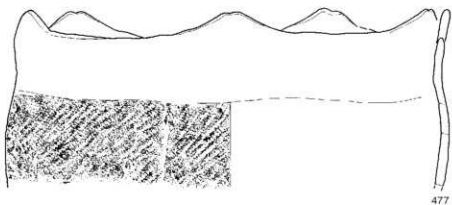
第 78 图 西区·3B 区 (19)



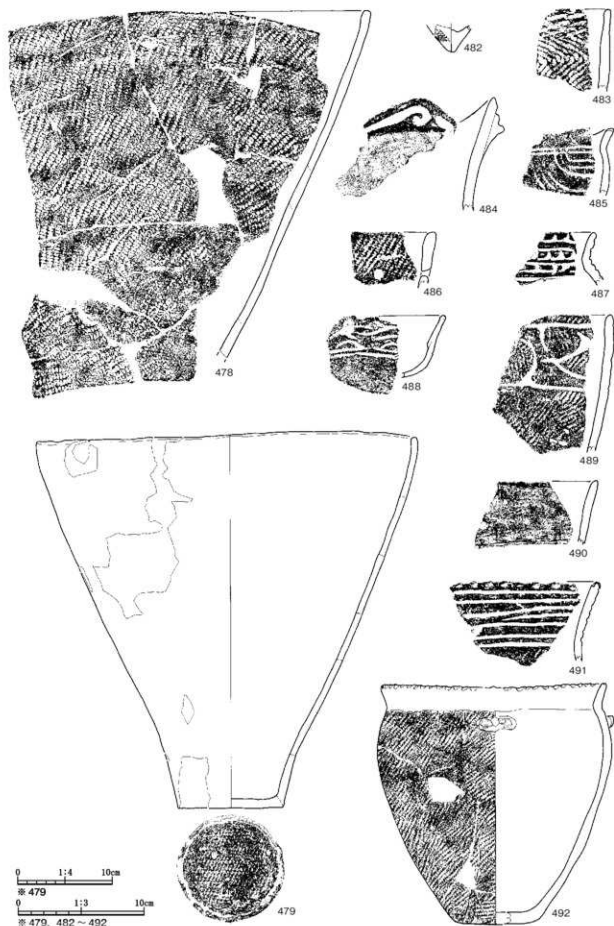
第79図 西区・3B区(20)



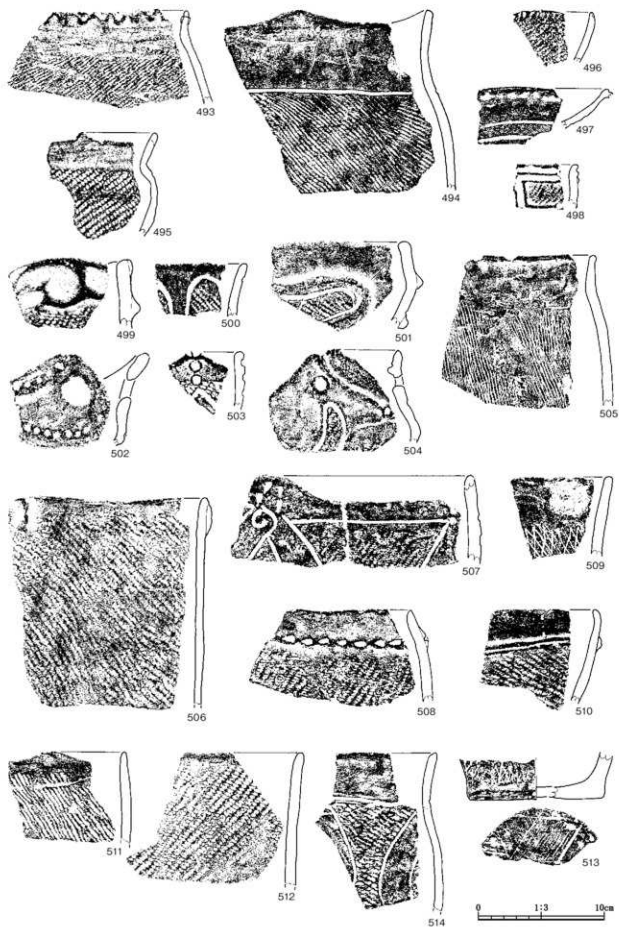
第 80 图 西区·3B 区 (21)



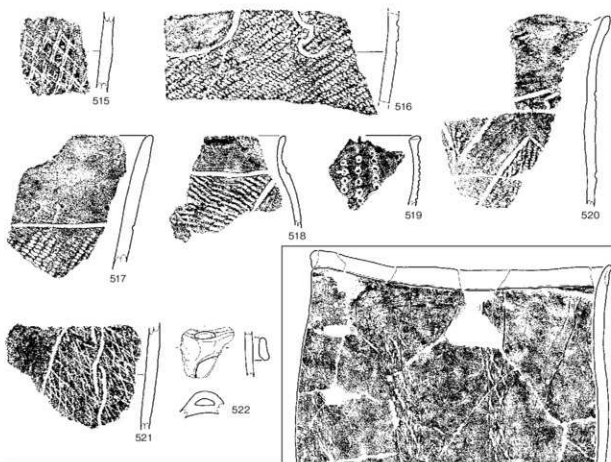
第 81 图 西区·3B 区 (22)



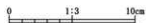
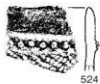
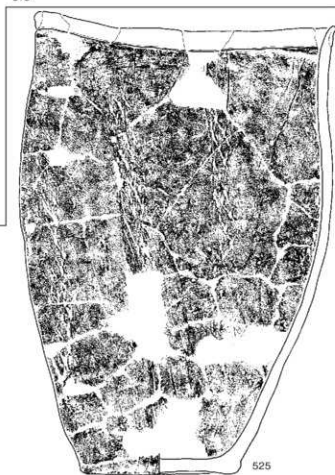
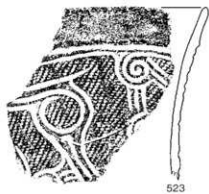
第 82 图 西区·3B 区 (23)



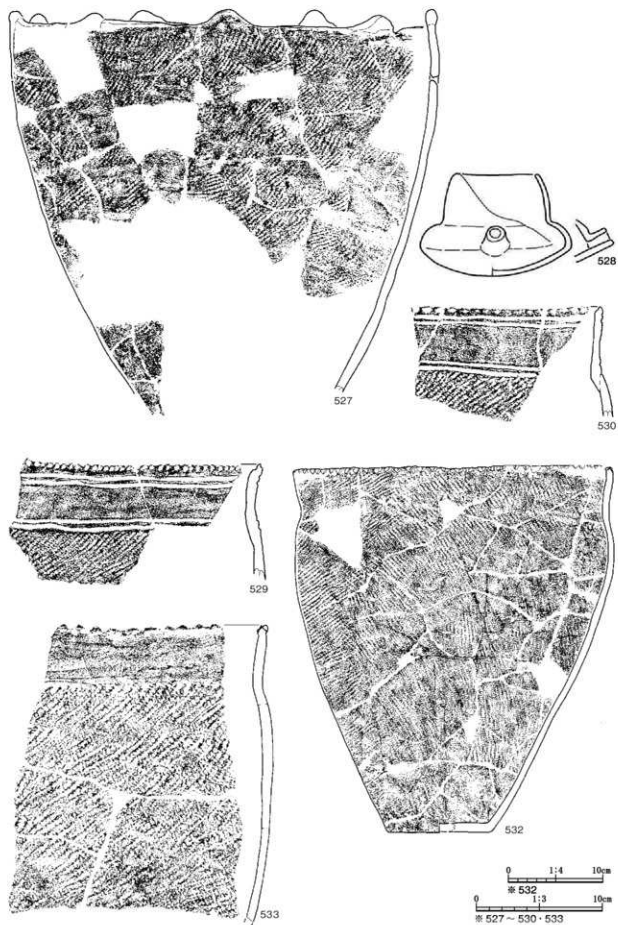
第83图 西区·3B区(24)



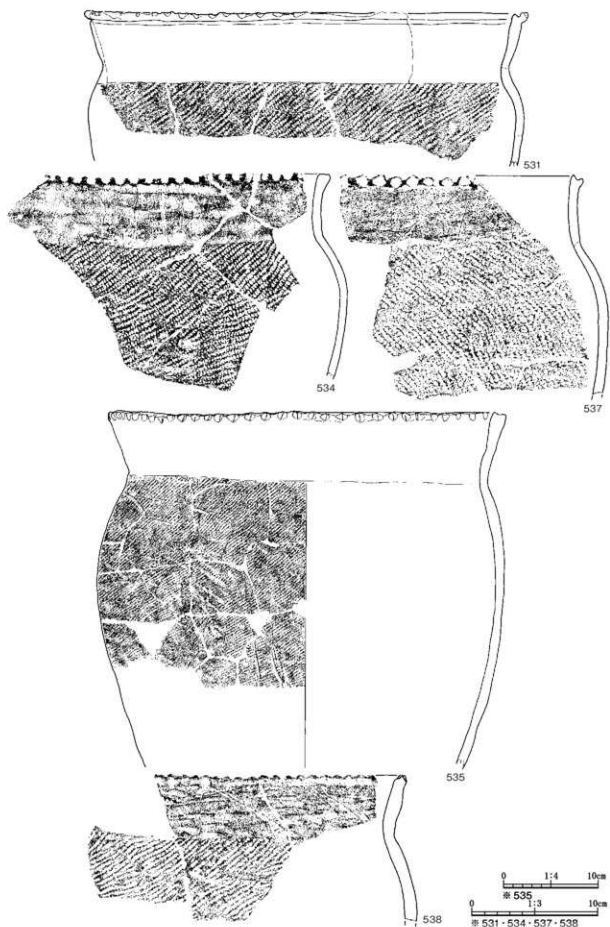
3C区 (523~588)



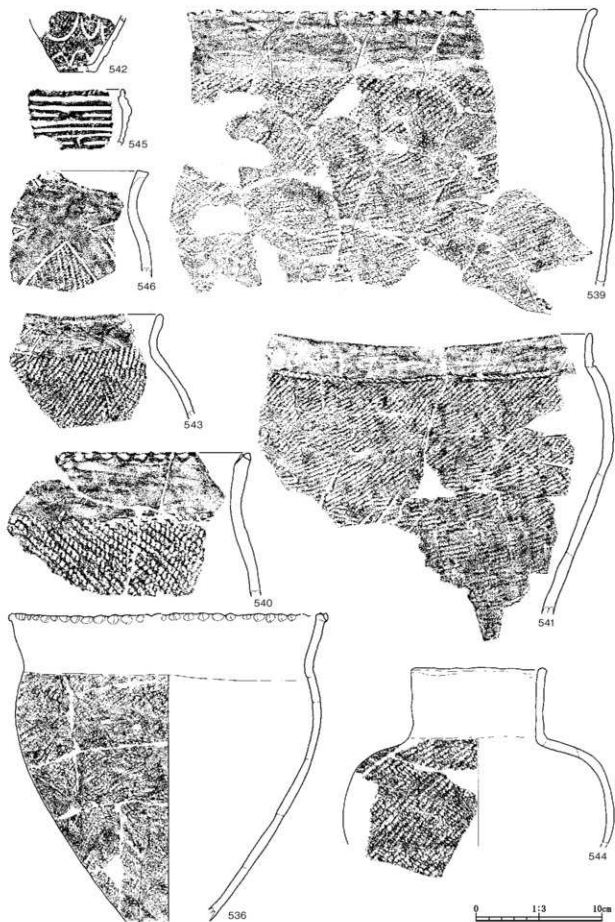
第84图 西区·3B区(25)·3C区(1)



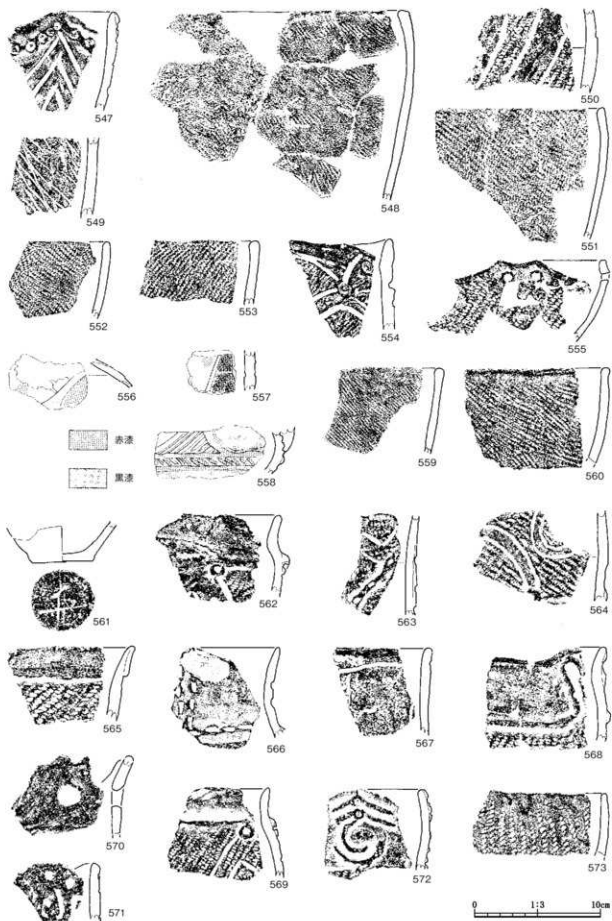
第85图 西区·3C区(2)



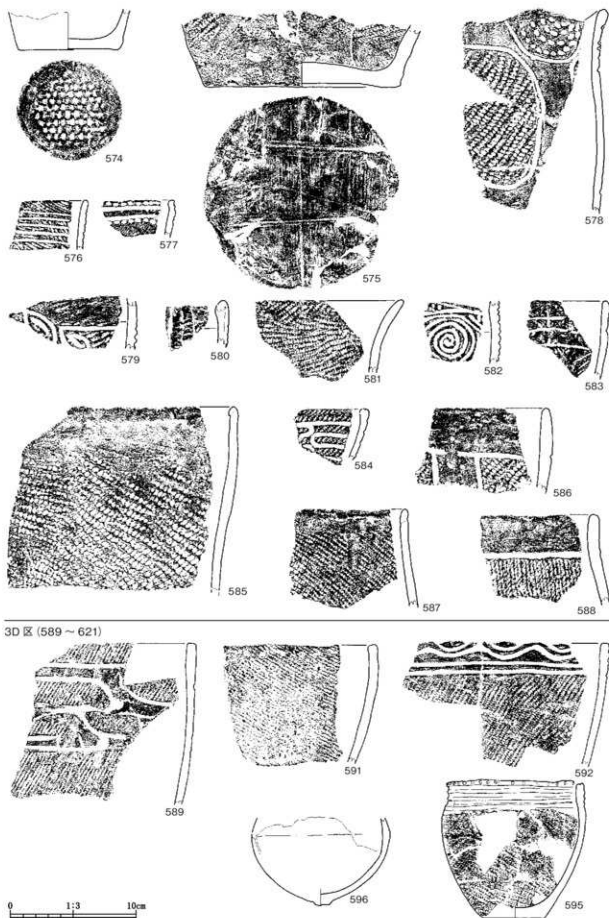
第 86 图 西区·3C 区(3)



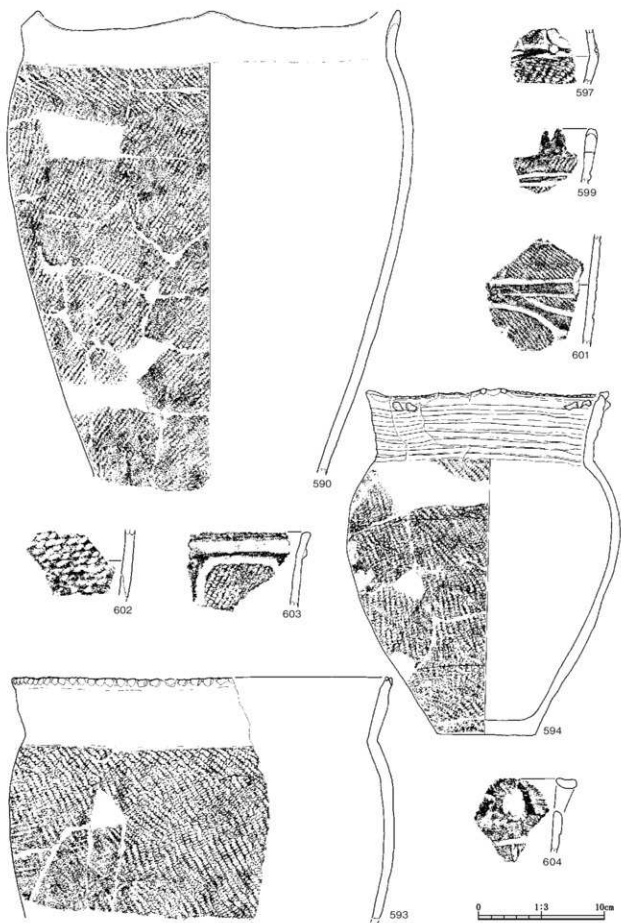
第 87 图 西区·3C 区(4)



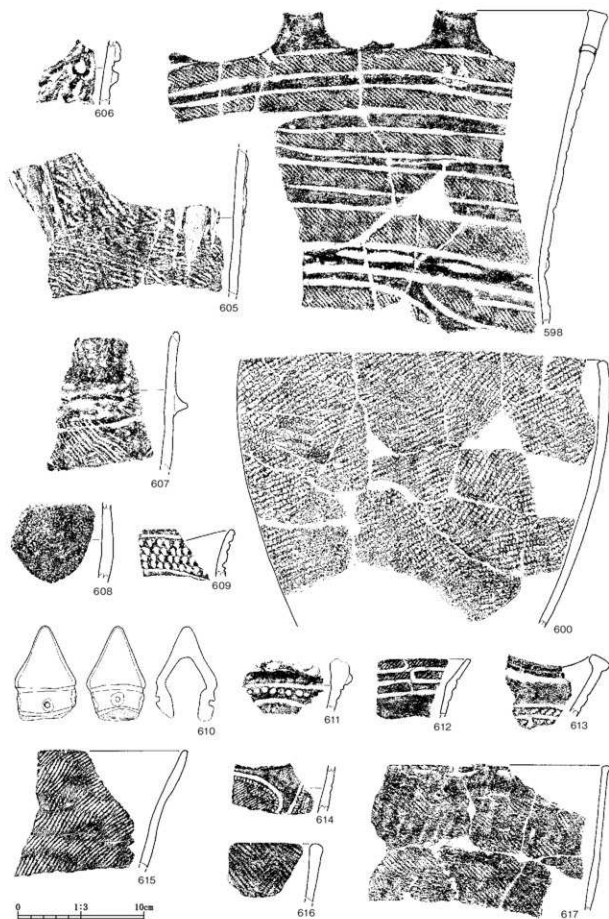
第88图 西区·3C区(5)



第89图 西区·3C区(6)·3D区(1)



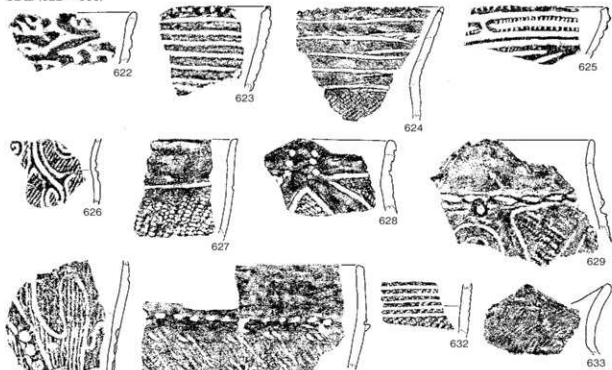
第90图 西区·3D区(2)



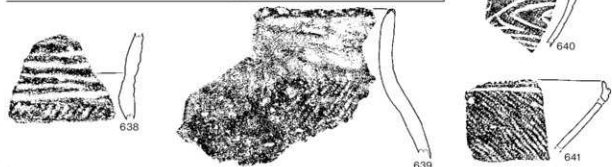
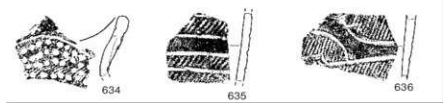
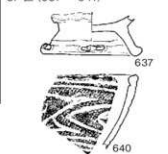
第91图 西区·3D区(3)



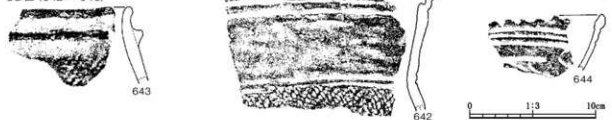
3E区 (622 ~ 636)



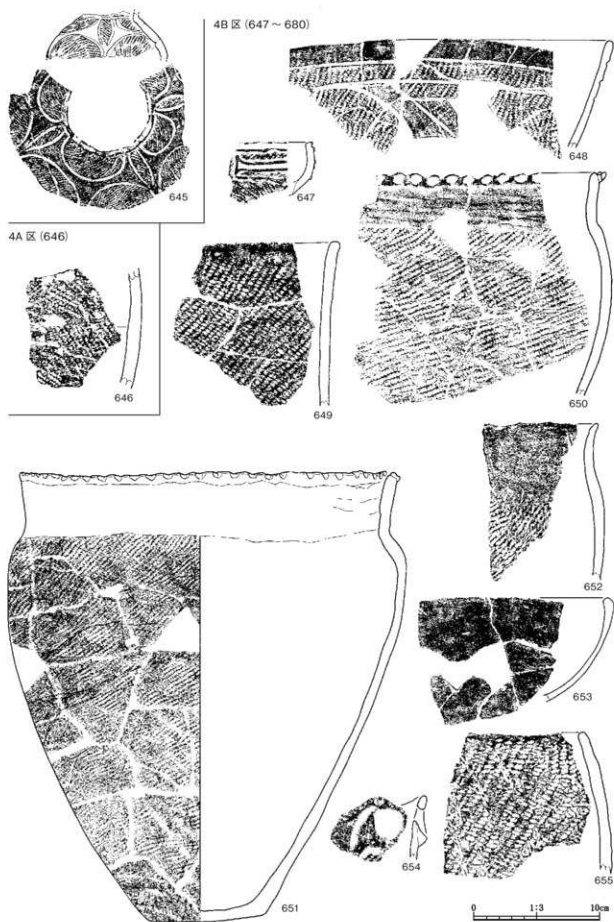
3F区 (637 ~ 641)



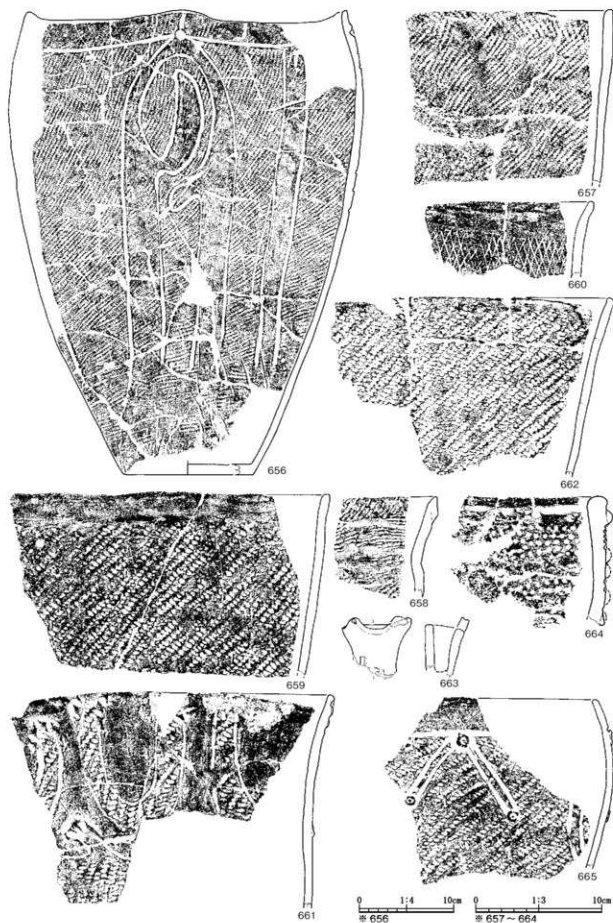
3G区 (642 ~ 645)



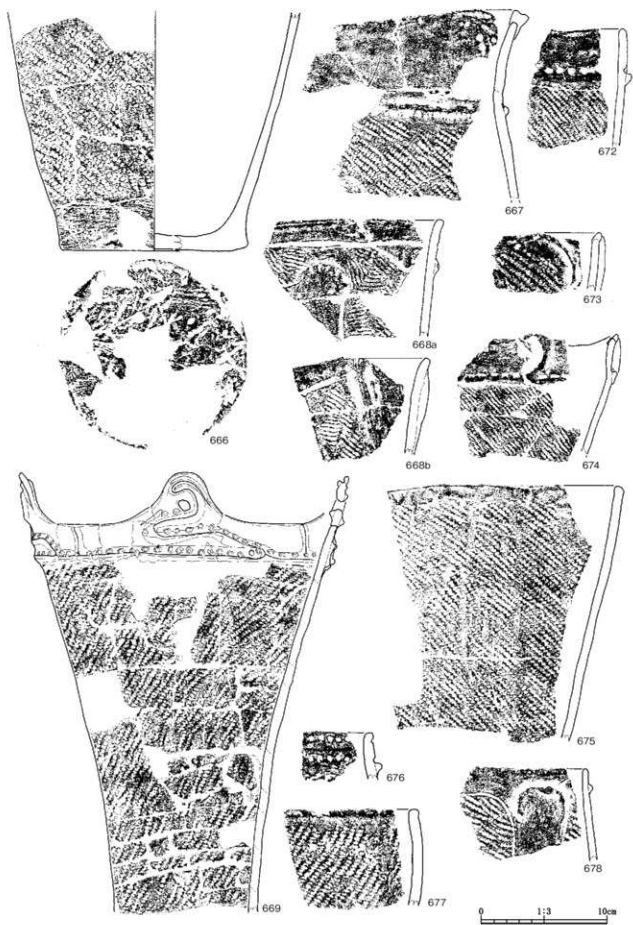
第92图 西区·3D区(4)·3E区·3F区·3G区(1)



第93図 西区・3G区(2)・4A区・4B区(1)



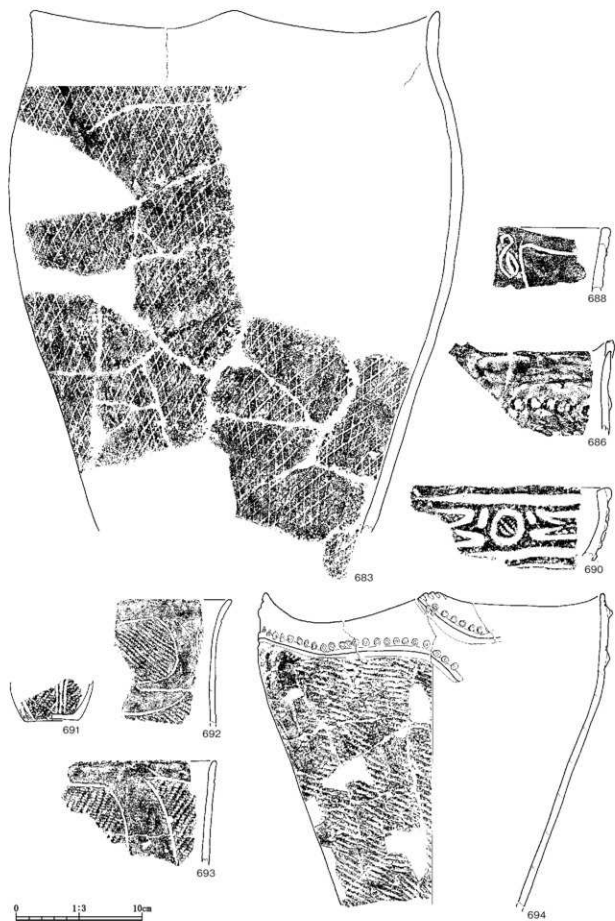
第94图 西区·4B区(2)



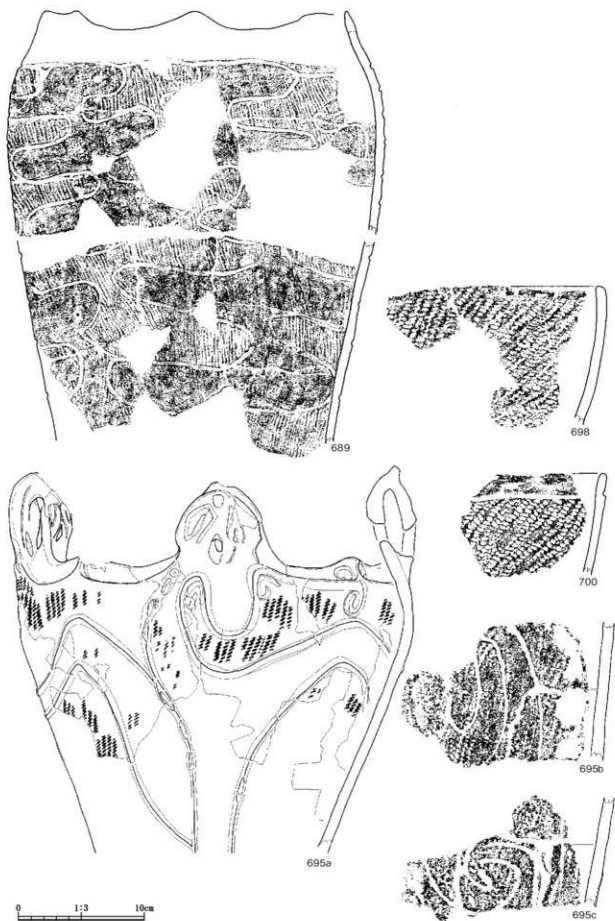
第95图 西区·4B区(3)



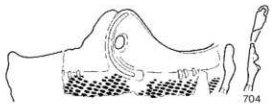
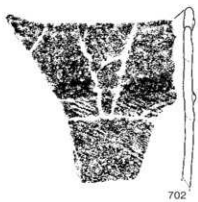
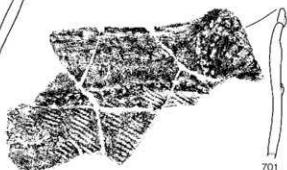
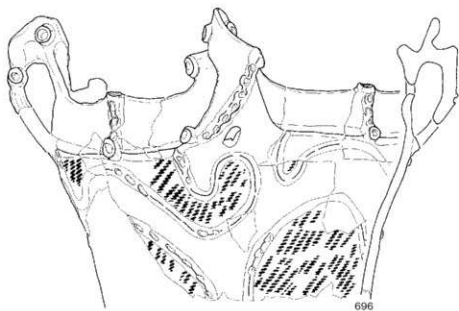
第96图 西区·4B区(4)·4C区(1)



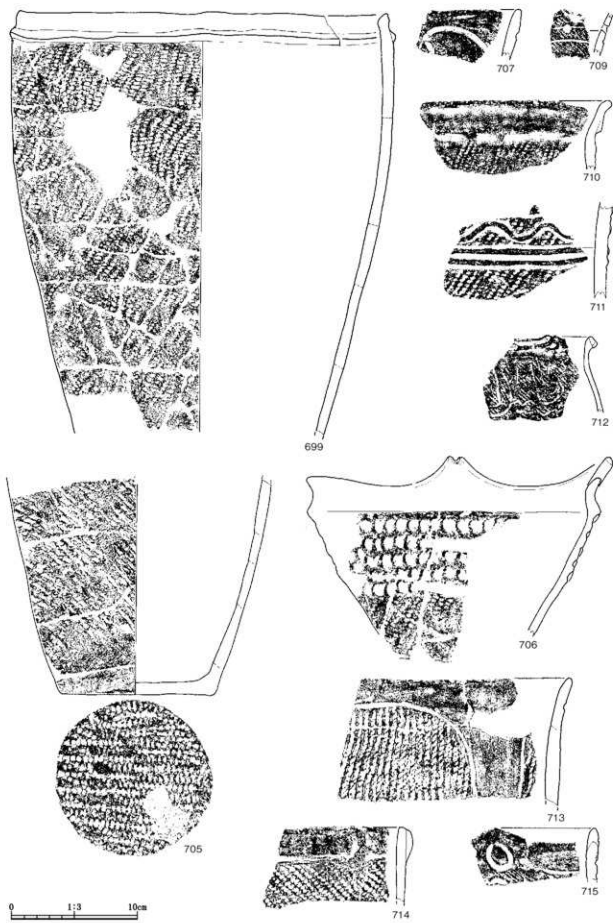
第97図 西区・4C区(2)



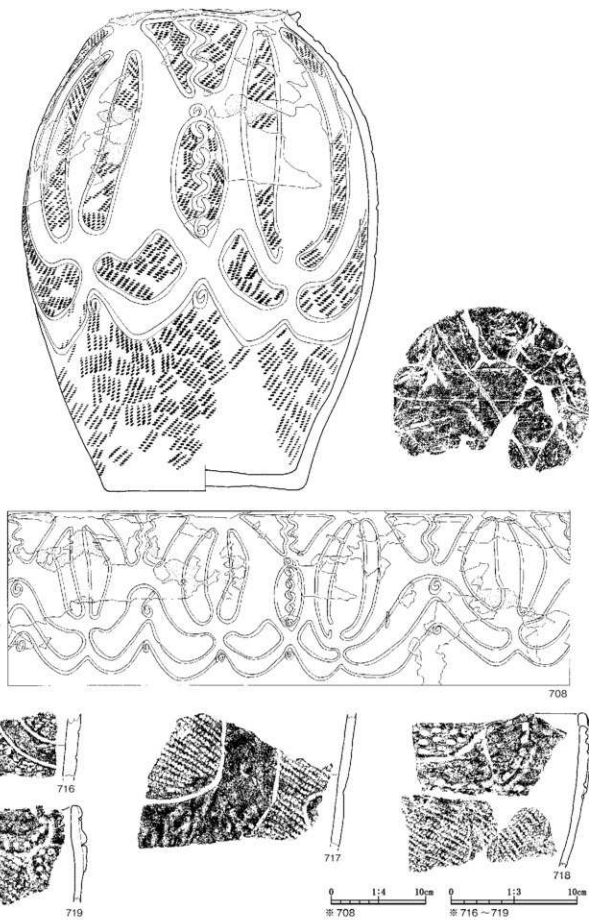
第98图 西区·4C区(3)



第99図 西区・4C区(4)

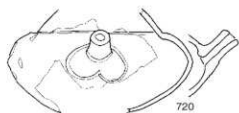


第100图 西区·4C区(5)



第101図 西区・4C区(6)

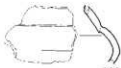
4D区 (720~731)



720



722



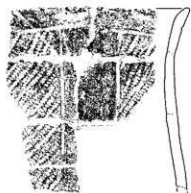
723



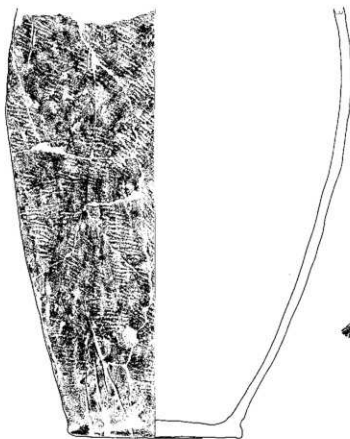
724



721



725

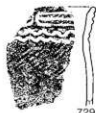


727

※トーン部分は赤漆付着



728



729



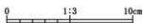
726



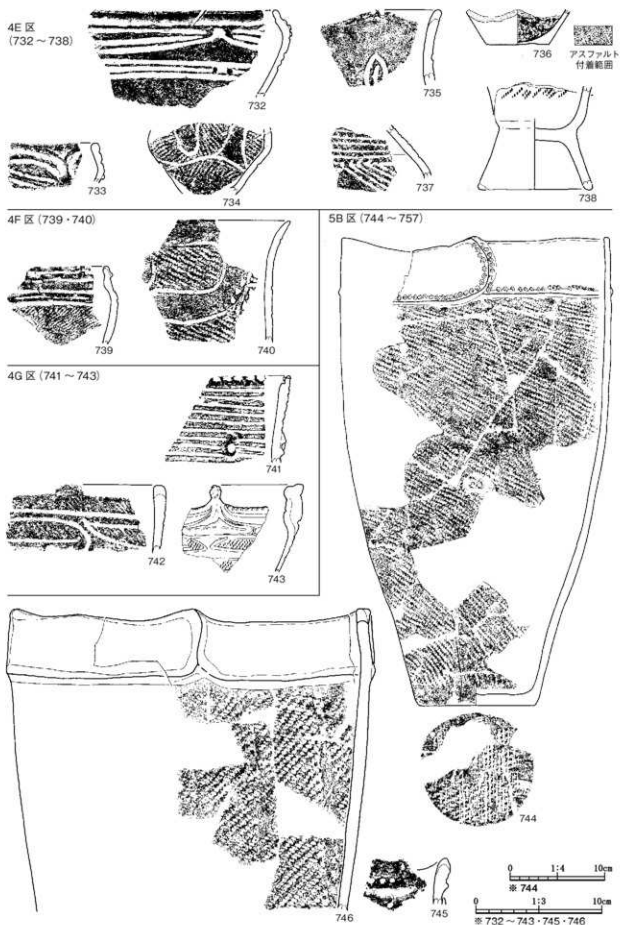
730



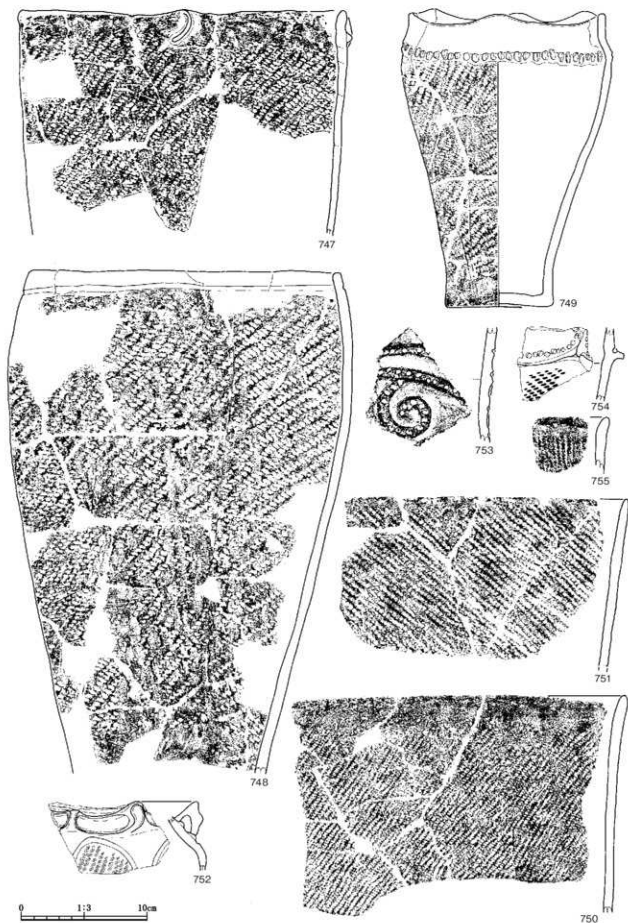
731



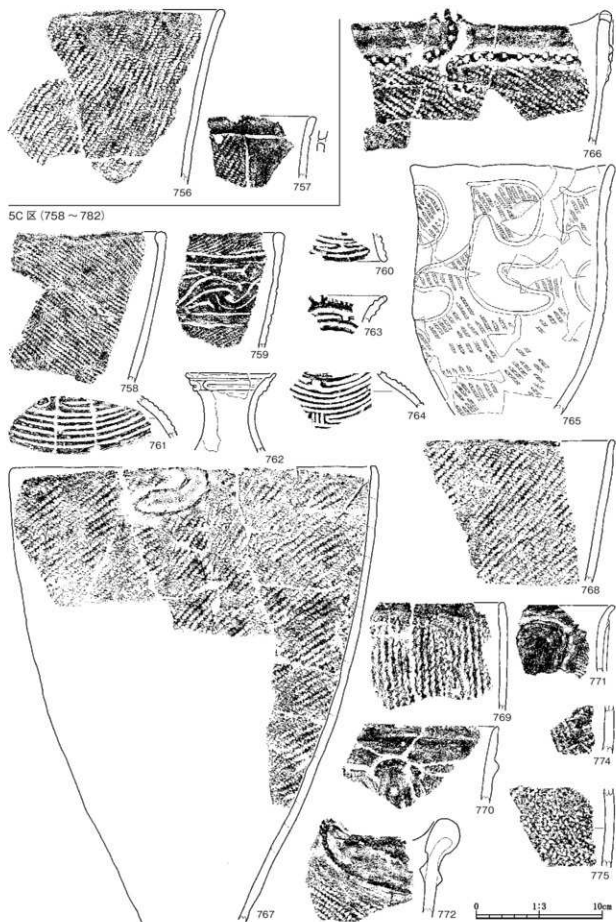
第102図 西区・4D区



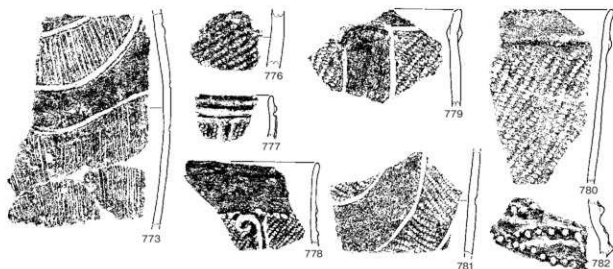
第103図 西区・4E区・4F区・4G区・5B区(1)



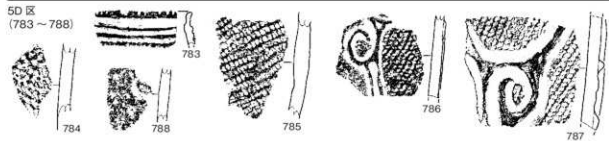
第104图 西区·5B区(2)



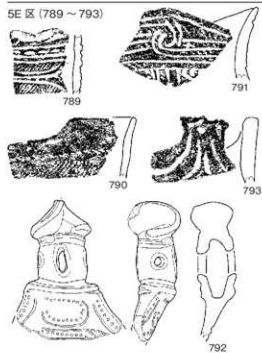
第105図 西区・5B区(3)・5C区(1)



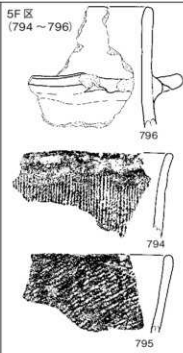
5D 区
(783 ~ 788)



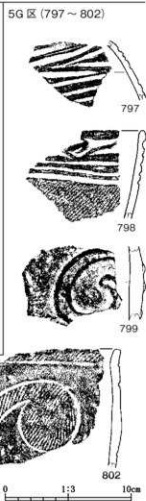
5E 区 (789 ~ 793)



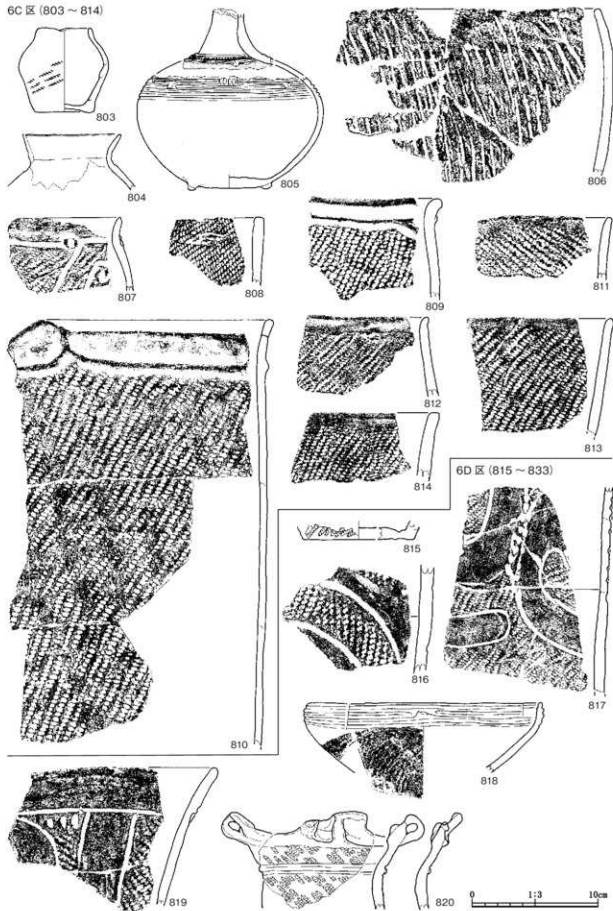
5F 区
(794 ~ 796)



5G 区 (797 ~ 802)



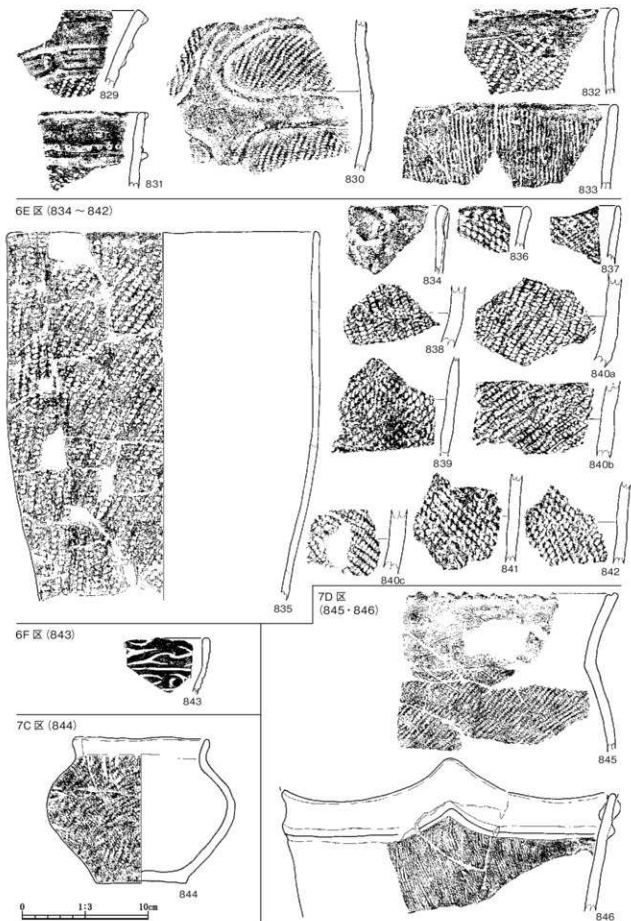
6C区 (803~814)



第107图 西区·6C区·6D区(1)

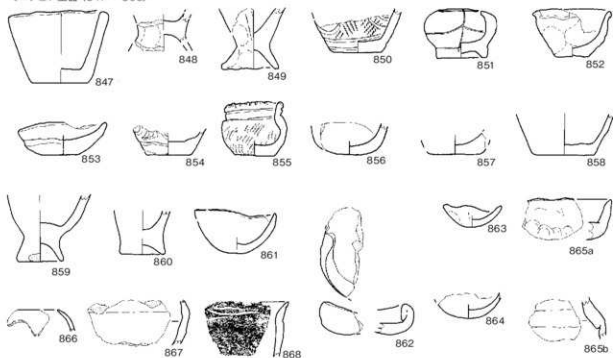


第108图 西区·6D区(2)

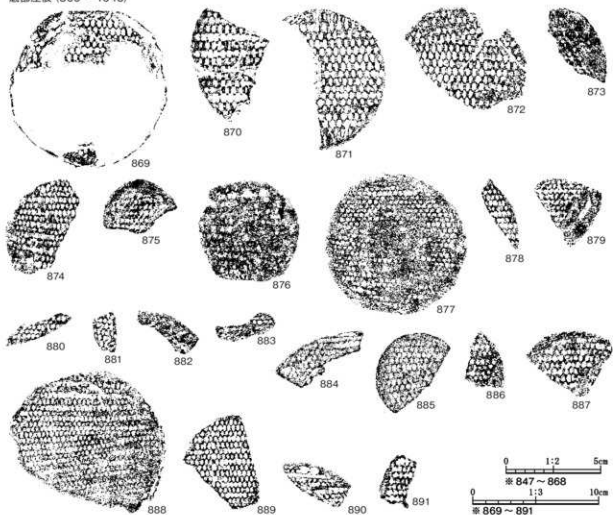


第109図 西区・6D区(3)・6E区・6F区・7C区・7D区

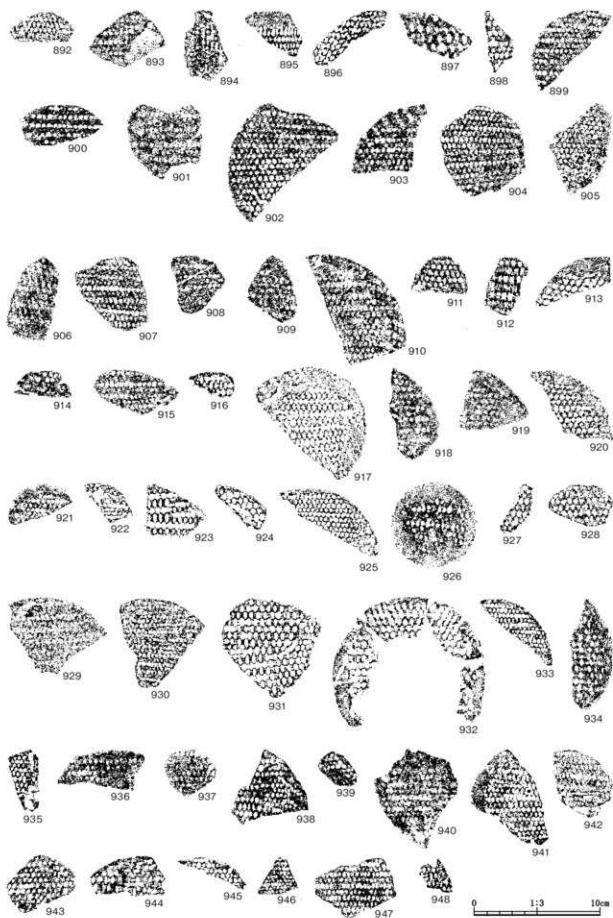
ミニチュア土器 (847～868)



底部圧痕 (869～1045)



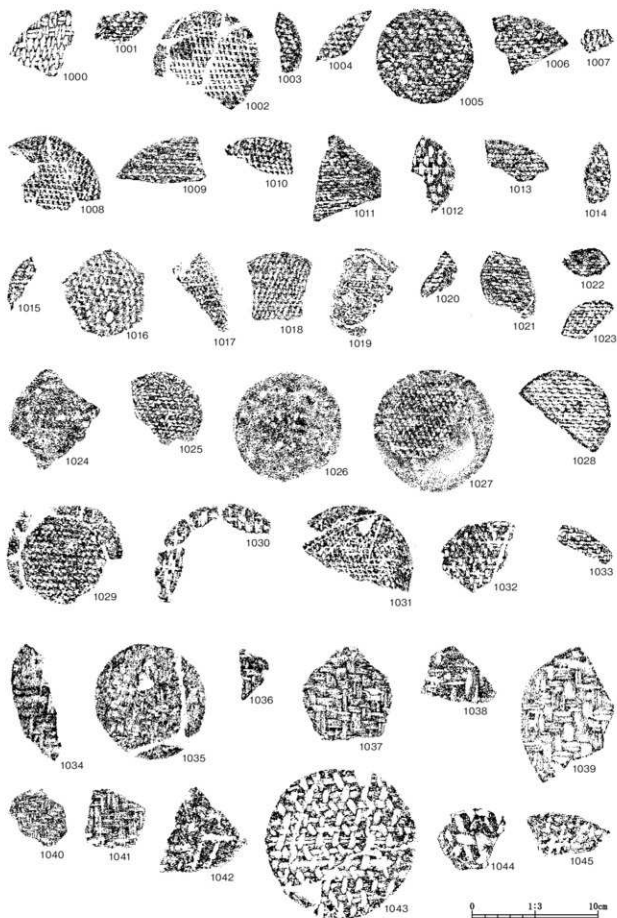
第110図 ミニチュア土器・底部圧痕(1)



第111圖 底部圧痕(2)



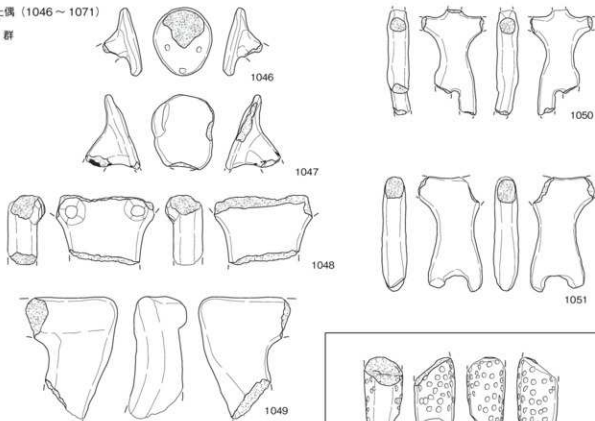
第112图 底部压痕(3)



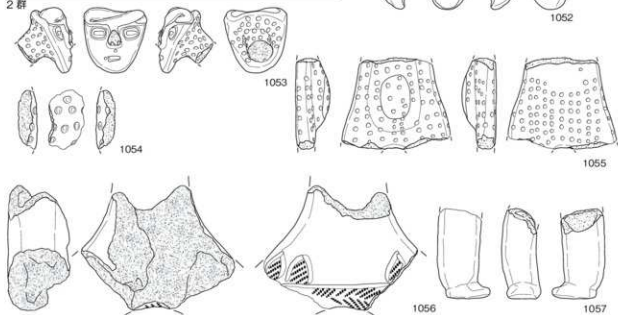
第113圖 底部圧痕(4)

土偶 (1046~1071)

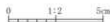
1群

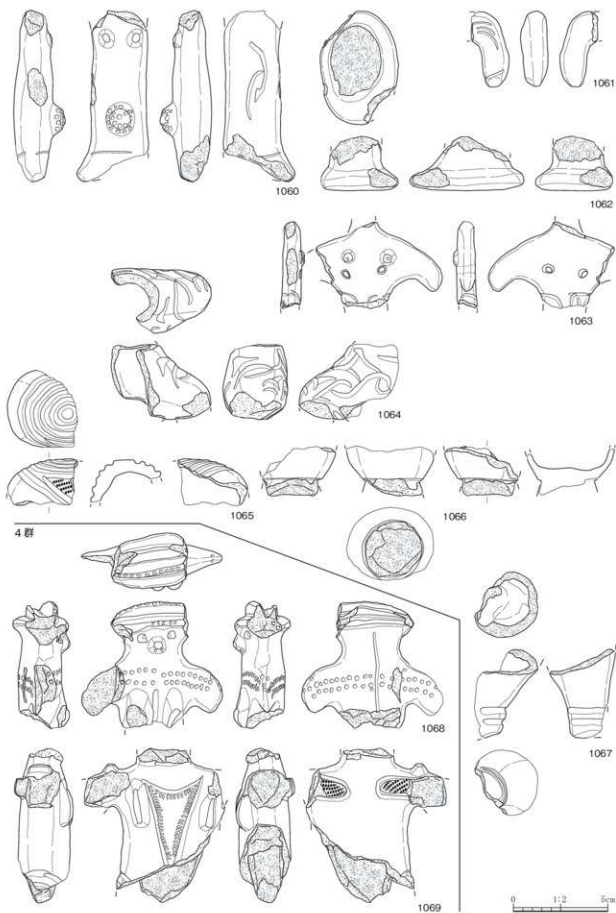


2群



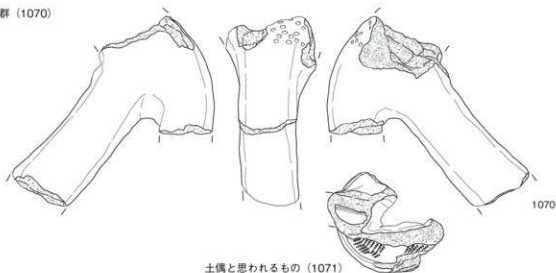
3群





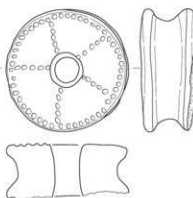
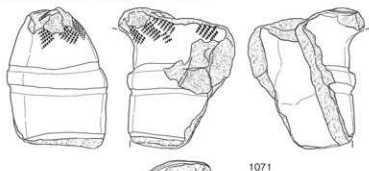
第115図 出土土製品(2)

5群 (1070)

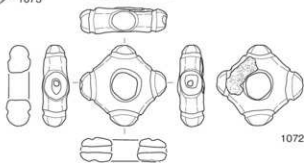


土偶と思われるもの (1071)

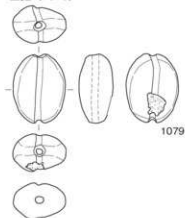
土製耳飾 (1073 ~ 75)



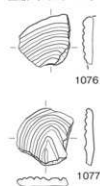
土製垂飾 (1072)



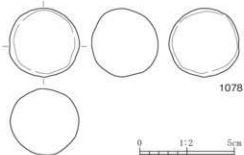
土鐻 (1079)



土版 (1076 ~ 77)

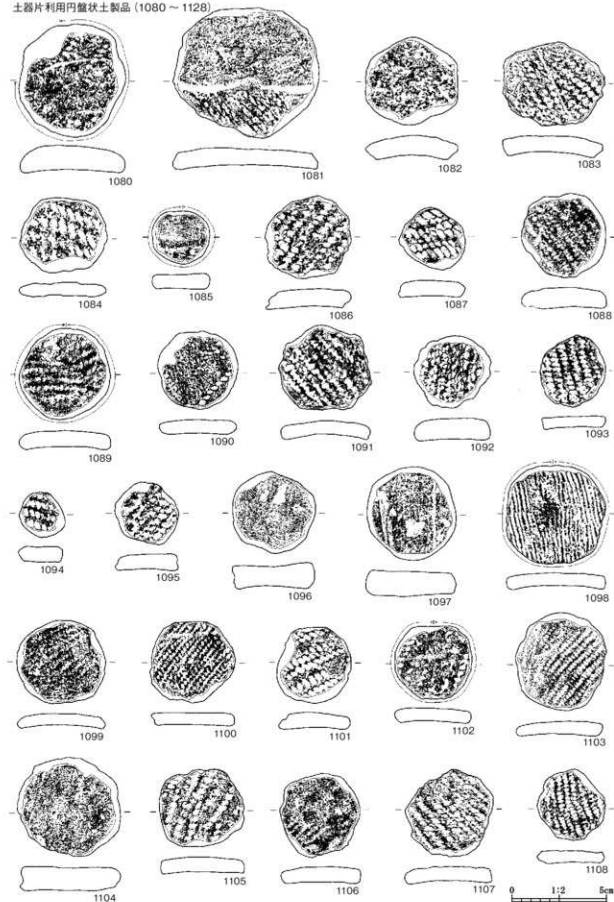


球状土製品 (1078)

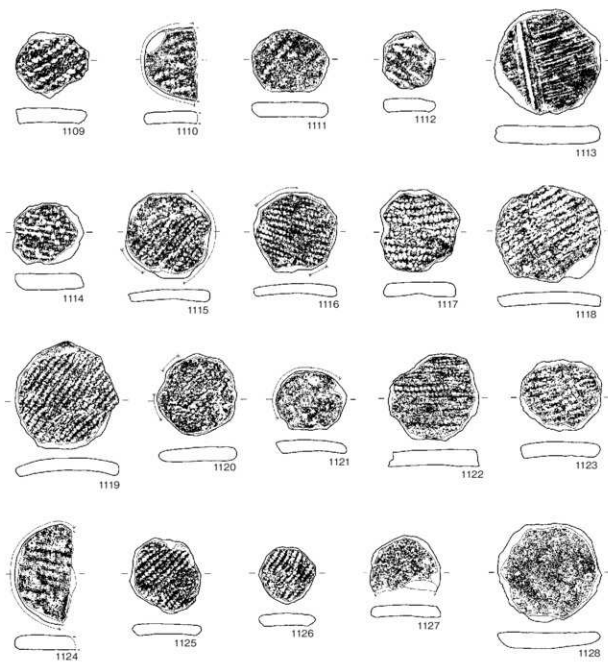


第116図 出土土製品 (3)

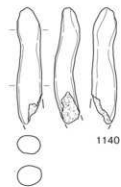
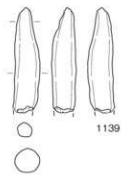
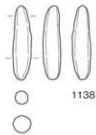
土器片利用円盤状土製品 (1080 ~ 1128)



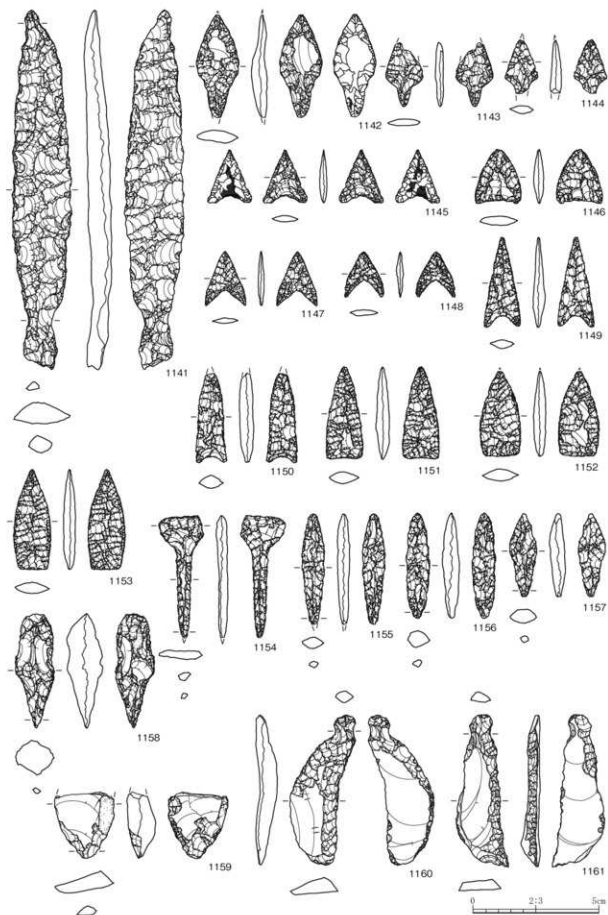
第 117 図 出土土製品 (4)



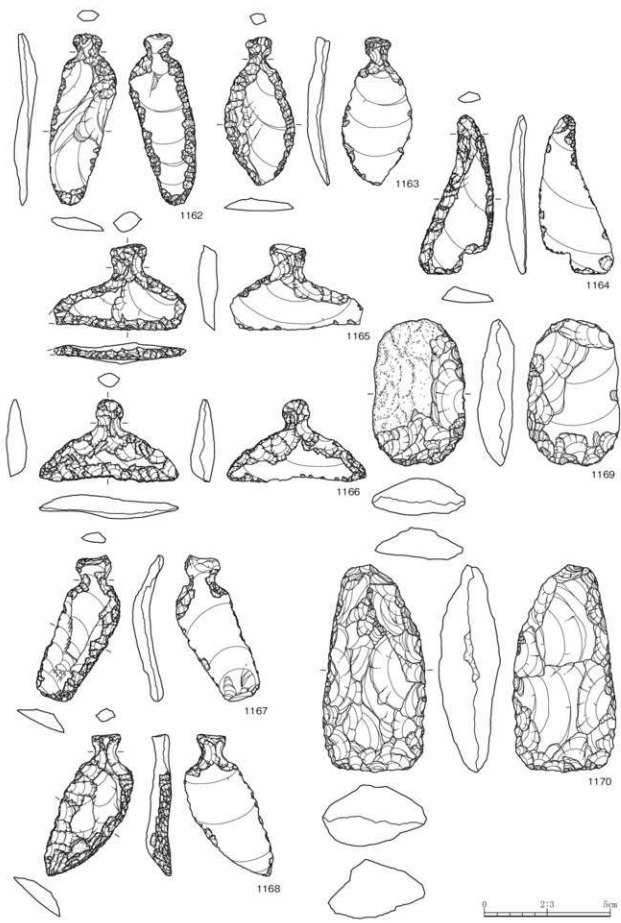
不明土製品 (1138 ~ 40)



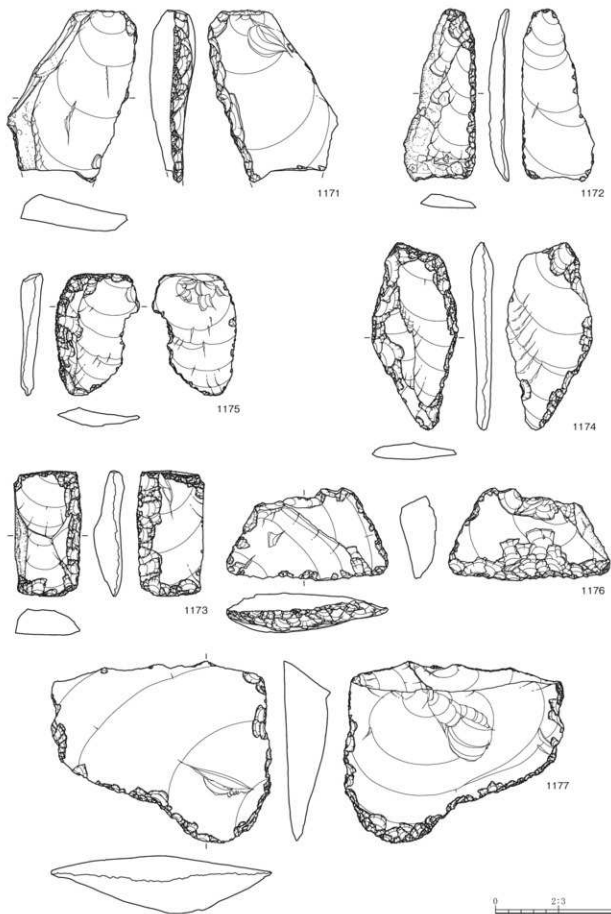
第118図 出土土製品(5)



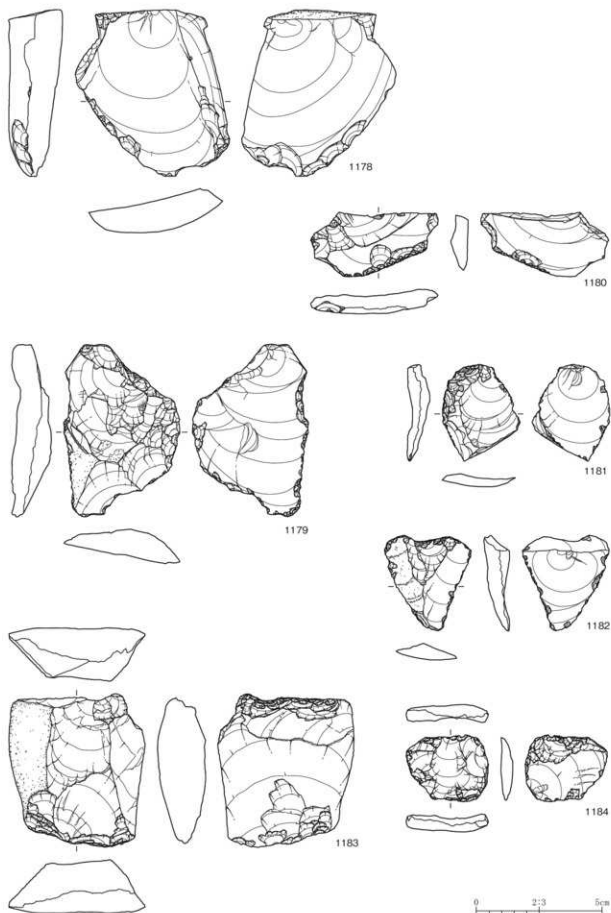
第119圖 出土石器(1)



第120图 出土石器(2)

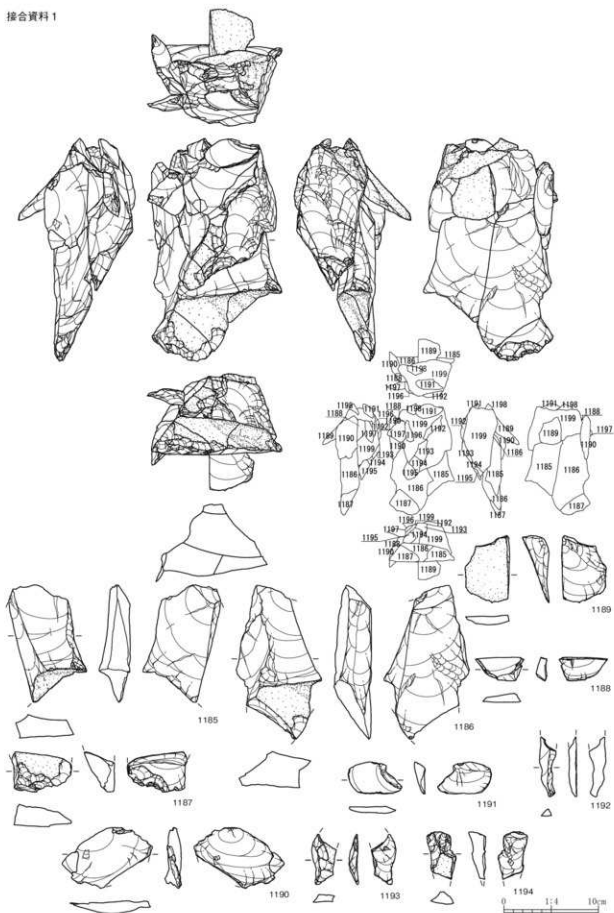


第121圖 出土石器(3)

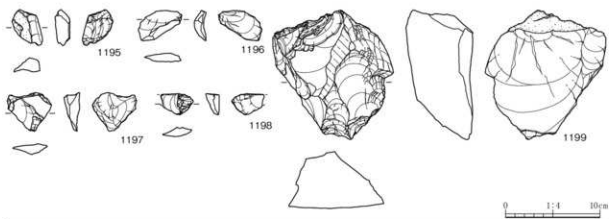


第122图 出土石器(4)

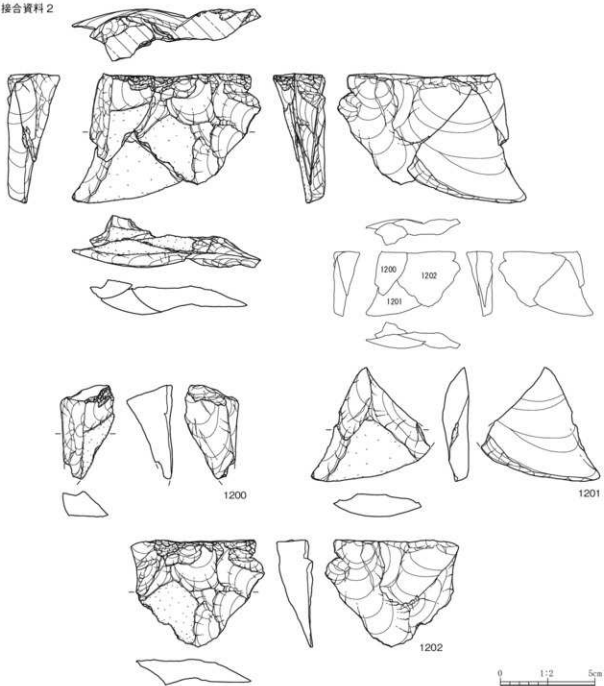
接合資料 1



第 123 図 出土石器 (5)

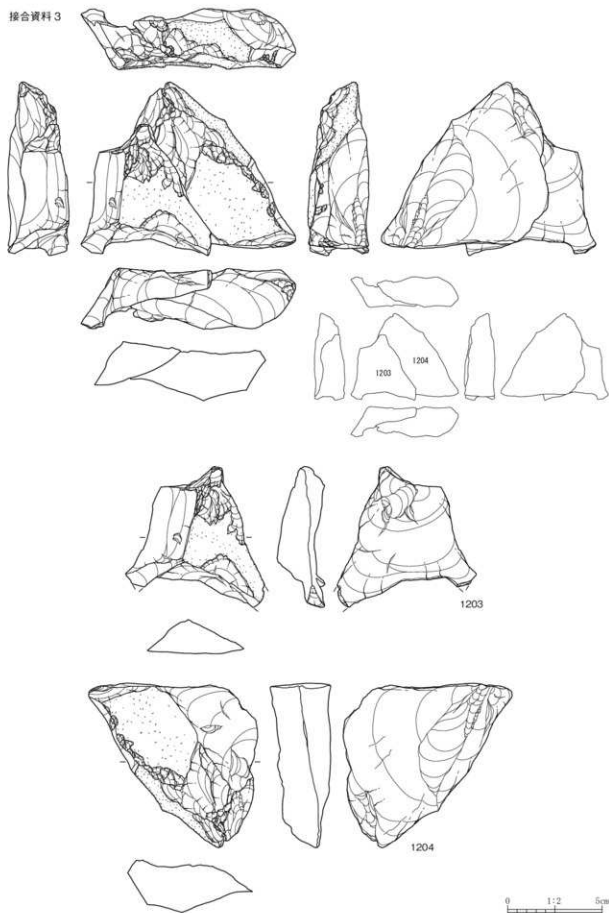


接合資料 2

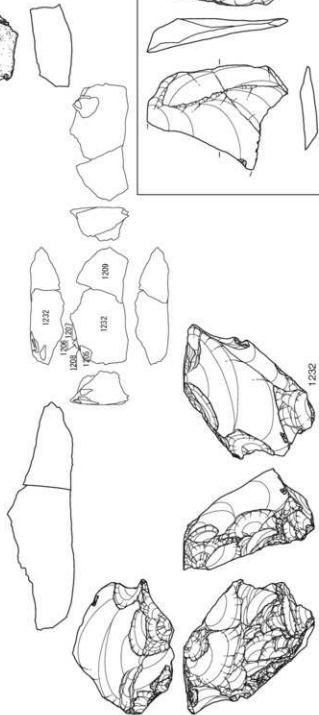
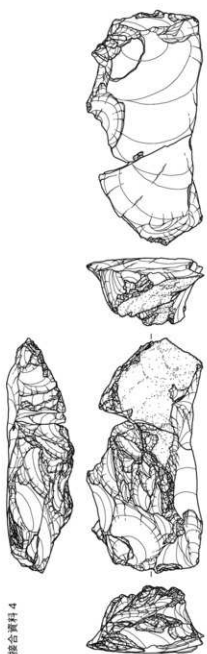
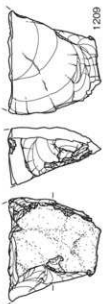
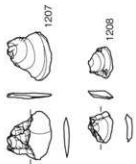


第 124 図 出土石器 (6)

接合資料 3

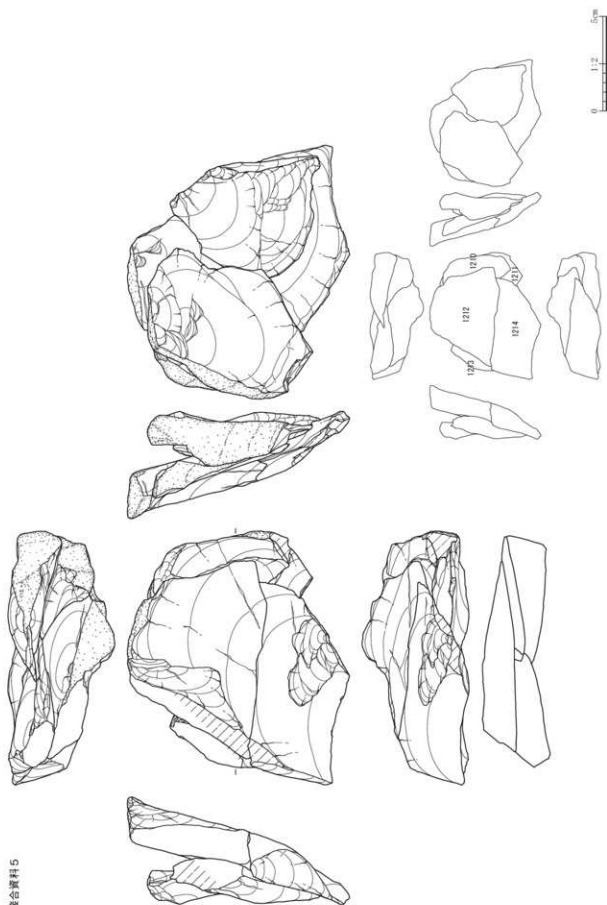


第 125 図 出土石器 (7)

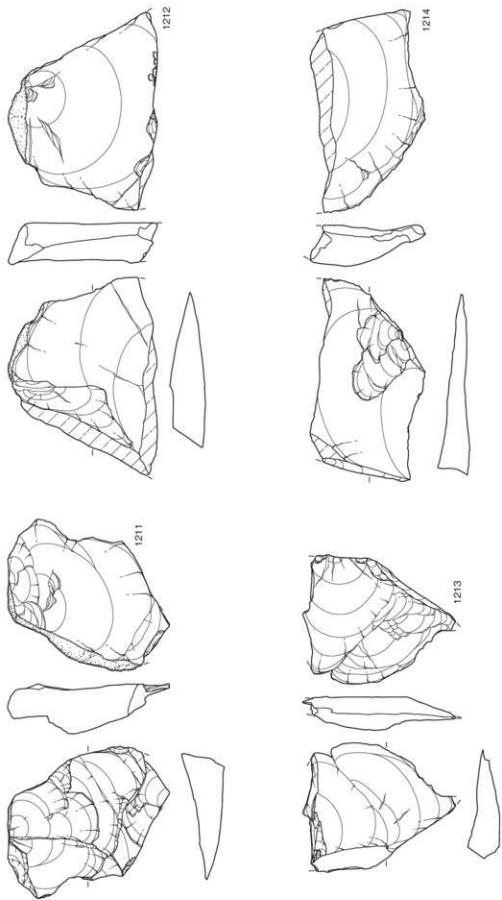


第 126 図 出土石器 (8)

接合資料 5

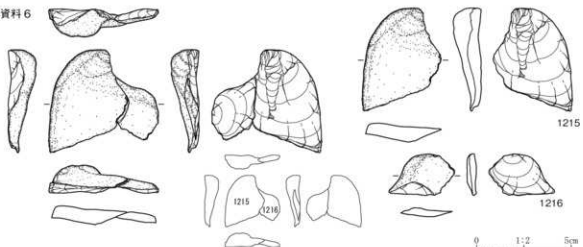


第 127 図 出土石器 (9)

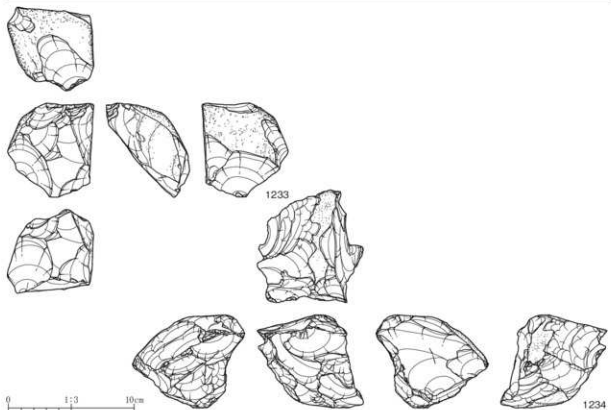
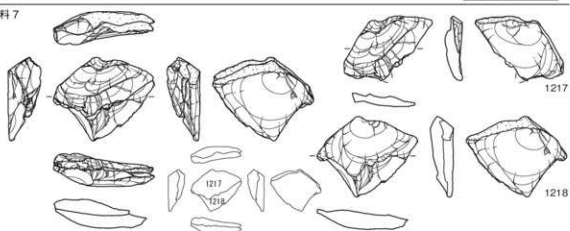


第128图 出土石器(10)

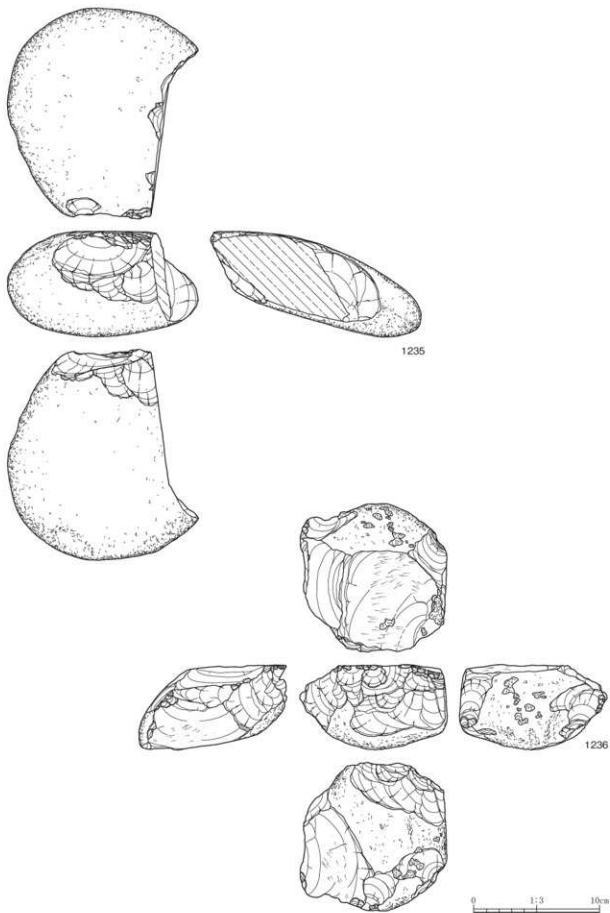
接合資料 6



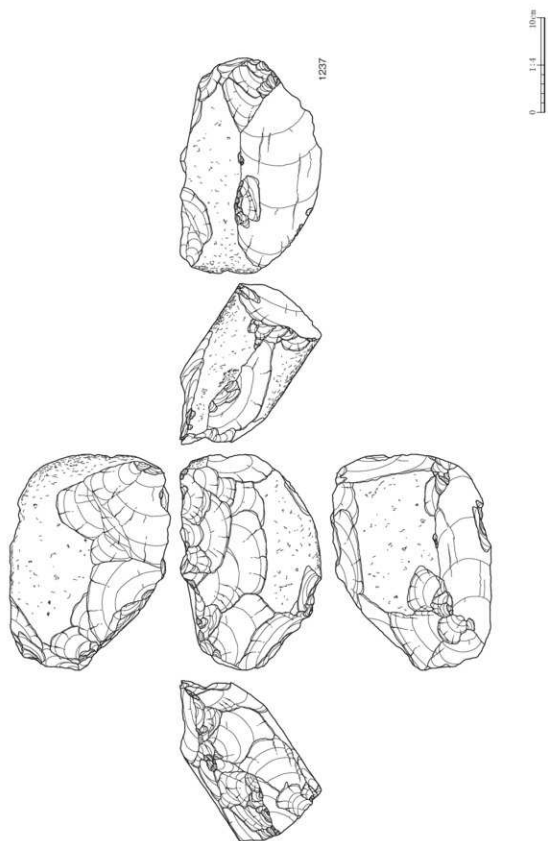
接合資料 7



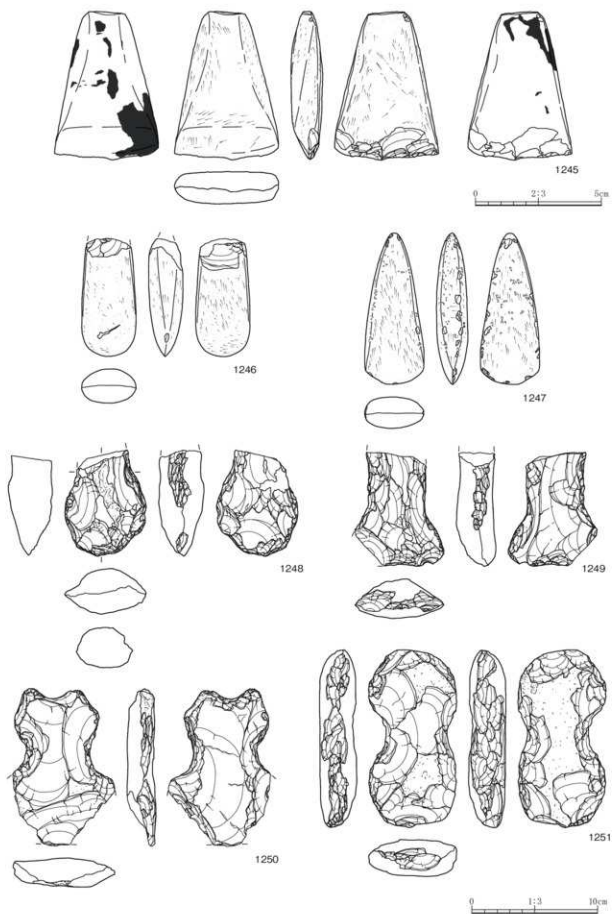
第 129 図 出土石器 (11)



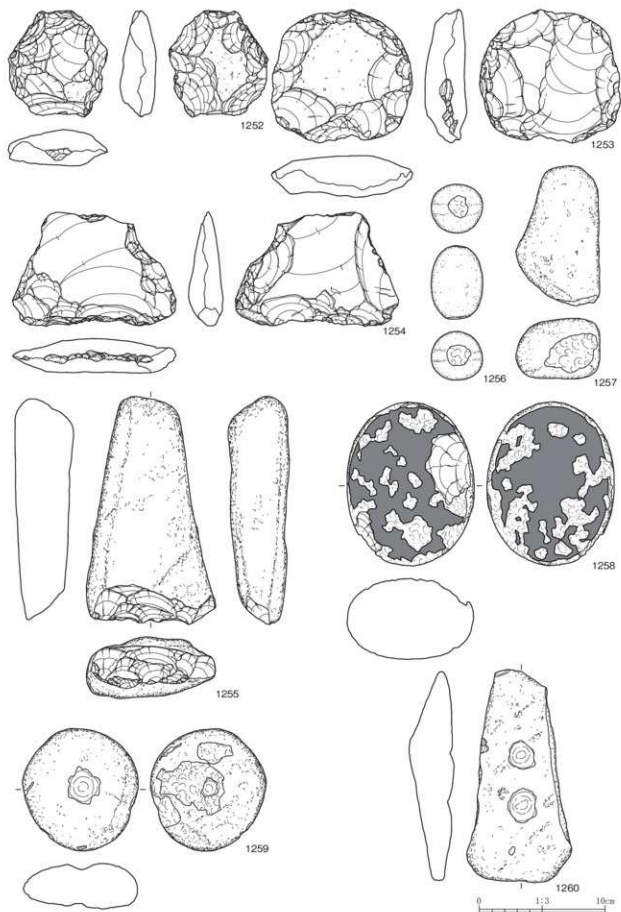
第130图 出土石器(12)



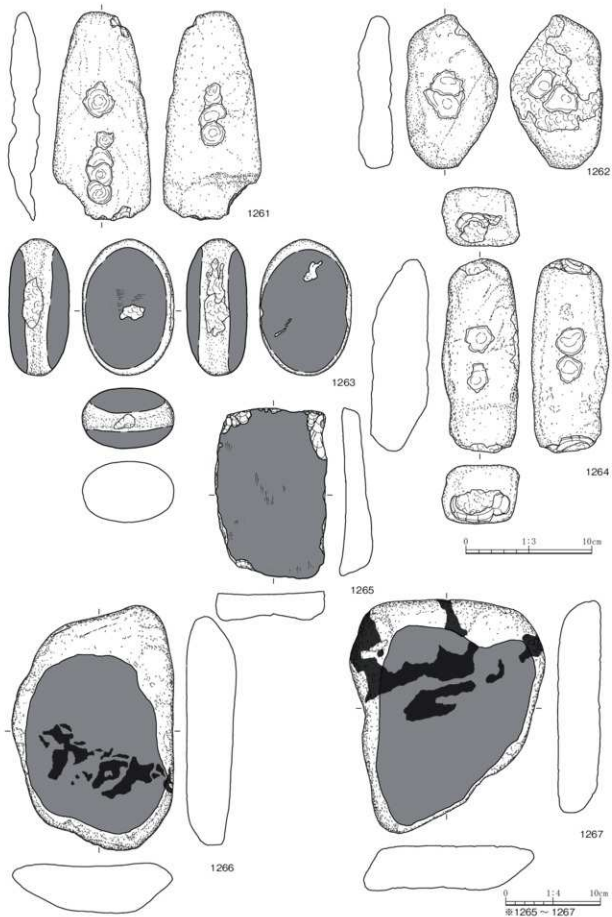
第131圖 出土石器(13)



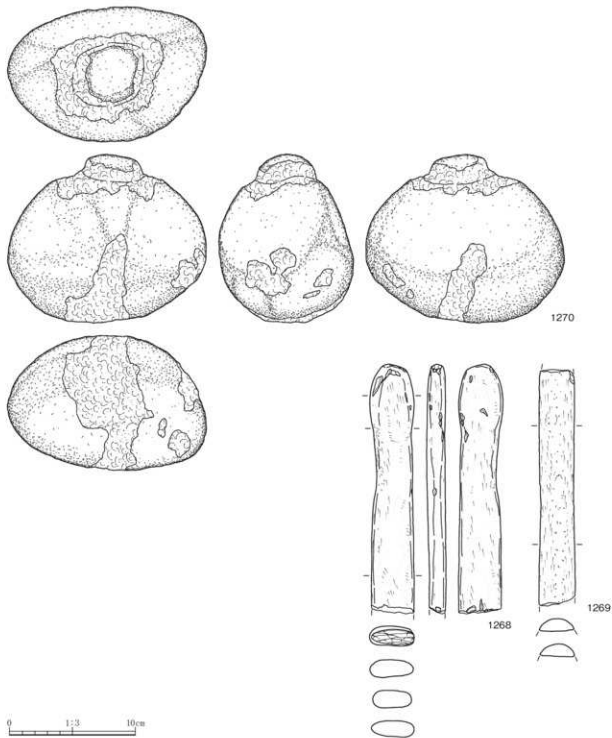
第132图 出土石器(14)



第 133 圖 出土石器 (15)



第134图 出土石器(16)



第135図 出土石製品

SD01

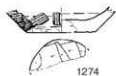


1272

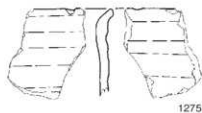
SD03



1273

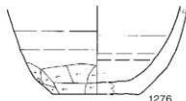


1274



1275

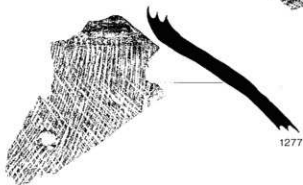
SD09



1276



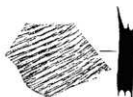
1278



1277

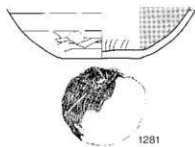


1279



1280

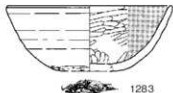
遺構外



1281



1282



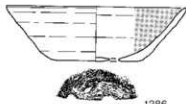
1283



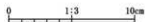
1284



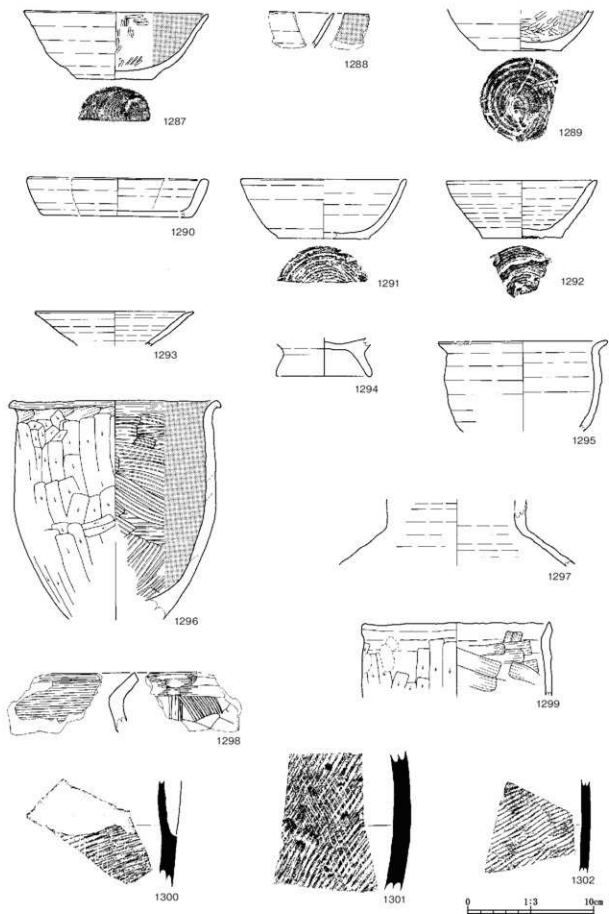
1285



1286



第136図 平安時代の土器(1)



第 137 図 平安時代の土器 (2)

第2-1表 縄文土器観察表 (1~11・16~846)

図版No.	DNRNo.	写No.	区	出土地点	層位	接合痕片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)					
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	口径	底径	器高	
1	40	37	東	SH07 伊3	埋土上面	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
2	40	37	東	SH07 伊3	埋土上面	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
3	40	37	東	SH07 伊5	埋土上面	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
4	40	37	東	SH07	埋土2層目埋込層土	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
5	40	37	東	SH07	埋土2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
6	40	37	東	SH07	埋土2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
7	40	37	東	SH07	埋土2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
8	40	37	東	SH07	埋土1層目埋込層土	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA	割	0	0	-	-	-	-	-	-
9	40	37	東	SH07	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
10	40	37	東	SH07	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
11	40	37	東	SH07 遺埋跡	埋跡	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
16	40	37	東	SH07	1層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
17	40	37	東	SH07	1層目埋込層土	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
18	40	37	東	SH07	1層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
19	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
20	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
21	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
22	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
23	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
24	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
25	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	割	0	0	-	-	-	-	-	-
26	40	37	東	SH07	2層目埋込層土	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA	割	0	0	-	-	-	-	-	-
27	41	37	西	SR01	Ⅰ-埋土層	80	80	縄文土器	深鉢	Ⅱ	Ⅱ・深鉢 4a型	略定形	100	100	484	140	400	-	-
28	41	37	西	3C7・12 3C126SR03 SR03SR04・3C17	Ⅱ層 Ⅲ層 Ⅰ-埋土層 不明	4 32 24 14	74	縄文土器	深鉢	Ⅱ	Ⅱ・深鉢 4a型	略定形	100	100	370	100	429	-	-
29	41	38	西	6C25 7C21 6C25～7C21 遺物集中土層① 6C25～7C21 遺物集中土層② 6C25～7C21 遺物集中土層③ 不明	Ⅱ a～Ⅱ b層 Ⅱ a層 Ⅱ b層 Ⅱ b層 Ⅱ b層 Ⅱ b層 不明	1 1 15 6 3 2 2 43 9	84	縄文土器	深鉢	ⅡB	略定形	85	100	233	78	250	-	-	
30	42	38	西	6C25 7C21 6C25～7C21 遺物集中土層① 6C25～7C21 遺物集中土層② 不明	Ⅱ b層 Ⅱ b層 Ⅱ b層 不明	1 95 12 9	117	縄文土器	深鉢	ⅡB	略定形	40	25	<296>	<102>	347	-	-	
31	42	38	西	6C25 7C21 6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ a層上下 Ⅱ a層 Ⅱ b層	1 13 1	15	縄文土器	小形深鉢	ⅡB	口縁～底1/2	35	100	<140>	52	127	-	-	
32	42	38	西	6C25 6C25～7C21 遺物集中土層① 不明	Ⅱ a層上下 Ⅱ a層 Ⅱ b層	1 3 4	8	縄文土器	小形深鉢	ⅡB	口縁～底2/3	80	100	74	42	69	-	-	
33	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	18	18	縄文土器	小形深鉢	ⅡB	略定形	90	70	121	53	110	-	-	
34	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層②	Ⅱ b層	14	14	縄文土器	小形深鉢	ⅡB	略定形	75	100	110	52	94	-	-	
35	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層① 不明	Ⅱ b層 不明	1 1	11	縄文土器	小形深鉢	ⅡB	略定形	75	100	90	48	74	-	-	
36	42	38	西	6C25 6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層 Ⅱ b層	4 12	16	縄文土器	小形深鉢	ⅡB	口縁～底2/3	80	100	133	63	116	-	-	
37	42	38	西	6C25 6C25～7C21 遺物集中土層① 不明	Ⅱ b層 Ⅱ b層 不明	1 45 5	51	縄文土器	壺	ⅡB	胴上平～底	0	95	-	90	(15.1)	-	-	
38	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	2	2	縄文土器	付付鉢	ⅡB	定形	100	100	101	50	75	-	-	
39	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	11	11	縄文土器	壺	ⅡB	胴下平～底	0	100	-	38	(45)	-	-	
40	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	1	1	縄文土器	付付鉢	ⅡB	定形	100	100	125	64	78	-	-	
41	42	38	西	6B3 6C19SR09 6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ a層下平 Ⅱ a層 Ⅱ b層 Ⅱ a～Ⅱ b層	1 50 1 1	53	縄文土器	壺	ⅡB	口縁～胴下平	80	0	96	-	(20.8)	-	-	
42	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層②	Ⅱ b層	8	8	縄文土器	壺	ⅡB	略定形	65	100	102	72	112	-	-	
43	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	18	18	縄文土器	壺	ⅡB	胴一平	0	100	-	72	(66)	-	-	
44	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	32	32	縄文土器	壺	ⅡB	略定形	100	50	50	<46>	140	-	-	
45	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	2	2	縄文土器	壺	ⅡB	略定形	100	100	37	56	163	-	-	
46	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	33	33	縄文土器	壺	ⅡB	略定形	85	65	36	43	124	-	-	
47	43	39	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	19	19	縄文土器	壺	ⅡB	略定形	85	65	36	43	124	-	-	
48	43	39	西	6C25～7C21 遺物集中土層①	Ⅱ b層	1	1	縄文土器	壺	ⅡB	略定形	65	100	56	53	83	-	-	
49	43	38	西	7E11P303	埋土	2	2	縄文土器	壺	ⅡB	定形	100	100	32	51	119	-	-	
50	43	39	西	7E11P303	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	Ⅱ・深鉢 5a型	口縁	-	0	-	-	-	-	-
51	43	39	西	7E11P303	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	割	0	0	-	-	-	-	-	-

〔 〕：残存額、< >：推定額

内容調整・英文など	内容調整・英文など	スリコフ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
銅・隆周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	838
銅・隆周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)		銅スス微量		0	0	大木8b	839
銅・沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	840
銅・隆沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	845
銅・隆沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	847
銅・隆周・研究	ナデ(横)				0	0	大木8b	848
口縁・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	中野佐藤	846
銅・沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木9	844
銅・隆周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	842
銅・隆沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	843
銅・隆周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	841
銅・隆周・前沢・縄文(京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	831
口縁・隆周・復原品上の竹管文連続的突。銅・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	中野佐藤	830
口縁・隆周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	836
口縁・隆周・前沢・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	827
銅・隆沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	833
銅・隆沈周・縄文(L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	834
銅・隆沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	835
銅・隆周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	837
口縁・前沢突起。口縁・隆沈周・縄文(復原品L京)	ナデ(横)				0	0	大木8b	832
口縁・前沢突起・縄文(京)	ナデ(横)				0	0	中野佐藤	829
口縁・突起。口縁・沈周・縄文(京)	ナデ(横)				0	0	大木9	828
口縁・縄文(L京)。口縁・銅・縄文(L京)。底：銅代張	ナデ(横)	銅下コケ少量	銅上ハス微量		1	1	前期中葉・年代推定 前田正 23	825
口縁・銅・縄文(L京)。底：銅代張	ナデ(横)		口縁・銅上ハス 少量		1	1		810
口縁：白突起。口縁：沈周・2個一対の粘土粒。銅・縄文(L京)。底：ナデ	口縁・沈周。口縁・底：ナデ(横)				1	1	大洲 A1	741
口縁：前田目。口縁：沈周。銅・縄文(L京)	ナデ(横)		銅スス微量		1	0	大洲 A1	750
口縁・銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)	銅上コケ微量	銅上ハス微量		1	1	大洲 A1	742
口縁：突起。口縁・銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	743
口縁：白突起。口縁：沈周・2個一対の粘土粒。銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)	銅下コケ微量	銅スス少量		1	1	大洲 A1	744
口縁：白突起・前田目。口縁：沈周。銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	749
口縁：白突起・前田目。口縁：沈周・尖首型状沈周。銅・縄文(L京)。底：ナデ	口縁・沈周。口縁・底：ナデ(横)				1	1	大洲 A1	754
口縁：白突起・前田目。口縁：沈周。銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	752
銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	753
口縁：白突起。銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	757
銅・底：ミギキ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	875
口縁：沈周。銅：ミギキ。白：流水工字文・沈周	口縁：沈周。口縁・底：ミギキ				1	1	大洲 A1	758
口縁・銅：ナデ	ナデ(横)				0	0	大洲 A1	731
銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	745
銅・沈周・ミギキ。底：ミギキ	銅・ナデ(横)。底：工具粗				1	1	大洲 A1	746
口縁：突起。口縁：圓錐状浮文。底：ミギキ。銅：並行する流水工字文・ミギキ。底：ミギキ	口縁・沈周。口縁・底：ナデ(横)				1	1	大洲 A1	747
口縁：圓錐状浮文。底：ミギキ。銅：工字文・2個一対の粘土粒・ミギキ。底：ミギキ	口縁・沈周。口縁・底：ナデ(横)				1	1	大洲 A1	748
口縁：圓錐状浮文。底：ミギキ。銅：流水工字文・沈周・研究・ミギキ。底：ミギキ	口縁・沈周。口縁・底：ナデ(横)				1	1	大洲 A1	755
銅・縄文(L京)。底：ナデ	ナデ(横)				1	1	大洲 A1	756
口縁：圓錐状浮文。底：ミギキ。銅：流水工字文・沈周・研究・ミギキ。底：ミギキ	口縁・沈周。口縁・底：ナデ(横)				1	1	大洲 A1	759
口縁：突起・前田目。口縁：ナデ	口縁：沈周。ナデ				0	0	前期初葉	269
銅：帯状区画(L京)。口縁：縄文(京)	ナデ(横)			植物質織 遺多量	0	0	前期初葉	790
銅・縄文(L京)	ナデ(横)			植物質織 遺多量	0	0	前期初葉	791

国政No.	DPRNo.	写No.	区	出土地点	層位	採合積内数		種類	部種	分類	残存位置	残存率(%)			計測値(m)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口縁	底径	器高	
52	43	30	西	7E11(伊30)	雑土	1	1	縄文土器	深鉢	I	割	0	0	-	-	-	(32)
53	43	30	西	1D4	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	-	(89)
54	43	30	西	1D23	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢 1層	突起~口縁	-	0	-	-	-	-
55	43	30	西	1D24	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	-	(57)
56	43	30	西	1D25	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(113)
57	43	30	西	1D15	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A・鉢 3層	口縁	-	0	-	-	-	(48)
58	43	30	西	1E5	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	-	(54)
59	44	30	西	1E9	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	-	(54)
60	44	30	西	1E4	砂礫 1or2層	30	30	縄文土器	深鉢	Ⅱ A?	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(183)
61	44	30	西	1E3	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁	-	0	-	-	-	(58)
62	44	30	西	1E14	砂礫 1or2層	1	1	縄文土器	浅鉢	Ⅱ A?	口縁	-	0	-	-	-	(47)
62	44	30	西	北端トレンチ②~3A区)	砂礫 3層	2	2	縄文土器	割	Ⅱ A?	割	0	0	-	-	-	(32)
64	44	30	西	1E3跡土	表版(日本層)	1	1	縄文土器	器	Ⅱ B	口縁	100	0	-	-	-	-
65	44	30	西	②~3E区	枕石	1	1	縄文土器	注1	遺	注1	0	0	-	-	-	-
66	44	30	西	②~3E区	枕石	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢 1層	突起	-	0	-	-	-	-
67	44	30	西	2A25	Ⅱ b層	5	5	縄文土器	器	Ⅱ B	口縁~胴	30	0	-	-	-	(73)
68	44	30	西	2A20	Ⅱ b層下部	1	1	縄文土器	浅鉢	Ⅱ B	口縁	-	0	-	-	-	(43)
69	44	30	西	2A11	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢 1層	口縁	-	0	-	-	-	(42)
70	44	30	西	2A18	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢 1層	口縁	-	0	-	-	-	(46)
71	44	30	西	2A18	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A?	口縁	-	0	-	-	-	(54)
72	44	30	西	2A23	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	注1?	雑土	口縁	-	0	-	-	-	(53)
73	44	30	西	2A18	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢 2層	Ⅱ B	口縁	-	0	-	-	-	(46)
74	44	30	西	2A1	砂礫 1or2層	14	14	縄文土器	鉢	Ⅱ A・鉢 3層	口縁~底	-	0	-	-	-	(128) (70) (11)
75	44	30	西	2A22	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A・鉢 3層	口縁	-	0	-	-	-	(58)
76	44	30	西	2A1	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(45)
77	44	30	西	2A23	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(67)
78	44	30	西	2A13	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(110)
79	44	30	西	2A13	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(78)
80	44	30	西	2A22	砂礫 1or3層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(141)
81	44	30	西	2A13	砂礫 1or3層	2	2	縄文土器	鉢	Ⅱ A・鉢 3層	口縁	-	0	-	-	-	(52)
82	44	30	西	2A17	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	浅鉢	Ⅱ B	口縁~胴	-	0	-	-	-	(47)
83	44	40	西	2A7	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	浅鉢	Ⅱ B	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(46)
84	45	40	西	2A22	砂礫 1or3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ A・鉢 3層	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(43)
85	45	40	西	2A15	砂礫 3層	1	1	縄文土器	器	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	-	(62)
86	45	40	西	2A15	砂礫 3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(37)
87	45	40	西	2A24	砂礫 3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁	-	0	-	-	-	(128)
88	45	40	西	2A20	砂礫 3層	3	3	縄文土器	器	Ⅱ B	胴下半~底	0	-	-	-	-	(53) (29)
89	45	40	西	2A15	砂礫 3層	1	1	縄文土器	注1	Ⅱ B	口縁	-	0	-	-	-	(38)
90	45	40	西	2B10	Ⅱ a層	32	32	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁~胴	-	0	-	-	-	(287)
91	45	40	西	2B25	Ⅱ a層	12	12	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	胴下半~底	0	-	-	-	-	(104) (336)
92	45	40	西	2B19	Ⅱ a層(砂層)	4	4	縄文土器	鉢	Ⅱ B	口縁~胴	-	0	-	-	-	(54)
93	45	40	西	2B10	Ⅱ a層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱ B	口縁	-	0	-	-	-	(27)
94	45	40	西	2B15	Ⅱ a層	23	23	縄文土器	器	Ⅱ B小	口縁~胴	-	0	-	-	-	(163)
95	45	40	西	2B25	Ⅱ a層	3	3	縄文土器	器	Ⅱ B	割	0	0	-	-	-	(59)
96	46	40	西	2E5 2E19~20	Ⅱ b層	5	8	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁~胴	-	0	-	-	-	(176)
				2E15		2											
				2E20		64											
				2E23		6											
				不明		7											
97	46	41	西	2E15 2E20 2E23 不明	Ⅱ b層 Ⅱ b層 Ⅱ b層~Ⅱ b2層	64 6 6	79	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁~底	-	-	-	-	-	(95) (95)
98	46	40	西	2E20	Ⅱ b層	12	12	縄文土器	付随物	Ⅱ A	口縁~底	-	-	-	-	-	(95) (58) (89)
99	46	40	西	2E10 2E20	Ⅱ b層下部 Ⅱ b層~Ⅱ b2層	2 4	6	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	胴~底	0	-	-	-	-	(90) (91)
100	46	40	西	2E24 不明	Ⅱ a層 不明	1 5	8	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(77)
101	46	40	西	2E25 2E20	Ⅱ b層下部 Ⅱ b2層	1 2	3	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(63)
102	46	41	西	2E20	Ⅱ b2層	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁~胴上半	-	0	-	-	-	(124)
103	46	41	西	2E10	Ⅱ b2層	12	12	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(85)
104	47	41	西	2E10	Ⅱ b2層	6	6	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(87)
105	47	41	西	2E25	Ⅱ b2層	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁~胴	-	0	-	-	-	(164)
106	47	41	西	2E15 2E20	Ⅱ b2層 Ⅱ b層	3 7	12	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁~胴	-	0	-	-	-	(150)
107	47	41	西	2E15 2E15	Ⅱ b2層 Ⅱ b層松平層	10 1	11	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 2層	口縁	-	0	-	-	-	(141)
108	47	41	西	2E20	Ⅱ b2層	7	7	縄文土器	深鉢	Ⅱ A?・深鉢 2層	口縁~胴	-	0	-	-	-	(175)
109	48	42	西	2E15 2E15 2E20	Ⅱ b2層 Ⅱ b2層~底 Ⅱ b2層	3 10 2	23	縄文土器	深鉢	Ⅱ A・深鉢 3層	口縁~胴	-	0	-	-	-	(297)
110	47	42	西	2E10	Ⅱ b2層	11	11	縄文土器	深鉢	Ⅱ A小	胴~底	0	35	-	-	-	(94)
111	47	42	西	2E25 2E11トレンチ	Ⅱ b2層 Ⅱ b層	6 1	7	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	胴下半~底	0	-	-	-	-	(89) (42)
				2E25		3											
				2E20		11											
				2E24		6											
				2E24		4											
				不明		10											
112	48	42	西	2E24 2E24 不明	Ⅱ b層下部 Ⅱ b層下部 Ⅱ b2層 不明	3 6 4 10	34	縄文土器	鉢	Ⅱ A・鉢 3層	口縁~底	-	-	-	-	-	(224) (64) (193)

外函調整・英文など	内函調整・英文など	スリコフ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
製・縄文 (R.L)	ナデ (織)			埴物共編 織多量	0	0	前期初頭	792
キヤワハニ・印・縄・陸奥部・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大木 8a	261
口縁・大型変形・口縁・沈殿	ナデ (織)						後期中葉	264
口縁・小変形・口縁・沈殿・列点・丸縁三叉文・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 B2	266
口縁・別み目・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	285
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (R.L)	口縁・沈殿・口縁・製・ナデ (織)		製上スリコフ少量				大田 C2	263
口縁・沈殿・別み目・口縁・変形・沈殿・工字文・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 A1	262
口縁・別縁三叉文・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 B2	280
口縁・小変形・製・縄文 (L.R)	ナデ (織・絆)		製上スリコフ少量				大田 B2?	269
口縁・変形・別み目・口縁・沈殿・列点	ナデ (織)						大田 C2	267
口縁・沈殿・工字文・粘土期胎付 (2期一対)	ミザキ (織)						大田 A1?	268
製・沈殿	ナデ (織)						大田 A1?	277
口縁・別縁三叉文・並・ミザキ	ナデ (織)			0	0		大田 A1	852
口縁・沈殿・胎付	ナデ (織)			0	0		後期後葉	850
口縁・別縁三叉文・口縁・沈殿	ナデ (織)			0	0		後期中葉	851
口縁・別委形・口縁・沈殿・製・沈殿・列点・工字文	口縁・沈殿・ナデ (織)						大田 A1	2
口縁・変形・口縁・沈殿・工字文・製・縄文 (L.R)	口縁・沈殿・製・ミザキ (織)		口縁上スリコフ少量				大田 A1	305
口縁・流状縁・口縁・胎付・沈殿	ナデ (織)						後期中葉	295
口縁・大変状縁・被覆部に変形・口縁・三日月胎付	ナデ (織)						後期中葉	300
口縁・別委形・口縁・丸縁三叉文	ナデ (織)						大田 B2	299
口縁・別委形・口縁・手曲状三叉文 (左端のみみ合わせなし)・沈殿	ミザキ (織)						大田 DC	309
口縁・別委形・口縁・手曲状三叉文 (左端のみみ合わせあり)・沈殿	ナデ (織)						大田 DC	291
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	261
口縁・変形・口縁・変形・沈殿・列点	口縁・沈殿・製・ナデ (織)						大田 C2	308
口縁・沈殿	ナデ (織)						大田 C2	292
口縁・小変形・口縁・沈殿	ナデ (織)						大田 C2	307
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (R.L)	ナデ (織)						大田 C2	296
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	267
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)			0	0		大田 C2・九年後葉	531
口縁・変形・口縁・沈殿・沈殿上の列点・別縁三叉文	口縁・沈殿・口縁・製・ナデ (織)			0	0		大田 C2新設層	361
口縁・製・沈殿・工字文	口縁・沈殿・製・ミザキ (織)						大田 A1	268
口縁・変形・口縁・工字文・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 A1	263
口縁・別み目・口縁・流状縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	口縁・沈殿・製・ナデ (織)						大田 A1	306
口縁・流状縁・胎付胎付	ナデ (織)						大木 8a	303
口縁・胎付・沈殿・別縁三叉文	ナデ (織)						後期初頭～前葉	304
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (R.L)	ナデ (織)						大田 C2	1
製下手・ミザキ・並・四反	ナデ (織)						大田 A1	302
口縁・変形・口縁・沈殿・列点	口縁・沈殿・製・ミザキ (織)						大田 A1	303
口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	14
製下手・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製下手コフ多量				大田 C2	62
口縁・別み目・口縁・変形・沈殿・工字文	口縁・沈殿・製・ミザキ		スリコフ少量				大田 A1	85
口縁・変形・別み目・口縁・沈殿・粘土期胎付 (2期一対)	口縁・沈殿・製・ナデ (織)						大田 A1	45
口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 A1少	28
製・沈殿・丸縁・縄文 (9段多量型)・穿孔1箇所 (径1.5cm)	ナデ (織)						後期中葉	64
口縁・別み目・製・縄文 (R.L)	ナデ (織)						大田 C2	37
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製上スリコフ少量				大田 C2	56
口縁・変形・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	39
製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	52
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製上スリコフ少量				大田 C2	59
口縁・別み目・口縁・沈殿・列点・製・縄文 (R.L)	ナデ (織)						大田 C2	43
口縁・別み目・口縁・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	41
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	39
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	29
口縁・別み目・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製上スリコフ少量				大田 C2	63
口縁・別み目・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	54
口縁・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)		口縁コフ少量				大田 C2	34
口縁・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製上スリコフ少量				大田 C2?	37
口縁・縄文・口縁・沈殿・製・縄文 (L.R)	ナデ (織)						大田 C2	35
製・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製下手～底コフ多量		1	1	大田 C2か・焼けたた みきしい・年代測定 新田 2-34	18
製下手・縄文 (L.R)	ナデ (織)		製下手スリコフ少量				大田 C2	62
口縁・変形 (A・B)・別み目・口縁・沈殿・製・縄文 (R.L)	ナデ (織)		製上スリコフ少量				大田 C2	40

採掘区画	DIREX	写図No.	区	出土地点	層位	採合機内数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値 (cm)			
						内数	総数					口縁	裏面	口縁	底径	口径	器高
113	48	42	西	2019	II 52層	2	2	縄文土器	鉢	区A・鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	-
114	48	42	西	2019	II 52層	4	4	縄文土器	鉢	区A・鉢2型	口縁・裏面	30	0	-	-	-	86.0
115	48	42	西	2019	II 52層	2	2	縄文土器	鉢	区A・鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	82.0
116	48	42	西	2015 2010	II 52層	2	3	縄文土器	鉢	区A	胴~底	0	-	-	-	-	59.0
117	48	42	西	2014	II 52層	2	2	縄文土器	鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	62.0
118	48	42	西	2015	II 52層	1	1	縄文土器	鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	63.0
119	48	42	西	2015	II 52層	1	1	縄文土器	鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	14.5
120	48	42	西	2015	II 52層	1	1	縄文土器	鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	14.8
121	48	42	西	2015	II 52層	6	8	縄文土器	甕	区B	胴~底	0	-	-	-	-	63.0 (7.7)
122	48	42	西	2019	II 52層	1	1	縄文土器	浅鉢	区B	口縁	30	0	-	-	-	14.0
123	48	42	西	2015 2A25	II 52層	1	2	縄文土器	浅鉢	区B	口縁・胴	-	0	-	-	-	63.0
124	48	42	西	2015	II 52層	2	2	縄文土器	白付鉢	区B	台	0	-	-	-	-	63.0
125	48	42	西	2010	II 53層	6	6	縄文土器	深鉢	区A・深鉢1型	口縁	-	0	-	-	-	67.2
126	48	42	西	2010	II 53層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	67.0
127	48	42	西	2015 2015	II 52層	1	4	縄文土器	浅鉢	区A	口縁~底	-	-	-	37	42	37
128	49	42	西	2024 2024 2024	II 54層	4	21	縄文土器	鉢	区A・鉢3型	口縁~底	-	-	189	57	-	
129	49	42	西	2014 2014	II 54層	6	7	縄文土器	甕	区B	胴~底	0	-	-	-	65	66.0
130	49	42	西	2014	II 55層	2	3	縄文土器	浅鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	63.0
131	49	43	西	2010	II 55層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	遺品	口縁	-	0	-	-	-	63.0
132	49	43	西	2025 ベ&ト	II 55層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	80.0
133	49	43	西	2025	II 55層下部	5	5	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁・胴	-	0	-	-	-	114.0
134	49	43	西	2・3階~G1F 2025 ベ&ト	底面クワリコンダ	1	6	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁・胴上平	-	0	-	-	-	114.0
135	49	43	西	2025 ベ&ト	II 55層	10	10	縄文土器	深鉢	区A	胴~底	0	-	-	-	-	112.7 (5.3)
136	49	43	西	2024 ベ&ト	II 55層	8	8	縄文土器	深鉢	区A	胴~底	0	-	-	-	-	182.0 (6.4)
137	49	43	西	2024 ベ&ト	II 55層	7	14	縄文土器	深鉢	区A	胴下平~底	0	-	-	-	-	87.0 (11.0)
138	49	43	西	2025	II 55層下部	6	7	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	110.0
139	49	43	西	2019・20	II 55層	11	21	縄文土器	深鉢	区A	口縁~胴	25	0	24.0	-	-	17.0
140	49	43	西	2019・20	II 55層	1	1	縄文土器	鉢	区A・鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	62.0
141	49	43	西	2019・20	II 55層	3	3	縄文土器	鉢	区A・鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	85.2
142	50	43	西	2015	II 55層	14	14	縄文土器	鉢	区A・鉢2型	口縁~底	20	9.0	11.30	7.4	9.7	-
143	50	43	西	2010	II 55層	1	1	縄文土器	鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	62.0
144	50	43	西	2019・20	II 55層	1	1	縄文土器	浅鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	14.9
145	50	43	西	2014・15	II 55層	2	2	縄文土器	浅鉢	区B	口縁~胴	-	0	-	-	-	65.0
146	50	43	西	2025	II 55層下部	1	1	縄文土器	浅鉢 or 白付鉢	遺品?	口縁~胴	-	0	-	-	-	65.0
147	50	43	西	2010 2015 2015 不明	II 55層下部	2	4	縄文土器	甕	区A	胴	0	0	-	-	-	15.8
148	50	43	西	2017	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	遺品	口縁	-	0	-	-	-	65.0
149	50	43	西	2016	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	遺品	口縁	-	0	-	-	-	69.7
150	50	43	西	2016	砂礫1or3層	3	3	縄文土器	深鉢	区A・深鉢2型	胴	0	0	-	-	-	114.2
151	50	44	西	2023	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	61.1
152	50	44	西	2017	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	67.0
153	50	44	西	2018	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	67.1
154	50	44	西	2016	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	14.7
155	50	44	西	2016	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	浅鉢	区B	口縁	-	0	-	-	-	65.7
156	50	44	西	2017	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	鉢	遺品A	口縁	-	0	-	-	-	63.0
157	50	44	西	2018	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	遺品B	口縁	-	0	-	-	-	14.0
158	50	44	西	2011	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	鉢	遺品B	口縁	-	0	-	-	-	65.0
159	50	44	西	2013	砂礫1or3層	2	2	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	61.1
160	50	44	西	2013	砂礫1or3層	3	3	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	65.0
161	50	44	西	2012	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	67.2
162	50	44	西	2013	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	114.0
163	50	44	西	2013	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	67.1
164	51	44	西	2013	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	67.6
165	51	44	西	2011	砂礫1or3層	2	3	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁~胴	-	0	-	-	-	64.0
166	51	44	西	2023	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	85.0
167	51	44	西	2013	砂礫1or3層	12	12	縄文土器	深鉢	区A・深鉢&型	口縁	-	0	-	-	-	110.0
168	51	44	西	2011	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	鉢	区A・鉢2型	口縁~胴	-	0	-	-	-	66.0
169	51	44	西	2013	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	鉢	区A・鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	65.1
170	51	44	西	2013	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	鉢	区A・鉢1型	口縁	-	0	-	-	-	69.2
171	51	44	西	2015	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A	口縁	-	0	-	-	-	66.2
172	51	44	西	2019	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	遺品	口縁	-	0	-	-	-	66.0
173	51	44	西	2014	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	区A・深鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	65.5

外面調整・英文など	内面調整・英文など	天スコヤ		胎土	底面	底部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁：突起・折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	35
割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	47
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点	ナデ（横）						大塚 C2	12
割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	30
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点	口縁：沈彫、割：ナデ						大塚 A1	10
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点	ミガキ（横）						大塚 A1	35
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 A1	25
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点、割：縄文（L京）	ミガキ（横）						大塚 A1	32
口縁：沈彫、割：ミガキ	口縁：割：ナデ（横）、底面：工、沈彫						大塚 A1・内面底に割 白痕	28
口縁：沈彫	口縁：沈彫、割：ミガキ						大塚 A1	9
口縁：沈彫、割：ミガキ	口縁：沈彫、割：ミガキ						大塚 A1	25
台：工字文	ナデ（横）						大塚 A1	33
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						口縁スス多量 大塚 C2	49
口縁：縄文（L京）	ナデ（横）						口縁スス多量 大塚 C2	48
口縁：突起、口縁：割・縄文、底：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	38
口縁：突起、口縁：雲形文・沈彫、割：縄文（R京）	口縁：沈彫、割：ナデ（横）						大塚 C2	58
割：ミガキ	ミガキ						大塚 A1	22
口縁：沈彫、割：ミガキ	ミガキ						大塚 A1	23
口縁：平歯状文2類（末縁の収み合わない）、沈彫	ナデ（横）						大塚 BC1 ?	45
口縁：折み目・施文野の互座、割：縄文（R京）	ナデ（横）						大塚 C2	65
口縁：折み目、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	66
口縁：折み目、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	64
割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	27
割：縄文（R京）	ナデ（横）						大塚 C2	80
割下平：縄文（R京）	ナデ（横）						大塚 C2	60
割：縄文（L京）	ナデ（横）						口縁スス微量 大塚 C2	4
割：ナデ（跡）	ナデ（横）						割上平スス微量 大塚 C2	11
口縁：突起、口縁：沈彫	口縁：沈彫、割：ナデ						大塚 C2	13
口縁：折み目、口縁：突起・沈彫・刻点、割：沈彫・大輪帯文・縄文（L京）	口縁：沈彫、ナデ（横）						大塚 C2	36
割：縄文（L京）	ナデ（横）						1 大塚 C2	7
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点・工字文	ナデ（横）						大塚 A1	16
口縁：折み目、口縁：沈彫・刻点、割：縄文（L京）	口縁：沈彫、割：ミガキ						大塚 A1	32
口縁：沈彫、割：ミガキ	ミガキ						大塚 A1	25
口縁：折み目、口縁：沈彫・雲形文・瓦子状突起・縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 BC ?	69
割：沈彫：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	53
口縁：滑潤	ナデ（横）						大塚跡 ?	338
口縁：割：沈彫・滑潤・縄文（R京）	ナデ（横）						口縁＝割上平スス 少量	335
割：沈彫・滑潤・縄文（R京）、割突	ナデ（横）						割上スス少量	337
口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						後期中華	345
口縁＝割上平：縄文（L京）	ナデ（横）						後期中華	318
口縁＝割上平：縄文（R京）	ナデ（横）						後期中華	322
口縁：縄文（L京）	ナデ（横）						麻布孔1箇所（内＝中）、 後期中華	336
口縁：突起・刻点、割：沈彫・縄文（L京）	ナデ（横）						後期中華	334
口縁：折み目、口縁：人組二又文・沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 B2	319
口縁：B突起、口縁：平歯状文2類（末縁の収み合わない）、沈彫	ナデ（横）						大塚 BC	321
口縁：B突起、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 BC	327
口縁：折み目、口縁：沈彫	ナデ（横）						大塚 C2	329
口縁：折み目、口縁：沈彫	ナデ（横）						口縁スス微量 大塚 C2	330
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	320
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	313
口縁：折み目、口縁：沈彫	ナデ（横）						大塚 C2	312
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	313
口縁：折み目、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	326
口縁：折み目、割：縄文（R京）	ナデ（横）						大塚 C2	343
口縁：折み目、割：縄文（L京）	ナデ（横）						口縁＝割上平スス 文少量	314
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（R京）	ナデ（横）						大塚 C2	325
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	328
口縁：折み目、割：突起・縄文（L京）	ナデ（横）						大塚 C2	315
口縁＝割上平：沈彫	ナデ（横）						大塚跡	317
口縁：波状縁、口縁：雲形文・滑潤文・縄文（後期京L京）	ナデ（横）						大塚跡	319
口縁：折み目、口縁：沈彫、割：縄文（L京）	ナデ（横）						後期中華	316

掲載順	DPRNo.	写真No.	区	出土地点	層位	組合積内数		種類	部種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)			
						内訳数	総数					口縁	底面	口径	底径		
174	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	甕・瓦小	底	0	-	-	29	55	
175	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆	甕・瓦小	口縁	0	-	-	62	-	
176	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆	甕	口縁	0	-	-	53	-	
177	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆	甕	口縁	0	-	-	148	-	
178	51	44	西	2B5	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	79	-	
179	51	44	西	2B10	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴上半	0	-	-	120	-	
180	51	44	西	2B10	砂礫3層	2	2	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	82	-	
181	51	44	西	2B10	砂礫3層	2	2	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴上半	0	-	-	109	-	
182	51	44	西	2B10	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴上半	0	-	-	60	-	
183	51	44	西	2B10	砂礫3層	4	4	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴上半	0	-	-	118	-	
184	51	45	西	2B10	砂礫3層	2	2	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	60	-	
185	51	45	西	2B10	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦	胴	0	-	-	140	-	
186	51	45	西	2B15	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆	瓦・漆3層	口縁	0	-	-	146	-	
187	51	45	西	2B10	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆	瓦	口縁	0	-	-	141	-	
188	52	45	西	2C12	II a層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	変形	0	-	-	102	-	
189	52	45	西	メインベルト 2C29	II a層	2	2	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	84	-	
190	52	45	西	2C13	II a層	3	3	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	127	-	
191	52	45	西	4D18	II a層	1	1	縄文土器	漆器	瓦	胴	0	-	-	140	-	
191	52	45	西	メインベルト 2C24	II a層	10	11	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	27	-	69	-	
192	52	45	西	メインベルト 2C29	II a層	2	4	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	33	-	83	-	
192	52	45	西	メインベルト 2C29	II a層	4	6	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	33	-	83	-	
193	52	45	西	2C15	II a層	9	15	縄文土器	漆	瓦C	口縁-胴	0	-	-	100	-	
193	52	45	西	メインベルト北	I・II層出土層位	6	15	縄文土器	漆	瓦C	口縁-胴	0	-	-	100	-	
194	52	45	西	2C18	II層(砂礫)	1	1	縄文土器	漆器	I少	口縁	0	-	-	28	-	
195	52	45	西	2C24	II b層	5	5	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴	0	-	-	136	-	
196	52	45	西	2C20	II b層	6	6	縄文土器	漆器	瓦?・漆鉢支那	底	0	-	-	100	-	
197	52	45	西	2C4	II b層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	72	-	
197	52	45	西	2C4	II a層	2	4	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	72	-	
197	52	45	西	2C4	2B12	1	1	縄文土器	漆器	瓦	口縁	0	-	-	72	-	
198	52	45	西	2C14B300	13層(II b層)	1	1	縄文土器	漆口	樽A	胴上半	0	-	-	53	-	
199	52	45	西	2C30	II層下部	1	1	縄文土器	漆	樽A	口縁	0	-	-	149	-	
200	52	45	西	2C9	II b層	1	1	縄文土器	漆	甕	口縁	0	-	-	146	-	
200	52	45	西	2C14B300	13層(II b層)	24	24	縄文土器	漆器	瓦A	胴下半-底	0	-	-	102	-	
202	53	46	西	2C30	II a層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁-胴	0	37	-	272	-	
202	53	46	西	2C30	II b層	7	21	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁-胴	0	37	-	272	-	
202	53	46	西	2C30	II b層	13	13	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁-胴	0	37	-	272	-	
203	53	46	西	2C13	II b層	3	3	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁-胴	0	-	-	214	-	
204	53	46	西	2C14B300	13層(II b層)	1	1	縄文土器	漆	瓦A・漆3層	口縁	0	-	-	50	-	
205	53	46	西	2C30	II層下部	1	1	縄文土器	漆	瓦・漆鉢支那	変形	0	-	-	149	-	
206	53	46	西	2C19・24ベルト	II層	12	12	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴	0	-	-	286	-	
207	53	46	西	2C18・23ベルト	II層-砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦	口縁	0	-	-	52	-	
208	53	46	西	2C8	II層上半	1	1	縄文土器	漆器	甕	口縁	0	-	-	141	-	
209	53	46	西	2C5B300	14層(II層)	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	50	-	
210	53	46	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	漆	甕	口縁	0	-	-	58	-	
211	53	46	西	2C3	砂礫1or3層	2	2	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	52	-	
212	53	46	西	2C3	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	54	-	
213	53	46	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	漆器	甕	口縁	0	-	-	145	-	
214	53	46	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁	0	-	-	69	-	
215	54	46	西	2C10B300	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A	口縁	0	-	-	60	-	
216	54	46	西	2C5B300	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A	口縁	0	-	-	53	-	
217	54	46	西	2C14B300	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A	口縁	0	-	-	70	-	
218	54	46	西	2C14B300	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆	樽A	口縁	0	-	-	75	-	
219	54	46	西	2C25B300 古	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆口	樽A?	漆口	0	-	-	-	-	
220	54	46	西	2C28B300	砂礫3層	3	3	縄文土器	漆	瓦A	口縁-胴	0	-	-	50	-	
221	54	46	西	2C12B300	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆口	瓦A	漆口	0	-	-	-	-	
222	54	46	西	2C26B300 古	砂礫4層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	-	-	
223	54	46	西	2C20B300 古	砂礫4層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A	胴	0	-	-	83	-	
224	54	46	西	2C20B300 古	砂礫4層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A	胴	0	-	-	86	-	
225	54	47	西	2D18B300	I - II a層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁	0	-	-	102	-	
226	54	46	西	2C10B300	原層上	1	1	縄文土器	漆	樽A	口縁	0	-	-	64	-	
227	54	47	西	2D0 - 25 東壁前面付近	胴上半(II b層)	6	6	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁-胴	0	-	-	111	-	
228	54	46	西	2B5	II層1/2層	1	1	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁	0	-	-	72	-	
229	54	46	西	2B5	II b層朝顔層	2	2	縄文土器	漆器	瓦A・漆鉢支那	口縁	0	-	-	53	-	
230	55	47	西	2B5	II層	30	30	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴	0	-	-	42	-	
231	54	46	西	2D4B300 古	砂礫1層	2	2	縄文土器	漆器	瓦A小	口縁-胴下半	25	0	21	-	53	-
232	54	47	西	2D17B300	砂礫2層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	胴	0	-	-	79	-	
233	54	47	西	2D28B300	砂礫2層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	変形	0	-	-	-	-	
234	54	47	西	2D9 (N30)	砂礫2層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	変形	0	-	-	-	-	
235	54	47	西	2D20B300	砂礫2層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	口縁-胴上半	0	-	-	80	-	
236	54	47	西	2D16B300	砂礫2層	1	1	縄文土器	漆	樽A	口縁	0	-	-	52	-	
237	54	47	西	2D28B300	砂礫2層	1	1	縄文土器	漆	樽A	口縁	0	-	-	86	-	
238	55	47	西	2D19B300	砂礫3層	2	2	縄文土器	漆器	瓦A	口縁	0	-	-	72	-	
239	55	47	西	2D12	砂礫3層	1	1	縄文土器	漆器	瓦・漆鉢支那	変形	0	-	-	-	-	

外函調整・英文など	内函調整・英文など	スラスラ		胎土	底面	底部1/2以上	備考	登録%	
		内面	外面						
胎面による底面の張り出し。底面磨痕	ナデ(横)							73	
底面2ヶ所磨痕	ナデ(横)							74	
口縁：沈彫。胎面目。口縁：半面杖文	ナデ(横)						大洲 B?	75	
書札文							大洲 BC?	71	
口縁：胎面目。口縁：沈彫	ナデ(横)						大洲 C2?	5	
口縁：胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(羽状条結末朱丸・耳)	ナデ(横)						大洲 C2	324	
口縁：胎面目。口縁：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2	33
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2	353
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2	341
口縁：胎面目。胎：突起・縄文(L京)	ナデ(横)						大洲 C2	342	
口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横)						輪付孔1箇所(内・外)	大洲 C2	47
胎：縄文(L京)	ナデ(横)						輪付孔1箇所・大洲 C2	大洲 C2	50
口縁：胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2	332
口縁：突起。胎面目。口縁：工字文							胎：ナデ(横)	大洲 A1	29
中空突起	ナデ(横)							後期中葉	77
口縁：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	後期中葉	82
口縁：胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2・年代測定範囲 5-4	28
口縁：胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 C2	76
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2	50
口縁：波状線。口縁：胎：突起工字文・沈彫・ミザキ							口縁：沈彫・ミザキ。胎：ナデ(横)	大洲 A'	79
口縁：ループ文	ナデ(横)					0	0	前期初期	82
口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁スス少量	後期中葉・年代測定 前田 5-15	86
胎：縄文(L京)	ナデ(横)							後期中葉?	90
口縁：胎面目。口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横)							後期中葉	75
胎上半：沈彫・ミザキ	ナデ(横)					0	0	大洲 B2	497
口縁：曲線状三叉文・沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 B2	357
口縁：突起。口縁：半面杖文2類(左縁の収め合わない)	ナデ(横)							大洲 BC	355
胎下半：縄文(L京)。胎：ナデ	ナデ(横)							大洲 C2	387
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 C2	83
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 C2	85
口縁：胎面目。口縁：沈彫							口縁：沈彫。口縁：胎：ナデ(横)	大洲 C2	95
口縁：中空突起。沈彫・背透孔。口縁：縄文(耳)	ナデ(横)							後期初期・前期	366
口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横)							後期中葉	84
口縁：突起。口縁：沈彫。胎：縄文(耳)	ナデ(横)							後期後葉	83
口縁：突起。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)。胎：曲線状三叉文	ナデ(横)						口縁スス少量	後期後葉	354
口縁：沈彫。縄文(L京)	ナデ(横)					0	0	後期中葉	366
口縁：半面杖文2類(左縁の収め合わない)	ナデ(横)							大洲 BC? 少	348
口縁：胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							後期中葉	350
口縁：多重沈彫	ナデ(横)							後期中葉	351
口縁：突起。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)。胎：曲線状三叉文	ナデ(横)							後期後葉	349
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							輪付孔1箇所(内・外)・大洲 C2	347
キヤバノ形。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大木 8a	358
口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大木 8a	353
口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大木 9	361
口縁：胎面目。胎：突起。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						口縁：胎上半スス少量	大洲 B2	364
胎：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)					0	0	大洲 B2?	360
口縁：胎面目。胎：沈彫。胎：縄文(L京)	ミザキ(横)							大洲 C2	89
口縁	ナデ							大洲 C2	8
口縁：突起。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							後期中葉	87
胎：胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大木 8a	362
胎：胎：縄文(L京)	ナデ(横)					0	0	大木 8a	363
口縁：縄文(L京)	ナデ(横)					0	0	後期中葉	453
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 BC?	44
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 C2	88
口縁：胎面目。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大洲 C2	95
口縁：胎面目	ナデ(横)						口縁スス少量	大洲 C2	138
口縁：胎：縄文(L京)	ナデ(横・斜)						口縁スス少量	輪付孔2対4箇所・後期中葉	94
口縁：胎：ミザキ	ミザキ					0	0	大洲 C2 少	800
胎：沈彫。胎：突起	ナデ(横)					0	0	後期初期・前期	369
大形突起：沈彫。沈彫に沿う角点	ナデ(横)					0	0	後期中葉	371
口縁：大形突起						0	0	後期中葉	856
口縁：胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						胎上半スス少量	後期中葉	372
口縁：胎：突起。口縁：沈彫。胎：突起。胎：三叉文2類	ナデ(横)					0	0	大洲 B2	368
口縁：胎：突起。胎面目。口縁：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)						胎上半スス少量	大洲 B2	375
口縁：波状線。口縁：胎：沈彫。胎：縄文(L京)	ナデ(横)							大木 9	96
中空突起	ナデ(横)					0	0	後期中葉(宝ヶ原式)	360

掲載順	DORM	写号	区	出土地点	層位	接合痕内数		種類	部種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)				
						内訳数	総数					口縁	底面	口径	底径			
240	55	47	西	3D12N302	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	罐B	口縁	-	0	-	-	5(2)		
241	55	47	西	3D9N303	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢2型	口縁-胴上半	0	0	-	-	4(47)		
242	55	47	西	3D18N302	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	口縁	-	0	-	-	5(7)		
243	55	47	西	3D14N302	イイ18層(砂礫3層)	1	1	縄文土器	台付鉢	ⅢA	胴下半+台	0	100	-	-	5.3	6(5)	
244	55	47	西	3D18N302	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅢA	口縁	-	0	-	-	3(3)		
245	56	48	西	3E9(N301)	尾原層(砂礫1or2層)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ	突起	-	0	-	-	-	-	
246	56	48	西	3E22	砂礫1or2層	3	3	縄文土器	浅鉢	ⅢA	胴-底	0	-	-	-	-	4(25)	
247	56	48	西	3E22	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢1型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	6(6)	
248	56	48	西	3E19(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ	胴	0	0	-	-	-	4(2)	
249	56	48	西	3E12(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢1型	突起	-	0	-	-	-	-	
250	56	48	西	3E19(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢1型	胴	0	0	-	-	-	5(1)	
251	56	48	西	3E4(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	7(4)	
252	56	48	西	3E3(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢or皿	ⅢB?	底	-	-	-	-	-	4(6)	1(4)
253	56	48	西	3E17(N301)	砂礫2層	2	2	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	5(7)	
254	56	48	西	3E4(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢小	ⅢA	口縁	-	0	-	-	-	4(2)	
255	56	48	西	3F7	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	6(4)	
256	56	48	西	3F7	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢA	口縁	-	0	-	-	-	4(7)	
257	56	48	西	3F6	砂礫1or2層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	6(3)	
258	56	48	西	3F18	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢5型	口縁	-	0	-	-	-	6(5)	
259	56	48	西	3F6	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅢA	底	0	-	-	-	-	4(9)	1(5)
260	56	48	西	3F7	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	5(7)	
261	56	48	西	3F2	砂礫1層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	6(2)	
262	56	48	西	3F1	砂礫1層	1	1	縄文土器	深鉢or鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	4(9)	
263	56	48	西	3F9(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	6(4)	
264	56	48	西	3F9(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢1型	口縁	-	0	-	-	-	-	
265	56	48	西	3F3(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	7(7)	
266	56	48	西	3F4(N301)	砂礫2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	6(7)	
267	56	48	西	3F8(N301)	砂礫2層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢5型	口縁	-	0	-	-	-	7(4)	
268	57	48	西	3C5	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢-鉢	Ⅴ・深鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	5(8)	
269	57	48	西	3C9	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢1型	突起	-	0	-	-	-	-	
270	57	48	西	3A23<Ⅴ>	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	7(9)	
271	57	48	西	3A12	Ⅱb層 砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	7(3)	
272	57	48	西	3A17	Ⅱb層 砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	7(6)	
273	57	48	西	3A23<Ⅴ> 3A22<Ⅴ> 3A20<Ⅴ> 不明	Ⅱa層 Ⅱb層 Ⅱb層 不明	1 62 2 6	71	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3型	口縁-胴	-	0	-	-	1(8)	1(13)	
274	57	48	西	3A24<Ⅴ>	Ⅱb2-4層	12	12	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢20型	口縁	-	0	-	-	-	11(9)	
275	57	48	西	3A17	Ⅱb層 砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	13(11)	
276	57	49	西	3A25<Ⅴ> 3B21<Ⅴ> 不明	Ⅱb層 Ⅱb層 不明	46 15 6	67	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-底	-	0	-	-	33.3	11.0	4(6)
277	58	49	西	3A12	Ⅱb層上部	64	64	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢2a型	口縁-底	-	0	-	-	62.6	8.3	3(5)
278	58	49	西	3A23<Ⅴ> 3A24<Ⅴ> 3A21<Ⅴ>	Ⅱb2層 Ⅱb層上部 Ⅱb層下半	1 6 11	18	縄文土器	深鉢	ⅢA	胴下半+底	0	100	-	-	9.1	21.0	
279	58	49	西	3A25<Ⅴ>	Ⅱb層	6	6	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢2型	口縁-胴	-	0	-	-	-	15(7)	
280	58	49	西	3A16	19層(Ⅱb5層)一 段	1	1	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	口縁	-	0	-	-	-	13(7)	
281	58	49	西	3A24<Ⅴ> 3A22<Ⅴ> 3A21	Ⅱb2-4層 Ⅱb4層 Ⅱb2-4層	6 4 11	21	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	口縁-底	30	100	15.4	6.0	13.5		
282	58	49	西	3A21<Ⅴ>	Ⅱb2層	34	34	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	突起	-	0	-	-	13.5	5.0	12.3
283	58	49	西	3A23	Ⅱb4層 37-38層(砂礫3層)	6 3	9	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	口縁-胴	-	0	-	-	8.0	3.4	6(7)
284	58	49	西	3A21<Ⅴ>	Ⅱb1層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅢA	底	-	100	-	-	-	3.2	1(3)
285	58	49	西	3A21<Ⅴ>	Ⅱb層	13	13	縄文土器	台付浅鉢	ⅢA?	胴-底	0	-	-	-	-	-	-
286	58	49	西	3A21<Ⅴ> 3A21<Ⅴ>	Ⅱb層 30層(Ⅱb2-b4層 間層)	1 1	2	縄文土器	浅鉢	ⅢA?	口縁-胴	-	0	-	-	-	-	4(4)
287	58	49	西	3A21	19層(Ⅱb5層)一 段	20	20	縄文土器	器	ⅢA	突起	-	0	-	-	8.6	7.3	2(3)
288	59	49	西	3A23<Ⅴ>	Ⅱb1層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	-	3(0)
289	59	49	西	3A22<Ⅴ> 3A23<Ⅴ>	Ⅱb4層 Ⅱb2層	1 2	3	縄文土器	浅鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	-	4(8)
290	59	49	西	3A22<Ⅴ>	Ⅱb1層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	-	-	4(9)
291	59	50	西	3A22<Ⅴ>	Ⅱb1層	1	1	縄文土器	台付浅鉢	ⅢB	台	0	-	-	-	-	6.2	-
292	59	50	西	3A24 3A13	Ⅱb2-b5層 砂礫3層	3	3	縄文土器	台付浅鉢	ⅢB	口縁-底	-	0	-	-	21.4	-	7.9
293	59	50	西	3A22<Ⅴ> 3A16	Ⅱb1層 Ⅱb層	1 2	3	縄文土器	浅鉢	ⅢB	口縁-胴	-	0	-	-	-	-	5(3)
294	59	50	西	3A12	Ⅱb層上部	4	4	縄文土器	浅鉢	ⅢC	口縁-胴	-	0	-	-	-	-	6(1)
295	59	50	西	3A23	37層(砂礫3層)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢1型	突起	-	0	-	-	-	-	-
296	59	50	西	3A23	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅴ・深鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	-	6(7)

外面調整・英文など	内面調整・英文など	天スゴヤ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁：白変結。口縁：半面杖文2類（末端の収み合わない）・四点・沈澱	ナデ（横）						大洲 B2	359
口縁～胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	365
口縁：黒み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	口縁：沈澱。口縁～胴：ナデ（横）	口縁コゴ多量	口縁スス少量		0	0	大洲 C2	599
胴下半：沈澱・縄文（京上）	ナデ（横）				1	1	大洲 C2	367
口縁：変結。胴み目。口縁：沈澱・縄文（京上）・新畿沢洋文	口縁：沈澱・ナデ（横）				0	0	大洲 C2新設部	598
口縁：横括変結	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	375
胴：縄文の初沈澱。巴沢文様	ナデ（横）				1	0	大洲 B2新	532
口縁：黒み目。口縁：沈澱。変結。胴上半：縄文（京上）	口縁：沈澱。口縁～胴：ナデ（横）				0	0	大洲 C2	363
胴：沈澱。乳点・乳痕。方形区画	ナデ（横）				0	0	1層内1式（前期）（後期前葉）	378
口縁：変結。口縁：沈澱	ナデ（横）				0	0	後期中葉	376
胴：沈澱。沈澱に沿う連続斜交・縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	379
口縁：黒み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	374
胴：雲形文・縄文（京上）	ミガキ						大洲 BC ?	97
口縁：変結。胴み目。口縁：変結・沈澱・濁文・縄文（京上）	口縁：沈澱。口縁～胴：ミガキ（横）				0	0	大洲 C2新設部	377
口縁：無文	ナデ（横）				0	0	磯原川1箇所（西→内）・大洲 C2	373
口縁：段帯・縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大木 Sa	380
口縁：白変結。口縁：魚頭状三叉文	ナデ（横）				0	0	大洲 B2新設部	389
口縁：黒み目。胴上半：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	386
胴下半み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2・九半後型部群	394
胴下半：沈澱。底：濁文	ナデ（横）				1	1	大洲 C2新設部	367
口縁：沈澱。四角。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	388
口縁：A変結。口縁：半面杖文2類（末端の収み合わない）・沈澱	ナデ（横）				0	0	大洲 B2	362
口縁：A変結。口縁：半面杖文2類（末端の収み合わない）・沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 B2	384
口縁：変結。口縁：変結に横く段帯・縄文（京上）	口縁：変結に横く段帯・ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	362
口縁：変結・変状線。口縁：沈澱・縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	363
口縁：黒み目。口縁：変結。胴：縄文（京上）	ナデ（横）						口縁～胴上半式 少量	0
口縁：白変結。口縁：変結。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	363
口縁：白変結。口縁：変結。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 B2	385
口縁：滑溝。口縁：沈澱	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	361
口縁：変結～黒み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	365
口縁：大形変結	ナデ（横）				0	0	後期中葉	856
口縁：沈澱。滑溝・縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	508
口縁：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	399
口縁：縄文（京上）	ナデ（横）						口縁スス少量	0
					0	0	後期中葉	406
口縁：変結。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	113
口縁：黒み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	119
口縁：黒み目。胴：縄文（京上）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	404
口縁：黒み目。胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	121
胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	96
胴下半：縄文（京上）。底：ナデ	ナデ（横）						胴下半スス少量	1
口縁～胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	122
口縁：黒み目。口縁：沈澱	ナデ（横）						口縁コゴ多量	0
口縁：黒み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）。底：ナデ	口縁：沈澱。胴～底：ナデ（横）				1	1	大洲 C2	421
口縁：黒み目。胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	125
口縁：黒み目。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	ナデ（横）						大洲 C2	126
底：台	円文・ナデ（横）				1	1	大洲 C2	412
胴下半：ミガキ	胴下半：ミガキ。底：円文						大洲 C2 ?	105
口縁～胴：沈澱	ナデ（横）						大洲 C2 ?	106
底：沈澱。胴：縄文（京上）・穿孔1箇所（西→内）	ナデ（横・斜）						大洲 C2	107
口縁：沈澱。口縁：弦字文	口縁：ミガキ						大洲 A1	109
口縁：変結。口縁：弦字文	口縁：沈澱。胴：ミガキ						大洲 A1	108
口縁：変結～黒み目。口縁：弦字文	口縁：ミガキ（横）						大洲 A1	112
台：沈澱	台：ミガキ（横）						大洲 A1	111
口縁：変結。口縁：工字文・沈澱。胴：縄文（京上）。台：沈澱	口縁～底：ミガキ（横）。底：円文						大洲 A1	120
口縁：沈澱。胴：ミガキ	口縁：沈澱。胴：ミガキ						大洲 A1	104
口縁：黒形工字文。口縁：沈澱。胴：縄文（京上）	口縁：沈澱。胴：ミガキ						大洲 A	99
口縁：大形変結。口縁：沈澱	ナデ（横）				0	0	後期中葉	418
口縁：平溝。口縁：横帯区画沈澱・魚鱗帯文・縄文（京上）・滑溝	ナデ（横）				0	0	後期中葉	416

图幅号	DRLN	写图号	区	出土地点	层位	组合编号		種類	器種	分期	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)			
						内訳数	总数					口縁	底部	口径	底径	器高	
297	59	50	西	3A16	砂礫3層	1	1	縄文土器	壺	壺形	別	-	0	-	-	-	(23)
298	59	50	西	3A22	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2b類	口縁	-	0	-	-	-	(115)
299	59	50	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	胴上半	-	0	-	-	-	(99)
300	59	50	西	3A13	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2b類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(119)
301	59	50	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2b類	口縁	-	0	-	-	-	(99)
302	59	50	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2b類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(126)
303	59	50	西	3A23 不明	37層(砂礫3層)→ 45層	70 8	28	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	胴完整	-	-	26.8	8.2	31.1	
304	60	50	西	3A23	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(108)
305	60	50	西	3A23	砂礫3層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(112)
306	60	50	西	3A23	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(111)
307	60	50	西	3A18	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(75)
308	60	50	西	3A11	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(53)
309	60	50	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	(58)
310	60	50	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	(34)
311	60	50	西	3A18 3A17	21層(砂礫3層) 砂礫3層	4 2	7	縄文土器	浅鉢	ⅡA	口縁+底2/3	50	100	-	-	-	84 (55)
312	60	50	西	3A22	砂礫3層	2	2	縄文土器	壺	ⅡA	胴上半+底 1/4	0	-	-	-	-	30 (57)
313	60	50	西	3A21	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡB・底凸	口縁	-	0	-	-	-	(76)
314	60	50	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB・底凸	口縁	-	0	-	-	-	(67)
315	60	50	西	3A18	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(41)
316	60	50	西	3A21	砂礫3層	2	2	縄文土器	浅鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(34)
317	60	50	西	3A18	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅡB	口縁+胴	-	0	15.8	-	-	(62)
318	60	50	西	3A12	砂礫3層	1	1	縄文土器	壺	ⅡB	胴	0	-	-	-	-	(15)
319	60	50	西	3B4	Ⅱa層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(69)
320	60	50	西	3B4	Ⅱa層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(86)
321	60	50	西	3B17	Ⅱa層	3	3	縄文土器	浅鉢	ⅡB	胴下半+底	0	-	-	-	-	83 (29)
322	61	50	西	3B14 3B19 不明	Ⅱb層上部 Ⅱb層上部 不明	85 15 13	113	縄文土器	深鉢	Ⅱ・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	(142)	-	-	(37.8)
323	61	50	西	3B6・7 3B7	Ⅱb4層 Ⅱb5層	1 2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ・深鉢2b類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(149)
324	61	50	西	3B8	Ⅱb層下部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(76)
325	61	50	西	3B23	Ⅱb層上半	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅱ・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	-	(98)
326	61	50	西	3B14 3B25	Ⅱb層	2 3	3	縄文土器	深鉢	Ⅱ・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	-	(89)
327	61	50	西	3B8	Ⅱb2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡB?	口縁	-	0	-	-	-	(35)
328	61	50	西	3B8	Ⅱb層上半	1	1	縄文土器	鉢	ⅡB?	口縁	-	0	-	-	-	(28)
329	61	50	西	3B21 3B16 3B6	Ⅱb4層 Ⅱb4層	3 14	17	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢1類	口縁+胴上半	-	0	(289)	-	-	(176)
330	61	50	西	3B6 3B6	Ⅱb2層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(54)
331	61	50	西	3B7	Ⅱb2層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(107)
332	61	50	西	3B7	Ⅱb3層	8	8	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(128)
333	61	50	西	3B7	Ⅱb4層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(131)
334	62	50	西	3C1 3B1・6・II 3B6 3B2 3B1 不明	Ⅱb2層 Ⅱb層 Ⅱb層南側土 Ⅱb層南側土 Ⅱb4層 Ⅱb3-4層 Ⅱb3+4層間砂礫 不明	2 1 1 7 1 3 15 23	33	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+底1/2	90	41.2	11.1	-	-	(290)
335	62	50	西	3B14 3B1 3B2 3B7 3B14 3B7 不明	Ⅱb3層 Ⅱb3層 Ⅱb5層 Ⅱb5層 Ⅱb層 Ⅱb5層 不明	1 2 12 1 1 6 8	31	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2b類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(163)
336	62	50	西	3B7 3B7 3B7 3B7	Ⅱb2層 Ⅱb3層 Ⅱb3層上部酸化鉄 層 Ⅱb4層	1 3 3 3	10	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	200	-	-	(171)
337	62	50	西	3B7	Ⅱb3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(92)
338	62	50	西	3B8	Ⅱb2層下段	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2b類	口縁	-	0	-	-	-	(46)
339	62	50	西	3B7	Ⅱb4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(62)
340	62	50	西	3B16	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	-	(28)
341	62	50	西	3B8	Ⅱa層-Ⅱb層上部	9	9	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	26.8	-	-	(146)
342	62	50	西	3B9	Ⅱb2層	5	5	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	-	(90)
343	63	50	西	3B11 3B6	Ⅱb1層 Ⅱb1層	5 5	3	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(143)
344	63	50	西	3B11 3B6	Ⅱb1層 Ⅱb1層	11 11	11	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	-	-	-	(157)
345	63	50	西	3B12	Ⅱb1層	14	14	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	206	-	-	(158)
346	63	50	西	3B10 3B7 3B7	Ⅱb1層 Ⅱb2層 Ⅱb3層	1 5 7	7	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2a類	口縁+胴上半	-	0	236	-	-	(175)
347	63	50	西	3B8	Ⅱb2層下段	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(65)

外函調整・英文など	内函調整・英文など	天スコダ		胎土	底面	底面1/2以上	備考	登録%	
		内面							
		内面	外面						
胴：雲形文・沈線	ナデ(横)						大冢 BC ?	101	
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2 - 丸形型足鉢	415
口縁：突縁・沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	302
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	401
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	402
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	414
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	118
口縁：胡人目、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	409
口縁：胡人目、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	417
口縁：胡人目、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	419
口縁：胡人目、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	輪郭孔1箇所(内→外)、大冢 C2	408
口縁：目貫絞、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 A1	368
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	405
口縁：突縁、口縁：沈線・沈線帯の胡人目、胴：縄文(L.R)	口縁：沈線・ミダリ(横)					0	0	大冢 C2	413
口縁：割：縄文、底：ナデ	ナデ(横)					1	1	大冢 C2	403
ナデ(横)	ナデ(横)							大冢 C2	117
口縁：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	地肌	411
口縁：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	地肌	410
口縁：沈線・凸字文・縄文(上)	口縁：沈線、胴：ミダリ							大冢 A1	279
口縁：突縁、口縁：凸字文	口縁：沈線、胴：ミダリ							大冢 A1	132
口縁：突縁、口縁：沈線・凸字文、胴：ナデ(横・斜)	口縁：沈線、胴：ナデ(横・斜)							大冢 A1	103
胴：凸字文	ナデ(横)					0	0	大冢 A1	400
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	154
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							後期中華 - 前葉	153
胴：沈線、底：四足	ミダリ							大冢 A1	267
口縁：平縁、口縁：沈線・縄文(L.R)、器底・S字状入龍文	ナデ(横)							後期中葉	457
口縁：割：沈線・器底・縄文(L.R)、クランク文	ナデ(横)					0	0	後期中葉	429
口縁：縄文(L.R)	ナデ(横)							後期中葉	265
口縁：縄文(L.R)	ナデ(横)							後期中葉	296
口縁：割上半・縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	輪郭孔1箇所(内→外)、後期中葉	408
口縁：雲形文・縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 BC ?	216
口縁：雲形文・沈線	ナデ(横)							大冢 BC ?	212
口縁：凸突縁、口縁：沈線、胴：縄文(羽状連続文L.R・R.L)	ナデ(横)							輪郭孔2箇所(内→外)、大冢 C2	441
口縁：突縁・胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	口縁：沈線、胴：ナデ(横)							大冢 C2	169
口縁：突縁・胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	192
口縁：突縁・胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	209
口縁：突縁・胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	183
口縁：突縁・胡人目、口縁：突縁・沈線、胴：縄文(L.R)、底：ナデ	ナデ(横)							大冢 C2	422 423
口縁：突縁3単位、突縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	127
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	口縁：沈線、ナデ(横)							大冢 C2	194
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	188
口縁：胡人目、口縁：沈線	ナデ(横)							大冢 C2	214
口縁：胡人目、口縁：沈線	ナデ(横)							大冢 C2	190
口縁：胡人目、口縁：沈線	ナデ(横)							大冢 C2	242
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	166
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	220
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)					0	0	大冢 C2	434
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	435
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	280
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	口縁：沈線、ナデ(横)							大冢 C2	197
口縁：胡人目、口縁：沈線、胴：縄文(L.R)	ナデ(横)							大冢 C2	215

机构No.	DORM	写号No.	区	出土地点	层位	接合痕内数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値 (cm)			
						内径数	总数					口縁	底部	口径	底径	器高	
348	63	53	西	3011 ㉙.6.卜	II 32層	8	8	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(141)
349	63	54	西	3012 3017 3017 3017 不明	II 32層 II 32層層間砂礫層 II 32層 II 34層 II 34層 不明	22 3 1 13 4	25	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-底2/3	-	-	191	-	(171)	
350	64	53	西	3017 不明	II 32層 不明	7 1	25	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-底1/2	-	-	(252)	(92)	266	
351	64	54	西	3017	II 32層	12	12	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	296	-	(218)	
352	63	54	西	3017 不明	II 32層 不明	19 20	39	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-底2/3	-	-	300	86	256	
353	64	54	西	3016 ㉙.6.卜	II 34層	7	7	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	332	-	(129)	
354	64	53	西	3012・3 3013	II 34層 II 34層	5 1	5	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(115)	
355	64	53	西	3013	II 34層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(66)	
356	64	53	西	3016 ㉙.6.卜 4013(N800) 不明	II 34層 砂礫3層 不明	3 1 2	6	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	278	-	165	
357	64	54	西	3016	II 35層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(49)	
358	65	55	西	3011 3012 ㉙.6.卜	II 35層 II 35層	2 12	2	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(93)	
359	65	53	西	3016	II 35層下部	2	2	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(252)	
360	65	53	西	3016	II 35層下部	2	2	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(82)	
361	65	54	西	3016 3012	II 35層 II 34層	10 7	12	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(102)	
362	65	55	西	3016 3017 3018	II 35層 II 35層下部 II 35層下部	10 2 1	16	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴下半	-	0	160	-	(246)	
363	66	55	西	3013 不明	II 35層上半 不明	1 13	15	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	237	-	(166)	
364	66	55	西	3016 3018 不明	II 35層下部 II 32層 不明	2 2 13	17	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(186)	
365	66	55	西	3019 3011 3011 3011 3016 ㉙.6.卜 3012 ㉙.6.卜 不明	砂礫3層 II 32層層間砂礫層 II 32層 II 35層 II 34層 II 34層 不明	1 8 57 20 2 4 19	92	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴下半	-	0	280	-	(344)	
366	67	55	西	3016 SD02 (4C) 3016 3017 3017 不明	II 35層 縄土 II 35層下部 II 32層 II 32層 不明	13 1 4 5 6 6	35	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-底2/3	-	-	264	(100)	340	
367	66	55	西	3012 3018	II 35層 II 35層下部	3 1	4	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(115)	
368	66	54	西	3012	II 35層下部	9	9	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	胴	0	0	-	-	(133)	
369	66	55	西	3012 ㉙.6.卜	II 35層	5	5	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(91)	
370	67	56	西	3012 ㉙.6.卜	II 35層	5	5	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(149)	
371	67	56	西	3012 ㉙.6.卜 3012 ㉙.6.卜 3015 ㉙.6.卜	II 35層 II 35層 II 35層	5 1 1	7	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(96)	
372	67	56	西	3017	II 35層下部	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(41)	
373	67	56	西	3012 ㉙.6.卜	II 34層	11	11	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(117)	
374	67	56	西	3019 3012	II a-II 35層 II 35層	2 2	4	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(136)	
375	68	56	西	3014 3014 3015 3015 不明	II a層 II 35層 II 35層 II 35層 不明	18 19 39 4 8	87	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴下半	-	0	352	-	(269)	
376	67	56	西	3018	II 32層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(116)	
377	68	56	西	3018 3019 3013 3017 3017	II 32層 II 33層上面酸化鉄層 II 33層上面酸化鉄層 II 33層上面酸化鉄層 II 34層	1 1 1 4 2	9	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(221)	
378	69	56	西	3019 3016 ㉙.6.卜	II 32層下部 II 34層	1 4	5	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(208)	
379	69	57	西	3013 3017 3012・3 不明	II 33層上面酸化鉄層 II 34層 II 34層 不明	2 3 10 5	20	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴	-	0	(256)	-	(255)	
380	68	57	西	3012・3	II 34層	10	10	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(92)	
381	69	57	西	3012・3	II 34層	9	9	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(141)	
382	69	57	西	3013	II 34層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁	-	0	-	-	(132)	
383	69	57	西	3017	II 34層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(179)	
384	70	57	西	3017	II 34層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(209)	
385	70	57	西	3017	II 34層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	-	-	(163)	
386	70	59	西	3012 ㉙.6.卜	II 34層	19	19	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢Ⅲ類	口縁-胴上半	-	0	329	-	(228)	

外周調整・英文など	内周調整・英文など	天スゴヤ		胎土	胎部	底部1/2以上	備考	登録%	
		内面	外面						
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		口縁ス入多量				大洲 C2 - 年代測定 新田II-17	228	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		口縁ス入少量				大洲 C2	135	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大洲 C2	177	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大洲 C2	187	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）						大洲 C2	176	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）						口縁～胴上半ス入少量	大洲 C2	445
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	胴上半ス入少量	大洲 C2	426
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）						胴上半ス入少量	大洲 C2	152
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		口縁コケ少量				口縁～胴上半ス入少量	大洲 C2	439
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入多量				大洲 C2	172	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		ナデ（横）				大洲 C2	224	
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半コケ少量		0	0	胴上半ス入少量	大洲 C2	457
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		口縁ス入少量				口縁ス入多量	大洲 C2	164
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（羽状帯結束L京・R京）	ナデ（横）							大洲 C2	165
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）		口縁：沈線、割：ナデ（横）						大洲 C2	239
口縁：羽舟目、支様：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）	割縁帯						大洲 C2	148
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（斜・縦）							大洲 C2	167
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（無胎土）	ナデ（横）						口縁コケ少量（吹きこぼれ）	大洲 C2 - 年代測定 新田II-16	123
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半コケ少量				口縁～胴上半ス入少量	新野志A - 大洲 C2	166
口縁：羽舟目、口縁：沈線、割：ミギキ	ミギキ（斜）		口縁ス入少量					大洲 C2	184
割：沈線	ナデ（横）							大洲 C2	264
口縁：羽舟目、胴上半：縄文（無胎土）	ナデ（横）			0	0			大洲 C2	453
口縁：羽舟目、胴上半：縄文（L京）	口縁：ナデ（横）、割：ナデ（斜）			0	0			大洲 C2	454
口縁：羽舟目、胴上半：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量	0	0			大洲 C2	452
口縁：羽舟目	ナデ（横）						輪郭孔1箇所・大洲 C2	47	
口縁：羽舟目、口縁～胴上半：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量	0	0			大洲 C2	448
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	263
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量					大洲 C2	158
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	210
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	195
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量	0	0			大洲 C2	446
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量					大洲 C2	427
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	143
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	144
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	150
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量					大洲 C2	182
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）							大洲 C2	191
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量					大洲 C2	320
口縁：羽舟目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		胴上半ス入少量	0	0			大洲 C2	459

段数	DINNo	写号	区	出土地点	层位	组合内数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値 (cm)					
						内数	数数					口縁	底部	口径	底径	口径	底径	器高	
387	3/11	58	西	3017 3022-3	II b4層 II b4層	10 5	15	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴	-	0	362	-	32.9	-	-	
388	71	58	西	3016-△5.6 3016-△5.6	II b4層 II b4層F	40 1	41	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-底	-	-	300	38.9	9.8	-	-	
389	70	57	西	3021-△5.6 3021-△5.6	II b4層 II b4層下部	1 1	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	49.7	
390	72	58	西	3016-△5.6 不明	II b4層 不明	22 10	32	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴下半	-	0	320	-	-	-	29.5	
391	72	59	西	3016 3016-7(△5.6) 3016	II b5層 II b5層 砂埋3層	20 7 4	31	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	383	-	-	-	35.6	
392	73	59	西	3015	II b5層	8	8	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	47.6	
393	73	59	西	3015	II b5層	15	15	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴下半	-	0	-	-	-	-	28.2	
394	73	59	西	3015	II b5層	8	8	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	15.0	
395	73	60	西	3021 3021-△5.6	II b5層 II b5層	11 5	16	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴下半	-	0	60.6	-	-	-	37.9	
396	74	59	西	3019 3017	II b5層 II b4層	1 2	3	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	204	-	-	-	49.0	
397	74	58	西	3016 3021-△5.6 3016-△5.6 不明	II b5層 II b4層 II b4層 不明	11 1 8 10	30	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	307	-	-	-	21.8	
398	74	58	西	3017 3016-△5.6	II b5層上部 II b4層	4 4	8	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	64.0	-	-	-	44.0	
399	74	59	西	3013	II b4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	-	-	48.7	
400	74	60	西	3021	II b5層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	15.5	
401	74	59	西	3013 3012-3	II b3-4層 II b4層	1 1	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	12.9	
402	75	60	西	3010	II b2層	6	6	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	-	-	49.3	
403	75	60	西	3012-3	II b4層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁-胴	-	0	-	-	-	-	26.2	
404	75	60	西	3012-3	II b4層	6	6	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁-胴	-	0	-	-	-	-	30.0	
405	75	60	西	3018 3018	II b5層上部 II b5層下部	5 2	7	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	46.6	
406	75	60	西	3017 3018	II b2層 II b2層下部	1 1	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	-	-	49.4	
407	75	60	西	3012 3017	II b2層 II b4層	1 1	4	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	10.0	
408	75	60	西	3017	II b4層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	13.1	
409	76	61	西	3015	II b5層下部	7	7	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	18.0	
410	76	58	西	3018 3017	II a層-II b層上部 II b2層	10 2	12	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢3a類	口縁-底	-	-	180	8.1	19.0	-	-	
411	76	58	西	3017	II b2層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴-底	0	-	-	-	-	-	10.9	
412	76	61	西	3016	II b3層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅡA・深鉢2類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	49.5	
413	76	61	西	3016	II b5層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴下半-底	0	-	-	-	-	-	10.5	
414	76	61	西	3017	II b4層	6	6	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴下半-底	0	-	-	-	-	-	132.0	
415	76	61	西	3011	II b5層	25	25	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴下半-底	0	-	-	-	-	-	12.9	
416	76	61	西	3010	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	-	3.1	
417	76	61	西	3012	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	-	3.7	
418	77	61	西	3016-△5.6 3021-△5.6 不明	II b4層 II b4層 不明	37 28 5	70	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢1類	口縁-底1/2	-	-	196	5.9	27.8	-	-	
419	77	61	西	3017	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-胴上半	-	0	170	-	-	-	48.1	
420	77	61	西	3012-3	II b4層	2	2	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	46.3	
421	77	61	西	3011	II b5層	2	2	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	-	3.7	
422	77	61	西	3017 3017	II b2層 II b3層	3 1	4	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-底1/2	-	-	133	6.2	10.8	-	-	
423	77	61	西	3018	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	-	6.5	
424	77	61	西	3016-△5.6 不明	II b4層 不明	36 3	39	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-底	-	50	21.8	6.0	16.5	-	-	
425	77	61	西	3021-△5.6	II b5層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢2b類	口縁	-	-	-	-	-	-	46.0	
426	77	61	西	3012	II b4層	3	3	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	-	44.0	
427	77	61	西	3012-7	II b4層	10	10	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢1類	口縁-胴	-	0	-	-	-	-	13.6	
428	77	61	西	3012	II b2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	断面部	0	92	4.0	9.5	-	-		
429	77	61	西	3013	II b3層上面酸化鉄層	2	41	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢1類	口縁-胴下半	-	0	147	-	-	-	-	
					3013	II b4層													7
					3017	II b4層													7
					3013	II b5層													13
					3013	II b4層													9
3013	不明	9																	
430	77	62	西	3021 3017	II b5層 II b5層下部	1 1	2	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢2b類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	46.3	
431	77	62	西	3013 3013 3017	II a層-II b層上部 II b5層上部 II b3層	1 1 1	3	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢2b類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	47.1	
432	77	62	西	3017	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	-	3.3	
433	77	61	西	3016 3016-△5.6	II b5層 II b4層	2 10	12	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-底	-	-	102	4.6	6.6	-	-	

外面調整・英文など	内面調整・英文など	スエコフ		胎土	底部	底面 1/2 以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）	割下平コゲ少量	割上平スス少量		0	0	大洲 C2	40
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）	割下平スス少量					大洲 C2	284
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	442
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）	割上平スス少量	割下平コゲ多量				大洲 C2	243
口縁：刷み目、刷：縄文（R,L）	ナデ（横）						大洲 C2	171
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）		割上平スス微量				大洲 C2	159
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	260
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	161
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）		割上平スス少量				大洲 C2	449
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	193
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）		割上平スス微量				大洲 C2	443
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	440
口縁：刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						輪郭孔1箇所（内→内）、大洲 C2	151
口縁：刷み目、刷：縄文（R,L）	ナデ（横）		割上平スス微量				輪郭孔1箇所（内→内）、大洲 C2	202
口縁：刷み目、刷上平：縄文（L,R）	ナデ（横）		割上平スス少量		0	0	大洲 C2	428
口縁～刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	221
口縁～刷：縄文（L,R）	ナデ（横）		スス少量				大洲 C2	145
口縁～刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	146
口縁～刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	251
口縁～刷上平：縄文（L,R）	ナデ（横）		割上平スス微量				大洲 C2	203
口縁～刷上平：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	185
口縁：曲頸凸面、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	196
口縁：流状線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	257
刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	298
刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	178
刷：縄文（L,R）	ナデ（横）		割上平スス微量				大洲 C2	263
刷：縄文（L,R）、底：草蓐凸面	ナデ（横）						大洲 C2	280
割下平：縄文（L,R）	ナデ（横）		割下平スス微量				大洲 C2	181
割下平：縄文（L,R）、底：圓代面	ナデ（横）		割下平コゲ微量				大洲 C2	124
口縁：突起、口縁：沈線	ナデ（横）						大洲 C2	222
口縁：突起、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	232
口縁：突起、口縁：沈線、刷：縄文（羽状条結束L,R・R,L）	ナデ（横）						大洲 C2	285
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	202
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（羽状条結束L,R・R,L）	口縁：沈線、口縁～刷：ナデ（横）		割上平スス微量				大洲 C2	425
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	口縁：沈線、刷：ナデ（横）						大洲 C2	225
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	200
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線・刷み目、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	213
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線・沈線上の列点、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）	割上平コゲ少量			1	1	大洲 C2	444
口縁：突起・刷み目、口縁：沈線・沈線上の列点、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）		割コゲ少量				大洲 C2	455
口縁：白突起、口縁：沈線・列点、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	140
口縁：刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	142
口縁：刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）	割下平コゲ少量	割上平スス多量				大洲 C2	129
口縁：刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	149
口縁：刷み目、口縁：沈線、刷：縄文（L,R）	ナデ（横）						大洲 C2	249
口縁：刷み目、口縁：沈線・雲形文、刷：縄文（R,L）	口縁～刷：ミナキ						大洲 C2	248
口縁：刷み目、口縁：沈線・突起、刷：縄文（L,R）	口縁：沈線、ナデ（横）						大洲 C2	198
口縁：刷み目、口縁：沈線・沈線上の列点、刷：縄文（羽状条結束L,R・R,L）	ナデ（横）	割コゲ中量	割上スス微量				大洲 C2	447

図号	DPRNo.	写図No.	区	出土地点	層位	接合境内数		種類	部種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値 (cm)							
						内数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高					
434	78	62	西	3012 3017 3011-12 3023 3035 一括土部2	II b2層	2	7	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(10)8				
					II b3層	2															
					II b4層	1															
					II b層	1															
					II b2層	1															
435	78	62	西	3008	II b1層	1	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	(8)7					
436	78	62	西	3006	II b2層	1	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢2類	口縁	-	0	-	-	-	(5)3					
437	78	62	西	3017	II b3層	10	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	胴上半-底	0	-	-	-	-	71	(14)3				
438	78	62	西	3019	II b層上部	9	9	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢1.2	口縁-底1.2	0	-	-	-	82	38	(5)7			
439	78	62	西	3011<6.ト>	II b1層	5	5	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢1類	口縁-底1.2	10	100	(13)0	25	86	0				
440	78	62	西	3012	II b1層	16	16	縄文土部	壺	ⅡA	胴下半-底	0	-	-	-	-	69	(6)9			
441	78	62	西	3016<6.ト> 3011<6.ト> 3036<6.ト>	II b1層 orb2層 II b2層 II b2層	6 2 10	18	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	胴	0	0	-	-	-	(17)4				
442	78	62	西	3036	II b層下部	9	9	縄文土部	鉢	ⅡA	胴下半-底	0	-	-	-	-	45	(7)2			
443	78	62	西	302	II b2層	2	2	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	胴上半-底	0	-	-	-	-	50	(8)4			
444	78	62	西	3017	II b3層	1	1	縄文土部	鉢	ⅡA	胴下半-底	0	-	-	-	-	42	(5)2			
445	78	62	西	302	II b6層	2	2	縄文土部	鉢	ⅡA	胴下半-底	0	100	-	-	-	60	(7)9			
446	78	62	西	3021<6.ト>	II b層	4	4	縄文土部	台付鉢	ⅡA	口縁-底	10	100	-	-	-	49	(6)5			
447	78	62	西	306	II b層下部	6	6	縄文土部	台付鉢	ⅡA	口縁-底1.2	-	-	-	-	(11)6	(5)7	9.2			
448	78	62	西	3012	II b1層	1	1	縄文土部	台付鉢?	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	-	(4)2			
449	78	62	西	3017 3017 3017 3017 一括	II b3層	8	15	縄文土部	浅鉢	ⅡA	口縁-胴下半	-	0	225	-	-	(70)				
					II b2.3層埋砂層	1															
					II b3層上面酸化土	1															
					II b4層	5															
450	79	62	西	3011 3012	II b層 II b2.3層埋砂層	3 2	5	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁-底	-	-	-	(10)4	45	59				
451	79	62	西	3021	II b層	11	11	縄文土部	浅鉢	ⅡA?	口縁-底1.2	-	-	-	124	55	65				
452	79	62	西	3011	II b層	1	1	縄文土部	壺	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(5)3				
453	79	62	西	3016	II b層下部	1	1	縄文土部	壺	ⅡA小	口縁	-	0	-	-	-	(2)3				
454	79	62	西	3017	II b4層	1	1	縄文土部	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	(4)7				
455	79	62	西	3016<6.ト>	II b1層 orb2層	1	1	縄文土部	鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(4)7				
456	79	62	西	3017	II b2層	22	22	縄文土部	鉢	ⅡB	口縁-底	-	-	-	-	170	60	148			
457	79	62	西	3012	II b2層	1	1	縄文土部	浅鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(3)2				
458	79	62	西	3012	II b2層	4	4	縄文土部	鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	65	3			
459	79	62	西	3011	II b層	1	1	縄文土部	鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(3)1				
460	79	62	西	303 308	II a層	2	4	縄文土部	鉢	ⅡB	口縁-底	-	-	-	-	(7)1	(3)4	49			
					II b2層下部	2															
461	79	62	西	3011 3084 3017	II b層下部	1	6	縄文土部	鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	-	90	(6)0		
					II b層	3															
					II b層上部	1															
					II b層下部	1															
462	79	62	西	3012	II b2.3層埋砂層	1	1	縄文土部	鉢 or 台付鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	-	(6)0			
463	79	62	西	302	II b2層	5	6	縄文土部	台付浅鉢	ⅡB	口縁-底1.2	-	-	-	-	189	40	70			
					II b3層	1															
464	79	62	西	3011<6.ト> 3A22<6.ト>	II b4層	6 2	8	縄文土部	浅鉢	ⅡB?	口縁-底1.2	-	-	-	-	155	52	60			
465	79	62	西	3010	II b1層	1	1	縄文土部	壺	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(3)6				
466	79	62	西	3017	II b2層	2	5	縄文土部	壺	ⅡB	口縁-胴	-	-	-	-	(8)1	-	-	(5)3		
					II b3層	3															
467	79	62	西	3017	II b2層	2	2	縄文土部	鉢	ⅡC	胴上半	0	0	-	-	-	-	(4)4			
468	79	62	西	303	II b2層	1	1	縄文土部	壺	ⅡC	胴上半	0	0	-	-	-	-	(3)5			
469	79	63	西	3015	Ⅱ層	1	1	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢1a類	胴上半	0	0	-	-	-	-	(4)9			
470	79	63	西	3019	Ⅱ層	1	1	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢2類	胴	0	0	-	-	-	-	(4)5			
471	79	63	西	3022	Ⅱ層	12	12	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	(13)9			
472	80	63	西	3018 3018 3017 3013 3019 3020 不明	Ⅱ層上部	10	125	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢4a類	胴完形	-	-	-	-	-	-	178	11.8	41.9	
					Ⅱ層下部	53															
					Ⅱ層下部	1															
					Ⅱ層下部	3															
					Ⅱ層上部	31															
473	80	63	西	3015 3020 3C15(N804) (点) 不明	砂埋層 II b層上部 Ⅱ層上部 II b2層 不明	3 9 7 8 8	35	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢1a類	口縁-底1.2	-	-	-	-	(25)0	(12)3	299			
474	80	63	西	3015 3015	Ⅱ層 Ⅱ層	2 1	3	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢3a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	(8)6			
475	80	63	西	3024(N804)内) 3024(N804)	Ⅱ層下半 Ⅱ層上半	2 9	11	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢2類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	(9)5			
476	81	63	西	3019(N809) 3019 3015 3020 306(N805) 3013(N809) 不明	Ⅱ層	1	38	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢1a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	-	-	-	(33)0
					Ⅱ層上半	2															
					Ⅱ層	2															
					Ⅱ層	2															
					砂埋5層	1															
砂埋5層	1																				
477	81	64	西	3030 3040 一括 不明	Ⅱ層 Ⅱ層埋砂層 不明	3 10 17	40	縄文土部	深鉢	Ⅱ・深鉢5a類	口縁-胴上半	100	0	(24)0	-	-	(13)8				

外面調査・論文など	内面調査・論文など	天スコガ		胎土	胎部	底部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁：羽目目、口縁：沈殿・沈殿上の連続刻突、刷：縄文（L.R.）	ミガキ（縞）						大洲 C2	486
口縁：羽目目、口縁：沈殿・刻点、刷：縄文（L.R.）	ミガキ（縞）						大洲 C2	217
口縁：羽目目、口縁：沈殿・刻点、刷：縄文（L.R.）	ナデ（縞）						大洲 C2	173
口縁：沈殿、刷：縄文（L.R.）	ナデ（縞）						大洲 C2	186
口縁：沈殿、刷：縄文（L.R.）	ナデ（縞）						大洲 C2	256
口縁：沈殿、刷：縄文（L.R.）、底：ナデ（丸底風）	口縁：沈殿、口縁：刷：ミガキ（縞）		割下平スス少量		1	1	大洲 C2	433
刷：沈殿・ミガキ、底：四足	ナデ（縞）						大洲 C2	251
口縁：沈殿、刷：ミガキ	ナデ（縞）						大洲 C2	170
刷：縄文（L.R.）	刷：ミガキ						大洲 C2	241
刷：縄文（L.R.）	ナデ（縞）	割下平スス少量	割スス少量				年代測定新田3-10 測定不可	137
割下平・縄文（L.R.）	ナデ（縞）						大洲 C2	305
割下平・縄文（R.L.）、底：ナデ	ナデ（縞）	割下平コゴテ少量	割下平スス少量		1	1	大洲 C2	434
口縁：沈殿、刷：縄文（R.L.）、底：白・沈殿	ナデ（縞）				1	1	大洲 C2	456
口縁：突起・羽目目、口縁：突起・沈殿、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ナデ（縞）						口縁→割下平スス少量	162
口縁：羽目目、口縁：沈殿・刻突、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ナデ（縞）						大洲 C2	253
口縁：突起、刷：ミガキ	口縁：沈殿、刷：ミガキ（縞）						大洲 C2	394
口縁：羽目、口縁：沈殿、刷：縄文（L.R.）	口縁→刷：ナデ（縞）						大洲 C2	126
口縁：羽目目、口縁→刷：縄文（L.R.）	ナデ（縞）						大洲 C2?	261
刷：縄文（L.R.）	ナデ（縞）						大洲 C2	236
口縁→刷：ミガキ・赤銅	ナデ（縞）						大洲 C2か	854
口縁：突起、口縁：凹字文、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、ナデ（縞）						大洲 A1	199
口縁：小波状、口縁：凹字文・沈殿、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ミガキ						大洲 A1	168
口縁：突起、口縁：凹字文、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ナデ（縞）						大洲 A1	179
口縁：凹字文	口縁：沈殿、刷：ナデ（縞）						大洲 A1	255
口縁：突起、口縁：凹字文・沈殿・縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ミガキ（縞）						大洲 A1	234
口縁：突起、口縁：沈殿、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ナデ（縞）						大洲 A1	227
口縁：突起、口縁：凹字文、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ナデ（縞）						大洲 A1	211
口縁：羽目目、口縁：凹字文・沈殿・刻点、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ミガキ						大洲 A1?	125
口縁：突起、口縁：凹字文・沈殿、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ミガキ						大洲 A1	141
口縁：突起、文様：凹字文・沈殿、刷：縄文（L.R.）	口縁：沈殿、刷：ミガキ						大洲 A1	136
口縁→底：ミガキ（縞）	口縁→底：ミガキ（縞）						大洲 A1?	110
刷：凹字文・沈殿	ナデ（縞）						大洲 A1	223
口縁：突起・沈殿、刷：凹字文	ナデ（縞）						大洲 A1	206
刷：突起凹字文・沈殿	ミガキ						大洲 A	201
刷：突起凹字文・前巻・沈殿・縄文（磨蝕痕あり）	ナデ（縞）						後期初頭→前葉	147
刷：沈殿・縄文（R.L.）	ナデ（縞）						後期初頭→前葉	228
口縁→割下平・ナデ（縞→縞）	ナデ（縞）						後期初頭→前葉	219
口縁→刷：縄文（L.R.）、底：網代板	ナデ（縞）				1	1	輪作孔2対4箇所（外→内）、後期中葉	255
口縁：底波状、口縁：隆起・ボタン状刻付・隆起上の羽目目・縄文（厚輪縁糸体第5類B）・沈殿	ナデ（縞）				1	0	後期初頭→前葉	305
刷：縄文（厚輪縁糸体第5類B）	ナデ（縞）						後期初頭→前葉	250
口縁：突起、口縁：山形沈殿、刷：縄文（R.L.）	ナデ（縞）				0	0	後期初頭→前葉	473
口縁：隆起・隆起状の刻点、刷：沈殿・隆起の飾文状沈殿光斑	ナデ（縞）						後期初頭→前葉	438
口縁：突起（凸部）、刷：縄文（R.L.）	ナデ（縞）				0	0	後期初頭→前葉	533

掲載順	DNRNo.	写真No.	区	出土地点	層位	接合順片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)			計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	高さ	
478	82	60	西	3E22 3E22	II層 IV層	8 9	17	縄文土器	深鉢	V、深鉢4型	口縁一個下半	0	0	-	-	-	(27.1)
479	82	60	西	3E22 3E22 3E22 3E22 3E22 3E22 不明	II層 IV層 砂礫4層 II層 III層 IV層 不明	13 5 1 5 16 21 36 8	105	縄文土器	深鉢	VI、深鉢5型	略定形	95	100	40.4	11.2	28.7	
480	83	63	西	3E19N309	IV層	6	6	縄文土器	深鉢	IV、深鉢4b型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(10.4)
481	83	63	西	3E12	IV層	1	1	縄文土器	壺	壺	胴上半	0	0	-	-	-	(4.9)
482	82	63	西	3E19N309	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	0	100	-	-	-	-
483	82	63	西	NR003(へそト)	常陸土中	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	0	0	-	-	-	(6.3)
484	82	64	西	3E14N303	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	III	口縁	0	0	-	-	-	(6.1)
485	82	64	西	3E18N303	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	0	0	-	-	-	(5.2)
486	82	64	西	3E6	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢4c型	口縁	0	0	-	-	-	(4.4)
487	82	64	西	3E7	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	壺B	口縁	0	0	-	-	-	(4.0)
488	82	64	西	3E8	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	壺A	口縁	0	0	-	-	-	(4.0)
489	82	64	西	3E14N303	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	壺B?	口縁	0	0	-	-	-	(3.9)
490	82	64	西	3E19N304、(5)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁	0	0	-	-	-	(4.9)
491	82	64	西	3E6	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁	0	0	-	-	-	(6.2)
492	82	64	西	3E14N303	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁	0	0	17.8	4.7	18.5	-
493	83	64	西	3E12	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁	0	0	-	-	-	(7.2)
494	83	64	西	3E16N303(吉)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(13.7)
495	83	64	西	3E14N303	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA、鉢3型	口縁	0	0	-	-	-	(6.1)
496	83	64	西	3E1	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	壺、壺A	口縁	0	0	-	-	-	(3.7)
497	83	64	西	3E14N303	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	壺A	口縁	0	0	-	-	-	(2.6)
498	83	64	西	3E22(へそト)NR04	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	0	0	-	-	-	(3.3)
499	83	64	西	3E18N304	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁	0	0	-	-	-	(5.3)
500	83	64	西	3E18N304	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	0	0	-	-	-	(4.0)
501	83	64	西	3E25(へそト)NR04(吉)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁	0	0	-	-	-	(6.4)
502	83	64	西	3E25(へそト)NR04(吉)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢1a型	口縁	0	0	-	-	-	(5.0)
503	83	64	西	3E21(へそト)NR03(吉)or04	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(4.4)
504	83	64	西	3E21(へそト)NR04	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(7.2)
505	83	64	西	3E22(へそト)NR04	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(11.7)
506	83	64	西	3E25N304	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	IV、深鉢1d型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(16.0)
507	83	64	西	3E4	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(7.1)
508	83	64	西	3E21NR03、04	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢1a型	口縁	0	0	-	-	-	(7.1)
509	83	64	西	3E18N304	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢5a型	口縁	0	0	-	-	-	(6.1)
510	83	64	西	3E4	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢4a型	口縁	0	0	-	-	-	(7.2)
511	83	64	西	3E23(へそト)NR04	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(7.1)
512	83	64	西	3E25(へそト)NR04(吉)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢5b型	口縁	0	0	-	-	-	(10.1)
513	83	64	西	3E22(へそト)NR04	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢5b型	底	0	30	-	30.2	0.9	-
514	83	65	西	3E21 3E16N303(吉)	砂礫4層	1	2	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(12.2)
515	84	65	西	3E25(へそト)NR04(吉)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢5b型	胴	0	0	-	-	-	(6.1)
516	84	65	西	3E23(へそト)NR04	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	胴	0	0	-	-	-	(6.7)
517	84	65	西	3E25(へそト)NR04(吉)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2a型	口縁	0	0	-	-	-	(10.3)
518	84	65	西	3E30N305	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(7.2)
519	84	65	西	3E30N309	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(5.4)
520	84	65	西	3E30N305	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(13.6)
521	84	65	西	3E30N309	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV、深鉢2型	胴	0	0	-	-	-	(6.3)
522	84	65	西	3E30N305	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	胴上半	0	0	-	-	-	(3.6)
523	84	65	西	マイナベルト北辺～4C区	1～3層(前面積出)	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(13.4)
524	84	65	西	3C11	II層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁	0	0	-	-	-	(4.7)
				マイナベルト(0E0)	II層上位 砂礫3層	3 1											
				3E4	II層上位	1											
				3C25	II層上位	16											
				3C25	II層上位	18											
				3D5	II層上位	3											
				3C25、3D5	II層	58											
				不明	不明	13											
526	84	65	西	3C12	II層	11	11	縄文土器	深鉢	IV、深鉢3b型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(14.6)
				3E5	II層	2											
				3C25	II層上位	5											
527	85	65	西	3D1 3C25	II層上位 II層上位	2 2	89	縄文土器	深鉢	壺A	口縁一個下半	90	0	33.6	-	-	(30.1)
				不明	不明	26											
528	85	65	西	3C24	II層上位	13	13	縄文土器	浅口	壺A	口縁一個上位	-	66	-	-	-	8.2
529	85	65	西	3C1	II層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(9.1)
530	85	65	西	3C12	II層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(8.6)
531	86	66	西	3C12	II層	7	7	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁一個上半	0	0	35.4	-	-	(11.8)
				3D1	II層上位	1											
				3E2	II層上位	8											
				3C22	II層上位	29											
				不明	不明	36											
532	85	66	西	3C17	II層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁一個上半	0	0	-	-	-	(22.2)

内容調整・論文など	内容調整・論文など	スライド		胎土	底面	底部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁-胴下半: 縄文 (L京)	ナテ (縄)		胴上半スス少量		0	0	後期中葉	460
口縁-胴: ナテ (胴)、底: 縄代底	口縁-胴: ナテ (胴)		胴上半スス少量		1	1	後期中葉	459
口縁: 笠形か、口縁: 沈面、胴: 縄文 (単輪跡全体第5類群)	ナテ (縄)						後期初頭?	257
口縁: 沈面、胴底: 縄文、縄文 (後期京上京)	ナテ (縄)						後期初頭-前期	226
底: 沈面、縄文 (L京)	ナテ (縄)				1	1	早期本葉-前期初頭	526
口縁: 厚体圧痕 (L京)、胴: 縄文 (沢村遺集第1種L京・L京)	ナテ (縄)			輪帯長輪跡多量	0	0	前期初頭	826
口縁: 成状跡、凸部文	ナテ						大木8a?	133
口縁: 成状跡、口縁: 沈面、クランク文	ナテ (縄)						子腹内1式 (前期) (後期前葉)	346
口縁: 縄文 (L京)	ナテ (縄)						輪帯孔1箇所、後期中葉	174
口縁: 足端の凹凸合わない平直状文 (平直状文2類)	ナテ (縄)				0	0	大洲 B2	431
口縁: 目突起、口縁: 人顔3文文、沈面、胴: ミザキ	ミザキ (横)						大洲 B2	533
口縁: 雲形文、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)		胴上半スス少量				大洲 BC?	131
口縁: 沈面	ナテ (縄)			口縁スス少量			大洲 C2	258
口縁: 別み目、口縁: 沈面、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)						大洲 C2	175
口縁: 別み目、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)		胴上半スス少量	胴上半スス少量			大洲 C2	128
口縁: 別み目、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)						大洲 C2	229
口縁: 成状跡、口縁: 沈面、胴: 縄文 (無輪跡)	ナテ (縄)						大洲 C2	246
口縁: 突起、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)						大洲 C2	130
口縁: 別み目、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)			口縁スス少量			大洲 C2	134
口縁: 沈面、胴: 沈面、縄文 (L京)	口縁-胴: ミザキ						大洲 C2	129
口縁: 隆起、縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	大木8a	463
口縁: 肋土層付、縄文 (京上)	ナテ (縄)						大木8b	252
口縁: 北端部空指凹状部、凸部、縄文 (L京)	ナテ (縄)						大木9?	253
口縁: 成状跡、縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	大木10?	475
口縁: 中突起、口縁: 隆起、隆起状の凸点	ナテ (縄)			口縁スス少量	0	0	後期初頭-前期	478
口縁: 成状跡、口縁: 削突、沈面、凸部、縄文 (京上)、ミザキ (凸部付)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	462
口縁: 成状跡、口縁: 削突、沈面、凸部、縄文 (京上)、ミザキ (凸部付)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	467
胴: 縄文 (単輪跡全体第5類群)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	464
口縁: 成状突起、口縁-胴上半: 縄文 (L京)	ナテ (縄)			口縁-胴上半スス少量	0	0	後期初頭-前期	471
口縁: 成状跡、口縁-胴: 削突、沈面、凸部、縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	155
口縁: 隆起、隆起状の削突形、胴: 縄文 (京上)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	461
胴: 縄文 (単輪跡全体第5類群)	ナテ (縄)						前期	254
口縁: 成状跡、口縁: 隆起、胴: 縄文 (0段多ホリ)	ナテ (縄)						後期初頭?	156
口縁: 突起、口縁: 縄文 (無輪跡)	ナテ (縄)			口縁スス少量	0	0	後期初頭-前期	470
口縁: 縄文 (京上)	ナテ (縄)			口縁スス少量	0	0	後期初頭-前期	474
胴下半: 縄文 (単輪跡全体第5類群)、底: 面直	ナテ (縄)				1	0	後期初頭-前期	465
胴: 沈面、凸部、縄文 (無輪跡)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	458
胴: 縄文 (単輪跡全体第5類群)	ナテ (縄)			胴スス少量	0	0	後期初頭-前期	476
胴: 沈面、凸部、縄文 (京上)-S字状連続沈面	ナテ (縄)			胴スス少量	0	0	後期初頭-前期	466
口縁: 沈面、胴: 縄文 (京上)	ナテ (縄)			口縁コブ少量	0	0	後期中葉	477
胴: 沈面、凸部、縄文 (L京)	ナテ (縄)			口縁スス少量			後期初頭-前期	259
口縁: 成状跡、突起、口縁: 削突	ナテ (縄)						後期初頭?	280
口縁: 成状跡、胴: 沈面、凸部、削突状凸部、縄文 (京上)	ナテ (縄)			スス少量			後期初頭-前期	263
胴: 沈面、凸部、縄文 (単輪跡全体第5類群)、S字状連続沈面	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期	423
胴: 削突突起	ナテ (縄)						大木8b	258
口縁-胴: 沈面、縄文 (後期京上京)	ナテ (縄)						大木8b	278
口縁: 隆起、削突、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)						中期本葉?	267
口縁: 凹り高し、胴: 縄文 (単輪跡全体第5類群)、底: ナテ	ナテ (縄)		胴上半スス少量		1	1	後期初頭-前期	528
口縁-胴上半: 縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	後期初頭-前期全	540
口縁: 突起 (浅草原)、口縁-胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	輪帯孔2箇所 (外→内)、大洲 B2全	529
口縁-底: ミザキ	ナテ (縄)				1	1	大洲 B2全	525
口縁: 別み目、口縁: 沈面、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	大洲 C2	535
口縁: 別み目、口縁: 成状跡、胴: 縄文 (京上)	ナテ (縄)				0	0	大洲 C2	538
口縁: 別み目、口縁: 成状跡、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)			口縁コブ少量			大洲 C2	539
口縁: 別み目、口縁-胴: 縄文 (L京)、底: ナテ	ナテ (縄)				1	1	大洲 C2	521
口縁: 別み目、胴: 縄文 (L京)	ナテ (縄)				0	0	大洲 C2	531

国産No.	DNRNo.	写真No.	区	出土地点	層位	接合積内数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		器高	
						内訳数	総数					口縁	基部	口径	底径		
534	86	66	西	3C1 3C16	日土層 日土層	1 5	6	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	160.0
535	86	67	西	3C16 3C17 不明	日土層 日土層 不明	2 47 16	65	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴下半	-	0	31.4	-	280.0	
536	87	66	西	3C21	日土層上段	22	22	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	-	0	25.2	-	242.0	
537	86	66	西	3C21 3C26	日土層上段 日土層	4 5	5	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	17.1	
538	86	67	西	3D1 3C21	日土層上段 日土層上段	1 2	3	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	11.0	
539	87	67	西	3C21 新し〜噴砂(3C21) 3C22	日土層上段 相土 日土層上段	18 1 2	21	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	21.0	
540	87	66	西	3C5	日土層上段	4	4	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	20	0	-	-	11.0	
541	87	68	西	3C5	日土層	12	12	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3b型	口縁-胴上半	-	0	-	-	22.0	
542	87	65	西	3C18(SR01)	日土層(一括土器)	2	2	縄文土器	鉢	ⅢA?	胴-底	0	25	-	14.0	0	
543	87	65	西	3C16	日土層	1	1	縄文土器	壺	ⅢA	口縁-胴上半	0	0	-	-	8.1	
544	87	67	西	3C5	日土層上段	19	19	縄文土器	壺	ⅢA	口縁-胴上半	100	0	108	-	13.9	
545	87	67	西	3C17	日土層	1	1	縄文土器	鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	14.2	
546	87	67	西	3C20(SR04 古)	日層上段	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	8.4	
547	88	67	西	SR01(GC 1)	層位中(日層)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	8.6	
548	88	67	西	SR01 GC 2)	層位中	8	8	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	14.7	
549	88	67	西	3D25 メインベルト	層位下	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢5b型	胴	0	0	-	-	7.2	
550	88	67	西	新し〜噴砂(3C21)	相土	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	胴	0	0	-	-	8.5	
551	88	67	西	3C1	日層	4	4	縄文土器	深鉢・鉢	Ⅲ・深鉢4b型	口縁	20	0	-	-	10.2	
552	88	67	西	3C15(SR03)	日層下層	1	1	縄文土器	深鉢・鉢	Ⅲ・深鉢4b型	口縁	-	0	-	-	8.0	
553	88	67	西	3C16(SR03)	日層下層	1	1	縄文土器	深鉢・鉢	Ⅲ・深鉢4b型	口縁	-	0	-	-	14.9	
554	88	67	西	3C9(SR04)	日層下段	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	5	0	-	-	8.7	
555	88	67	西	3C24 旧SR04	21層(古層最下段)	6	6	縄文土器	浅鉢小	Ⅲa小	口縁-胴上半	-	0	-	-	8.2	
556	88	67	西	3C17 (SR03)	日層	1	1	縄文土器	壺	Ⅲ	胴	0	0	-	-	14.3	
557	88	67	西	3C3 (SR04)	日層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅲa小	胴	0	0	-	-	2.1	
558	88	67	西	3C5 (SR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	注口	Ⅲ	胴	0	0	-	-	2.4	
559	88	68	西	3C15(SR03 古)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・Ⅲa小	口縁	-	0	-	-	8.6	
560	88	68	西	3C20(SR03-04)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・Ⅲa小	口縁	-	0	-	-	7.4	
561	88	68	西	3C18(SR04)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢小	Ⅲ・Ⅲa小	胴下半-底	0	100	-	4.8	3.1	
562	88	68	西	3C20(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	胴	5	0	-	-	8.4	
563	88	68	西	3C13(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢1a型	胴上半	0	0	-	-	7.7	
564	88	68	西	3C19(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	胴	0	0	-	-	7.0	
565	88	68	西	3C22(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢4a型	口縁	-	0	-	-	15.7	
566	88	68	西	3C7(SR03-04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢1a型	口縁	5	0	-	-	7.1	
567	88	68	西	3C25(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	8.7	
568	88	68	西	3C26(SR04)	砂礫4層	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢4a型	口縁	5	0	-	-	7.3	
569	88	68	西	3C24(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	7.0	
570	88	68	西	3C20(SR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	13.7	
571	88	68	西	3C12(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	14.3	
572	88	68	西	3C7(SR03-04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢1a型	口縁	5	0	-	-	8.2	
573	88	68	西	3C15(SR03 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	14.0	
574	89	68	西	3C20(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢5b型	底	0	100	-	-	8.1	
575	89	68	西	3C20(SR04)	砂礫4層	6	6	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢5b型	胴下半-底	0	100	-	-	15.6	
576	89	68	西	3C16(SR03 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	3.8	
577	89	68	西	3C17 べネット	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	2.9	
578	89	68	西	3C7(SR03-04)	砂礫4層	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	14.9	
579	89	68	西	3C20(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	胴	0	0	-	-	3.8	
580	89	68	西	3C12(SR03-04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢1a型	口縁	5	0	-	-	3.8	
581	89	68	西	3C22(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Va小	口縁	-	0	-	-	15.7	
582	89	68	西	3C20(SR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	15.0	
583	89	68	西	3C16	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	8.2	
584	89	68	西	3C12(SR03-04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	14.0	
585	89	68	西	3C20(SR03)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢5a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	14.2	
586	89	68	西	3C20(SR03)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	5	0	-	-	6.8	
587	89	68	西	3C10(SR03)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢5b型	口縁	10	0	107	-	13.7	
588	89	68	西	3C10(SR03)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢2a型	口縁	5	0	-	-	6.8	
589	89	69	西	3D24(SR04) 3D24(SR04)	Ⅱa-Ⅱb層(砂質) 日層砂質	1 2	3	縄文土器	深鉢	Ⅲ	口縁	-	0	-	-	12.0	
590	90	69	西	3D5 3D5 不明	Ⅱb層 Ⅱb層 不明	34 1 4	39	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢5a型	口縁-胴下半	-	0	30.0	-	26.0	
591	89	69	西	3D6	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ・深鉢4b型	口縁	-	0	-	-	8.3	
592	89	69	西	3D19 3D20	Ⅱb層 Ⅱb層	2 2	3	縄文土器	深鉢	ⅢA	口縁-胴上半	-	0	-	-	6.9	
593	90	69	西	3D14	Ⅱb層(噴)	8	8	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	口縁-胴上半	-	0	0.00	-	19.0	
594	90	69	西	3D19 不明	Ⅱb層 不明	30 13	44	縄文土器	深鉢	ⅢA・深鉢3a型	噴発前	85	80	191	(7.7)	27.3	
595	89	69	西	3D25(SR03) 不明	Ⅱb層 不明	22 2	26	縄文土器	鉢	ⅢA・鉢3型	噴発前	90	25	102	(8.9)	10.0	

外函調整・論文など	内函調整・論文など	スライド		胎土	底面	底面1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁：羽文目、割上平・縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	506
口縁：羽文目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		割上平ス少量				大洲 C2	309
口縁：羽文目、割：縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	517
口縁：羽文目、割：縄文（京L）	ナデ（横）		口縁＝割上平ス少量		0	0	大洲 C2	520
口縁：羽文目、割：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	519
口縁：羽文目、割：縄文（L京）	ナデ（横）		割スス微量		0	0	大洲 C2	518
口縁：羽文目、割：縄文（無筋取L・R）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	494
口縁：原形直底、割：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	526
割：沈線・縄文（L京）	ナデ（横）				1	0	大洲 C2 7	6
割：縄文（L京）	ナデ（横）						大洲 C2	368
割：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	493
口縁：羽文目、口縁：突起、工字文・沈線	口縁：沈線、割：ナデ（横）						大洲 A1	307
口縁：沈線・磨滑・縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	516
口縁：波状線、口縁：隆起、隆起部の竹管文連続彫刻、沈線	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	821
口縁＝割上平・縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	527
割：縄文（車輪跡全体部）類聚	ナデ（横）		割スス多量		0	0	後期前期～前期	520
割：沈線・縄文（京L）・磨滑	ナデ（横）		割スス多量		0	0	後期前期～前期	618
口縁：縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	479
口縁：縄文（京L）	ナデ（横）		口縁スス多量		0	0	後期中葉・年代測定新田Ⅱ-18	480
口縁：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	481
口縁：波状線、口縁：沈線・刺突・縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	498
口縁：突起、口縁：貫通孔2箇所・縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	490
割：沈線、沈線部分は黒彩、平面は赤彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉	457
割：沈線・縄文（L京）・縄文部分赤彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉	453
割：沈線・跡線文・赤黒彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉	455
口縁：縄文（京L）	ナデ（横）		口縁スス少量		0	0	晩期か	483
口縁：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	晩期か	484
割上平：ナデ（横）、底：赤黒彩	ナデ（横）				1	1	晩期か	513
口縁：隆起・沈線・磨滑・縄文（京L）・ボタン状彫付	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	488
割：沈線状隆起・沈線・縄文（京L）・原形直底	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	504
割：沈線・磨滑・縄文（L京）・ボタン状彫付	ナデ（横）		割スス微量		0	0	後期前期～前期	515
割：割上平・縄文（京L）	ナデ（横）		口縁スス少量		0	0	後期前期	524
口縁：刺突・隆起	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	494
口縁：沈線・磨滑・縄文（京L）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期前期～前期	523
口縁：隆起・縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	497
口縁：隆起・ボタン状彫付、沈線・磨滑・縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	527
口縁：突起	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	477
口縁：波状線、口縁：刺突・沈線	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	523
口縁：波状線、口縁：隆起、ボタン状彫付、隆起部の彫琢直底	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	486
口縁：縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	482
底：ナデ・磨削直	ナデ（横）				1	1	後期前期～前期	486
割上平・縄文（京L）、底：赤黒彩	ナデ（横）				1	1	後期前期～前期	485
口縁：多重沈線・縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期前期	509
口縁：沈線・突点・縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期前期	512
口縁：波状線、口縁：沈線・縄文（京L）・磨滑・刺突痕	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	489
割：沈線・磨滑・縄文（無筋取L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	487
口縁：隆起・隆起部の羽文目・縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	501
口縁＝口縁：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期前期	522
口縁：沈線・赤色文・切沈線赤彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉	514
口縁：沈線・刺突	ナデ（横）				0	0	後期中葉	507
口縁：沈線・縄文（L京）・波線い風の風輪を反転するもの	ナデ（横）				0	0	後期中葉	502
口縁＝割上平・縄文（L京）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期前期～前期	491
口縁：沈線・磨滑・縄文（京L）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期前期～前期	492
口縁：縄文（L京）	ナデ（横）		口縁スス多量		0	0	後期前期～前期	489
口縁：沈線・縄文（車輪跡全体部）類聚	ナデ（横）				0	0	後期中葉	500
口縁：沈線・縄文・磨滑・入組帯状文、割：縄文（L京）	ナデ（横）				0	0	後期後葉	570
口縁：波状線、割：縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	後期前期～前期	550
口縁：縄文（京L）	ナデ（横）		口縁コグ多量		0	0	後期中葉・年代測定新田Ⅱ-7	502
口縁：風輪を伴う小波状線・沈線、割上平・縄文（L京）	ナデ（横）		口縁＝割上平ス少量		0	0	大洲 北新	565
口縁：羽文目、割：縄文（京L）	ナデ（横）				0	0	大洲 C2	562
口縁：突起、口縁：突起・沈線、割：縄文（京L）、底：ナデ	口縁：沈線、口縁＝割上平（ナデ）（横）		割上平ス少量		1	0	大洲 C2	563
口縁：羽文目、口縁：沈線、割：縄文（京L）	ナデ（横）				1	0	大洲 C2	571

海图号	DNRNo.	写号	区	出土地点	层位	组合编号		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)			
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高	器径
586	89	09	西	3D12	Ⅱb層	12	12	縄文土器	壺	ⅡA小	朝上平	0	100	-	-	1.1	69
587	90	09	西	3D0X800	5層(草層)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1c型	朝上平	0	0	-	-	-	60
588	91	09	西	3D12	Ⅱ層	12	12	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	62.3
589	90	09	西	3E23(2804)	草層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	62.8
600	91	09	西	3D14	Ⅱ層下段-一括	16	16	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4b型	口縁-朝上平	-	0	-	-	290	62.9
601	90	70	西	3D12	Ⅱ層中-下段	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	朝上平	0	0	-	-	-	66.0
602	90	70	西	3D40300	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	朝	0	0	-	-	-	65.1
603	90	70	西	3D12(2800)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	67.1
604	90	70	西	3E9X300	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	口縁	-	0	-	-	-	66.0
605	91	70	西	3D40300	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	朝下平	0	0	-	-	-	611.9
606	91	70	西	3D40300	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	朝上平	0	0	-	-	-	64.2
607	91	70	西	3D17(2804)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	朝上平	-	0	-	-	-	620.7
608	91	70	西	3D1	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	朝下平	-	0	-	-	-	65.3
609	91	70	西	3D40300	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	63.9
610	91	70	西	3D14 (2804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	突起	-	0	-	-	-	-
611	91	70	西	3D14(2804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	口縁	-	0	-	-	-	63.6
612	91	70	西	3D1(2800古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2b型	口縁	-	0	-	-	-	64.2
613	91	70	西	3D14(2804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	口縁	-	0	-	-	-	610
614	91	70	西	3E6(2800古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	朝上平	0	0	-	-	-	63.0
615	91	70	西	3D1(2800古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	口縁	-	0	-	-	-	69.1
616	91	70	西	3E0(2800)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4c型	口縁	-	0	-	-	-	64.5
617	91	70	西	3E23(2804)	砂礫4層	8	8	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4c型	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	611.3
618	92	70	西	3D7(2800)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4c型	朝上平	0	0	-	-	-	63.0
619	92	70	西	3E23(2800)	砂礫4層	1	1	縄文土器	浅鉢	Ⅱ、Ⅱa小	口	0	0	-	-	-	65.0
620	92	70	西	3D1(2804-09)	砂礫5層	1	1	縄文土器	壺	Ⅱa	朝上平	0	0	-	-	-	64.3
621	92	70	西	3D1(草層)	崩落土(Ⅱb層)	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱa	口縁	-	0	-	-	-	62.0
622	92	70	西	3E25	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅱa	口縁	-	0	-	-	-	64.1
623	92	70	西	3E24	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	-	66.0
624	92	70	西	3E16(2800)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	-	68.1
625	92	70	西	3E20(2800)	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	64.0
626	92	70	西	3E3(2800)	砂礫4層	1	1	縄文土器	小形深鉢	Ⅱa	朝	0	0	-	-	-	64.9
627	92	70	西	3E15	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4b型	口縁	-	0	-	-	-	67.7
628	92	70	西	3E20(2800古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	65.5
629	92	70	西	3E25	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	-	67.2
630	92	70	西	3E24	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	朝	0	0	-	-	-	69.1
631	92	70	西	3E3(2800)	砂礫4層	1	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	-	65.2
632	92	70	西	3E40300	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	63.6
633	92	70	西	3E5(2804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	64.2
634	92	70	西	3E50304古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	63.2
635	92	70	西	3E20(2800古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2a型	朝	0	0	-	-	-	65.2
636	92	70	西	3E25	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ	朝上平	0	0	-	-	-	64.8
637	92	70	西	3F23	砂礫2層	1	1	縄文土器	台付鉢	ⅡA	台-一括	0	100	-	-	-	61.0
638	92	70	西	3F20	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢2a型	口縁	0	0	-	-	-	66.0
639	92	70	西	3F30(2800)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢2a型	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	611.0
640	92	70	西	3F19	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅡA	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	65.0
641	92	70	西	3F16(2800)	泥灰層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅡA小	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	65.2
642	92	71	西	3G1区、4G区	砂礫1層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	-	69.3
643	92	71	西	3G2(2800)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	口縁	-	0	-	-	-	65.7
644	92	71	西	3G7(2800)	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	64.3
645	93	71	西	3C15(2800-04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	壺	Ⅱ	朝上平	0	0	-	-	-	65.7
646	93	71	西	4A20	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	朝	0	0	-	-	-	69.0
647	93	71	西	4B11	Ⅱa層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	64.1
648	93	71	西	4B8 4B8	Ⅱa層 Ⅱb層上部	1 15	16	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	-	65.2
649	93	71	西	4B11(2800)	Ⅱb層	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	口縁	-	0	-	-	-	612.9
650	93	71	西	4B23 4B23 4B24	Ⅱa層 Ⅱb層上部 Ⅱa層	1 13 3	19	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	617.4
651	93	71	西	4B8 4B8 4B8 不明	Ⅱa層 Ⅱb層上部 Ⅱb層下部 不明	1 16 2 20	39	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁-Ⅱ1/2	-	100	300	8.9	35.3	
652	93	71	西	4B10(2800)	Ⅱb層下部	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢3a型	口縁	-	0	-	-	-	612.2
653	93	71	西	4B14	Ⅱb層上部	7	7	縄文土器	浅鉢	ⅡA小	口縁-朝上平	-	0	-	-	-	65.0

内容調整・論文など	内容調整・論文など	スライド		胎土	底面	底部 1/2 以上	備考	登録%
		内面	外面					
胴：ナデ	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2 少	356
胴上半：隆線・隆線状の列点・ボタン状胎付・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	545
下支縁部：突起、目玉支縁部・磨消を伴う帯状文、目玉縁部・隆線・沈線・磨消・曲線帯状文	ナデ (儀)				0	0	後期前半・年代測定新出土品	567
口縁：突起、口縁：沈線・縄文 (京 L)・磨消	ナデ (儀)				0	0	後期後半	569
口縁～胴上半：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	561
胴上半：沈線・磨消・縄文 (京 L)・大船帯状文	ナデ (儀)				0	0	後期後半	560
胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	前期初頭	548
口縁：隆線・沈線・縄文 (後期京 L～R)	ナデ (儀)				0	0	大和 9	559
口縁：突起、口縁：沈線	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	554
胴下半：垂線状隆線・磨消・縄文 (無船京)	ナデ (儀)	胴下半スライド量			0	0	後期初頭～前葉	546
胴上半：垂線状隆線・ボタン状胎付・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	547
口縁：突起状胎付、胴上半：縄文 (車輪跡委体第 1 類京)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	544
胴下半：縄文 (京 L)	ナデ (儀)	胴下半コゲ多量			0	0	後期初頭～前葉小	542
口縁：沈線・突起状胎	ナデ (儀)				0	0	後期前半	549
口縁：大形突起	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	497
口縁：大形突起の付いた部分、隆線・沈線・列点	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	548
口縁：沈線・縄文 (京 L)・段差の孤線が反転するもの	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	543
口縁：彫穿、口縁：沈線・縄文 (京 L)・段差の孤線を反転させるもの	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	534
胴上半：沈線・磨消・縄文 (京 L)・沈線に合う列点	ナデ (儀)	胴上半コゲ少量			0	0	後期中葉	551
口縁：彫穿付点、口縁：縄文 (無船京)	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	541
口縁：縄文 (京 L 縄文京 L・京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	544
口縁～胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	567
口縁上半：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	553
注 1：ナデ	ナデ (儀)				0	0	鳴門小	566
胴上半：隆線・磨消・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	中期後半 (大和 10 少)	555
口縁：突起、口縁：大船三又文	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	270
口縁：目玉突起、口縁：大船三又文	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	387
口縁：目玉目、口縁：沈線	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	385
口縁：目玉目、口縁：沈線、胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	382
口縁：目玉目、口縁：沈線・車輪跡付文	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2 新段階	576
胴：沈線・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大和 88 少	373
口縁：沈線、胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	561
口縁：流状線、口縁：突起、沈線・磨消・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	583
口縁：流状線、口縁：隆線・隆線上の短沈線・ボタン状胎付、胴：沈線・磨消・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	586
胴：沈線・縄文 (車輪跡委体第 1 類京)・磨消・突起	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	584
口縁：隆線・隆線状の列点、胴：縄文 (無船京)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	579
口縁：多重沈線・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期前半	574
口縁：突起、口縁：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期前半	575
口縁：三角形～ピーナツ状の突起、口縁：竹管状の突起・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	十内内 1 式 (後葉) (後期前半)	377
胴：沈線・縄文 (京 L)・磨消	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	578
胴上半：沈線・磨消・縄文 (京 L)・大船帯状文	ナデ (儀)				0	0	後期後半	568
唇：沈線・突起、底：ナデ	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	583
口縁：沈線、胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	582
口縁：目玉目、胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	589
口縁：B 突起、口縁：沈線・縄文 (京 L)・流線文	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ (儀)				0	0	大洲 C2 新段階 輪跡付 1 箇所 (内→内)・ 大洲 C2 少	390
口縁：目玉目、口縁：沈線、胴：縄文 (京 L)	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	400
口縁：隆線・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	564
口縁：突起、目玉目、口縁：沈線・縄文 (京 L)・突起文	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	594
胴上半：沈線・縄文 (京 L)・磨消・孤線文	輪跡付多量				0	0	後期中葉	597
胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	前期初頭	601
キャップ～形、口縁：隆線・縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大和 8a	611
口縁：沈線・縄文 (京 L)・磨消	ナデ (儀)				0	0	後期中葉	603
口縁：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	後期初頭～前葉	793
口縁：目玉目、胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	627
口縁：目玉目、胴：縄文 (京 L)・流：ナデ	ナデ (儀)	胴下半コゲ微量	胴上半スライド量		0	0	大洲 C2	602
胴：縄文 (京 L)	ナデ (儀)				0	0	大洲 C2	617
口縁～胴上半：ミギキ	ミギキ (儀)				0	0	大洲 C2 少	613

図号	DPRNo.	写真No.	区	出土地点	層位	接合痕片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)				
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	高さ		
654	93	71	西	4E24<=5.5>	Ⅱ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1型	口縁	-	-	-	-	-	(42)	
655	93	71	西	4E8	Ⅱ層(Ⅱ層上)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(110)	
656	94	72	西	4E1	Ⅱ層	1	73	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁-底2.5	30	45	341	140	487		
				4E24<=5.5>	Ⅱ層	10												
				4C3<=5.5>	Ⅱ層上部	5												
				4E21(N304古or07)	Ⅱb層	4												
				4E21<=5.5>(N304古or07)	Ⅱ層上部一括	37												
				4E21<=5.5>(N304古or07)	Ⅱ層	2												
				4E22	Ⅱ層(Ⅱ層上)	1												
				4C1	Ⅱ層	3												
				2E2(N302)	砂礫5層	1												
				3E16<=5.5>	Ⅱa層	1												
4E7	砂礫4層	1																
不明	不明	5																
657	94	71	西	4E8	Ⅱ層	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(134)	
658	94	71	西	4E16(N300or04古)	Ⅱ層上部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4型	口縁	-	0	-	-	-	(73)	
659	94	71	西	4E12	Ⅱ層上部	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5a型	口縁	-	0	-	-	-	(141)	
660	94	71	西	4E12	Ⅱ層上部	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5a型	口縁	-	0	-	-	-	(59)	
661	94	72	西	4E8	Ⅱ層	4	7	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	-	(167)
				4E13	Ⅱ層	2												
662	94	72	西	4E13	Ⅱ層(Ⅱ層上)	4	4	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(149)	
663	94	72	西	4E14<=5.5>(N305)	Ⅱ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	(42)	
664	94	72	西	4E30	7層(Ⅱ層上、中央の埋層)	6	6	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(101)	
665	94	72	西	4E10(N309)	10層(Ⅱ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	(12)	
666	95	72	西	4E14	Ⅱ層(Ⅱ層上)	13	36	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	胴下半一括	0	90	-	148	(187)		
				4E9	Ⅱ層(Ⅱ層上)	14												
				3E21	Ⅱb層相対層	1												
				4E10	6層(Ⅱ層上段)	8												
667	95	72	西	4E18	6層(Ⅱ層上段)	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(146)	
668	95	72	西	4E23	6層(Ⅱ層上段)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(160)	
669	95	73	西	4C(N306)	6層(Ⅱ層上段)	1	29	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁-胴下半	30	0	259	-	-	-	(345)
				4E24<=5.5>	Ⅱ層	74												
				4C3<=5.5>	Ⅱ層	2												
				不明	不明	2												
				4E25	Ⅱb層上段	1												
4E19	Ⅱ層	10																
4E25	Ⅱ層	7																
4E25<=5.5>	Ⅱ層	5																
不明	不明	2																
670	96	73	西	4E25	Ⅱ層下部(一部Ⅱb層)	15	86	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	口縁-底	80	45	265	112	(387)		
				4E19	Ⅱ層	56												
				4E19	Ⅱ層	15												
				不明	不明	15												
671	96	73	西	4E30	Ⅱ層下部(一部Ⅱb層)	15	86	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	口縁-底	80	45	265	112	(387)		
4E19	Ⅱ層	56																
4E19	Ⅱ層	15																
不明	不明	15																
672	95	72	西	4E24<=5.5>(N305)	Ⅱ層下部	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(91)	
673	95	72	西	4E24<=5.5>(N305)	Ⅱ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	-	(45)	
674	95	72	西	4E19	Ⅱ層	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	-	(86)	
675	95	73	西	4E14	10層(Ⅱ層下位)	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(200)	
676	95	72	西	4E21<=5.5>(N304古or07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	-	(36)	
677	95	72	西	4E21<=5.5>(N304古or07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5b型	口縁	-	0	-	-	-	(74)	
678	95	73	西	4E(N306)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	-	(71)	
679	96	73	西	4E25(N309)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a型	口縁	-	0	-	-	-	(40)	
680	96	73	西	4E10(N309)	砂礫6層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2a型	口縁	-	0	-	-	-	(74)	
681	96	73	西	T5eKC(Ⅱ)	1層	1	8	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴下半-底	0	0	-	-	-	102	(79)
682	96	73	西	T5eKC(Ⅱ)	Ⅱ層	7	7	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢2型	胴	0	0	-	-	-	-	(155)
				T5e	Ⅱ層	7												
683	97	74	西	4C1	Ⅱ層	8	24	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5a型	口縁-胴下半	-	0	324	-	-	-	(410)
				4C2	砂礫5層	8												
				X39	Ⅱb層下部	8												
				3E25<=5.5>	Ⅱ、Ⅱ層	1												
				不明	不明	6												
				4C3	Ⅱ層上 褐色粘土層	1												
4C3<=5.5>	Ⅱ層	1																
684	96	73	西	4C3	Ⅱ層上 褐色粘土層	1	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁	-	0	-	-	-	(67)	
685	96	73	西	4C2(N309)	Ⅱ層(Ⅱ層下位)	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁	15	0	-	-	-	(70)	
686	97	73	西	4C(N305)	Ⅱ層(Ⅱ層下位)	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢1a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(86)	
687	96	74	西	4C(N304古or07)	Ⅱ-Ⅱ層	12	12	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢5a型	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(127)	
688	97	73	西	4C(N304古)	Ⅱ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁	-	0	-	-	-	(50)	
689	98	74	西	4C1	Ⅱ層	4	31	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢2型	口縁-胴下半	-	0	341	-	-	-	(337)
				SD01(ⅡCⅡ)	埋層上中	4												
				X39	Ⅱb層下部	4												
				4C(N305)	Ⅱ層(Ⅱ層下位)	7												
				4C(N305)	Ⅱ層(Ⅱ層下位)	7												
				4C(N305)	Ⅱ層(Ⅱ層下位)	2												
				X39<=5.5>(N304)	7層(Ⅱ層上、中央の埋層)	2												
				4C12(N304古)	砂礫4層	1												
				X39<=5.5>(N304)	Ⅱ層	2												
				4C(N304古or07)	Ⅱ層	3												
4C(N304古or07)	Ⅱ-Ⅱ層	2																
690	97	75	西	4C(N307)	10層(Ⅱ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(50)	

外面調整・英文など	内面調整・英文など	スライス		胎土	灰部	灰部 1/2 以上	備考	登録%
		内面	外面					
口縁：突起、口縁：段縁・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	631
口縁：割上半・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	636
口縁：波状縁、口縁：沈線・縄文（京上）、磨消・刺突・葉手文	ナテ（横）				1	0	後期初期～前葉	623
口縁：割上半・縄文（京上）	ナテ（横）	口縁スス少量			0	0	後期初期～前葉	605
口縁：折り返し・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	616
口縁：縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	794
口縁：縄文（早稲穂条体第5類目）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	795
口縁：割上半・沈線・縄文（京上）、磨消・胎土胎付・胎付上の刺突・じ字状文	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉（採掘式）	604
口縁：割上半・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期中葉	612
口縁：中空突起	ナテ（横）				0	0	後期中葉	630
口縁：段縁・刺突突起	ナテ（横）				0	0	大木 Ra ?	622
口縁：沈線・ゴタン状胎付・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	609
割下半・縄文（京上）、底：本葉痕	ナテ（横）				1	1	後期初期～前葉小	607
口縁：突起、口縁：段縁・段縁に沿う竹管文の刺突列、割・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	619
口縁：沈線・縄文（無胎土）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	628 629
口縁：突起、口縁：段縁・段縁に沿う竹管文刺突列、割・縄文（京上）	ナテ（横）		割上半スス少量		0	0	後期初期～前葉	797
口縁：割・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉、年代測定 新田川未測定不可	634
口縁：割・縄文（京上）、底：網代痕	ナテ（横）		割上半スス少量		1	0	後期初期～前葉	620
口縁：段縁・段縁に沿う竹管文の刺突列、割・縄文（京上）	ナテ（横）		口縁～割上半スス少量		0	0	後期初期～前葉	633
口縁：突起、口縁：三日月状突起・縄文（京上）	ナテ（横）		口縁スス少量		0	0	後期初期～前葉	632
口縁：突起、口縁：三日月状突起・段縁に沿う連続刺突、割・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	796
口縁：割上半・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期中葉	614
口縁：段縁・段縁に沿う竹管文の刺突列、割・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	625
口縁：縄文（京上）	ナテ（横）	口縁スス多量			0	0	後期初期～前葉、年代測定 新田川 20	624
口縁：沈線・磨消・縄文（京上）、體状突起	ナテ（横）				0	0	大木 10?	608
口縁：刺突・段縁	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	626
口縁：沈線・磨消・縄文（京上）、S字状入組文	ナテ（横）				0	0	後期中葉	610
割下半・縄文（京上）	ナテ（横）						大淵 C2	275
割・縄文（京上）	ナテ（横）						大淵 C2	276
口縁：波状縁（6単位）、割・網目状熟赤土	ナテ（横）						後期初期～前葉	271
口縁：波状縁・形小目、口縁：連続段縁・縄文（京上）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	644
口縁：沈線・縄文（京上）、磨消・體状突起	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	803
口縁：突起、口縁：爪状工具による刺突列（まくれ走り）、割・縄文（無胎土）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	619
割・縄文（早稲穂条体第1類目）	ナテ（横）		口縁～割スス少量		0	0	後期初期～前葉	645
口縁：波状縁、口縁：沈線・S字状沈線	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	798
口縁：波状縁、口縁：沈線・縄文（早稲穂条体第1類目）、磨消	ナテ（横）				0	0	後期初期～前葉	647
口縁：段縁・縄文（京上）、片文・網状	ナテ（横）				0	0	大木 Ra	651

掲載No.	DPRNo.	写No.	区	出土地点	層位	発掘内容		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)			計測値(cm)		
						発掘内容	数量					口縁	底部	口径	底径	高さ	器名
695	97	75	西	4C17N309	灰層砂層	2	2	縄文土器	小形深鉢	器A	胴下平一底	0	55	-	4.4	-	(31)
696	97	75	西	4C18N309	10層(灰層下段)	2	2	縄文土器	深鉢	器B	口縁一胴上平	-	0	-	-	-	(97)
697	97	75	西	4C20	灰層	2	2	縄文土器	深鉢	器B	口縁一胴上平	-	0	-	-	-	(82)
694	97	74	西	4C9N309	6層(灰層上段)	33	30	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1a類	口縁一胴上平	-	0	<270>	-	-	(247)
				4C9N307	6層(灰層上段)	2											
				2A25	砂礫3層	1											
				4C15	6層(灰層上段)	1											
				不明	不明	1											
695	47	75	西	4C5	灰層	18	81	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1b類	口縁一胴上平	-	0	31.2	-	-	(300)
				4C5	灰層上段 褐色粘土層	7											
				北側中央(T4)トレンチ	南段上(灰層中心)	3											
				4C9N309	6層(灰層上段)	1											
				4C5ペレット	灰層	7											
				4C5ペレット	灰層	7											
				5C9N309	IIb層	16											
				5C9N309	灰層上段	12											
				5C7N309	灰層上段	3											
				不明	不明	7											
696	99	75	西	4C5	灰層	1	27	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1b類	口縁一胴上平	70	0	35.5	-	-	(218)
				T4ペレット(4C1~5)	南段上(灰層中心)	7											
				北側中央(T4)トレンチ	南段上(灰層中心)	1											
				4C2N309	6層(灰層上段)	4											
				4C9N309	6層(灰層上段)	2											
				4C9N307	6層(灰層上段)	1											
				4C5ペレット	灰層	1											
				4C2N307	砂礫5層	1											
				4C1N304(古)07	砂礫5層	1											
				5C9N309	灰層上段	7											
697	99	74	西	4C7N309	10層(灰層下段)	1	13	縄文土器	深鉢	器B・深鉢2類	胴下平一底	0	100	-	36.8	(120)	
				4C12N304(古)	8層(灰層中段)	12											
698	98	75	西	4C2N309	5層(灰層中段)	2	6	縄文土器	深鉢	器B・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(107)	
				4C5ペレット	灰層	1											
699	100	75	西	4C9N309	5層(灰層下段)	1	82	縄文土器	深鉢	器B・深鉢4a類	口縁一胴上平	-	0	290	-	-	(332)
				3C21N302	砂礫4層	1											
				4B34N309	砂礫6層	1											
				4C9N309	6層(灰層上段)	19											
				4C9N309	6層(灰層上段)	16											
				4C13N309	6層(灰層上段)	22											
				4C14N309	6層(灰層上段)	23											
不明	不明	23															
700	98	75	西	4C10N302	6層(灰層上段)	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(89)	
701	99	75	西	4C9N309	6層(灰層上段)	5	7	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1a類	口縁一胴上平	-	0	-	-	(106)	
				4C4ペレット	灰層	2											
702	99	76	西	4C9N309	6層(灰層上段)	5	6	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1a類	口縁一胴上平	-	0	-	-	(131)	
				4B21ペレット	灰層	1											
703	99	76	西	4C9N307	6層(灰層上段)	2	2	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1d類	口縁	-	0	-	-	(42)	
704	99	76	西	4C9	7層(灰層上・中段の間層)	1	5	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1a類	口縁一胴上平	-	0	187	-	-	(89)
				4C14N307	9層(灰層中・下段の間層)	2											
				5B11N309	のり層	2											
705	100	76	西	4C10N307	6層(灰層上段)	16	16	縄文土器	深鉢	器B・深鉢5b類	胴下平一底	0	100	-	32.3	(170)	
706	100	76	西	4C4ペレット	灰層	23	23	縄文土器	深鉢	器B・深鉢3類	口縁一胴上平	-	0	24.2	-	(141)	
707	100	76	西	SK04AC39	灰層	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(40)	
708	101	76	西	2B19-20	IIb層残リサブハートの出土	1	110	縄文土器	器	器B	口縁一底	0	90	-	180	(509)	
				4C8	4層(灰層)	1											
				4C9N309	4層(灰層上段)	2											
				4C9N309	5層(灰層中段)	7											
				4C9N309	10層(灰層下段)	2											
				4C12N309	7層(灰層上・中段の間層)	15											
				4C7N309	10層(灰層下段)	6											
				4C9N309	10層(灰層下段)	6											
				4C9N309	6層(灰層上段)	2											
				4C9N309	6層(灰層上段)	6											
				4C13N309	6層(灰層上段)	1											
				4C10N307	6層(灰層上段)	6											
				4C12N304(古)	6層(灰層上段)	12											
709	100	76	西	4C4ペレット	灰層	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢2a類	胴上平	0	0	-	-	(30)	
710	100	76	西	4C9N304(古)07	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(54)	
711	100	76	西	4C9N307	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	器A	胴上平	0	0	-	-	(76)	
712	100	76	西	4C4ペレット	砂礫5層	1	1	縄文土器	器	器A	口縁一胴上平	-	0	-	-	(59)	
713	100	76	西	4C2N309	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	器B・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(89)	
714	100	76	西	4C2N307	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(58)	
715	100	76	西	4C9N309	砂礫5層	2	2	縄文土器	深鉢	器B・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(41)	
716	101	76	西	4C2N307	砂礫5層	1	1	縄文土器	器	器B・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(49)	
717	101	77	西	4C1N304(古)07	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(89)	
718	101	77	西	4C7N307	砂礫5層	5	5	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1a類	口縁一胴上平	-	0	-	-	(111)	
719	101	76	西	4C1N304(古)07	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	器B・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(74)	
720	102	77	西	4D6	IIa層	15	15	縄文土器	注口	器A	胴	0	0	-	-	-	
721	102	77	西	4D10	IIb層	1	1	縄文土器	深鉢	器A	口縁	-	0	-	-	(59)	
722	102	77	西	4E24N304	IIb層	1	1	縄文土器	深鉢	器A	口縁	-	0	-	-	(51)	

外面調整・英文など	内面調整・英文など	天スコグ		胎土	底部	底面1/2以上	備考	登録No.
		内面	外面					
胴：隆線・縄文（京上）	ナデ（儀）				1	1	大木9	799
口縁：沈線・縄文（京上）・滑溝・J字状文	ナデ（儀）				0	0	大木10	800
口縁：沈線・縄文（京上）・滑溝	ナデ（儀）				0	0	大木10	803
口縁：波状線、口縁：隆線・列点、胴：縄文（無蓋上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	372
口縁：中字突起、口縁：隆線・連続線、沈線・滑溝文・刺突・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	643
口縁：中字突起（4単位）、口縁：隆線・ボケテ状突起、胴：隆線・連続線、縄文・縄文（京上）・滑溝	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	695
胴：沈線・縄文（京上）・滑溝、底：葉巻状	ナデ（儀）	胴下字コグ微量	胴下平スス微量		1	1	後期初期～前期	657
口縁：縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	621
口縁：隆線、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）		胴上平スス微量		0	0	後期初期～前期	630
口縁：沈線、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	658
口縁：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突同、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	639
口縁：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突同、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）		口縁スス微量		0	0	後期初期～前期	641
口縁：二日月状隆線・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	654
口縁：突起、口縁：二日月状隆線・刺突、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	635
胴：縄文（京上）、底：網代痕（ごご目編み）	ナデ（儀）				1	1	後期初期～前期	656
口縁：突起、口縁：系状工具による刺突同5段（まくれ高り）、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	640
口縁：沈線・滑溝	ナデ（儀）	口縁スス微量	口縁スス少量		0	0	後期初期～前期	821
口縁：隆線、胴：沈線・縄文（京上）・滑溝・S字状連続線、底：本葉状	ナデ（儀）		胴上平スス少量		1	1	後期初期～前期	649
胴上平：沈線・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	埴輪土製所（内→内）、後期中葉	380
口縁：折り返し・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	646
胴：隆線・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	大木8a	638
口縁：突起、口縁：隆線、胴：沈線・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	大木8a	642
口縁：沈線・縄文（京上）・連続突起	ナデ（儀）		胴上平スス微量		0	0	後期初期～前期	600
口縁：沈線・縄文（京上）・連続突起	ナデ（儀）		口縁スス少量		0	0	後期初期～前期	637
口縁：突起、口縁：百文・沈線・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	652
胴：沈線・縄文（京上）・滑溝	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	653
胴：沈線・縄文（京上）・滑溝	ナデ（儀）		胴スス多量		0	0	後期初期～前期	636
口縁：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突同、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）		胴上平スス微量		0	0	後期初期～前期	648
口縁：突起・折み目、口縁：隆線・隆線上の竹管文刺突同、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	後期初期～前期	635
胴：沈線・ミダキ	口縁：ミダキ、胴：ナデ（儀）				0	0	大冨 B2	664
口縁：隆線突起・縄文（京上）	ナデ（儀）				0	0	大木8a	273
口縁：沈線・隆線文を伴う小波状線、胴：縄文（京上）	ナデ（儀）		口縁スス微量		0	0	大冨 B2	668

掲載順	DPRNo.	写真No.	区	出土地点	層位	採合標内数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)							
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高					
723	102	77	西	4E21(SB04)	IIb層	1	1	縄文土器	深鉢	器A	割	0	0	-	-	-	(47)				
724	102	77	西	4E9	IIa層	15	22	縄文土器	深鉢	V・深鉢1a型	割	0	0	183	-	-	(158)				
725	102	77	西	4E9(N05)	5層(瓦層下位)	7	7	縄文土器	深鉢	器B	口縁-割上半	0	0	-	-	-	(44)				
726	102	77	西	4E11 一括 3E15	器層上部(享有) 器層下位	33 11	45	縄文土器	深鉢	V・深鉢5b型	割上半-底	0	0	-	-	338	(330)				
727	102	77	西	4E1(N05)	7層(瓦層層)	1	1	縄文土器	器	器A	割	0	0	-	-	-	(44)				
728	102	77	西	4E3	V層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢1型	口縁	0	0	-	-	-	(57)				
729	102	77	西	4E9	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	器A	口縁-割上半	0	0	-	-	-	(77)				
730	102	77	西	4E3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(86)				
731	102	77	西	4E21<ベ&ト(SB04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢1型	口縁	0	0	-	-	-	(51)				
732	103	77	西	4E16<23トレンチ	砂礫3層	2	2	縄文土器	浅鉢	器C	口縁	0	0	-	-	-	(65)				
733	103	77	西	4E16(N04占)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	器A	口縁	0	0	-	-	-	(30)				
734	103	77	西	4E16(N04占)	砂礫4層	1	1	縄文土器	器	器B	割下半	0	0	-	-	-	(42)				
735	103	77	西	4E12	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(53)				
736	103	77	西	4E12	砂礫4層	1	1	縄文土器	鉢	器全	割下半-底	0	50	-	-	48	(28)				
737	103	77	西	4E16(N04占)	砂礫4層	1	1	縄文土器	器	V	割	0	0	-	-	-	(39)				
738	103	77	西	4E16(N04占)	砂礫4層	3	3	縄文土器	深鉢	V・深鉢1型	割下半-底	0	65	-	-	90	(87)				
739	103	77	西	4E17(SB04)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	器B	口縁	0	0	-	-	-	(60)				
740	103	77	西	4E16(N04占)との併用	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(96)				
741	103	77	西	4E16(N04)	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	器A・深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(68)				
742	103	77	西	4E16(N04)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	器A少・鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(53)				
743	103	77	西	4E2トレンチ	砂礫3層	1	1	縄文土器	台付鉢	器A	口縁	0	0	-	-	-	(68)				
744	103	78	西		4E15	器一古層	5														
					4E15	IV層	4														
					5E11	6層(瓦層上位)	3														
					5E11(SB00)	器層上部	1														
					5E11(SB00)	器層下部	11														
745	103	77	西		5E16(SB00)	器層下部	9														
					6E3	IIa層下部	2														
						不明	2														
					5E16(SB00)	器層上部	1														
							1														
746	103	78	西		5E16	5層(瓦層)	1														
					5E17	5層(瓦層)	4														
					5E17	砂礫6層	12														
					5E16(SB00)	砂礫6層	1														
					5E16(SB00)	器層上部	13														
747	104	78	西		4E50	IIb層上部	9														
					5E16	5層(瓦層)	1														
					3E9	器層	1														
					5E16(SB00)	器層上部	3														
					5E16(SB00)	器層下部	16														
748	104	78	西		5E21	5層(瓦層)	9														
					5E11(SB00)	器層上部	1														
					5E21(SB00)	器層上部-底	6														
					5E21(SB00)	器層上部	9														
					5E21(SB00)	IV層上部	2														
					5E16(SB00)	V層上部	4														
749	104	79	西		不明	不明	9														
					5C区WEトレンチ層 (IV層上部)	5 7															
					5E16(SB00)	砂礫6層	9														
					5E22(SB00)	砂礫6層	1														
					5E16(SB00)	12層(砂礫6層)	1														
751	104	77	西	5E11	砂礫6層	1	1	縄文土器	器	器A	割上半	0	0	-	-	-	(47)				
752	104	79	西	5E16(SB00)	12層(砂礫6層)	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢1a型	割上半	0	0	-	-	-	(89)				
753	104	79	西	5E6	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢1a型	口縁	0	0	-	-	-	(57)				
754	104	79	西	5E16(SB00)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢5b型	口縁	0	0	-	-	-	(44)				
755	105	79	西	5E22 SC区WE<ベ&ト	砂礫6層	3	3	縄文土器	深鉢	V・深鉢5b型	口縁-割上半	0	0	-	-	-	(133)				
757	105	79	西	5E17(SB00)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢2型	口縁	0	0	-	-	-	(49)				
758	105	79	西	5C16(SB00)	IIb層	2	2	縄文土器	深鉢	器・深鉢4型	口縁	0	0	-	-	-	(117)				
759	105	79	西	5C3トレンチ	IIb層	2	2	縄文土器	鉢	器A	口縁	0	0	-	-	-	(60)				
760	105	79	西	5C15	IIb層	1	1	縄文土器	器B	器B	割	0	25	-	-	-	(22)				
761	105	79	西	5C3	IIa-IIb層	3	3	縄文土器	器	器B	割上半	0	0	-	-	-	(27)				
762	105	79	西	5C16(N05)	IIb層	3	3	縄文土器	器	器B	割-器	0	0	-	-	-	(62)				
763	105	79	西	5C区 SD10	埋土(IIb層処理)	1	1	縄文土器	器	器B	口縁	0	0	-	-	-	(20)				
764	105	79	西	5C15(SB00)	IIb層	1	1	縄文土器	器	器B	割	0	0	-	-	-	(29)				
765	105	79	西		5C11(SB00)	V層上部	7														
					5C16(SB00)	器層上部	2														
					5C16(SB00)	器層	1														
					5C11(SB00)	V層上部	10														
					5C12(SB00)	器層	1														
					5C16(SB00)	V層上部	9														
					5C11(SB00)	砂礫5層	1														
不明	不明	7																			
766	105	79	西	5C14(N02)	砂礫3層	1															
767	105	79	西		6C区I内	IIa層	1	8	縄文土器	深鉢	V・深鉢1a型	口縁-割上半	0	0	-	-	-	(95)			
					5C11(SB00)	V層上部	6														
768	105	79	西	5C12(SB00)	V層上部	40	40	縄文土器	深鉢	V・深鉢1a型	口縁-割下半	0	0	-	-	-	(20)				

外面調整・英文など	内面調整・英文など	スライス		胎土	灰部	磁部1/2以上	備考	登録%
		内面	外面					
割：ミダキ	ナデ(横)				0	0	大洲 B2	802
割：沈瀬・瀬川・ウチン取胎付	ナデ(横)						後期初期～前葉	272
口縁：沈瀬・縄文(丸L)・瀬川	ナデ(横)				0	0	大木 10	663
割：縄文(LR)・底：木葉痕	ナデ(縦)						後期初期～前葉	274
口縁：龍足跡・縄文(LR)・赤彩	ナデ(横)				0	0	大木9か	856
口縁：突起・口縁：龍足	ナデ(横)	口縁スス量			0	0	後期初期～前葉	661
口縁：沈瀬・割：縄文(LR)	ナデ(横)			口縁～割上平スス量	0	0	大木8a・年代測定新田 2.5	665
口縁：沈瀬・縄文(LR)・瀬川	口縁：懸状突起・ナデ(横)			口縁スス量	0	0	後期初期～前葉	662
口縁：突起・口縁：沈瀬・縄文・瀬川・段違いの風痕を反映するもの	ナデ(横)				0	0	後期中葉	666
口縁：沈瀬・突起工文字・3部一対の粘土粒	ナデ(横)				0	0	大洲 A'	678
口縁：段差・突起印痕(丸)	ナデ(横)				0	0	大木8a	672
割：沈瀬・縄文(LR)・瀬川	ナデ(横)				0	0	大木 10'	669
口縁：突起・割み目・口縁：沈瀬	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	673
割：ナデ・底：瀬代痕	割：ナデ・アスファルト付着				1	1	後期初期～前葉か・年代測定 新田 2.23	674
割：沈瀬・断面文	ナデ(横)				0	0	後期前葉	671
割：縄文(LR)・底：台	ナデ(横)				1	1	後期中葉	676
口縁：小底状縁・口縁：沈瀬・懸状浮文・割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	大洲 A1	804
口縁：小底状縁・縄文(LR)・瀬川・支様表面段の連続剥落	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	805
口縁：割み目・口縁：突起・沈瀬	ナデ(横)				0	0	大洲 C2	808
口縁：突起・口縁：沈瀬・縄文(LR)・瀬川	ナデ(横)				0	0	大洲 C2か	807
口縁：突起・割み目・口縁：沈瀬・縄文(LR)・瀬川	口縁：沈瀬・口縁～割：ナデ(横)	口縁スス量			0	0	大洲 C2段段縁	806
口縁：突起・口縁：龍足・龍痕に沿う竹管文の刺突例・割：縄文(LR)	ナデ(横)	割下平コゲ少量	割上平スス量		1	1	後期初期～前葉	615
口縁：突起・口縁：龍足・龍痕に沿う竹管文の刺突例	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	663
口縁：突起(4単位)・口縁：龍足・三日月状龍痕・割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	667
口縁：三日月状龍痕・割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	662
口縁：沈瀬・割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	664
口縁：波状縁(5単位)・口縁：龍足・龍痕上の刺突例・割：縄文(LR)・底：葉痕	ナデ(横)				1	1	後期初期～前葉	691
口縁～割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	689
口縁：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	690
割：懸状突起・沈瀬・縄文(LR)・瀬川	ナデ(横)				0	0	大木 9	692
口縁：龍痕・龍痕上の竹管文刺突例・遺布文	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	685
口縁：龍痕・龍痕に沿う竹管文の刺突例・割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	679
口縁：縄文(草輪縁部帯系1部)	ナデ(横)	口縁スス量			0	0	後期初期～前葉	696
口縁～割：縄文(LR)	ナデ(横)	口縁スス少量			0	0	後期初期～前葉	690
口縁：沈瀬・縄文(LR)・瀬川	ナデ(横)				0	0	縄持孔1箇所(内～内)・後期中葉	698
口縁：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期中葉	819
口縁：沈瀬・虫眼状三叉文・縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	大洲 B2	694
底：台・工文字	ナデ(横)				1	0	大洲 A1	735
割：沈瀬・工文字	ナデ(横)				0	0	大洲 A1	693
口縁：懸状浮文・底：ミダキ	口縁：沈瀬・底：ナデ				0	0	大洲 A1	696
口縁：B突起・割み目・口縁：沈瀬・工文字	口縁：沈瀬・ナデ(横)				0	0	大洲 A1	823
割：沈瀬・工文字	ナデ(横)				0	0	大洲 A1	813
口縁：沈瀬・S字文・縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	大木 10	706
口縁：突起・割み目・口縁：龍痕・龍痕上の竹管文刺突例・割：縄文(LR)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前葉	697
口縁：ノ字状龍痕・口縁～割：縄文(LR)	ナデ(横)	割上平スス量			0	0	後期初期～前葉	698

採掘区	DPRNo.	写図No.	区	出土地点	層位	採合標内数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値 (cm)			
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	口径	底径
766	105	79	西	5C15N309	IV層下部	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(110)
769	105	79	西	5C13N309	IV層上部	3	3	縄文土器	深鉢	V、深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	-	(84)
770	105	79	西	5C16N307	IV層上部	4	4	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	口縁	-	0	-	-	-	(65)
771	105	79	西	5C16N307	IV層上部	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	-	(51)
772	105	79	西	5C3	IV層上部	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	-	(62)
773	106	79	西	5C12N309	IV層上部	4	4	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	胴	0	0	-	-	-	(164)
774	106	80	西	5C14N309	上部砂層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	-	(37)
775	106	80	西	5C12N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	-	(60)
776	106	80	西	5C24N307	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	-	(44)
777	106	80	西	5C18N307	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(33)
778	106	80	西	5C17N307	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(64)
779	106	80	西	5C13N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	口縁	0	0	-	-	-	(75)
780	106	80	西	5C4N309	砂層5層	2	2	縄文土器	深鉢	V、深鉢4a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(135)
781	106	80	西	5C12N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	胴	0	0	-	-	-	(79)
782	106	80	西	5C2N309	砂層5層	1	1	縄文土器	器	ⅡB	胴	-	0	-	-	-	(24)
783	106	80	西	5・6D区	Ⅱa層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	-	(28)
784	106	80	西	5E16N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	-	(68)
785	106	80	西	5E21N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	-	(84)
786	106	80	西	5E10	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	胴	0	0	-	-	-	(65)
787	106	80	西	5E20N307	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	胴	0	0	-	-	-	(29)
788	106	80	西	5C12N307	埋土・砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	-	(42)
789	106	80	西	5E14N305-09	Ⅱa層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA	胴	0	0	-	-	-	(47)
790	106	80	西	5E16N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	10	0	-	-	-	(15)
791	106	80	西	5E区T2トレンチ	上部砂層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	-	(52)
792	106	80	西	5E22	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢1類	突起	-	0	-	-	-	-
793	106	80	西	5E区T2トレンチ	上部砂層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ	口縁	-	0	-	-	-	(34)
794	106	80	西	5F21N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	-	(66)
795	106	80	西	5F25N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	-	(60)
796	106	80	西	5F24N304古と07の間	砂層4層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅡB少	口縁	-	0	-	-	-	(95)
797	106	80	西	5G4	Ⅱa層	1	1	縄文土器	器	ⅡB	胴上半	0	0	-	-	-	(44)
798	106	80	西	5G3	Ⅱa層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(55)
799	106	80	西	5C3N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA少	口縁	0	0	-	-	-	(57)
800	106	80	西	5C3N304古と07の間	砂層4層	1	1	縄文土器	器	ⅡB少	口縁	0	0	-	-	-	(59)
801	106	80	西	5G3	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢1a類	胴上半	0	0	-	-	-	(88)
802	106	80	西	5G6N304古	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	-	(92)
803	107	80	西	6C21	Ⅱa層下部	8	8	縄文土器	鉢	ⅡB	口縁-底	5	35	-	-	-	(46)
804	107	80	西	6C19N309	Ⅱa層	4	4	縄文土器	器	ⅡB	口縁-胴上半	95	0	-	-	-	(44)
805	107	80	西	6C19	Ⅱa層	11	11	縄文土器	器	ⅡB	口縁-底	0	100	-	-	-	(139)
806	107	80	西	6C17N309	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	-	(118)
807	107	80	西	6C19N309	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	口縁	-	0	-	-	-	(57)
808	107	80	西	6C11N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	-	(55)
809	107	81	西	6C22N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(80)
810	107	81	西	6C17N309	砂層5層	3	3	縄文土器	深鉢	V、深鉢4a類	口縁-胴上半	0	0	-	-	-	(334)
811	107	81	西	6C25	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	-	(48)
812	107	81	西	6C25	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	-	(60)
813	107	81	西	6C20N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	-	(91)
814	107	81	西	6C24N309	砂層5層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	-	(53)
815	107	81	西	6D14	Ⅱa層上部	1	1	縄文土器	深鉢	I	底	0	20	-	-	-	(86)
816	107	81	西	6E23	Ⅱa層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	胴	0	0	-	-	-	(83)
817	107	81	西	6D区 6E12	Ⅱ層中 Ⅱa層	4 2	6	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	胴	0	0	-	-	-	(168)
818	107	81	西	6E区SD09 6E10	埋土	3	1	縄文土器	浅鉢	ⅡB	口縁-胴	25	0	-	-	-	(54)
819	107	81	西	SD09メインベクト南	埋土中(Ⅱ層)	3	3	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	口縁	-	0	-	-	-	(108)
820	107	81	西	6E13	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	-	(77)
821	108	81	西	6E12 6E17 6E18 6E19	Ⅱa層 Ⅱa層 Ⅱa層 不明	6 120 2 4	132	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁-胴上半	75	0	-	-	-	(328)
822	108	81	西	6E区SD09 6E12	埋土 Ⅱa層	1 20	21	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	口縁-胴上半	30	0	-	-	-	(321)
823	108	82	西	6E13	IV層上部	2	2	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	-	(116)
824	108	82	西	6E12 6E13 6E14 6E14N309	Ⅱ層 Ⅱa層 Ⅱa層 砂層5層	1 1 1 1	4	縄文土器	深鉢	V、深鉢5a類	口縁-胴上半	-	0	-	-	-	(104)
825	108	82	西	6E区(ベクト)SD09	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢2類	胴	0	0	-	-	-	(79)
826	108	82	西	6E11N307	砂層4層	1	1	縄文土器	深鉢	V、深鉢5b類	胴	0	0	-	-	-	(239)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	スリコフ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口縁一割+縄文(L.R.)	ナデ(横)		口縁一割+スリコフ		0	0	後期初期～前期・年代不定 新田川22	854
口縁+縄文(早期絵巻体第1期上)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	701
口縁+沈面+縄文(早期絵巻体第1期上)+磨湾+模状突起	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	815
口縁+沈面+縄文(L.R.)+磨湾	ナデ(横)		口縁+スリコフ		0	0	後期初期～前期	816
口縁+突起+口縁+沈面+模文+縄文(L.R.)	ナデ(横)		口縁+沈面+口縁一割+ナデ(横)		0	0	後期初期～前期	856
口縁+沈面+縄文(早期絵巻体第1期上)+磨湾	ナデ(横)		割+スリコフ		0	0	後期初期～前期	489
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	前期初期	704
割+縄文(段の浅う縄L+R)	ナデ(横)				0	0	前期初期	700
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	前期初期	820
口縁+沈面+段縁上の刺突+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8a	818
口縁+沈面+模状+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8a	817
口縁+沈面+縄文(L.R.)+磨湾+段縁	ナデ(横)		口縁+スリコフ		0	0	後期初期～前期	703
口縁+沈面+割+縄文(L.R.)	ナデ(横)		口縁一割+スリコフ		0	0	後期初期～前期	812
口縁+沈面+縄文(L.R.)+磨湾	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	702
口縁+突起+口縁+段縁+段縁上の竹管文連続刺突	ナデ(横)		口縁+割+スリコフ		0	0	後期初期～前期	820
口縁+突起+新田川, 口縁+沈面+列点	口縁+沈面+ナデ(横)		口縁コケ少量				大田C2	3
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	前期初期	710
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	前期初期	712
割+段縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8b	728
割+段縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8b	707
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	前期初期	709
割+沈面+縄文(L.R.)+大割+スリコフ+段縁+段縁上の刺突列	ナデ(横)				0	0	大田B2	714
口縁+段縁有り+口縁+段縁有直(L.R.)+割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	1層内1式(前期)(後期前期)	715
口縁+波状縁+口縁+沈面+縄文+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	1層内1式(前期)(後期前期)	716
口縁+大形突起+口縁+連続刺突+沈面					0	0	後期中葉	894
口縁+突起+口縁+沈面+刺突	ナデ(横)				0	0	後期後葉	717
口縁+縄文(早期絵巻体第1期上)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	718
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	後期中葉	720
口縁+段縁(尖帯状)+模状突起+割+ナデ	ナデ(横)				0	0	大木8b少	719
割+尖帯帯状の沈面文	ナデ(横)				0	0	大田A1	723
口縁+沈面+大割+スリコフ+割+縄文(L.R.)	ナデ(横)		割+スリコフ少量		0	0	大田B2	721
割+段縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8b少	726
口縁+段縁+割+段縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8b少	724
割+段縁+段縁上の竹管文刺突列+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	722
口縁+波状縁+口縁+沈面+縄文(L.R.)+磨湾	ナデ(横)				0	0	1層内1式(前期)(後期前期)	725
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)				1	0	大田A1	735
口縁一割+ナデ	ナデ(横)				0	0	大田A1	732
口縁+沈面+刺突列+工字文+割+ミダキ+底+四足	口縁一割+ナデ(横)+底+工具痕				1	1	大田A1	730
口縁+縄文(早期絵巻体第1期上)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	728
口縁+沈面+ボタン形貼付+割+沈面+縄文(L.R.)+磨湾	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	733
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	前期初期	727
口縁+段縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8a	736
口縁+突起+口縁+段縁+割+縄文(L.R.)	ナデ(横)		割下+スリコフ少量		0	0	後期初期～前期	729
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)		口縁+スリコフ		0	0	後期初期～前期	729
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	740
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)		口縁+スリコフ		0	0	後期初期～前期	734
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	後期中葉か	737
割下+半+縄文(L.R.)+底+縄文(L.R.)	ナデ(横)				1	0	前期初期	765
割+沈面+縄文(後期L.R.)+磨湾	ナデ(横)		割+スリコフ		0	0	大木10+	771
割+沈面+縄文(L.R.)+磨湾+支線単位縁の連続刺突	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	772
口縁+沈面+工字文+割+縄文(L.R.)	口縁+沈面+口縁一割+ナデ(横)				0	0	大田A1	774
口縁+沈面+縄文(L.R.)+磨湾+刺突	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	822
口縁+模状突起+口縁+段縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木8a	764
口縁一割+縄文(後期L.R.)	ナデ(横)				0	0	大木10	768
口縁一割+縄文(L.R.)	ナデ(横)		割+スリコフ少量		0	0	後期初期～前期	762
口縁+縄文(L.R.)	ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	763
割+縄文(L.R.)	割+ナデ(横)				0	0	後期初期～前期	859
割+沈面+磨湾+縄文(無筋長)	ナデ(横)		割+スリコフ		0	0	後期初期～前期	472
割+縄文(L.R.)	ナデ(横)		ナデ(横)		0	0	後期初期～前期	761

掲載No.	DGRNo.	写No.	区	出土地点	層位	組合様片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	
827	109	82	西	GE17	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(57)
828	109	82	西	GE22	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	(51)
829	109	82	西	GE14(S309)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	(60)
830	109	82	西	GE16(S207)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	胴	0	0	-	-	(11.4)
831	109	82	西	GE15(東西トレンチ)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢Ⅱa類	口縁	-	0	-	-	(54)
832	109	82	西	GE10	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢Ⅱb類	口縁	-	0	-	-	(6.5)
833	109	82	西	GE15(東西トレンチ) GE24(S309)	砂礫5層	2	3	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢Ⅱb類	口縁	-	0	-	-	(6.5)
834	109	82	西	GE5	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢Ⅱb類	口縁	-	0	-	-	(5.2)
835	109	82	西	GE3 不明	Ⅱ層	34	39	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁-胴下平	15	0	<24>	-	(29.0)
836	109	82	西	GE15	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	(3.3)
837	109	82	西	GE14	V層-砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	(4.5)
838	109	82	西	GE24(S309) 張出部	1層(V層経過)	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(4.0)
839	109	82	西	GE24(S309) 張出部	1層(V層経過)	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(7.3)
840	109	82	西	GE15	V層	3	3	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.3) (4.8)
841	109	82	西	GE15	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.9)
842	109	82	西	GE15	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.2)
843	109	82	西	GE16(S304 古土07の隣)	Ⅱb層	1	1	縄文土器	鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	(4.3)
844	109	82	西	7C21	Ⅱc層	12	12	縄文土器	壺	ⅡB	口縁-底1/2	20	100	<101>	7.2	11.5
845	109	82	西	7D6 7C21 7E1 GE15(S309) 7D21	Ⅱc-Ⅱb層 Ⅱb層 Ⅱ層 砂礫5層 砂礫6層	13	13	縄文土器	深鉢	ⅡA、深鉢Ⅱa類	口縁-胴上平	-	0	-	-	(12.4)
846	109	82	西	7E1 GE15(S309) 7D21	Ⅱ層 砂礫5層 砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ、深鉢Ⅱa類	口縁	-	0	26.5	-	(12.1)

第2-2表 ミニチュア土器観察表 (12・847～868)

掲載No.	DGRNo.	写No.	出土地点		層位	分類	器種	部位
			区	位置(グリッド)				
12	40	37	東	S107	埋土2層貝殻褐色土	ミニチュア	深鉢	胴下平-底
847	110	83	西	3C21 (NR04)	V層	ミニチュア	深鉢	略定形
848	110	83	西	3D11 (NR03 古)	砂礫4層	ミニチュア	台付深鉢	胴下平-底
849	110	83	西	4B14 (NR06)	10層 (V層下部)	ミニチュア	台付深鉢	胴下平-底
850	110	83	西	3C14 (NR04)	V層下部 (14層)	ミニチュア	浅鉢	胴-底
851	110	83	西	4C13 (NR05)	5層 (重層)	ミニチュア	壺	定形
852	110	83	西	3C24 (NR04)	砂礫4層	ミニチュア	鉢	口縁-底
853	110	83	西	3D24 (NR04)	砂礫4層	ミニチュア	浅鉢	口縁-底
854	110	83	西	4G11	砂礫3層	ミニチュア	鉢	胴下平-底
855	110	83	西	3A18	砂礫3層	ミニチュア	壺	略定形
856	110	83	西	2B14	Ⅱ層上部 (砂層・粘土層)	ミニチュア	深鉢	胴下平-底
857	110	83	西	2D14 (NR02)	砂礫3層	ミニチュア	深鉢小	底
858	110	83	西	3D6	Ⅱb層	ミニチュア	深鉢小	胴下平-底
859	110	83	西	3E21 ベルト	Ⅱb4層	ミニチュア	台付鉢	胴下平-底
860	110	83	西	4B4	Ⅱb層下部	ミニチュア	台付鉢	胴下平-底
861	110	83	西	2B15	Ⅱb2層	ミニチュア	浅鉢	口縁-底
862	110	83	西	3E2	Ⅱb4層	ミニチュア	浅鉢	口縁-底
863	110	83	西	3D23 (NR04)	Ⅱb層	ミニチュア	深鉢	口縁-底
864	110	83	西	3C24 (NR02)	メイン5層 (Ⅱb層)	ミニチュア	浅鉢小	胴下平-底
865	110	83	西	2B15	Ⅱb1-2間層	ミニチュア	壺	胴上平-底
866	110	83	西	3E3	Ⅱb4層	ミニチュア	壺	口縁-胴
867	110	83	西	2E10 (NR01)	砂礫2層	ミニチュア	壺小	胴
868	110	83	西	2C5(NR03)	砂礫3層	ミニチュア	鉢	口縁-胴

外面調整・英文など	内面調整・英文など	天スコヤ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録No
		内面	外面					
胴：縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	前期初期	769
口縁：波状縁、口縁：波状・縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	大木8a	770
口縁：波状縁、胴：縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	大木8a	766
胴：波状縁・器底：器底（L.R）	ナテ（横）		割スス少量		0	0	大木10前半	767
口縁：波状縁・器底：器底（L.R）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前期	773
口縁：縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前期	760
口縁：縄文（器底縁条第1部L）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前期	738
口縁：三日丹波段縁、口縁：縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前期	788
口縁～胴下半：縄文（器底L.R）	ナテ（横）				0	0	大木10小	775
口縁：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初期	779
口縁：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初期	776
胴：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初期	783
胴：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初期	784
胴：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量			前期初期	780 781 782
胴：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初期	777
胴：縄文（L.R）	ナテ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初期	778
口縁：波状縁を伴う小波状縁、丸縁・三文字・波縁	ナテ（横）				0	0	大洞 D2	785
胴：縄文（L.R）、底：ナテ	ナテ（横）				1	1	大洞 A1	751
口縁：折本目、胴上半：縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	大洞 C2	787
口縁：波状縁、口縁：波状、胴：縄文（L.R）	ナテ（横）				0	0	後期初期～前期	786

() : 残存数、< > : 測定値

調整	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	輪積数	口縁残存率 (%)	底部残存率 (%)	推定時期	備考	登録No
胴：波状縁	-	-	-	無	0	50	大木 9		849
口縁～底：ナテ	5.3	3.0	2.8	無	100	100	後期中葉		3048
胴～底：ナテ・指頭痕	-	-	(2.0)	無	0	0	後期中葉		3049
胴～底：ナテ・指頭痕	-	<3.4>	(3.2)	無	0	55	後期中葉		3053
胴：波状縁・弧線文・縄文（L.R）	-	2.6	(2.4)	無	0	100	後期中葉		3046
口縁～胴：波状縁・ナテ、底：上1/3底	2.2	2.6	2.6	無	100	100	後期中葉		3055
口縁～底：指頭痕	<4.2>	<2.5>	2.5	無	65	100	後期小		3047
口縁～底：ナテ・波状縁	2.7	1.9	1.7	無	55	100	後期小		3051
胴：波状縁・雲形文	-	-	-	無	0	60	大洞 C2		809
口縁：折本目、口縁：波状、胴：縄文（無縁L）	<3.1>	2.1	2.9	無	30	100	大洞 C2		3041
胴～底：ナテ	-	(2.0)	(1.8)	無	0	0	晩期後半		3035
底：ナテ	-	3.2	(1.2)	無	0	100	晩期後半		3039
胴～底：ナテ	-	3.3	(2.1)	無	0	100	晩期後半		3044
胴～底：ナテ	-	2.4	(3.5)	無	0	90	晩期後半		3045
胴～底：ナテ	-	2.4	(2.3)	無	0	95	晩期後半		3052
口縁～底：ナテ・指頭痕	<4.3>	1.4	2.3	無	40	100	晩期後半		3037
口縁：折り返し・ナテ、上面楕円形	-	-	1.7	無	30	80	晩期後半		3042
口縁～底：指頭痕	<3.2>	-	2.2	無	45	40	晩期後半		3050
胴～底：ナテ	-	1.0	(1.5)	無	0	100	晩期後半		3038
胴～底：ナテ・指頭痕	-	-	(4.3)	有	0	0	晩期後半	2個体	3036
口縁～胴：ナテ	-	-	(1.4)	無	10	0	晩期後半		3043
胴：ナテ	-	-	(2.0)	有	0	0	晩期後半小		3040
口縁：波状縁、胴：ナテ	-	-	-	無	15	0	晩期小		352

第3表 土器底部観察表 (869～1045)

図録 No.	図録No.	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	編組方法	備考	登録 No.
					内訳数	総数					
869	110	西	4B13	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期弥生	1019
870	110	西	4B14	5層(Ⅱ層)	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期弥生	1020
871	110	西	4B14	10層(Ⅴ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期弥生	1021
872	110	西	4C3(N807)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期弥生	1028
873	110	西	1E13	砂礫10r2層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期弥生	903
874	110	西	3D1(N803古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期弥生	1001
875	110	西	3C3	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期中葉小	1014
876	110	西	2B4	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期中葉小	913
877	110	西	2C15(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期中葉小	983
878	110	西	2C17<ス>	葦層下部	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期中葉小	987
879	110	西	2C16(N803古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期	984
880	110	西	2D6(N803古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期	998
881	110	西	2D15	葦層下位	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期	1004
882	110	西	2C19(N805)	Ⅳ層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	926
883	110	西	2C30(N803古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	928
884	110	西	2B9(N801)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	945
885	110	西	2E30(N801)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	946
886	110	西	2A19	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	960
887	110	西	2C11(N805)	Ⅳ層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	978
888	110	西	2C13(N804)	Ⅳ層砂質	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	980
889	110	西	2C13(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	981
890	110	西	2C13(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	982
891	110	西	2C16(N803古)	葦層下部	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	985
892	111	西	2C16	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	986
893	111	西	2C17<ス>	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	988
894	111	西	2C21(N803古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	989
895	111	西	2D10(N802C/D)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	991
896	111	西	2D10(N803古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	992
897	111	西	2D3(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	993
898	111	西	2D3(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	994
899	111	西	2D4(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	997
900	111	西	2D9(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1000
901	111	西	2D12	葦層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1002
902	111	西	2D13(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1003
903	111	西	2D21	Ⅱ層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1006
904	111	西	2D23(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1008
905	111	西	2E3(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1011
906	111	西	2E5(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1012
907	111	西	2E4(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1013
908	111	西	2E5区(N801)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1015
909	111	西	2G8(N801)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1016
910	111	西	2G9	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1017
911	111	西	2G10	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1018
912	111	西	4B23	10層(Ⅴ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1025
913	111	西	4D7	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1030
914	111	西	4D21<ス>(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1031
915	111	西	4E1(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1033
916	111	西	4E1(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1035
917	111	西	4E6(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1036
918	111	西	4E6(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1037
919	111	西	4E7(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1038
920	111	西	4E7(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1039
921	111	西	4E10(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1040
922	111	西	4E19	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1041
923	111	西	4E22(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1042
924	111	西	4E24(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1043
925	111	西	4E25(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1044
926	111	西	4F29(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1045
927	111	西	4F22(N804)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1049
928	111	西	4F24(N804古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二つ目組み	後期小	1051

発掘 No.	図説No.	区	出土地点	層位	組合鏡片数		種類	形状	編組方法	備考	登録 No.
					内訳数	総数					
829	111	西	4C7	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1053
830	111	西	5G10(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1054
901	111	西	5B11(NB06)	Ⅱ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1055
932	111	西	5B21	5層(Ⅱ層)	4	6	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1056
			5B16	5層(Ⅱ層)	2	6	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1056
933	111	西	5E11(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1059
904	111	西	5E11(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1060
935	111	西	5E14(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1061
936	111	西	5E21(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1062
937	111	西	5E24(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1063
938	111	西	5F20(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1064
939	111	西	5F23(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1065
940	111	西	5F19(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1066
941	111	西	5F18(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1067
942	111	西	5F19(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1068
943	111	西	5F19(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1069
944	111	西	5F22(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1072
945	111	西	5F24(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1073
946	111	西	5G2	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1074
947	111	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1075
948	111	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1077
949	112	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1078
960	112	西	5G3(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1079
961	112	西	5G6(NB04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1081
962	112	西	5B16ベレット	Ⅱ 34層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1083
963	112	西	5G2トレンチ	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期少	1084
964	112	西	1A10	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	898
965	112	西	1C10	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	899
966	112	西	1D9	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	901
967	112	西	1D20	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	902
968	112	西	2A6	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	904
969	112	西	2A8	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	905
960	112	西	2A18	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	906
961	112	西	2A20	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	907
962	112	西	2D1	Ⅱ 3層上段	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	909
963	112	西	2A24	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	910
964	112	西	2B3	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	911
965	112	西	2B4	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	912
966	112	西	2019	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	916
967	112	西	2B22	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	917
968	112	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	919
969	112	西	2C2	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	920
970	112	西	2C5	Ⅱ a層 砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	921
971	112	西	2C7	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	922
972	112	西	2C7	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	923
973	112	西	2C19・24ベレット	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	927
974	112	西	2C25(NB03古)	NB02の砂礫層(7層にⅡb層)	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	929
975	112	西	2D5	砂礫1～3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	931
976	112	西	2D4(NB03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	932
977	112	西	2D10	Ⅱ 3層最下層 暗褐色土	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	934
978	112	西	2D10(NB02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	937
979	112	西	2D14(NB02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	938
980	112	西	2D14(NB02)	メイン18層(砂礫3層)	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	939
981	112	西	2D21(NB01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	940
982	112	西	2E13(NB01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	941
983	112	西	2E22	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	947
984	112	西	2F12	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	948
985	112	西	2F13	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	949
986	112	西	2F24	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	950
987	112	西	2G10	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	952

図録 No.	図例No.	区	出土地点	層位	組合破片数		種類	原種	編組方法	備考	登録 No.	
					内訳数	総数						
988	112	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	964	
989	112	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	965	
990	112	西	3B16N803	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	967	
991	112	西	3B21(ペレット)N803(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	974	
992	112	西	3A12	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	953	
993	112	西	3A14	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	954	
994	112	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	957	
995	112	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	963	
996	112	西	3B8	II 52層下位	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	970	
997	112	西	3B18N804	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	973	
998	112	西	3C0N804	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み	地層か	965	
999	112	西	4B24N803	10層(古層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	ごじ目組み+並	後期初頭	1027	
1000	113	西	3B24	葦層上平	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せのごじ目組み	後期か	975	
1001	113	西	2A21	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期初頭か	908	
1002	113	西	2B15	II 5層	5	5	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期初頭か	915	
1003	113	西	2B14	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期中葉か	914	
1004	113	西	2C9	葦層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	924	
1005	113	西	2C10	葦層上平	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	925	
1006	113	西	2D100N803	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	936	
1007	113	西	3A16	II 5層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	955	
1008	113	西	3C6N803	II 5層	5	5	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	977	
1009	113	西	3C13	II 5層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	979	
1010	113	西	3C9	葦層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	999	
1011	113	西	3D166N803(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1005	
1012	113	西	3D2N804	II 5層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1007	
1013	113	西	3D23N804	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1009	
1014	113	西	4E16N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1034	
1015	112	西	4F23N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1046	
1016	113	西	4F21	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1047	
1017	113	西	4F23N804	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1048	
1018	113	西	4F246N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1050	
1019	113	西	5B22 5C区WE(ペレット)	葦層	4	4	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1052	
1020	112	西	5F18N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1070	
1021	113	西	5F23N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1071	
1022	113	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1076	
1023	113	西	5G4N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	1080	
1024	113	西	1C25	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	900	
1025	113	西	2B25N803	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	918	
1026	113	西	3C26N803(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	930	
1027	113	西	2B8N801	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	943	
1028	113	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	966	
1029	113	西	3A21(ペレット)	II 5層	5	5	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	961	
1030	113	西	3A21(ペレット)	II 5層	4	4	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	地層か	962	
1031	113	西	3B12	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	+本葉	後期初頭か	972
			2B12	II 52層	1	2	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	+本葉	後期初頭か	972
1032	113	西	3B26N803	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)+本葉	後期初頭か	976	
1033	113	西	3D4N804	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの飛びごじ目組み(1本とび2本すくい)	後期か	996	
1034	113	西	3E3N803	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	2本及び新代組み	後期か	968	
1035	113	西	3A18	II 51層	3	3	縄文土器	深鉢	2本及び新代組み	後期か	958	
1036	113	西	3A18	II 5層上平	1	1	縄文土器	深鉢	2本及び新代組み	地層か	959	
1037	113	西	4B21(ペレット)N804(古)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本及び新代組み	後期初頭	1022	
1038	113	西	3C23N804	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本及び新代組み	後期か	990	
1039	113	西	4E16N804(古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本及び新代組み	後期か	1022	
1040	113	西	3A16	II 5層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本及び新代組み	後期か	956	
1041	113	西	3B6	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本及び新代組み	地層か	969	
1042	113	西	6D区	葦層	1	1	縄文土器	深鉢	葦の葉留し組み	中層後半か	1083	
1043	113	西	4C6N805	6層(古層上段)	4	4	縄文土器	深鉢	葦の葉留し組み	後期初頭	1029	
1044	113	西	4E22	葦層	1	1	縄文土器	深鉢	葦の葉留し組み	後期か	1023	
1045	113	西	5C166N807	古層上部	1	1	縄文土器	深鉢	葦の葉留し組み	後期か	1058	

第4表 土偶観察表 (1046~1071)

観測No.	同観測No. 写しNo.	出土地点		部位	分類	部位	アスファルト付着	赤彩	製作	文様	経綫	観測時期	備考	登録No.
		区	位置(タテマ)											
1046	114	83	西 3D13 (N804)	台座4層	第1群	胴			中央	横線状文		後期中葉		3020
1047	114	83	西 5C3	台座4層	第1群	胴	胴部付着物		中央		横線状文	後期中葉		3025
1048	114	83	西 3A23	37層(台座3層上部)	第1群	胴上半			中央		横線状文	後期中葉		3007
1049	114	83	西 2H25	皿	第1群	左肩			中央			後期中葉		3004
1050	114	83	西 3D4 (3D4)	台座4層	第1群	胴・右腕・左腕			中央		横線状文なし	後期中葉		3018
1051	114	83	西 3A14	台座3層上部	第1群	胴・右腕・両腕			中央		横線状文なし	後期中葉		3005
1052	114	83	西 8C25	皿皿盤上位	第2群	左腕			中央	網袋		後期中葉		3022
1053	114	83	西 3D4 (3D4)	台座4層	第2群	胴			中央	網袋・結茎		後期中葉		3017
1054	114	83	西 8C20 (N805)	6層 (IV層上部)	第2群	左腕			中央	網袋		後期中葉		3021
1055	114	83	西 4D23 (N804)	台座4層	第2群	胴下半			中央	網袋		後期中葉		3023
1056	114	83	西 3C12 (N804)	皿	第2群	胴下半			中央	波瀾・横線文・横文L状		後期中葉		3015
1057	114	83	西 2A15	皿皿盤下部	第2群	右腕			中央			後期中葉		3002
1058	114	83	西 2D30	皿	第3群	胴・胴上半・左腕			中央	波瀾・人顔文	X字形	後期中葉		3003
1059	114	83	西 3B16 (6.6ト)	皿皿盤	第3群	胴			中央	帯文字状波瀾	X字形	後期中葉		3014
1060	115	83	西 3A24	台座4層	第3群	胴・右腕			中央	網袋・波瀾・人顔文		後期中葉		3006
1061	115	83	西 3C3	皿皿盤	第3群	左腕			中央	波瀾		後期中葉		3011
1062	115	84	西 3C24 (N804)	台座4層上部	第3群	右腕			中央		大綱C2	後期中葉		3016
1063	115	84	西 1C15	台座4層	第3群	胴上半・左腕			中央	波瀾・貫通孔2箇所	大綱C2	後期中葉		3001
1064	115	84	西 3D18 (N804占)	台座4層	第3群	左腕			中央	波瀾・人顔文	大綱C2	後期中葉		3024
1065	115	84	西 3B7	皿皿盤	第3群	右腕			中央	波瀾・横文L状	大綱C2	後期中葉		3013
1066	115	84	西 3E2	皿	第3群	盤			中央	波瀾		後期中葉		3010
1067	115	84	西 3D11 (N803占)	台座4層	第3群	盤			中央	波瀾	波毛彫	後期中葉		3019
1068	115	84	西 3D6 (6.6ト)	皿皿盤 (片)	第3群	胴・胴上半・両腕			中央	網袋・波瀾・正心線	大綱C2-A1	後期中葉		3012
1069	115	84	西 3D1	皿皿盤	第3群	胴上半・右腕			中央	波瀾・横文L状	大綱C2-A1	後期中葉		3009
1070	116	84	西 3D22 (N801)	台座2層上部	第5群	左腕			中央	網袋	縦折線小	後期中葉小		3005
1071	116	84	西 3C11 (N801)	台座4層	第5群	胴			中央	波瀾・横文L状	同4群	不明		3005

第5表 土製垂飾観察表 (1072)

観測No.	写しNo.	出土地点		部位	重量(g)	残存状態	特徴	観測時期	備考	登録No.
		区	位置(タテマ)							
1072	116	84	西 3D24	台座3層の上層部	17g	完全状態	中央貫通孔・穿孔2箇所	大綱C2		3020

第 6 表 土製耳飾觀察表 (1073 ~ 1075)

種別№	HID№	写ID№	出土地点		部位	外径 (cm)	孔径 (cm)	<穴部径 (cm)>	厚さ (mm)	重量 (g)	保存状態	特徴	測定時期	登録№
			区	位置 (アリ・ナシ)										
1073	116	84	西	N105 (5C1)	右側上部	4.47	1.55	5.26	2.67	122.3	焼失・中央貫通孔	焼失	3026	
1074	116	84	西	2A3A	右側2部	2.72	1.55	2.29	1.5	5.8	焼失部	焼失	3027	
1075	116	84	西	3013	E a 部	2.13	-	1.25	1.5	4.3	遺部欠損	焼失	3028	

() : 保存部

第 7 表 土版觀察表 (1076・1077)

種別№	HID№	写ID№	出土地点		部位	計測値 (cm)	重量 (g)	保存状態	特徴	測定時期	登録№
			区	位置 (アリ・ナシ)							
1076	116	84	西	2B5	B b 部	$(3.05) \times (2.74) \times (0.29)$	3.4	破片	北線	九州 C2	3030
1077	116	84	西	2B10	B b 部	$(3.01) \times (3.13) \times (0.51)$	4.0	破片	北線	九州 C2	3031

() : 保存部

第 8 表 球状土製品觀察表 (1078)

種別№	HID№	写ID№	出土地点		部位	計測値 (cm)	重量 (g)	保存状態	特徴	測定時期	登録№
			区	位置 (アリ・ナシ)							
1078	116	84	西	4C6 (N104)	B 部	$2.69 \times 2.64 \times 3.56$	47.2	完整	成車底	民間所蔵	3033

第 9 表 土鏝觀察表 (1079)

種別№	HID№	写ID№	出土地点		部位	計測値 (cm)	重量 (g)	保存状態	特徴	測定時期	登録№
			区	位置 (アリ・ナシ)							
1079	116	84	西	3C11 (N100)	右側下部	$3.67 \times 2.71 \times 2.05$	18.5	完整	北線・貫通孔	有田土鏝	3032

第 10 表 土器片利用円盤状土製品観察表 (1080 ~ 1128)

標識	H500	H500	出土地点		層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	土器文様	群類	土器時期	備考
			区	位置 (アフリカ)										
1080	117	84	西 308 (N305)	砂礫 4 層	5.9	5.7	1.2	29.9	多角形	縄文 (L.R.L.)	全国中心群属	中期土器一伝説初期	3062	
1081	117	84	西 403	II 土層	6.8	7.0	1.0	62.6	多角形	沈積・縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3063	
1082	117	84	西 4010 (N300)	砂礫 6 層	4.5	5.0	1.2	26.1	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3064	
1083	117	84	西 4024 (L5)	II 層	4.4	3.4	0.9	20.4	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3065	
1084	117	84	西 403 (N300)	6 層 (IV層上部)	3.9	4.6	0.8	13.5	楕円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3066	
1085	117	84	西 409 (N305)	6 層 (IV層上部)	2.8	3.0	0.9	7.7	円形	沈積・縄文 (L.R.L.)	全国中心群属	中期土器一伝説初期	3067	
1086	117	84	西 409 (N305)	7 層 (IV層四層)	4.3	4.6	0.9	22.2	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3068	
1087	117	84	西 4015	6 層 (IV層上部)	3.3	3.5	0.8	10.1	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3069	
1088	117	85	西 4024 (N304 古)	砂礫 4 層	4.4	4.6	1.0	23.8	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3070	
1089	117	85	西 3011	6 層 (IV層)	4.7	4.8	0.9	22.3	円形	縄文 (L.R.L.)	全国中心群属	中期土器一伝説初期	3071	
1090	117	85	西 4019 (N305)	6 層 (IV層上部)	4.1	4.2	0.7	15.3	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3102	
1091	117	85	西 3015	II 層	4.5	4.9	0.8	20.4	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3072	
1092	117	85	西 3015 (N307)	砂礫 5 層	3.7	4.0	1.1	20.2	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3073	
1093	117	85	西 3013 (N304 古 L 層 2 層)	砂礫 4 層	3.7	3.4	0.6	10.4	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3074	
1094	117	85	西 6013	II 層	2.4	2.4	0.7	4.7	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3101	
1095	117	85	西 6019	IV層下部	3.4	3.3	0.8	9.4	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	中期土器一伝説初期	3102	
1096	117	85	西 6025	砂礫 6 層	4.3	4.4	1.4	27.2	円形	嵌痕	打瓦次	中期土器一伝説初期	底底	
1097	117	85	西 6096 (N305 ~ 60)	砂礫 4 層	4.9	4.7	1.4	26.2	多角形	嵌痕	打瓦次	中期土器一伝説初期	底底	
1098	117	85	西 3023 (N305)	5 層 (IV層)	5.2	5.2	0.7	25.7	多角形	縄文 (明確な体系を呈示する)	全国中心群属	伝説初期	3076	
1099	117	85	西 3023	II 層	4.4	4.7	0.6	16.0	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説初期小	3081	
1100	117	85	西 3015	II 層 (砂層)	4.3	4.4	0.8	16.6	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	口縁残存	
1101	117	85	西 4028 (N307)	II層上部	4.0	3.9	0.8	14.7	楕円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3090	
1102	117	85	西 4028	II層	3.8	4.0	0.7	12.9	円形	縄文 (L.R.L.)	全国中心群属	伝説期小	3091	
1103	117	85	西 4008	II層 (砂層)	5.2	4.8	0.6	20.2	円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3092	
1104	117	85	西 4011	II層 (砂層)	5.1	5.4	1.3	90.1	多角形	嵌痕	打瓦次	伝説期小	底底	
1105	117	85	西 -	II ~ IV層	4.1	4.4	0.8	18.5	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3104	
1106	117	85	西 3023 (L5) (N303 古 or 04)	砂礫 4 層	4.2	3.9	0.8	18.9	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3097	
1107	117	85	西 3022 (L5) (N304)	砂礫 4 層	4.7	4.6	0.7	19.9	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3099	
1108	117	85	西 3023 (L5) (N304)	砂礫 4 層	3.6	3.3	0.7	10.2	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3070	
1109	118	85	西 3019 (N304)	砂礫 4 層	3.9	3.4	0.7	10.6	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3071	
1110	118	85	西 3011 (N303)	II層	3.8	62.0	0.6	65.9	多角形	嵌痕	打瓦次	伝説期小	3072	
1111	118	85	西 3011 (N303)	砂礫 4 層	4.1	3.2	0.8	12.4	楕円形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3073	
1112	118	85	西 3022 (N304)	砂礫 4 層	2.9	2.8	0.6	5.6	多角形	沈積・縄文 (L.R.L.)	打瓦次	伝説期小	3075	
1113	118	85	西 3021 (L5) (N303 古 or 04)	砂礫 4 層	5.5	5.1	1.0	30.7	多角形	伝説期群属	打瓦次	伝説期小	3068	
1114	118	85	西 3016 (N303)	II層	3.8	3.2	0.8	11.2	多角形	底面時代遺 (L5層 L2層)	打瓦次	伝説期小	3074	
1115	118	85	西 2018	砂礫 2 層	4.5	4.5	0.5	15.8	多角形	縄文 (L.R.L.)	打瓦次、一伝説期	伝説期小	3077	

採集No.	区画No.	区画名	出土地点		層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	土質文相	模様	土器時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)											
1116	118	85	西	3027	II 6層 2層	4.4	4.2	0.5	13.4	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴、一部磨痕	焼酎瓶	3056	
1117	118	85	西	3034	II 5層	4.3	4.2	0.7	14.9	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎瓶	3058	
1118	118	85	西	3034 (N303 片)	II 6層 3層	5.1	5.1	0.6	23.8	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎瓶	3059	
1119	118	85	西	3023	II 6層 3層	5.7	5.5	0.6	25.6	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎瓶	3061	
1120	118	85	西	3012	II 5層	4.3	4.2	0.7	14.0	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴、一部磨痕	焼酎瓶	3063	
1121	118	85	西	3012	II 6層	3.8	3.1	0.6	8.9	楕円形	縄文 (L.R.L)	打ち穴、磨痕	焼酎瓶	3064	
1122	118	85	西	3016 (5.6ト)	II 5層	4.8	4.0	0.9	20.9	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎瓶	3065	
1123	118	85	西	3021 (5.6ト)	II 5層	4.8	3.6	0.7	15.1	楕円形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎瓶	3066	
1124	118	85	西	2519 (N301)	II 6層 2層	5.3	5.25	0.8	14.1	多角形	縄文 (L.R.L)	空筒字の磨痕	焼酎小	3069	
1125	118	85	西	3023 (N304)	II 6層 4層	3.9	3.7	0.6	10.1	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎小	307	
1126	118	85	西	3017 (N304)	II 6層 4層	3.0	3.0	0.7	6.8	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎小	3079	
1127	118	85	西	3023	II 5層 磨痕位置	5.0	3.7	0.6	17.7	多角形	縄文 (L.R.L)	打ち穴	焼酎小	3080	
1128	118	85	西	4C11・16 (N302)	埋土	3.2	3.4	0.8	25.4	多角形	灰ヤス	打ち穴	焼酎小	3088	

第 11 表 焼成粘土塊観察表 (1129 ~ 1137)

採集No.	区画No.	区画名	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	焼成時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)						
1129	85	西	4C10 (5.6ト)	(R22)	IV 埋土層	23 × 21 × 13	4.6	中間水層～最厚砂層	3121	
1130	85	西	3C17 (N307)		IV 埋土層	25 × 21 × 20	6.7	中間水層～最厚砂層	3122	
1131	85	西	3C10		IV 層	4.5 × 3.6 × 2.0	2.7	埋砂層～中層	3115	
1132	85	西	2A25		II 5A2四層	31 × 29 × 11	5.4	焼酎中層	3069	
1133	85	西	3A23 (5.6ト)		II 5A層	26 × 22 × 17	6.4	焼酎中層	3110	
1134	85	西	3023・3		II 5A層	24 × 1.5 × 0.9	2.5	焼酎中層	3111	
1135	85	西	303		II 5A層	25 × 1.9 × 2.0	7.0	焼酎中層	3112	
1136	85	西	3021 (5.6ト)		II 5A層	21 × 1.5 × 0.6	1.7	焼酎中層	3113	
1137	85	西	3C7		II 5層土層	53 × 52 × 19	28.3	焼酎中層	3114	

第 12 表 不明土製品観察表 (1138 ~ 1140)

採集No.	区画No.	区画名	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	登記時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)								
1138	118	85	西	4C5 (N305)	6層 3層上層	3.02 × 0.91 × 0.97	3.3	焼成	中間水層～最厚砂層	3108		
1139	118	85	西	3016 (5.6ト)	II 5A層	6.58 × 1.22 × 1.34	8.2	磨痕	焼酎中層	3106		
1140	118	85	西	3021 (5.6ト)	II 5A層	6.13 × 1.35 × 1.07	8.5	磨痕	焼酎中層	3107		

() : 残存値

第13表 尖頭器観察表 (1141)

探検区	区	探検区	探検区	出土地点		石材	計測値		先頭部		備考	総目録
				区	位置(グリッド)		長さ(cm)	幅(cm)	長さ(cm)	幅(cm)		
1141	119	86	西	119	119	14.36	0.92	2.96	先	400	先端部小	2054

第14表 石鏃観察表 (13・1142～1153)

探検区	区	探検区	探検区	出土地点		鑿込	分類	石材	計測値			先頭部		欠損	推定時期	備考	総目録		
				区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)					形状	角度(°)
113	40	37	東	37G19	II A 型	2層刃白色上	II A 型	頁岩	0.63	2.19	0.44	0.60	2.6	先	先端部欠	中期後半	無五回録、新年代番号三配	2006	
1142	119	86	西	4014	II b 層下部	II b 層下部	I 型	頁岩	4.06	1.18	0.53	2.8	先	560	空形	先端部平	有五、黒色粘着物付着、新年代番号三配	2001	
1143	119	86	西	20	II a 層上部	砂礫層上部砂礫層	I 型	頁岩	0.25	1.46	0.32	0.9	-	-	先端部欠	先端部平	有五、古・中年代	2002	
1144	119	86	西	302	II b 層	II b 層	I 型	頁岩	0.21	1.27	0.44	1.0	先	51.5	先端部欠	大洞C2	有五、古年代	2003	
1145	119	86	西	5018	II A 層	II A 層	II A 型	頁岩	2.08	1.73	0.30	0.35	0.7	先	400	空形	中期前半～先端部録	無五回録、新年代番号三配	2005
1146	119	86	西	5A13	砂礫層上部砂礫層	砂礫層上部砂礫層	II A 型	頁岩	2.14	1.82	0.41	0.13	1.4	先	700	空形	先端部平	無五回録、古・中年代	2004
1147	119	86	西	3010	II b 層	II b 層	II A 型	頁岩	2.14	1.60	0.28	0.60	0.4	先	790	空形	先端部平	無五回録、古・中年代	2004
1148	119	86	西	828	II A 層	II A 層	II A 型	頁岩	1.80	1.53	0.27	0.57	0.4	先	790	空形	先端部平	無五回録	2007
1149	119	86	西	323	砂礫層上部	砂礫層上部	II A 型	頁岩	3.55	1.43	0.40	0.39	1.6	先	310	空形	先端部平	無五回録、古年代	2001
1150	119	86	西	4716 (N3001)	II 層上部	II 層上部	II A 型	頁岩	0.52	1.22	0.38	0.23	2.4	-	-	先端部欠	先端部平	無五回録、古年代	2002
1151	119	86	西	3207 (N3001)	砂礫層上部	砂礫層上部	II 層上部	頁岩	3.64	1.46	0.35	2.7	先	40.5	空形	先端部録～先端部	無五回録、古年代	2000	
1152	119	86	西	3210 (N3001)	砂礫層上部	砂礫層上部	II 層上部	頁岩	3.57	1.41	0.50	2.7	先	54.0	空形	先端部録～先端部	無五回録、古年代	2000	
1153	119	86	西	2010 (N3002)	砂礫層上部	砂礫層上部	II 層上部	頁岩	3.00	1.47	0.30	2.7	先	44.0	空形	先端部録～先端部	無五回録、古年代	2000	

第15表 石鏃観察表 (1154～1159)

探検区	区	探検区	探検区	出土地点		鑿込	分類	石材	計測値			先頭部		欠損	推定時期	備考	総目録		
				区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)					形状	角度(°)
1154	119	86	西	3016	II b 層上部	II b 層上部	I 型	頁岩	4.83	1.77	0.43	2.1	先	38.0	空形	先端部平	古年代	2009	
1155	119	86	西	1113	砂礫層上部	砂礫層上部	II 型	頁岩	4.36	0.91	0.50	2.0	先	26.0	空形	先端部小	古年代	2071	
1156	119	86	西	3016 (N3002)	II b 層下部	II b 層下部	II 型	頁岩	4.17	0.93	0.68	2.6	先	46.5	空形	先端部録～先端部	古年代	2073	
1157	119	86	西	2025	II 層上部	II 層上部	II 型	頁岩	3.31	1.07	0.59	1.8	先	30.5	空形	先端部平	新年代番号三配	2009	
1158	119	86	西	2223 (N3001)	砂礫層上部	砂礫層上部	II 型	赤色頁岩	4.51	1.51	1.44	7.6	先	36.0	空形	先端部平	古年代	2074	
1159	119	86	西	4016	II b 層上部	II b 層上部	II 型	頁岩	0.50	2.35	0.69	5.1	-	-	先端部	有	先端部平	古・中年代	2013

第16表 石匙観察表 (1160～1168)

観測No.	区別No.	区	出土地点	層位	分層	石材		計測値		刃部		刃角(°)	刃長(cm)	刃幅(cm)	重量(g)	形状	用途	発見時期	登録No.
						長さ(cm)	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)								
1160	119	86	西 3225	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	5.02	1.90	0.69	7.6	片	49～52	大野C2					2076	
1161	119	86	西 3225	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.10	1.71	0.71	7.6	片	62～67	大野C2					2077	
1162	120	86	西 3227 (NS003-04)	Ⅱ層 埋土下層上部	1層	頁岩	6.75	2.25	0.49	8.4	片	48～51	後期弥生-中葉					2078	
1163	120	86	西 3227 (NS004)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	5.86	2.75	0.54	8.4	片	39～42	後期弥生-中葉					2079	
1164	120	86	西 4212	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.27	2.65	0.61	9.2	片	54～67	中期弥生-後期弥生					2853	
1165	120	86	西 422-F (SK03)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	3.44	0.28	0.76	8.9	片	49～55	後期弥生-中葉					3015	
1166	120	86	西 3227 (NS004)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.09	5.88	0.81	9.8	片	56～68	後期弥生-中葉					2865	
1167	120	86	西 2925 (NS01)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	5.47	2.30	0.63	8.9	片	49～53	後期弥生					2868	
1168	120	86	西 4823 (NS007)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	5.56	2.56	0.82	10.9	片	53～58	中期弥生-後期弥生					2869	

第17表 筒状石器観察表 (1169～1170)

観測No.	区別No.	区	出土地点	層位	石材		計測値		刃部		刃角(°)	用途	登録No.
					長さ(cm)	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)			
1169	120	87	西 4E24 (NS004)	Ⅱ層 埋土	頁岩	5.77	3.68	1.30	2.96	1.90	50～55	後期弥生-中葉	2065
1170	120	87	西 5C区	Ⅱ層 埋土	頁岩	8.25	4.08	2.21	77.6	1.90	69～71	縄文時代	2090

第18表 スクレイバー類観察表 (14・1171～1177)

観測No.	区別No.	区	出土地点	層位	分層	石材		計測値		刃部		刃角(°)	用途	登録No.			
						長さ(cm)	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)						
14	40	37	東 S027 TW	Ⅱ層 埋土	頁岩	3.26	0.54	1.40	17.2	1.90	51～53	無	無	中期弥生	2018		
1171	121	87	西 3A21 (S.6.6)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.84	4.23	1.34	44.8	1.90	63～70	有	195	有	後期弥生	2103
1172	121	87	西 3C16 (3C16)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.88	2.85	0.53	11.1	1.90	51～59	無	有	後期弥生-中葉	2107	
1173	121	87	西 3B2 トレンチ	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	0.99	2.60	1.06	18.1	1.90	65～70	無	有	後期弥生	2110	
1174	121	87	西 4F19 (NS04)	Ⅱ層 埋土下層	1層	赤色頁岩	2.50	3.41	0.76	19.4	1.90	42～47	無	無	後期弥生-中葉	2113	
1175	121	87	西 4G7	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.84	3.30	0.70	10.6	1.90	40～41	有	117	有	後期弥生-中葉	2115
1176	121	87	西 4C10 (NS06)	Ⅱ層 埋土下層上部	1層	頁岩	3.59	6.38	1.53	26.6	1.90	63～65	無	無	中期弥生-後期弥生	2123	
1177	121	87	西 12A4	Ⅱ層 埋土下層上部砂層	1層	頁岩	7.20	8.75	2.12	111.4	1.90	49～52	有	109	有	後期弥生	2128

第19表 二次加工ある剥片観察表 (1178～1180)

観測No.	区別No.	区	出土地点	層位	分層	計測値		刃部		刃角(°)	用途	登録No.					
						長さ(cm)	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)								
1178	122	87	西 3A21 (S.6.6)	Ⅱ 62層	1層	頁岩	6.70	5.88	2.25	74.9	片	68～76	有	190	有	大野C2	2128
1179	122	87	西 2919	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	6.67	5.50	1.18	32.6	片	55～57	有	1330	無	後期弥生-中葉	2127
1180	122	88	西 3B24 (NS05)	Ⅱ層 埋土下層	1層	頁岩	2.57	5.09	0.70	9.6	片	54～60	無	無	中期弥生-後期弥生	2141	

第 20 表 微細測線度ある剥片観察表 (1181・1182)

標本No.	[0000]	[0000]	出土地点		層位	分類	計測値				調整値		自然面	磨光時間	備考	図封No.
			区	位置(グリッド)			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	有無	角度(°)				
1181	122	88	西	A4E1<5.6> (N204.石)	1層	1層	3.96	3.04	0.70	6.1	有	118.5	無	後部研削—中磨		219
1182	122	88	西	S2D7 (N204)	1層	1層	3.84	3.43	0.88	8.9	有	73	無	後部研削—中磨		217

第 21 表 棒形石器観察表 (1183・1184)

標本No.	[0000]	[0000]	出土地点		層位	石材	計測値				調整値		自然面	磨光時間	備考	図封No.	
			区	位置(グリッド)			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	角度(°)					自然面
1183	122	88	西	S2E1<5.6>ト	1層	1層	6.08	5.28	1.97	83.1	側	81—83	有	6割CS	2層—3割の刃先、片年代		219
1184	122	88	西	S2E1 (N201)	1層	1層	2.64	3.23	0.49	5.6	片	53—56	無	後部研削	2層—3割の刃先、片年代		210

第22表 接合資料観察表 (1185～1231・1232)

掲載組合	掲載No.	図面No.	写No.	出土地点		層位	部種	石材	石材産地	計測値				推定時期	備考
				区	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
組合資料1	1185	123	88	西	2A20ベルト	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	12.39	6.50	3.22	2286	大洲C2	古生代
	1186	123	88	西	3A22	II b 層	調片	頁岩	北上山地	14.22	8.65	3.85	4936	大洲C2	古生代
	1187	123	88	西	3A22	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.02	6.12	2.75	656	大洲C2	古生代
	1188	123	88	西	2A30ベルト	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	2.49	5.08	1.08	140	大洲C2	古生代
	1189	123	88	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	6.72	4.66	2.28	564	大洲C2	古生代
	1190	123	88	西	2A20ベルト	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	6.05	8.60	1.65	714	大洲C2	古生代
	1191	123	88	西	3A22ベルト	II b1 層	調片	頁岩	北上山地	3.25	5.20	1.09	179	大洲C2	古生代
	1192	123	88	西	3A16	II b 層	調片	頁岩	北上山地	5.20	1.70	0.82	67	大洲C2	古生代
	1193	123	88	西	3A13ベルト	II b1 層	調片	頁岩	北上山地	5.28	2.60	0.87	102	大洲C2	古生代
	1194	123	88	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.59	2.62	1.62	193	大洲C2	古生代
	1195	124	88	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	3.10	2.75	1.52	165	大洲C2	古生代
	1196	124	88	西	3A13ベルト	II b1 層	調片	頁岩	北上山地	2.88	4.17	0.98	128	大洲C2	古生代
	1197	124	88	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.05	4.54	1.61	233	大洲C2	古生代
	1198	124	88	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	2.19	3.26	1.36	79	大洲C2	古生代
1199	124	88	西	3A16	II b 層	調片	頁岩	北上山地	13.27	12.24	6.98	11046	大洲C2	古生代	
組合資料2	1200	124	88	西	2A20	砂礫3層	調片	頁岩	北上山地	4.67	2.79	2.28	235	晩期後半	古生代
	1201	124	88	西	西区北端トレンチ	砂礫3層	調片	頁岩	北上山地	5.78	5.41	1.32	373	晩期後半	古生代
	1202	124	88	西	西区北端トレンチ	砂礫3層	調片	頁岩	北上山地	5.56	6.73	1.76	543	晩期後半	古生代
	1203	124	88	西	3A16	II b 層	調片	頁岩	北上山地	8.48	7.90	3.18	2069	大洲C2	古生代
組合資料3	1204	125	89	西	3A25	II b 層下部	調片	頁岩	北上山地	6.63	7.10	2.04	731	大洲C2	古生代
	1205	125	89	西	3A16	II b 層	調片	頁岩	北上山地	11.65	24.56	7.10	30324	大洲C2	古生代
	1206	126	89	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	2.35	2.72	0.95	67	大洲C2	古生代
	1207	126	89	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	1.91	1.23	0.19	05	大洲C2	古生代
	1208	126	89	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.62	5.10	0.56	111	大洲C2	古生代
	1209	126	89	西	3A22ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	2.51	3.29	0.78	55	大洲C2	古生代
	1210	126	89	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	9.53	10.85	6.00	6366	大洲C2	古生代
組合資料4	1211	126	89	西	3B2	II b2 層	石核	頁岩	北上山地	12.82	12.60	8.07	13747	大洲C2	古生代
	1212	128	90	西	3B7	II b3 層	調片	頁岩	北上山地	11.56	12.72	4.81	5024	大洲C2	古生代
	1213	128	90	西	3B7	II b3 層	調片	頁岩	北上山地	6.95	5.47	1.42	347	大洲C2	古生代
	1214	128	90	西	3B7	II b3 層	調片	頁岩	北上山地	8.10	6.85	2.32	1205	大洲C2	古生代
	1215	128	90	西	3B7	II b3 層	調片	頁岩	北上山地	7.85	10.21	2.11	1748	大洲C2	古生代
	1216	128	90	西	3B7	II b3 層	調片	頁岩	北上山地	7.92	6.66	1.75	743	大洲C2	古生代
	1217	128	90	西	3B7	II b3 層	調片	頁岩	北上山地	5.57	9.95	2.13	973	大洲C2	古生代
組合資料5	1218	129	90	西	3C16 (NR03)	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	4.70	5.74	1.41	264	大洲C2	古生代
	1219	129	90	西	3C16 (NR03)	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	2.16	2.78	0.49	32	大洲C2	古生代
	1220	129	90	西	4B15	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.39	5.04	1.72	288	晩期後半	古生代
組合資料6	1221	129	90	西	4B15	II b 層	調片	頁岩	北上山地	3.12	3.41	0.87	94	晩期後半	古生代
	1222	129	90	西	4B8	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	4.23	4.85	1.22	194	晩期後半	古生代
	1223	-	90	西	3A21ベルト	II b1 層	調片	頁岩	北上山地	-	-	-	-	大洲C2	
	1224	-	90	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	0.99	4.06	0.89	62	大洲C2	古生代
	1225	-	90	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	9.99	5.34	3.36	3084	大洲C2	古生代
組合資料7	1226	-	90	西	2A30ベルト	II b 層上部	調片	頁岩	北上山地	3.47	4.41	1.62	213	大洲C2	古生代
	1227	-	90	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.20	2.76	1.06	112	大洲C2	古生代
	1228	-	91	西	3A22	II b 層	調片	頁岩	北上山地	-	-	-	-	大洲C2	
	1229	-	91	西	3A22	II b 層	調片	頁岩	北上山地	5.99	11.61	2.62	1373	大洲C2	古生代
	1230	-	91	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	2.47	5.10	1.31	177	大洲C2	古生代
組合資料8	1231	-	91	西	2A30	砂礫3層	調片	頁岩	北上山地	3.14	3.58	2.86	357	大洲C2	古生代
	1232	-	91	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	5.96	4.86	3.54	1643	大洲C2	古生代
	1233	-	91	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	-	-	-	-	大洲C2	
	1234	-	91	西	3A13ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	1.60	4.49	1.55	303	大洲C2	古生代
組合資料9	1235	-	91	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	3.41	6.94	1.29	277	大洲C2	古生代
	1236	-	91	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	4.42	1.44	0.87	55	大洲C2	古生代
	1237	-	91	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	-	-	-	-	大洲C2	
組合資料10	1238	-	91	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	3.49	7.45	1.43	414	大洲C2	古生代
	1239	-	91	西	3A21ベルト	II b 層	調片	頁岩	北上山地	7.64	9.73	2.93	2197	大洲C2	古生代

第23表 石核観察表 (1232 ~ 1237)

採集地	図面No.	写尺No.	出土地点		層位	分類	石材	計測値			測定時期	備考	登録No.		
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)					
1232	136	49	西	3C2	Ⅱ 32層	I	B3	12.82	12.60	8.07	大洲 C2	古~中年代	2027		
1233	129	92	西	2B19	伊藤3層上部砂層	I	F10	7.41	6.61	5.05	成瀬段平	古年代	2189		
1234	129	92	西	2B10-15	伊藤3層上部砂層	II	F8-10	7.25	7.00	7.52	成瀬段平	古年代	2181		
1235	130	96	西	2A25	Ⅱ 30層	I	A1	デイトライト	8.33	14.92	13.49	23520	大洲 C2	中年代(古運社)	2161
1236	130	95	西	3C2	Ⅱ 32層	I	E6	頁岩	6.68	11.00	10.78	11419	大洲 C2	古~中年代, 銀行積り	2029
1237	131	95	西	3A13	伊藤3層	I	E7	頁岩	14.81	22.80	16.15	39010	成瀬段平	古年代	2177

第24表 剥片・チップ観察表 (1238 ~ 1244)

採集地	写尺No.	出土地点		層位	石材	剥片数	重量(g)	測定時期	備考	登録No.
		区	位置(グリッド)							
1238	92	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	1231	16.6	大洲 C2	チップ1	
1239	92	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	1439	30.7	大洲 C2	チップ2	
1240	93	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	634	27.1	大洲 C2	チップ3	
1241	93	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	336	8.9	大洲 C2	チップ4	
1242	93	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	554	19.8	大洲 C2	チップ5・6	
1243	93	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	1377	1.1	大洲 C2	チップ6	
1244	93	西	2B15チップ堆積	Ⅱ 32層	頁岩	3667	96.6	大洲 C2	チップ7	

第25表 石斧類観察表 (1245 ~ 1251)

採集地	図面No.	写尺No.	出土地点		層位	分類	石材	計測値			刃先			測定時期	備考	登録No.			
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	長さ	幅	角度(°)						
1245	132	93	西	2F5 (N201)	伊藤2層	I	頁岩	5.87	4.12	1.26	1.86	4.11	47.3	直	39-63	無	成瀬小	伊藤段平, 古年代	2192
1246	132	93	西	6C23	Ⅱ 30層	I	頁岩	6.30	4.29	2.74	-	4.15	170.1	円	68-74	基部	成瀬段平	古年代	2193
1247	132	93	西	6D9	Ⅱ a層下層	I	頁岩	11.99	4.68	2.47	0.67	4.55	108.5	円	71-74	基部	成瀬段平	古年代	2194
1248	132	93	西	2B20	Ⅱ 32層	II A	頁岩	68.39	6.34	3.53	-	6.34	293.5	円	75-78	基部	大洲 C2	古~中年代	2036
1249	132	93	西	2F2	伊藤2層	II A	頁岩	61.19	7.07	3.05	-	7.23	217.6	円	70-80	基部	成瀬段平	古年代	2196
1250	132	93	西	5E25 (N204/F)	伊藤4層	II A	頁岩	12.27	6.30	2.24	6.67	-	230.3	-	-	刃部	成瀬段平~伊藤	古年代	2032
1251	132	94	西	2B4	伊藤3層	II B	頁岩	14.06	6.06	2.87	6.92	6.96	60.0	円	76-79	有	成瀬段平	古年代	2033

第26表 石器類観察表 (1252 ~ 1255)

採集地	図面No.	写尺No.	出土地点		層位	分類	石材	計測値			特徴	測定時期	備考	登録No.		
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)						
1252	207	133	94	西	3B22	Ⅱ 30層下層	I	頁岩	8.66	7.85	2.75	193.5	多角する肩縁	成瀬段平	古~中年代	2037
1253	204	133	94	西	2A13	伊藤3層	I	頁岩	10.95	11.27	3.30	52.7	多角する肩縁	成瀬段平	古年代	2041
1254	208	133	94	西	1B8	Ⅱ 30層上層	II	頁岩	9.03	12.69	2.69	328.8	無	成瀬段平	古~中年代	2038
1255	221	133	94	西	2B12 (N204)	伊藤4層	II	頁岩	18.48	10.22	4.83	1138.5	後部凹縁~片縁	成瀬段平	古年代	2211

第 31 表 平安時代の土器観察表 (1272 ~ 1302)

相模No.	IDNo.	寄託No.	区	出土地点	層位	採集期日数		器種	形状	残存位置	残存率 (%)		計測値 (cm)			成形	外部調査・施文など	内面調査・施文など	出土	番号	登録No.
						内容数	総数				口縁	底部	口縁	底径	口径						
1272	136	96	西	SR01 (3C/E)	埋土中	1	1	土師器	杯	底	-	25	-	-	(11)	口口口	底：ヘラミダキ・黒色処理	底	884		
1273	136	96	西	SR03	埋土中	1	1	土師器	杯	体下半・底	-	25	-	<5.1>	(13)	口口口	体下半：ヘラケズリ、底：同様未切り	底	885		
1274	136	96	西	SR03 (6E ~ F/E)	埋土中	1	1	土師器	杯	体下半・底	-	40	-	<4.8>	(20)	口口口	体下半：ハタキ、底：ヘラケズリ	底	886		
1275	136	96	西	SR03	埋土中	1	1	土師器	長脚盤	口縁	-	-	-	-	6.8	口口口		底	887		
1276	136	96	西	SR09 (6C/E)	1-B 層 埋土上半 II A 層 II A 層	3 5 1	5	土師器	長脚盤	体下半・底	0	60	-	<7.0>	6.9	口口口	体：底：ヘラケズリ	底	876		
1277	136	96	西	SR09 (6C/E)	1-B 層 II A 層	1 1	2	土師器	人型	体上半	0	0	-	-	6.9	口口口	体：タタキ、自然風乾、彫け彫丸	底	879		
1278	136	96	西	SR09 (6C/E)	1-B 層	1	1	土師器	人型	体	-	-	-	7.9	口口口	体：タタキ	底	877			
1279	136	96	西	SR09 (6D/E)	1-B 層	1	1	土師器	人型	体	-	-	-	(10.1)	口口口	体：タタキ	底	882			
1280	136	96	西	SR09 (6D/E)	1-B 層	1	1	土師器	人型	体	-	-	-	6.9	口口口	体：タタキ	底	883			
1281	136	96	西	2E0003001	砂層1層	1	1	土師器	杯	体下半・底	0	50	-	6.1	4.0	口口口	体：底：ヘラケズリ・胎底	底	891		
1282	136	96	西	SR11 SR17 SR12	II A 層 II A 層 II A 層	1 3 1	5	土師器	杯	体下半・底	0	100	-	5.8	4.8	口口口	底：同様未切り・ヘラケズリ	底	865		
1283	136	96	西	SC14	II A 層(水田)	1	1	土師器	杯	口縁・底	15	10	<13.2>	<5.6>	5.2	口口口	体：底：ヘラケズリ	底	871		
1284	136	96	西	I23神土層		1	1	土師器	杯	口縁・底	-	35	-	<4.2>	(15)	口口口	体下半：ヘラケズリ、底：同様未切り	底	893		
1285	136	96	西	SR2	II A 層	1	1	土師器	杯	体下半・底	0	100	-	6.7	0.0	口口口	底：同様未切り	底	863		
1286	136	96	西	SR2	II A 層	5	5	土師器	杯	口縁・底	35	35	<14.2>	<7.2>	4.3	口口口	底：同様未切り、管口1箇所	底	864		
1287	137	96	西	SR22	II A 層	3	3	土師器	杯	口縁・底	10	45	<14.6>	<6.6>	5.3	口口口	底：同様未切り	底	867		
1288	137	96	西	SR27	II A 層	1	1	土師器	杯	口縁	5	-	-	-	6.8	口口口	口縁：体：ヘラミダキ・黒色処理	底	873		
1289	137	96	西	SR25	II A 層上半	2	2	土師器	杯	体・底	0	75	-	<7.1>	(12)	口口口	底：同様未切り	底	874		

路線No.	区	区	沿土地区	種別	区	種別	形状	種別	構造	種別	種別	保存率 (%)			目録積算 (km)		底層	外田調査・施工内容	内田調査・施工内容	防土	備考	総延長
												口縁	底層	口縁	口縁	底層						
1290	137	96	西	北瀬トレンチ	1層	1	土留壁	杯	口縁-底	10	10	<14>	<120>	30		ロクロ	底: 土留		管	正流口埋込	890	
1291	137	96	西	5C7 (水田)	2	2	土留壁	杯	口縁-底	10	40	<132>	<72>	47		ロクロ	底: 鋼板垂直		管		870	
1292	137	96	西	6C-D区	1	1	土留壁	杯	口縁-底	10	30	<120>	<64>	45		ロクロ			管		868	
1293	137	96	西	2-C区	1	1	土留壁	高台付合	口縁-体上半	30	-	<126>	-	611		ロクロ			管		889	
1294	137	96	西	5C2	1	1	土留壁	高台付	底	0	5	-	<76>	610		ロクロ	底: 鋼板垂直		管		899	
1295	137	96	西	3A23&6ト	8	8	土留壁	梁	口縁-体	15	0	<134>	-	671		ロクロ			組		962	
1296	137	96	西	6D5メイントレンチ東側 6D4	7 1	11	土留壁	梁	口縁-体下半	30	0	<168>	-	672		溝ロクロ	口縁-体: ハケメ・黒色部 ラケメ		組		878	
1297	137	96	西	6D10	1	1	土留壁	縁射梁	体上半	0	0	-	-	611		ロクロ			管		881	
1298	137	96	西	4D区	1	1	土留壁	長射梁	口縁	5	0	-	-	648		ロクロ	口縁: 日コナ子 メ		組		868	
1299	137	96	西	6D9	4	4	土留壁	長射梁	口縁	35	0	<146>	-	658		溝ロクロ	体: ハケメ 体: ハケメ		組		880	
1300	137	96	西	5C13 (水田)	1	1	鋼造	大梁	体	-	-	-	-	652		ロクロ	体: ハケメ		管		872	
1301	137	96	西	A-C区	1	1	鋼造	大梁	体	-	-	-	-	610		ロクロ	体: ハケメ		管		891	
1302	137	96	西	A-C区	1	1	鋼造	大梁	体	-	-	-	-	672		ロクロ	体: ハケメ		管		892	

第32表 昆虫観察表 (1303 ~ 1315)

編號No	写取No	出土地点・遺構名	層位	種別	形態	片数	特徴	鑑定時期	備考	登録No
1303	97	2A25	Ⅱ b5層	アオスジケンカメムシ属		4	1.前胸背板	大洲 C2		昆虫 1
1304	97	2B5	Ⅱ b5層	ホトケアザミ		1	1.前胸背板	大洲 C2		昆虫 2
1305	97	2B10	Ⅱ b5層最下層	ヒラタゴビムシ属の一種		2	1.右後脚の一部	大洲 C2		昆虫 3
1306	97	2B15	Ⅱ b3層	カメムシ目の一種		2	1.後脚の一部	大洲 C2		昆虫 4
1307	97	3A17	Ⅱ b5層下部・泥炭層	コガタテリハムシ		1	1.右後脚の一部	大洲 C2		昆虫 5
1308	97	3B1	Ⅱ b3層	カメムシ目の一種		1	1.後脚の一部	大洲 C2		昆虫 6
1309	97	3B1ベルト	Ⅱ b5層	アオスジケンカメムシ		1	1.小翅膜	大洲 C2		昆虫 7
1310	97	3B1ベルト	Ⅱ b5層	アオカナブン属		11	5.各種	大洲 C2		昆虫 8
1311	97	3B11ベルト	Ⅱ b5層	アオカナブン属		5	5.各種	大洲 C2		昆虫 9
1312	97	3C24 (NR04)	Ⅱ層	アオゴビムシ属の一種		2	2.各種	後期初頭～中葉		昆虫 10
1313	97	3C24 (NR04)	Ⅱ層最下層	センチュウゴト		1	1.右後脚	後期初頭～中葉		昆虫 11
1314	97	4C9 (NR05)	10層 (Ⅱ層下部)	コウチユウ目の一種		4	4.腹部の一部	後期初頭		昆虫 12
1315	97	4C24 (NR04)	Ⅱ層	コガタテリハムシ・タロオオアザミ		3	3.各種	後期初頭		昆虫 13

第33表 焼骨観察表 (1316 ~ 1326)

編號No	写取No	出土地点・遺構名	層位	種別	重量 (g)	鑑定時期	備考	登録No
1316	97	2B5	Ⅱ b層下部	不明	5.5	大洲 C2		骨1
1317	97	2B20	Ⅱ b2層	不明	2.4	大洲 C2		骨2
1318	98	2B25	Ⅱ b2層	不明	1.6	大洲 C2		骨3
1319	98	3A22ベルト	Ⅱ b4層	不明	2.6	大洲 C2		骨4
1320	98	3A24ベルト	Ⅱ b層下部	不明	0.3	大洲 C2		骨5
1321	98	3B7	Ⅱ b5層	不明	0.8	大洲 C2		骨6
1322	98	3B7	Ⅱ b4層	不明	3.6	大洲 C2		骨7
1323	98	3B16ベルト	Ⅱ b4層	不明	1.3	大洲 C2		骨8
1324	98	3B21ベルト	Ⅱ b4層	不明	0.3	大洲 C2		骨9
1325	98	3C1	Ⅱ b層下部	不明	3.6	大洲 C2		骨10
1326	98	4B24	Ⅱ層下部	不明	0.2	後期初頭		骨11

第34表 樹木サンプル観察表 (1271 ~ 1374)

編號No	写取No	出土地点・遺構名	層位	特徴	種別	年代測定	鑑定時期	備考	登録No
1271	95	3D12 - 13 (NR04)	砂礫3層直上	建築部材	ケナラ属	新出Ⅱ 24	晩期中葉		6003
1327	98	2A25 ~ 2B5	砂礫3層		タマシヤ属		晩期後半		2
1328	98	2A25 ~ 2B5	砂礫3層		タマシヤ属		晩期後半		3
1329	98	2B14	砂礫3層		トネリコ属		晩期後半		13
1330	98	2B14	砂礫3層		カエデ属		晩期後半		15
1331	98	2C15 (NR03)	Ⅱ層		トネリコ属		後期初頭～中葉		123
1332	98	2C20 (NR03)	Ⅱ層		コナラ属		後期初頭～中葉		126
1333	98	2C25 (NR03)	Ⅱ層		コナラ属	新出Ⅱ 28	後期初頭～中葉		119
1334	98	2D4 (NR02)	Ⅱ層		ナシ亜科	新出Ⅱ 29	後期初頭～中葉		120
1335	98	2E9 (NR02)	Ⅱ層		カワラ		後期初頭～中葉		124
1336	98	2E9 (NR02)	Ⅱ層		ナシ亜科		後期初頭～中葉		128
1337	98	2E15 (NR02)	Ⅱ層		コナラ属		後期初頭～中葉		132
1338	98	2D 段 (NR01)	砂礫2層上部砂層		カエデ属		平安時代か		128
1339	98	2D 段 (NR01)	砂礫2層上部砂層		ヤナギ属		平安時代か		140
1340	98	2D 段 (NR01)	砂礫2層上部砂層		トネリコ属		平安時代か		141
1341	98	2D 段 (NR01)	砂礫2層上部砂層		トネリコ属		平安時代か		144
1342	98	2D 段 (NR01)	砂礫2層上部砂層		カワラ		平安時代か		146
1343	98	2D 段 (NR01)	砂礫2層上部砂層		トネリコ属		平安時代か		148
1344	98	3B1	Ⅱ b3層		タマシヤ属		大洲 C2		21
1345	98	3B1	Ⅱ b3層	樹材	トネリコ属		大洲 C2		22
1346	98	3B1	Ⅱ b3層	樹材	トネリコ属		大洲 C2		23
1347	98	3B1	Ⅱ b3層	樹材	トネリコ属		大洲 C2		24
1348	98	3B1	Ⅱ b3層	樹材	トネリコ属		大洲 C2		25
1349	99	3B1	Ⅱ b3層	樹材	トネリコ属		大洲 C2		26
1350	99	3B2 下	Ⅱ b5層		ニレ属		大洲 C2		29
1351	99	3B7	Ⅱ b5層		トナリキ属		大洲 C2		30
1352	99	3B13付表	Ⅱ層		タマシヤ属		後期初頭～中葉		37
1353	99	3B13付表	Ⅱ層		ナシ亜科		後期初頭～中葉		38
1354	99	3B13付表	Ⅱ層		コナラ属		後期初頭～中葉		39
1355	99	3C11 (NR03)	Ⅱ層		トナリキ		後期初頭～中葉		134
1356	99	3C11 (NR03)	Ⅱ層		カエデ属		後期初頭～中葉		135
1357	99	3C22 (NR04)	Ⅱ層		ヤナギ属		後期初頭～中葉		150
1358	99	3C22 (NR04)	Ⅱ層		ヤナギ属	新出Ⅱ 30	後期初頭～中葉		151
1359	99	3C22 - 23.4C2 + 3 (NR04)	Ⅱ層		ケンボクシ属		後期初頭		40
1360	99	3C22 - 23.4C2 + 3 (NR04)	Ⅱ層		コナラ属		後期初頭		42
1361	99	3C23 - 24.4C3 + 4 (NR04)	Ⅱ層		ニレ属		後期初頭～中葉		155
1362	99	3C23 - 24.4C3 + 4 (NR04)	Ⅱ層		カエデ属		後期初頭～中葉		157
1363	99	3D7	Ⅱ層		コナラ属		後期初頭～中葉		4
1364	99	3D7	Ⅱ層		コナラ属		後期初頭～中葉		5
1365	99	3E8	Ⅱ層		ミズキ	新出Ⅱ 3	後期初頭～中葉		6
1366	99	3F12 ~ 19 (NR01)	砂礫2層上部砂層		アサギ		平安時代か		162
1367	99	3F 区 (NR01)	泥炭層		トネリコ属	新出Ⅱ 31	平安時代か		163
1368	99	4B23 - 24 (NR05)	10層 (Ⅱ層下部)		クリ	新出Ⅱ 25	後期初頭		27
1369	99	SX01 4C30	Ⅱ層下部	樹材	ケンボクシ属	新出Ⅱ 26	後期初頭		67
1370	99	SX01 4C30	Ⅱ層下部	樹材	ケンボクシ属		後期初頭		69
1371	99	SX01 4C30	Ⅱ層下部	樹材	ケンボクシ属		後期初頭		79
1372	99	SX01 4C30	Ⅱ層下部		オニダマシ		後期初頭		96
1373	99	SX01 4C30	Ⅱ層下部		ケンボクシ属	新出Ⅱ 27	後期初頭		102
1374	99	SX01 4C30	Ⅱ層下部		ケンボクシ属		後期初頭		108

第 35 表 オニグルミ観覧表 (1375 ~ 1392)

用紙No.	区画No.	区画名	区画内容	種別	植込深 (cm)	植込枚数	1 月～6 月の大きさ		空室		平均		収穫		収穫枚数	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	個数 (g)	割合 (%)	個数 (g)	割合 (%)	個数 (g)	割合 (%)		
不燃区	1	2314	併種3号	併種3号	200		3.0	2.9	1	11.8	2	9.6		1	1.6	他種非
不燃区	2	2315	併種3号	併種3号	200		3.0	2.9					1	3.7	併種3号	
不燃区	3	2316	併種3号	併種3号	200		3.0	2.9					1	3.0	併種3号	
不燃区	4	2317	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	5	2318	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	6	2319	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	7	2320	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	8	2321	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	9	2322	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	10	2323	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	11	2324	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	12	2325	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	13	2326	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	14	2327	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	15	2328	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	16	2329	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	17	2330	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	18	2331	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	19	2332	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	20	2333	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	21	2334	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	22	2335	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	23	2336	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	24	2337	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	25	2338	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	26	2339	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	27	2340	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	28	2341	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	29	2342	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	30	2343	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	31	2344	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	32	2345	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	33	2346	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	34	2347	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	35	2348	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	36	2349	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	37	2350	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	38	2351	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	39	2352	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	40	2353	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	41	2354	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	42	2355	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	43	2356	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	44	2357	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	45	2358	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	46	2359	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	47	2360	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	48	2361	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	49	2362	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	50	2363	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	51	2364	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	
不燃区	52	2365	併種3号	併種3号	200		3.6	2.9					1	4.9	併種3号	

発掘区画 No.	発掘層 No.	出土地点・遺構名	形状 (cm)	重量(g)	測定回数 (枚数)	土質成分の大小		文相		平均		縦横 (1/4以上)				容積 [*]	形状改良	備考				
						長さ (cm)	幅 (cm)	側面 (g)	断面 (g)	縦 (g)	横 (g)	縦 (g)	横 (g)	縦 (g)	横 (g)				縦 (g)	横 (g)	縦 (g)	横 (g)
不図区	42	3-523	3.3 3.2	26	0814	43				1	26				1	1.5		片割C2				
不図区	47	301	3.1 3.2	28	181	0814				2	11.3				1	5.0	2	2.8	片割C2			
1300	45	301	3.1 3.15 3.0	28	2	1543				2	28.3	11	4	138	3	129	13	16.0	1	7.3	片割C2 炭化T2→1個	
1301	50	301	3.7 3.6	31	2	516				2	32.2	2	2	65	3	1	2.7	8	0.212	1	0.8	片割C2
不図区	45	301<+>1	3.1 3.1	27	165	0814				2	32											
不図区	46	301<+>1	3.1	23	600	0814				6	31.1	2	6.2	16	0.3	5	23.1	8	25.1	13	22.6	片割C2 炭化T2 炭化T3 炭化T4 炭化T5
不図区	49	301<+>1	3.1	26	310	0814				1	32											
不図区	70	301<+>1	3.9 2.9	29	342	0814				3	8.7											
1302	72	301<+>1	3.1 3.15 2.8	28	603	0814				1	10.1	7	22.3									
1304	46	301<+>1	3.2 3.2	27	694	0814				2	22.5											
1305	49	301<+>1	3.7 3.2	29	867	0814				2	20.7											
不図区	51	302	3.1 3.1	26	61	0814				3	14.3											
不図区	52	302	3.6 3.6	28	1.6	0814																
不図区	53	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	54	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	55	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	56	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	57	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	58	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	59	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	60	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	61	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	62	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	63	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	64	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	65	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	66	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	67	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	68	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	69	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	70	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	71	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	72	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	73	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	74	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	75	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	76	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	77	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	78	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	79	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	80	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	81	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	82	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	83	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	84	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	85	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	86	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	87	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	88	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	89	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	90	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	91	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	92	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	93	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	94	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	95	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	96	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	97	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	98	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	99	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																
不図区	100	302	3.1 3.1	26	1.5	0814																

第 36 表 クリ観象表 (1393 ~ 1398)

測候所	昇降高	方位	方位	重量 (g)	1 層水柱の長さ 長さ (cm)	幅 (cm)	容積 重量 (g)	容積 重量 (g)	容積 (g)	重量 (g)	備考
小笠原 1	2A17		6階 2層	2.3	18	20	1	2.3			昭和戦中 - 平安時代
小笠原 2	2A25		2 5層	4.6	19	16	1	1.6			昭和戦中
小笠原 3	2B1		6階 1層	0.6							平安中期 - 現代
小笠原 4	2B12		6階 1層	0.1							平安中期 - 現代
小笠原 70	2B14		2 5層	0.4							大正 C2
小笠原 5	2B17 - 15		6階 2層	0.5							昭和戦中
小笠原 6	2B15		2 5層 階段下層	0.9							大正 C2
小笠原 71	2B20		2 6層	0.6							大正 C2
小笠原 8	2B20N030		2 6層	3.5							大正 C2
小笠原 9	2B20		2 6層	0.2							大正 C2
小笠原 10	2B20		2 6層 階段下層	0.8							大正 C2
小笠原 11	2CLAN003 7 層)		2 5層	0.1							大正 C2
小笠原 12	214 マンホール (PBR0)		6階 1層	1.4							昭和初期 - 中層
小笠原 13	2D6N001		6階 2層	1.3							昭和戦中 - 平安時代
小笠原 14	2D7N003 7 層)		6階 2層	1.3							昭和戦中 - 平安時代
小笠原 15	2D2N001 7 層)		6階 6層	0.4							昭和戦中 - 平安時代
小笠原 16	2E7N004)		南土上 2層 階段高層	1.7	20	19	1	1.7			平安時代
小笠原 17	2E7N001)		南土上 2層 階段高層	0.5							平安時代
小笠原 18	2F8		6階 1層	0.6							平安中期 - 現代
小笠原 19	2F9N001)		6階 1層	1.0							平安中期 - 現代
小笠原 20	2D9		6階 1層	0.9	23	22					平安中期 - 現代
小笠原 21	3A20		2 5層 階段下層 (40 - 42層)	0.9							昭和戦中
22			2 6層	2.8	3.5	39					大正 C2
1303	25	100	3B1								大正 C2
小笠原 25	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 26	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 27	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 28	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 29	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 30	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 31	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 32	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 33	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 34	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 35	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2
小笠原 36	3B1		2 6層 階段下層	0.4							大正 C2

発掘区画	層位	出土地点・遺物名	形状	重量(g)	1層あたりの大きさ		写真		スケッチ		以上のスケッチ	保存状態	備考	
					長さ(cm)	幅(cm)	縦長(%)	横長(%)	縦長(%)	横長(%)				
中層	37	3B11<6>ト	瓦片	18								瓦片 C2		
中層	38	3B11<6>ト	瓦片	04								瓦片 C2		
中層	39	3B11<6>ト	瓦片	00								瓦片 C2		
中層	40	3B12	瓦片	00								瓦片 C2		
中層	41	3B16<6>ト	瓦片	00								瓦片 C2		
中層	42	3B17B04<60>	10層(片)	02								瓦片 C2		
中層	44	3C12N02D	瓦片	03								瓦片 C2		
中層	45	3C12N03D	瓦片	09								瓦片 C2		
136	46	3C12N04H	瓦片下底	137					1	1.2		瓦片 C2		
中層	48	3C12N05H	瓦片(18層)	02								瓦片 C2		
136	47	3C19<6>ト	瓦片下底	177.5 28 24	28 32 33	20 24 27	9	8.3	20	25.8		瓦片 C2	中層	
中層	49				1.6	2.0								
136	75	3C24N04H	瓦片	136.3	3.2	3.3	1	2.1	37	86.8	118	18.0	瓦片 C2	中層
中層	51				3.1	3.4								
中層	52				2.7	2.7								
中層	53	3C25<6>ト(300)	瓦片	25					1	09		瓦片 C2		
中層	53	3F12N01H	瓦片上底(瓦)	22								瓦片 C2		
中層	54	3F12N01H	瓦片	06								瓦片 C2		
中層	55	3F22N01H	瓦片上底(瓦)	19					1	1.9		瓦片 C2		
中層	56	2F15<60>ト	瓦片上底(8層)	07								瓦片 C2		
中層	57	4H12N06	10層(片)	1.3								瓦片 C2		
中層	58													
中層	58	4H14<60>ト	10層(片)	4	20	23			1	1.4		瓦片 C2		
中層	59	4H12N06	10層(片)	3.7								瓦片 C2		
中層	61	4E2<60>ト	10層(片)	3.5								瓦片 C2		
中層	62	4E2<60>ト	10層(片)	0.2								瓦片 C2		
中層	63	4C3N05	10層(片)	1.4								瓦片 C2		
中層	64	4C3N05	10層(片)	3.1					1	09		瓦片 C2		
中層	76													
136	66	4C2N04H	瓦片	118.8					5	18.9	27	41.7	瓦片 C2	
中層	69	4E2N05	10層(片)	0.2								瓦片 C2		
中層	67	3C12N05	瓦片下底	1.3	1.7	2.0			1	1.3		瓦片 C2		
中層	73	3N04	瓦片下底	0.5								瓦片 C2		

図版No.	器名(号)	出土地点・遺跡名	部位	保存状態 (修復)	時期	最大径(cm)	高さ(cm)	口径(cm)	底径(cm)	容量(l)	容量(g)	重量(g)	1/2以上	測定時期	備考
不詳	56	2D16K20(1)	底面片断	7/2	1	2.1	2.7	2	22.5	4	169	2	60	148	1440年頃 30号
不詳	58	2D17K20(1)	底面片断	7/0	0	2.8	3.2	1	14.5	4	127	7	179	209	1440年頃 21号
不詳	59	2D16K20(2)	脚上	12/7	0	3.1	3.1	3	12.5	3	125		16.2		
不詳	60	2D16K20(3)	底面片断	10/0	0	2.3	2.3	2.3	36				19		
不詳	61	2D16K20(4)	底面片断	12/1	2	2.1	3.0	3.0	30			1.1	67		1440年頃 22号
不詳	62	2D16K20(5)	底面片断	12/1	2	2.3	3.6	3.6	2	36	1	11	67		1440年頃 64号
不詳	63	2D16K20(6)	底面片断	10/0	0	2.1	2.1	2.1	30				169		1440年頃 80号
不詳	64	2D16K20(7)	底面片断	10/0	0	2.2	2.6	2.6	17				10		1440年頃 81号
不詳	65	2D16K20(8)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 82号
不詳	66	2D16K20(9)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 83号
不詳	67	2D16K20(10)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 84号
不詳	68	2D16K20(11)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 85号
不詳	69	2D16K20(12)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 86号
不詳	70	2D16K20(13)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 87号
不詳	71	2D16K20(14)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 88号
不詳	72	2D16K20(15)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 89号
不詳	73	2D16K20(16)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 90号
不詳	74	2D16K20(17)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 91号
不詳	75	2D16K20(18)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 92号
不詳	76	2D16K20(19)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 93号
不詳	77	2D16K20(20)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 94号
不詳	78	2D16K20(21)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 95号
不詳	79	2D16K20(22)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 96号
不詳	80	2D16K20(23)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 97号
不詳	81	2D16K20(24)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 98号
不詳	82	2D16K20(25)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 99号
不詳	83	2D16K20(26)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 100号
不詳	84	2D16K20(27)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 101号
不詳	85	2D16K20(28)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 102号
不詳	86	2D16K20(29)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 103号
不詳	87	2D16K20(30)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 104号
不詳	88	2D16K20(31)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 105号
不詳	89	2D16K20(32)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 106号
不詳	90	2D16K20(33)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 107号
不詳	91	2D16K20(34)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 108号
不詳	92	2D16K20(35)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 109号
不詳	93	2D16K20(36)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 110号
不詳	94	2D16K20(37)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 111号
不詳	95	2D16K20(38)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 112号
不詳	96	2D16K20(39)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 113号
不詳	97	2D16K20(40)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 114号
不詳	98	2D16K20(41)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 115号
不詳	99	2D16K20(42)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 116号
不詳	100	2D16K20(43)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 117号
不詳	101	2D16K20(44)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 118号
不詳	102	2D16K20(45)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 119号
不詳	103	2D16K20(46)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 120号
不詳	104	2D16K20(47)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 121号
不詳	105	2D16K20(48)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 122号
不詳	106	2D16K20(49)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 123号
不詳	107	2D16K20(50)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 124号
不詳	108	2D16K20(51)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 125号
不詳	109	2D16K20(52)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 126号
不詳	110	2D16K20(53)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 127号
不詳	111	2D16K20(54)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 128号
不詳	112	2D16K20(55)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 129号
不詳	113	2D16K20(56)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 130号
不詳	114	2D16K20(57)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 131号
不詳	115	2D16K20(58)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 132号
不詳	116	2D16K20(59)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 133号
不詳	117	2D16K20(60)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 134号
不詳	118	2D16K20(61)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 135号
不詳	119	2D16K20(62)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 136号
不詳	120	2D16K20(63)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 137号
不詳	121	2D16K20(64)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 138号
不詳	122	2D16K20(65)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 139号
不詳	123	2D16K20(66)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 140号
不詳	124	2D16K20(67)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 141号
不詳	125	2D16K20(68)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 142号
不詳	126	2D16K20(69)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 143号
不詳	127	2D16K20(70)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 144号
不詳	128	2D16K20(71)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 145号
不詳	129	2D16K20(72)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 146号
不詳	130	2D16K20(73)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 147号
不詳	131	2D16K20(74)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 148号
不詳	132	2D16K20(75)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 149号
不詳	133	2D16K20(76)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 150号
不詳	134	2D16K20(77)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 151号
不詳	135	2D16K20(78)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 152号
不詳	136	2D16K20(79)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 153号
不詳	137	2D16K20(80)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 154号
不詳	138	2D16K20(81)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 155号
不詳	139	2D16K20(82)	底面片断	10/0	0	1.5	1.7	1.7	17				10		1440年頃 156号
不詳	140														

材料名	部材名	製法	形状	単位	単位重量 (g)	見字寸数 (単位)	特徴	1層あたりの大きさ		カウ (一層あたり)		1.2層積		備考	
								長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	重量 (g)	重量 (g)		重量 (g)
不織織	253	AC203050	巾巻 (巾巻)		69	0				1	2.1	2	42	123	両面印刷・巾巻 日本化成 211号
不織織	125	AC1103050	巾巻 (巾巻)		118	0									
不織織	126	AC1103050	巾巻 (巾巻)		118	0									
不織織	127	AC1203050	巾巻 (巾巻)		63	0									
不織織	128	AC1203050	巾巻 (巾巻)		63	0									
不織織	129	AC1603050	巾巻 (巾巻)		63	0									
不織織	130	AC1603050	巾巻 (巾巻)		23	2									
不織織	131	AC1703050	巾巻 (巾巻)		11.8	0									
不織織	132	AC1703050	巾巻 (巾巻)		61	0									
不織織	133	AC1703050	巾巻 (巾巻)		25.6	18									
不織織	134	AC1803050	巾巻 (巾巻)		21.7	0									
不織織	135	AC1803050	巾巻 (巾巻)		10	0									
不織織	136	AC22-24 AC2403050	巾巻 (巾巻)		10	0									
不織織	137	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	138	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	139	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	140	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	141	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	142	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	143	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	144	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	145	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	146	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	147	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	148	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	149	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	150	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	151	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	152	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	153	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	154	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	155	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	156	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	157	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	158	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	159	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	160	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	161	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	162	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	163	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	164	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	165	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	166	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	167	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	168	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	169	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	170	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	171	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	172	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	173	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	174	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									
不織織	175	AC2403050	巾巻 (巾巻)		21	25									

出展国	登録番号	寄附品	出品品名・遺贈品名	種別	数量(個)	重量(kg)	1階展示の大きさ		2階展示の大きさ		1・2階共通	展示時期	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	長さ(cm)	幅(cm)			
中国	110	225 177	102 (011-150206)	10巻 (1巻ずつ)	3831	28	11.6	8	250	12	21.6	2187	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	178		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	22	0						22	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	179		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	653	4	91	4	127	2	4.6	238	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	180		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	511	0						23	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	181		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	685	21	108.5	1	32			685.3	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	182		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	33	0						33	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	183		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	221	0						169	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	184		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	661	13	104	2	31	4	16.0	655	日本時代 21代、現在行方不明22代
中国	186		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	45	0						45	日本時代 21代、現在行方不明22代
中国	188		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	113	0						113	日本時代 21代、現在行方不明22代
中国	189		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	621	3	106	3	101	3	5.6	613	日本時代 21代、現在行方不明22代
中国	190		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	19	0						19	日本時代 21代、現在行方不明22代
中国	191		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	2543	3	67.7	14	522	10	40.7	582	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	192	256	414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	780	9						780	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	193		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	22	31						22	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	194		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	600	7						600	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	195		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	16	0						16	日本時代 20代、現在行方不明21代
中国	196		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	239	1	5.5	1	83	1	20	171	現在行方不明
中国	199		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	127	2	6.1	2	6.1	2	6.0	133	現在行方不明
中国	200		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	131	0						131	現在行方不明
中国	202		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	33	0						33	現在行方不明
中国	203		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	52	0						52	現在行方不明
中国	204		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	82	0						82	現在行方不明
中国	205		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	23	0						23	現在行方不明
中国	206		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	25	1						25	現在行方不明
中国	207		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	104	3	47.3	3	131	5	15.6	251	現在行方不明
中国	208		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	23	0						23	現在行方不明
中国	210		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	31	0						31	現在行方不明
中国	211		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	27	0						27	現在行方不明
中国	212		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	39	1	3.2	2	6.2	2	6.3	100	現在行方不明
中国	213		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	10	0						10	現在行方不明
中国	214		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	116	11	11.6	11	629	0	200	143	現在行方不明
中国	215		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	98.5	0						69	現在行方不明
中国	216		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	19	0						19	現在行方不明
中国	217		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	254	4	31	1	27	1	27	169	現在行方不明
中国	218		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	34	0						34	現在行方不明
中国	219		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	287	0						287	現在行方不明
中国	220		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	69	1	36.2	2	8.2	1	4.5	165	現在行方不明
中国	221		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	39	0						39	現在行方不明
中国	222		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	79	6						79	現在行方不明
中国	241		414(20209)	50巻 (1巻ずつ)	26	31						60	現在行方不明

第38表 その他種実観察表(同定のみ・不掲載)

種別No.	登録No.	出土地点・遺構名	層位	重量(g)	推定時期	備考
不掲載	1	1A10	砂礫1層	25	平安中期～現代	
不掲載	2	1D25(N801)	砂礫1層	16	平安中期～現代	
不掲載	3	1E1 西瀬トレンチ	積層上	09	縄文時代	
不掲載	4	1E10(N801)	砂礫1層	03	平安中期～現代	
不掲載	5	1E19	砂礫1層	02	平安中期～現代	
不掲載	6	2A17	砂礫1層	09	平安中期～現代	
不掲載	7	2A19	II b 層	09	晩期後半	
不掲載	8	2A20	II b 層下部	24	晩期後半	
不掲載	9	2A21	砂礫1層	02	平安中期～現代	
不掲載	10	2A25	砂礫5層	263	中期後葉～後期初葉	
不掲載	11					
不掲載	12	2B1	砂礫1層	127	平安中期～現代	
不掲載	13	2B5	II b5 層	63	大洞 C2	
不掲載	14	2B5	砂礫3層	測定不能 0.0	晩期後半	
不掲載	15	2B6	砂礫1層	36	平安中期～現代	
不掲載	16	2B7	砂礫1層	03	平安中期～現代	
不掲載	17	2B10	II b 層最下層	11	大洞 C2	
不掲載	24	2B10-15(N803)	砂礫3層	01	後期中葉～晩期後半	
不掲載	18	2B12	砂礫1層	24	平安中期～現代	
不掲載	128	2B14	II b2 層	00	大洞 C2	種実No.22、カニ字属実
不掲載	19	2B14-15	-	01	晩期後半	
不掲載	20	2B15	II b2 層	07	大洞 C2	
不掲載	21	2B15	II b3 層	12	大洞 C2	
不掲載	22					
不掲載	23	2B15	II b 層下部	40	大洞 C2	
不掲載	25					
不掲載	26	2B20	II b3 層	09	大洞 C2	
不掲載	29	2B20	II b5 層	72	大洞 C2	
不掲載	30	2B20	II b 層最下層	10	大洞 C2	
不掲載	27					
不掲載	28	2B20(N802)	II b3 層	278	大洞 C2	
不掲載	31	2C15(N803)	子部	01	晩期後半	
不掲載	32	2C23	砂礫3層	01	後期中葉～晩期後半	
不掲載	33	2D3(N802)	メイソ 15 層	35	晩期後半	
不掲載	34	2D11(N801)	西瀬6層砂質下部	60	晩期後半～平安時代	
不掲載	35	2D12(N801)	西瀬6層砂層	122	晩期後半～平安時代	
不掲載	36	2D16(N801)	II b 層	測定不能 0.0	晩期後半	
不掲載	37	2D16(N801)	西瀬8層泥炭下部	113	晩期後半～平安時代	
不掲載	38	2D17(N801)	西瀬8層泥炭層	45	晩期後半～平安時代	
不掲載	39	2D18(N802)	埋土	測定不能 0.0	晩期後半	
不掲載	40	2D21(N801)	西瀬7層砂層	08	晩期後半～平安時代	
不掲載	41	2D21(N801)	西瀬8層泥炭層	47	晩期後半～平安時代	
不掲載	42	2D22(N801)	西瀬6層砂層	45	晩期後半～平安時代	
不掲載	43	2E3(N801)	埋土上段(炭泥炭層)	09	晩期後半～平安時代	
不掲載	44	2E12(N801)	炭泥層	03	晩期後半～平安時代	
不掲載	47					
不掲載	46	2F19	砂礫2層	10	晩期後半	
不掲載	45	2F8	砂礫2層	32	晩期後半	
不掲載	48	2F20	砂礫2層	01	晩期後半	
不掲載	49	2G3	砂礫1層	測定不能 0.0	平安中期～現代	
不掲載	50	2G10	砂礫1層	01	平安中期～現代	
不掲載	51	3A16	II b5 層(19層)	01	大洞 C2	
不掲載	52	3A17	II b 層下部砂泥炭層	20	大洞 C2	
不掲載	54					
不掲載	53	3A21	II b5 層	05	大洞 C2	
不掲載	56	3A22	II b 層下(40-42層)	測定不能 0.0	大洞 C2	
不掲載	55	3A22 <ベ>ト	II b1 層	13	大洞 C2	
不掲載	57					
不掲載	58	3B1	II b3 層	147	大洞 C2	
不掲載	62	3B1	II b5 層	測定不能 0.0	大洞 C2	
不掲載	61	3B1	II b 層上-中間砂層	06	大洞 C2	
不掲載	59	3B1	II b 層下部	01	大洞 C2	
不掲載	60	3B1 <ベ>ト	II b3 層	07	大洞 C2	
不掲載	63					
不掲載	64	3B1 <ベ>ト	II b5 層	187	大洞 C2	
不掲載	65	3B2	II b5 層	35	大洞 C2	
不掲載	66	3B3	II b3 層	05	大洞 C2	
不掲載	67					
不掲載	68	3B6	II b3 層	93	大洞 C2	
不掲載	69					
不掲載	70					
不掲載	71	3B6	II b5 層	21	大洞 C2	
不掲載	72	3B7	II b5 層	13	大洞 C2	

図版No.	発掘No.	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	鑑定時期	備考
不掲載	73	3B7	IV層	0.1	後期初頭	
不掲載	74	3B10(NR03)	II b 層下部砂層	0.1	晩期後半	
不掲載	75	3B11 ベルト	II b3層	16.4	大洲 C2	
不掲載	76	3B11 ベルト	II b5層	8.0	大洲 C2	
77						
不掲載	78	3B12	IV層	0.3	後期初頭	
不掲載	79	3B16 ベルト	II b5層	5.8	晩期後半	
不掲載	80	3B19(NR04-05)	10層 (IV層下部)	9.8	後期初頭	
不掲載	81	3B24(NR04)	最下層	4.8	後期初頭～中葉	
不掲載	82	3C8(NR04)	IV層	3.6	後期初頭	
不掲載	83	3C11(NR03)	IV層下部	4.3	後期初頭	
不掲載	84	3C12(NR03)	II b 層 (?)	測定不能の0.0	晩期後半	
不掲載	85	3C13(NR04)	IV層下部	6.1	後期初頭～中葉	
不掲載	86	3C16(NR03)	最層上部	測定不能の0.0	後期中葉	
不掲載	87	3C17	最層下部	測定不能の0.0	後期中葉	
88						
不掲載	89	3C17(NR03)	IV層	2.3	後期初頭	
不掲載	90	3C19 ベルト	最層下部	3.1	後期中葉	
不掲載	91	3C23(NR04)	IV層	0.6	後期初頭	
不掲載	92	3C23-24,4C3-4(NR04)	下部 W3	測定不能の0.0	後期初頭	
93						
94						
143						
144						
146						
95						
145						
不掲載	96	3C25 ベルト (NR04)	IV層	0.1	後期初頭	
不掲載	97	3D3 ベルト	IV層	0.1	後期初頭	
不掲載	137	3D7	IV層	0.1	後期初頭	種実No.14、コナラ結果
不掲載	98	3F1(NR01)	上部泥炭層	1.1	晩期後半～平安	
不掲載	99	3F8(NR01)	泥炭層	0.9	晩期後半～平安	
不掲載	100	3F12(NR01)	泥炭層	3.1	晩期後半～平安	
不掲載	101	3F13(NR01)	泥炭層	0.1	晩期後半～平安	
不掲載	102	3F18(NR01)	泥炭層	32.5	晩期後半～平安	
148						
不掲載	103	3F19(NR01)	泥炭層	0.1	晩期後半～平安	
不掲載	104	3F23(NR01)	泥炭層	0.7	晩期後半～平安	
不掲載	105	3F24(NR01)	泥炭層	0.1	晩期後半～平安	
不掲載	106	3G3(NR01)	泥炭層	0.3	晩期後半～平安	
不掲載	107	4B10(NR06)	10層 (IV層下部)	18.9	中期後半～後期初頭	
不掲載	108	4B10(NR06)	砂層6層	0.4	中期後半	
不掲載	109	4B14(NR06)	10層 (IV層下部)	1.3	中期後半～後期初頭	
110						
不掲載	111	4B14-15(NR06)	10層 (IV層下部)	61.7	中期後半～後期初頭	
112						
134						
不掲載	113	4B15(NR06)	砂層6層	22.5	中期後半	
不掲載	114	4B23-24(NR06)	10層 (IV層下部)	13.5	後期初頭	
135						
不掲載	115	4B25 ベルト (NR05)	IV層下部	4.6	後期初頭	
不掲載	116	4C4(NR05)	砂層5層	0.9	中期後半～後期初頭	
不掲載	119	4C5	崩壊土	0.2	後期初頭	
不掲載	117	4C6(NR05)	10層 (IV層下部)	11.1	後期初頭	
118						
120						
不掲載	121	4C9(NR05)	10層 (IV層下部)	28.7	後期初頭	
147						
不掲載	122	4C20(NR04)	IV層	8.8	後期初頭	
123						
不掲載	123	4D0(NR05)	10層 (IV層下部)	7.9	後期初頭	
136						
124						
不掲載	125	4D3(NR05)	10層 (IV層下部)	0.1	後期初頭	
不掲載	126	4D4(NR05)	10層 (IV層下部)	10.9	後期初頭	
不掲載	127	4E22 トレンチ	下部泥炭層	1.3	後期初頭～中葉	
不掲載	142	4G5 (NR04 占)	砂層4層	5.5	後期初頭～中葉	松(???)
不掲載	128	5B226C 区 WE ベルト)	IV層下部	0.1	後期初頭	
不掲載	129	5C1(NR05)	IV層下部	2.6	後期初頭	
不掲載	130	5C3	最層	5.1	後期中葉	種実No.29、松(???)
不掲載	130	5E13(NR04 占)	上部泥炭層	19.0	後期初頭～中葉	
不掲載	131	6D9(NR05)	IV層	0.2	後期初頭	
不掲載	132	6F11 門地	泥炭層	1.1	後期初頭～中葉	
不掲載	133	SX01	-	0.1	後期初頭	
不掲載	140	SX01	IV層下部	0.2	後期初頭	
不掲載	141	SX01	IV層下部	0.1	後期初頭	

第 39 表 植物葉観察表 (1413～1427)

図録No.	写10%	出土地点・遺構名	層位	種類	測定時期	備考	図録No.
1413	103	2A.25	II b5 層	ケヤキ	大洞 C2		1
1414	103	2B20(NR03)	II b3 層	不明	大洞 C2		2
1415	103	2F.20	砂礫 2 層	ブナ・コナラ・クリ・ケヤキ・イタヤカエデ・カバノキ属・サクラ属・ケヤマハンノキ・ヤマブシ・アサギナ・ハウチワカエデまたはオオモミジ・ケンボナシ属	晩期後半		3
1416	103	3B1	II b3 層	不明	大洞 C2		4
1417	103	3B11 (ピルト)	II b3 層	不明	大洞 C2		5
1418	103	3B12	II b5 層	不明	大洞 C2		6
1419	103	3B12	II b 層	不明	大洞 C2		7
1420	103	3B16 (ピルト)	II b5 層	不明	大洞 C2		8
1421	104	3B19(NR04・05)	10 層 (IV 層)	不明	後期初頭～		9
1422	104	3C24(NR04)	V 層	フシ属、果皮 (5ヶ)	後期初頭～中葉	(10kg) 精含む	10 11
1423	104	3D17(NR04)	砂礫 4 層	ケヤキ	後期初頭～中葉		12
1424	104	4B14・15(NR06)	10 層 (IV 層下部)	不明	中期後葉～後期初頭		13
1425	104	4B23・24(NR05)	10 層 (IV 層下部)	不明	中期後葉～後期初頭		14
1426	104	4C9(NR05)	10 層 (IV 層下部)	不明	後期初頭		15
1427	104	4C24(NR04)	V 層	不明	後期初頭		16

第 40 表 サルノコシカケ観察表 (1428～1433)

図録No.	図録No.	写10%	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	測定時期	備考
1428	1	104	2B8	泥炭層下部	281.3	晩期後半	
1429	2	104	2D17(NR01)	西端断面 8 層	95	晩期後半～平安時代	
1430	3	104	2E3(NR01)	堆土上段 (黒泥炭層)	30	晩期後半～平安時代	
1431	4	104	3F12(NR01)	埋土 (泥炭層)	154.1	晩期後半～平安時代	
1432	5	104	3F14(NR04)	泥炭層・砂層上部	460	後期初頭～中葉	
1433	6	104	3F18(NR01)	泥炭層	74	晩期後半～平安時代	

VI 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

新田Ⅱ遺跡は、岩手県遠野市綾織町下綾織31地割147-1地内ほか(北緯39°19′3.8969″、東経141°27′56.5799″)に所在する。

測定対象試料は、H23・24の2カ年に分けて、それぞれ測定を行った。

<H23測定分>西区2B15Ⅱb2層黒色土出土種実(新田Ⅱ-1:IAAA-112743、新田Ⅱ-2:IAAA-112744)、土器付着炭化物(新田Ⅱ-6:IAAA-112748)、炭化物(新田Ⅱ-13:IAAA-112751)、西区3D8Ⅳ層出土木片(新田Ⅱ-3:IAAA-112745)、西区2C13Ⅱa層出土土器付着炭化物(新田Ⅱ-4:IAAA-112746)、西区4D9Ⅲ層出土土器付着炭化物(新田Ⅱ-5:IAAA-112747)、西区3D6Ⅱb層出土土器付着炭化物(新田Ⅱ-7:IAAA-112749)、西区4C5Ⅳ層黒色土出土炭化物(新田Ⅱ-12:IAAA-112750)である。新田Ⅱ-1はトチノキ果皮、新田Ⅱ-2はクルミ果皮と同定されており、いずれも埋没沢に一括して廃棄された状態で出土した。新田Ⅱ-3は自然木の生材とされる。新田Ⅱ-12、13はフローテーションによって回収された。

西区2B15Ⅱb2層黒色土は縄文時代晩期後半の土器を包含する埋没沢で、ここから出土した新田Ⅱ-1、2、13はこれに近い時期と推定され、新田Ⅱ-6が採取された土器もその時期と考えられている。西区3D8Ⅳ層は縄文時代後期初頭の土器が出土する埋没沢で、その底面から出土した新田Ⅱ-3はこれに近い時期と推定される。西区2C13Ⅱa層は縄文時代晩期後半の遺物包含層で、ここから出土し、新田Ⅱ-4が採取された土器もこの時期に位置づけられている。西区4D9Ⅲ層は縄文時代中期の遺物包含層で、ここから出土し、新田Ⅱ-5が採取された土器は縄文時代中期前～中葉の土器と考えられている。西区3D6Ⅱb層は縄文時代晩期の遺物包含層で、ここから出土し、新田Ⅱ-7が採取された土器は縄文時代晩期後半と考えられている。西区4C5Ⅳ層黒色土は縄文時代後期初頭の遺物包含層で、ここから出土した新田Ⅱ-12はこの時期である可能性が指摘されている。

<H24測定分>西区の各層(遺物包含層)から出土した土器付着物(新田Ⅱ-14:IAAA-123287～新田Ⅱ-23:IAAA-123296)、西区の各層(遺物包含層)及びSX01樹木集積遺構から出土した木片(新田Ⅱ-24:IAAA-123297～新田Ⅱ-31:IAAA-123304)で、内訳は、土器付着物のうち、新田Ⅱ-14～20、22、23は炭化物で、新田Ⅱ-14、15は内面、新田Ⅱ-16～20、22、23は外面から採取された。新田Ⅱ-21は土器内部の付着物で、アスファルトの可能性が指摘されている。木片試料は、新田Ⅱ-24が建築部材の一部、新田Ⅱ-25～31が自然樹木から採取された(以上H24測定分)。以上、H23測定分が9点、H24測定分が18点の合計27点である(表1)。

土器付着物が採取された土器は、新田Ⅱ-14、16、17の土器が縄文時代晩期後半、新田Ⅱ-15、18、19、23が後期中葉、新田Ⅱ-20～22が後期初頭から前葉に位置づけられている。木片試料は、新田Ⅱ-24が縄文時代後期中葉、新田Ⅱ-25～30が後期初頭から前葉、新田Ⅱ-31が平安時代の遺物包含層から出土している。

(2) 測定の意義

遺物包含層から出土した土器の付着物、建築部材、自然樹木の年代測定により、遺物包含層の埋没年代を明らかにする。

(3) 化学処理工程

- <1>メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- <2>酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- <3>試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- <4>真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- <5>精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- <6>グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- <1> $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- <2> ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- <3> pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- <4> 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、

特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

(6) 測定結果

<H23測定分>試料の ^{14}C 年代は、西区2B15 II b2層黒色土出土種実新田II-1が $2450 \pm 30\text{yrBP}$ 、新田II-2が $2540 \pm 30\text{yrBP}$ 、土器附着炭化物新田II-6が $2540 \pm 20\text{yrBP}$ 、炭化物新田II-13が $2410 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区3D8 IV層出土木片新田II-3が $3130 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区2C13 II a層出土土器附着炭化物新田II-4が $2660 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区4D9 III層出土土器附着炭化物新田II-5が $4510 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区3D6 II b層出土土器附着炭化物新田II-7が $3020 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区4C5 IV層黒色土出土炭化物新田II-12が $3850 \pm 30\text{yrBP}$ である。西区2B15 II b2層黒色土から出土した4点の値について検討すると、新田II-1と13、新田II-2と6の値は誤差($\pm 1\sigma$)の範囲で重なり、近い年代を示すが、4点全体では若干年代差が認められる。

暦年較正年代(1σ)は、新田II-1が744~417cal BCの間に5つの範囲、新田II-2が792~596cal BCの間に4つの範囲、新田II-6が793~597cal BCの間に3つの範囲、新田II-13が511~407cal BCの間に2つの範囲、新田II-3が1438~1393cal BCの範囲、新田II-4が825~801cal BCの範囲、新田II-5が3339~3114cal BCの間に5つの範囲、新田II-7が1371~1222cal BCの間に3つの範囲、新田II-12が2429~221cal BCの間に5つの範囲で示される。西区2B15 II b2層黒色土から出土した新田II-1、2、6、13の値は、全体として縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃に相当し、 2σ 暦年代範囲で見ると4点の間の差は小さくなる。いずれも土器が示す縄文時代晩期後半の値を含んでいる。新田II-3は縄文時代後期後葉頃、新田II-4は縄文時代晩期中葉頃、新田II-5は縄文時代中期前葉頃、新田II-7は縄文時代後期後葉から晩期初頭頃、新田II-12は縄文時代後期初頭頃に相当する値である。新田II-4、5、12は土器から推定される時期に対しておおむね整合的と言えるが、新田II-3は土器よりも新しい値、新田II-7は土器よりも古い値となっている。

なお、土器附着炭化物については、土器で調理された海産物が魚け付いたものである場合など、海洋リザーバー効果によって年代が古く見積もられる可能性があることを考慮する必要がある。今回測定された試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を見ると、おおむねC3植物やそれを食べる草食動物などの値に近い。その中で新田II-7は比較的高い値となっており、海洋由来炭素が影響している可能性がある。ただし、AMSによる $\delta^{13}\text{C}$ 値は必ずしも正確でない点に注意が必要である。

試料の炭素含有率は、土器附着炭化物新田II-4が10%という低い値となっており、土様の物質が混入していたと観察されているため、注意を要する。他の試料は40%を超えており、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

<H24測定分>土器附着物の ^{14}C 年代は、西区2B10 II b2層出土の新田II-14が $2490 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区2C24 (NR02) II b層出土の新田II-15が $2970 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区3B1 II b5層出土の新田II-16が $2440 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区3B11 ベルト II b2層出土の新田II-17が $2490 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区3C1 (NR03) III層下部出土の新田II-18が $2900 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区SR02 (3C17) III層出土の新田II-19が $3380 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区4B21 ベルト砂礫5層出土の新田II-20が $3750 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区4E12 砂礫4層出土の新田II-21が $3420 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区5C15 IV層下部出土の新田II-22が $3800 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区SR01 (3C18) III層出土の新田II-23が $3330 \pm 30\text{yrBP}$ である。II b2層出土の新田II-14と同17の値は誤差($\pm 1\sigma$)の範囲でよく一致する。またIII層出土の新田II-19と同23は、誤差範囲で近接する値である。

暦年較正年代(1σ)は、新田II-14が756~545cal BCの間に4つの範囲、新田II-15が1260

～1130cal BCの間に4つの範囲、新田Ⅱ-16が727～416cal BCの間に3つの範囲、新田Ⅱ-17が758～549cal BCの間に4つの範囲、新田Ⅱ-18が1123～1041cal BCの範囲、新田Ⅱ-19が1733～1636cal BCの間に2つの範囲、新田Ⅱ-20が2203～2136cal BCの範囲、新田Ⅱ-21が1747～1689cal BCの範囲、新田Ⅱ-22が2286～2201cal BCの範囲、新田Ⅱ-23が1663～1536cal BCの間に3つの範囲で示される。古い方から順に、新田Ⅱ-20、22が縄文時代後期前葉頃、新田Ⅱ-19、21、23が縄文時代後期中葉頃、新田Ⅱ-15が縄文時代晩期初頭から前葉頃、新田Ⅱ-18が縄文時代晩期前葉頃、新田Ⅱ-14、17が縄文時代晩期後葉頃、新田Ⅱ-16が縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃に相当し(小林編 2008、小林 2009)。付着物が採取された土器について推定される時期に対し、新田Ⅱ-14、16、17、19、20、22、23はおおむね整合的な値となったが、新田Ⅱ-15、18、21はより新しい値を示した。

木片の¹⁴C年代は、西区3D12・13 砂礫4層上面出土の新田Ⅱ-24が3550 ± 20yrBP、西区4B23・24 (NR05) 10層(Ⅳ層下部)出土の新田Ⅱ-25が3810 ± 30yrBP、西区SX01 樹木集積遺構 10層(Ⅳ層下部)出土の新田Ⅱ-26が3910 ± 30yrBP、新田Ⅱ-27が3820 ± 30yrBP、新田Ⅱ-28が3050 ± 20yrBP、新田Ⅱ-29が900 ± 20yrBP、西区3C22 (NR04) Ⅳ層出土の新田Ⅱ-30が3280 ± 30yrBP、西区3F区 (NR01) 泥炭層出土の新田Ⅱ-31が1240 ± 20yrBPである。SX01 樹木集積遺構から出土した4点のうち、新田Ⅱ-26と同27はおおむね近い値であるが、これらと新田Ⅱ-28、29の間には明瞭な年代差が認められる。

暦年較正年代(1σ)は、新田Ⅱ-24が1941～1880cal BCの範囲、新田Ⅱ-25が2286～2205cal BCの範囲、新田Ⅱ-26が2469～2348cal BCの間に3つの範囲、新田Ⅱ-27が2292～2206cal BCの間に2つの範囲、新田Ⅱ-28が1379～1271cal BCの間に3つの範囲、新田Ⅱ-29が1047～1172cal ADの間に3つの範囲、新田Ⅱ-30が1608～1519cal BCの間に2つの範囲、新田Ⅱ-31が695～855cal ADの間に5つの範囲で示される。古い方から順に、新田Ⅱ-26が縄文時代後期初頭頃、新田Ⅱ-24、25、27が縄文時代後期前葉頃、新田Ⅱ-30が縄文時代後期中葉頃、新田Ⅱ-28が縄文時代後期後葉から末葉頃、新田Ⅱ-29、31が古代頃に相当する(小林編 2008、小林 2009)。試料が出土した層について推定される時期に対し、新田Ⅱ-25～27、31は整合的な値となったが、新田Ⅱ-24はより古い値、新田Ⅱ-28～30はより新しい値を示した。

試料の炭素含有率を確認すると、新田Ⅱ-15は43%、同18は34%、同19は26%と若干低い値となっている。これらの試料の中には、粒状もしくは粉状の炭化物とともに、土のようなものが観察され、炭素の由来に注意する必要がある。他の試料の炭素含有率はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 (1) H23 測定分

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (‰)
IAAA-112743	新田II-4	西区 2B15 II b2 層黒色土	種実	AAA	-29.81 ± 0.5	2450 ± 30	73.69 ± 0.23
IAAA-112744	新田II-2	西区 2B15 II b2 層黒色土	種実	AAA	-30.33 ± 0.55	2540 ± 30	72.89 ± 0.23
IAAA-112745	新田II-3	西区 2D8 古層	木片	AAA	-30.36 ± 0.58	3130 ± 30	67.69 ± 0.22
IAAA-112746	新田II-4	西区 2C13 II a 層	土器附着炭化物	AaA	-28.41 ± 0.57	2660 ± 30	71.85 ± 0.23
IAAA-112747	新田II-5	西区 4D9 葦層 (土器 598)	土器附着炭化物	AaA	-24.89 ± 0.56	4510 ± 30	57.04 ± 0.18
IAAA-112748	新田II-6	西区 2B15 II b2 層黒色土	土器附着炭化物	AAA	-27 ± 0.59	2540 ± 20	72.88 ± 0.22
IAAA-112749	新田II-7	西区 2D6 IV 層 (土器 591)	土器附着炭化物	AAA	-22.16 ± 0.63	3020 ± 20	68.64 ± 0.21
IAAA-112750	新田II-12	西区 4C5 IV 層黒色土	炭化物	AAA	-23.72 ± 0.55	3850 ± 30	61.93 ± 0.2
IAAA-112751	新田II-13	西区 2B15 II b2 層黒色土	炭化物	AAA	-26.3 ± 0.58	2410 ± 30	74.1 ± 0.23

※新田II 8～11 は炭素量不足のため、測定不可

表1 (2) H24 測定分

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (‰)
IAAA-123287	新田II-14	西区 2B10 II b2 層 (土器 110)	土器附着炭化物	AAA	-20.51 ± 0.36	2490 ± 20	73.37 ± 0.21
IAAA-123288	新田II-15	西区 2C24 (NR02) II b 層 (土器 195)	土器附着炭化物	AaA	-24.32 ± 0.52	2970 ± 30	69.11 ± 0.22
IAAA-123289	新田II-16	西区 3B1 II b5 層 (土器 365)	土器附着炭化物	AAA	-23.24 ± 0.46	2440 ± 20	73.8 ± 0.22
IAAA-123290	新田II-17	西区 3B11 ベルト II b2 層 (土器 348)	土器附着炭化物	AaA	-22.89 ± 0.5	2490 ± 20	73.34 ± 0.22
IAAA-123291	新田II-18	西区 3C1 (NR03) 葦層下部 (土器 552)	土器附着炭化物	AaA	-25.54 ± 0.46	2900 ± 20	69.72 ± 0.21
IAAA-123292	新田II-19	西区 5B02 (C17) 葦層 (土器 28)	土器附着炭化物	AaA	-22.07 ± 0.33	3380 ± 20	65.64 ± 0.2
IAAA-123293	新田II-20	西区 4B21 ベルト 砂層 5 層 (土器 677)	土器附着炭化物	AaA	-26.03 ± 0.28	3750 ± 20	62.68 ± 0.19
IAAA-123294	新田II-21	西区 4B12 砂層 4 層 (土器 736)	土器附着物	AaA	-30.31 ± 0.33	3420 ± 30	65.33 ± 0.2
IAAA-123295	新田II-22	西区 5C15 葦層下部 (土器 768)	土器附着炭化物	AaA	-28.11 ± 0.3	3800 ± 30	62.3 ± 0.2
IAAA-123296	新田II-23	西区 5B01 (C18) 葦層 (土器 27)	土器附着炭化物	AaA	-23.9 ± 0.38	3330 ± 30	66.06 ± 0.22
IAAA-123297	新田II-24	西区 3D12-13 砂層 4 層上部 (建築部 材 1271)	木片	AAA	-23.21 ± 0.39	3550 ± 20	64.26 ± 0.2
IAAA-123298	新田II-25	西区 4B23-24 (NR05) 10 層 (古層下部) (自然樹木 1368)	木片	AAA	-23.62 ± 0.32	3810 ± 30	62.24 ± 0.2
IAAA-123299	新田II-26	西区 SX01 樹木集積 遺構 10 層 (古層下部) (自然樹木 1369)	木片	AAA	-31.82 ± 0.25	3910 ± 30	61.43 ± 0.21
IAAA-123300	新田II-27	西区 SX01 樹木集積 遺構 10 層 (古層下部) (自然樹木 1373)	木片	AAA	-27.67 ± 0.37	3820 ± 30	62.16 ± 0.2
IAAA-123301	新田II-28	西区 2C25 (NR03) 葦層 (自然樹木 1333)	木片	AAA	-26.28 ± 0.42	3050 ± 20	68.44 ± 0.21
IAAA-123302	新田II-29	西区 2D4 (NR02) 葦層 (自然樹木 1334)	木片	AAA	-25.16 ± 0.39	900 ± 20	89.36 ± 0.26
IAAA-123303	新田II-30	西区 3C22 (NR04) 古層 (自然樹木 1338)	木片	AAA	-30.24 ± 0.42	3280 ± 30	66.47 ± 0.23
IAAA-123304	新田II-31	西区 3F 区 (NR01) 泥炭層 (自然樹木 1367)	木片	AAA	-25.02 ± 0.42	1240 ± 20	85.74 ± 0.23

表2 (1) H23 測定分

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (‰)			
IAAA-112743	2330 \pm 30	7296 \pm 0.21	2452 \pm 25	74calBC - 689calBC (2.3%)	733calBC - 686calBC (27.0%)
				66calBC - 647calBC (7.2%)	666calBC - 634calBC (10.4%)
				55calBC - 486calBC (4.7%)	63calBC - 612calBC (1.8%)
				45calBC - 448calBC (4.1%)	596calBC - 411calBC (66.2%)
				44calBC - 417calBC (8.0%)	
IAAA-112744	2630 \pm 30	721 \pm 0.21	2539 \pm 25	792calBC - 753calBC (8.5%)	796calBC - 744calBC (41.6%)
				686calBC - 668calBC (17.3%)	690calBC - 663calBC (19.5%)
				632calBC - 626calBC (3.1%)	666calBC - 550calBC (54.3%)
				612calBC - 596calBC (9.4%)	
IAAA-112745	3220 \pm 30	6695 \pm 0.2	3134 \pm 26	1438calBC - 1393calBC (68.2%)	1493calBC - 1477calBC (3.1%)
					1459calBC - 1374calBC (65.9%)
					1341calBC - 1318calBC (6.4%)
IAAA-112746	2710 \pm 30	7135 \pm 0.21	2655 \pm 25	825calBC - 801calBC (68.2%)	894calBC - 876calBC (3.7%)
					845calBC - 792calBC (61.7%)
IAAA-112747	4510 \pm 30	5706 \pm 0.17	4509 \pm 25	3339calBC - 3320calBC (9.8%)	3349calBC - 3283calBC (32.0%)
				3273calBC - 3296calBC (3.0%)	3246calBC - 3100calBC (63.4%)
				3237calBC - 3204calBC (16.8%)	
				3197calBC - 3171calBC (13.6%)	
				3163calBC - 3114calBC (25.0%)	
IAAA-112748	2570 \pm 30	7258 \pm 0.2	2541 \pm 24	793calBC - 753calBC (42.1%)	796calBC - 746calBC (44.8%)
				686calBC - 668calBC (17.7%)	690calBC - 664calBC (19.8%)
				612calBC - 597calBC (8.4%)	646calBC - 551calBC (50.9%)
IAAA-112749	2980 \pm 30	6904 \pm 0.19	3023 \pm 24	1371calBC - 1346calBC (15.2%)	1387calBC - 1211calBC (65.4%)
				1316calBC - 1290calBC (50.1%)	
				1227calBC - 1222calBC (2.9%)	
IAAA-112750	3830 \pm 30	6209 \pm 0.19	3849 \pm 26	2429calBC - 2425calBC (1.5%)	2429calBC - 2417calBC (11.7%)
				2402calBC - 2382calBC (8.9%)	2410calBC - 2270calBC (63.5%)
				2348calBC - 2279calBC (43.9%)	2280calBC - 2296calBC (20.2%)
				2254calBC - 2230calBC (10.2%)	
				2220calBC - 2211calBC (3.7%)	
IAAA-112751	2430 \pm 30	739 \pm 0.22	2407 \pm 25	51calBC - 434calBC (53.7%)	725calBC - 693calBC (7.1%)
				429calBC - 407calBC (4.5%)	542calBC - 401calBC (68.3%)

[参考値]

表2 (2) H24 測定分

測定番号	δ 値補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-12187	2410 \pm 20	7404 \pm 0.21	2487 \pm 23	756calBC - 732calBC (1.4%)	767calBC - 530calBC (65.4%)
				691calBC - 684calBC (2.8%)	
				669calBC - 661calBC (3.6%)	
				651calBC - 545calBC (50.4%)	
IAAA-12188	2900 \pm 20	69.21 \pm 0.21	2968 \pm 25	1260calBC - 1228calBC (21.4%)	1302calBC - 1115calBC (65.4%)
				121calBC - 1189calBC (21.8%)	
				1181calBC - 1156calBC (14.9%)	
				1145calBC - 1130calBC (10.1%)	
IAAA-12189	2410 \pm 20	74.06 \pm 0.21	2440 \pm 24	727calBC - 694calBC (15.9%)	750calBC - 687calBC (22.9%)
				542calBC - 484calBC (28.9%)	
				465calBC - 416calBC (23.4%)	
				302calBC - 407calBC (66.4%)	
IAAA-12190	2400 \pm 20	73.66 \pm 0.21	2490 \pm 24	758calBC - 734calBC (11.2%)	768calBC - 521calBC (65.4%)
				690calBC - 684calBC (2.7%)	
				668calBC - 662calBC (3.2%)	
				650calBC - 546calBC (51.1%)	
IAAA-12191	2910 \pm 20	69.65 \pm 0.2	2897 \pm 24	1123calBC - 1041calBC (68.2%)	1193calBC - 1142calBC (9.3%)
					1133calBC - 1006calBC (66.1%)
IAAA-12192	3320 \pm 20	66.03 \pm 0.2	3382 \pm 24	1733calBC - 1717calBC (14.0%)	1741calBC - 1622calBC (65.4%)
				1693calBC - 1636calBC (54.2%)	
IAAA-12193	3770 \pm 20	62.55 \pm 0.19	3752 \pm 24	2203calBC - 2136calBC (68.2%)	2278calBC - 2251calBC (6.3%)
					2229calBC - 2221calBC (1.1%)
					2211calBC - 2124calBC (7.28%)
					2091calBC - 2043calBC (15.2%)
IAAA-12194	3510 \pm 20	64.62 \pm 0.2	3419 \pm 25	1747calBC - 1689calBC (68.2%)	1869calBC - 1847calBC (3.8%)
					1775calBC - 1635calBC (61.6%)
IAAA-12195	3850 \pm 20	61.9 \pm 0.2	3801 \pm 26	2286calBC - 2201calBC (68.2%)	2336calBC - 2324calBC (1.6%)
					2308calBC - 2189calBC (79.8%)
					2181calBC - 2140calBC (14.0%)
IAAA-12196	3310 \pm 20	66.21 \pm 0.21	3330 \pm 26	1663calBC - 1651calBC (8.2%)	1665calBC - 1500calBC (65.4%)
				161calBC - 1605calBC (32.2%)	
				1577calBC - 1536calBC (27.9%)	
IAAA-12197	3520 \pm 20	64.5 \pm 0.19	3552 \pm 24	1911calBC - 1880calBC (68.2%)	1961calBC - 1870calBC (75.7%)
					1846calBC - 1811calBC (11.8%)
					1804calBC - 1776calBC (7.9%)
IAAA-12198	3700 \pm 20	62.42 \pm 0.19	3809 \pm 25	2286calBC - 2205calBC (68.2%)	2340calBC - 2194calBC (67.9%)
					2176calBC - 2144calBC (7.9%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-121299	4.00 ± 30	60.57 ± 0.21	3914 ± 28	249calBC - 2431calBC (26.9%)	247calBC - 233calBC (68.8%)
				242calBC - 2402calBC (16.7%)	233calBC - 2300calBC (6.6%)
				2381calBC - 2348calBC (21.6%)	
IAAA-121300	3.80 ± 30	61.82 ± 0.19	3819 ± 25	229calBC - 2267calBC (20.7%)	240calBC - 238calBC (1.9%)
				226calBC - 226calBC (47.3%)	234calBC - 2196calBC (89.9%)
					217calBC - 2146calBC (3.6%)
IAAA-121301	3.07 ± 30	68.26 ± 0.2	3046 ± 24	137calBC - 1336calBC (37.9%)	1397calBC - 1259calBC (64.2%)
				132calBC - 129calBC (25.5%)	1228calBC - 1221calBC (1.2%)
				127calBC - 1271calBC (4.8%)	
IAAA-121302	9.0 ± 20	89.34 ± 0.25	903 ± 23	1047calAD - 1090calAD (37.3%)	1040calAD - 1110calAD (47.0%)
				1121calAD - 1140calAD (13.6%)	1116calAD - 1209calAD (48.4%)
				1149calAD - 1172calAD (17.3%)	
IAAA-121303	3.37 ± 30	65.76 ± 0.22	3281 ± 27	1608calBC - 1570calBC (33.3%)	1638calBC - 1496calBC (65.4%)
				1561calBC - 1519calBC (31.9%)	
IAAA-121304	1.20 ± 20	85.73 ± 0.22	1236 ± 21	695calAD - 698calAD (1.4%)	690calAD - 751calAD (41.6%)
				705calAD - 747calAD (33.3%)	762calAD - 870calAD (53.8%)
				766calAD - 783calAD (14.8%)	
				789calAD - 811calAD (15.1%)	
				817calAD - 855calAD (37%)	

[参考値]

文献

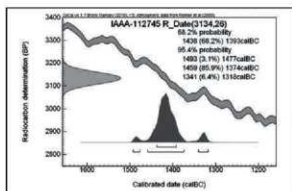
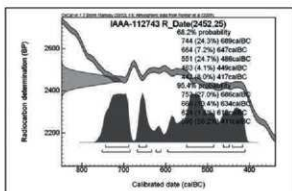
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

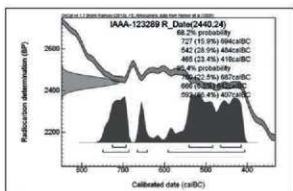
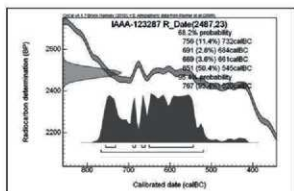
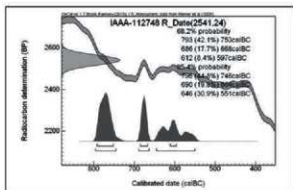
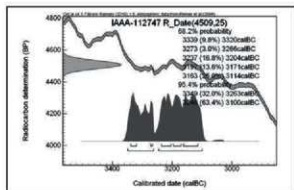
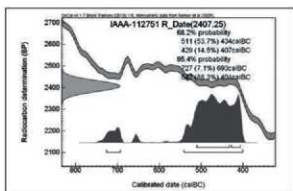
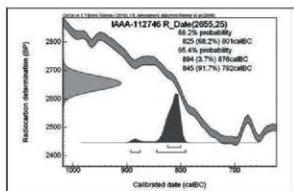
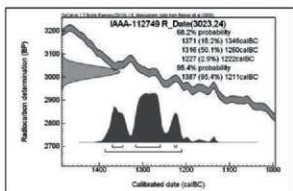
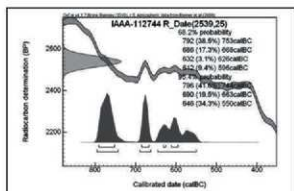
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

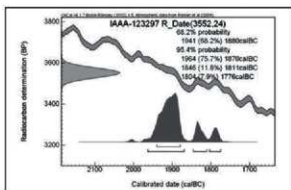
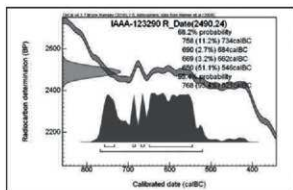
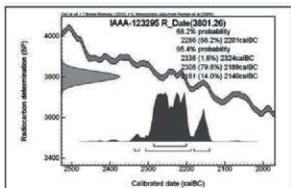
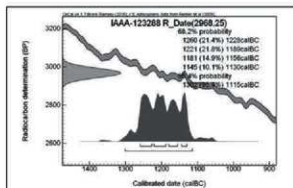
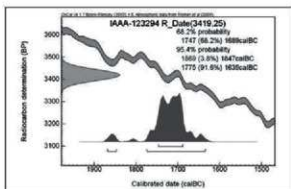
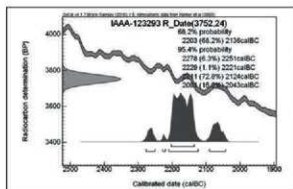
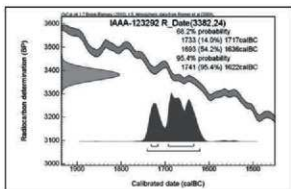
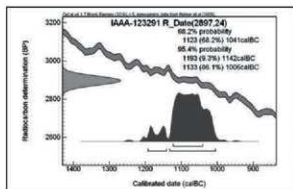
小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82

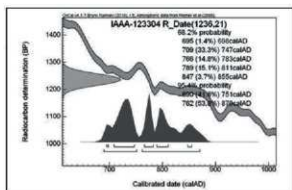
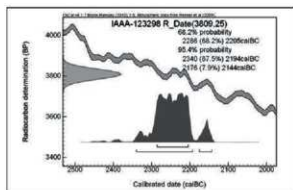
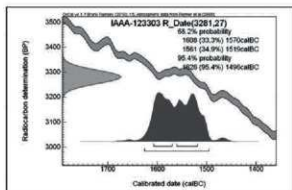
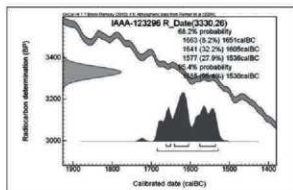
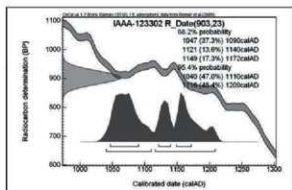
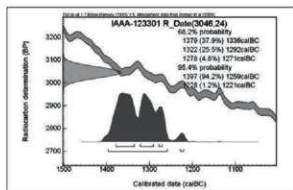
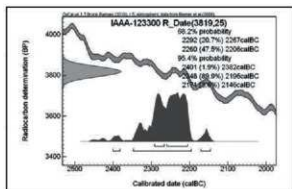
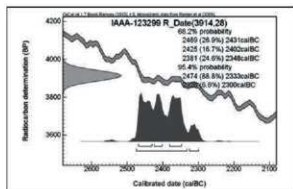
小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150









[参考] 暦年較正年代グラフ



新田II-1



新田II-2



新田II-3



新田II-4



新田II-5



新田II-6



新田II-7



新田II-12



新田II-13



新田II-14



新田II-15



新田II-16



新田II-17



新田II-18



新田II-19



新田II-20



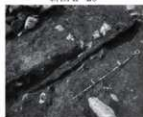
新田II-21



新田II-22



新田II-23



新田II-24



新田II-25



新田II-26



新田II-27



新田II-28



新田II-29



新田II-30



新田II-31

2 花粉分析

吉川昌伸 (古代の森研舎)

(1) はじめに

新田II遺跡は、現新田沢が猿ヶ石川に合流する辺りの新田沢沿いの谷部から斜面にある。本遺跡の最も標高の高い部分は縄文前期の集落跡、中段部分は縄文中期の集落跡が確認されている。今回、遺跡内で最も西側の谷部分の発掘調査の結果、縄文時代中期中頃から平安時代にかけて、大きく7期の沢跡の変遷が確認された。各沢跡からは土器や石器、土偶などの遺物やトチノキ種皮やクルミ内果皮の破片も出土し、縄文人が水場や作業場、あるいはゴミ捨て場として利用されていたことがわかっていいる。ここでは周辺の植生や生業を解明する資料を得るため、沢内堆積物の花粉化石を調査した。

(2) 試料と分析方法

試料は、NR05 沢跡、NR04 沢跡、NR02 沢跡内堆積物より採取した(図1)。NR05・NR06 沢跡は、最も古い流路で、縄文中期中頃から後期初頭頃に形成されたと考えられている。NR04 沢跡は、縄文後期初頭から中頃で、巨礫からなる砂礫層が厚く堆積し、各流路跡で最も流れの強い環境で形成された流路である。NR02 沢跡は縄文晩期中頃で、大洞 C2 式土器や石器、土偶などが大量に廃棄され、トチノキ種皮やクルミ内果皮の破片も大量に廃棄されていた。

分析地点の地質柱状図と花粉分析試料採取層準を図2に示す。各地点のセクション図と堆積物の記載はここでは示さないが、流路内堆積物は主にオリブ黒色シルト質細粒砂からなる。A(3B1)やB(4C5)地点の下部層では植物遺体を比較的多く含み、両地点の中部層では炭化物が集積した層が分布する。

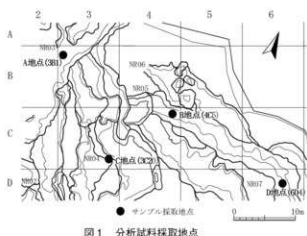


図1 分析試料採取地点

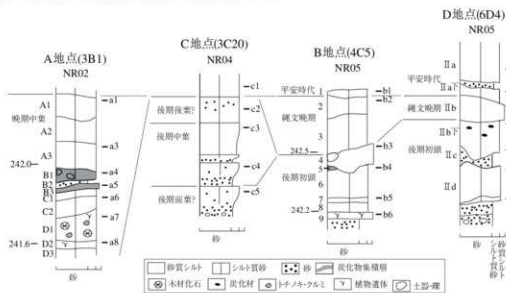


図2 地質柱状図と花粉分析試料採取層準

分析試料は4地点から採取した25試料である。試料は室内で柱状試料の内部より採取した。花粉化石の抽出は、試料約1~4gを秤量し体積を測定後に10%KOH(湯煎約15分)、傾斜法と篩(目の開き0.25mm)により粗い植物遺体と砂を取り除き、48%HF(約15分)、重液分離(比重2.15の臭化亜鉛)、アセトリシス処理(濃硫酸1:無水酢酸9の混液で湯煎5分)の順に処理を行った。なお、植物遺体を多く含むB(4C5)地点b6試料は重液分離を除く。プレバート作製は、残渣を適量に希釈しタッチミキサーで十分攪拌後、マイクロベットで取り重量を測定(感量0.1mg)しグリセリンで封入した。同定と計数はプレバート1~2枚の全面を行った。また、堆積物の性質を調べるために、有機物量、シルト以下の細粒成分、砂分量、及び生業の指標となる微粒炭量について調査した。有機物量については強熱減量を測定した。強熱減量は、電気マッフル炉により750℃で3時間強熱し、強熱による減量を乾燥重量百分率で算出した。微粒炭量は、プレバートの顕微鏡画像をデジタルカメラで取り込み、画像解析ソフトのImageJで75 μ mより大きいサイズの微粒炭の積算面積を計測した。

(3) 結果

分析試料の堆積物の特徴を表1に示す。堆積物は、細粒砂を主体とする無機物が卓越し、管力は弱いものの流水の影響のある環境で形成されている。

出現した分類群のリストとその個数を表2~5に、主要花粉分布図を図3~4に示す。出現率は、樹木は樹木花粉数、草本孢子は花粉孢子数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の分類群をハイフンで結んだのは、分類群間の区別が明確でないものである。また、バラ科とマメ科で樹木と草本の区別が出来ない分類群は草本花粉としてまとめた。

4地点の主要樹木花粉の出現傾向に基づき、下位よりSD-I~V帯の5つの花粉化石群帯を設定する。SD-I (b5~b6, c5, d4~d7)

SD-IはB(4C5)地点NR05 沢跡内堆積物の下部(b5~b6)、D(6D4)地点NR05・06 沢跡の下部(d4~d7)、C(3C2)

表1 新田Ⅱ遺跡分析試料の堆積物の特性(重量%)

グリップ	No.	層位	時期	堆積物の特徴	砂	シルト 粘土	強熱減量 (有機物量)
A地点(C94) (NR02 沢跡)	A1	A1		オレンジ黒色シルト質細粒-微細粒砂	57.5	32.8	9.7
	A3	A3	晩期中葉	オレンジ黒色シルト質中-微細粒砂	70.5	20.4	9.1
	A4	B1	晩期中葉	オレンジ黒色シルト質細粒砂、炭多く含む	65.9	30.3	23.8
	A5	B3	晩期中葉	黒色無機物砂質シルト、炭多く含む	20.7	33.7	45.6
	A6	C2	晩期中葉	オレンジ黒色シルト質微細粒砂	57.9	28.5	13.6
	A7	D1	晩期中葉	オレンジ黒色有機質シルト質微細粒砂	64.2	17.9	17.9
	A8	D2	晩期中葉	オレンジ黒色有機質シルト質微細粒砂	53.9	24.2	21.9
B地点(C45) (NR05 沢跡)	B1	1	平安	オレンジ黒色シルト質細粒砂	51.0	38.4	30.6
	B2	2	縄文晩期	オレンジ黒色シルト質細粒砂	53.3	33.7	13.0
	B3	4	縄文晩期初期	灰オリーブ色無機物砂質シルト	38.6	50.7	10.7
	B4	5	縄文晩期初期	黒色細粒砂質シルト、炭多く含む	30.4	41.6	28.0
	B5	7	縄文晩期初期	灰色シルト質微細粒砂	61.1	29.6	9.3
	b6	9	縄文晩期初期	黒色有機質無機物砂質シルト、植物遺体多く含む	23.2	32.5	44.3
C地点(C32a) (NR04 沢跡)	C1			オレンジ黒色シルト質細粒砂	61.0	30.2	8.8
	C2		縄文晩期後葉?	オレンジ黒色シルト質細粒砂	61.0	30.8	8.2
	C3		後期中葉	灰オリーブ色シルト質細粒砂	70.1	22.7	7.2
	C4		後期中葉	灰オリーブ色シルト質細粒砂	75.0	19.9	5.1
	C5		後期前葉?	灰色シルト質細-中粒砂	78.6	17.3	4.1
D地点(6D4) (NR05 沢跡)	D1	Ⅱa	平安	黒色有機質シルト質細粒砂	48.6	36.9	14.5
	D2	Ⅱa下	平安	褐色灰色シルト質細粒砂	47.9	40.6	11.5
	D3	Ⅱb	縄文晩期	黒色有機質無機物砂質シルト	30.0	54.6	15.4
	D4	Ⅱb下	縄文晩期初期	オレンジ黒色シルト質微細粒砂、炭含む	58.9	28.2	12.9
	D5	Ⅱb下	縄文晩期初期	オレンジ黒色シルト質微細粒砂	56.5	33.9	9.6
	D6	Ⅱd	縄文晩期初期	オレンジ黒色シルト質微細粒砂	66.3	25.2	8.5
	D7	Ⅱd	縄文晩期初期	オレンジ黒色有機質シルト質微細粒砂	59.8	27.4	12.8

出現し、アサが各地点から出現している。微粒炭は D(6D4) の II b 下層 (d4) で 3277mm²/cm³ と多量に含まれ、他の層準や他地点でも 215 ~ 1368mm²/cm³ と比較的多い。

SD- II (a4 ~ a8)

SD- II は A(3B1) 地点 NR02 沢跡内堆積物の下部 (a4 ~ a8) が相当する。SD- II の花粉組成は、SD- I と類似するがクリが増加傾向を示すこと、時期が異なることから区別した。本帯下部ではコナラ亜属とトチノキが高率で出現し、上部でクリが増加し高率を占める。上部の a5 では花粉の保存が悪いためクリ型とした花粉がクリ属の大半を占める。クリ型を含めたクリの頻度は下部で 13%、上部では 46% と高率である。トチノキは下部では 37% であるが、上部では減少して低率になる。他にクルミ属やクマシデ属-アサダ属、ケヤキ属型、カツラ属、カエデ属、トネリコ属などが出現する。微粒炭は、下部では 1891050 mm²/cm³ であるが、上部では 4736 ~ 5234 mm²/cm³ と夥しい量の炭が含まれる。

SD- III (a4 ~ a8)

SD- III は D(6D4) 地点 NR05 沢跡内堆積物の中部 (d2 ~ d3)、B(4C5) 地点 NR05 沢跡の上部 (b2)、A(3B1) 地点 NR02 沢跡の上部 (a1 ~ a3) が相当する。本帯ではコナラ亜属が高率で出現し、ケヤキ属型を伴う。ケヤキ属型は特に D(6D4) 地点で比較的多く占める。また、前期まで高率で出現していたクリは低率になる。他にサワグルミ属、ハンノキ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属などが出現し、トチノキは 4 ~ 11% を占める。草本ではイネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科などが出現し、D(6D4) 地点からはアサ型が検出される。微粒炭は 310 ~ 764 mm²/cm³ と幾分多い。

SD- IV (d1)

SD- IV は D(6D4) 地点 NR05・06 沢跡内堆積物の上部 (d1) と B(4C5) 地点 NR05 沢跡の上部 (b1) が相当する。コナラ亜属が比較的高率を占め、クリが高率ないし比較的高率で出現する。ケヤキ属型は減少し低率になる。他にクマシデ属-アサダ属、ブナ、スギの頻度が幾分高くなるが、全体に占める樹木花粉の頻度は低くなる。クリは 5C 地点では 38%、D(6D4) で 15% を占める。草本ではイネ科の野生型とイネ型、カヤツリグサ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が比較的多く占め、アサヤソバ属などが出現する。微粒炭は 426 ~ 694 mm²/cm³ と比較的多く含まれる。

SD- V (c1)

SD- V は C(3C20) 地点 NR04 沢跡内堆積物の上部 (c1) が相当する。針葉樹のスギが高率に出現し、マツ属複維管束亜属を比較的高率で伴うことにより特徴づけられる。他にクリが 11% を占めるが、他の分類群は低率で、コナラ亜属やトチノキ、カエデ属などが出現している。草本ではイネ科の野生型やヨモギ属が幾分多く占め、イネ型、アブラナ科などが出現している。微粒炭は 1293 mm²/cm³ と多く含まれる。

(4) 考 察

各地点の堆積物の考古遺物編年に基づくと、周囲の植生は下位より A ~ E の 5 時期に区分される。A ~ E 期は花粉化石群帯の SD- I ~ V 帯にそれぞれ対応する。

- A 期：クリ林とトチノキ林期（縄文後期初頭頃）
- B 期：クリ林の拡大とトチノキ林期（縄文晩期中葉頃）
- C 期：コナラ亜属とケヤキを主とする落葉広葉樹林期（縄文晩期頃）
- D 期：落葉広葉樹林の縮小及びコナラ亜属とクリ林期（平安時代）
- E 期：スギが優勢な林期（中世頃）
- A 期：クリ林とトチノキ林期（縄文後期初頭頃）

この期の堆積物は、NR05 沢跡 B(4C5) 地点、NR05 沢跡 D(6D4) 地点、NR04 沢跡 C(3C20) 地点で確認され、土器形式編年からは縄文後期初頭頃と推定される。各分析地点と陸域までの距離は、NR05・06 沢跡は低地の東端にあり約 10m、C(3C20) は低地の中央付近であるため約 20～30m である。また、花粉化石群は河川堆積物のため飛来花粉と流水により上流域から搬入された花粉から構成される。

花粉化石群の組成は、コナラ亜属やケヤキなどの風媒花粉よりもクリやトチノキの虫媒花粉の頻度が高い。クリとクリ型を含む頻度は、D(6D4) で 24～52%、B(4C5) で 23～36%、C(3C20) で 38% と各地点とも高率である。また、トチノキは D(6D4) や C(3C20) 下部で 32～33% と高率を占める。クリ花粉は、クリ林の周囲に落葉広葉樹林が広がっている地点においては、樹木花粉比率がクリ純林内で 30% 以上、林内に約 25m 以上入った中央部で約 60% 以上を占め、クリ林から離れると急減し、風下側の樹冠縁から約 20m で 5% 以下、約 200m では 1% 以下とクリ花粉の散布範囲が狭いことが明らかになっている(吉川, 2011)。さらに、空中浮遊花粉と落下花粉がクリ林から約 15m 以内で急減すること、虫媒種のトチノキの飛散範囲はクリより狭く樹冠縁から約 10m 以内で急減することがわかっている(未公表)。つまり、A 期では風媒花粉よりも虫媒花粉が優勢であることから、沢の側はコナラ亜属やケヤキなどの風媒種の樹木は稀で、沢筋にトチノキが分布しその内陸側にクリ林が広がっていたと考えられる。さらに、上流の沢沿いにコナラ亜属などの風媒種の樹木が分布していた場合にはクリ花粉の頻度が過小に表現されるが、この期では頻度が 30% を超える層数が多いため上流域の沢沿いにもクリが優勢な林が広がっていた可能性が推測される。また、クリ林の内陸側にはコナラ亜属を主としケヤキやニレ属、クワ科、クロウメドキ科(ケンボナシ属の根材出土)、カエデ属、ウコギ科などからなる落葉広葉樹林が分布し、林縁にはニワトコ属、川沿いにはオニグルミも分布していた。一方、アサ花粉が僅かではあるが各地点から検出されていることから、周辺でアサの栽培が行われていたと推測される。アサ花粉は風媒種で散布範囲が広いことから、仮にアサ畑が分析地点の風上にある場合は数 100m 以上離れた所(未公表)、風下の場合は場所を限定できないが近傍にあった可能性もある。

クリ林は、縄文早期後葉に新潟県中越地方の卯ノ木泥炭層遺跡(吉川, 2012) や宮城県浜浜貝塚(吉川・吉川, 2003) などの遺跡で形成され、縄文前期や中期には関東から東北地方の各地の集落の周辺で広く形成されていた。おそらく早期にはクリの木を積極的に保護し、前期以降には居住地の周囲を切り開いてクリを播く、あるいは植栽してクリ林を形成し維持管理していた可能性も推測される。

堅果類ではクリとトチノキが多く、オニグルミが少量出土している。クリやトチノキは果皮の破片や割り痕跡のある果皮、種子の破片などの利用痕跡のある遺体が多く、少なくとも縄文後期初頭にはすでにトチノキが利用されていたと考えられる。トチノキは、縄文中期後半以降に関東から東北地方の丘陵や台地の谷筋から斜面を中心にクリ林の縮小に伴って拡大する遺跡が多くみられ(吉川, 2008)、近野遺跡(青森県埋蔵文化財調査センター, 2006) や三内丸山(9) 遺跡(青森県埋蔵文化財調査センター, 2008) では縄文中期中葉頃のトチノキ種子片集積遺構が検出されている。

B 期：クリ林の拡大とトチノキ林期(縄文晩期中葉頃)

この時期の堆積物は NR02 沢跡 A(3B1) 地点で確認され、土器形式編年からは縄文晩期中葉と推定される。分析地点から陸域までの距離は約 20m である。

花粉化石群の組成は A 期とはほぼ同様で、クリとトチノキが高率を占め、コナラ亜属が比較的高率で出現する。A 期の縄文後期から大きな変化がなく同様な植生が継続していた可能性もある。しかし、東京都東村山市下宅部遺跡(未公表)のようにクリ林が縄文後期に縮小したが縄文晩期に再び形成された事例もあることから、A 期と同様な植生が継続して分布していたとは限らない。また、クリが増

加傾向を示すことから A 期と区分した。但し、周辺のクリ林やトチノキ、コナラ亜属を主とする落葉広葉樹林の分布状況については A 期とおおむね同様である。一方、B 期の堆積物の上部の B1 と B3 層には夥しい量の微粒炭が含まれ、B3 層でクリ花粉が 46% と高頻度になる。最上部の B1 層は乾燥化し花粉化石の残りが悪いので花粉組成がはっきりしないが、B1 ~ B3 層が堆積した頃には縄文後期以降においてこの付近で最も規模の大きなクリ林が形成された可能性がある。なお、縄文晩期層からは利用痕跡が認められるオニグルミ内果皮やトチノキ種子片が多く出土している。

C 期：コナラ亜属とケヤキを主とする落葉広葉樹林期（縄文晩期頃）

この時期の堆積物は NR05 沢跡 B(4C5) 地点、NR05 沢跡 D(6D4) 地点、NR02 沢跡 A(3B1) 地点で確認され、土器形式編年からは縄文晩期頃と推定される。

C 期には、縄文晩期中葉に形成されたクリ林が縮小して疎疎になり、コナラ亜属やケヤキ、カエデ属を主とする落葉広葉樹林へと変化した。一方でトチノキは沢の側に分布していたようである。B 期と C 期で周辺の植生が大きく変化しているが、その変遷が分かる花粉組成は得られていない。また、B 期上部の B1 層に含まれる夥しい微粒炭がクリ林の縮小と関係しているかどうかについては、花粉化石が稀なため明らかでない。

D 期：落葉広葉樹林の縮小とコナラ亜属とクリ林期（平安時代）

この時期の堆積物は NR05 沢跡 B(4C5) 地点と NR05 沢跡 D(6D4) 地点で確認され、土器形式編年に基づき平安時代と推定されている。

周辺の植生は、コナラ亜属やクリ、クマシデ属-アサダ属、ケヤキ、カエデ属、ウコギ科、トチノキ、サワグルミ属などの植物相からなる落葉広葉樹林が形成されていた。B(4C5) 地点ではクリが 38% と高率で出現することから、B(4C5) 地点の近傍の東側の斜面にクリ個体があったことは確かで、クリ林であった可能性もある。一方で、イネ型花粉が出現し、抽水植物のオモダカ属やサジオモダカ属を伴うことから、周辺で水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の乾燥地ではソバやアサの栽培も行われていたと推測される。

E 期：スギが優勢な林期（中世頃）

この時期の堆積物は、NR04 沢跡 C(3C20) 地点で確認され、晩期中葉の土器が包含されているものの花粉組成からは中世頃の比較的新しい堆積物と推定される。

この期には周辺の森林植生が大きく変化する。つまり、コナラ亜属を主とする落葉広葉樹林は縮小し、針葉樹のスギやマツ属複雑管束亜属が優勢な植生へと変化した。またクリはスギ林の縁の沢側に生えていたようである。東北地方におけるスギ林の拡大は地点により異なり、東北地方の日本海側より太平洋側で遅れる。また、岩手山南東麓春子谷地湿原（標高 460m）（吉田・吉木，2008）や仙台平野北部の沼向遺跡（吉川，2010）では十和田 a テフラ降灰頃、岩手県南部の一関市巖美町本寺地区では 14 世紀頃以降である（平塚ほか，2013）。したがって、本遺跡におけるスギ林の拡大も中世頃である可能性が高い。一方、イネ型花粉が出現していることから、周辺では水田稲作を行っていたようである。

引用文献

- 青森県埋蔵文化財調査センター，編，2006. 近野遺跡Ⅸ－県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－. 青森県埋蔵文化財調査報告書第418集. 476pp. 青森県教育委員会，青森.
- 青森県埋蔵文化財調査センター，編，2008. 三内丸山(9)遺跡Ⅱ－東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－. 青森県埋蔵文化財調査報告書第448集. 90pp. 青森県教育委員会，青森.
- 平塚 明・島田直明・吉木岳哉・吉川昌伸，2013. 一関市殿美町本寺地区磐井川左岸の旧河道における花粉分析. 「骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書（自然）骨寺村荘園遺跡村落景観調査研究自然関係調査平成23年度業務報告書」（一関市博物館骨寺村荘園遺跡村落調査研究自然調査研究班 編）21-34.
- 吉田明弘・吉木岳哉，岩手山南東麓春子谷地湿原の花粉分析からみた約13,000年前以降の植生変遷と気候変化. 地理学評論，81：228-237.
- 吉川昌伸，2008. 東北地方の縄文時代中期から後期の植生とトチノキ林の形成. 環境文化史研究1号：27-35.
- 吉川昌伸，2010. 沼向遺跡平成14年度（第19次調査）花粉分析. 「沼向遺跡第4～34次調査 第9分冊」（仙台市教育委員会編）：197-204.
- 吉川昌伸，2011. クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況. 植生史研究，18：65-76.
- 吉川昌伸，2012. 卯ノ木泥炭層遺跡の花粉化石群. 日本学術振興会科学研究費補助金基礎研究B 研究成果報告書「新潟県卯ノ木泥炭層遺跡の発掘調査による縄文文化形成期の古環境と生業の研究」（研究代表者：谷口康浩）：199-210. 國學院大學文学部考古学研究室.
- 吉川昌伸・吉川純子，2003. 里浜貝塚西畑北地点における縄文時代前期の植物化石群. 「里浜貝塚 平成13・14年発掘調査概報」（鳴瀬町教育委員会編）：39-53.

表2 A地点(3B1)より出現した花粉化石の一覧表

群 本	和 名	学 名	A1	A3	B1	B3	C2	D1	D2	
			a1	a3	a4	a5	a6	a7	a8	
樹 本	トウヒ属	<i>Pinus</i>	-	-	-	1	1	-	1	
	マツ属後葉節東亜属	<i>Pinus subgen. Diploxylois</i>	-	-	-	1	2	1	1	
	マツ属(不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	1	-	-	-	-	-	-	
	コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	-	1	1	-	-	
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don</i>	-	-	-	1	3	4	3	
	ノダスミ属	<i>Platycarya</i>	-	-	-	-	1	-	-	
	サワダルミ属	<i>Prinoscarya</i>	1	1	-	-	-	2	-	
	クルミ属	<i>Juglans</i>	-	1	-	3	16	9	3	
	サワダルミ属-クルミ属	<i>Prinoscarya - Juglans</i>	2	-	-	-	-	-	-	
	クマシダ属-アキダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	1	-	-	2	11	5	2	
	カハノキ属	<i>Betula</i>	2	-	-	-	2	-	2	
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	7	5	2	8	4	-	2	
	ブナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	2	-	-	-	1	-	-	
	イヌブナ	<i>Fagus japonica Maxim.</i>	1	-	-	-	-	-	-	
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	52	13	2	54	62	62	30	
	コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	-	-	-	-	3	-	-	
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	-	1	-	3	115	38	13	
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	1	4	7	84	-	-	-	
	シメキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	-	1	1	
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	-	2	-	1	2	3	-	
	ケヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	7	4	2	17	19	11	4	
	ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	6	2	-	-	2	-	-	
	エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis - Apocynantho</i>	-	-	-	-	1	-	-	
	クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	-	-	-	1	-	
	カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	-	-	-	-	2	3	-	
	コナラ科	<i>Orus</i>	-	-	-	-	1	-	-	
	キハダ属	<i>Phellodendron</i>	-	-	-	-	1	1	-	
	モチノキ属	<i>Ilex</i>	-	-	-	1	-	-	-	
	カエデ属	<i>Acer</i>	4	2	1	1	1	2	2	
	トナノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	7	1	1	11	45	26	38	
	クロウメモドキ科	<i>Rhamnaceae</i>	-	-	-	-	1	-	-	
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	3	-	-	1	1	2	-	
	ウコギ科	<i>Anolisaceae</i>	3	1	-	-	1	1	-	
	トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	-	-	-	7	13	-	
	ガマズミ属	<i>Viburnum</i>	-	-	-	-	-	-	1	
	草 本	イネ科(野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	6	3	1	7	-	1	1
		カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	-	-	-	-	2	1	-
		アザ-カナムグラ属	<i>Conyza sativa - Hamulus</i>	1	1	-	-	-	-	1
		アザ科	<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	-	1	-	-	-
		カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	4	3	4	5	1	-	-
		他のキンポウゲ科	<i>other Ranunculaceae</i>	-	-	-	-	-	1	-
		マメ科	<i>Leguminosae</i>	-	-	-	-	-	-	1
		セリ科	<i>Umbelliferae</i>	2	-	1	6	1	-	-
		ヘクソカズラ属	<i>Pandera</i>	-	-	-	-	-	-	1
		ヨモギ属	<i>Asteris</i>	20	9	4	6	2	5	-
		他のキク亜科	<i>other Tubuliflorae</i>	9	1	1	2	-	-	1
		タンポポ科	<i>Leguliflorae</i>	2	1	-	2	-	-	-
		シダ植物	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	2	1	-	2	3	-
	他のシダ植物孢子		<i>other Pteridophyta</i>	6	5	2	10	9	5	2
	樹木花粉	Arboreal pollen	100	37	15	190	306	185	103	
	草本花粉	Nonarboreal pollen	45	18	11	29	6	8	5	
	シダ植物孢子	Fern spores	8	6	2	12	12	5	2	
花粉・孢子類	Pollen and Spores	153	61	28	201	324	198	110		
不明花粉	Unknown pollen	32	6	5	6	10	3	7		
樹木花粉量(粒/cm ³)		259	254	870	6841	13207	1984	1203		
樹木花粉量(mm ³ /cm ³)		694	775	3234	4736	404	1050	189		

表3 B 地点 (4C5) より出現した花粉化石の一覧表

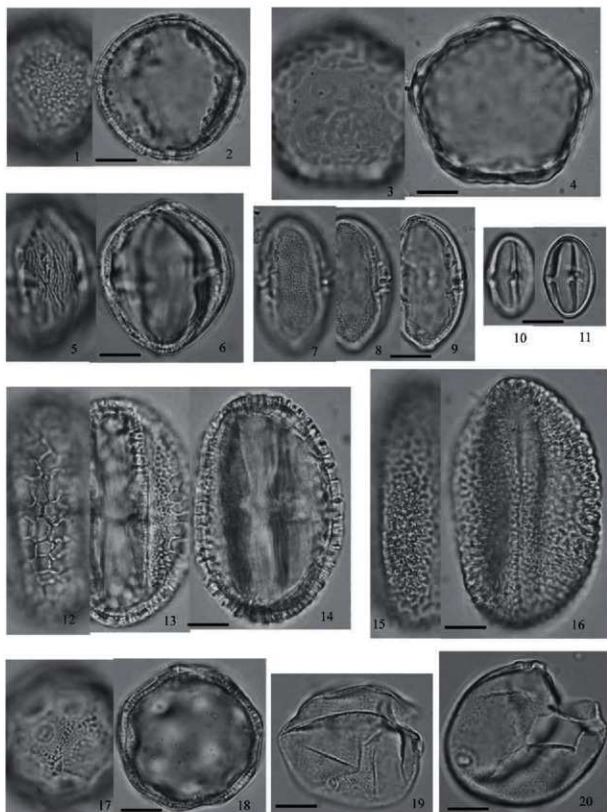
	和 名	学 名	1	2	3	4	5	
			c1	c2	c3	c4	c5	
樹 木	マツ属放射管束型属	<i>Pinus subgen. Diploxylin</i>	42	-	-	-	-	
	マツ属 (不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	4	-	-	-	-	
	コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	1	-	-	-	-	
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don</i>	155	1	-	-	-	
	イチノキ科-ヒノキ科-イヌガヤ科	<i>Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae</i>	-	-	-	-	-	
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis type</i>	4	-	-	-	-	
	ヤナギ属	<i>Salix</i>	1	-	-	-	-	
	サワグルミ属	<i>Paucicarya</i>	-	-	-	-	3	
	クルミ属	<i>Juglans</i>	1	-	-	1	4	
	サワグルミ属-クルミ属	<i>Paucicarya - Juglans</i>	-	1	-	1	5	
	クマシラ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	-	-	-	-	2	
	カバノキ属	<i>Betula</i>	1	-	-	-	-	
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	4	2	-	-	3	
	フナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	-	-	-	-	2	
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobolamus</i>	9	7	1	14	59	
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	28	-	-	1	133	
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	-	1	1	12	1	
	シノノキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	1	
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	1	-	-	-	3	
	ケヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	2	6	-	4	9	
	カエデ属	<i>Acer</i>	1	-	-	3	4	
	トナノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	7	2	1	30	115	
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	-	2	1	2	4	
	マタタビ属	<i>Actinidia</i>	1	-	-	-	-	
	ウコギ科	<i>Anulicaceae</i>	-	-	-	2	1	
	スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	-	-	-	-	1	
	草 本	イネ科 (イネ型)	<i>Gramineae (Oryza type)</i>	25	-	-	-	-
		イネ科 (野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	43	3	-	4	4
		カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	10	2	-	1	-
		アサ	<i>Cannabis sativa L.</i>	-	-	-	1	-
		カナムグラ属	<i>Humulus</i>	-	-	-	-	1
		アサ-カナムグラ属	<i>Cannabis sativa - Humulus</i>	1	-	-	-	2
		クワ科-イラクサ科	<i>Moraceae - Urticaceae</i>	1	-	-	-	-
ゴシキ属		<i>Rumex</i>	1	-	-	-	-	
アサザ科		<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	-	-	1	
カラマツソウ属		<i>Thalictrum</i>	3	-	-	-	-	
他のキンポウゲ科		<i>other Ranunculaceae</i>	1	1	-	-	-	
アブラナ科		<i>Cruciferae</i>	2	4	-	-	-	
セリ科		<i>Umbelliferae</i>	4	-	-	-	-	
ヘクソカズラ属		<i>Pulsatilla</i>	-	-	-	-	-	
ヨモギ属		<i>Artemisia</i>	40	5	-	2	5	
他のキク亜科		<i>other Tubuliflorae</i>	4	2	1	1	1	
タンポポ科		<i>Liguliflorae</i>	18	2	-	-	-	
シダ植物		ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	1	-	-	1	-
		ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	1	-	-	3	4
		他のシダ植物孢子	<i>other Pteridophyta</i>	43	-	-	3	-
他のパルノモルフ			-	-	-	-	-	
棘虫 (寄生虫等)	<i>Trichuris (egg)</i>	1	-	-	-	-		
樹木花粉	<i>Ashraet pollen</i>	362	22	4	60	330		
草本花粉	<i>Nonarboreal pollen</i>	154	19	1	9	14		
シダ植物孢子	<i>Fern spores</i>	45	0	0	7	4		
花粉・孢子類	<i>Pollen and Spores</i>	461	41	5	76	368		
不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	16	16	2	1	2		
樹木花粉量 (粒/cm ³)		370	112	14	296	3824		
微粒収量 (mm ² /cm ³)		1293	475	127	338	488		

表4 C地点(3C20)より出現した花粉化石の一覧表

群 本	群 名	学 名	c1	c2	c3	c4	c5
	マツ属雄球果葉果属	<i>Pinus subgen. Diplocladon</i>	42	-	-	-	-
	マツ属(不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	4	-	-	-	-
	コウヤマキ属	<i>Scodopyxis</i>	1	-	-	-	-
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (f. fl. J.D. Don)</i>	155	1	-	-	-
	イナオ科-ヒノキ科-イヌガヤ科	<i>Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae</i>					
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis type</i>	4	-	-	-	-
	ヤナギ属	<i>Salix</i>	1	-	-	-	-
	ヤブダリ属	<i>Pterocarya</i>	-	-	-	-	3
	クルミ属	<i>Juglans</i>	1	-	-	1	4
	ヤブダリ属-クルミ属	<i>Pterocarya - Juglans</i>	-	1	-	1	5
	クマシラ属-アサギ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	-	-	-	-	2
	カバノキ属	<i>Betula</i>	1	-	-	-	-
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	4	2	-	-	3
	フナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	-	-	-	-	2
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	9	7	1	14	59
	クナ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	28	-	-	1	133
	クナ型	<i>Castanea crenata type</i>	-	1	1	12	1
	シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	1
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	1	-	-	-	3
	クヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	2	6	-	4	9
	カエデ属	<i>Acer</i>	1	-	-	3	4
	トナノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	7	2	1	20	115
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	-	2	1	2	4
	マタタビ属	<i>Aristolida</i>	1	-	-	-	-
	ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	-	-	-	2	1
	スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	-	-	-	-	1
草 本							
	イネ科(イネ型)	<i>Gramineae (Oryza type)</i>	25	-	-	-	-
	イネ科(野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	43	3	-	4	4
	ホヤツリダマ科	<i>Cyperaceae</i>	10	2	-	1	-
	アサ	<i>Gnaphalium sativa L.</i>	-	-	-	1	-
	カナムグラ属	<i>Humulus</i>	-	-	-	-	1
	アサ-カナムグラ属	<i>Gnaphalium sativa - Humulus</i>	1	-	-	-	2
	クワ科-イワクサ科	<i>Moraceae - Urticaceae</i>	1	-	-	-	-
	ギンギン属	<i>Rumex</i>	1	-	-	-	-
	アヤザ科	<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	-	-	1
	カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	3	-	-	-	-
	他のキンゴウゲ科	<i>other Ranunculaceae</i>	1	1	-	-	-
	アブラ科	<i>Cruciferae</i>	2	4	-	-	-
	セリ科	<i>Umbelliferae</i>	4	-	-	-	-
	ヘタソカズラ属	<i>Paederia</i>	-	-	-	-	-
	ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	40	5	-	2	5
	他のキク亜科	<i>other Tubuliflorae</i>	4	2	1	1	1
	タンポポ亜科	<i>Liguliflorae</i>	18	2	-	-	-
シダ植物							
	ヒカゲノコズラ属	<i>Lycopodium</i>	1	-	-	1	-
	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	1	-	-	3	4
	他のシダ植物胞子	<i>other Pteridophyta</i>	43	-	-	3	-
他のバリノモルフ							
	顕虫(寄生虫卵)	<i>Trichuris (egg)</i>	1	-	-	-	-
樹木花粉		<i>Arboreal pollen</i>	262	22	4	60	260
草本花粉		<i>Nonarboreal pollen</i>	154	19	1	9	14
シダ植物胞子		<i>Fern spores</i>	45	0	0	7	4
花粉・胞子数		<i>Pollen and Spores</i>	461	41	5	76	368
不明花粉		<i>Unknown pollen</i>	16	16	2	1	2
樹木花粉量(粒/cm ³)			3470	112	14	296	2624
微粒質量(mm ² /cm ³)			1263	475	127	336	688

表5 D地点(6D4)より出現した花粉化石の一覧表

樹木	和名	学名	II a	II a F	II b	II b F	II b F	II d	II d	
			d1	d2	d3	d4	d5	d6	d7	
樹木	マキ属	<i>Podocarpus</i>	-	-	-	1	-	-	-	
	トウヒ属	<i>Picea</i>	-	1	-	1	-	-	-	
	マツ属中葉管束亜属	<i>Pinus subgen. Haploxylois</i>	-	3	2	1	-	2	-	
	マツ属短葉管束亜属	<i>Pinus subgen. Diploxylois</i>	1	5	2	3	2	4	2	
	マツ属(不明)	<i>Pinus (Undulata)</i>	1	1	-	-	1	-	-	
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L. fil.) D. Don</i>	5	6	1	-	2	5	2	
	イチイ科-ヒノキ科-イヌゴヤ科	<i>Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis type</i>	-	-	-	-	-	2	-	
	ヤナギ属	<i>Salix</i>	2	1	1	-	-	1	2	
	ヤナグルミ属	<i>Piceocorys</i>	5	9	3	2	-	2	1	
	ウルミ属	<i>Juglans</i>	1	1	2	4	3	13	12	
	クマシラ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	11	2	6	1	3	4	1	
	カバノキ属	<i>Betula</i>	-	1	1	1	2	1	1	
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	8	15	17	6	16	4	3	
	ブナ	<i>Fagus japonica</i>	12	4	1	3	-	3	3	
	イヌブナ	<i>Fagus japonica Mizum.</i>	1	-	-	-	-	-	1	
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	45	37	102	61	94	86	66	
	コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	1	-	-	-	-	-	1	
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	20	6	3	8	168	88	138	
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	2	-	-	34	47	1	-	
	シノキ属	<i>Castanopsis</i>	2	-	-	-	1	1	2	
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	2	5	10	3	3	2	4	
	クヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	9	33	46	15	12	16	9	
	エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis - Apocynthe</i>	-	-	3	-	-	-	-	
	クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	-	-	-	-	2	
	カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	2	-	-	-	-	-	-	
	モクレン属	<i>Magnolia</i>	-	1	-	-	-	-	-	
	キハダ属	<i>Phellodendron</i>	-	-	-	-	-	-	1	
	ユズリハ属	<i>Daphniphyllum</i>	-	-	-	-	-	-	1	
	スルギ	<i>Rhus javanica var. rutherfordii</i>	-	-	-	-	2	-	-	
	ニシキギ属	<i>Euonymus</i>	-	-	-	-	-	-	1	
	カエデ属	<i>Acer</i>	4	6	6	3	5	1	2	
	トナリホ	<i>Acerulus turbinata Blume</i>	6	10	10	22	42	33	130	
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	1	10	2	-	-	1	-	
	ウコギ科	<i>Ardisiacae</i>	4	1	1	1	5	1	-	
	イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	4	-	-	-	1	-	-	
	トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	3	5	7	4	3	3	
	草本	ミクリ属	<i>Spartanium</i>	-	-	1	-	-	-	-
		サジオモダカ属	<i>Alisma</i>	2	-	-	-	-	-	-
		オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	1	-	-	-	-	-	-
		イネ科(イネ型)	<i>Gramineae (Oryza type)</i>	44	-	-	-	-	-	-
		イネ科(野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	54	1	39	15	21	5	8
		カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	60	24	13	4	12	9	7
		ホシクサ属	<i>Eriocaulon</i>	1	-	-	-	-	-	-
		平ボウシ属	<i>Heta</i>	-	-	-	-	1	-	-
アザ		<i>Cannabis sativa L.</i>	-	1	-	-	-	-	-	
アサ-カナムグラ属		<i>Cannabis sativa - Humulus</i>	-	-	-	-	-	-	1	
クワ科-イラクサ科		<i>Moraceae - Urticaceae</i>	-	-	-	-	1	1	2	
イモダク属		<i>Pericaria</i>	-	-	-	1	-	-	-	
アザギ科		<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	1	-	-	-	-	
カラマツソウ属		<i>Thalictrum</i>	-	-	5	4	23	1	-	
他のキンボウグ科		<i>other Ranunculaceae</i>	-	2	2	5	13	1	1	
ユキノシタ科		<i>Saxifragaceae</i>	-	-	-	-	-	1	-	
他のバウ科		<i>other Rosaceae</i>	1	-	-	-	-	-	2	
マメ科		<i>Leguminosae</i>	1	-	-	-	-	-	1	
フリフネソウ属		<i>Impatiens</i>	2	-	-	-	-	-	1	
ミソハギ属		<i>Lythrum</i>	-	-	-	-	1	-	-	
セリ科		<i>Umbelliferae</i>	1	-	1	-	1	1	-	
ヨモギ属		<i>Artemisia</i>	33	9	42	8	23	7	4	
他のキク亜科		<i>other Tubuliflorae</i>	4	3	16	1	7	1	1	
タンポポギ科		<i>Liguliflorae</i>	1	-	-	1	-	-	-	
シダ植物		ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	1	-	-	-	-	-	-
		ヒシマイ属	<i>Onoclea</i>	2	4	17	2	3	1	
		他のシダ植物種子	<i>other Pteridophyta</i>	47	32	16	12	24	8	7
		樹木花粉	<i>Arboreal pollen</i>	145	161	228	177	413	296	379
草本花粉		<i>Nonarboreal pollen</i>	296	40	120	39	103	28	28	
シダ植物種子		<i>Fern spores</i>	50	36	33	14	27	8	8	
花粉・孢子数		<i>Pollen and Spores</i>	401	237	381	230	543	332	415	
不明花粉		<i>Unknown pollen</i>	17	14	2	16	7	7	9	
樹木花粉量 ($\times 10^3$ 粒/cm ²)			4.1	4.1	14.2	12.0	11.8	18.4	99.0	
総花粉量 (mm ² /cm ²)		1068	310	764	3277	215	231	1368		



図版1 新田Ⅱ遺跡から出現した花粉化石の顕微鏡写真

1-2: コナク亜属, d7, AFR.MY 2150. 3-4: ケヤキ型, d7, AFR.MY 2151. 5-6: コクサギ属, a6, AFR.MY 2155. 7: トノノキ, d7, AFR.MY 2152. 10-11: クリ, d7, AFR.MY 2153. 12-14: キハダ属, a6, AFR.MY 2156. 15-16: ソバ属, b1, AFR.MY 2154. 17-18: サジオモダカ属, d1, AFR.MY 2147. 19: アサ, c4, AFR.MY 2149. 20: アサ, b6, AFR.MY 2144.

スケール = 10 μ m

3 種実同定

吉川純子(古代の森研究舎)

(1) はじめに

新田Ⅱ遺跡は遠野市綾織町の猿ヶ石川左岸の河岸段丘上及び新田沢により開削された谷底平野に立地する。本遺跡の埋没した沢跡には縄文時代後期初頭及び晩期後半の遺物包含層(捨て場)が形成されており、木材や種実などの大型植物化石が比較的良好に保存されていた。そこで当時の植物利用状況及び古環境を把握する目的でこれら大型植物化石の調査をおこなった。同定に充てた種実等の試料は水洗選別済みの縄文時代～現代のクリ69試料、種実165試料、葉12試料である。これら試料は肉眼及び実体顕微鏡で観察同定した。

(2) 同定結果

新田Ⅱ遺跡から出土した堅果類可食部の時期別出土状態別数を表1に、堅果可食部以外の種実試料の時期別集計を表2.3にまとめた。クリ試料の試料毎同定結果は表4.5に、薬化石の同定結果は表6に、種実試料の試料毎同定結果は表7～15に一覧表で示した。また2軸以上の計測が可能なクリ果皮計測値は表16に一覧表として掲載した。クリ試料ではクリを含む6分類群を確認した。葉試料では葉の他に果皮など14分類群が確認された。種実試料は木本49分類群、草本14分類群を出土した。以下に特筆すべき分類群の形態記載をおこなう。

オニグルミ: 完形、動物による食痕のあるもの、半分で割痕が残るもの、破片、炭化破片を出土した。割痕はほとんどが内果皮上下端についている。

クリ: 葉、総苞(いが)、果皮、炭化子葉を出土した。いがは落下したものがあまり移動せずに堆積したと見られ、針状突起が塊となった状態であり基盤は腐敗して残っていない。果実は厚さがある完形と剥かれた果皮で潰れた状態や破片を出土し、果実側面剥きや縦半分割りなど果実の大きさが計測可能なものが多数確認された。炭化した子葉は三角形で縦方向にしわがあり内部は緻密で固く、乾燥した子葉が少酸素状態で炭化したと考えられる。

コナラ: 殻斗、幼果、果実、葉を出土した。殻斗は椀型～円錐形で細かい三角形の鱗片が密に付き鱗片の表面は平である。果実は長楕円形で基部のへそは果実径の2分の1程度で底が円い。先端が潰れたり縦半分の果皮が目立つことから加工された可能性がある。

ミズナラ: 殻斗、幼果を出土した。殻斗は椀型で殻斗内部の湾曲は縁で真っ直ぐたつ。鱗片の中央が突出しているため殻斗の表面がごつごつしている。

ヤマフジ: 葉を出土した。現在のフジ属のうちヤマフジの分布はおもに近畿以西とされているが、出土した葉の形状は基部がまるく広く先端に向かって徐々に細くなっており、フジのような葉面の波打がなく平滑であることからヤマフジと同定した。

表1 新田Ⅱ遺跡における利用堅果(クリ、トチノキ、オニグルミ)可食部の状況別出土個数

時期	クリ堅果				トチノキ種子			オニグルミ内果皮				
	完形(個)	完形外け(個)	破片重量(g)	破片の完形相当個数	完形(個)	破片重量(g)	破片の完形相当個数	完形(個)	割断半分(個)	動物食痕(個)	破片重量(g)	破片の完形相当個数
縄文時代後期初頭	1	34	636.5	292.2	54	1212.7	135.1	11	31	17	62.9	6.2
縄文時代後期初頭～後期中葉	-	9	170.9	81.0	61	1740.9	184.2	9	29	14	227.2	22.2
縄文時代後期中葉	-	-	5.7	2.7	17	286.5	29.8	5	5	3	19.4	1.9
縄文時代後期中葉～後期初頭	-	2	11.8	5.6	2	70.9	7.5	21	30	17	62.8	6.1
縄文時代晩期後半	1	4	62	29.4	27	221.6	38.0	15	340	17	939.9	220.0
縄文時代晩期後半～平安時代	1	-	3	1.4	51	16235.4	1723.1	1	4	2	15.4	1.5
平安時代	1	1	3.8	1.8	3	1.9	0.2	-	-	-	-	-
平安時代中期～現代	-	2	1.7	0.8	56	377.4	40.0	2	3	4.5	36.6	1.6

表2 新田II遺跡における堅果可食部以外的大型植物化石時期別出土個数(1)

分類群	出土部位/時期	縄文時代									縄文晩期 後半～ 平安	平安中期 ～ 現代
		中期 後葉	中期後葉 ～ 後期 初頭	後期 初頭	後期初頭 ～ 後期 中葉	後期 中葉	後期中葉 ～ 晩期 後半	晩期 後半	晩期	縄文 時代		
木本												
クロマツ	球果	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
カバノキ属	葉	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
ケヤマハンノキ近 似種	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
サワシバ	果実	-	10	99	8	4	-	164	-	-	1	-
イヌシダ	果実	-	-	5	1	-	-	5	-	-	-	-
アサダ	果実	-	2	34	23	2	-	56	-	-	6	1
	苞	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ブナ	殻斗	-	2	7	-	1	-	3	-	-	8	-
	殻斗破片	-	1	12	2	-	-	20	-	-	13	-
	殻斗破片炭化	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	1	-	-	-	6	-	-	2	-
	果皮破片	-	1	4	1	-	-	2	-	-	5	-
	葉	-	-	-	-	-	-	20+	-	-	-	-
クリ(可食部以外)	不熟果	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
	細胞破片(糠)	-	-	-	-	-	-	多数	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
コナラ	殻斗	1	25	61	-	-	-	18	-	-	3	-
	殻斗破片	-	-	9	1	-	-	9	-	-	2	-
	幼果	1	6	24	1	-	-	14	-	-	2	-
	幼果破片	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-
	果皮破片	-	1	15	2	-	-	10	-	-	2	1
	果実先端潰れ	-	2	4	-	-	-	4	-	-	2	-
	果実縦半分	-	1	-	-	-	-	5	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	20+	-	-	-	-
ミズナラ	殻斗	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	殻斗破片	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1
	幼果破片	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	31	9	-	-	36	-	-	11	-
	幼果	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ケヤキ	芽	-	4	11	-	1	-	30	-	-	-	-
	果実	-	-	3	-	-	-	12	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	10+	-	-	-	-
エノキ属	内果皮	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-
	内果皮破片	-	3	5	1	-	-	1	-	-	-	-
クワ属	種子	1	8	301	-	10	-	17	-	-	-	-
ホオノキ	種子	-	2	2	-	-	-	2	-	-	1	-
	種子破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
コブシ	種子	-	-	4	-	-	-	2	-	-	-	-
	種子破片	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ミヤマザクラ	核	-	3	9	1	-	-	16	-	-	-	-
モモ	核炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サクラ属	核	-	-	24	-	-	-	4	-	-	-	-
	核半分	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

表3 新田Ⅱ遺跡における堅果可食部以外の大型植物化石時期別出土個数(2)

分類群	出土部位/時期	縄文時代								縄文時代	縄文晩期 後半～ 平安	平安中期 ～ 現代
		中期 後葉	中期後葉 ～ 後期 初期	後期 初期	後期初期 ～ 後期 中葉	後期 中葉	後期中葉 ～ 後期 後半	晩期 後半	晩期			
木本												
ヤマブシ	小葉	-	-	-	-	-	-	-	10+	-	-	-
フジ属	芽	-	8	141	1	-	-	-	19	-	-	-
	さや完形	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	さや破片	-	8	40	-	-	-	-	-	-	7	-
	葉柄基部	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウ	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ	種子	-	3	14	-	-	-	-	13	-	-	-
	種子破片	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ニガキ	種子破片	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ハウチワカエデ近 似種	種子	-	3	16	10	-	-	-	18	-	-	-
ハウチワカエデ主 たはオオモミジ	葉	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
イタヤカエデ	果実	-	4	17	-	-	-	-	12	-	-	-
	種子	-	-	6	2	-	-	-	3	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-
クロビイタヤ近似 種	果実	-	2	1	5	-	-	-	27	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ミツデカエデ	果実	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-
トチノキ (可食部以外)	果皮破片	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-	-
	不熟果	1	20	80	4	-	-	-	28	1	-	9
	不熟果破片	2	19	61	3	2	-	-	20	-	6	2
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	不熟種子	3	13	27	5	1	-	-	21	-	-	5
	不熟種子破片	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
ケンボナンシ属	内果皮	-	-	7	-	-	-	-	2	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
タマヤナギ属	内果皮	-	1	2	-	-	-	-	2	-	-	-
ヤマブドウ	種子	-	1	12	-	-	-	-	1	-	-	-
ノブドウ	種子	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-
サルナシ	種子	-	-	22	-	-	-	-	1	-	-	-
マタタビ	種子	-	2	21	-	-	-	-	5	-	-	-
ミツハツツギ	種子	-	8	29	6	-	-	-	17	-	-	-
	種子破片	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	15	37	1	-	-	1	42	-	-	1
	内果皮破片	-	5	2	-	-	-	-	16	-	-	-
タマノミズキ	内果皮	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ヤチダモ	果実	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コシアブラ	果実	-	1	15	-	2	-	-	4	-	-	-
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
タラノキ	内果皮	-	2	57	1	1	-	-	10	-	-	-
ハクワンボク	内果皮	3	8	38	2	1	-	-	1	-	-	12
	内果皮破片	-	9	40	1	-	-	-	4	-	-	25
ムラサキシキブ属	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カンボク	内果皮	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	262	1	8	-	-	13	-	-	-
広葉樹	芽	-	11	33	1	-	-	-	103	-	-	-
草本												
ユリ科	種子	-	3	5	1	-	-	-	3	-	-	-
カヤツリグサ属	果実	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
アサ	果実半分	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズヒキ	果実	-	1	2	-	-	-	-	12	-	-	-
ミソソバ	果実	-	-	3	-	-	-	-	202	-	-	-
サダクサ	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタダ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
イヌタダ属	果実	-	-	4	-	-	-	-	2	-	-	-
ミズマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-
エノキグサ	種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ	種子	-	-	11	-	-	-	-	18	-	-	-
スミレ属	種子	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
キンシウ属	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	果実	-	-	1	-	-	-	-	7	-	-	-

トチノキ：果皮、不熟果、種子、不熟種子、炭化子葉など多くの状態で出土した。果皮は表面がざらつき不規則な斑点があり壁は粗い櫛状である。種子の上半分は黒色光沢の微細な指紋状模様がある種皮で覆われ、種子の下半分は光沢がない平滑で褐色のへそがある。食用として利用する際に複雑なく抜き工程が必要とされる。このときに一度乾燥させてから皮付きのまま粗く割って水さらしする方法があり、こうした過程で放棄された場合に種皮がめくれ上がることなく破片の状態で大量に堆積すると考えられる。

アサ：果実は楕円形2面型で基部に盤状でやや薄い褐色のへそが斜めにつき、表面はやや光沢がある明灰褐色で脈状の模様が確認できることが多い。本遺跡では2個のみで少数の出土であったが種子に油脂分を多く含むため周辺で利用していたと考えられる。

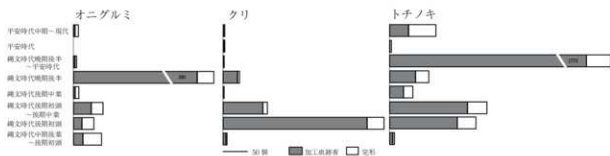


図1 新田Ⅱ遺跡から出土した堅果類の状態別出土個数

(3) 当時の植物利用と周辺的环境

本遺跡の縄文時代における堅果類の残存状態別出土個数を図1に示した。割り痕跡のある果皮や炭化した果皮、果皮の破片は加工痕跡有として重量から相当する完形個数に換算し、完形種実とは白抜きで示し、利用されていない種実を示している。換算に用いた数値は本遺跡から出土した完形種実の平均湿重(オニグルミは10.22g、クリは2.11g、トチノキは9.43g)を用いた。また、利用痕跡のある堅果類のみについて時期別の出土比率を図2に示した。縄文時代中期後葉～後期初頭にかけては利用されていないオニグルミがやや多いが、全体の出土個数が大変少ない。縄文後期初頭では利用後のクリとトチノキが多く、縄文後期初頭～後期中葉にはクリよりもややトチノキが多く廃棄されている。縄文後期中葉ではトチノキが多いが、この試料も出土個数が少ない。縄文後期後半では利用後のオニグルミがまとまって廃棄されていた。縄文後期後半～平安ではほとんどが利用されたトチノキで占められている。平安時代ではクリが優先して見えるが、出土個数が極端に少なくクリが過大評価されている。平安中期～現代では出土個数は少ないがトチノキの比率が多い。出土個数が極端に少ない縄文中期後葉～後期初頭と平安時代の試料を除いて比較すると、後期初頭頃はクリが多く廃棄されていたがトチノキの比率が徐々に高くなっていき、縄文後期後半だけオニグルミが極端に突出した。縄文時代のトチノキ利用についてはすでに中期から食料としての利用が本格

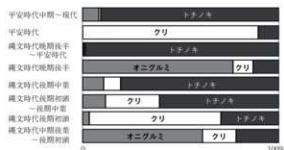


図2 新田Ⅱ遺跡から出土した利用堅果類の比率

化したと考えられており(吉川ほか 2005)、本遺跡でも食料として普通に利用されていたと考えられる。盛岡市の戸仲遺跡では縄文時代後期中頃から晩期中頃にかけての住居跡で炭化したトチノキが出土し、軽米町上野場3遺跡の縄文時代後期後葉の住居跡からも炭化したトチノキが出土している(高瀬 2006)ことから、縄文後期以降は岩手県内でトチノキを普通に利用していた傾向がうかがえる。また、本遺跡では果実の形状をとどめるように割かれたクリ果皮が大量に確認された。縄文時代後期～晩期にかけて新潟県青田遺跡(新潟県教育委員会 2004)、野地遺跡(新潟県教育委員会 2009)や石川県米泉遺跡(南木 1989)など日本海側の低地遺跡ではこのように果実の形状をとどめたまま割かれたクリ果皮が大量に発見されているが、太平洋側ではあまり類例がなかった。青田遺跡のクリ果皮集積層は低湿地に建てられた掘立柱建物から直接廃棄されており建物との関係性が非常に高い。当初は定住集落と考えられたが、木柱の年輪年代の検討でこれら建物の使用はせいぜい10年間と比較的短期である可能性が示唆されている。本遺跡のクリ果皮は側面割りや縦割りが多く形状をとどめる剥き方であるが、付近に同時期の定住型集落は確認されていない。本遺跡周囲は沢の移動が激しく短期の作業場などが削割されている可能性も考えられ、クリの剥き方と生活形態の関連性は今後検討する意味があるかもしれない。おもな堅果類以外の利用痕跡がある種実、少量であるがコナラに加工痕が認められ、当時利用していた可能性がある。また利用痕はないが縄文後期初頭の試料からは利用植物であるアサが検出された。花粉分析結果では縄文後期初頭から平安時代にかけて断続的にアサ花粉が確認されていることから、沢周囲では継続的にアサの栽培が行われていたと考えられる。

本遺跡では縄文時代後期初頭～晩期後半にかけておもに落葉広葉樹の果実種子が多く堆積しており、晩期後半には葉化石の保存状態が良好なことから、これらが沢の周囲に生育していたと考えられる。完熟種実以外に未熟種実や葉、芽などがともに堆積していたのはアサダ、ブナ、クリ、コナラ、ミズナラ、ケヤキ、サクラ属、フジ属、カエデ属、トチノキ、ケンボナシ属であり、さらにケンボナシ属とトネリコ属(果実はヤチダモ)は根材が確認されたことから、これらは沢のごく付近に生育していた可能性がある。後期初頭の花粉分析結果では風媒花よりもクリやトチノキなどの虫媒花粉が卓越する傾向にあり、沢のごく付近にこれらが生育していたことが示唆され、これと呼応するように後期初頭のトチノキ不熟果や不熟種子など可食部以外の部位が多く出土している。葉の化石は晩期後半が中心であることから、この時期には激しい水流がなく停滞する淀みが存在し、そこに落葉が整然と堆積したと考えられる。沢内部の特に水分が多い場所にはオニグルミ、トチノキ、ヤチダモ、草本のミゾソバ、ツリフネソウが分布し、そして沢に至る斜面に高木のサワシバ、イヌシダ、アサダ、ブナ、コナラ、ミヤマザクラ、イタヤカエデなどのカエデ属、ミズキといった落葉広葉樹が林分を形成し、中低木のサンショウ、ミツバウツギ、ニワトコや蔓植物のフジ属、ヤマブドウ、サルナシ、マタタビなどが生育していたと考えられる。縄文晩期頃の花粉分析結果ではクリとトチノキが高率を占め、これらの林分が継続していたと考えられ、トチノキ不熟果などが変わらず出土し、クリも保存の良いが葉を出土した。平安時代には落葉広葉樹を中心として利用されたクリやトチノキなども出土するが、種実の出土数が激減する。沢周辺には落葉広葉樹林が成立していたとみられるがモモ核等風化された種実もあり周辺に耕作地が増加した可能性が考えられる。

引用文献

- 高瀬 寛範. 2006. 東北日本先史時代における栽培植物利用の変遷と特質. 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(若手研究B)研究成果報告書.
 新潟県教育委員会. 編. 2004. 第V章8 植物遺体. 「日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡本文・観察表編」. 221-229. 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団.

新潟県教育委員会, 編, 2009. 第V章8 植物遺体. 「日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXIXII 野地遺跡」, 105-115. 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団.

南木陸彦, 1989. 米泉遺跡の大型植物化石. 「金沢市米泉遺跡」石川県埋蔵文化財センター編, 279-296. 石川県教育委員会.

吉川昌伸・吉川純子, 2005. 縄文時代中・後期の環境変化. 日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集. 日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会.

表4 新田II遺跡クワリ試料同定結果(1)

分類群	出土状況	縄文時代中期後葉		縄文時代中期後葉～後期初頭									
		遺構	IV層最上部	IV層下部						IV層			
				4B15	4B14・15	4B14・15	4B23・24	4B25北側中央ベルト	4C9		5C1	4D2	4C5
クワリ	完形果実	NR06	NR06	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR06
	不熟果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形～半分果皮剥痕跡	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	半分果皮剥痕跡	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
	果皮4分の1以下破片	3	-	500+	15	5	6	-	-	1	8	1	-
コナラ	果皮先端割け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	1	5	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
ブナ	殻斗破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片	3	-	1	58	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハタウシボク	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

分類群	出土状況	縄文時代後期初頭		縄文時代後期中葉								
		遺構	IV層最下部	IV層下部	IV層						IV層?	
					3C24	3C13	3C24メインベルト	3C24	3C25メインベルト	3B19		3C12
クワリ	完形果実	NR04	NR04	NR04	NR04	NR04	NR04	NR04-05	NR03	-	NR04	NR03
	不熟果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	完形～半分果皮剥痕跡	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
	半分果皮剥痕跡	-	46	1	-	-	-	-	-	-	1	-
	果皮4分の1以上破片	-	5	-	-	3	-	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以下破片	500+	117	58	500+	9	-	-	9	1	500+	3
コナラ	果皮先端割け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
ブナ	殻斗破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハタウシボク	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

分類群	出土状況	縄文時代後期初頭～後期中葉		縄文時代後期後半								
		遺構	砂礫4層	IIb層最下層			IIb層下		IIb層			
				ベルト	ベルト	NR02	-	-	-	3A23	3B2	3B1
クワリ	完形果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形～半分果皮剥痕跡	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	半分果皮剥痕跡	21	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片	-	1	-	-	-	-	-	-	9	9	2
	果皮4分の1以下破片	500+	-	6	5	-	-	4	8	108	24	21
コナラ	果皮先端割け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブナ	殻斗破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3
	炭化種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハタウシボク	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表5 新田II遺跡クリ試料同定結果(2)

		縄文時代晩期後半										
		IIb5層					IIb5層?		IIb4層		IIb3~4間砂層	IIb3層
		地点										
		3B6	3B7	3B11	3C19	2B20	3B16	3B11	3B1	3B2	3B1	
分類群	出土状況	遺構										
		ベルト	-	ベルト	NR04	-	ベルト	ベルト	-	-		
タリ	完形果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	不熟果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	完形~半分果皮剥痕跡	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	半分果皮剥痕跡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	果皮4分の1以上破片	-	-	-	-	-	-	1	-	2	5	
コナラ	果皮4分の1以下破片	6	19	3	2	1	-	1	4	34	36	
	果皮先端裂け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	果皮破片	-	-	-	-	2	-	-	-	-	6	
ブナ	殻斗破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
トチノキ	種皮破片	-	6	-	-	1	1	-	-	-	-	
	炭化種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハクウンボク	果皮破片	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

		縄文時代晩期後半										縄文時代晩期後半~平安時代				
		IIb3層					IIb層		砂礫3層		砂礫2層	西端8層	西端6層			
		地点														
		3B1	3B6	3B11	2B20	2A25	2C15	3B3	2B14-15	2A17	2D16	2D17	2D22			
分類群	出土状況	遺構										NR03下部	-	NR01	NR01下部	NR01下部
タリ	完形果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	不熟果実	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形~半分果皮剥痕跡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	半分果皮剥痕跡	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
コナラ	果皮4分の1以下破片	4	7	22	16	12	2	11	9	-	1	12	-	-	-	-
	果皮先端裂け	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	2	2	6	3	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-
ブナ	殻斗破片	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片	-	-	12	24	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-
	炭化種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		平安時代					平安時代中期~現代					
		泥炭層	埋土上部部砂層	埋土上位黒泥炭層		埋土上位砂層	砂礫1層					
		地点										
		3F17	3F12	2E7	2E18	3F22	3F	2F10	2F8	2G9	2B1	2B12
分類群	出土状況	遺構										
		NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	-	-	-	-
タリ	完形果実	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	不熟果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形~半分果皮剥痕跡	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
	半分果皮剥痕跡	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	果皮4分の1以上破片	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ	果皮4分の1以下破片	2	2	-	6	-	3	-	-	-	3	-
	果皮先端裂け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ブナ	殻斗破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	炭化種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 6 新田Ⅱ遺跡から出土した葉化石の種類

試料番号	種 類					
1	ケヤキ					
3A	ブナ	コナラ	クリ	ケヤキ		
3B	イタヤカエデ					
3C	カバノキ属	コナラ	サクラ属	ケヤキ		ケヤマハンノキ
3D	ヤマフジ(葉)	アサダ?				
3E	イタヤカエデ	ハウチワカエデまたは オオモミジ				
3F	ブナ	クリ	コナラ	ケヤキ	アサダ(果苞)	ケンボナシ属
3H	クリ、いがの刺状突起					
11	フジ属、果皮(さや)					
12	ケヤキ					

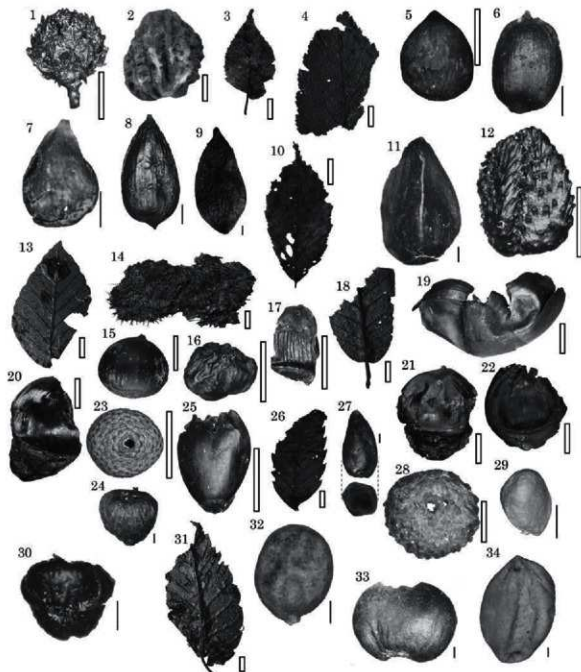
表 11 新田Ⅱ遺跡種実試料同定結果(5)

※()内は種名個数

分類群	時期	地点	最大時代別個数															
			301	301 -<6ト	302	306	306 -<6ト	307	3011	3016	2015	2020	2020 M03	301	301 -<6ト			
分類群	種名	試料番号	301	301 -<6ト	302	306	306 -<6ト	307	3011	3016	2015	2020	2020 M03	301	301 -<6ト			
木	アサツキ	結実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	スギ	結実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	オウゴン	内果皮完整	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		内果皮半分裂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		内果皮半分完整	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		内果皮剥離伴化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		内果皮裂片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		内果皮半裂化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		内果皮裂化縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	ツノハンパシ	葉実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
サシバ	葉実	-	31	2	-	7	8	17	26	-	-	-	17	6	2			
イシヤブ	葉実	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-			
アサギ	葉実	-	17	1	-	1	-	5	8	-	-	-	8	2	1			
ブナ	種子	-	-	-	-	(4)	-	(1)	-	-	-	-	-	(20)	-			
	殻半裂化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	葉実	-	2(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ナラ	葉実裂片	-	(1)	(3)	-	-	-	(6)	-	(1)	(2)	-	(5)	-	-			
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-			
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
コナツ	種子	-	32	1	-	1	-	(2)	-	-	-	-	6	4	-			
	幼果	-	3	-	-	(1)	-	1	1	-	-	-	1	(3)	-			
	葉実先端部残れ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
	葉実縦半分	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	葉実	-	(3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-			
ヒメナツ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
コナツ属	葉実裂片	-	(19)	-	-	(1)	-	-	-	-	-	(6)	(1)	-	-			
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	芽	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
カヤク	葉実	-	5	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-			
スノケ属	内果皮	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
スノケ属	種子	-	1	3	-	-	-	4	-	-	-	-	2	-	-			
スノケ属	種子	-	-	-	-	-	-	(1)	1	-	-	-	1	-	-			
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
ヒメツグクサ	種子	-	3	-	-	-	-	3	2	-	-	-	2	1	-			
カヤク	特殊化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ナツグ属	結実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	1	-	-			
キイチボ属	結実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
フジ属	芽	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-			
	小葉裂片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
サシバ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
カシバ	種子	-	1	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-			
スノケ	種子	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ハコナツカユギ科類	種子	-	4	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	2			
イヌヤブ	葉実	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
アロビイナツ科類	種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
	種子	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-			
ヒメツグクサ	葉実	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-			
トナリキ	葉実	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	種子	-	-	-	-	-	-	(6)	-	-	-	-	(9)	-	-			
	炭化種実	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	(1)	-	-			
	不熟果	-	62	1	-	-	1	-	(1)	-	(1)	-	32	(2)	-			
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	不熟種子	-	3	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	3			
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
トクボナン属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-			
アマツナノ属	内果皮	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
アマツナノ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ノボリ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ササナン	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
マツナギ	種子	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-			
ヒメツグクサ	種子	-	2	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	2	-			
ヒメツグ	内果皮	-	43	-	(1)	-	-	32	(2)	-	-	-	(1)	-	-			
アマノヒメキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
アサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ササギ	葉実	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-			
スノケ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
コナツ	葉実	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-			
	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-			
ナツグ	内果皮	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
ハナクワンボク	内果皮	-	-	-	-	(1)	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-			
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ヒメツグ	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	2	-			
ヒメツグ	芽	-	1	2	-	-	2	5	20	1	-	-	39	1	-			
豆類																		
ユズ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-			
カサネツグクサ属	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
アサギ科類	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
カナムスリ	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ヒメツグ	葉実	-	-	-	-	-	-	-	3	9	-	-	-	-	-			
ヒメツグ	葉実	-	-	1	-	-	-	-	14	15	-	-	-	7	-			
ササギ	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ササネツグ科類	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-			
ヒメツグ属	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	3	-			
ヒメツグ科属	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-			
スノケ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
スノケ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
フタトネツグ	種子	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-			
不明	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			

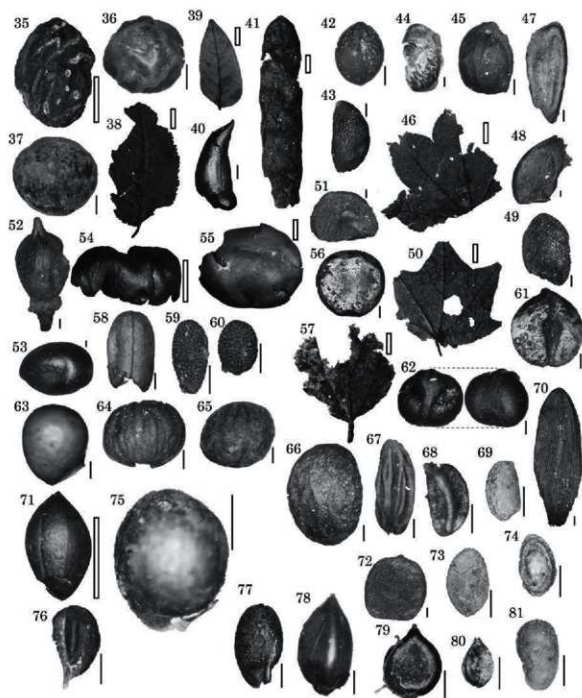
表 16 新田Ⅱ遺跡から出土したクリの計測値

時期	層位	地点	状況	高さ	幅	厚さ	
平安時代	埋土上位 黒泥炭層	2E7(NR03)	完形	20.6	18.7	11.7	
平安時代	埋土上位 黒泥炭層	3F22(NR01)	完形	28.3	24.4	13.5	
平安時代中期～現代	砂礫1層	2F8	完形果皮剥痕跡	基部欠損	22.1	23.2	-
平安時代中期～現代	砂礫1層	2G9	完形果皮剥痕跡	上部欠損	23.5	22.0	8.8
縄文時代晩期後半～平安時代	砂礫2層	2A17	完形	18.3	20.5	11.2	
縄文時代晩期後半	Ⅱb層	2A25	不熟完形	19.4	18.0	10.5	
縄文時代晩期後半	Ⅱb3層	3B1	完形果皮剥痕跡	上部欠損	36.4	41.7	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	36.1	24.7	23.5
縄文時代晩期後半	Ⅱb5層	3B1ベルト	完形果皮剥痕跡	上部欠損	31.4	33.4	15.7
縄文時代晩期後半	Ⅱb5層	3B6ベルト	完形果皮剥痕跡	上部欠損	27.1	27.1	14.8
縄文時代後期初頭～後期中葉	Ⅲ層下部	3C19ベルト	縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	23.3	18.0	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	29.4	20.8	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	26.4	21.0	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	27.2	22.5	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	28.3	21.8	-
			完形果皮剥痕跡	基部欠損	23.8	26.7	-
			完形果皮剥痕跡	23.7	24.9	-	
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	41.0	32.0	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	32.6	19.4	19.8
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	34.8	22.6	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	41.0	22.8	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	37.0	21.7	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	25.5	15.7	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.2	27.6	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	29.5	31.5	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	27.4	28.8	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	26.3	30.6	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	24.7	25.8	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.8	24.4	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	29.6	33.4	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	29.0	35.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	27.4	36.2	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層	3C24(NR04)	完形	16.4	19.8	10.2	
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	31.1	17.4	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	24.9	32.7	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.7	25.1	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	22.7	19.6	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	26.1	28.1	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	23.3	21.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	27.0	23.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	31.7	29.1	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.0	19.3	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	17.1	21.3	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層	4C24(NR04)	完形果皮剥痕跡	横欠損	25.9	29.6	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層下部	3C13(NR04)	縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	22.1	28.7	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	28.2	13.4	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	36.4	23.2	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層最下部	3C24(NR04)	片面のみ残剥痕跡	基部欠損	20.8	24.8	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	20.4	19.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	25.0	23.8	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	23.0	29.6	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	20.0	21.2	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	23.0	25.3	-
縄文時代中期後葉～後期初頭	Ⅳ層下部	4C9(NR05)	片面のみ残剥痕跡	22.0	24.0	-	
縄文時代中期後葉～後期初頭	Ⅳ層下部	5C1(NR05)	完形果皮剥痕跡	上部欠損	18.3	21.4	12.6



図版1 新田Ⅱ遺跡出土種実と葉 (1)

1. スギ, 果実序 (33) 2. オニグルミ, 内果皮割痕 (8) 3. カバノキ属, 葉 (3D) 4. ケヤマハンノキ近似種, 葉 (3C) 5. ツノハシバミ, 果実 (6) 6. サワシバ, 果実 (13) 7. イヌシデ, 果実 (134) 8. アサダ, 果実 (13) 9. アサダ, 苞 (3F) 10. アサダ, 葉 (3D) 11. ブナ, 果実 (29) 12. ブナ, 殻斗 (37) 13. ブナ, 葉 (3F) 14. クリ, 総苞 (3H) 15. クリ, 完形果実 (1) 16. クリ, 炭化子葉 (29) 17. クリ, 幼果 (13) 18. クリ, 葉 (3F) 19-22. クリ, 剥き果皮 (47.50.50.66) 23. コナラ, 殻斗 (10) 24. コナラ, 幼果 (10) 25. コナラ, 果実先端欠 (10) 26. コナラ, 葉 (3A) 27. コナラ属, 芽 (29) 28. ミズナラ, 殻斗 (10) 29. クワ属, 種子 (13) 30. ケヤキ, 果実 (29) 31. ケヤキ, 葉 (29) 32. エノキ属, 内果皮 (10) 33. コブシ, 種子 (134) 34. ホノノキ, 種子 (10) (スケールは, 実線は1mm, 白抜きは1cm)



図版 2 新田Ⅱ遺跡出土種実と葉 (2)

35. モモ, 風化核 (1) 36. ミヤマザクラ, 核 (10) 37. サクラ属, 核 (13) 38. サクラ属, 葉 (3C) 39. ヤマフジ, 葉 (3D) 40.41. フジ属 (40. 芽 (29) 41. 果実 (11)) 42. サンショウ, 内果皮 (11) 43. キハダ, 種子 (29) 44. ニガキ, 種子 (6) 45.46. ハウチワカエデまたはオオモミジ (45. 果実 (10) 46. 葉 (3E)) 47. ミツデカエデ, 果実 (13) 48-50. イタヤカエデ (48. 果実 (10) 49. 種子 (6) 50. 葉 (3B)) 51. クロビイタヤ近似種, 果実 (10) 52-55. トチノキ (52. 不熟果実 (10) 53. 不熟種子 (6) 54. 種皮剥き片 (6) 55. 種皮半分剥き (6)) 56.57. ケンボナシ属 (56. 種子 (11) 57. 葉 (3F)) 58. クマヤナギ属, 内果皮 (29) 59. サルナシ, 種子 (13) 60. マクタビ, 種子 (13) 61. ヤマブドウ, 種子 (11) 62. ノブドウ, 種子 (11) 63. ミツバウツギ, 種子 (10) 64. ミズキ, 内果皮 (10) 65. クマノミズキ, 内果皮 (13) 66. クサギ, 果実 (6) 67. モチノキ属, 内果皮 (13) 68. コシアブラ, 果実 (13) 69. タラノキ, 内果皮 (13) 70. ヤチダモ, 果実 (10) 71. ハクウンボク, 内果皮 (3) 72. カンボク, 内果皮 (10) 73. ニワトコ属, 内果皮 (13) 74. ムラサキシキブ属, 内果皮 (13) 75. アサ, 果実 (13) 76. ミズタマソウ属, 果実 (2) 77. ツリフネソウ, 種子 (2) 78. ミゾソバ, 果実 (2) 79. サナエタデ近似種, 果実 (2) 80. イヌタデ属, 果実 (13) 81. キランソウ属, 果実 (13) (スケールは、実物は1mm、白抜きは1cm)

4 樹種同定

吉川純子(古代の森研究舎)

(1) はじめに

新田II遺跡は遠野市綾織町の猿ヶ石川左岸の河岸段丘上及び新田沢により開削された谷底平野に立地する。本遺跡の埋没した沢跡には縄文時代後期初頭及び晩期後半の遺物包含層(捨て場)が形成されており、木材や種実などの大型植物化石が比較的良好に保存されていた。そこで当時の古環境を把握する目的でこれら木材の樹種同定をおこなった。分析に充てた試料は縄文時代後期初頭から平安時代の自然木48点及び縄文時代後期中葉出土の樺状木製品1点である。木材試料からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面の切片を切り取り、封入材ガムクロラールでプレバートに固定して生物顕微鏡で観察同定した。

(2) 同定結果

木材化石および木製品計49点の同定結果を表1に示す。同定された分類群はトネリコ属11点、コナラ属コナラ節7点、ケンボナシ属6点、イヌシデ属クマシデ節とカエデ属が4点ずつ、ヤナギ属とナシ亜科が3点ずつ、ニレ属、カツラ、トチノキが2点ずつ、オニグルミ、アサダ、クリ、サクラ属、ミズキがそれぞれ1点ずつであった。以下に木材解剖学的形態記載をおこなう。

オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam.): やや大きめの道管が単独ないし23個放射方向に複合して散在し、晩材部でやや径を減じる散孔材。軸方向柔細胞はターミナル状や網状につながる。道管は単穿孔でチロースがある。放射組織は1-3細胞幅で同性。

ヤナギ属(*Salix*): 年輪内に放射方向に数個連結した中程度の道管が均一に分布する散孔材で晩材部で柔細胞が密になるため年輪界は明瞭な散孔材。放射組織は単列で異性、道管放射組織間壁孔はやや大きいふい型である。

イヌシデ属クマシデ節(*Carpinus* sect. *Distegocarpus*): 単独ないし放射方向に数個複合した中程度の道管がまばらに分布する散孔材で年輪界が波状にたわむ。道管は単穿孔と段数の少ない階段穿孔がまれに見られる。放射組織は異性で、1-3列で10細胞高以下のものと、まれにゆるい集合放射組織がある。

アサダ(*Ostrya japonica* Sarg.): 中程度の道管が数個放射方向に複合して年輪内に均一に分布する散孔材。道管は単穿孔で道管内にらせん肥厚がある。放射組織は異性で1-4細胞幅である。

クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.): 年輪はじめに大きい道管が花弁状に配列し、急に径が減じて火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔、放射組織は1-2列でほぼ同性である。

コナラ属コナラ節(*Quercus* sect. *Prinus*): 年輪のはじめに大きい道管が数個配列し、その後急に径を減じて薄壁のやや角張った管孔が波状に配列する環孔材、道管は単穿孔。放射細胞は単列と大変大きく長い広放射組織があり放射組織は同性である。

ニレ属(*Ulmus*): 年輪はじめに大型で丸い道管が単独で数列並び、晩材部では小型で薄壁の角張った管孔が多数集合して斜めないし接線方向に帯状に連なる環孔材。道管の穿孔板は単一で小道管内壁にらせん肥厚がある。木部柔細胞は周囲状で晩材部では小道管の周囲を囲んで帯状となる。放射組織は同性で1-8細胞幅で放射細胞の縁にしばしば大型の結晶がある。

カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.): 角張った小道管が年輪内に均一かつ密に分布する散孔材で晩材部はやや道管径が小さく繊維状仮道管が小さいので年輪界はやや明瞭である。道管の穿孔板は段数が多い階段状で放射組織は異性で1-2細胞幅で細長い。

表1 新田Ⅱ遺跡から出土した木材の樹種

試料番号	時期	遺構	地点	層位	状況	備考	樹種	
138	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	カエデ属	
140	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	ヤナギ属	
141	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	トネリコ属	
144	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	トネリコ属	
146	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	カツラ	
148	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	トネリコ属	
162	平安時代か	NR01	3F12~19	-	大木	-	アサダ	
163	平安時代か	NR01	3F区	泥炭層	大木	-	トネリコ属	
2	縄文時代晩期後半	旧河道	2A25~2B5	砂礫3層	株	-	クマシダ節	
3	縄文時代晩期後半	旧河道	2A25~2B5	砂礫3層	株	-	クマシダ節	
13	縄文時代晩期後半	旧河道	2B14	砂礫3層	株	-	トネリコ属	
15	縄文時代晩期後半	旧河道	2B14	砂礫3層	-	-	カエデ属	
21	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.1	クマシダ節	
22	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.2	トネリコ属	根材
23	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.3	トネリコ属	根材
24	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.4	トネリコ属	根材
25	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.5	トネリコ属	根材
26	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.6	トネリコ属	根材
29	縄文時代晩期後半	-	3B2・7	II b5層	-	No.7	ニレ属	
30	縄文時代晩期後半	-	3B7	II b5層	-	No.8	トチノキ	
120	縄文時代晩期後半	NR02	2D4	-	流木	No.1	ナシ亜科	
124	縄文時代晩期後半	NR02	2D9	-	流木	No.2	カツラ	
128	縄文時代晩期後半	NR02	2D9	-	流木	No.3	ナシ亜科	
132	縄文時代晩期後半	NR02	2D15	-	流木	No.4	コナラ節	
126	縄文時代晩期後半	NR03	2C20	-	流木	No.3	コナラ節	
123	縄文時代晩期後半	NR03	2C15	-	流木	No.2	トネリコ属	
119	縄文時代晩期後半	NR03	2C15	-	流木	No.1	コナラ節	
134	縄文時代晩期後半	NR03	3C11	-	流木	No.5	トチノキ	
133	縄文時代晩期後半	NR03	3C11	-	流木	No.6	カエデ属	
0001	縄文時代後期中葉	NR04	3D12・13	砂礫4層直上	建築部材	年代測定試料	サクラ属	
40	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W2	ケンボナシ属	
42	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W5	コナラ節	
150	縄文時代後期初頭	NR04	3C22	IV層	-	1	ヤナギ属	
151	縄文時代後期初頭	NR04	3C22	IV層	-	2	ヤナギ属	
155	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W6	ニレ属	
157	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W8	カエデ属	
37	縄文時代後期初頭	-	3B13付近	IV層	-	No.3	クマシダ節	
38	縄文時代後期初頭	-	3B13付近	IV層	-	No.4	ナシ亜科	
39	縄文時代後期初頭	-	3B13付近	IV層	-	No.5	コナラ節	
34F1	縄文時代後期初頭	-	西IC3D7	IV層	-	-	コナラ節	
34F2	縄文時代後期初頭	-	西IC3D7	IV層	-	-	コナラ節	
34F3	縄文時代後期初頭	-	西IC3D7	IV層	-	-	ミズキ	
67	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	23	ケンボナシ属	根材
69	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	25	ケンボナシ属	根材
79	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	35	ケンボナシ属	根材
96	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	47	オニグルミ	
102	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	1本樹木	54	ケンボナシ属	
108	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	60	ケンボナシ属	
27	縄文時代後期初頭	NR05	4B23・24	IV層下部	-	-	クリ	

ナシ亜科 (Maloideae): 単独ないし数個不規則に複合したやや小さい管孔が年輪内にほぼ均一に分布する散孔材。道管は単穿孔で道管側壁は交互壁孔、放射組織はほぼ同性だが縁辺の細胞が大きくなることがあり、幅は1-2細胞幅。

サクラ属 (Prunus): 中程度の道管が数個放射方向や斜め塊状に連結して年輪内にまばらに分布し晩材部でやや径が小さくなる散孔材。道管内には顕著ならせん肥厚が見られ単穿孔で、放射組織は異性で単列のもの3~5細胞幅のものがある。

カエデ属 (Acer): 年輪内に小さい管孔単独ないし数個複合してほぼ均一に散在する散孔材で年輪界は比較的明瞭、木繊維の壁厚の違いで横断面に波状の模様ができる。放射組織は同性で1-4細胞幅で道管は単穿孔で道管内にらせん肥厚がある。

トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) : やや小さい道管が単独ないし数個放射方向に複合して散布する散孔材で、年輪界付近で道管径がやや小さくなる。道管は単穿孔でらせん肥厚があり、道管放射組織間はやや大きいふるい状、放射組織は単列同性で、しばしば層階状配列で波状の模様が見れる。
ケンボナシ属 (*Hovenia*) : 大きな道管が年輪はじめに2.3列分布し、その後径を減しながら小道管が放射方向に数個結合してまばらに分布する環孔材。道管は単穿孔で放射組織は異性で1~4細胞幅、道管放射組織間壁孔は小さいふるい状である。:

ミズキ (*Cornus controversa* Hemsl. ex Prain) : やや小さい管孔がほとんど径の増減が無く、単独ないし2.3個複合して年輪内にはほぼ均一に散布する散孔材。年輪はじめてやや管孔が多い傾向にある。道管は階段穿孔で階段数は大変多い。放射組織は2.3細胞幅で異性、多列の平伏細胞の上下に方形細胞の単列部が長く伸びる。

トネリコ属 (*Fraxinus*) : 大きな道管が年輪はじめに2.3列分布し、その後径を減しながら壁の厚い小道管が放射方向に数個結合してまばらに分布する環孔材。道管は単穿孔で放射組織は同性、道管放射組織間壁孔はやや大きいふるい状である。

(3) 木材化石から見た沢と周囲の環境

新田II遺跡から出土した樹種を時期別に集計し表2にまとめた。縄文時代後期初頭にはケンボナシ属が最も多く確認され、半分が根材であることから当時の沢付近にケンボナシ属が生育していたと考えられる。オニグルミは湿潤な場所に適応して生育するがケンボナシ属は普通の山林に生育することが多い。またコナラ節もやや多く、クマシデ節、クリ、カエデ属などで構成される落葉広葉樹林がごく付近に分布していたと考えられる。縄文時代後期中葉の建築部材はサクラ属であり、樹種を選んで利用したと考えられる。縄文時代晩期後半にはトネリコ属が多く確認され、7点中5点が根材であったことや晩期後半は薬化石の保存が良好であり激しい水流がないと推測されていることから沢内部にトネリコ属が生育していたと考えられる。トネリコ属についてはヤチダモの果実も検出されており、沢に生育していたのはヤチダモの可能性が高い。後期初頭同様クマシデ属とコナラ節、カエデ属、ニレ属といった落葉広葉樹が確認されているが、湿地に適応して生育するトチノキも検出され、ヤチダモもどちらかといえはやや停滞する湿地のような環境に適応して生育することから、後期初頭よりも地下水位が高い湿地に近い環境に変化した可能性がある。平安時代と考えられる層位では、樹種はあまり変化せず、縄文時代晩期後半同様トネリコ属が多くカツラなどの湿地に適応した種類と落葉広葉樹林を構成するアサダやカエデ属が確認されたことから、環境はあまり変化していなかったと考えられる。

表2 時期別出土樹種

時期	樹種	個数
平安時代か	トネリコ属	4
	ヤチダモ	1
	アサダ	1
	カエデ属	1
	カツラ	1
縄文時代晩期後半	トネリコ属	根材 5
	トネリコ属	2
	クマシデ節	3
	コナラ節	3
	ナシ亜科	2
	トチノキ	2
	カエデ属	2
	カツラ	1
ニレ属	1	
縄文時代後期中葉	サクラ属	根 1
縄文時代後期初頭	ケンボナシ属	3
	ケンボナシ属	根材 3
	コナラ節	4
	ヤチダモ	2
	オニグルミ	1
	クマシデ節	1
	タリ	1
	ナシ亜科	1
	ニレ属	1
	カエデ属	1
ミズキ	1	

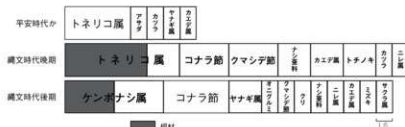
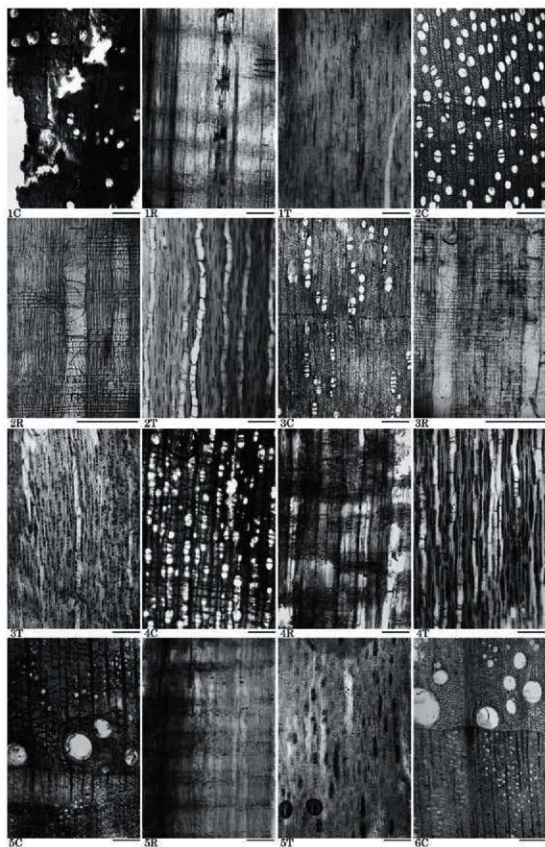
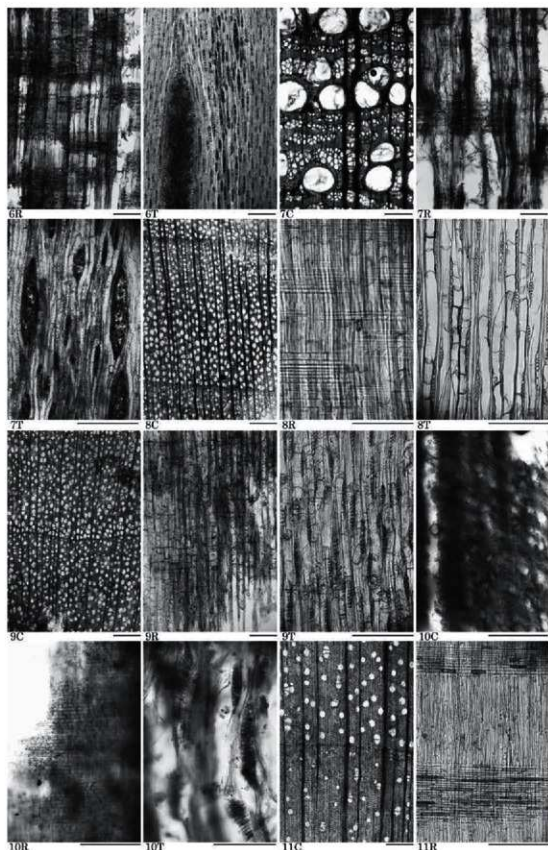


図1 新田II遺跡出土木材



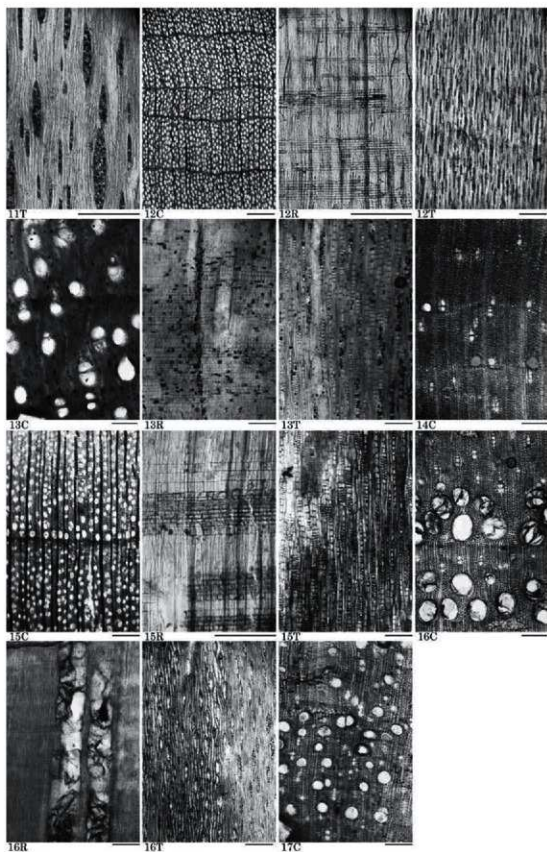
図版 1 新田Ⅱ遺跡出土木材の顕微鏡写真 (1)

1. オニグルミ (No.96) 2. ヤナギ属 (No.150) 3. クマシデ節 (No.2) 4. アサダ (No.162) 5. クリ (No.27) 6. コナラ節 (No.119) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm



図版 2 新田Ⅱ遺跡出土木材の顕微鏡写真(2)

6. コナラ節(No.119) 7. ニレ属(No.155) 8. カツラ(No.124) 9. ナシ亜属(No.38) 10. サクラ属(No.6001 種) 11. カエデ属(No.157) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm



図版 3 新田Ⅱ遺跡出土木材の顕微鏡写真 (3)

11. カエデ属 (No.157) 12. トチノキ (No.30) 13. ケンボナシ属 (No.108) 14. ケンボナシ属根材 (No.40) 15. ミズキ (生材 3) 16. トネリコ属 (No.141) 17. トネリコ属根材 (No.25) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面, スケールは 0.1mm

5 昆虫同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

(1) はじめに

新田II遺跡(岩手県遠野市綾織町下綾織に所在)は、縄文時代前期・中期の集落跡とされ、新田沢によって形成された平坦地が水場や作業場として利用されていたとされている。埋没沢の堆積物では植物遺体と共に昆虫遺体が検出された。そこで、出土した昆虫遺体の同定を行い、当時の環境に関する情報を得ることとした。

(2) 試料

縄文時代後期初頭～晩期後半の埋没沢中から洗い出しによって得られた昆虫遺体13試料(試料番号1～13)である。1試料中に複数枚の破片、総数38片であり、破片ごとに枝番号(分析番号)を付して管理する。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

(3) 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡にて観察し、形態的特徴から種類・部位を同定する。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を水入りの管で保管する。なお、同定・解析は、松本浩一氏(東京農業大学)の協力を得た。

(4) 結果

同定結果を表1に示す。試料番号4の1片(分析番号4.2)は広葉樹の葉の破片である。それ以外は昆虫綱(Insecta)の破片であるが、試料番号1の2片(分析番号1.3・4)が種類不明の腹板の可能性のある破片、試料番号12の1片(分析番号12.2)が種類・部位不明破片である。以下、種類ごとに記す。

表1 昆虫同定結果

試料番号	出土地点	層位	時代	分析番号	種名	目名	科名	種名	部位・状態	備考
1	2A25・惣集落中	2 50層	縄文時代後期後半	1.1	昆虫綱	カメムシ目	カメムシ科	アカシジヤンカメムシ	前胸背板	
				1.2	昆虫綱	カメムシ目	カメムシ科	アカシジヤンカメムシ	後脚管	
				1.3	昆虫綱	不明	不明	不明	腹部の一部?	1.1と同じ個体か?
				1.4	昆虫綱	不明	不明	不明	腹部の一部?	
				1.5	昆虫綱	不明	不明	不明	腹部の一部?	
2	2B5	2 50層	縄文時代後期後半	2	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	キチオザリ	前胸背板	
3	2B10	2 50層中下層	縄文時代後期後半	3.1	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	コウゾビムシ類の一部	右前足基部	
3	2B10	2 50層中下層	縄文時代後期後半	3.2	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	コウゾビムシ類の一部	前脚の一部	3.1と同じ個体か?
4	2B15トキ集落中	2 50層	縄文時代後期後半	4.1	昆虫綱	カメムシ目	不明	カメムシ目科の一部	腹部の一部?	
4	2B15トキ集落中	2 50層	縄文時代後期後半	4.2	被子植物綱	不明	不明	不明	広葉樹の葉の一部	
5	3A17	2 50層下層部 +埋没層	縄文時代後期後半	5	昆虫綱	コウチュウ目	ハムシ科	コゾタルハムシ	右前足基部	
6	3B1・トキノキ集落中	2 50層	縄文時代後期後半	6	昆虫綱	カメムシ目	不明	カメムシ目科の一部	腹部の一部?	
7	3B1<1>ト	2 50層 (19層)	縄文時代後期後半	7	昆虫綱	カメムシ目	カメムシ科	アカシジヤンカメムシ	小楕板	
8	3B1<1>ト	2 50層	縄文時代後期後半	8.1	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	中胸腹板	
				8.2	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオキザン	右前足基部	
				8.3	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	中胸腹板の一部	
				8.4	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	腹部の一部	
				8.5	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	腹部の一部	
				8.6	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	上腿の一部	
				8.7	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオキザン	上腿の一部	
				8.8	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	上腿の一部	
				8.9	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	中胸腹板	
				8.10	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
9	3B1<1>ト トキノキ集落中	2 50層	縄文時代後期後半	9.1	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオキザン	腹部の一部	
				9.2	昆虫綱	コウチュウ目	ハネキタシ科	ランシヤハネキタシ属の一部	右前足	
				9.3	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	アオキザン	腹部の一部	
				9.4	昆虫綱	コウチュウ目	ハネキタシ科	ランシヤハネキタシ属の一部	右前足	
				9.5	昆虫綱	カメムシ目	カメムシ科	アカシジヤンカメムシ	腹部の一部	
				9.6	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオキザン	右前足	
				9.7	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
				9.8	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
				9.9	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
10	3C2bN900	IV層	縄文時代後期初頭 ～中期	10.1	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオキザン	右前足	
				10.2	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
				10.3	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
11	3C2bN900	IV層	縄文時代後期初頭 ～中期	11	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	センシコガキ	右前足	
				12.1	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目科の一部	腹部の一部	
				12.2	昆虫綱	不明	不明	不明	不明	
12	1C8N900	III層 (IV層下層)	縄文時代後期初頭	12.3	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目科の一部	腹部の一部	
				12.4	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目科の一部	腹部の一部	
				12.5	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目科の一部	腹部の一部	
				12.6	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目科の一部	腹部の一部	
13	3C2bN900	IV層	縄文時代後期初頭	13.1	昆虫綱	コウチュウ目	コゾメムシ科	コゾメムシ科の一部	腹部の一部	
				13.2	昆虫綱	コウチュウ目	ハムシ科	コゾタルハムシ	右前足	
				13.3	昆虫綱	ハチ目	アリ科	アリオオアリ	腹部の一部	

<コウチュウ目(Coleoptera)>

オサムシ科(Carabidae)では、キタカブリ(*Damaster blattoides viridipennis*)の前胸背板、ヒラタゴミムシ類の一種の左前翅基部・前翅の一部、アオオサムシ(*Carabus insulicola*)の右前翅基部・上翅の一部、アオゴミムシ属(*Chlaenius*)の一種の頭部・右前翅が確認される。

ハネカクシ科(Staphylinidae)では、クシヒゲハネカクシ属(*Velleius*)の一種の右前翅が確認される。

コガネムシ科(Scarabaeidae)では、アオカナブン(*Rhomborhina unicolor*)の上翅の一部・中胸腹板右片・中胸腹板の一部・中胸側板・腹部の一部、センチコガネ(*Geotrupes laevistriatus*)の右後脚、コガネムシ科の一種の前翅の一部・前胸の一部・腹部の可能性がある破片・脚の一部が確認される。

ハムシ科(Chrysomelidae)では、コガタルリハムシ(*Gastrophysa atrocyanea*)の右前翅基部・右前翅が確認される。

また、種不明として、コウチュウ目の一種の腹部の一部が確認される。

<ハチ目(Hymenoptera)>

アリ科(Formicidae)のクロオオアリ(*Camponotus japonicus*)の頭部の一部が確認される。

<カメムシ目(Hemiptera)>

キンカメムシ科(Scutelleridae)のアサジギンカメムシの小楯板・前胸背板・腹部背板・腹部の一部が確認される。また、種不明として、カメムシ目の一種の腹板の一部の可能性がある破片が確認される。

(5) 考 察

本遺跡から出土した38片の昆虫遺体を分析し、内1片(4-2)は広葉樹の葉の一部であった。残りの37片の内訳は、コウチュウ目27片、カメムシ目6片、ハチ目1片、不明4片であった。コウチュウ目ではオサムシ科のキタカブリの前胸背板が見いだされ特筆される。これは現在では東北地方北部に固有の大粒肉食コウチュウで、幼虫・成虫ともに陸生巻貝を捕食し、自然度の高い森林に生息する。また、同じオサムシ科のアオオサムシも見いだされたが、これは比較的湿度の高い林床部でミズなどの土壌動物を捕食することが知られている。これら2種は、後翅が退化し飛翔による移動ができず、分布域が限定されることでも知られている。出土点数ではコガネムシ科のアオカナブンが最も多いが、これらはコナラ・クスギなどの樹液に集合する。またハネカクシ科のクシヒゲハネカクシ属の一種も成虫が樹液に集合する種であり、幼虫はスズメバチ類の巣に寄生することが知られている。コガネムシ科のセンチコガネは森林や雑木林の野生動物の糞に集合することが知られており、本種も森林に対する依存度が高い。オサムシ科のヒラタゴミムシ類の一種およびアオゴミムシ属の一種は森林の林床部・林縁部また湿度の高い草地などに生息する。ハムシ科のコガタルリハムシはギシギシ類を寄主とし、林縁部から草地に生息する。カメムシ目ではキンカメムシ科のアサジギンカメムシが見いだされた。これはスギ・キブシ・ヤシャブシの果実や種子を吸汁することが知られている。ハチ目ではアリ科のクロオオアリが見いだされ、これは草地・荒地地の乾燥した地中に営巣し、植物の種子や昆虫遺体などを収集する。

これら出土昆虫はほとんどが生息場所を森林に依存するものであり、特に陸貝類を捕食するキタカブリ、クスギ・コナラを主とする雑木林に生息するアオカナブンやクシヒゲハネカクシなどが多く見出された。また、少数ではあるがアオゴミムシ類やクロオオアリなどの林縁部および草地環境に生息する種も見られた。これらのことから、当時の遺跡周辺はコナラ・クスギを主体とする比較的湿度の高い、野生動物などが生息する雑木林が広い面積を占めていたものと推定される。林内にはスズメバチの営巣可能な大径の枯れ木などが点在していたものと考えられ、林床にはキブシなどの広葉樹があり、林縁部にはギシギシ類などを主体とした草地環境も存在したと思われる。

図版1 昆虫遺体



1-1. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ前胸板 (2A25)

1-3. 昆虫脚節の一部? (2A25)

2. コウチュウ目オサムシ科キタブリ前胸板 (2B5)

3-1. コウチュウ目オサムシ科ヒラタゴミシ科の一種前胸の一部 (2B10)

3-2. 広葉樹の葉の一部 (2B15トキ集中)

4. カメムシ目不明カメムシ目の一種腹部の一部? (3B1・トネキ集中)

8-1. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン上胸腹節右片 (3B11ベルト)

8-3. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン中胸腹節の一部 (3B11ベルト)

8-5. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン腹部の一部 (3B11ベルト)

8-7. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン上翅の一部 (3B11ベルト)

8-9. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン中胸腹節 (3B11ベルト)

8-11. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種腹部の一部 (3B11ベルト)

9-2. コウチュウ目ハネカクシ科シシガハネカクシ属の一種右前翅 (3B11ベルト)

9-4. コウチュウ目ハネカクシ科シシガハネカクシ属の一種右前翅 (3B11ベルト)

10-1. コウチュウ目オサムシ科アオサムシ科の一種右前翅 (3C24 NR04)

11. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9 NR05)

12-4. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9 NR05)

13-2. コウチュウ目ハムシ科コガタルハムシ右前翅 (4C24 NR04)

1-2. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ腹部背板 (2A25)

1-4. 昆虫脚節の一部? (2A25)

3-1. コウチュウ目オサムシ科ヒラタゴミシ科の一種左前胸基部 (2B10)

4-1. カメムシ目不明カメムシ目の一種腹部の一部? (2B15トキ集中)

5. コウチュウ目ハムシ科コガタルハムシ右前胸基部 (3A17)

7. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ小體 (3B11ベルト)

8-2. コウチュウ目オサムシ科アオサムシ科右前胸基部 (3B11ベルト)

8-4. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン腹部の一部 (3B11ベルト)

8-6. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン上翅の一部 (3B11ベルト)

8-8. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン上翅の一部 (3B11ベルト)

8-10. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種前翅の一部 (3B11ベルト)

9-1. コウチュウ目オサムシ科アオサムシ科の一種腹部の一部 (3B11ベルト)

9-3. コウチュウ目コガネムシ科アオカナン腹部の一部 (3B11ベルト)

9-5. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ腹部の一部 (3B11ベルト)

10-2. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種前翅の一部 (3C24 NR04)

12-1. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9 NR05)

12-3. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9 NR05)

13-1. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種腹部の一部 (4C24 NR04)

13-3. ハチ目アリ科クロオアリ腹部の一部 (4C24 NR04)

Ⅶ 調査のまとめ

1 西区流路の変遷について

今回の調査で西区から確認された流路について、前章までに確認した各項目をまとめると、新田Ⅱ第1期～第7期の計7時期の変遷に区分される。

新田Ⅱ第1期（縄文前期初頭～中期後葉）

流路位置は、西区東端のNR06 沢跡で、東斜面裾部に設定したセクションS・8層から、T_o-Cuテフラ二次堆積層が確認された。堆積土中からは、植物質繊維を多量に含む第Ⅰ群土器や隆沈線文の第Ⅱ群土器、磨消縄文の第Ⅲ群土器が少量認められた。

新田Ⅱ第2期（縄文中期後葉～後期初頭）

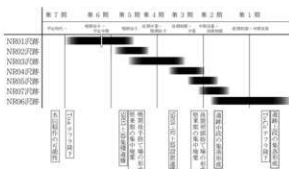
流路位置は、西区東側のNR05及び07 沢跡。堆積土中からは、第Ⅲ群土器や第Ⅳ群土器が多量に認められた。NR07 沢跡・4C9・10（Ⅳ層下部）からは、堅果類及び樹木が多量に堆積して出土した。堅果類は、トチノキ殻・オニグルミ殻が中心である。NR05 沢跡・4B23～24（Ⅳ層下部）からは、主にトチノキ殻が集中して出土しており、人為的な皮剥き作業の残渣と考えられる。花粉分析から、該期はクリ林とトチノキ林期と捉えられ、沢筋にトチノキが分布しその内陸側にクリ林が広がっていたと考えられる。また、上流側にはクリが優勢な林が広がっていた可能性が推測される。

新田Ⅱ第3期（縄文後期初頭～後期中葉）

流路位置は、西区中央のNR04 沢跡。最も流路の変化が著しかった時期で、東西に10～30mほど移動を繰り返していたと考えられる。NR04 古の時期は下刻するほどではなく動いていたが、NR04の時期には直径60～80cm大の巨礫を巻き込みながら、部分的に15m以上の深みを形成するなど水流が増加したと見られる。堆積土中からは、第Ⅴ群土器及び第Ⅵ群土器を中心として出土し、NR03 古の時期に流路が移行し始めた3C17・18 沢跡には、SR01・02 土器設置遺構が構築された。3D12・13 河底砂礫層上面からは、建築部材の一部と見られる先端が二又に分かれた棒状の木製品1点が認められた。植生環境は、第2期を継続している。

新田Ⅱ第4期（縄文後期中葉～晩期後半）

流路位置は、西区西側のNR03 沢跡。これまでの流路と異なり、北方向を中心とし現新田沢に近くなる。南側はこれ以降の流路で確認できないが、北側は残存が良好な状態で確認された。NR03 古の時期は第3期と同様であるが、NR03の時期になると第Ⅷ群土器や第Ⅸ群土器が大量に廃棄され、Ⅱ b3～5層中に多量に確認される。特にⅨ群A類の大洞C2式段階に相当する土器群は、沢右岸に粗製深鉢を大量に廃棄している。また、他にトチノキ殻・オニグルミ殻を中心とする堅果類や石器製作時のチップなどを出土しており、沢岸が「作業の場」や「廃棄の場」として利用されたことを示している。加えて、粘土焼土ブロックや礫群を確認しており、付随するモノ送りの儀礼的な行為がなされた可能性がある。花粉分析から、植生環境はクリ林の拡大とトチノキ林期と捉えられ、コナラ亜属も比較的高率で出現する。縄文後期以降では、この付近で最も規模の大きなクリ林が形成されていた可能性がある。



第138図 古新田沢の変遷模式図

新田Ⅱ第5期（縄文晩期後半）

流路位置は、西区西側のNR02・03沢跡。NR03からNR02に本流が移行し、NR03が湿地化→埋没となる時期にあたる。出土遺物は、第4期に続きⅨ群A類の大洞C2式段階に相当する土器群で、Ⅱb1～2層中から多量に出土した。また、ほぼ同時期の内陸側である6C21～7C21からSR03土器設置遺構が確認された。遺構は、Ⅸ群B類の大洞A1式段階に相当する土器群で構成されており、小形の鉢や壺を中心とする器種に限定して規格的整一性を有している。出土状況から、儀礼的行為を示唆する遺構であると考えられる。花粉分析から、該期の植生はコナラ亜属とケヤキを主とする落葉広葉樹林期と捉えられる。晩期中葉に形成されたクリ林が疎らとなり、コナラ亜属やケヤキ、カエデ属を主とする落葉広葉樹林へと変化したと見られる。これら植生変化と、堆積土中に確認される夥しい炭化物、上述の儀礼的行為などがどう結びつくかは想像の域を出ない。

新田Ⅱ第6期（縄文晩期後半～平安時代中期）

流路位置は、西区西端のNR01-02沢跡。現新田沢の東10m程度にあり、流路方向はほぼ同一となる。流路内の2D区や3F区からは多量の流木が確認されており、水流が増加したことが分かる。特に3F区には長さ10mを超えるトネリコ属の大き木が認められており、上部にT o - aテフラを堆積していることから、平安時代中期と考えられる。また、流路東側に広がる平坦部では、水田耕作が行われていたと考えられ、水路に使用したと見られる溝跡が縦横に確認されている。後世の耕作により面的には出土していないが、各セクションから部分的に確認できる。平安時代の遺物も少量出土しており、碗形を呈する坏器形から10世紀前半に位置付けられ、テフラ降下時期とも合致する。花粉分析から該期の植生は、落葉広葉樹林の縮小及びコナラ亜属とクリ林期（平安時代）と捉えられる。西区東側からは、クリを高率で確認しており、東斜面にはクリ林が広がっていた可能性がある。また、イネ型花粉やツバ、アサが見つまっていることから水田耕作が裏付けられ、栽培の可能性もある。

新田Ⅱ第7期（平安時代中期～現代）

流路位置は、NR01沢跡から現新田沢。流路の大部分は、市道部分から現新田沢となり、流路方向も同一である。底面変化はほとんどなく平坦で、現新田沢下層まで続いている。出土遺物は、後期中葉～晩期後半までが混在しており、前流路を破壊して後の流路が作られている。花粉分析から植生は、スギが優勢な林期と捉えられる。コナラ亜属を主とする落葉広葉樹林は縮小し、針葉樹のスギやマツ属複雑管束亜属が優勢な植生へと変化する。クリは、スギ林の縁の沢側に生えていたと考えられる。

2 西区土器集積遺構について

西区東端の6C25～7C21・Ⅱb層上面から、土器集積遺構を1箇所確認した。集積は、1.5×1.2mの狭い範囲にある。出土した遺物は大半がその場で割れた状態にあり、西方向の斜面下位にやや流れているものの元位置を留めていると考えられる。これらは、出土した状況から破損品を廃棄したものではなく、完形品を地面に並べて置いたものと推察される。中には、鉢の中に壺を入れた子した出土状況を示す例も認められる。推測の域を出ないが、出土状況から液体・固体の供物を入れた器であろう。

出土した土器はすべて、晩期後葉のⅨ群B類大洞A1式段階に相当する土器群に比定されることから、その一括性が指摘できる。このうち、復元できた器種組成は深鉢2点・鉢9点・台付浅鉢1点・壺8点の計20点で、各々の器種内でもサイズが小形で規格的である。器形も整一性が高く、特に鉢・壺は整っている。上述した入れ子の個体は、31鉢に48壺が入った状態で出土したものである。

本遺跡で確認した完形土器を集積した遺構の出土事例として、青森県東津軽郡外ヶ浜町（旧平館村）今津遺跡（青森県教委 1986）や秋田県横手市増田町（旧平鹿郡増田町）平鹿遺跡（秋田県教委 1983）、岩手県北上市九年橋遺跡（北上市教委 1977～80・84～87・90）がある。

今津遺跡では、晩期中葉大洞 C 2 式期の遺物密集ブロック（捨て場）がほとんど 1 ブロック検出され、遺物ごとの破損率から完形土器が相当数存在したとしている。個体数は明らかでないが、器種は深鉢、鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、壺、注口、その他（香炉、ミニチュア）と多岐に亘る。報告者の岡田康博氏は、遺物密集ブロック（捨て場）は人間による廃棄行為・行動の所産、結果であることは言うまでもないとしながら、完形土器を廃棄対象とすることについて、廃棄行為に思惟的・祭祀的行為が伴うことを指摘している。

平鹿遺跡では、晩期後葉大洞 A 式期の SX009 捨て場が検出され、多量の土器や石器、土製品、石製品が出土した。中でも、勾玉・小玉・耳栓など装飾品類が 664 個まとめて確認されている。このような捨て場の出土状況の中で、捨て場のゾーンから若干南に位置する SX006 土器一括廃棄遺構から、8 個体の完形土器が一括して廃棄された状態で検出された。器種は、深鉢 3 点、台付鉢 1 点、壺 4 点である。また、SX005 土器一括廃棄遺構からは、大洞 C 2 式期の 13 個体の完形土器や土器破片、石鏃、小形の独鈷石、有溝半球状石製品が一括廃棄された状態で出土している。このような捨て場の在り方について、報告者の小玉準氏は、「平鹿遺跡は、個々の人間にせよ、あるいは人間が日常生活において製作、使用したところの様々な道具類にせよ、すでに生命を失ったものや不要になったものの集積地であると見るべきで、その中に構築された石囲炉と配石が、それらに対する祭祀行為の所産であるならば、人間の埋葬儀礼も諸遺物の廃棄行為も同一の観念の下に行われ、一脈通じるものがあつたと考える鈴木克彦の論は正鵠を得たものである」としている。

九年橋遺跡では、第 3 次・第 4 次調査の結果、延べ 252m² の調査区から完形・略完形の土器が 512 個体（1m²あたり約 2.0 個体）出土し、そのうち 186 個体（1m²あたり約 0.7 個体）が全く欠損のない良好な状態で出土した。報告者の藤村東男氏は、このような夥しい遺物の出土状況を、小林達雄の土器廃棄パターンに当てはめ、「住居址以外の斜面、溝、ピットなどのごく限られた範囲内から大量の完形もしくは完形に近い土器が多数の破片とともに出土するとされるパターン D（平和台パターン）に該当するものと思われる」としながらも、資料の集成と個々の遺跡の特殊性を確認することが必要としている。

3 遺跡の出土状況と今回の土器集積遺構を比べると、類似点が多く、特に平鹿遺跡 SX006 土器一括廃棄遺構の出土状況は完形土器を地面に並べて置いた手法や壺や鉢の組成割合が高いところが似通っている点が多い。このような遺物出土状況には、縄文人の行動が色濃く反映されており、読み取れる情報も多いが、意識的部分を推察することは難しいと感じた。

現地で指導頂いた小林克氏から、壺及び鉢が入れ子状態で集められていること、入れ子であることに関わって壺・鉢の大きさがより小形に、规格的に揃っていることは平鹿遺跡と相違する特徴であることをご教授頂いた。ここで記して感謝申し上げます。

3 出土堅果類について

今回の調査では、計 7 時期の古新田沢から、オニグルミ・トチノキ・クリなどの堅果類が多量に出土した。確認された資料は、その出土状況から住居や貯蔵穴に備蓄されたものではなく、すでに食料として利用され、廃棄されたものである。従って、食用する中身の子葉部分が残存することは稀であり、大半が内果皮や果皮、種皮などの殻のみの状態で出土している。

出土した植物遺存体の中で、最も多く確認され、縄文人が主な植物質食料としたであろうオニグルミ・トチノキ・クリの利用について考えると、オニグルミ・クリについては生食可能であるのに対し、トチノキの実（種子）はあく抜き工程を経ないと食料にすることができない。

トチノキの実のあく抜きについて、名久井文明氏は民俗例を援用しながら、①トチを粉砕する「発酵系あく抜き」方式、②トチを粉砕する「水晒し系あく抜き」方式、③トチを粉砕する「はな（澱粉）取り系あく抜き」方式、④トチの剥き身を使う「灰汁合わせ系あく抜き」方式の4つのあく抜き方式に分類している（名久井2006）。①～③はトチノキを種皮ごと粉砕して作業するのに対し、④は口歯や道具を用いて剥き身を大きく取り出すことで異なる。今回の調査では、1/2未満の細片がトチノキ総量の92.9%を占めた。1/2以上残存した破片は3.8%であることから、出土したトチノキ種皮の大半は粉砕するあく抜き作業によって産出されたと考えられる。ただし、大破片も少数であるが存在するため、利用の仕方によってはの相違の可能性がある。推定時期により、作業手法に変化が現れることも考慮したが、大きな違いは認められなかった。

また、名久井氏は民俗例からあく抜きに使用する灰汁については、「木灰を用いたのは、「あく抜き」効果を促進させる目的だったと理解される」とし、「灰汁を使うことは、これを使わない諸例に照らすと「あく抜き」のための必須条件ではない」と指摘している（前掲）。これに照らせば、沢の流水を利用して、アルカリ中和を行わない①～③の方式が採用された可能性もある。

オニグルミは、生食可能な食料であるが、堅い内果皮（核）に覆われており、中身の子葉部分を取り出すには、直接または間接打撃により殻を割る作業を伴う。合計4359.6g出土し、層別別に見るとⅡb層2275.5g、Ⅲ層130.3g、Ⅳ層1455.3gと晩期後半包含層であるⅡb層からの出土が半数以上を占める。出土層別ごとに破損の割合を見ると、いずれも頂部や底部の破損の割合が高く、打撃箇所を意識して作業を行っていることが確認された。また、Ⅴ出土遺物でも触れたが、出土した個体中に、炭化したクルミの殻を確認した。生食可能なクルミを加熱する行為については不明だが、現代でもクルミを割りやすくするために熟することがあるという。これから、縫合面が剥離しやすくして、作業軽減を図った可能性がある。

クリも生食可能で、果皮が薄いことから口歯で簡単に割ることができる。ただ、果皮内にムシが侵入しやすく、備蓄するためには民俗例から茹でた後でムシ殺しを施した後に、乾燥させて保存する作業を伴う。合計1783.5g出土し、層別別に見るとⅡb層71.4g、Ⅲ層177.5g、Ⅳ層1508.2gと後期初頭包含層出土が84.5%を占める。晩期の利用数量が著しく少ないのは、利用自体が少ないというよりはむしろ廃棄場所が異なることが影響していると考えられ、遺跡内に直接持ち込まれたことを示している。

今回の調査では、植物利用の痕跡として、オニグルミ・トチノキ・クリなど遺物の残渣の集積は確認されたが、これらの植物質食料の加工作業を行う明確な施設は検出されなかった。佐々木由香氏によれば、「水場遺構」がさす範囲は3つのレベルにおおまかに分けられる（佐々木2000）。①構築物（施設）や遺物の有機的な関係が捉えられる空間レベルで出土したもの、②水を利用するために作られた構築物（施設）レベルで出土したもの、③水を利用するために使用された遺物のレベルで出土したもの（遺物の残渣状況から①または②のレベルの「水場遺構」が想定されるもの）である。

調査で出土した堅果類の残渣は、「施設ではないが、水を利用した行動の結果形成された」ものであり、間接的ではあるが水場施設の範囲に捉えられる。そして、これらが集中して確認された西区は、古新田沢の流水を利用した水場空間であり、集落の中でも低地を利用した「水場遺構」が存在したことを物語る。

4 総括

今回の調査は、平成23・24年の足掛け2カ年、約7ヵ月間行った。検出した遺構は、竪穴住居跡1棟、土坑1基、焼土遺構1基、土器集積遺構1基、土器設置遺構2基、溝跡9条、ピット2個、沢跡7期、礫群3基、堅果類集中範囲多数である。また、出土した遺物は、縄文土器大コンテナ145箱、土製品95点、石器4985点（うち製品297点）、石製品5点、木製品1点、昆虫13試料、動物遺存体（焼骨）220g、植物遺存体（オニグルミ4.539g・トチノキ21.475g・クリ1.783.5g・植物葉16試料・樹木48点）、平安時代の土器中コンテナ1箱、近現代の陶磁器ビニール1袋、鉄製品6点である。

東区の調査は、平成21年度調査で確認されていた遺跡中段の縄文時代中期後葉の集落の一部であり、今回の調査で集落の西端が確認された。

また、西区の調査は、遺跡西端の低地部分に古新田沢の水を利用した水場遺構を確認することができた。ただし、住居などこの低地を利用した居住域は調査範囲内では認められなかった。今回の調査と並行して、西側に隣接する深沢野Ⅰ遺跡の調査が一部行われ、晩期後半の竪穴住居跡1棟を検出している。調査地点は、両遺跡の間にある谷底に立地しており、隣接する集落の低地利用が推定される。

引用・参考文献

- 青森県教委 2004「岩渡小谷（4）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第371集
 青森県教委 2003「縄文人の台所・水さらし場遺構を考える」平成14年度縄文講座資料
 稲村晃嗣 2008「門前式土器」『総覧 縄文土器』p.p.536-543
 岩埋文セ 2011「新田Ⅱ遺跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第572集
 岩埋文セ 2012「川目A遺跡第5次」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第589集
 青森県教委 1986「今津遺跡・間沢遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第95集
 秋田県教委 1983「平鹿遺跡」秋田県文化財調査報告書第101集
 北上市教委 1978「九年橋遺跡第4次」文化財調査報告第23集
 北上市教委 1979「九年橋遺跡第5次」文化財調査報告第25集
 栗島義明 2008「縄文時代のトチの実利用とその加工（Ⅰ）- 民俗資料と考古資料との比較研究-」『環境史と人類』第2冊 明治大学学術フロンティア
 小林圭一 1999「東北地方 後期（竊土器）」『縄文土器』10 p.p.149-177 縄文時代文化研究会
 小林圭一 2008「竊土器」『総覧 縄文土器』p.p.568-577
 佐々木由香 2000「縄文時代の「水場遺構」に関する基礎的研究」『古代』第108号 p.p.93-127
 佐々木由香・工藤雄一郎・百原新 2007「東京都下宅部遺跡の大型植物遺体から見た縄文時代後半期の植物資源利用」『植生史研究』第15巻第1号 p.p.35-50
 鈴木克彦 2008「宝ヶ塚式・手稲式土器」『総覧 縄文土器』p.p.552-559
 遠野市教委 2002「新田Ⅱ遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第13集
 中野幸大 2008「大木7 a～8 b式土器」『総覧 縄文土器』p.p.352-359
 名久井文明 2004「乾燥堅果類備蓄の歴史的展開」『日本考古学』No.17 p.p.1-24
 名久井文明 2006「トチ食料化の起源- 民俗例からの遡源的考察-」『日本考古学』No.22 p.p.71-93
 新潟県朝日村教委 2002「元屋敷遺跡Ⅱ（上段）」朝日村文化財報告書第22集
 新潟県教委 2004「青田遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集
 新潟県教委 2009「野地遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第196集
 新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教委 2002「川辺の縄文集落」『よみがえる青田遺跡』資料集
 福島県立博物館 1988「三貫地貝塚」福島県立博物館調査報告第17集
 藤沼邦彦・関根達人 2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総覧 縄文土器』p.p.682-693
 本間宏 2008「南境式・網取式土器」『総覧 縄文土器』p.p.544-551
 森幸彦 2008「大木9・10式土器」『総覧 縄文土器』p.p.360-367

写 真 图 版



遺跡遠景（北上空から）



西区近景（西から）



西区・NR03 沢跡堆積状況（南西から）



西区・北端セクションA断面（南東から）



NR03 (2B15) II b 層下部クルミ殻集中 (北西から)



NR03 (2B20) II b 層下部トチ殻集中 (南から)



S R 03 土器設置遺構 (南西から)



S R 03 出土土器集合写真



S I 07 西半全景 (東から)



S I 07 西半全景 (西から)



炉2検出 (南東から)



炉3検出 (東から)



炉4検出 (北から)



炉4断面 (東から)



P1断面 (南から)



P2断面 (南から)



P4断面 (西から)



P5断面 (南から)



S K 101 完掘 (西から)



S K 101 完掘 (南から)



S K 101 断面 (西から)



S K 101 底面副穴 (西から)



北西部 37G 区包含層着手前 (南から)



北西部 37G 区包含層断面 (北西から)



北西部 37G 区小ピット群 (北から)



北東部隣接地遺物包含層



着手前の現道（南東から）



砕石盛土除去作業（北から）



現道部分南半検出（北から）



現道部分北半検出（北から）



現道部分北端検出（南から）



S107 検出（東から）



東区住居跡精査風景（西から）



東区実測作業風景（北から）



西区航空写真（直上・上が北）



西区全景（北西から）



セクションA断面（南東から）



セクションB断面（北東から）



セクションB裏側断面（南西から）



セクションB・C断面（南東から）



セクションD断面(東から)



セクションE 3C区断面(南から)



セクションE 2C区断面(南から)



セクションE 4C区断面(南から)



セクションF断面 (北東から)



セクションG 5B区断面 (西から)



セクションG 5C区断面 (西から)



セクションH断面（南西から）



セクションI断面（東から）



セクションJ断面 (南東から)



セクションK断面 (南から)



セクションL断面（北西から）



セクションM断面（南から）



セクションN断面（南から）



セクションO断面（北東から）



セクションO裏側断面（西から）



セクションP断面（北から）



セクションQ裏側断面（北から）



セクションR断面 (南から)



セクションS断面 (南から)



NR06 (4B10) 礫群 (北西から)



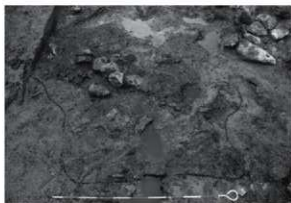
NR06 (5B18) 礫群 (北から)



NR06 (4B14・15) IV層下部堅果類集中 (西から)



NR06 (4B14・15) IV層下部堅果類集中 (北から拡大)



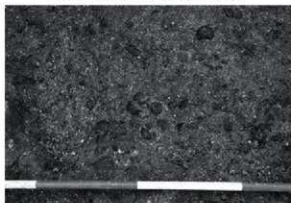
NR05 (4C9) IV層下部堅果類集中 (東から)



NR05 (4C9) IV層下部樹木集中 (南から)



NR07 (4B23・24) IV層下部堅果類集中 (西から)



NR07 (4B23・24) IV層下部堅果類集中 (北から拡大)



NR06 (4B20) IV層下部土器出土状況(南から)



NR07 (4B24) IV層下部土器出土状況(北から)



P101 (7C11) 完整(北西から)



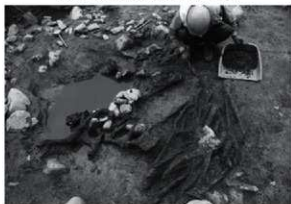
5B~C区地山面検出(北西から)



NR05 (5C区) 沢床面検出(北西から)



NR05 (5D区) 沢床面検出(南東から)



NR05 (4C9) 樹木集中精査風景



NR05 (3B区) 砂礫層掘削風景



6C～D区地山面完掘(北から)



4B～C区地山面完掘(南東から)



NR04 (3B区) 沢底砂礫層検出(北から)



NR04 (2C区) 沢底砂礫層検出(南から)



NR04 (3C区) 沢底砂礫層検出(南から)



NR03～04(3～4D区) 地山面検出(南東から)



NR04 (3C24) 植物葉・堅果類集中(南西から)



NR04 (3C19) 樹木検出(南から)



NR04 (3D13-14) 沢底砂礫層直上建築部材出土(南から)



NR04 (2D5) Ⅲ層中土器出土(南から)



NR04 (3C12) III層土器出土(南から)



NR04 (3C12) IV層土器出土(西から)



NR04 (3D5) III層土器出土(西から)



NR04 (3D11) III層下位土器出土(北から)



NR04 (3D12) III層土器出土(西から)



NR04 (3D15) III層中～下位土器出土(北から)



NR04 (4C6) III層土器出土(北から)



NR04 (4C6) III～IV層土器製品出土(北から)



SR01 検出 (北から)



SR01 内部断面 (北から)



SR01 外部断面 (北から)



SR02 土器検出 (西から)



NR03-04 地山面完掘 (北から)



4E~G 区地山面完掘 (南東から)



2~3D 区地山面完掘 (南から)



3D 区作業風景



4～6・E～G区地山面完掘（南東から）



4～6・E～G区地山面完掘（北西から）



NR03 (2B20) II b 層下部堅果類集中 (南東から)



NR03 (3B2・3) II b4 層土器出土 (北西から)



NR03 (3B7) II b4 層土器出土 (北西から)



NR03 (2B15) II b 層下部トチ殻集中 (北西から)



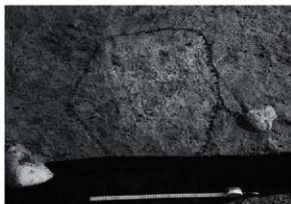
NR03(3B16) II b5 層中トチ殻集中 (南西から)



NR03 (3B6-7) II b3-4 層間粘土焼土ブロック検出 (東から)



NR03 II b4 層中焼土ブロック検出 (南西から)



NR03 (3B2) II b2層中SF01検出(北から)



セクションC断面(南から拡大)



NR03 (3B2) II b2層土器出土(南から)



NR03 (2A25 ~ 2B5) II b層下部樹木出土(北東から)



NR03 (3B3) II b層下部土器出土(南東から)



NR03 (3A23) II b層下部土器出土(東から)



NR03 (3A23) II b層下部土器出土(東から)



NR03 (3A24) II b層下部土器出土(北から)



NR02 (2D区) 樹木出土 (南から)



NR01 (2D区) 樹木出土 (南東から)



NR01 (3F区) 樹木出土 (南から)



NR01 (3F区) To-a テフラ検出 (北から)



NR01 (2E区) トレンチ断面 (北西から)



NR01 (3G区) トレンチ断面 (北西から)



4E～G区地山面完掘 (南から)



1D～F区地山面完掘 (南から)



NR01～04 (2～4D区) 地山面完掘 (北から)



NR01～04 (1～3-E～G区) 地山面完掘 (南から)



2 面目検出 (北から)



1 面目検出 (西から)



入れ子で出土した土器 (南西から)



作業風景



SD01 完掘(西から)



SD01 東端完掘(東から)



SD02 完掘(南から)



SD01 断面(東から)



SD02 断面(南から)



SD03 完掘 (南から)



SD03 南端東壁石組検出 (西から)



SD03 北端断面 (南から)



SD04 完掘 (南から)



SD04 断面 (南から)



SD10 完掘 (東から)



SD06 完掘 (北西から)



SD06 断面 (北西から)



SD07・08 断面 (北から)



SD07・08 (北西から)



SD09・6D 区完掘 (東から)



SD09・6C 区完掘 (西から)



NR03 (2B区) II b層下部作業風景



NR03 (3B区) II b層下部作業風景



降雪時の作業



西区作業風景



花粉分析サンプル採取 (古代の森研究舎吉川氏)



新田沢下流域 (調査地点付近)

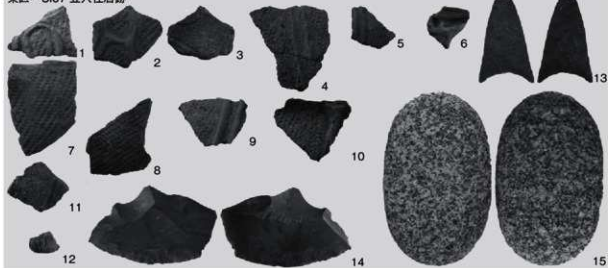


新田沢中流域 (ダム下流付近)



新田沢上流域 (新田橋付近)

東区・SI07 竪穴住居跡



東区・遺構外



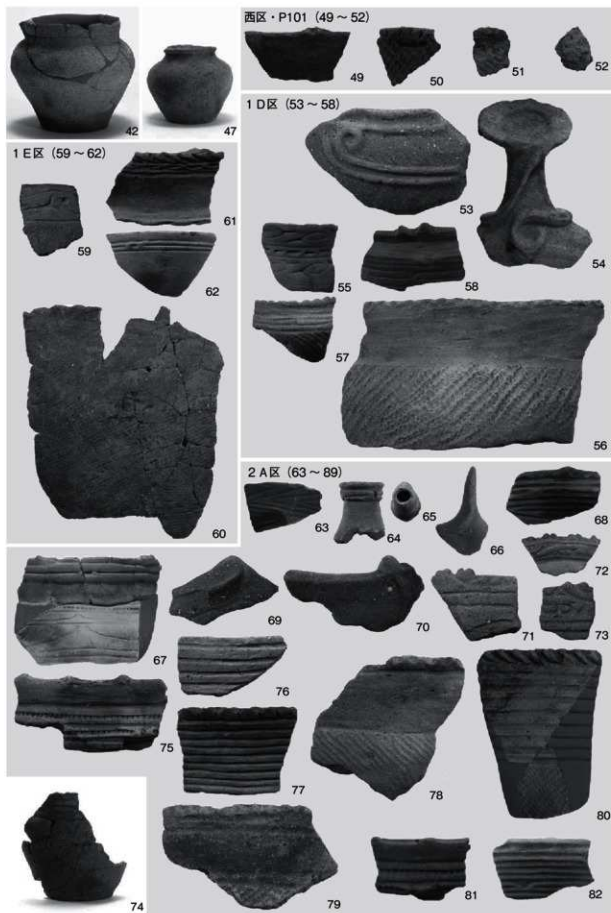
西区・SR01

西区・SR02



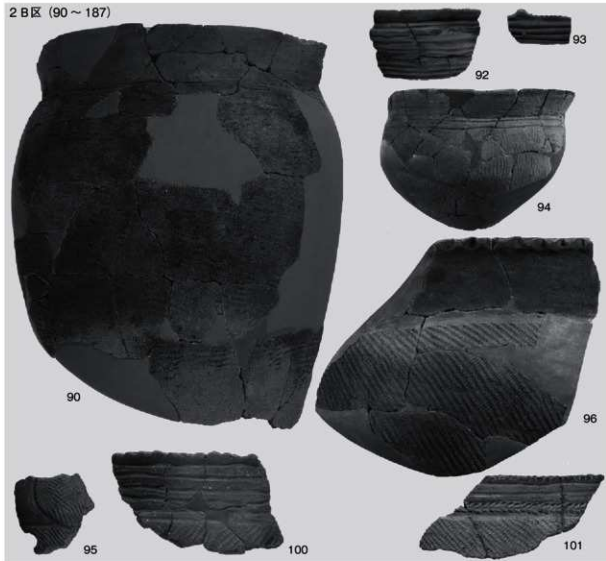
西区・SR03 (29～48)

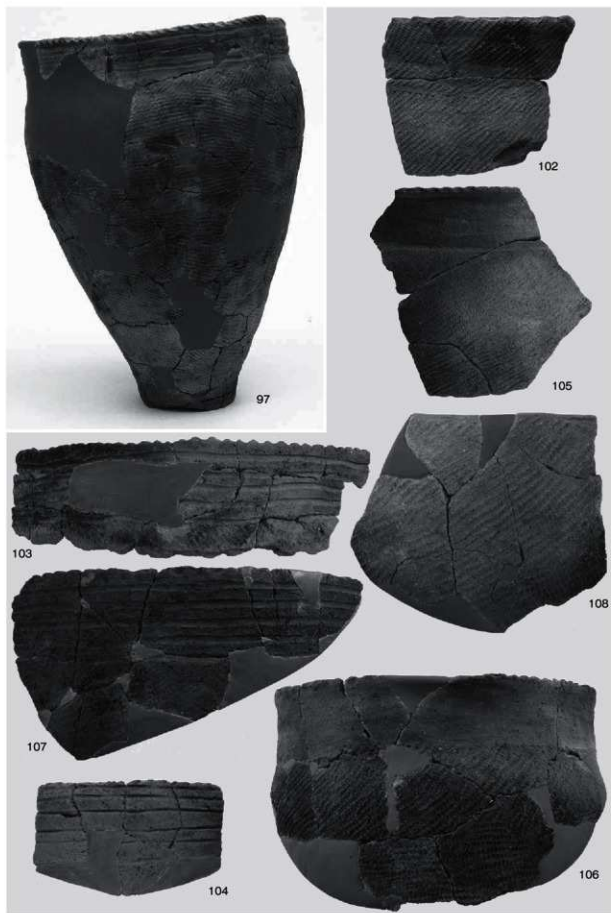


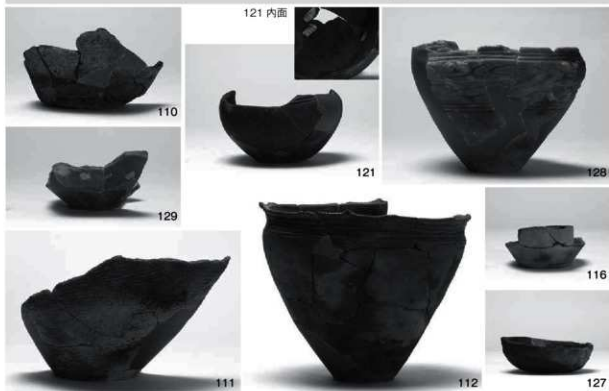


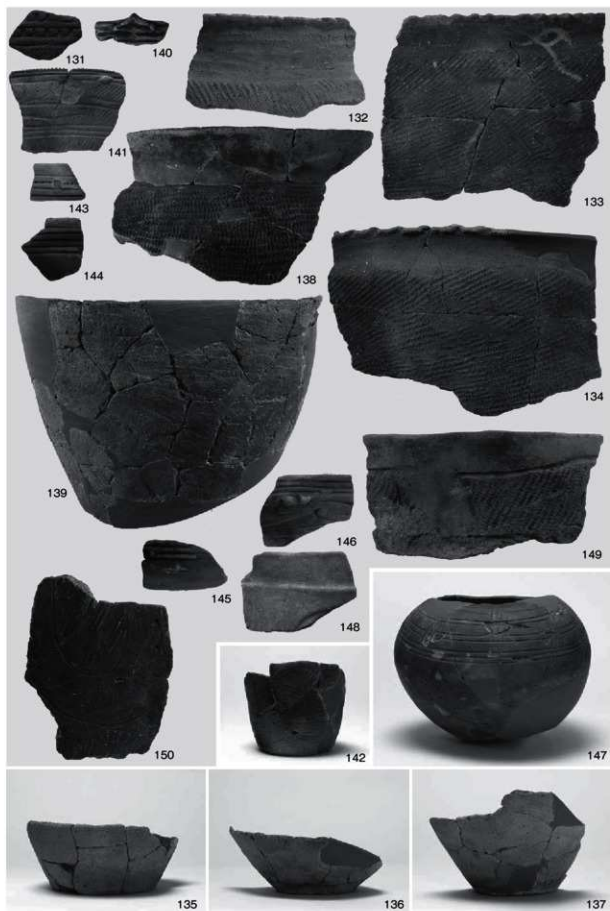


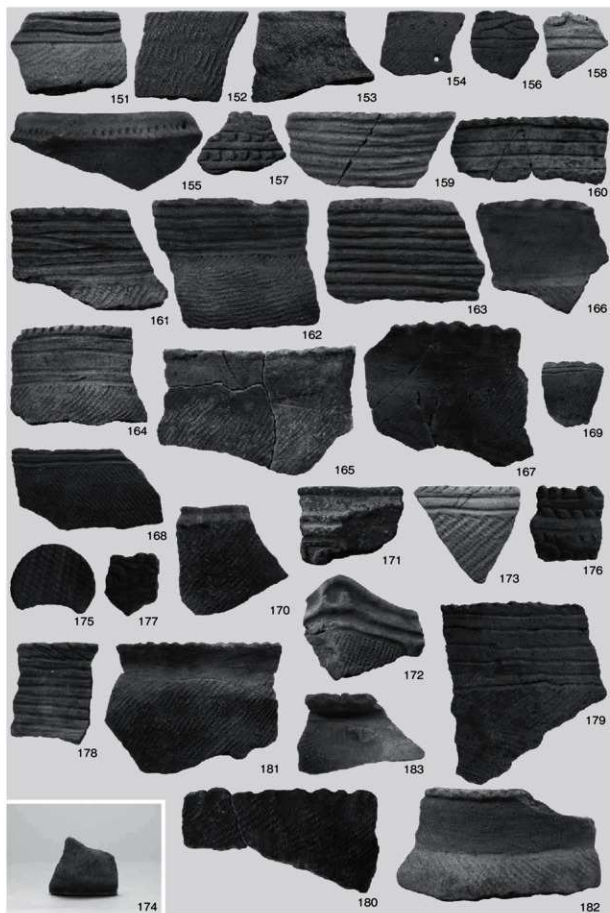
2 B区 (90~187)

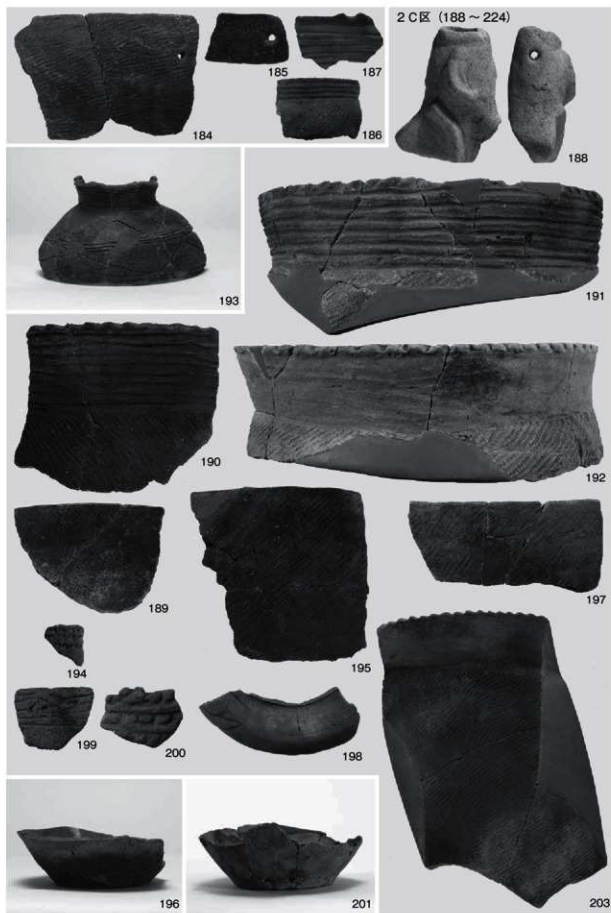


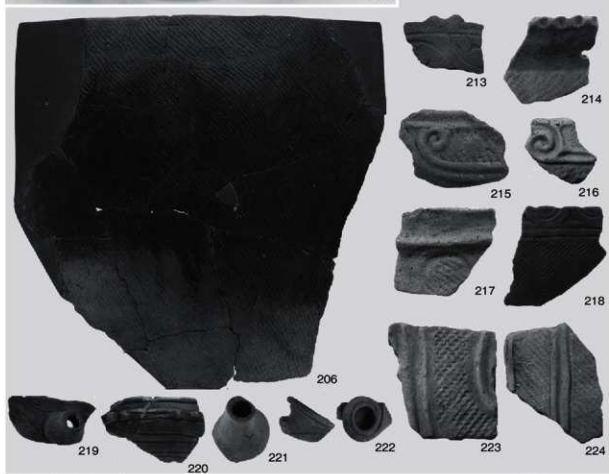






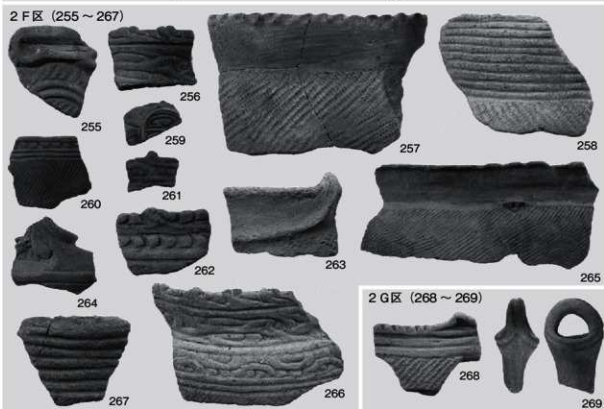


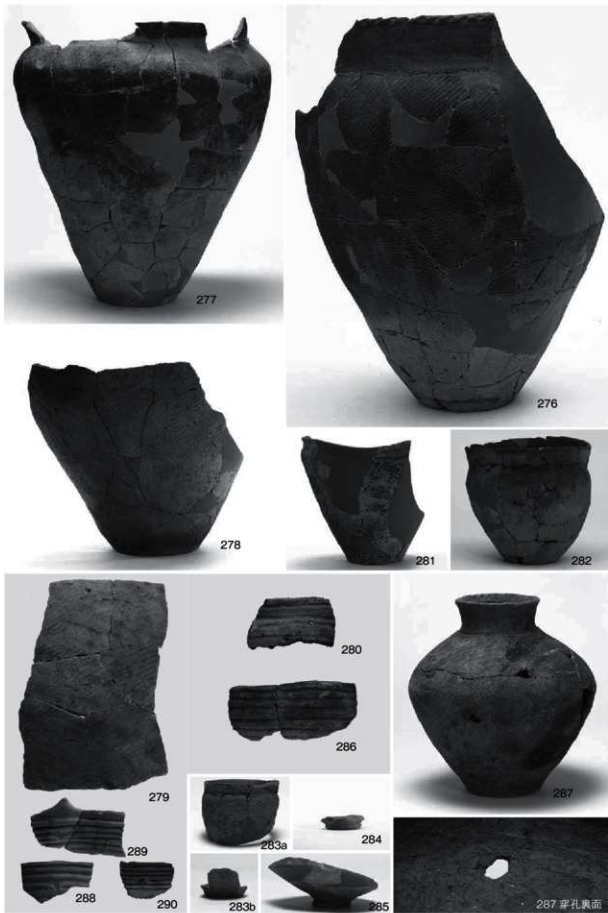


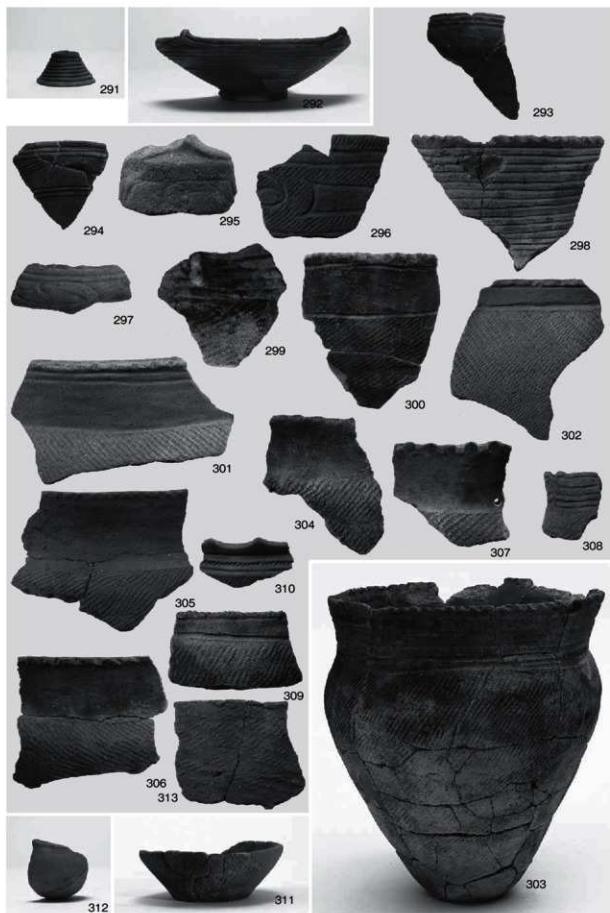




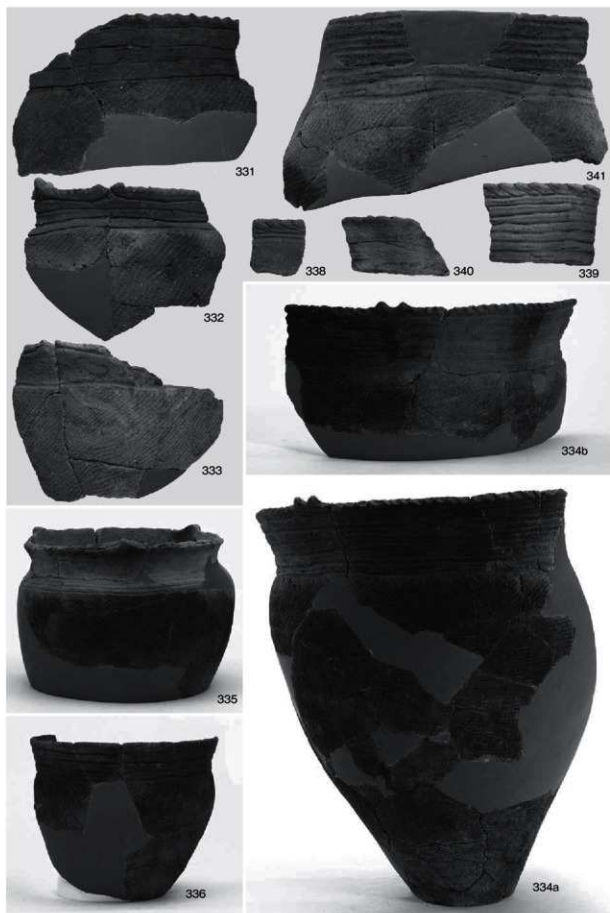
写真图版 47 西区·2D区(2)

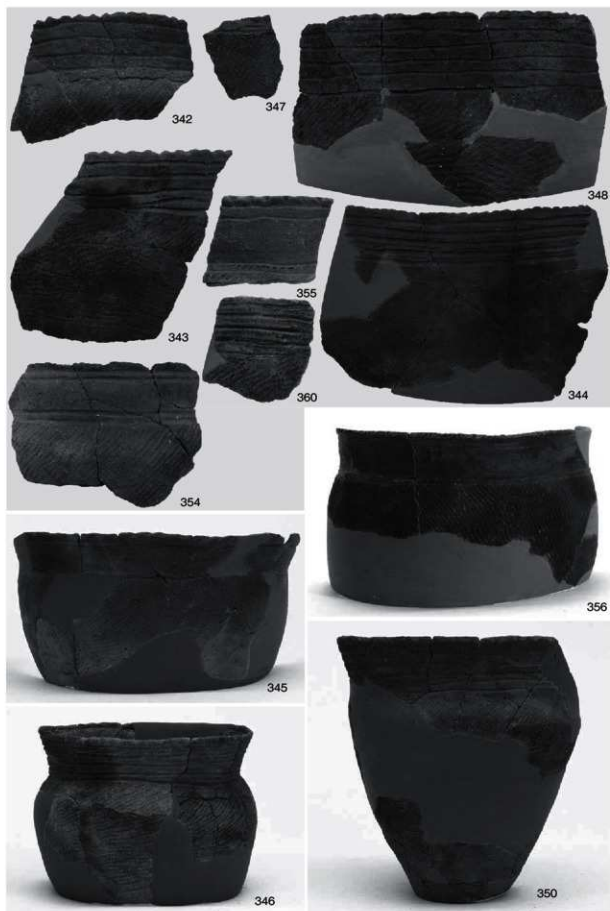


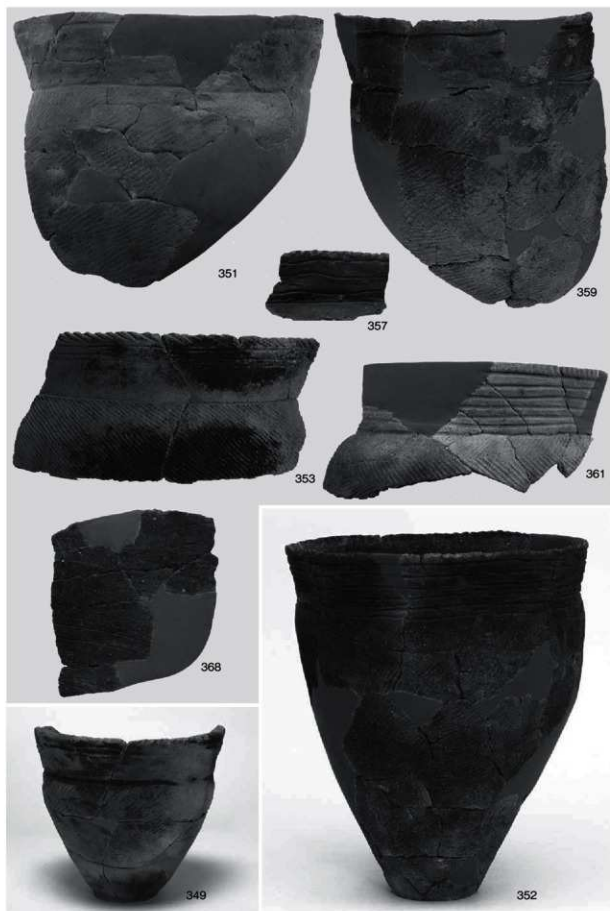


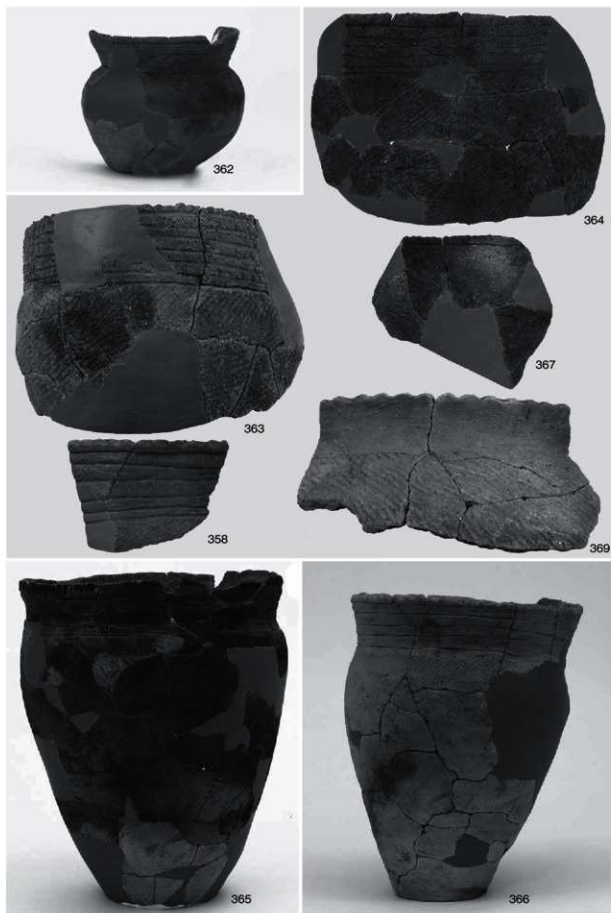


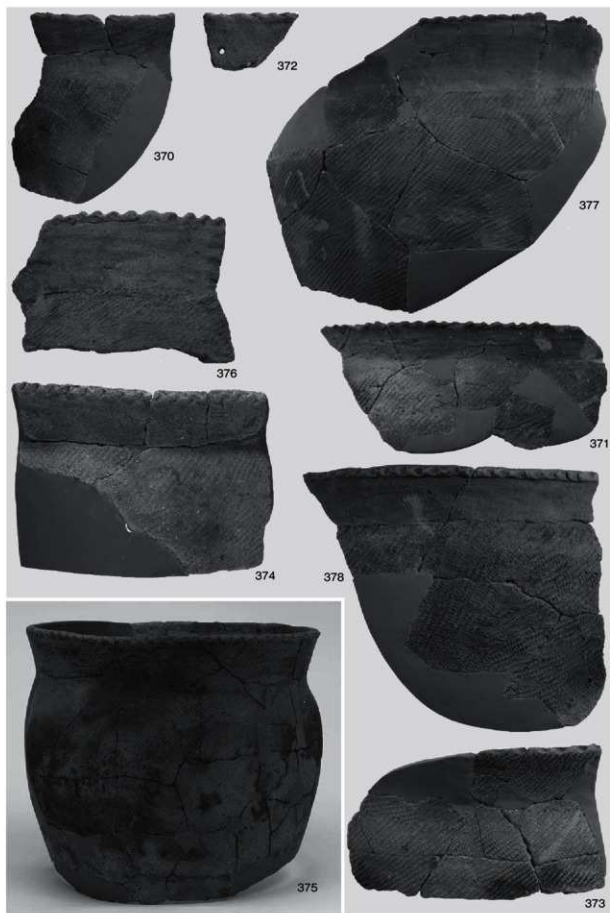


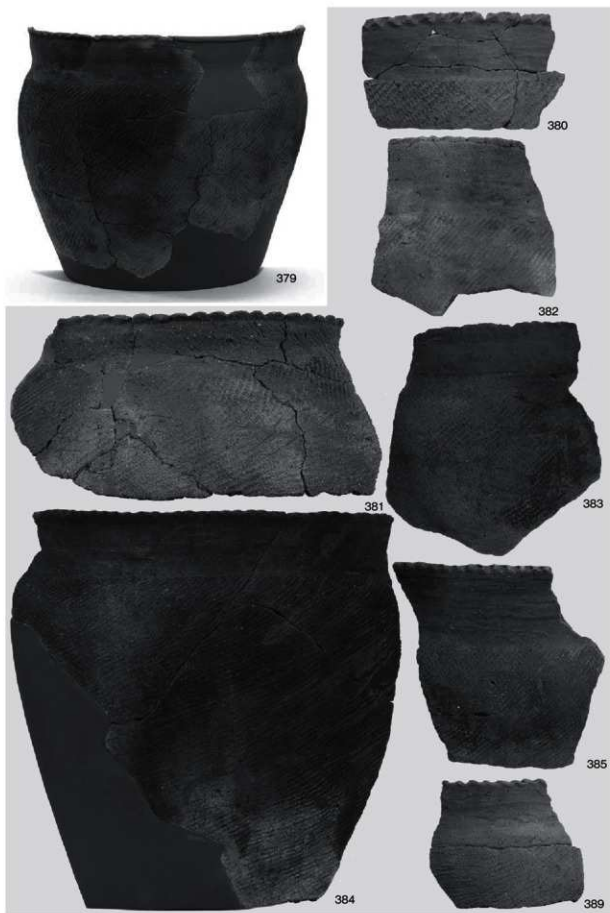




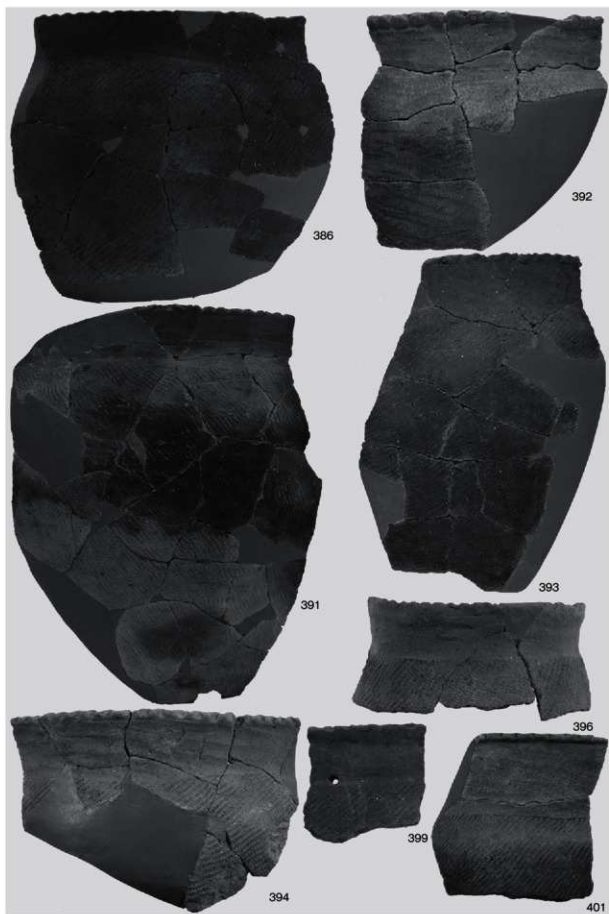




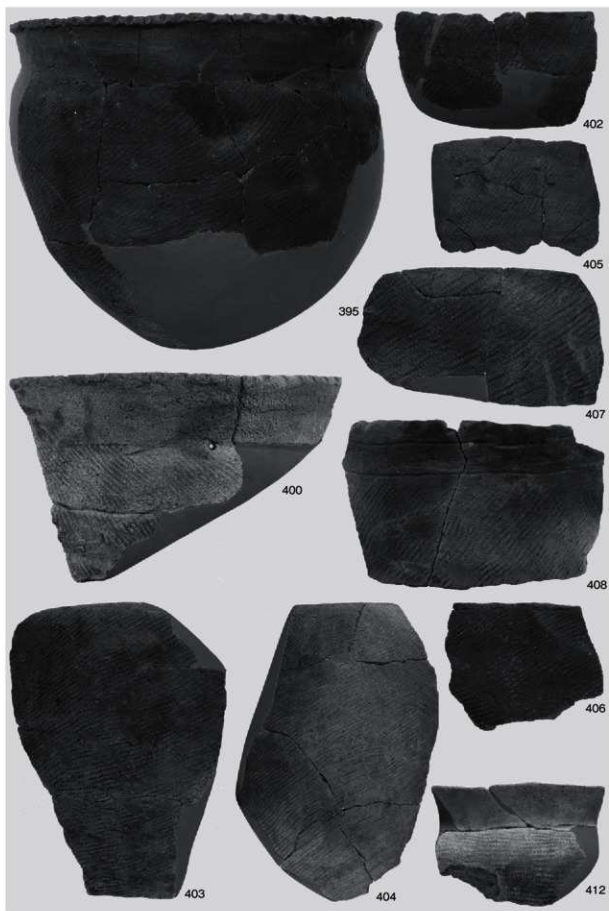


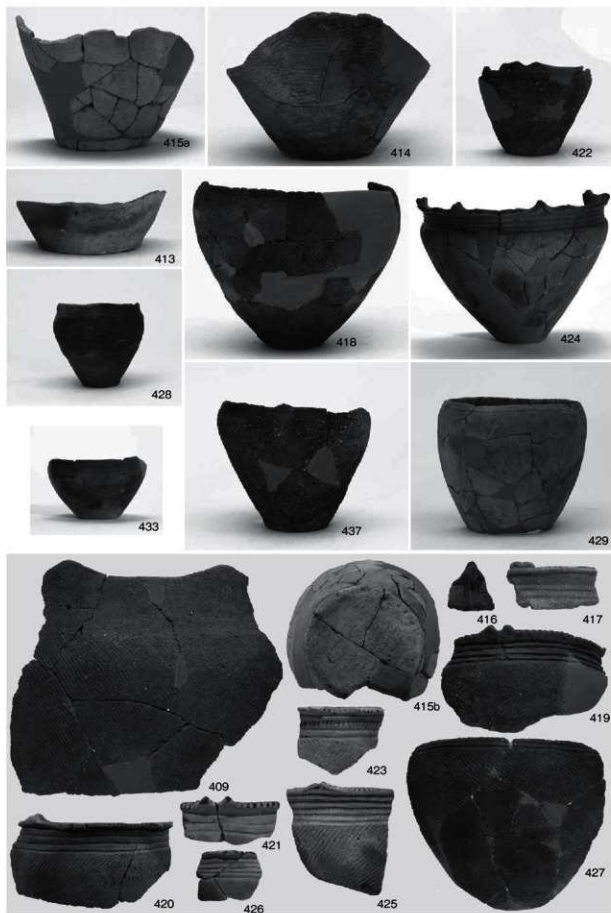


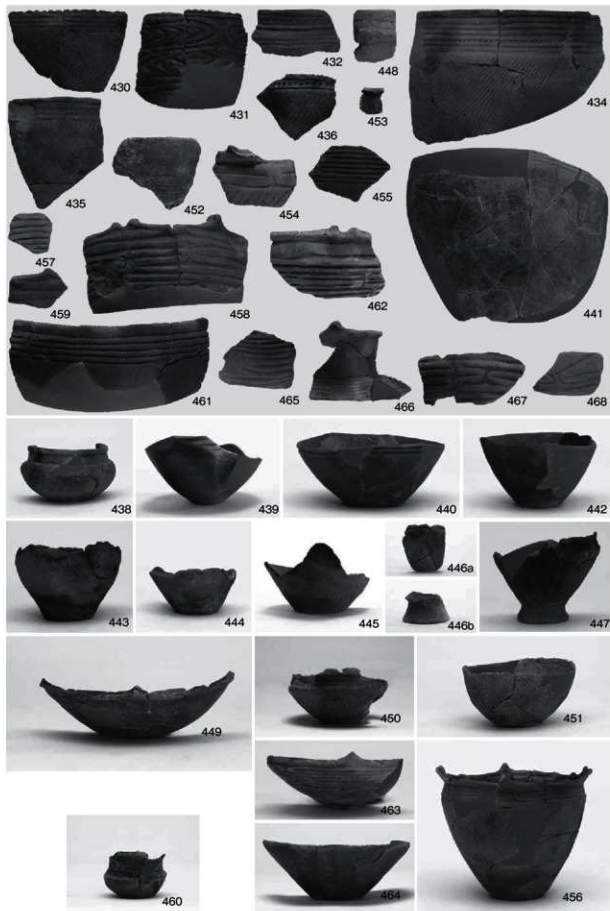


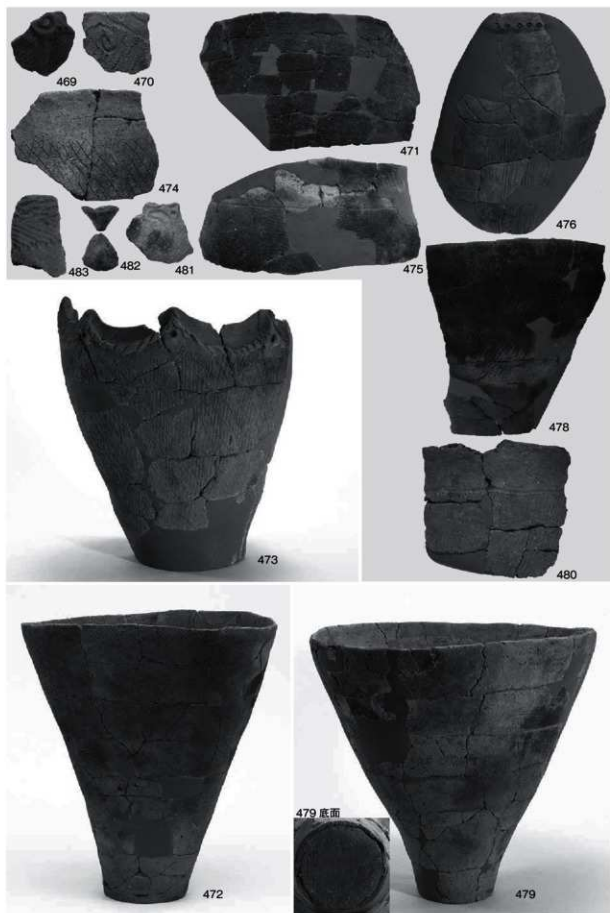


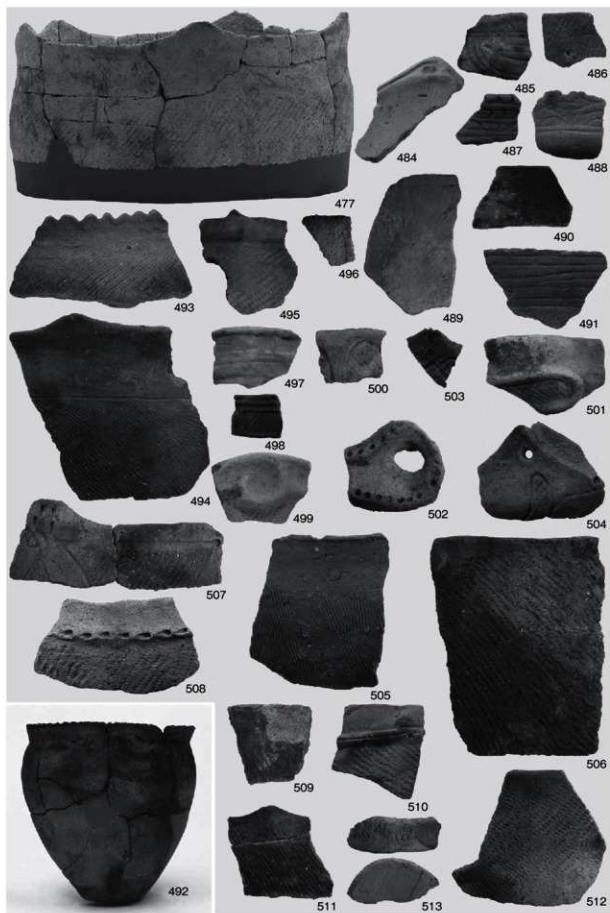
写真图版 59 西区·3B区(9)

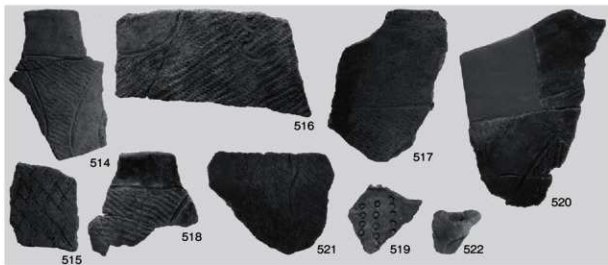








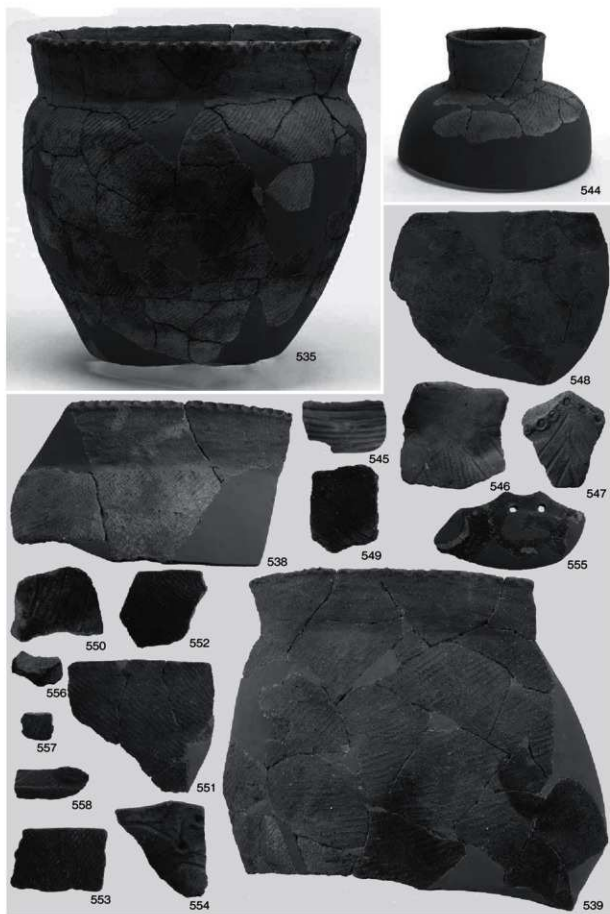


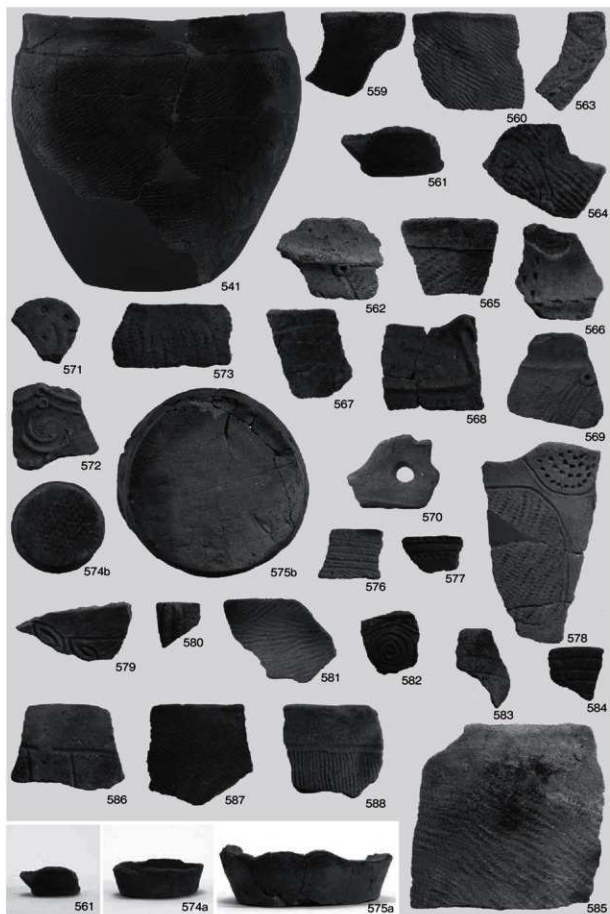


3 C区 (523 ~ 588)



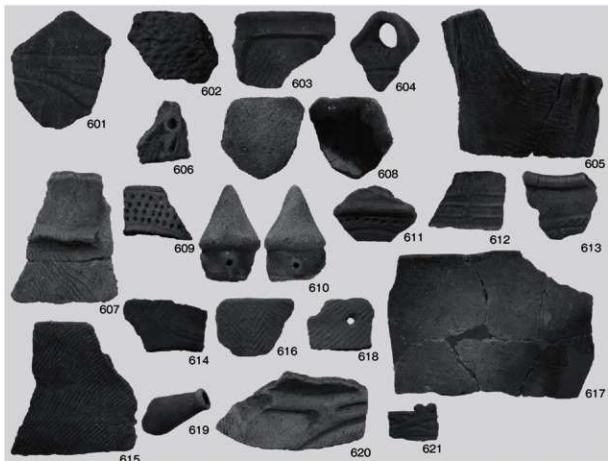




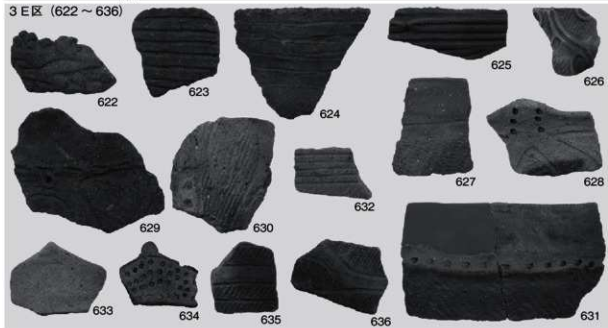


3D区 (589~621)





3 E 区 (622 ~ 636)



3 F 区 (637 ~ 641)



3 G区 (642 ~ 645)



642



643



644



645

4 A区 (646)



646

4 B区 (647 ~ 680)



647



648



648



649



652



653



658



657



650



651



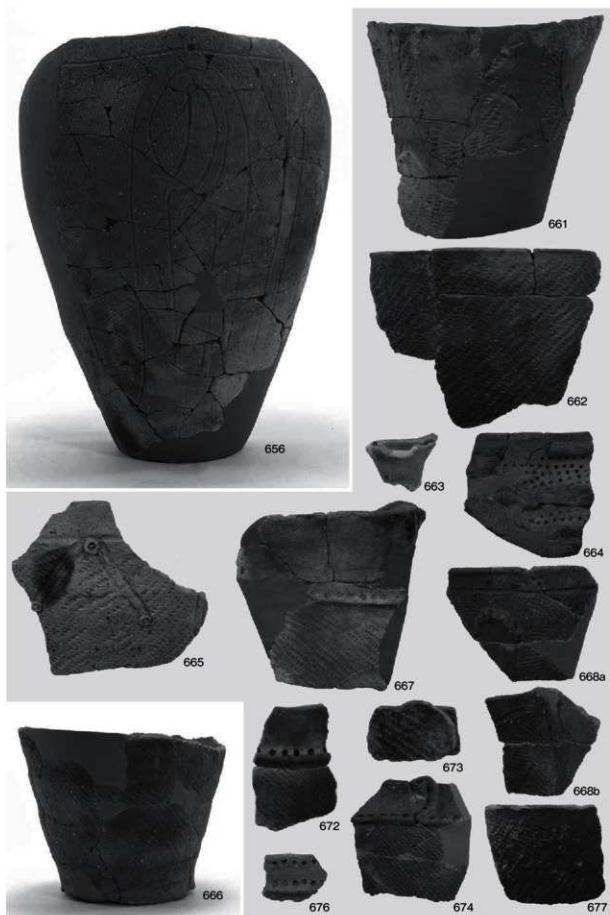
655



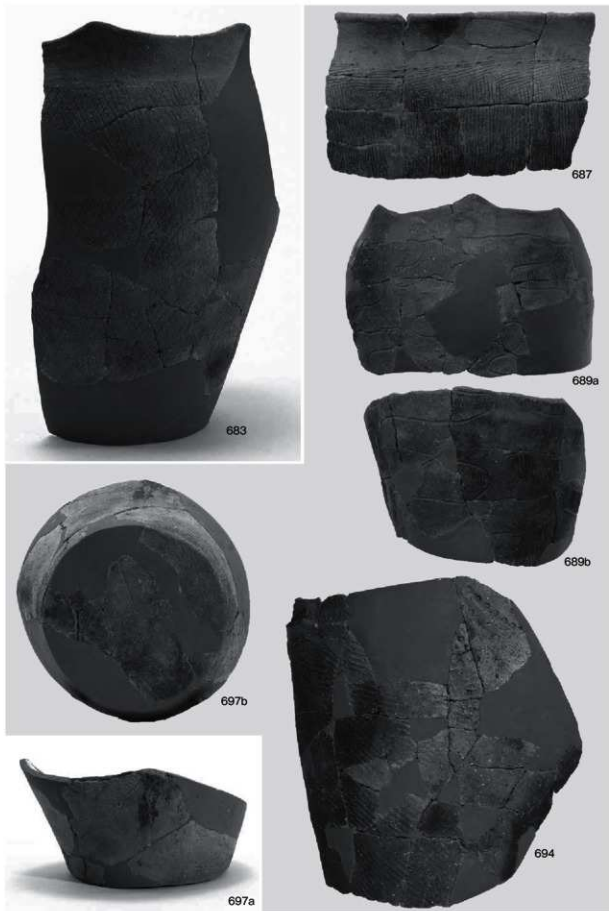
660



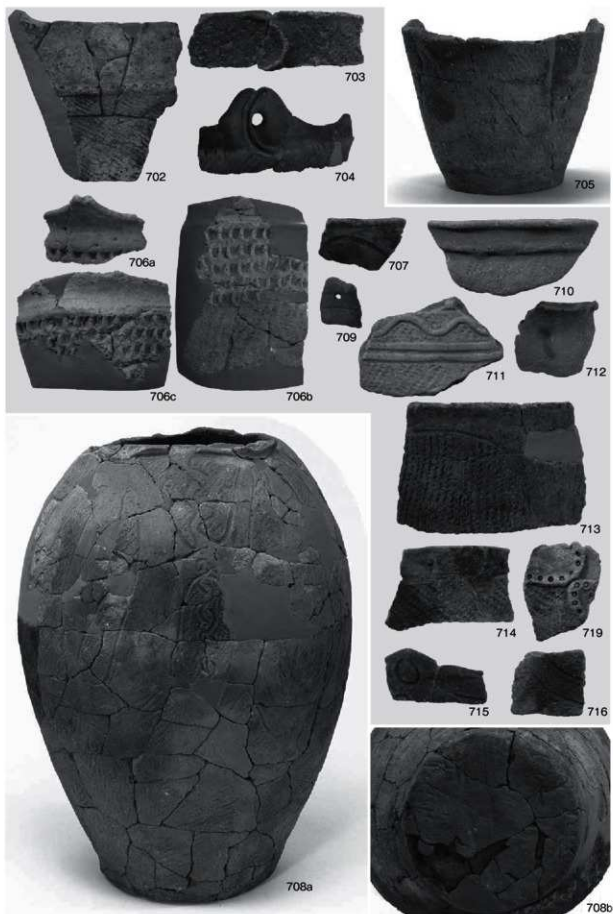
659



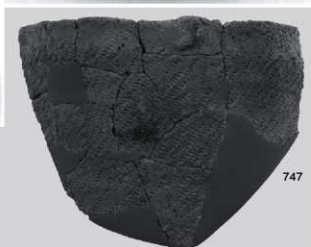


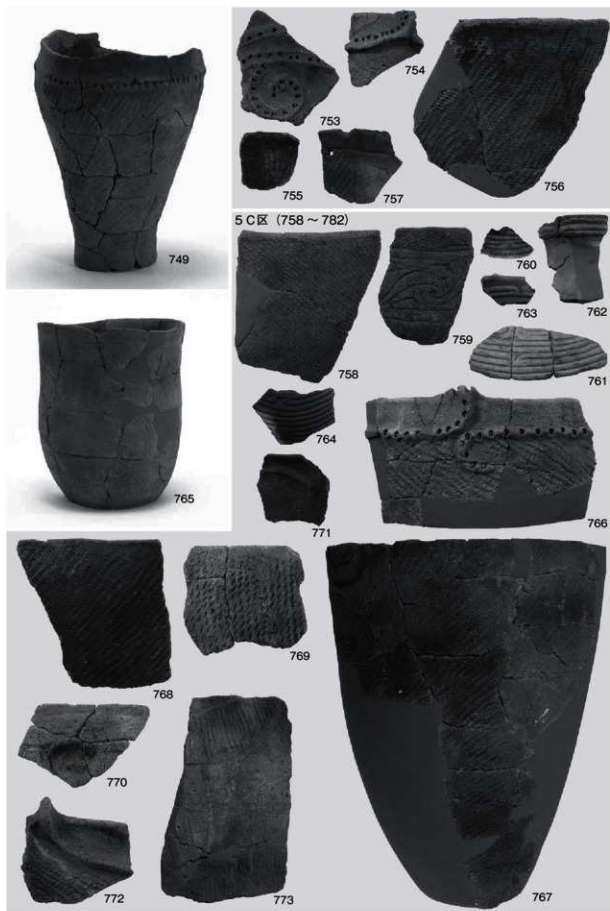


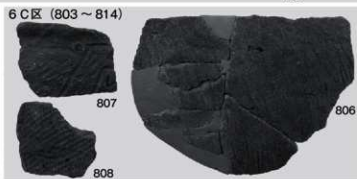
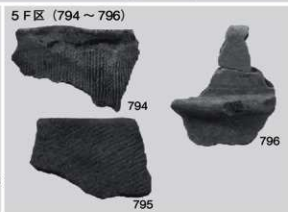


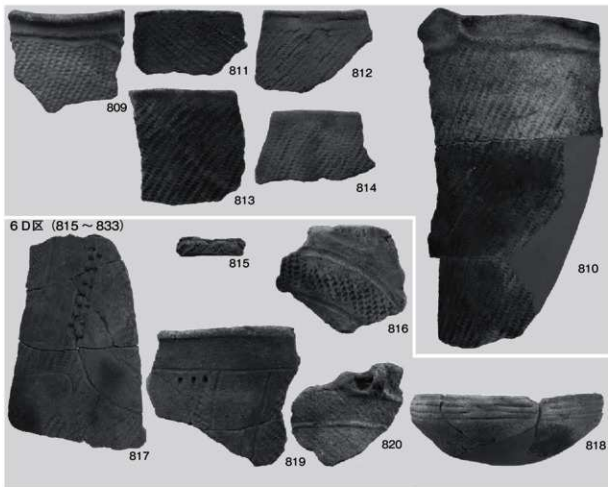


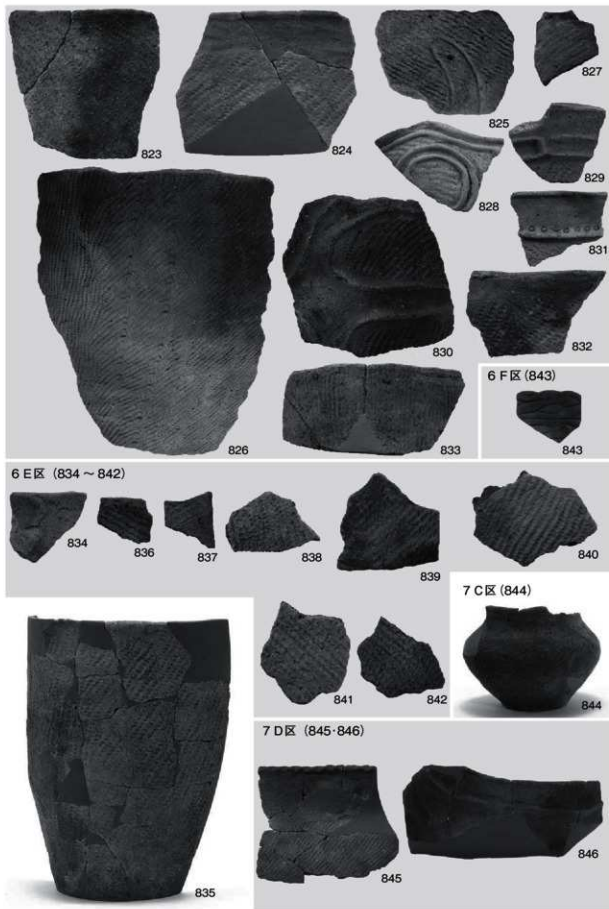




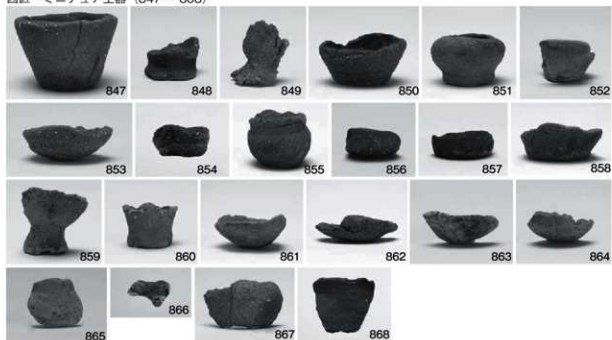




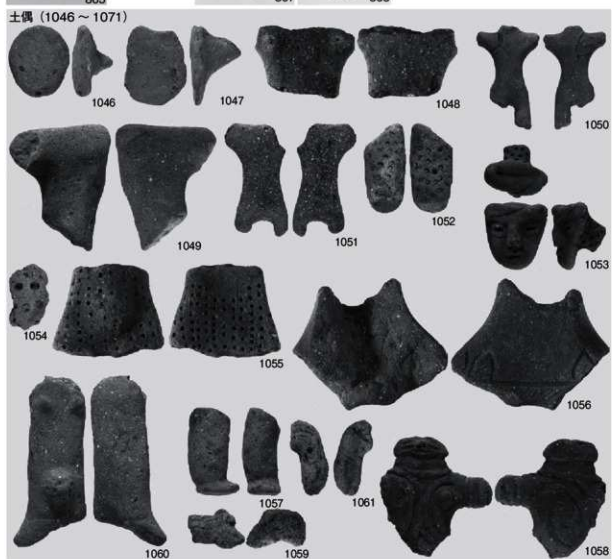


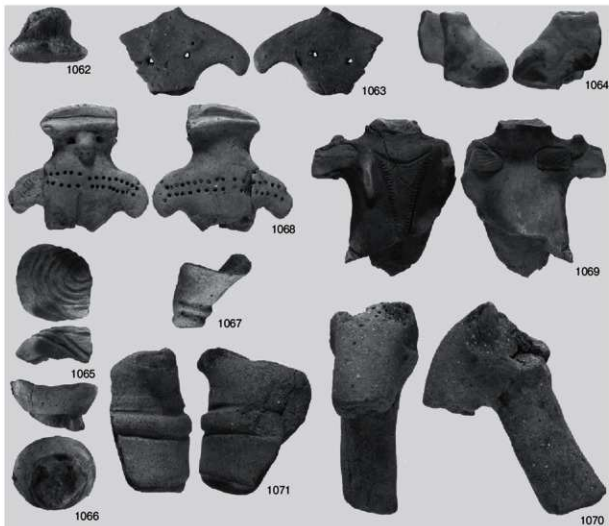


西区・ミニチュア土器 (847～868)



土偶 (1046～1071)





土製垂飾 (1072)



1072

土版 (1076・1077)



1076

1077

球状土製品 (1078)



1078

土錘 (1079)



1079

土製耳飾 (1073 ~ 1075)



1074

1073

土器片利用円盤状土製品 (1080 ~ 1128)



1082

1080

1081

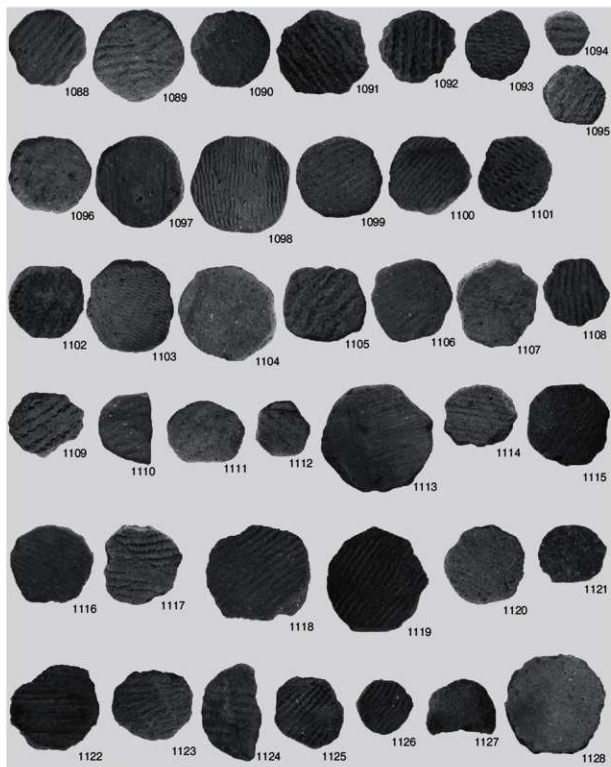
1083

1087

1086

1084

1085

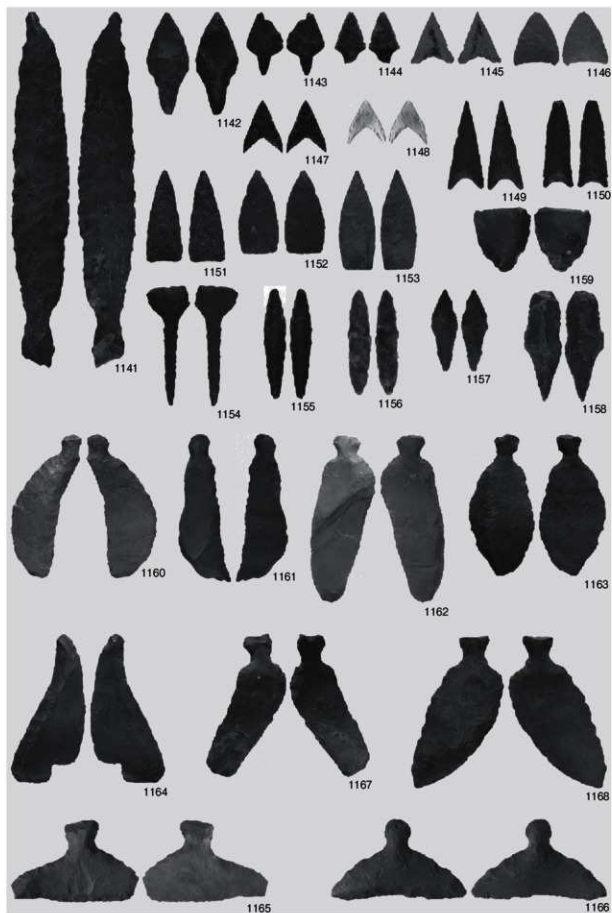


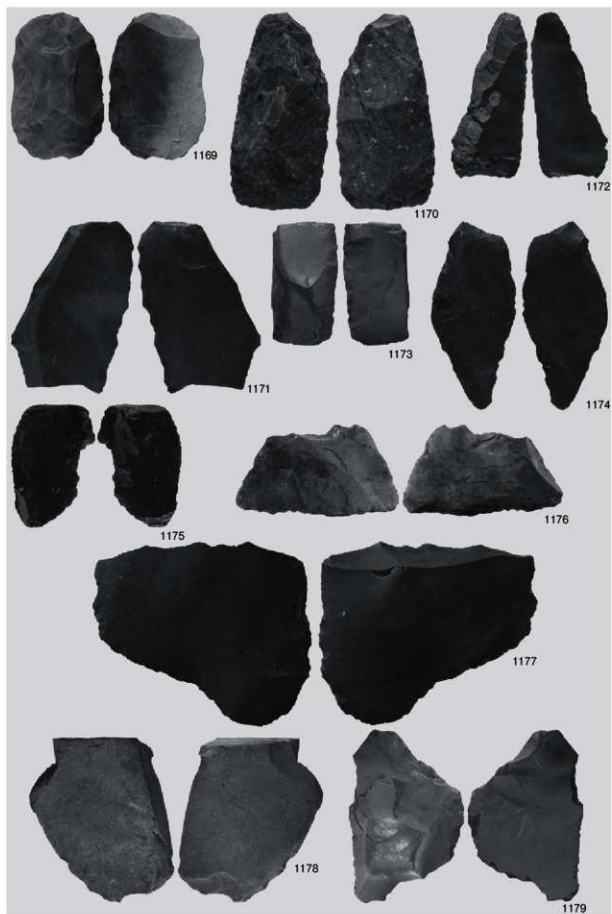
烧成粘土塊 (1129 ~ 1137)



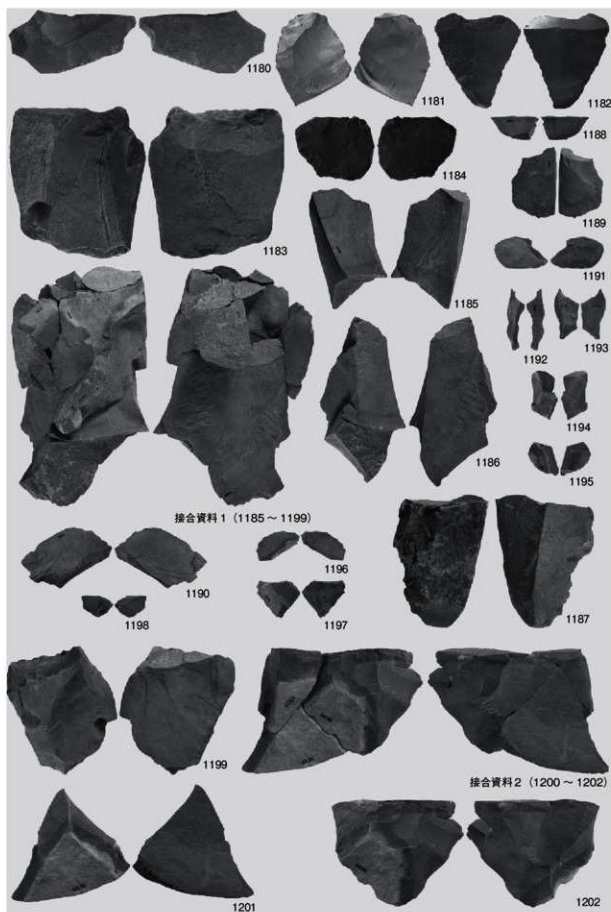
不明土製品 (1138 ~ 1140)



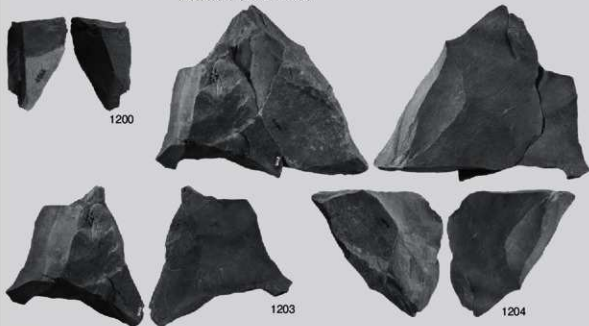




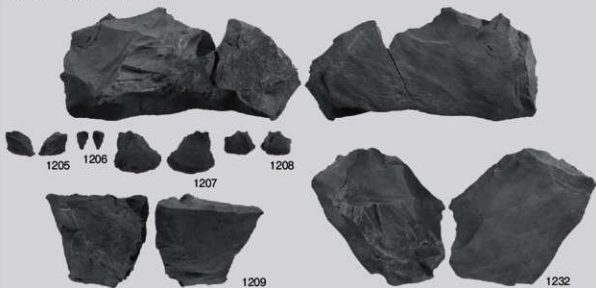
写真图版 87 出土石器 (2)



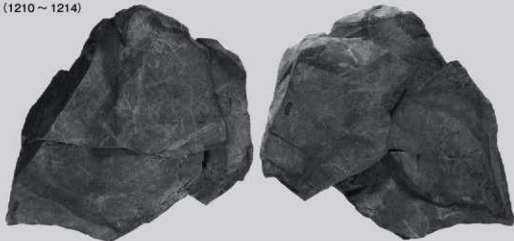
接合資料 3 (1203・1204)

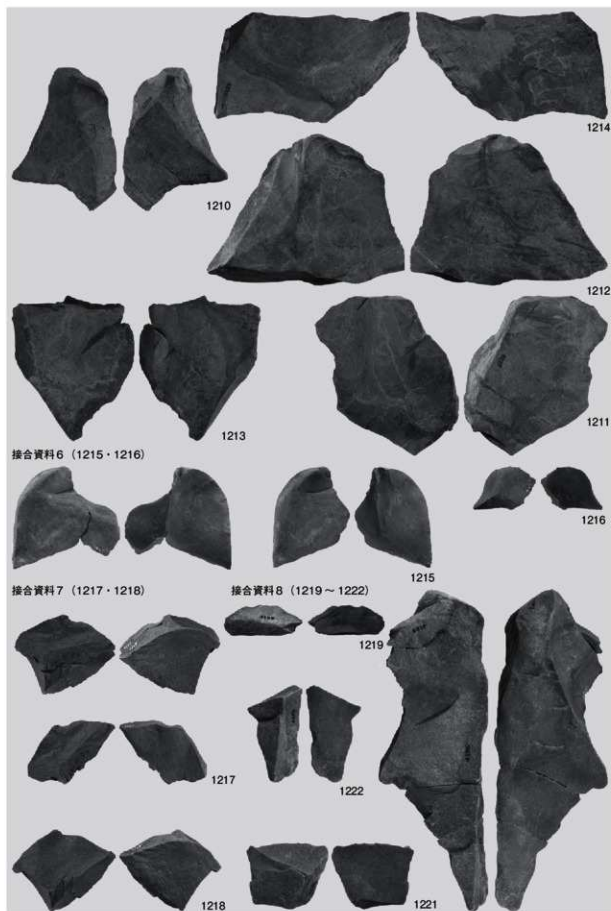


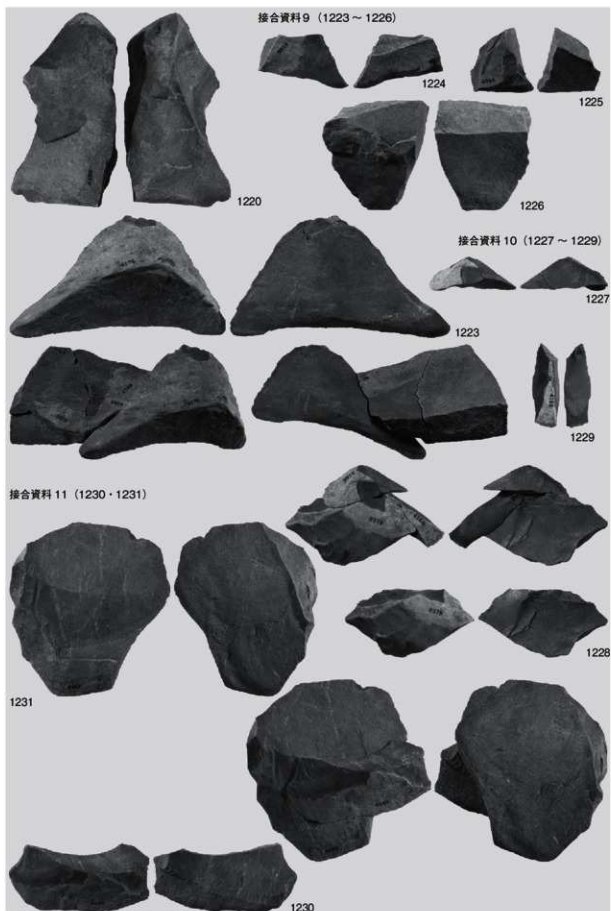
接合資料 4 (1205～1209・1232)

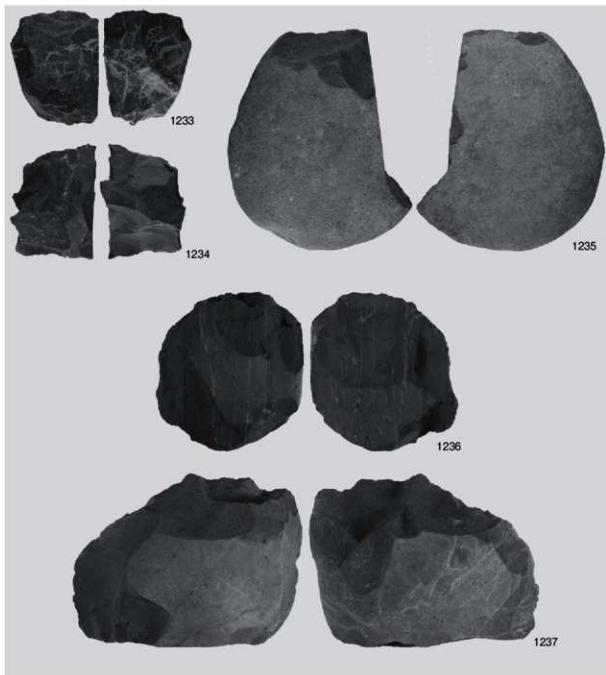


接合資料 5 (1210～1214)









1238 チップ1 (頁岩)



1239 チップ2 (頁岩)



1240 チップ3 (頁岩)



1241 チップ4 (珪質頁岩)



1242 チップ5・6 (頁岩)



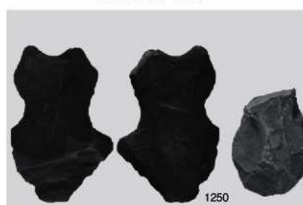
1243 チップ8 (頁岩)



1244 チップ7 (頁岩)



1245



1250

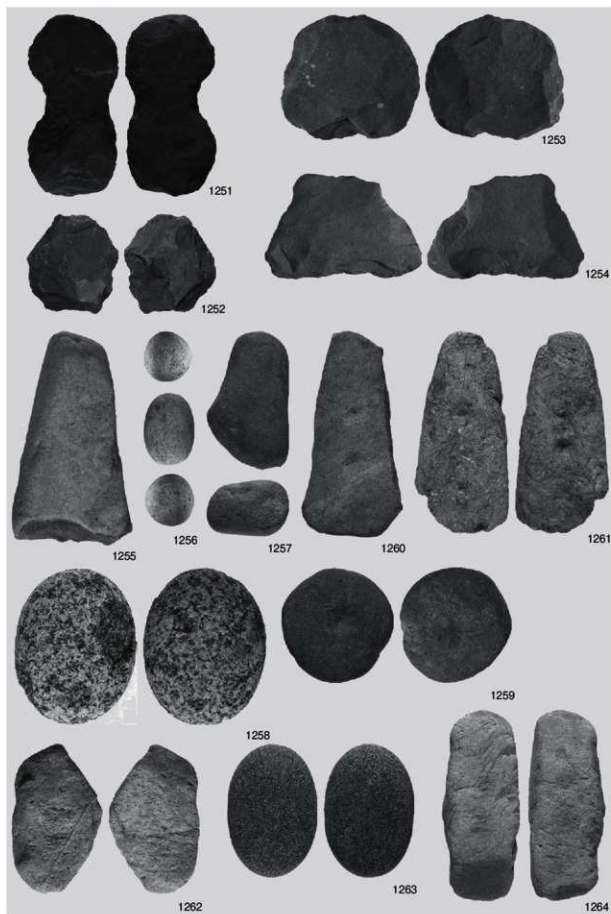


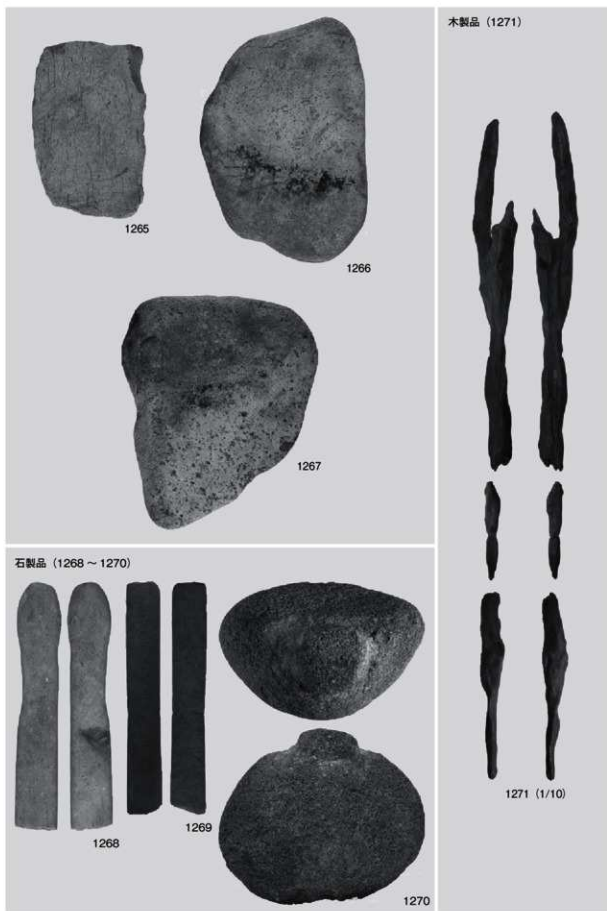
1246

1247

1248

1249

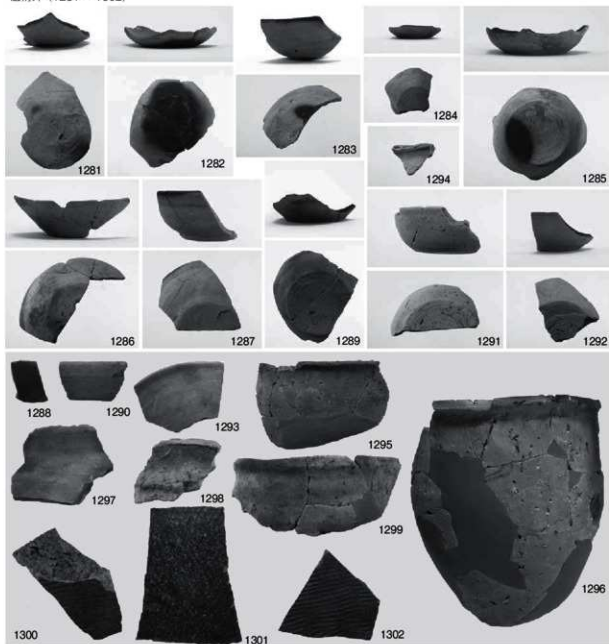




遺構内 (1272 ~ 1280)



遺構外 (1281 ~ 1302)





1303 昆虫試料 1



1304 昆虫試料 2



1305 昆虫試料 3



1306 昆虫試料 4 (葉含心)



1307 昆虫試料 5



1308 昆虫試料 6



1309 昆虫試料 7



1310 昆虫試料 8



1311 昆虫試料 9



1312 昆虫試料 10



1313 昆虫試料 11



1314 昆虫試料 12



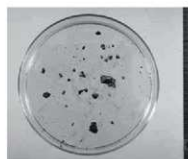
1315 昆虫試料 13



1316 燒骨試料 1



1317 燒骨試料 2



1318 焼骨試料 3



1319 焼骨試料 4



1320 焼骨試料 5



1321 焼骨試料 6



1322 焼骨試料 7



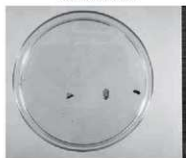
1323 焼骨試料 8



1324 焼骨試料 9

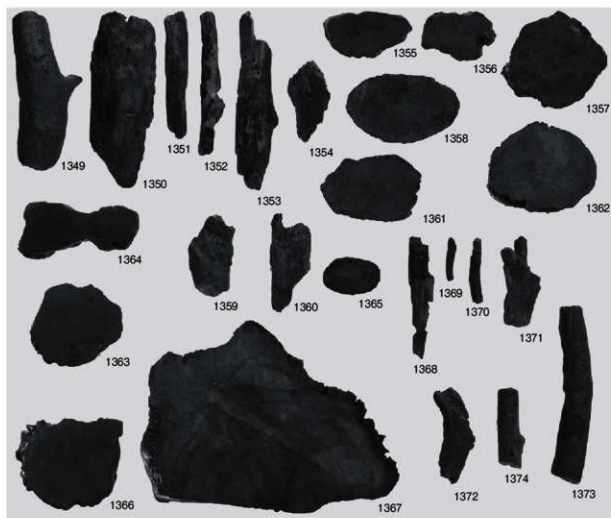


1325 焼骨試料 10



1326 焼骨試料 11





1375 オニグルミ 1



1376 オニグルミ 2



1377 オニグルミ 3



1378 オニグルミ 4



1379 オニグルミ 5



1380 オニグルミ 6



1381 オニグルミ 7



1382 オニグルミ 8



1383 オニグルミ 9



1384 オニグルミ 10



1385 オニグルミ 11



1386 オニグルミ 12



1387 オニグルミ 13



1388 オニグルミ 14



1389 オニグルミ 15



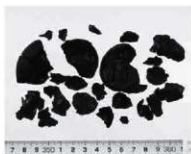
1390 オニグルミ 16



1391 オニグルミ 17



1392 オニグルミ 18



1393 クリ 1



1394 クリ 2



1395 クリ 3



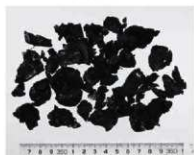
1396 クリ4



1397 クリ5



1397 クリ5



1398 クリ6



1399 トチノキ1



1400 トチノキ2



1401 トチノキ3



1402 トチノキ4



1403 トチノキ5



1404 トチノキ6



1405 トチノキ7



1406 トチノキ8



1407 トチノキ9



1408 トチノキ10



1409 トチノキ11



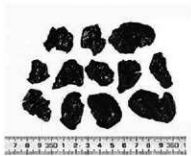
1410 トチノキ 12



1411 トチノキ 13



1412 トチノキ 14



1399 トチノキ 1 発芽孔



1400 トチノキ 2 発芽孔



1402 トチノキ 4 発芽孔



1403 トチノキ 5 発芽孔



1404 トチノキ 6 発芽孔



1405 トチノキ 7 発芽孔



1406 トチノキ 8 発芽孔



1407 トチノキ 9 発芽孔



1408 トチノキ 10 発芽孔



1409 トチノキ 11 発芽孔



1410 トチノキ 12 発芽孔



1411 トチノキ 13 発芽孔



1412 トチノキ 14 発芽孔



1413 植物葉 1



1414 植物葉 2



1415 植物葉 3 (1)



1415 植物葉 3 (2)



1415 植物葉 3 (3)



1415 植物葉 3 (4)



1415 植物葉 3 (5)



1415 植物葉 3 (6)



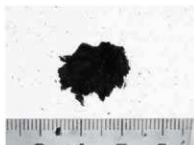
1415 植物葉 3 (7)



1416 植物葉 4



1417 植物葉 5



1418 植物葉 6



1419 植物葉 7



1420 植物葉 8



1421 植物葉 9



1422 植物葉 10



1423 植物葉 11



1424 植物葉 12



1425 植物葉 13



1426 植物葉 14



1427 植物葉 15



1428 菌類 1



1429 菌類 2



1430 菌類 3



1431 菌類 4



1432 菌類 5



1433 菌類 6

報告書抄録

ふりがな	しんでんにいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 622 集							
編著者名	北田 勲							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地 TEL019638-9001							
発行年月日	2014 年 2 月 24 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 …	東経 …	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんでんにいせき 新田Ⅱ遺跡	いわてけんとうまのうら 岩手県遠野市 あいののちやまのまち 綾織町下綾織 31 地割 147-1 地内ほか	03208	MF53-0391	39度 19分 03秒	141度 27分 56秒	2011.10.04～ 2011.12.07 2012.04.10～ 2011.08.30	921㎡ 3,225㎡	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）に係る発掘調査
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
新田Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居跡 1棟 土坑 1基 焼土遺構 1基 土器集積遺構 1基 土器設置遺構 2基 礫群 2基 沢跡 5期 柱穴状ピット 13個 堅果類集中範囲 多数	縄文土器（前期初頭・中期中葉～末葉・後期初頭～中葉・晩期中葉～末葉） 土製品（土偶・垂飾・耳飾・土版・球状・土錘・円盤・焼成粘土塊） 石製品（剥片石器・礫石器） 石製品（石棒） 昆虫・焼骨・堅果類・木炭・樹木		前期初頭～晩期末葉の新田沢の変遷が確認され、沢岸から捨て場や堅果類（クルミ・トチノキ・クリ）の集中範囲が多数認められた。堅果類は、地下水位が高いため腐食を免れ、瑞々しい状態で出土した。		
		平安時代	溝跡 3条 沢跡 1期	土師器杯・甕 須恵器大甕				
		平安以降 時期不明	溝跡 6条 沢跡 1期	陶磁器（近現代） 金属製品（蹄鉄・釘）				
要 約	<p>新田Ⅱ遺跡は、過去の調査で、遺跡の最も標高の高い部分は縄文前期の集落跡、中段部分は縄文中期の集落跡が営まれていたことが確認されており、なかでも縄文前期の集落跡は「綾織新田遺跡」として平成 14 年に国史跡に登録され、著名な遺跡として周知されている。今回の調査区は、遺跡内で最も西側の標高 240～245 m の谷部分に位置しており、現在の新田沢沿いの平坦地にある。</p> <p>ここから、縄文時代前期初頭～現代までの新田沢の変遷が確認され、7 時期に大別できることが分かった。特に縄文時代後期初頭、後期中葉、晩期後半には、沢岸から捨て場・作業場として利用されていた痕跡が見出された。</p> <p>捨て場からは、多量の土器の他に堅果類を中心とする植物遺存体が多く出土した。堅果類の大半は、オニグルミやトチノキ、クリであり、割かれた殻が集中して確認されている。これらの遺物は、当時の食料環境が推定できる良好な資料である。</p> <p>また、平安時代や平安時代以降の遺構も確認され、長期間の人間活動の痕跡の一端が明らかとなった。</p>							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 622 集

新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査

印刷 平成 26 年 2 月 19 日

発行 平成 26 年 2 月 24 日

編集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

〒 020-0066 岩手県盛岡市上田四丁目 2-2
電話 (019) 624-3195

(公財) 岩手県文化振興事業団

〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印刷 川口印刷工業株式会社

〒 020-0841 岩手県盛岡市羽場 10-1-2
電話 (019) 632-2211